

北米・中南米地域

中米統合機構（SICA） 中米環境開発委員会（CCAD）

SICA 地域における生物多様性の統合的管理 と保全に関する能力強化プロジェクト

事業完了報告書

2024年2月

独立行政法人

国際協力機構（JICA）

日本工営株式会社

環境

JR

24-022

事業完了報告書

事業名： 中米・カリブ地域（広域）SICA地域における生物多様性の統合的管理と保全に関する
能力強化プロジェクト（パイロット活動実施支援）

氏名： ジャイル・ウリオラ・キロス
(Jair Urriola Quiróz)

役職： プロジェクト・ディレクター

氏名： 吉野 倫典

役職： チーフ・アドバイザー

提出日： 2024年2月29日

目次

I. プロジェクト基礎情報	7
1. 国名	7
2. プロジェクト名	7
3. プロジェクト期間	7
4. 背景	7
5. プロジェクト上位目標と目的	7
6. 実施機関	7
II. プロジェクトの結果	8
1. プロジェクトの結果	8
2. プロジェクトの達成事項	34
3. PDM 改定履歴	37
4. その他	40
III. 合同レビューの結果	40
1. DAC 評価指標に基づくレビュー	40
2. プロジェクト実施と成果に影響を与えた主な要素	44
3. プロジェクトリスク管理に関する評価	45
4. 教訓	48
5. パフォーマンス	50
6. 追加性	50
IV. プロジェクト完了後の上位目標達成見込み	50
1. 上位目標達成の見込み	50
2. 上位目標達成に向けた SICA の体制と実施計画	51
3. SICA への提言	51
4. プロジェクト完了後に行うべきモニタリング	52

添 付

添付1：プロジェクト結果

- 派遣専門家リスト（参照：本文）
- カウンターパートリスト（参照：本文）
- 研修リスト（日本語）

添付2：成果品

- 越境生態系における生物多様性保全戦略の強化に向けた提言（スペイン語、日本語要約）

添付3：PDM

- 当初／Version 1.1（RD 添付版）（英語、スペイン語）
- 改訂／Version 2.0（英語、スペイン語）

添付4：議事録（デジタル版のみ）

- 討議議事録（R/D）（当初／オリジナル）（英語、スペイン語）
- 討議議事録（R/D）（改訂版）（英語、スペイン語）
- 協議議事録（M/M）（英語）
- 2019年5月開催合同調整委員会議事録（Minutes of JCC）（英語、スペイン語）
- 2020年2月開催合同調整委員会議事録（Minutes of JCC）（英語、スペイン語）
- 2022年4月開催合同調整委員会議事録（Minutes of JCC）（英語、スペイン語）
- 2022年10月開催合同調整委員会議事録（Minutes of JCC）（スペイン語）
- 2023年4月開催合同調整委員会議事録（Minutes of JCC）（スペイン語）

添付5：モニタリングシート（デジタル版のみ）

- バージョン1.0／Version 1.0（英語）
- バージョン2.0／Version 2.0（英語）
- バージョン3.0／Version 3.0（欠番）
- バージョン4.0／Version 4.0（英語）
- バージョン5.0／Version 5.0（英語）
- バージョン6.0／Version 6.0（英語）
- バージョン7.0／Version 7.0（英語）

別 添

（デジタル版のみ）

別添1：生物多様性データベースリスト（日本語）

別添2：地域生物多様性アウトルック（OAR ガイドライン）（スペイン語）

別添3：JICA/SICA 生物多様性保全プロジェクトニュースレター（日本語）

別添4：パイロットプロジェクト報告書（日本語）

別添5：越境生態系ガバナンスメカニズムと OECM 制度・候補の事例（日本語）

略 語 表

略語	正式名称	英語	日本語
ABS (英)	Access to Bio-diversity Resources and Benefit Sharing	Access to Bio-diversity Resources and Benefit Sharing	生物多様性資源へのアクセスと利益配分
AFOLU (英)	Agriculture, Forestry, and Other Land Uses	Agriculture, Forestry, and Other Land Uses	農業、林業、その他の土地利用
BR (英)	Biosphere Reserve	Biosphere Reserve	生物圏保存地域
CBD (英)	Convention on Biological Diversity	Convention on Biological Diversity	生物多様性条約
CCAD (西)	Comisión Centroamericana de Ambiente y Desarrollo	Central American Commission for Environment and Development	中米環境開発委員会
CODDEFFAGOLF (西)	Comité para la Defensa y Desarrollo de la Flora y Fauna del Golfo de Fonseca	Committee for the Defense and Development of the Flora and Fauna of the Gulf of Fonseca	フォンセカ湾の動植物相の保全と発展のための委員会
CONAGEBIO (西)	Comisión Nacional para la Gestión de la Biodiversidad	National Commission for the Management of Biodiversity, Costa Rica	コスタリカ生物多様性管理委員会
CONAP (西)	Consejo Nacional de Áreas Protegidas	National Council of Protected Areas, Guatemala	グアテマラ国家保護区管理委員会
COP (英)	Conference of the Parties	Conference of the Parties	締約国会議
COSELES (西)	Comité Sectorial Locales Agropecuarios	Local Agricultural Sector Committee	農牧業ローカルセクター委員会
CTMyB (西)	Comité Técnico Mares y Biodiversidad	Seas and Biodiversity Technical Committee	海洋・生物多様性技術委員会
DAC (英)	Development Assistance Committee	Development Assistance Committee	開発援助委員会
DRR (英)	Disaster Risk Reduction	Disaster Risk Reduction	災害リスク軽減
EMSA (西)	Estrategia Mesoamericana de Sustentabilidad Ambiental	Mesoamerican Strategy for Environmental Sustainability	メソアメリカ環境持続戦略
ERAM (西)	Estrategia Regional Ambiental Marco	Framework for Regional Environmental Strategy	地域環境戦略フレームワーク
GBIF (英)	Global Biodiversity Information Facility	Global Biodiversity Information Facility	地球規模生物多様性情報機構
GIS (英)	Geographical Information System	Geographical Information System	地理情報システム

略語	正式名称	英語	日本語
ICAFFE (西)	Instituto del Café de Costa Rica	Coffee Institute of Costa Rica	コスタリカコーヒー協会
ICF (西)	Instituto de Conservación Forestal, Áreas Protegidas y Vida Silvestre	Forest Conservation, Protected Areas and Wildlife Institute	ホンジュラス森林保全・開発・保護区と野生生物国立研究所
INBio (西)	Instituto Nacional de Biodiversidad	National Biodiversity Institute, Costa Rica	コスタリカ生物多様性研究所
INDICASAT (西)	Instituto de Investigaciones Científicas y Servicios de Alta Tecnología, Panamá	Institute of Scientific Research and High Technology Services, Panama	パナマ科学・先端技術サービス調査機構
JCC (英)	Joint Coordination Committee	Joint Coordination Committee	合同調整委員会
JICA (英)	Japan International Corporation Agency	Japan International Corporation Agency	国際協力機構
MARENA (西)	Ministerio del Ambiente y los Recursos Naturales, Nicaragua	Ministry of Environment and Natural Resources, Nicaragua	ニカラグア環境・自然資源省
MARN (西)	Ministerio de Ambiente y Recursos Naturales, Guatemala	Ministry of Environment and Natural Resources, Guatemala	グアテマラ環境・自然資源省
MARN (西)	Ministerio de Ambiente y Recursos Naturales, El Salvador	Ministry of Environment and Natural Resources, El Salvador	エルサルバドル環境・自然資源省
MBC (英)	Mesoamerican Biological Corridor	Mesoamerican Biological Corridor	メソアメリカ生物回廊
MiAmbiente (西)	Ministerio de Energía, Recursos Naturales, Ambiente y Minas, Honduras	Ministry of Energy, Natural Resources, Environment and Mines, Honduras	ホンジュラス・エネルギー・自然資源・環境・鉱山省
MiAmbiente (西)	Ministerio de Ambiente, Panama	Ministry of Environment, Panama	パナマ環境省
MIDA (西)	Ministerio de Desarrollo Agropecuario, Panama	Ministry of Agricultural Development, Panama	パナマ農業開発省
MINAE (西)	Ministerio del Ambiente y Energía, Costa Rica	Ministry of Environment and Energy, Costa Rica	コスタリカ環境・エネルギー省
MMARN (西)	Ministerio de Medio Ambiente y Recursos Naturales, Republica Dominicana	Ministry of Environment and Natural Resources, Dominican Republic	ドミニカ共和国環境・自然資源省

略語	正式名称	英語	日本語
OAR (西)	Observatorio Ambiental Regional	Regional Environmental Observatory	地域環境オブザーバトリー
OBC (西)	Organización base Comunitario	Community Based Organization	村落ベース組織
OECM (英)	Other Effective Area-based Conservation Measures	Other Effective Area-based Conservation Measures	保護地域以外で生物多様性保全に資する地域
PDM (英)	Project Design Matrix	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PES (英)	Payments for Ecosystem Services	Payments for Ecosystem Services	生態系サービスへの支払い
PM (西)	Proyecto Mesoamérica	Mesoamerica Project	メソアメリカプロジェクト
SDG (英)	Sustainable Development Goals	Sustainable Development Goals	持続可能な開発目標
SENASA (西)	Servicio Nacional de Salud Animal, Costa Rica	National Animal Health Service, Costa Rica	コスタリカ家畜保健衛生局
SICA (西)	Sistema de la Integración Centroamericana	Central American Integration System	中米統合機構
SINAC (西)	Sistema Nacional de Áreas de Conservación, Costa Rica	National System of Conservation Areas, Costa Rica	コスタリカ国家保全地域システム
SIRDI (英)	Sugar Industry Research & Development Institute, Belize	Sugar Industry Research & Development Institute, Belize	ベリーズ砂糖産業研究開発機構

I. プロジェクト基礎情報

1. 国名

ベリーズ、グアテマラ、エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグア、コスタリカ、パナマ、ドミニカ共和国

2. プロジェクト名

中米・カリブ地域（広域）SICA 地域における生物多様性の統合的管理と保全に関する能力強化プロジェクト

3. プロジェクト期間

60 ヶ月（2019 年 3 月 12 日～2024 年 3 月 10 日）

4. 背景

2005 年 8 月にて東京で開催された日本・中米首脳会談で採択された「東京宣言」および「行動計画」に沿って、JICA は前述の SICA 加盟 8 か国の各国を二国間援助の主眼に置き支援している。一方、SICA 加盟国は地理的に狭隘な地域に位置しており、国ごとに開発課題は異なるが多くの共通開発課題を有する。そのような状況で、SICA 加盟国は各々の開発課題解決並びに複数国に裨益する「地域公共財」を生み出すことを通じて、国境を超えて存在する共通課題の解決に取り組んでいる。係る状況にて、これらの SICA 地域イニシアティブへの JICA の協力方針として、2015 年 10 月に SICA— JICA 年次会合（コンサルテーション会議）を開催し、SICA 地域協力の以下 4 分野：(1) 物流及びロジスティック、(2) 自然災害に対して強靱なインフラ・住宅、(3) 生態系及び湿地保全、(4) ジェンダー、(5) 地域開発（2016 年）の追加について合意した。上述の生態系及び湿地保全について、JICA および SICA 中米環境開発委員会 CCAD は SICA 地域における持続的な生態系保全及び利用に係る地域技術協力プロジェクトを検討し、2016 年に JICA はプロジェクト形成を目的とした SICA 加盟 8 カ国にメキシコを加えた情報収集調査を行った。本調査期間の 2016 年 8 月に、ニカラグアの首都マナグアにて地域ワークショップが開催され、SICA— JICA 地域プロジェクトの概要案が議論された。その結果、2017 年 5 月に SICA 事務総長は新規技術協力（本プロジェクト）に係る要請書を作成し、日本政府に提出、2018 年 6 月の協議議事録への署名を経て、2019 年 3 月に開始された。

5. プロジェクト上位目標と目的

<上位目標>

SICA 地域における生物多様性保全と持続可能な利用に関する地域の制度的枠組み及びガバナンスが強化される。

<プロジェクト目標>

SICA-CCAD と連携し、加盟国の生物多様性の利用と保全に関する管理能力が強化される。

6. 実施機関

プロジェクト実施機関は下表に示す 10 機関である。

プロジェクト実施機関

国・地域	実施機関
SICA-CCAD	中米統合機構-中米環境開発委員会 (Comisión Centroamericana de Ambiente y Desarrollo : CCAD)

国・地域	実施機関
ベリーズ	持続的開発・気候変動・災害リスク管理省 (Ministry of Sustainable Development, Climate Change and Disaster Risk Management)
グアテマラ	環境・自然資源省 (Ministerio de Ambiente y Recursos Naturales : MARN)
エルサルバドル	環境・自然資源省 (Ministerio de Ambiente y Recursos Naturales : MARN)
ホンジュラス	エネルギー・自然資源・環境・鉱山省 (Ministerio de Energía, Recursos Naturales, Ambiente y Minas : MiAmbiente)
ニカラグア	環境・自然資源省 (Ministerio del Ambiente y los Recursos Naturales : MARENA)
コスタリカ	環境・エネルギー省 (Ministerio del Ambiente y Energía : MINAE)
パナマ	環境省 (Ministerio de Ambiente : MiAmbiente)
ドミニカ共和国	環境・自然資源省 (Ministerio de Medio Ambiente y Recursos Naturales : MARENA)
日本	国際協力機構 (Japan International Corporation Agency : JICA)

出典：プロジェクトチーム

II. プロジェクトの結果

1. プロジェクトの結果

1-1 日本側の投入（計画・実績）

(1) 日本側総投入費

日本側の総投入費は下表に示す通り約 43,974 万円である。

日本側投入費（万円）

	派遣経費	その他経費
長期派遣専門家（JICA 直営専門家）	10,000	6,300*
短期派遣専門家（JICA コンサルタント派遣専門家）	10,876	16,798
合計	20,876	23,098
総計		43,974

出典：プロジェクトチーム

注：*在外事業強化費

(2) 専門家派遣

日本側が派遣した専門家は下表に示す 9 名、約 132 カ月である。

日本側派遣専門家

氏名	担当	派遣期間	投入 (カ月)
長期派遣専門家（JICA 直営専門家）			
大澤 正喜	チーフアドバイザー	2019/03/12 - 2022/03/11	36.00
秋元 陽子	業務調整/研修・組織強化	2019/03/23 - 2021/09/22	30.00
稲川 武	業務調整/研修・組織強化	2021/10/27 - 2024/03/12	28.00
小計			94.00
短期派遣専門家（JICA コンサルタント派遣専門家）（派遣期間は複数の短期アサインで構成）			
吉野 倫典	業務主任者/生態系管理/地域連携	2022/5/16 - 2024/2/29	10.53

氏名	担当	派遣期間	投入 (カ月)
吉岡 弥生	副業務主任者/コミュニティ能力・連携強化(1)	2022/5/16 - 2024/2/29	9.98
長濱 幸生	コミュニティ能力・連携強化(2)	2022/5/16 - 2024/2/29	6.90
永田 洋子	環境保全型農業	2022/12/1 - 2024/2/29	1.00
角田 一樹	参加型生計向上(1)	2022/12/1 - 2024/2/29	4.25
尾崎 友紀	参加型生計向上(2)	2022/5/16 - 2024/2/29	5.46
小計			38.12
合計			132.12

出典：プロジェクトチーム

(3) 研修員受入

日本側の研修受入れは2か所で実施され、JICA 帯広を拠点とした課題別研修「保護地域協働管理を通じた生態系保全」（2019年10月27日～11月30日、西語特設）およびJICA 東京の拠点とした「SICA 国別本邦研修（2023年5月28日～6月10日）」においてそれぞれ9名と10名の研修生が受講している。下表に研修員の詳細を示す。

課題別研修参加者（SICA 地域からの参加者のみ記載）

国	氏名	所属機関	役職
ベリーズ	シャニー・エリザベス・ジレット (Shanee Elizabeth Gillett)	農林水産・環境・持続的開発省	環境局国民意識とアウトリーチユニット 環境技官
グアテマラ	オナリア・カルメン・モンテホ・モラレス・デ・ペレス (Honoría Carmen Montejo Morales de Perez)	保護区ナショナルカウンシル (CONAP)	野生生物部野生生物専門アドバイザー
エルサルバドル	ビクトー・エマニュエル・クチャーヤ・エンリケス (Victor Emmanuel Cuchilla Henríquez)	環境・自然資源省	生態系野生生物総局 保護区技術者
ホンジュラス	フランシスコ・ホセ・アセイトゥーノ・チャベス (Francisco Jose Aceituno Chavez)	エネルギー・自然資源・環境・鉱山省	生物多様性局環境アナリスト
ホンジュラス	ナタン・ダザエ・ガルシア・カンタレーロ (Natan Dazaet Garcia Cantarero)	森林保全・開発・保護区と野生生物国立研究所 (ICF)	保護区部門保護区地域コーディネーター
ニカラグア	ディルシア・デル・カルメン・ソラノ・メヒア (Dilicia Del Carmen Solano Mejia)	環境・自然資源省	特定生物多様性対応保護区専門員
コスタリカ	ジャレリー・ディアス・ゴメス (Yarely Diaz Gomez)	国家保全地域システム (SINAC)	アレナル・テンピスケ保護区環境プログラム管理官
パナマ	ロドニー・アウグスト・ミトレ・ベサンコート (Rodney Augusto Mitre Bethancourt)	環境省	保護区生物多様性局 公共利用マネージャー
ドミニカ共和国	ライミー・フランシスコ・サンチェス・カステイヨ (Raimy Francisco Sanchez Castillo)	環境・自然資源省	保護区生物多様性部 保護区管理官

出典：プロジェクトチーム

日本の自然公園の管理手法に加えて、自然との共生社会を目指す日本の里山・里海の理念・活動を理解し、民間参加型あるいは地域住民の主体的な参加（協働）による効果的な保護地域管理（保全活動/普及啓発）と自然資源の持続的利用（エコツーリズムなど）のための知識と教訓を習得した。

本邦研修参加者

国	氏名	所属機関	役職
-	ジャイル・ウリオラ・キロス (Jair Urriola Quiróz)	SICA-CCAD	事務局長 Executive Secretary
-	マリオ・アルトゥロ・エスコベド・ロペス (Mario Arturo Escobedo López)	SICA-CCAD	海洋・生物多様性技術委員会 コーディネーター
ベリーズ	ラシェダ・メルセデス・ガルシア (Racheda Mercedes Garcia)	持続的開発・気 候変動・災害危 機管理省	生物多様性事務局担当官 Biodiversity Officer
グアテマラ	レヒナ・サンチェス・カスタニェダ (Regina Sánchez Castañeda)	環境・自然資源 省	生態系部海洋・沿岸管理専 門官 Marine and Coastal Management Specialist Advisor
エルサルバドル	イザベル・グアダルペ・コンテラス・マタ (Isabel Guadalupe Conteras Mata)	環境・自然資源 省	生態系・生物多様性局長 General Director of Ecosystem and Biodiversity
ホンジュラス	サンディ・カロリナ・ペレイラ (Sandy Carolina Pereira)	環境・自然資源 省	生物多様性局長 General Director of Biodiversity
ニカラグア	インディアナ・ロマナ・モントヤ・ドンペ (Indiana Ramona Montoya Dompé)	環境・自然資源 省	自然遺産・生物多様性局長 General Director of Natural Heritage and Biodiversity
コスタリカ	アンヘラ・ゴンザレス・グラウ (Angela González Grau)	国家生物多様性 管理委員会	事務局長 Executive Director
パナマ	ダリオ・アントニオ・ルケ・ヴェルガラ (Darío Antonio Luque Vergara)	環境省	生物多様性・野生生物部技 官 Biodiversity and Wildlife Technician
ドミニカ共和国	カタリノ・ヴァレンスエラ・デ・ロス・サ ントス (Catalino Valenzuela De Los Santos)	環境・自然資源 省	生態系・生態系再生部門技 官 Ecosystem and Ecological Restoration

出典：プロジェクトチーム

主な研修テーマは、保護地域以外で生物多様性保全に資する地域 (OECM) の制度、生物圏保存地域 (BR) のゾーニング、生物多様性情報システムの内容であり、これらに関する研修結果に基づき、次期 CCAD 地域環境戦略フレームワーク (ERAM) 2025-2030 の骨子案を作成した。

(4) 機材供与

日本側が SICA に供与した機材は表に示す 11 機材・台、1,553,718 円相当である。

供与機材

資産・物品番号	物品名称	規格・品番	取得価額 (円)
JICA 直営専門家調達分			
19-3-000540	卓上プリンター	HP Pagewide Pro MFP477 dw	54,822
19-3-000541	金庫	CENTINERA MEB B118127712	31,342
19-3-000542	複合コピー機	Xerox AltaLink C8045	865,041
19-3-000543	プロジェクター	EPSON Powerlite W39	60,759

資産・物品番号	物品名称	規格・品番	取得価額（円）
19-3-000704	ラップトップ PC	Dell Latitude 5490	126,500
小計			1,138,464
JICA コンサルタント調達分			
-	ソニー4K ビデオカメラ	FDR-AX45	65,750
-	ソニー4K ビデオカメラ	FDR-AX45	65,750
-	ソニー4K ビデオカメラ	FDR-AX45	65,750
-	ソニー4K ビデオカメラ	FDR-AX45	65,750
-	ソニー4K ビデオカメラ	FDR-AX45	69,209
-	ソニー4K ビデオカメラ	FDR-AX45	69,209
小計			415,254
合計			1,553,718

出典：プロジェクトチーム

(5) 在外事業強化費

日本側の在外事業強化費は1-1 (1) に示すとおり約6,300万円である。

1-2 SICA および加盟国担当省庁側の投入（計画・実績）

(1) 要員配置

SICA およびその加盟国の歴代のプロジェクト関係者（カウンターパート）を下表に示す。なお、成果2パイロットプロジェクトの現場活動には、各国政府の他の要員も断続的、短期で参加した。

CCAD 事務局メンバー

役職名	氏名	在任期間 (2019年3月以降)
事務局長	サルバドール・ニエト (Salvador Nieto)	～2021.3
	ジャイル・ウリオラ・キロス (Jair Urriola Quiróz)	2021.4～現職
秘書	オティリア・ラモス・デ・リベラ (Otilia Ramos de Rivera)	～現職
海洋・生物多様性委員会コーディネーター	マリオ・アルトゥロ・エスコベド・ロペス (Mario Arturo Escobedo López)	～現職

出典：プロジェクトチーム

CCAD 環境大臣

国	省庁名	氏名	在任期間 (2019年3月以降)
ベリーズ	農林水産・環境・持続的開発省	オマル・フィゲロア (Omar Figueroa)	～2020.11
	持続的開発・気候変動・災害危機管理省	オーランド・ハベット (Orlando Habet)	2020.11～現職
グアテマラ	環境・自然資源省 (MARN)	アルフォンソ・アロンソ・ヴァルガス (Alfonso Alonzo Vargas)	～2020.11
		マリオ・ロハス・エスピノ (Mario Rojas Espino)	2020.11～2022.10
		ゲルソン・エリアス・バリオス・ガリド (Gerson Elias Barrios Garrido)	2022.10～2023.12
		マリア・ホセ・イトルビデ (Maria Jose Iturbide)	2024.01から現職
エルサルバドル	環境・自然資源省	リナ・ドロレス・ポル・アルファロ	～2019.5

国	省庁名	氏名	在任期間 (2019年3月以降)
	(MARN)	(Lina Dolores Pohl Alfaro)	
		フェルナンド・ロペス・ラレイナガ (Fernando López Larreynaga)	2019.6～現職
ホンジュラス	エネルギー・自然資源・環境・鉱山省 (MiAmbiente)	ホセ・アントニオ・ガルダメス (José Antonio Galdames)	～2019.12
		エルビス・ヨバニ・ロダス・フローレス (Elvis Yovanni Rodas Flores)	2020.1～2022
	環境自然資源省 (SERNA)	ラッキー・アラチ・メディナ・エストラダ (Lucky Halach Medina Estrada)	2022～現職
ニカラグア	環境・自然資源省 (MARENA)	ファニー・スマヤ・カスティジョ・ララ (Fanny Sumaya Castillo Lara)	～2022.9
		ヘイディ・カルデロン (Heyddy Calderón)	2022.9～現職
コスタリカ	環境・エネルギー省 (MINAЕ)	カルロス・ロドリゲス・エチャンディ (Carlos Rodríguez Echandi)	～2020.8
		アンドレア・メサ・ムリジョ (Andrea Meza Murillo)	2020.8～2022.3
		ローランド・カストロ・コルドバ (Rolando Castro Córdoba)	2022.4～2023
		フランス・タッテンバック・カブラ・セバ ジョス (Franz Tattenbach Capra Ceballos)	2022.5～現職
パナマ	環境省 (MiAmbiente)	エミリオ・ルイス・センプリス (Emilio Luis Sempris)	～2019.6
		ミルシアデス・アブディエル・コンセプシ ョン・ロペス (Milciades Abdiel Concepción López)	2019.7～現職
ドミニカ共和国	環境・自然資源省 (MMARN)	アンヘル・フランシスコ・エステベス・ボ ルディエル (Ángel Francisco Estévez Bourdierd)	～2020.8
		オルランド・ホルヘ・メラ (Orlando Jorge Mera)	2020.8～2022.6
		ミゲル・セアラ・ハットン (Miguel Ceara Hatton)	2022.7～現職

出典：プロジェクトチーム

CCAD リエゾン (Oficiales de Enlace)

国	省庁名	氏名	在任期間 (2019年3月以降)
ベリーズ	農林水産・環境・持続 的開発省	マルティン・アレハンドロ・アレグリア (Martin Alejandro Alegria)	～2021.6
	持続的開発・気候変 動・災害危機管理省	ハンナ・ルセ-マルティネス (Hannah St. Luce-Martinez)	2021.7～2022
	持続的開発・気候変 動・災害危機管理省	カルロス・モレノ (Carlos Moreno)	2023～現職
グアテマラ	環境・自然資源省 (MARN)	フアン・カルロス・ディアス・コンテラス (Juan Carlos Díaz Contreras)	～2021.12
		ジェニファー・カルデロン・シントラ (Jenifer Calderón Cintora)	2022.01～2022

国	省庁名	氏名	在任期間 (2019年3月以降)
		フアン・カルロス (Juan Carlos)	2022
		マリア・エレナ・タユン (Maria Elena Tayun)	2023～現職
エルサルバドル	環境・自然資源省 (MARN)	マリーナ・サンドバル (Marina Sandoval)	～2019.8
		アマンダ・ウジョア (Amanda Ulloa)	2019.9～2020.1
		マイラ・ロウルデス・アルゲタ (Mayra Lourdes Argueta)	2020.2～現職
ホンジュラス	エネルギー・自然資源・環境・鉱山省 (MiAmbiente)	ロシベル・マルティネス (Rosibel Matrinez)	～2022
	環境自然資源省 (SERNA)	ファウスト・ディアス (Fausto Diaz)	2022～現職
ニカラグア	環境・自然資源省 (MARENA)	リリアナ・ディアス (Liliana Diaz)	～2020.1
		エスペランサ・ロドリゲス (Esperanza Rodriguez)	2020.2～2022
		アーレン・アマドール (Arlen Amador)	2022
		アロルド・ラミーロ・グティエレス・メルセナロ (Harold Ramiro Gutiérrez Marcenaro)	2023～現職
コスタリカ	環境・エネルギー省 (MINAЕ)	パトリシア・カンポス・メセン (Patricia Campos Mesén)	～現職
パナマ	環境省 (MiAmbiente)	グスタボ・パディージャ (Gustavo Padilla)	～2021.12
		ヴィクトール・カダビ (Victor Cadavid)	2022.1～2023
		ファビオラ・ヴェガ (Fabiola Vega)	2023～現職
ドミニカ共和国	環境・自然資源省 (MMARN)	ロサ・アイデー・オテーロ・ビエベス (Rosa Haydee Otero Nieves)	～現職

出典：プロジェクトチーム

CCAD 海洋・生物多様性技術委員会 (CTMyB) メンバー

国	省庁名	氏名	在任期間 (2019年3月以降)
ベリーズ	農林水産・環境・持続的開発省 (省庁名変更前)	マルセロ・ウィンザー (陸地) (Marcelo Windsor) マキシム・モンサント (海洋) (Maxine Monsanto)	2019～2020
		ハンナ・ルセ-マルティネス (陸地) (Hannah St. Luce-Martinez) ビバリー・ウェイド (海洋) (Beverly Wade)	2021
	持続的開発・気候変動・災害危機管理省 (省庁名変更後)	サウル・クルス (Saúl Cruz)	2022～現職

国	省庁名	氏名	在任期間 (2019年3月以降)
グアテマラ	環境・自然資源省 (MARN)	ルイサ・マリア・フェルナンデス・ルハン (Luisa María Fernández Luján)	2019～2022
		ホルヘ・エドゥアルド・フェルナンデス (Jorge Eduardo Fernández)	2023～現職
エルサルバドル	環境・自然資源省 (MARN)	ホルヘ・エルネスト・ケサーダ・ディアス (Jorge Ernesto Quezada Díaz)	～2019.9
		ミゲル・ガジャルド (Miguel Gallardo)	2019.10～2021.7
		マイラ・ロウルデス・アルゲタ (連絡員兼任) (Mayra Lourdes Argueta)	2021.8～現職
ホンジュラス	エネルギー・自然資源・環境・鉱山省 (MiAmbiente) (省庁名変更前)	フランシスコ・ホセ・アセイトゥーノ・チェベス (Francisco José Aceituno Chávez)	～2022
	環境自然資源省 (SERNA) (省庁名変更後)	サンディ・ペレイラ (Sandy Pereira)	2023
		ダヴィッド・ホセ・オルテガ・ベルシアン (David Jose Ortega Bercian)	2023～現職
ニカラグア	環境・自然資源省 (MARENA)	カルロス・メヒア (Carolos Mejia)	～2019.9
		ロナルド・ペレス (Ronaldo Pérez)	2019.10～2021.5
		レネ・カステジョン (René Castellón)	2021.6～2022
		インディアナ・ロマナ・モントヤ・ドンペ (Indiana Ramona Montoya Dompe)	2023～現職
コスタリカ	環境・エネルギー省 (MINAE)	アンヘラ・ゴンザレス・グラウ (生物多様性) (Angela Gonzalez Grau) ジェニー・アシュ (海洋) (Jenny Ash)	2019～現職
パナマ	環境省 (MiAmbiente)	エドアルド・ポロ (海洋) (Eduardo Polo) パトリシア・エルナンデス (生物多様性) (Patricia Hernández)	～2019.9
		ホセ・フリオ・カサス (海洋) (José Julio Casas) ディマス・アルシア (生物多様性) (Dimas Arcia)	2019.10～2021.5
		ホセ・フリオ・カサス (海洋) (José Julio Casas) シェルリー・ビンデル (生物多様性) (Shirley Binder)	2021.6～2022
		ホセ・フリオ・カサス (海洋) (José Julio Casas) ホセ・ヴィクトリア (生物多様性) (José Victoria)	2022～現職
ドミニカ共和国	環境・自然資源省	ニナ・リセンコ (海洋)	～2021.5

国	省庁名	氏名	在任期間 (2019年3月以降)
	(MMARN)	(Nina Lysenko) ホセ・マヌエル・マテオ (生物多様性) (Jose Manuel Mateo)	
		ニナ・リセンコ (海洋) (Nina Lysenko) ガブリエル・ヴァルデス (生物多様性) (Gabriel Valdez)	2021.6～現職

出典：プロジェクトチーム

パイロットプロジェクト担当

国	省庁名	氏名	在任期間
ベリーズ	持続的開発・気候変動・災害危機管理省	ジョン・ピネーロ・ジュニア (John Pinelo Jr.)	2022年3月時点
		ジャニラ・ポップ・エルナンデス (Yanira Pop Hernandez)	2022年3月時点
グアテマラ	国家保護区評議会 (CONAP)	エドアルド・フェルナンド・パロモ・バリ オス (Eduardo Fernando Palomo Barrios)	2022年3月時点
		アポリナリオ・コルドバ・アルバレス (Apolinario Córdoba Álvarez)	2022年3月時点
		アラン・ゴンザレス (Alan Gonzáles)	2022年3月時点
	環境・自然資源省 (MARN)	メルビン・エルナンデス (Melvin Hernández)	2022年3月時点
エルサルバドル	環境・自然資源省 (MARN)	カルロス・ジョバーニ・リベラ (Carlos Giovanni Rivera)	2022年3月時点
		ロサルバ・パラダ (Rosalba Parada)	2022年3月時点
ホンジュラス	エネルギー・自然資源・環境・鉱山省 (MiAmbiente)	ルイス・トゥルシオ (Luis Turcios)	2022年3月時点
	森林保全局 (ICF)	ジュニア・アルバレンガ (Junior Alvarenga)	2022年3月時点
ニカラグア	環境・自然資源省 (MARENA)	フランシスコ・マルティネス (Francisco Martínez)	2022年3月時点
コスタリカ	国家保全地域システム (SINAC)	ガルビン・ヴィジェガス・ロドリゲス (Garvin Villegas Rodríguez)	2022年3月時点
パナマ	環境省 (MiAmbiente)	デルビス・アブディエル・モヒカ・ゴメス (Delvis Abdiel Mojica Gómez)	2022年3月時点
ドミニカ共和国	環境・自然資源省 (MMARN)	エンリケ・プジベット・ボベア (Enrique Pugibet Bobea)	2022年3月時点

出典：プロジェクトチーム

(2) 執務室の提供等

CCAD は、CCAD 事務局内に執務スペース（デスク 2 台）を提供した。

1-3 活動（計画・実績）

以下に各活動の経緯と実績を示す。

成果と活動	活動経緯	成果物
<p>成果 1</p> <p>SICA 地域における生物多様性の保全と利用のための地域情報プラットフォームが確立される。</p>		
<p>活動 1-1</p> <p>地域（すなわち地域および国レベル）の生物学的回廊、湿地、生物多様性データベースなどの既存データの現在の状態を評価し、分析する。</p>	<p>地球規模生物多様性情報機構（GBIF）、eBird、Protected Planet など 34 の国際レベルおよび 4 つの国レベルデータベースを対象に、掲載の内容と更新状況などを評価・分析した。分析の結果、環境データでは気候・森林、生物多様性データでは鳥類・魚類・海洋生物など分野に特化したものが多く、環境・生物多様性データをまとめたものは少なかった。SICA あるいは中米地域に焦点を当てたデータベースは存在しておらず、また、国レベルで頻度高く掲載内容が更新されているデータベースはコスタリカのデータベースのみであった。この結果から、活動 1-2 の SICA 地域のための地域情報プラットフォーム開発の必要性を確認した。</p>	<p>参照：別添 1（生物多様性データベースリスト）</p>
<p>活動 1-2</p> <p>SICA 加盟国間、特に生物学的回廊、湿地、生物多様性のためのデータ交換および情報共有のための多生物多様性プラットフォームとしての地域情報プラットフォームのための設計を開発する。</p>	<p>GIZ ならびに WWF のプロジェクトと共同で SICA 地域環境オブザーバトリ（Observatorio Ambiental Regional : OAR）を設計・開発、SICA ホームページ内に設置することで合意した。OAR は、主に、森林被覆、海洋・生物多様性、水資源、気候変動・危機管理、環境管理、環境ビジネス、資金メカニズム関連情報を掲載しており、主に以下のモジュール（ページ）で構成される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 統計データ ● 地図情報 ● デジタルアーカイブ ● ツール ● ドナー関連 ● ニュース ● 技術委員会 <p>プロジェクトは主に ESRI Visor を用い地図情報ページを設計した。</p>	<p>-</p>
<p>活動 1-3</p> <p>地域情報プラットフォームを構築する。</p>	<p>活動 1-2 に示す OAR を構築した。</p>	<p>参照：SICA 地域環境オブザーバトリ（OAR）</p> <p>https://www.sica.i</p>

成果と活動	活動経緯	成果物
	 <p style="text-align: center;">OAR トップページ</p>  <p style="text-align: center;">OAR 海洋・生物多様性関連の地図情報ページ</p>	nt/oar/inicio
<p>活動 1-4</p> <p>SICA-CCAD と連携して、各国の情報プラットフォームの構築、利用、維持（すなわち、収集、処理、利用可能なデータ/情報の利用）に関する加盟国の選定されたスタッフの研修を実施する。</p>	<p>CCAD および CCAD 海洋・生物多様性技術委員会（CTMyB）メンバーを対象に、各国の情報プラットフォームの構築、利用、維持に関する知識の向上を目的に以下 5 回の研修を実施した。</p> <p><第 1 回地域情報プラットフォームセミナー></p> <p>生物多様性データの先行事例としてコスタリカの BiodataCR を紹介した。これは、コスタリカ生物多様性研究所（INBio）のデータを、コスタリカ国家生物多様性管理委員会（CONAGEBIO）がデータベース化したものである。また、グアテマラ環境省が構築を進めている海洋沿岸モニタリングシステムに関する発表を行った。</p> <p><第 2 回 OAR セミナー（SICA 国別研修）></p> <p>2023 年 5-6 月に実施した SICA 国別研修で情報プラットフォーム関連の講義を設けた。山梨県の環境省生物多様性センターが、データベース、モニタリングサイト 1000、いきものブログを活用した生物多様性モニタリングについて発表した。</p> <p><第 3 回 OAR セミナー（iNaturalist/eBird 導入編）></p> <p><第 4 回 OAR セミナー（iNaturalist 実践編）></p> <p>予算や人員が不足する SICA 加盟国から、簡易データプラットフォームに関する情報の要求があった。このため、成果 2 のパイロットプロジェクトの生物多様性モニタリング活動で利用している iNaturalist を推奨</p>	-

成果と活動	活動経緯	成果物
	<p>可プラットフォームとして紹介した。グアテマラ、コスタリカ、パナマの3カ国は、既に国の正式なモニタリングサイトである国別情報拠点(ノード)を運用しており、セミナーでの協議の結果、国別ノード関連情報をOARに掲載し各国と共有する方針を確認した。具体的な掲載情報は、国別ノードのリンク、得られたモニタリングデータ、環境境域など現場でのモニタリングまたは得られたデータの活用事例を想定している。</p> <p><最終OARセミナー(OARコンテンツ)></p> <p>今後のOARコンテンツ作成情報の提供を担う技術委員会メンバー(議事国のメンバーをコンテンツ責任者とする)を対象に、情報の掲載・更新方法、また生物多様性アウトLOOKの発行、技術委員会の活動情報の交換の場としてのOARの活用方法を提案、説明した。また、コンテンツの取り纏め、更新の担当として、CCAD事務局による学生インターン(情報関係学部など)の活用を提言した。</p>	
<p>活動1-5</p> <p>プラットフォームを用いて、「地域生物多様性アウトLOOK(作成ガイドライン/概要)」をとりまとめる。</p>	<p>活動1-3で構築したOARについて、このコンテンツの維持管理方法と、これを用いた地域生物多様性アウトLOOKの作成にかかるガイドラインを取り纏めた。目次は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地図情報の掲載・更新 ● 案件情報の掲載・更新 ● 能力強化研修情報の掲載・更新 ● 有用マニュアルの収集・掲載 ● 生物多様性モニタリング(iNaturalist)情報の掲載・更新 ● 環境教育マテリアル(生物多様性アウトLOOK)の作成・発行 ● 他の環境情報プラットフォームと相互リンク掲載・更新 ● CCAD技術委員会活動情報の掲載・更新 	<p>参照： 別添2(地域生物多様性アウトLOOK:OARガイドライン)</p>
<p>成果2</p> <p>持続可能な開発に関する地域・国家政策の実施・提案のため、パイロットプロジェクトの成果(小規模な農村地域と地元の人々に焦点を当てた優れた実践と教訓など)が地域に普及される。</p>		
<p>活動2-1</p> <p>コミュニティレベルでの生計向上と生物多様性保全に貢献する持続可能な経済開発のパイロットプロジェクトの選定基準</p>	<p>地域機関であるSICAが国を跨いだ活動で果たすべき役割、生物多様性保全における、多様性利用者である住民の関与の必要性などを考慮、全てのパイロットプロジェクトで考慮、含むべきものとして以下の4つのコンポーネントを設定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コンポーネント1: コミュニティ(村落)の生態系回復活動への直接的巻き込み ● コンポーネント2: 環境に配慮した生産活動の強化・推進 ● コンポーネント3: 越境生態系における環境ガバナンスメカニズムの醸成/強化 ● コンポーネント4: 越境生態系における持続的開発モデルの醸成/ 	

成果と活動	活動経緯	成果物																									
<p>を策定する。</p>	<p>強化</p> <p>上記に基づき、コミュニティと活動の選定のため適正チェックシートを作成した。コミュニティ適正チェックシートは、1 つでも該当すると候補から除外となる基準と、該当する数が多いほど候補として適正とされる基準の2 つで構成される。前者は、例えば、①安全性の問題がある、②活動に対するコミュニティのオーナーシップが期待できない、③コミュニティへのアクセスに問題があるなど、後者は、①各国の生物多様性保全目標を達成するための優先的な場所（コミュニティ）である、②地方自治体、農業省、地元 NGO など他の組織からの支援が期待できる、などである。活動適正チェックシートは、“生態系保全や生計向上への寄与度”や“他地域への適用の可能性（汎用性）”などで構成される。</p>																										
<p>活動 2-2</p> <p>パイロットコミュニティ関係者とともにパイロットプロジェクト案を作成する（例えば、湿地生態系、保護区域および生物回廊などの優先順位の高い地域における、PES、ABS、農林業、農産物のブランド化、エコツーリズム/農業観光の促進、環境持続可能な地域経済の代替案の開発など）。</p>	<p>プロジェクト関係者の知識と経験に基づき候補コミュニティと活動を抽出、活動 2-1 で作成したチェックシートも用い、下表のとおり、パイロットプロジェクト対象コミュニティ、ここでの生物多様性保全にかかる特徴と課題およびパイロットプロジェクト活動案を選定した。</p> <p style="text-align: center;">パイロットコミュニティの生物多様性保全にかかる特徴と課題</p> <table border="1" data-bbox="373 1093 1273 2063"> <thead> <tr> <th data-bbox="373 1093 491 1193">生態系</th> <th data-bbox="491 1093 746 1193">国/ コミュニティ</th> <th data-bbox="746 1093 995 1193">タイプ</th> <th data-bbox="995 1093 1273 1193">村落における環境保全上の課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="373 1193 491 1435" rowspan="2">セルバ マヤ</td> <td data-bbox="491 1193 746 1294">グアテマラ/ ラ・パサディータ</td> <td data-bbox="746 1193 995 1294">マヤ生物圏保存地域 (BR) の移行 (多機能利用地域) 地域</td> <td data-bbox="995 1193 1273 1294">土地の違法売却、森林管理計画に反した土地利用</td> </tr> <tr> <td data-bbox="491 1294 746 1435">ベリーズ/ サン・アントニオ</td> <td data-bbox="746 1294 995 1435">保護区外 (周辺には保護区が存在)</td> <td data-bbox="995 1294 1273 1435">農薬・化学肥料の過剰な利用、焼畑、森林伐採、農薬フロンティアの拡大</td> </tr> <tr> <td data-bbox="373 1435 491 1720" rowspan="3">フォン セカ湾</td> <td data-bbox="491 1435 746 1507">エルサルバル/ バラコネス</td> <td data-bbox="746 1435 995 1507">マングローブ林地のみ保護区</td> <td data-bbox="995 1435 1273 1720" rowspan="3">薪炭材・木材用のマングローブ伐採、マングローブ地の改変 (エビ養殖や塩田等)、漁獲過剰</td> </tr> <tr> <td data-bbox="491 1507 746 1648">ホンジュラス/ トレス・デ・フェブレロ、イネス・カランサ</td> <td data-bbox="746 1507 995 1648">保護区緩衝帯</td> </tr> <tr> <td data-bbox="491 1648 746 1720">ニカラグア/ バジョーナ</td> <td data-bbox="746 1648 995 1720">保護区緩衝帯</td> </tr> <tr> <td data-bbox="373 1720 491 2063" rowspan="2">ラ・ア ミスタ</td> <td data-bbox="491 1720 746 1895">コスタリカ/ ラス・メジサス</td> <td data-bbox="746 1720 995 1895">保護区緩衝帯/ラ・アミスタ生物圏保存地域 (BR) の移行地帯/越境世界遺産緩衝帯</td> <td data-bbox="995 1720 1273 2063" rowspan="2">保護区での牧畜、農地の拡大、違法森林伐採、森林火災、土地所有に係る軋轢、化学肥料や農薬の過剰使用</td> </tr> <tr> <td data-bbox="491 1895 746 2063">パナマ/ ピエドラ・カンテラ</td> <td data-bbox="746 1895 995 2063">保護区緩衝帯/ラ・アミスタ生物圏保存地域 (BR) の移行地帯/越境世界遺産緩衝帯</td> </tr> </tbody> </table>	生態系	国/ コミュニティ	タイプ	村落における環境保全上の課題	セルバ マヤ	グアテマラ/ ラ・パサディータ	マヤ生物圏保存地域 (BR) の移行 (多機能利用地域) 地域	土地の違法売却、森林管理計画に反した土地利用	ベリーズ/ サン・アントニオ	保護区外 (周辺には保護区が存在)	農薬・化学肥料の過剰な利用、焼畑、森林伐採、農薬フロンティアの拡大	フォン セカ湾	エルサルバル/ バラコネス	マングローブ林地のみ保護区	薪炭材・木材用のマングローブ伐採、マングローブ地の改変 (エビ養殖や塩田等)、漁獲過剰	ホンジュラス/ トレス・デ・フェブレロ、イネス・カランサ	保護区緩衝帯	ニカラグア/ バジョーナ	保護区緩衝帯	ラ・ア ミスタ	コスタリカ/ ラス・メジサス	保護区緩衝帯/ラ・アミスタ生物圏保存地域 (BR) の移行地帯/越境世界遺産緩衝帯	保護区での牧畜、農地の拡大、違法森林伐採、森林火災、土地所有に係る軋轢、化学肥料や農薬の過剰使用	パナマ/ ピエドラ・カンテラ	保護区緩衝帯/ラ・アミスタ生物圏保存地域 (BR) の移行地帯/越境世界遺産緩衝帯	
生態系	国/ コミュニティ	タイプ	村落における環境保全上の課題																								
セルバ マヤ	グアテマラ/ ラ・パサディータ	マヤ生物圏保存地域 (BR) の移行 (多機能利用地域) 地域	土地の違法売却、森林管理計画に反した土地利用																								
	ベリーズ/ サン・アントニオ	保護区外 (周辺には保護区が存在)	農薬・化学肥料の過剰な利用、焼畑、森林伐採、農薬フロンティアの拡大																								
フォン セカ湾	エルサルバル/ バラコネス	マングローブ林地のみ保護区	薪炭材・木材用のマングローブ伐採、マングローブ地の改変 (エビ養殖や塩田等)、漁獲過剰																								
	ホンジュラス/ トレス・デ・フェブレロ、イネス・カランサ	保護区緩衝帯																									
	ニカラグア/ バジョーナ	保護区緩衝帯																									
ラ・ア ミスタ	コスタリカ/ ラス・メジサス	保護区緩衝帯/ラ・アミスタ生物圏保存地域 (BR) の移行地帯/越境世界遺産緩衝帯	保護区での牧畜、農地の拡大、違法森林伐採、森林火災、土地所有に係る軋轢、化学肥料や農薬の過剰使用																								
	パナマ/ ピエドラ・カンテラ	保護区緩衝帯/ラ・アミスタ生物圏保存地域 (BR) の移行地帯/越境世界遺産緩衝帯																									

成果と活動	活動経緯										成果物
	モンテクリスティ	ドミニカ共和国／カルボネラ	野生生物保護区緩衝帯	マングローブ林や自然保護区への農業・牧畜活動の圧力、化学肥料や農薬の過剰利用							
	出典：プロジェクトチーム										
パイロットプロジェクト活動案											
生態系	国／コミュニティ	ガバナンス強化	アグロフォレストリー（コーヒー含む）	養蜂	マングローブ保全	環境教育	漁業	野菜栽培	マーケティング・認証取得	ツーリズム	
セルバマヤ	グアテマラ／ラ・パサディータ	○	○	○	-	-	-	-	○	-	
	ベリーズ／サン・アントニオ	-	○	-	-	-	-	○	-	-	
フォンセカ湾	エルサルバル／バラコネス	-	-	-	○	○	○	○	-	-	
	ホンジュラス／トレス・デ・フェブレロ、イネス・カランサ	-	-	-	○	○	○	-	-	-	
	ニカラグア／バジョーナ	-	-	-	○	○	○	-	-	○	
ラ・アマスタ	コスタリカ／ラス・メジサス	○	○	○	-	-	-	-	○	-	
	パナマ／ピエドラ・カンテラ	-	○	-	-	-	-	-	○	-	
モンテクリスティ	ドミニカ共和国／カルボネラ	○	-	○	-	-	○	-	-	○	
出典：プロジェクトチーム											
活動 2-3 パイロットプロジェクトを選択し、パイロットプロジェクトに対し	2022年6～10月に、活動2-2の結果と実際の想定予算に基づき、パイロットコミュニティ関係者と共にパイロットプロジェクトの活動を最終選定、計画を作成した。パイロットプロジェクトは各生態系、各国のコミュニティレベルと越境コミュニティ間レベルの2つで構成される。概要は活動2-4に示す通り。										

成果と活動	活動経緯	成果物														
<p>て実際にどのようなサポートを行うか決定する。</p>																
<p>活動 2-4 パイロットプロジェクトの実施を支援する。</p>	<p>活動 2-3 で作成したパイロットプロジェクトの実施支援方法を決定した。コスタリカやパナマでは、持続性確保を目的に、コスタリカコーヒー協会、パナマの農牧開発省の技術者、パイロットコミュニティ近隣の個別専門家など現地リソースを積極的に活用し実施を支援した。その他の国では下表に示すとおりコンサルタントや NGO などの業者に実施支援を委託した。</p> <p style="text-align: center;">パイロットプロジェクト実施委託業者</p> <table border="1" data-bbox="373 831 1275 1151"> <thead> <tr> <th data-bbox="373 831 604 866">国名</th> <th data-bbox="604 831 1275 866">業者名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="373 866 604 936">ベリーズ</td> <td data-bbox="604 866 1275 936">Sugar Industry Research & Development Institute (SIRDI)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="373 936 604 972">グアテマラ</td> <td data-bbox="604 936 1275 972">Rainforest Alliance</td> </tr> <tr> <td data-bbox="373 972 604 1008">エルサルバドル</td> <td data-bbox="604 972 1275 1008">Fundación Campo</td> </tr> <tr> <td data-bbox="373 1008 604 1077">ホンジュラス</td> <td data-bbox="604 1008 1275 1077">Comité para la Defensa y Desarrollo de la Flora y Fauna del Golfo de Fonseca (CODDEFFAGOLF)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="373 1077 604 1113">ニカラグア</td> <td data-bbox="604 1077 1275 1113">Fundación LIDER</td> </tr> <tr> <td data-bbox="373 1113 604 1151">ドミニカ共和国</td> <td data-bbox="604 1113 1275 1151">AgroFrontera</td> </tr> </tbody> </table> <p>出典：プロジェクトチーム</p> <p>それぞれのパイロットプロジェクトは 2022 年 12 月から 2024 年 2 月上旬の間に実施した。以下に概要を示す。</p> <p><セルバマヤ></p> <p>○全体概要</p> <p>森林伐採や野生動物の採取により、セルバマヤでは、水の供給や炭素の吸収機能の低下、景観の連結性の低下、これによるジャガーなど絶滅危惧種の生息地消失など生物多様性に関する様々な問題が起こっている。このような状況下、パイロットプロジェクトは、持続的な生産活動の導入や同一生態系に位置するコミュニティ間での生態系共有意識の醸成による、持続的生態系保全の実現を目的に実施された。コミュニティレベルでは、①グアテマラで養蜂、②ベリーズで環境保全型野菜栽培と女性企業グループ（洋裁、農産加工）の強化、③両コミュニティ共通活動としてコミュニティレベル生態系ガバナンスの強化、越境コミュニティ間レベルでは、①コミュニティ間での情報交換や若手交流を行った。</p>	国名	業者名	ベリーズ	Sugar Industry Research & Development Institute (SIRDI)	グアテマラ	Rainforest Alliance	エルサルバドル	Fundación Campo	ホンジュラス	Comité para la Defensa y Desarrollo de la Flora y Fauna del Golfo de Fonseca (CODDEFFAGOLF)	ニカラグア	Fundación LIDER	ドミニカ共和国	AgroFrontera	
国名	業者名															
ベリーズ	Sugar Industry Research & Development Institute (SIRDI)															
グアテマラ	Rainforest Alliance															
エルサルバドル	Fundación Campo															
ホンジュラス	Comité para la Defensa y Desarrollo de la Flora y Fauna del Golfo de Fonseca (CODDEFFAGOLF)															
ニカラグア	Fundación LIDER															
ドミニカ共和国	AgroFrontera															

成果と活動	活動経緯	成果物
	 <p data-bbox="619 757 1027 831"> 蜂蜜の収穫 (コミュニティレベル・グアテマラ) </p>  <p data-bbox="596 1299 1053 1373"> コミュニティによる養蜂に係る月例会議 (コミュニティレベル・グアテマラ) </p>  <p data-bbox="635 1836 1015 1910"> 有機野菜栽培に係る技術指導 (コミュニティレベル・ベリーズ) </p>	

成果と活動	活動経緯	成果物
	 <p data-bbox="608 757 1042 831">洋裁におけるパターンニングの技術指導 (コミュニティレベル・ベリーズ)</p>  <p data-bbox="619 1346 1031 1420">村議会の役割・責任についての講義 (コミュニティレベル・ベリーズ)</p>  <p data-bbox="470 1928 1182 2047">越境共同キャンペーン (ベリーズの若者リーダーによるグアテマラの養蜂地への訪問) (越境コミュニティ間レベル)</p>	




成果と活動	活動経緯	成果物
	<p data-bbox="371 309 598 340"><フォンセカ湾></p> <p data-bbox="371 365 1278 898">パイロットプロジェクトの対象村落は、全てマングローブが生育する湾の沿岸に位置し、ここから得られる水産物を主な生計手段としている。しかし、水産物採捕について適切なサイズの認識が不十分など、資源管理不足から漁獲物のサイズが小型化している。また、2020年には貝類大量斃死なども発生している。これらの背景から、パイロットプロジェクトは「対象村落における持続可能な漁業と水産資源管理の強化」を目的としている。コミュニティレベルでは、エルサルバドルとホンジュラスでは①貝類養殖、ニカラグアでは②フェダイ養殖、3カ国共通として③携帯電話とアプリケーション (iNaturalist) を利用した生物多様性モニタリング、④資源管理能力強化で構成、越境コミュニティ間レベルは、①3コミュニティ間情報交換会議、②エルサルバドルとホンジュラスでは、稚貝の輸出入で構成されている。</p> <div data-bbox="483 916 1166 1368">  <p data-bbox="483 1344 1166 1368">www.fundacioncampo.org Fundacion Campo</p> </div> <p data-bbox="644 1370 1002 1402">生物多様性モニタリングの講習</p> <p data-bbox="596 1413 1050 1444">(コミュニティレベル・エルサルバドル)</p> <div data-bbox="483 1464 1166 1899">  </div> <p data-bbox="533 1910 1114 1942">成果2：プロジェクトで養殖された貝とサイズ測定</p> <p data-bbox="596 1953 1050 1984">(コミュニティレベル・エルサルバドル)</p>	

成果と活動	活動経緯	成果物
	<div data-bbox="483 309 1166 748" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="608 757 1038 831" data-label="Caption"> <p>貝の資源量調査 (コミュニティレベル・ホンジュラス)</p> </div> <div data-bbox="483 842 1166 1294" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="528 1301 1118 1375" data-label="Caption"> <p>政府とコミュニティによる自然保護区共同管理会議 (コミュニティレベル・ホンジュラス)</p> </div> <div data-bbox="483 1386 1166 1834" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="619 1843 1027 1917" data-label="Caption"> <p>養殖したフエダイ (コミュニティレベル・ニカラグア)</p> </div>	

成果と活動	活動経緯	成果物
	<div data-bbox="483 311 1166 745" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="620 757 1026 831" data-label="Caption"> <p>養殖餌づくり講習会 (コミュニティレベル・ニカラグア)</p> </div> <div data-bbox="488 853 1161 1238" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="517 1249 1128 1323" data-label="Caption"> <p>3カ国コミュニティ・生物多様性モニタリングの結果 (越境コミュニティ間レベル)</p> </div> <div data-bbox="370 1384 600 1417" data-label="Text"> <p><ラ・アミスタ></p> </div> <div data-bbox="370 1442 461 1476" data-label="Section-Header"> <p>○概要</p> </div> <div data-bbox="370 1496 1278 2033" data-label="Text"> <p>生物圏保存地域 (BR) の移行地帯または緩衝地帯に位置するラ・アミスタの対象2村落では、コーヒー生産と牧畜が主要な経済活動 (所得源) となっている。これら活動は、農薬利用などによりラ・アミスタの生態系に影響を及ぼしてきた。また、気候変動の影響などによる生産物の生産や市場価格の不安定化は、村落住民の所得減少、ひいては保護区内への農地拡大圧力を高める可能性がある。以上より、パイロット活動は、「村落による景観や生産活動管理を通じた持続的生物多様性保全 (利用と保護) の強化」を目的とした。コミュニティレベルは、両コミュニティ共に①コーヒー生産改善 (環境配慮型)、②養蜂導入、③自然・生産景観改善、④生物多様性持続的保全・利用体制の強化の4つ、越境コミュニティ間レベルは、①2村落間会議の開催、②2国支援機関間会議の開催、③2村落共同多様性保全意識改善の3つの成果で構成される。</p> </div>	

成果と活動	活動経緯	成果物
	<div data-bbox="483 309 1166 752" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="619 757 1027 833" data-label="Caption"> <p>コーヒー栽培に係る技術指導 (コミュニティレベル・コスタリカ)</p> </div> <div data-bbox="483 844 1166 1294" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="619 1299 1027 1375" data-label="Caption"> <p>養蜂に係る技術指導 (コミュニティレベル・コスタリカ)</p> </div> <div data-bbox="483 1386 1166 1792" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="643 1796 1002 1872" data-label="Caption"> <p>景観改善の植林 (コミュニティレベル・パナマ)</p> </div>	

成果と活動	活動経緯	成果物
	<div data-bbox="483 309 1166 748" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="646 757 1005 831" data-label="Caption"> <p>小学生に対する環境教育の実施 (越境コミュニティ間レベル)</p> </div> <div data-bbox="491 853 1174 1364" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="662 1391 989 1464" data-label="Caption"> <p>2 国間支援機関間会議 (越境コミュニティ間レベル)</p> </div> <div data-bbox="375 1541 654 1570" data-label="Section-Header"> <p><モンテクリスティ></p> </div> <div data-bbox="375 1597 459 1626" data-label="Section-Header"> <p>○概要</p> </div> <div data-bbox="375 1653 1276 2040" data-label="Text"> <p>ドミニカ共和国ラグーナ・サラディージャ野生生物保護区（以下、保護区）の自然資源は、その保護区周辺に位置する対象村落等の住民により利用されている。具体的には、漁業、農業、家畜の飼育であり、これらは住民の重要な所得源となっている。しかし、これら活動は違法あるいは不適切なケースが多く、資源利用の持続性が脅かされている。保護区では 2014 年に 5 年間の管理計画が策定されたが、計画に含まれる委員会の設立や資源管理は十分に行われていない。このような中、パイロットプロジェクトでは、管理計画に基づき関係する全村落で構成されるモニタリング委員会を設置し、モニタリング活動と住民への環境教育を通</p> </div>	

成果と活動	活動経緯	成果物
	<p data-bbox="375 309 1276 392">じ、保護区生物多様性の保全と自然資源の持続可能な利用の向上に取り組んだ。</p>  <p data-bbox="646 871 1002 902">自然保護区への啓発看板の設置</p>  <p data-bbox="595 1379 1037 1411">生態系モニタリング（魚類個体数調査）</p>  <p data-bbox="582 1924 1066 1955">生態系モニタリング委員会設立に係る協議</p>	

成果と活動	活動経緯	成果物
<p>活動 2-5</p> <p>パイロットプロジェクトの結果（すなわち、財務の持続可能性、インパクト、教訓など）を評価・分析し、教訓を収集する。</p>	<p>各生態系のパイロットプロジェクトの結果について、プロジェクト（コミュニティレベル8個、越境コミュニティ間4個、合計12個）毎に各成果の評価・分析した。これらの結果に基づきそれぞれの生態系における教訓と提言を纏めた。</p>	<p>参照：別添4（パイロットプロジェクト報告書）</p>
<p>活動 2-6</p> <p>越境生態系のガバナンスメカニズムの強化の目的から、持続可能な生態系保全に関連するグッドプラクティスの事例を地域内で収集する。</p>	<p>プロジェクトでは、2022年に開催された第15回生物多様性条約約定国会議（COP15）で採択された昆明・モンリオール生物多様性枠組（GBF）の内容とプロジェクトの整合性の強化のため、越境生態系を含む生態系保全のツールとして、①ユネスコ生物圏保存地域（BR）、②保護地域以外で生物多様性保全に資する地域（OECM）制度に着目することとした。これに従い、事例も、これら双方に求められる越境生態系ガバナンスメカニズム、そしてOECM制度について収集・分析した。</p>	<p>参照：別添5（越境生態系ガバナンスとOECM制度・候補の事例）</p>
<p>活動 2-7</p> <p>上述の 2.5 および 2.6 に基づいて域内で適応可能な越境生態系におけるガバナンスメカニズムに関する提言を作成する。</p>	<p>越境生態系におけるガバナンスメカニズムに関する提言は活動 2-9 の提言に組み込んだ。</p>	
<p>活動 2-8</p> <p>上述のグッドプラクティス、提言、教訓</p>	<p>活動 2-5、2-6、2-7 および 2-9 の結果を OAR にアップロードした（2024年2月に対応する）。</p>	

成果と活動	活動経緯	成果物																
をアウトプット 1 で開発した情報プラットフォームにアップロードする。																		
活動 2-9 パイロットプロジェクトで得られた結果に基づいて、地域および国レベルの政策を改善するための提言を行う。	パイロットプロジェクトの結果・教訓などに基づき、活動 2-7 の「越境生態系におけるガバナンスメカニズム」に関する事項も含め、「越境生態系における生物多様性保全戦略の強化に向けた提言」を取り纏めた。上記活動 2-6 のとおり、越境生態系を含む生態系保全のツールとして、①ユネスコ生物圏保存地域 (BR)、②保護地域以外で生物多様性保全に資する地域 (OECM) 制度に着目したため、提言の内容はこれらツールの適切な適用・運用のために実施すべきことや留意点を示している。																	
<p>成果 3</p> <p>SICA-CCAD と連携し、生物多様性の保全と利用のための地域的な組織と人的資源の能力が強化される。</p>																		
活動 3-1 SICA-CCAD と連携して SICA 加盟国からの研修ニーズを評価・分析する。	<p>SICA 加盟国に対する研修ニーズを確認、この結果に基づき、以下の 4 つ優先テーマとして選定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 参加型生物多様性保全 ● 保護区ガバナンス ● 戦略的環境評価 ● 生態系サービスの経済的評価 																	
活動 3-2 SICA-CCAD と協力し、SICA 地域、日本および近隣諸国（中南米地域）における研修リソースに基づいて、プロジェクトのための特定	<p>研修プログラムを作成、以下に示す 20 回の研修を実施またはプロジェクト・カウンターパートが参加した。なお、それぞれのカリキュラムは、活動 3-1 で選定した優先テーマを考慮し作成した。各研修の詳細は添付 1 の研修リストに示すとおり。</p> <p style="text-align: center;">研修プログラムリスト</p> <table border="1" data-bbox="373 1809 1270 2063"> <thead> <tr> <th></th> <th>開催日</th> <th>分類</th> <th>研修名/概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2019年9月11日～13日</td> <td>プロジェクト主催技術委員会ワークショップ第1回</td> <td>JICA 案件、他ドナーの生物多様性保全案件の実施状況の共有</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2019年10月6日～26日</td> <td>パナマ 第三国 研修 (2019年度)</td> <td>エコシステムベースの参加型流域管理</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2019年10月27日</td> <td>課題別研修(西語特設)</td> <td>保護地域協働管理を通</td> </tr> </tbody> </table>		開催日	分類	研修名/概要	1	2019年9月11日～13日	プロジェクト主催技術委員会ワークショップ第1回	JICA 案件、他ドナーの生物多様性保全案件の実施状況の共有	2	2019年10月6日～26日	パナマ 第三国 研修 (2019年度)	エコシステムベースの参加型流域管理	3	2019年10月27日	課題別研修(西語特設)	保護地域協働管理を通	参照：添付 1 (プロジェクト結果：研修リスト)
	開催日	分類	研修名/概要															
1	2019年9月11日～13日	プロジェクト主催技術委員会ワークショップ第1回	JICA 案件、他ドナーの生物多様性保全案件の実施状況の共有															
2	2019年10月6日～26日	パナマ 第三国 研修 (2019年度)	エコシステムベースの参加型流域管理															
3	2019年10月27日	課題別研修(西語特設)	保護地域協働管理を通															

成果と活動	活動経緯				成果物
テーマに関する地域研修プログラムおよびカリキュラムを作成する。		～11月30日	(2019年度)	じた生態系保全	
	4	2020年3月3～5日	プロジェクト主催技術委員会ワークショップ第2回	JICA案件、他ドナーの生物多様性保全案件の実施状況の共有	
	5	2020年11月17日～21日	パナマ第三国研修(2020年度)	エコシステムベースの参加型流域管理	
	6	2021年5月19日	プロジェクト主催技術委員会ワークショップ第3回	JICA案件、他ドナーの生物多様性保全案件の実施状況の共有	
	7	2021年9月6日	プロジェクト主催技術委員会ワークショップ第4回	JICA案件、他ドナーの生物多様性保全案件の実施状況の共有	
	8	2021年10月12日～16日	パナマ第三国研修(2021年度)	エコシステムベースの参加型流域管理	
	9	2022年2月14日～15日	プロジェクト主催技術委員会ワークショップ第5回	JICA案件、他ドナーの生物多様性保全案件の実施状況の共有	
	10	2022年3月15日～5月9日	オンライン研修(53時間)	参加型生物多様性保全コース	
	11	2023年4月20日	OECM地域セミナー第1回	保護地域以外で生物多様性保全に資する地域(OECM)	
	12	2022年10月11日～12日	農業、林業、その他土地利用(AFOLU)	ドナー間共催ワークショップ	
	13	2022年11月21日～12月13日	課題別研修(西語特設)(2022年度)	保護地域協働管理を通じた生態系保全	
	14	2023年5月28日～6月10日	SICA国別研修	SICA地域における生物多様性の統合的管理と保全に関する能力強化プロジェクト	
	15	2024年2月4日～18日	コスタリカ第三国研修(2023年度)	保護地域における参加型ガバナンスとエコツーリズムの協働能力の強化	
	16	2023年4月20日	OECM地域セミナー第2回	保護地域以外で生物多様性保全に資する地域(OECM)	
	17	2023年5月9日	地域情報プラットフォーム(OAR)検討会第1回	各国の取組み紹介(コスタリカ、グアテマラ、パナマ)	
	18	2023年10月11日	地域情報プラットフォーム(OAR)検討会第2回	iNaturalist(導入編)	
	19	2023年12月12日	地域情報プラットフォーム(OAR)検討会第3回	iNaturalist(実践編)	
	20	2024年2月6日	プロジェクト最終セミナー	プロジェクトの結果共有と政策提言	

出典：プロジェクトチーム

成果と活動	活動経緯	成果物
<p>活動 3-3</p> <p>上述のプログラム及びカリキュラムに基づき、セミナーやワークショップを含む研修を実施するとともに、研修結果に基づいてプログラムを見直す。</p>	<p>活動 3-2 と添付 1 の研修リストに示すとおり研修を実施した。なお、添付 1 にはプロジェクト・カウンターパート機関要員が参加したプロジェクト以外の組織が開催した研修も含んでいる。</p>  <p>SICA 国別研修修了式 (2023 年 6 月 JICA 東京)</p>  <p>課題別研修 (西語特設) (2019 年 12 月 JICA 帯広)</p>	
<p>活動 3-4</p> <p>CCAD の枠組みにおける生物多様性の保全と利用を促進するための地域組織体制と必要な人材の能力強化についての提言を行う。</p>	<p>プロジェクト成果 1、2、3 の結果に基づき、地域組織である CCAD の組織体制と人材の強化に関して、以下の 3 つの提言を作成した。これらは添付 2 の越境生態系における生物多様性保全戦略の強化に向けた提言および本書 IV. 3 の SICA への提言に含めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● CCAD の国際枠組みにおける地域拠点としての登録・機能強化 ● CCAD 海洋・生物多様性技術委員会 (CTMyB) の委員会運営強化・定期開催化 ● CCAD 地域環境オブザーバトリー (OAR) コンテンツ維持管理方法・体制の強化 	<p>参照： 添付 2 (越境生態系における生物多様性保全戦略の強化に向けた提言)</p>

出典：プロジェクトチーム

2. プロジェクトの達成事項

2-1 成果指標

目標	達成指標	達成状況
1. SICA 地域における生物多様性の保全と利用のための地域情報プラットフォームが確立される。	1.1 少なくとも 5 個のモジュール（地域情報/生物学的回廊、湿地、生物多様性など）が、地域情報プラットフォームで利用可能となる。	達成状況：達成した。 SICA 地域環境オブザーバトリー（Observatorio Ambiental Regional：OAR）を SICA ホームページ内に設置した。OAR は、主に森林被覆、海洋・生物多様性、水資源、気候変動・危機管理、環境管理、環境ビジネス、資金メカニズム関連情報で構成される。以上より、本指標の達成度は「達成」とする。
	1.2 各国の生物多様性情報プラットフォームに関する研修参加者の 80%以上が、データベースの構築と利用、維持管理について理解している。	達成状況：達成した。 活動 1-4 に示す通り、生物多様性プラットフォームに関する研修を合計 5 回開催した。 SICA 地域環境情報プラットフォーム（OAR）の維持管理および iNaturalist を活用した生物多様性モニタリングをテーマにした第 1、3、4 回研修にはそれぞれ 18 名、19 名、16 名が参加、研修理解度に関するアンケート（5 段階評価）では、参加者の 85.8%が 4 または 5 の高評価を付けた。また、2023 年 5-6 月に実施した SICA 国別研修では、この一部として情報プラットフォームに関する講義（生物多様性データベース、モニタリングサイト 1000、いきものブログ）を実施、本講義の研修理解度アンケート（5 段階評価）でも、参加者の 90%が 4 か 5 の高評価を付けた。以上より、本指標の達成度は「達成」とする。
	1.3 CCAD の枠組みを通して、プロジェクト成果の今後の地域内での活用について各国によって議論され、共有される。	達成状況：概ね達成した。 プロジェクト最終セミナーでプロジェクト成果、これに基づき作成した越境生態系における生物多様性保全戦略の強化に向けた提言（添付 2）を発表、この活用方法について議論した。また、成果 2 を中心とするプロジェクト結果と提言が広く共有、議論・利用されるよう、これを OAR に掲載した。以上のとおり議論、共有はなされたが、パイロットプロジェクトの完了と提言の作成が 2024 年 1 月とプロジェクト完了目前であったこともあり、十分な議論ができたとは言い難いため、本指標の達成度は「概ね達成」とする。
2. 持続可能な開発に関する地域・国家政策の実施・提	2.1 パイロットプロジェクト対象の 4 地域において、越境地域における持続可能	達成状況：達成した。 パイロットプロジェクトの結果を報告書（別添 4）としてとりまとめ、ここに結果と教訓を示した。また、これら個々の教訓を踏まえ越境生態系における生物多様性保全戦略の強化に向

目標	達成指標	達成状況
案のため、パイロットプロジェクトの成果（小規模な農村地域と地元の人々に焦点を当てた優れた実践と教訓など）が地域に普及される。	な生態系保全に資するモデルが教訓事例として取り纏められる。	けた提言（添付 2）を取り纏めた。以上より、本指標の達成度合いは「達成」とする。
	2.2 各プロジェクト対象地域内にて選定されたパイロットコミュニティ間において、国境を越えて交流・情報交換し経験や知識が共有されるメカニズムが構築される。	<p>達成状況：中程度達成した。</p> <p>各生態系においてパイロットコミュニティ間での交流・情報交換の取り組みが試行された。また、フォンセカ湾では iNaturalist を共通手法とするコミュニティ生物多様性モニタリングが行われた。しかし、コロナパンデミック等によりパイロット期間が 4 年から 1 年に短縮され、交流・情報交換の試行も 1 年数回に限定された。このためメカニズム構築に関する試行実施と教訓獲得は達成したが、「構築された」という水準には達成していない。以上より、本指標の達成度合いは「中程度達成」とする。</p> <p>なお、モンテクリスティについては、隣国が SICA 非加盟国であるハイチであるため、交流・情報交換は同国同一生態系に位置する異なる組織間での取り組みを意味する。</p>
	2.3 各コミュニティのパイロット活動のリーダーが他国のパイロットコミュニティにおける経験やグッドプラクティスを理解している	<p>達成状況：中程度達成した。</p> <p>パイロットプロジェクトの結果を報告書（別添 4）として、また、各パイロットプロジェクトの教訓を踏まえ越境生態系における生物多様性保全戦略の強化に向けた提言（添付 2）を取り纏めた。しかし、パイロットプロジェクトの完了とこれら報告書、提言の作成が 2024 年 1 月とプロジェクト完了目前であったこともあり、各国コミュニティのリーダーと他国のパイロットプロジェクトの情報を共有するには至らなかった。提言と報告書を各リーダーに配布・共有するが、「配布」を「理解」と判断するのは困難である。以上より、本指標の達成度合いは「中程度達成」とする。</p>
3. SICA-CCAD と連携し、生物多様性の保全と利用のための地域的な組織と人的資源の能力が強化されてい	3.1 80%以上の研修参加者が、研修により知識レベルが増加したと評価する。	<p>達成状況：達成した。</p> <p>合計 6 回の研修を対象に知識習得レベルに関するアンケートに基づき本指標の達成度を評価した。結果を以下に示す。</p> <p>2019 年 10-11 月に実施した課題別研修（SICA 加盟国から 10 名参加）での研修目標達成に関するアンケート（4 段階評価、4 が最高評価）では、参加者全員（100%）が 3 または 4 の高評価を付けた。</p> <p>2022 年 3 月-5 月に実施した参加型生物多様性保全コース（53</p>

目標	達成指標	達成状況
る。		<p>時間) (SICA 加盟国から 34 名が参加) では参加者全体の 82.4% がコース修了書を所得した。知識習得レベルに関するアンケート (5 段階評価、5 が最高評価) では、参加者の 87.5% が 4、5 の高評価を付けた。</p> <p>2023 年 5-6 月に実施した SICA 国別研修 (CCAD 事務局長以下、加盟国から計 10 名) での知識習得レベルに関するアンケート (5 段階評価、5 が最高評価) では、参加者全員 (100%) が 4、か 5 の高評価を付けた。</p> <p>SICA 地域環境情報プラットフォーム (OAR) の維持管理および iNaturalist を活用した生物多様性モニタリングに関する研修を 2023 年 5 月、10 月、12 月に 3 回実施し、参加者はそれぞれ 18 名、19 名、16 名であった。研修の理解度に関するアンケート (5 段階評価、5 が最高評価) では参加者の 85.8% が 4 か 5 の高評価を付けた。</p> <p>以上より、本指標の達成度合いは「達成」とする。</p>
	3.2 SICA の知識と経験を共有する地域セミナーとワークショップが、少なくとも 8 回開催される。	<p>達成状況：達成した。</p> <p>本報告書 1-3、活動 3-2 と 3-3 に示す通り、地域レベルで知識と経験を共有するセミナーやワークショップを合計 20 回開催した。以上より、本指標の達成度合いは「達成した」とする。</p>

出典：プロジェクト PDM、プロジェクトチーム

2-2 プロジェクト目標指標

目標	達成指標	達成状況
SICA-CCAD と連携し、加盟国の生物多様性の利用と保全に関する管理能力が強化される。	成果 1～3 から得られた教訓を基に、国境を介する越境地域・保護区において、生態系・生物多様性保全を推進するために必要と考えられる持続的モデル・アプローチが政策提言としてとりまとめられる。	<p>達成状況：達成した。</p> <p>成果 1 から成果 3 の結果、ここから得られた教訓を踏まえ越境生態系における生物多様性保全戦略の強化に向けた提言 (添付 2) を取り纏めた。この提言は、将来における、SICA-CCAD 加盟国の生物多様性の利用と保全に関する管理能力に資するものである。以上より、本指標の達成度は「達成した」とする。</p>
	政策提言が、コミュニティはじめ CP の総意として CCAD に	<p>達成状況：中程度達成した。</p> <p>越境生態系における生物多様性保全戦略の強化に向けた提言 (添付 2) の作成に関する協議は、2024 年 2 月に開催の CCAD</p>

目標	達成指標	達成状況
	提出され、その重要性が大臣会合にて協議・認識される。	大臣会合の場にて行われたが、コミュニティ住民との協議には至っていない。以上より、本指標の達成度は「中程度達成」とする。 提言は、国を跨いだ越境生態系と地域組織である CCAD に焦点を当てている。これら事項をコミュニティと検討するのは、役割の違いから困難である。このため、今後の目標達成度のモニタリングでは、コミュニティ支援の役割の担う各国カウンターパートによる提言の認識を、コミュニティによる認識と見なすことを提言する。

出典：プロジェクト PDM、プロジェクトチーム

3. PDM 改定履歴

PDM の改訂履歴を下表に示す。また、PDM 各バージョンを添付 3 に示す。

PDM 改定履歴

バージョン	作成・改訂日	改定内容
当初（バージョン 1.1 RD 添付版）	2018 年 3 月 30 日	
改訂（バージョン 2.0）	2022 年 4 月 6 日	<ul style="list-style-type: none"> - 日本人長期派遣専門家に追加しての、日本人短期派遣専門家（コンサルタント派遣）の配置。 - 日本側 JCC メンバーの、JICA エルサルバドル所長から SICA メンバー国それぞれの JICA 事務所所長への変更。 - プロジェクト目標と成果の指標および、各成果にかかる活動の見直し（下表参照）。

出典：プロジェクトチーム

PDM 当初（バージョン 1.1 RD 添付版）と改訂（バージョン 2.0）の比較、変更点と理由

項目	現状	変更案
上位目標	SICA 地域における生物多様性の統合的管理と持続可能な理由に関する地域の制度的枠組み及びガバナンスが強化される。	変更なし
指標	地域情報プラットフォーム上の情報とデータベースを利用して ERAM（地域環境戦略フレームワーク）が改訂される。	変更なし
プロジェクト目標	SICA-CCAD と連携し、加盟国の生物多様性の利用と保全に関する管理能力が強化される。	変更なし
指標 1（指標 1.3 へ移動）	地域情報プラットフォームが、生物多様性に関する政策、計画、および報告を作成するために参照される。	（指標 1.3 へ移動）
指標 2	各加盟国において、プロジェクトの知識と経験を参照し、少なくとも 1 つの生物多様性の利用と保全に関する活動が導入される。	（新指標 1 & 2 にて代替）
（新）指標 1	追記	「成果 1～3 から得られた教訓を基に、国境を介する越境地域・保護区において、生態系・生物多様性保全を推進するために必要と考えられる持続的モデル・アプローチが政策提言としてとりまとめられる。」

項目	現状	変更案
(新) 指標 2	追記	政策提言が、村落はじめカウンターパートの総意として CCAD に提出され、その重要性が大臣会合にて協議・認識される。
成果 1	SICA 地域における生物多様性の保全と利用のための地域情報プラットフォームが確立される。	変更なし
指標 1.1	少なくとも xx 個のモジュール（地域情報/生物学的回廊、湿地、生物多様性など）が、地域情報プラットフォームで利用可能となる。	少なくとも 5 個のモジュール（地域情報/生物学的回廊、湿地、生物多様性など）が、地域情報プラットフォームで利用可能となる。
指標 1.2	地域情報プラットフォームに関する研修参加者の 80%以上が、各国情報システムとのつながりにおいて、プラットフォームを利用するための機能とモジュールを理解している。	各国の生物多様性情報プラットフォームに関する研修参加者の 80%以上が、データベースの構築と利用、維持管理について理解している。
(新) 指標 1.3 (プロ目の指標 1 を移動)	地域情報プラットフォームが、生物多様性に関する政策、計画、および報告を作成するために参照される。	CCAD の枠組みを通して、プロジェクト成果の今後の地域内での活用について各国によって議論され、共有される。
成果 2	持続可能な開発に関する地域・国家政策の実施・提案のため、パイロットプロジェクトの成果（小規模な農村地域と地元の人々に焦点を当てた優れた実践と教訓など）が地域に普及される。	変更なし 本成果は、4 Pilot Projects に共通する「成果」であり、「指標」も全てのパイロット・サイトに適用される。
指標 2.1	パイロットプロジェクトとその他のグッドプラクティスに基づいて、少なくとも xx 個の持続可能な経済開発に資するビジネスモデルが取り纏められるとともに、加盟国間で共有される。	パイロットプロジェクト対象の 4 地域において、越境保護区における持続可能な生態系保全に資するモデルが教訓事例として取り纏められる。
指標 2.2	実施される全パイロット活動の 90%以上が地域の持続可能な経済開発モデルの開発に「域内での展開の可能性等の観点から非常に有用」であると CCAD と JICA により合同評価される。	各プロジェクト対象地域内にて選定されたパイロット村落間において、国境を越えて交流・情報交換し経験や知識が共有されるメカニズムが構築される。
(新) 指標 2.3	追記	上記連携メカニズムを通し村落が交流することで、各地域内パイロット村落における活動がお互いに認識している。
成果 3	SICA-CCAD と連携し、生物多様性の保全と利用のための地域的な組織と人的資源の能力が強化されている。	変更なし
指標 3.1	xx%以上の研修参加者の生物多様性の保全と利用に関する知識レベルが増加する。	80%以上の研修参加者が、研修により知識レベルが増加したと評価する。
指標 3.2	SICA の知識と経験を共有する地域セミナーとワークショップが、XX 回以上開催される。	SICA の知識と経験を共有する地域セミナーとワークショップが、少なくとも 8 回開催される。
活動 1.1	地域（すなわち地域および国レベル）の生物学的回廊、湿地、生物多様性データベースなどの既存データの現在の状態を評価し、分析する。	変更なし
活動 1.2	SICA 加盟国間、特に生物学的回廊、湿地、生物多様性のためのデータ交換および情報共有のための多生物多様性プラットフォームとしての地域情報プラットフォームのための設計を開発する。	変更なし

項目	現状	変更案
活動 1.3	地域情報プラットフォームを構築する。	変更なし
活動 1.4	SICA-CCAD と連携して、国家情報システムとのつながりにおいて情報プラットフォームの利用と維持（すなわち、収集、処理、利用可能なデータ/情報の利用）に関する加盟国の選定されたスタッフの研修を実施する。	SICA-CCAD と連携して、各国の情報プラットフォームの構築、利用、維持（すなわち、収集、処理、利用可能なデータ/情報の利用）に関する加盟国の選定されたスタッフの研修を実施する。
活動 1.5	プラットフォームを用いて、「地域生物多様性アウトルック」を発行する。	プラットフォームを用いて、「地域生物多様性アウトルック（作成ガイドライン／概要）」をとりまとめる。
活動 2.1	コミュニティレベルでの生計向上と生物多様性保全に貢献する持続可能な経済開発のパイロットプロジェクトの選定基準を策定する。	変更なし
活動 2.2	関連国からのパイロットプロジェクトの提案を求める（例えば、湿地生態系、保護区域および生物回廊などの優先順位の高い地域における、PES、ABS、農林業、農産物のブランド化、エコツーリズム/農業観光の促進、環境持続可能な地域経済の代替案の開発など）。	パイロットコミュニティ関係者とともに活動計画案を作成する（例えば、湿地生態系、保護区域および生物回廊などの優先順位の高い地域における、PES、ABS、農林業、農産物のブランド化、エコツーリズム/農業観光の促進、環境持続可能な地域経済の代替案の開発など）。
活動 2.3	パイロットプロジェクトを選択し、パイロットプロジェクトに対して実際にどのようなサポートを行うか決定する。	変更なし
活動 2.4	パイロットプロジェクトの実施を支援する。	変更なし
活動 2.5	パイロットプロジェクトの結果（すなわち、財務の持続可能性、インパクト、教訓など）を評価・分析し、教訓を収集する。	変更なし
活動 2.6	持続可能な経済開発に関連するグッドプラクティスの事例を地域内で収集する。	越境保護区におけるガバナンスメカニズムの強化の視点から、持続可能な生態系保全に関連するグッドプラクティスの事例を地域内で収集する。
活動 2.7	上述の 2.5 および 2.6 に基づいて域内で適応可能な持続可能な経済開発モデルのインベントリを作成する。	上述の 2.5 および 2.6 に基づいて域内で適応可能な越境保護区におけるガバナンスメカニズムに関する政策提言（新指標 1 の一部）を作成する。
活動 2.8	上述のインベントリをアウトプット 1 で開発した情報プラットフォームに統合する。	上述の政策提言をアウトプット 1 で開発した情報プラットフォームに統合する。
活動 2.9	パイロットプロジェクトで得られた結果に基づいて、地域および国レベルの政策を改善するための提言を行う。	変更なし
活動 3.1	SICA-CCAD と連携して SICA 加盟国からの研修ニーズを評価・分析する。	変更なし
活動 3.2	JICA の二国間プロジェクト及び SICA-CCAD と協力し、SICA 地域、日本および近隣諸国（中南米地域）における研修リソースに基づいて、プロジェクトのための特定テーマに関する地域研修プログラムおよびカリキュラムを作成する。	SICA-CCAD と協力し、SICA 地域、日本および近隣諸国（中南米地域）における研修リソースに基づいて、プロジェクトのための特定テーマに関する地域研修プログラムおよびカリキュラムを作成する。
活動 3.3	上述のプログラム及びカリキュラムに基づき、セミナーやワークショップを含む研修を実施するとともに、研修結果に基づいてプログラムを見直す。	変更なし
活動 3.4	CCAD の枠組みにおける生物多様性の保全と利	CCAD の枠組みにおける生物多様性の保全と利

項目	現状	変更案
	用を強化するための地域組織体制と必要人材についての提言を行う。	用を促進するための地域組織体制と必要な人材の能力強化についての提言を行う。
<p><主な変更理由></p> <p><u>プロジェクト目標の指標</u></p> <ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト目標の達成を評価するための全体的な指標とするため、プロジェクト全体の成果からの具体的なアウトプットとして、政策提言をまとめることとした。 <p><u>各成果の指標</u></p> <ul style="list-style-type: none"> - プロジェクトの現在の達成状況を踏まえ、達成可能かつ適切な指標を定量化した。 <p><u>活動</u></p> <ul style="list-style-type: none"> - 情報プラットフォームや人材に関する SICA メンバー国のニーズや現状を踏まえ、成果 1 と成果 3 の活動内容を修正した。 - 国境を越えた保護地域のガバナンス強化に向けたパイロット活動の意義を明確にするため、成果 2 の活動内容を修正した。 		

出典：プロジェクトチーム

4. その他

4-1 環境社会配慮の結果

本プロジェクトは、そのものが環境社会への配慮を目的としている。例えば、活動から自動車や資材利用から発せられる温室効果ガスは、環境へネガティブな影響を及ぼすものの、これらは不要・不適切な利用によるものではなく、過度な影響には該当しない。以上より、環境社会配慮に関する特別な対策は実施しなかった。

4-2 ジェンダー・平和構築・貧困削減・障がい・疾病・感染症・社会システム・ウェルビーイング、人権、ジェンダー平等に対する配慮の結果

プロジェクト実施では、特別のルールは設けなかったが、常識的事項として、ジェンダー・平和構築・貧困削減・障がい・疾病・感染症・社会システム・ウェルビーイング、人権、ジェンダー平等などに配慮した。例えば、支援側、受益側双方で男女の分け隔てない参加、また、各地域の社会システムに配慮した研修実施スケジュールや方法の設定である。

III. 合同レビューの結果

1. DAC 評価指標に基づくレビュー

(1) 妥当性

評価：妥当性は非常に高い。

相手国の開発計画との整合性

SICA-CCAD は、中米地域における環境保全のため、自身の活動戦略である Framework Regional Environmental Strategy (ERAM) 2015-2020) の中で「気候変動とリスク管理」「森林、海洋と生物多様性」「環境の質」「水資源の総合的管理」「貿易と環境」「資金メカニズム」の 6 つを戦略重点分野に掲げ、環境保全に取り組む方針を打ち出している。プロジェクト開始後に ERAM は 2021-2025 版に更新されたが、ここでも「海洋と生物多様性」が 5 つの戦略重点分野として掲げられている。また、SICA-CCAD は、メソアメリカ域内の統合を推進し、経済的及び社会的な発展を促進させるために計画されたメソアメリカ統合開発プロジェクト (Proyecto Mesoamérica: PM) と、PM イニチアティブの一つである「メソアメリカ環境持続戦略 (EMSA)」推進のための覚書を締結しており、生物多様性を地域レベルで保全するため

の枠組みである「メソアメリカ生物回廊構想（MBC）」の推進を中心とした協力関係を強化している。なお、地域レベルまたは生物回廊として生物多様性保全を推進するアプローチは生物多様性条約締約国会議（CBD COP）でも推奨されている。以上より、SICA 地域における生物多様性の統合的管理・保全に関する能力強化を目的とする本プロジェクトは、上記の SICA の戦略や取り組みに合致している。

開発ニーズとの整合性

上記の ERAM 2021-2025 は、加盟各国が配置している海洋・生物多様性技術委員会メンバーにより策定されている。このため、ERAM には加盟国の共通課題、あるいは開発ニーズが反映されていると言える。ERAM2021-2025 では、以下の3つが成果として掲げられている。

- ① 異なる生態系のコミュニティにおいて、生物多様性とこの脅威の減少により、生物・生態系環境が改善される。
- ② コミュニティ参加による、生物多様性と生態系の財とサービスのより良い利用と公平な分配により、コミュニティ生計手段が向上する。
- ③ 革新的で包括的なツールと解決策により、生物多様性保全と生態系の財とサービスの持続可能な利用が促進される。

本プロジェクトは、ERAM の中で、①と③の戦略的パートナーとして位置づけられている。また、②についてはパートナーとなっていないものの、パイロットプロジェクトが“コミュニティまたはコミュニティ住民による持続的生態系保全による生態系回復と生計向上”を目的していることから、実際には、②へ直接的に貢献している。

事業計画やアプローチの適切性

SICA-CCAD は地域レベルでの環境保全を目的としている。なお、CBD は地域レベルでの多様性保全推進拠点として地域センターの設置を検討しており、CCAD はこの候補であり、プロジェクト目標を達成すべく協力対象として適切である。

以上のとおり、「相手国の開発計画との整合性」、「開発ニーズとの整合性」、「事業計画やアプローチの適切性」の3つに適切に対応しており、本プロジェクトの妥当性は非常に高い。

(2) 整合性

整合性：整合性は高い。

日本政府開発協力方針との連携

本プロジェクトの日本の援助政策との整合性は、地域レベルでの政策が不在のため、SICA 加盟各国に対する国別開発協力方針を用い、確認した。生物多様性保全を直接の優先分野としている国はないが、全ての国で気候変動対策含む環境保全や持続的経済開発の強化を優先課題としている。生物多様性保全は、これら優先課題の解決に直接的または間接的に資するものである。

JICA 内の他の事業・支援等との連携

本プロジェクトは、特に過去の JICA 案件に携わったカウンターパートとの協働や、他の研修との補完の形で JICA の他事業と連携している。例えば、エルサルバドルのパイロットプロジェクトのカウンターパートは、かつては同国で実施された「オロメガ湖・ホコタル湖統合的湿地管理プロジェクト（2016～2021）」に従事、CCAD 海洋・生物多様性技術委員会のコスタリカのメンバーは、同国で行われた「参

加型生物多様性保全推進プロジェクト（2013～2018）」にも従事した。なお、直接のカウンターパートではないが、パナマのパイロットプロジェクトに全面的に協力した同国・農牧開発省の技術者は、複数の青年海外協力隊のカウンターパートでもあった。また、エルサルバドルとホンジュラスでのパイロットプロジェクトの貝の養殖活動で実施した稚貝は、エルサルバドルの養殖センターが生産したものを使用した。JICA は、過去に「貝類増養殖開発計画プロジェクト」によりこのセンターを支援した実績を有する。技術面での過去のプロジェクト成果の活用としては、海洋・生物多様性技術委員会メンバーによる「ラ・ウニオン生物回廊プロジェクト」の現場訪問が挙げられ、プロジェクト対象地の国家生物回廊登録に向けたコーヒー認証制度の普及など国家生物回廊委員会の活動を学んだ。他の研修との補完については、例えば、それぞれ 2019 年と 2020 年に開催された課題別研修「生物多様性保全のための GIS・リモートセンシング、情報システム及び住民参加コース」と「生態系を活用した防災・減災（Eco-DRR）による湿地と周辺地域の生態系保全と流域管理と地域開発コース」など、複数の他研修に本プロジェクト・カウンターパート機関要員が参加した。上記のような JICA 案件従事経験者との協働や研修機会の共有により、特にそれぞれの活動運営と知識向上の効率化という形で相乗効果が発現した。

JICA 外の機関との連携・国際的枠組みとの協議等

他ドナーや国際的枠組みとの連携も積極的に行われた。前者は GIZ との連携であり、成果 1 の情報プラットフォーム構築にて協働し、CCAD の各種イベントに対する資金支援でも相互協力した。後者については、本プロジェクトは、世界レベルで生物多様性含む環境保全の重要性の認識が高まる中、世界、地域レベルで数多く立ち上げられている枠組み、イニシアティブやターゲット、戦略などと整合性が高いが、特に重要なものは、2022 年 12 月、生物多様性条約第 15 回締約国会議（COP15）において採択された、2030 年を目標とする「昆明・モンテリオール生物多様性枠組（GBF）」、更には、セクターを横断的国際的開発目標である国連 2030 アジェンダ 持続可能な開発目標（SDGs）への貢献と考えられる。本プロジェクトは、GBF については、例えば、ターゲット 1（すべての地域を参加型・統合的で生物多様性に配慮した空間計画下及び/又は効果的な管理プロセス下に置く）、3（陸と海のそれぞれ少なくとも 30%を保護地域及び OECM により保全：30 by 30 目標）、9（野生種の管理と利用を持続可能なものとし、人々に社会的、経済的、環境的な恩恵をもたらす）、10（農業、養殖業、漁業、林業地域が持続的に管理され、生産システムの強靱性及び長期的な効率性と生産性、並びに食料安全保障に貢献）などと強い整合性を持つ。SDGs とは、ターゲット 2（飢餓を終わらせ、食糧安全保障および栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する）、12（持続可能な生産消費形態を確保する）、14（持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する）と 15（陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、並びに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する）と高い整合性を有する。

以上のとおり、本プロジェクトは日本政府の開発協力方針と整合している。また、他の JICA プロジェクトや研修、JICA1 以外の機関によるプロジェクトとの連携を実施、一定の成果を得ている。以上より本プロジェクトの整合性は高い。

(3) 有効性

評価：有効性は高い。

本報告書 2. 2-2 に示す通り、プロジェクト目標の 2 つの評価指標の達成度は、「達成した」と「中程度達成した」である。後者は、“政策提言が、コミュニティはじめ CP の総意として CCAD に提出され、そ

の重要性が大臣会合にて協議・認識される”という目標指標の評価であるが、中程度達成とした理由は、越境生態系における生物多様性保全戦略の強化に向けた提言（添付 2）についてコミュニティ住民との協議には至らなかったためである。なお、コロナパンデミックにより、約 2 年間に渡り活動が停滞、①関係者との直接の協働機会の減少による関係構築の難易度の増加、②例えばパイロットプロジェクト実施期間の 4 年から 1 年への短縮による、提言作成の材料である教訓の獲得機会の減少、などのネガティブな影響が発生した。これに対し、①遠隔ツール利用によるコミュニケーションの改善、②コンサルタント投入によるパイロットプロジェクトの実施の加速、などの対策を講じたが、ネガティブな影響が大きかったため、これを完全に回復させたと考えにくい。このため、目標である「SICA-CCAD と連携し加盟国の生物多様性の利用と保全に関する管理能力が強化される」の達成度合い（密度）は当初想定より下がっているのが必然である。しかしパンデミックは不可抗力と判断されるため、有効性は高いとした。

(4) 効率性

評価：効率性は高い。

下表に、JICA が作成した本プロジェクトの事前評価表に示される事業期間と総事業費と実際の比較を示す。

プロジェクト実施期間、総事業費の計画と実績

	計画 (JICA プロジェクト 事前評価表)	実績	差異
実施期間	2019 年 4 月～2024 年 3 月 (60 カ月)	2019 年 3 月 12 日～2024 年 3 月 10 日 (60 カ月)	変更なし。
総事業費 (日本側)	約 5.00 億円	約 4.40 億円	約 0.60 億円の減額。

出典：JICA プロジェクト事前評価表、プロジェクトチーム

上表のとおり、実施期間は変更ない。一方、総事業費は 0.60 億円の減額であるため、以下の事業費に影響を及ぼした事項に焦点を当て効率性を分析した。

< 事業費増加要因 >

- (1) 為替変動：JICA プロジェクト事前評価が行われた 2018 年からプロジェクト最終年である 2024 年にかけて大幅な円安が進んだ。対米ドルを例にとると、2018 年の約 110 円が 2024 年には約 148 円と、円の価値が 30%以下落、現地化換算の事業費が大きく目減りした。
- (2) コロナパンデミックによりプロジェクト活動が低迷、特に成果 2 のパイロットプロジェクトの本格化が当初予定の 2 年目からが、3.5 年目からとなった。この遅れを取り戻すため、それまでの長期専門家 2 名を 1 名に削減、5 名（途中から 6 名）の短期専門家から構成されるコンサルタントチームを配置した。

< 事業費減少要因 >

- (1) コロナパンデミックにより成果 2 のパイロットプロジェクト実施期間が 4 年から 1 年に短縮された。ただし、プロジェクト継続の重要性や契約遵守の観点から長期派遣専門家 2 名の配置は予定通りに継続されたため、それほど事業費減少には繋がらなかった。

為替変動、コロナパンデミック共に外部条件（不可抗力）であるため、これに伴う事業費の増減の妥当

性の詳細分析は困難である。しかし、事業費減よりも増要因が大きかったと判断される。この中で、費目数量や単価減など事業費増軽減の努力をし、そして、期間が短縮されたものの、事業費全体の増額なくプロジェクトで中心的な活動であったパイロットプロジェクトを無事実行した。以上より、効率性は高い。

(5) インパクトの発現見込み

上位目標の指標とされる「地域情報プラットフォームの情報とデータベースを活用して、地域環境戦略フレームワーク (ERAM) が改訂される」については、CCAD 技術委員会及び大臣会合でのこの内容の詳細説明を通じて、次期 ERAM (2026-2030) 策定の検討での活用・反映が促進されることが期待され、一定の達成見通しが得られている。一方、より上位目標の達成可能性を高めるためには「CCAD 情報共有機能の強化」や「CCAD 技術委員会定期開催化・議題の標準化」が必要と考えられ、本報告書の IV にて同提言を纏めている。その他、想定される波及効果としては、一部のパイロットプロジェクト対象コミュニティによる養蜂や養殖などの活動の自発的拡大が期待される。(詳細は本報告書の IV を参照)

(6) 持続性

評価：持続性はやや低い。

本プロジェクトの持続的利用が期待される主な成果や成果物は、成果 1 で形成した情報プラットフォーム (OAR) とプロジェクト全体の成果として作成した「越境生態系における生物多様性保全戦略の強化に向けた提言」、そして試験的 (パイロット) 実施ではあるが、成果 2 のパイロットプロジェクト (コミュニティなどによる活動の継続) 3 つである。これらの持続性を、持続性を図る主な視点である、①政策・制度、②実施機関の組織・体制、③実施機関の技術、④実施機関の財務、⑤環境社会配慮の中で評価すると、OAR の持続的利用に関する懸念は②と④であり、具体的にはコンテンツを維持・更新を担当する要員の確実な確保である。④は各国分担金¹が原則のため、この変更は難しい。このため、現在の財務状況で実施できる対応として、本書の IV. 3 “SICA への提言” で、優先情報の選定とこの確保への集中や大学インターンなどの活用を提言している。提言の持続的利用の懸念は②である。具体的には、CCAD を中心に体制変更時に過去の成果が新要員に十分に伝わらず、地域環境戦略フレームワーク (ERAM) 2026-2030 の作成に活用、または含まれないリスクである。これについては、CCAD 海洋・生物多様性技術委員会のみならず交代が少なく、長期にわたり CCAD に勤務している秘書や調整員にも提言の内容を確実に伝えていくことなどでリスク軽減が可能と考えられる。最後に、パイロットプロジェクトの持続性については、コミュニティ住民や支援を担う政府職員の活動継続が必要であるが、継続を確約する約束等はなく、その多くが直接のカウンターパートではないこともあり、彼ら自身の自助努力に頼らざるを得ない状況である。以上より、OAR と提言の利用については比較的現実的な対策も存在するが、パイロットプロジェクトの継続については更なる働きかけが必要と考えられるため、本プロジェクトの持続性はやや低いとした。

2. プロジェクト実施と成果に影響を与えた主要要素

プロジェクト実施期間中に作成、提出された 7 つのモニタリングシートでの、以下の項目に基づき、プロジェクト実施と成果に負の影響を与えた要素とその影響、実行された対応策を下表に示す。

- 1-5 リスク要素の変化とこの軽減のためのアクション

¹ 各国が 2 万ドル/年を拠出が原則とされ、SICA 事務局長への聞き取りでは、各国にて分担金は適切に支払われているとのこと。一方、同金額は SICA 事務局メンバー 2 名と補助要員 1 名の給与や出張旅費、事務所経費等しかカバーされないため、分担金を 2 万ドル/年から 4 万ドル/年へ増加すべく協議をすすめているとのこと (2024 年 2 月時点) (日本語版のみ)。

- 1-6 JICA による対応の進捗
- 1-7 CCAD 事務局および CCAD 加盟各国による対応の進捗

プロジェクト実施と成果に影響を与えた要素と影響、対策

要素	負の影響	実行された対策と結果
SICA 加盟国での政権交代	政権交代による政府関連方針や要員の変更によるプロジェクト活動の遅延や変更。	政権交代時の都度、CCAD と JICA による新政権、要員へのプロジェクト内容・進捗の説明がなされた。要員交代は政権の有無に関わらず発生したが、上記と同様の対応が取られ、プロジェクトへの負の影響は、説明時間作業にかかる負担の増加など通常範囲内に抑えられた。
コロナパンデミックの発生	プロジェクト活動の遅延。 プロジェクト関係者間の関係構築・調整の遅延。	コロナパンデミックは 2020 年 3 月に発生、その後、2021 年 3 月まで専門家の緊急避難一時帰国が実施、エルサルバドルに再赴任後も 2021 年後半まで外出制限や規制が継続した。CCAD、と JICA 共に、遠隔会議の定期開催などを通じ、活動遅延やプロジェクト関係者間の調整不足の最小化を図った。この対策は一定の効果をもたらした。しかし、約 2 年にわたる現場での物理的作業の中断の影響は大きく、特に成果 2 のパイロットプロジェクトを中心にプロジェクト活動が遅延、同時に関係者間の関係構築・調整が大幅に遅延した事実は否めない。 JICA は上記のパイロットプロジェクト遅延を挽回するため、2022 年 6 月から日本人短期専門家（コンサルタント派遣）の追加投入を開始し、パイロットプロジェクトは無事に実施された。
円ドル為替変動	現地貨プロジェクト予算の目減りによる活動内容・規模の変更。	2022 年に入り大幅なドル高となり、円建てのプロジェクト経費はドルベースで大きく目減りし、この状況は多少の変動はありつつも、プロジェクト完了時まで継続した。JICA（プロジェクトチーム）は為替変動を見つつ柔軟にプロジェクト実施方法を見直し、大幅な活動の内容・規模の変更を回避した。なお、JICA は、契約締結後の契約金額の修正が難しい現地業者への再委託業務契約については、為替変動を考慮した予算追加を行った。

出典：プロジェクトチーム

3. プロジェクトリスク管理に関する評価

(1) リスク管理の結果

上記 2 “プロジェクト実施と成果に影響を与えた主な要素” に対し実行された対応は、同様に上記 2. に示すとおり。

(2) 教訓活用の結果

JICA が作成した本プロジェクト案件概要書に示される「過去の類似案件の教訓」と本プロジェクトでのこれらの活用結果を下表に示す。

「過去の類似案件からの教訓」と本プロジェクトでの活用結果

類似案件の評価結果	本プロジェクトへの教訓	本プロジェクトでの教訓活用結果
<p>ナレッジ教訓シート 5 (「モデル事業の普及展開」と仕組み)： プロジェクト完了後にその実施体制(必要な人員、予算、コミットメント)が伴わず、結果的に他地域への普及展開が進まないリスクが想定される。</p>	<p>モデル展開については、何がサイト固有(customized)の課題であり、何がサイトを越えた共通(commonized)の課題であるかをプロジェクトにおいて検討し、実施体制や予算も含めて域内への展開の道筋を明らかにするよう留意する。パイロットプロジェクトの選定や実施にあたっては、プロジェクト実施期間中より、持続性や適応可能性について留意し、SICA-CCAD と連携し、各国の意思決定者に理解を促していく。</p>	<p>本パイロットプロジェクトでは、計画から実施フェーズまで、カウンターパート組織関係者の取り込みを試みた。しかし、コロナパンデミックによる活動の停滞に加え、①各国のカウンターパートである CCAD 海洋・生物多様性技術委員会メンバーの SICA 業務への関与の弱さ(兼務かつ物理的な業務拠点は各国の首都にある)、②対象地域である国境地帯のアクセスの悪さ、③パイロットコミュニティが位置する緩衝地域、あるいはこの地域で行われる経済活動に関するカウンターパート(環境担当省庁)のプレゼンスや役割の低さなどもあり、取り込みが思うように進まなかった。このため、カウンターパートのプロジェクト継続・持続性に関する意識も十分醸成できていない。上記のうち、パンデミックや①、②は、管理や変更が難しくやむを得ない。しかし、③については、今後の生物多様性保全では、よりセクター横断的な対応が求められるという事実も踏まえると、本表の“ナレッジ教訓シート 12”で後述する COSELES の関連機関間調整の役割を環境省が担うといった対応が、プロジェクト持続性の確保のみならず、環境省のプレゼンスの拡大、同省が主役である保護区も含めた生態系全体のより効率的な保全活動展開のために重要である。</p> <p>以上より、いくつかの課題は残るものの、教訓の一部は活用され、かつカウンターパートと十分に共有されたと評価される。</p>
<p>ナレッジ教訓シート 9 (プロジェクト完了後の「資金確保」)： プロジェクト初期段階においてはプロジェクト期間中に必要な活動経費は JICA 側の支出支援もあり、先方負担予</p>	<p>パイロットプロジェクトでは、生物多様性の利用と保全のバランスを図る持続的な経済開発に資するビジネスモデルの構築に繋げることを主眼としており、これまで利用されていなかった自然資源</p>	<p>本プロジェクト・パイロットプロジェクトでは、住民の収入源創出と生物多様性保全の両立に焦点を当てた。この中で、例えば、トマト原種、蜂在来種など未利用資源の発掘やこの利用促進も試行された。また、ラ・アミスタのパナマ側コミュニティでは、プロジェクト参加住民グループを同国環境省のスキームである村落ベース組織(Organización base Comunitaria: OBC)とし</p>

類似案件の評価結果	本プロジェクトへの教訓	本プロジェクトでの教訓活用結果
<p>算は最低限に抑えられているが、プロジェクト完了後は、被援助国負担 100%となり、関係するいずれの機関からも実質的に必要経費が捻出されず、結果的に活動がストップもしくは停滞するリスクが想定される。</p>	<p>の利活用や収入源創出などの資金メカニズム構築に関連する活動を想定している。これらの活動により、プロジェクト終了後も、少なくとも一部の活動資金確保が継続されるような仕組みの構築を進めることに留意する。</p>	<p>て登録、民間環境保全ファンドに資金支援を依頼する動きを開始した。1年という限られた期間ということもあり、十分とは言えないが、上記のとおり、教訓の一部はプロジェクトで活用されたと評価される。</p>
<p>ナレッジ教訓シート 12 (「複数機関」のプロジェクトへの関与)： 複数セクター、複数の行政レベルを含む対策が必要であり、複数の関係機関との協議・調整が可能な意思決定の場/プラットフォームが必要。</p>	<p>SICA-CCAD の枠組みにおいて、加盟 8 カ国の環境省が活動することになり、意思決定の場/プラットフォームとしては、SICA-CCAD の既存の仕組み(大臣会合、フォーカルポイント委員会、地域技術委員会等)を活用することが必須となる。特に、本事業に関連する地域技術委員会である生物多様性技術委員会を協力開始後早期に召集するとともに、各国の担当者複数名ずつを確定し、これらの担当者とワーキンググループを構成して具体的な活動を開始していくように留意する。</p>	<p>日本側プロジェクトチームは、プロジェクト開始から完了まで、大臣会合や海洋・生物多様性技術委員会に参加、プロジェクトの重要な方針や活動の決定の場としても活用した。委員会メンバーが少数であることもあり、課題別ワーキンググループのようなサブ組織は形成されなかったが、大臣会合を通じ、各種意思決定は円滑に行われた。なお、パイロットプロジェクトは、農業などの経済活動が行われ、環境省以外の支援機関も存在する保護区緩衝地域も主な対象としたため、同様の状況、つまり、複数セクター、複数の行政レベルの取り込みが必要であった。これについては、ラ・アミスタのコスタリカ側コミュニティでのパイロットプロジェクトで良い経験が得られた。具体的には COSELES という農業省傘下の機関の存在とパイロットプロジェクトへの参加である。COSELES は、農村部支援について、関連機関および受益者間を調整、支援活動全体の効率化の役割を担う。本プロジェクトでは、COSELES を良例に挙げ、調整機関の設置を「越境生態系における生物多様性保全戦略の強化に向けた提言」に含めた。</p> <p>以上より、不完全な部分もあるが、教訓は活用され、かつ具体例と共にこの重要性がカウンターパートと十分に共有されたと評価される。</p>

出典：2014 年度テーマ別評価「評価結果の横断分析：森林・自然環境保全分野における実践的なナレッジ教訓の抽出」、プロジェクトチーム

4. 教訓

本プロジェクトの技術面の教訓と提言は、越境生態系における生物多様性保全戦略の強化に向けた提言に纏めた。このため、ここではプロジェクトの運営面に焦点を当てた教訓を示す。

<全体>

各成果や活動と要員役割・長所短所を考慮したカウンターパートの配置（日本語版のみ）

本プロジェクトには、非常に多くの関係者が存在するが、プロジェクト活動や対象地域の性質、それぞれの役割や立場の違い、更に、COVID による活動の制約（作業遠隔化などカウンターパートとの協働機会の減少）も影響あり、関係者の当事者意識の醸成は思うように進まなかった。CCAD は常勤職員が事務局長と秘書の2名のみで、国際会議への参加と大臣会合の開催等が主業である。カウンターパートとなる CCAD 海洋・生物多様性技術員会メンバーは、所属省庁での業務を主業とする兼務のため、CCAD との関わりは強いとは言えない。一方、パイロットプロジェクトに関係した環境省（または同等の省庁）の要員は地方事務所所属であり SICA との関係は薄い。更に、パイロットプロジェクトが対象とした農業や漁業など経済活動が盛んな緩衝地域では、環境省の存在感は薄く、活動参加も限定的であった。一方、農業や漁業関連省庁の要員は、受益者からの認知度も高く、活動に積極的な傾向が強かった。この教訓から、今後の支援では、海洋・生物多様性技術員会メンバーをチーフカウンターパートとし、その下に、成果と各要員の業務範囲や得意分野を考慮し選定した通常カウンターパートを配置する体制を構築し、指示系統と役割分担を明確にさせることが提案される。また、例えば GBF2030 年を構成する 23 のターゲットの一つなど、優先、焦点が当てられるテーマがある場合、これに対応したサブ部会の技術員会への設置も一案である。

オーナーシップ形成のための個人名によるカウンターパートの正式指名（日本語版のみ）

本プロジェクトでは、カウンターパートへのオーナーシップの形成が十分になされたとは言えなかった。個人名によるカウンターパートの指名は必須事項では無いものの、それを行うことで当事者意識醸成の不足を補うことが考えられる。例えば、本プロジェクトでは頻繁なメンバー交換も影響し、新たな CCAD 海洋・生物多様性技術員会メンバーにはプロジェクト側から十分な説明を行うことができず、自身の立場をオブザーバーと捉えていた者もいた。それにより、海洋・生物多様性技術委員会や各組織で指名された現場の個人が、自分自身がプロジェクトのカウンターパートであると十分に認識するには不足があったと考えられる。このような事象を避けるために、例えば他プロジェクトでは、役職名に加え必要に応じて個人名を入れたカウンターパートリストを作成し、JCC で承認・更新し、個人名の要員の当事者意識を醸成している事例もある。対象や関係者が多岐、広範囲に渡る地域案件では、同様の個人名を入れたカウンターパートリストの作成と JCC によるその承認、さらにはリストの当事者への周知がカウンターパートへのオーナーシップ形成に効果的と考えられる。

合同調整委員会（JCC）の開催方法と開催支援（英語版記述内容調整有り）

本プロジェクトでは、6 カ月毎に行われる CCAD 大臣会合の一部として JCC が開催された。また、会合開催費用の支援を行った。この方法は、行政トップである大臣へのプロジェクト活動報告、適切な意思決定という点では効果的であった。しかし、JCC が数多くの会合議題の1つになってしまうため、時間配分の制約や集中力の不足により十分な議論ができず、委員会の本来の目的が形骸化するという欠点があった。また開催費用支援では、会合場所やプログラム、参加者出欠の確認が遅く、変更も繰り返される傾向が強く、この結果、予算措置や予約の変更にも多大な労力を費やした。これは、JICA 会計システムの

制約が CCAD 側に十分に伝わっていなかったことも一因である。以上より、今後の支援においては、JCC は大臣会合から分離、単独会議とする、参加者も CCAD 海洋・生物多様性技術員会メンバーとし、議論を充実させるのが良いと考えられる。また、JICA による開催支援はプロジェクトにとって最も重要なプロジェクト開始と最終時の JCC 開催時の技術委員会のみ対象とすることを基本とし（国際舞台でのプロジェクトのアピールを勘案すると、CCAD 事務職メンバーに限り、サイドイベント等はプロジェクト発表の実施を条件に、COP 参加経費を支援するのも一案である）、更に、会計システムに沿った支援条件をあらかじめ CCAD と JICA で公式に確認しておくことを提言する。

<現場レベル>

支援地までの距離

本件パイロットプロジェクトは、主要カウンターパートの勤務地である首都からパイロットプロジェクト対象コミュニティまでの陸路移動が、片道 1 時間のベリーズ、2 時間ホンジュラスを除き、5 から 9 時間と遠く、首都に勤務するカウンターパートの取り込みや、これにも付随する活動宣伝の難易度増の一因となった。越境生態系が対象のため、この状況は当初より周知であり、また、距離で支援対象地域を選定することは適切ではないが、協力のコアとなる協働、また活動宣伝の重要性も考慮すると、越境のような遠地で活動を実施する際は、現場での活動に加えできる限り首都に近い場所での協働や宣伝活動を組み合わせると良いと考えられる。

多様なステークホルダーの価値観と公正性に配慮した案件形成

生物多様性保全では、保護する側の政府のみならず自然資源の直接的利用者である農家や漁師など、幅広い地域のマルチセクターに存在する様々なステークホルダーとの調整が必要であり、これらの間での公平性の確保が効果的な保全に不可欠である。本プロジェクトのパイロットプロジェクトでも散見されたが、計画策定プロセスの透明性の不足と、これによる計画の内容や受益者の偏向が、不公平感を生じさせることがある。一方で、各々のステークホルダーの関心事や立場への過度の配慮は、本来の目的にズレを生じさせることもある。このため、計画策定は、まずは対象地域の生物多様性保全上の課題を正確に把握、本来の目的を十分に絞りこみ、この上で、関連する様々なステークホルダーと十分なコミュニケーションを取り合う必要がある。

対象コミュニティの文化や風習を勘案した支援方法の設定

各パイロットプロジェクトコミュニティは異なる特性を有している。この違いは生態系共有意識の違いと同時に、異なる支援方法の必要性も生んでいる。グアテマラ、ベリーズ、ニカラグアの比較的新しい移民コミュニティかつ所得水準が低いコミュニティで、結束力や活動参加意欲が高く、一方で、パナマやコスタリカのように所得水準が高い地域ではコミュニティの結束力が弱い傾向にあった。プロジェクト活動が可能な時間も、前者でオプションが多いが、後者では週末の 2 時間などオプションが非常に限られていた。この違いに対応するため、パイロットプロジェクトでは、例えば研修について、結束力の強いコミュニティでは集団研修、反対のケースでは個人訪問を重視する方法を採用した。生産活動についても、組織として行うケースと、組織化は進めるが生産は個々で実施するケースを設定するなど幅を持たせた。支援方法はこのような社会・経済特性を十分反映して設定する必要がある。

ローカルリソースの有効活用による息の長い支援の実現

息の長い支援の実現のため、政府の技術者などローカルリソースの積極活用が重要である。また、支援

資材の確保、受益組織の財政的自立や組織参加のモチベーションを促すためにも、支援には組織としての資金アクセス方法を含むのが良いと考えられる。環境保全、これと深い関連を有する農業や漁業など第一次産業は、生産サイクルが長く、活動の反復に時間を要し、更には降雨や気温など気象の影響を受けやすいため、その対象が技術の場合でも組織の場合でも、新規導入や改善には長い時間を有する。このため、支援は、政府機関の技術者や既存プログラムを有効活用した、5年から10年の息の長い形が望まれる。エルサルバドルとホンジュラスによるフォンセカ湾での貝養殖のパイロットプロジェクトでは、過去に JICA が支援したエルサルバドル国養殖センターで生産した稚貝を両国で利用した。そして、コスタリカとパナマのラ・アミスタのパイロットプロジェクトでは、プロジェクトチームは資材を提供、技術指導は、コスタリカでは国家コーヒー協会（ICAFFE）や公衆衛生局（SENASA）、パナマ側では農業農村開発省（MIDA）やパナマ高等研究機構（INDICASAT）の技術者が行う方法でプロジェクトを運営した。多くの技術者は、現場実践経験が豊富で、農家とのネットワーク、信頼を有する要員であったという幸運もあり、多くの研修で、一般事項の指導に留まらず、個々の生産者の違いを考慮した丁寧な指導が見られた。なお、養蜂指導では、WhatsApp パイロットプロジェクトグループによる情報交換や質疑応答が非常に盛んに行われ、安価で迅速かつ細やかな技術指導に結び付いた。パイロットプロジェクトは僅か1年であったが、これら技術者は、プロジェクト終了後もこの地域で活動を継続するため、細くとも息の長い支援の実現が期待される。

5. パフォーマンス

プロジェクト関係者が果たした特筆すべき対応や貢献（パフォーマンス）としては、まずは“個々の関係者の状況に対する理解”が挙げられる。教訓にも示した通り、①本プロジェクトは対象地域とカウンターパート機関が8か国の多岐に渡る、②それぞれの国のカウンターパートが本職との兼務である、③パイロットプロジェクト対象地域が遠地にある、④コロナパンデミックによる現場活動が長期にわたり制約されるなど、関係者間の関係構築が非常に困難であった。実際、通常の二か国間の案件と比較し、関係者間の調整や協働は薄いものになったが、このような中でも、個々の関係者が状況を理解、不満や不和を起さずできる範囲で対応したと考える。次に、特にラ・アミスタでの非カウンターパート機関であるコスタリカコーヒー協会やパナマの農牧開発省など政府機関によるパイロットプロジェクト実施支援が挙げられる。これら機関は自身の交通費なども負担、複数回に渡る技術研修や受益者個別訪問を実施、プロジェクトの円滑な運営に大きく貢献した。

6. 追加性

目標や成果などに掲げられない本プロジェクトの追加的な価値としては、8か国の異なる村落でのパイロットプロジェクトの実施が挙げられる。類似性が高いと思われる生態系や村落でも個々に異なる社会経済自然面での特性を有している。8か国でのプロジェクト並行実施で比較が容易になり、より明確かつ幅広くこの特性およびその違いを観察できた。プロジェクト運営面では8か国同時でのプロジェクト実施は難易度が高いものであったが、一方で、上記のとおり、現場分析で非常に重要となる観察眼を養う上で非常に有効であった。

IV. プロジェクト完了後の上位目標達成見込み

1. 上位目標達成の見込み

本プロジェクトの上位目標と指標は以下に示す通りである。

上位目標	指標
SICA 地域における生物多様性保全と持続可能な利用に関する地域の制度的枠組み及びガバナンスが強化される。	地域情報プラットフォームの情報とデータベースを活用して、地域環境戦略フレームワーク (ERAM) が改訂される。

出典：プロジェクトPDM

現行 ERAM は 2021 年から来年 2025 年であるため、現時点での改訂は効率的ではないことから、指標の ERAM は次期 ERAM と理解するのが適切である。プロジェクトで設置した地域情報プラットフォームである OAR の情報とデータベース、このコンテンツとなる越境生態系における生物多様性保全戦略の強化に向けた提言（添付 2）は、昆明・モンテリオール世界生物多様性枠組（GBF）など生物多様性保全にかかる世界の潮流を十分に意識したものである。従い次期 ERAM 策定で OAR や提言が活用される可能性は高い。

2. 上位目標達成に向けた SICA の体制と実施計画

上位目標達成に向け、SICA に特別の体制や実施計画を準備する必要はないが、OAR コンテンツの維持管理・更新体制の強化、過去の経験や提言の円滑な認識・共有のための CCAD 海洋・生物多様性技術委員会の定期的開催の 2 点が必要と考えられる。定期開催は、OAR コンテンツ作成材料（情報）の定期的入手にも有効である。このための、留意点、提言は後述 3. に示す。

3. SICA への提言

上記 2. のとおり、上位目標達成には、OAR コンテンツの維持管理・更新体制の強化と CCAD 海洋・生物多様性技術委員会の定期的開催の 2 点が必要と考えられる。前者については、掲載情報の厳選によるコンテンツ維持管理の簡易化や大学インターンの有効活用、後者については、6 カ月毎の委員会開催担当国の変更を考慮、技術員会開催の義務化・活性化と共に、議題を標準化による担当国の開催準備作業負担の軽減を提言する。具体的な内容を以下に示す。

<CCAD 情報共有機能の強化>

現在、OAR コンテンツの運営・維持管理担当者は不在であり、コンテンツアップデートは各ドナー（GIZ など）の個別投稿に留まっている。主因は人員不足であるが、短期的な要員追加は難しいため、各国や各プロジェクトの有用情報や材料の集積の場としての OAR 強化に専念することを提言する。具体的には、①実施済み・実施中・実施予定プロジェクト情報、②ドナー等による能力強化研修情報、③各国、プロジェクト有用教材、④各国・各国環境関連法規・プログラム新設・更新情報、⑤iNaturalist を用いた生物多様性モニタリングデータなどである。また、担当要員として大学インターンの活用も現実的な案と考えられ、インターン学生の参加意欲を高めるため、提携大学とのインターン単位認定制度の設定なども検討に値する。

<CCAD 技術委員会定期開催化・議題の標準化>

CCAD 海洋・生物多様性技術委員会は、主に各国の環境省管理職技官で構成され、コーディネーターは、CCAD 事務局のコンサルタントが担当している。委員会は CCAD の技術面で重要な役割を担うが、定期的活動や会合が無い場合、その役割を効果的に発揮できているとは言えない。この改善のため、技術委員会の定期開催化と議題の標準化を提言する。具体的には半年に 1 度、CCAD 議長国がコーディネーターとなり委員会を開催する事とし、議長国交代の度に議題が変わらないよう、また、上記の OAR コンテンツの確保も考慮し、例えば、以下が標準議題として提言される。

- (1) 実施済み・実施中・実施予定プロジェクト情報

- (2) ドナー等による能力強化研修情報
- (3) 各国・各国環境関連法規・プログラム新設・更新情報
- (4) ERAM 進捗モニタリング
- (5) iNaturalist を用いた生物多様性モニタリング状況
- (6) 国際会議参加状況・結果

(2) については、各ドナーを会議に招集し、相互の情報、意見交換をすることにより、地域全体としてより効率・効果的な活動実施に繋がると考える。また、MS チームスなど遠隔ツールを利用、1-2 時間程度の簡易の委員会の頻度高く開催することも、委員会の調整機能強化のために重要と考える。

4. プロジェクト完了後に行うべきモニタリング

プロジェクト上位目標の指標「地域情報プラットフォーム (OAR) の情報とデータベースを活用して、地域環境戦略フレームワーク (ERAM) が改訂される。」の達成には、OAR の持続的運用、コンテンツの維持・更新が必須であり、CCAD 事務所局長や秘書によるこの定期的モニタリングが必要である。なお、CCAD 事務局長によると、次期 ERAM (2026-2030) の作成は 2024 年第三四半期ごろから開始される。

添付1：プロジェクト結果

派遣専門家リスト

本文参照。

カウンターパートリスト

本文参照。

研修リスト（日本語）

分類	期間	研修名	開催地	参加国	参加人数	概要(研修目的)	主催者名	SICA生物多様性プロジェクトの貢献		評価アンケート有無(プロジェクトの貢献があった研修のみ)
								開催、開催支援	講義・発表	
プロジェクト主催ワークショップ	2019年9月11日～13日	CCAD海洋・生物多様性技術委員会プロジェクトワークショップ(第1回)	サンサルバドル	SICA加盟国	-	JICA案件、他ドナーの生物多様性保全案件の実施状況の共有、CBD生物多様性条約の対応など	プロジェクト	○	○	×
課題別研修	2019年10月1日～12月4日	生物多様性保全のためのGIS・リモートセンシング・情報システム及び住民参加コース	JICA帯広	ホンジュラスを含む6か国	7名	GIS・リモートセンシング・データベース・調査、住民参加を促す手法や考え方を学び、自国での実践の基礎とすることを目的とする	JICA	×	×	×
パナマ第三国研修	2019年10月6日～26日	エコシステムベースの参加型流域管理(2019年度)	パナマ	11か国(ベリーズ、ボリビア、コロンビア、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス、ニカラグア、ウルグアイ、パナマ)	18名	過去27年に渡り日本とパナマが環境保全分野で実施してきた協力の成果を中南米地域の参加対象国に伝え組織横断的な流域管理手法の実践について学びを深めることにより、各国の流域管理に関わる人材の能力強化及び域内の生態系保全と持続的な流域管理活動の体制確立を目指すもの	パナマ環境省	○	×	○
課題別研修(西語特設)	2019年10月27日～11月30日	保護地域協働管理を通じた生態系保全(2019年度)	コスタリカおよびJICA帯広	11か国(アルゼンチン、ベリーズ、コスタリカ、ドミニカ共和国、エクアドル、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス、ニカラグア、パナマ、ペルー)	13名	(大澤専門家が同行)日本の地域制自然公園の管理手法に加えて、自然との共生社会を目指す日本の里山・里海の理念・活動を理解し、民間参加型あるいは地域住民の主体的な参加(協働)による効果的な保護地域管理(保全活動/普及啓発)と自然資源の持続的利用(エコツーリズムなど)のための知識と教訓を習得する	JICA	○	○	○
課題別研修	2020年1月11日～15日	自然環境行政官のためのエコツーリズム	遠隔(JICA帯広)	ホンジュラスを含む4か国	4名	地域の自然・文化資源の保全とその持続的利用を可能にするツールとして、地元住民が参画するエコツーリズムの施策を学ぶ	JICA	×	×	×
課題別研修(西語特設)	2020年2月1日～5日	生態系を活用した防災・減災(Eco-DRR)による埋地と周辺地域の生態系保全と流域管理と地域開発	遠隔(JICA帯広)	8か国(ベリーズ、コスタリカ、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス、パナマ、パラグアイ、ペルー)	8名	自然災害が頻発する中南米諸国の行政官等が、日本の事例を参考に社会や経済の持続的な発展のため、グリーン経済促進と防災・減災について包括的かつ持続的な行動計画を策定するための能力向上を目指す	JICA	×	×	×
青年研修	2020年2月	中南米「自然環境保全」コース	JICA横浜	ベリーズを含むカリブ海諸国7か国	13名	JICA青年研修事業	JICA	×	×	×
プロジェクト主催ワークショップ	2020年3月3日～5日	CCAD海洋・生物多様性技術委員会プロジェクトワークショップ(第2回)	ホンジュラス	SICA加盟国	-	JICA案件、他ドナーの生物多様性保全案件の実施状況の共有、CBD生物多様性条約の対応など。ホンジュラスのラ・ウニオン生物回廊を視察。	プロジェクト	○	○	×
パナマ第三国研修	2020年11月17日～21日	エコシステムベースの参加型流域管理(2020年度)	遠隔	10か国(エクアドル、ボリビア、コロンビア、コスタリカ、キューバ、パラグアイ、グアテマラ、ホンジュラス、ニカラグア、パナマ)	25名	過去27年に渡り日本とパナマが環境保全分野で実施してきた協力の成果を中南米地域の参加対象国に伝え組織横断的な流域管理手法の実践について学びを深めることにより、各国の流域管理に関わる人材の能力強化及び域内の生態系保全と持続的な流域管理活動の体制確立を目指すもの	パナマ環境省	○	×	○
課題別研修(西語特設)	2021年2月8日～18日	生態系を活用した防災・減災(Eco-DRR)による埋地と周辺地域の生態系保全と流域管理と地域開発	遠隔(JICA帯広)	9か国(ベリーズ、コスタリカ、エルサルバドル、ニカラグア、ホンジュラス、パナマ、ペルー、エクアドル、コロンビア)	18名	自然災害が頻発する中南米諸国の行政官等が、日本の事例を参考に社会や経済の持続的な発展のため、グリーン経済促進と防災・減災について包括的かつ持続的な行動計画を策定するための能力向上を目指す	JICA	×	×	×
プロジェクト主催ワークショップ	2021年5月19日	CCAD海洋・生物多様性技術委員会プロジェクトワークショップ(第3回)	遠隔	SICA加盟国	-	JICA案件、他ドナーの生物多様性保全案件の実施状況の共有、CBD生物多様性条約の対応など	プロジェクト	○	○	×
課題別研修	2021年8月17日～31日	自然環境行政官のためのエコツーリズム	遠隔(JICA帯広)	ホンジュラスを含む5か国	7名	地域の自然・文化資源の保全とその持続的利用を可能にするツールとして、地元住民が参画するエコツーリズムの施策を学ぶ	JICA	×	×	×
プロジェクト主催ワークショップ	2021年9月6日	CCAD海洋・生物多様性技術委員会プロジェクトワークショップ(第4回)	遠隔	SICA加盟国	-	JICA案件、他ドナーの生物多様性保全案件の実施状況の共有、CBD生物多様性条約の対応など	プロジェクト	○	○	×
パナマ第三国研修	2021年10月12日～16日	エコシステムベースの参加型流域管理(2021年度)	パナマ	9か国(エクアドル、ボリビア、コロンビア、コスタリカ、ペルー、グアテマラ、エルサルバドル、ニカラグア、パナマ)	18名	過去27年に渡り日本とパナマが環境保全分野で実施してきた協力の成果を中南米地域の参加対象国に伝え組織横断的な流域管理手法の実践について学びを深めることにより、各国の流域管理に関わる人材の能力強化及び域内の生態系保全と持続的な流域管理活動の体制確立を目指すもの	パナマ環境省	○	×	○
プロジェクト主催ワークショップ	2022年2月14日～15日	CCAD海洋・生物多様性技術委員会プロジェクトワークショップ(第5回)	パナマ	SICA加盟国	-	JICA案件、他ドナーの生物多様性保全案件の実施状況の共有、CBD生物多様性条約の対応など	プロジェクト	○	○	×
オンライン研修	2022年3月15日～5月9日	参加型生物多様性保全コース(53時間)	遠隔	SICA加盟国	34名	中米地域およびドミニカ共和国のための参加型生物多様性保全に関する専門家向け研修コース	プロジェクト	○	○	○
地域セミナー	2022年4月5日～6日	保護地域以外で生物多様性保全に資する地域(OECM)	パナマ	SICA加盟国	-	CCAD技術委員会および第1回SICA地域森林・持続可能な景観大会にて本部長谷川専門員による講演	CCAD	○	○	×
ドナー間共催技術ワークショップ	2022年10月11日～12日	農業、林業、その他土地利用(AFOLU)	サンサルバドル	SICA加盟国	-	JICA案件の情報共有、参加ドナー:FAO, CATIE, IICA, CRS, GIZ, WRI, JICA, IUCN	ドナー共催	×	○	×
課題別研修(西語特設)	2022年11月21日～12月13日	保護地域協働管理を通じた生態系保全(2022年度)	JICA帯広	8か国(コスタリカ、キューバ、ドミニカ共和国、グアテマラ、ホンジュラス、ニカラグア、パラグアイ、ペルー)	9名	(本館田中職員が遠隔でプロジェクト発表)日本の地域制自然公園の管理手法に加えて、自然との共生社会を目指す日本の里山・里海の理念・活動を理解し、民間参加型あるいは地域住民の主体的な参加(協働)による効果的な保護地域管理(保全活動/普及啓発)と自然資源の持続的利用(エコツーリズムなど)のための知識と教訓を習得する	JICA	○	○	○

分類	期間	研修名	開催地	参加国	参加人数	概要(研修目的)	主催者名	SICA生物多様性プロジェクトの貢献		評価アンケート有無(プロジェクトの貢献があった研修のみ)
								開催、開催支援	講義・発表	
地域セミナー	2023年4月20日	保護地域以外で生物多様性保全に資する地域(OECM)	ベリーズ	SICA加盟国	-	CCAD第2回環境会議でのAFOLUセッションにて本部長谷川専門員によるパネルディスカッション発表	CCAD	○	○	×
地域環境情報プラットフォーム(OAR)検討会	2023年5月9日	検討会1:各国の取組み紹介(コスタリカ、グアテマラ、パナマ)	遠隔	SICA加盟国	18名	コスタリカ、グアテマラ、パナマの生物多様性モニタリングの事例紹介	プロジェクト	○	○	○
国別研修	2023年5月28日～6月10日	エルサルバドル他7か国北米・中南米地域SICA地域における生物多様性の統合的管理と保全に関する能力強化プロジェクト	JICA東京	SICA加盟国	10名	(CCAD事務局長、技術委員会コーディネーター及び各国構成メンバー)持続可能な景観の代表例である森里川海、準保護区(OECM)、保護林・緑の回廊、生物圏保存地域(MAB)のゾーニング、SICA地域環境オブザーバトリー(OAR)の参考例となる生物多様性情報システム及びバーコーディングについて学び、グループ作業で研修成果を盛り込んだ次期CCAD地域環境戦略フレームワーク(ERAM)2025-2030の骨子案を作成する	JICAおよびプロジェクト	○	○	○
地域環境情報プラットフォーム(OAR)検討会	2023年10月11日	検討会2:iNaturalist(導入編)	遠隔	SICA加盟国	19名	iNaturalistを活用した生物多様性モニタリングの紹介、外部講師:Julio Cesar Acosta(鳥類観察専門家)	プロジェクト	○	○	○
課題別研修(西語特設)	2023年10月12日～11月21日	湿地生態系における自然を活用した社会課題の解決(ネイチャー・ソジティブな社会の実現に向けて)	JICA帯広	6か国(コスタリカ、ドミニカ共和国、グアテマラ、ニカラグア、パナマ、ベール)	-	銅湖湿原を中心として湿地生態系のもたらす便益に着目し、様々な社会課題(自然災害の防災・減災、水の安全保障、生態系保全、農業・水産、気候変動対策(泥炭地保全含む)等)へのNBSの事例を学び、途上国の行政官等がNBSによる自国の社会課題解決策を計画する能力向上を目指す	JICA	×	×	×
課題別研修	2023年11月6日～12月7日	生物多様性国際目標に向けた沿岸・海洋生態系保全管理	JICA沖縄	ベリーズを含む	13名	沿岸・海洋生態系を対象とし、日本の地域制自然公園の管理手法に加えて、自然との共生社会を目指す日本の里山・里海の理念・活動を理解し、民間参加型あるいは地域住民の主体的な参加(協働)による効果的な保護地域管理(保全活動/普及啓蒙)と自然資源の持続的利用(エコツーリズムなど)のための知識と教訓を習得する	JICA	×	×	×
地域環境情報プラットフォーム(OAR)検討会	2023年12月12日	検討会3:iNaturalist(実践編)	遠隔	SICA加盟国	16名	フォンセカ高:長濱専門家、尾崎専門家によるiNaturalist事例紹介、外部講師:Michelle Monge(Naturalista Costa Rica)	プロジェクト	○	○	○
コスタリカ第三回研修	2024年2月4日～18日	保護地域における参加型ガバナンスとエコツーリズムの協働能力の強化	コスタリカ	SICA加盟国およびコロンビア、エクアドル、ベール	15名	コスタリカSINACによる主催、プロジェクト発表	コスタリカSINAC	○	○	○
プロジェクト主催ワークショップ	2024年2月6日	プロジェクト最終セミナー	ホンジュラスラ・セイバ	SICA加盟国	32名	CCAD技術委員会メンバー、パイロットプロジェクトCP、JICA関係者を対象にしたプロジェクトの結果共有と政策提言	プロジェクト	○	○	×
オンライン研修	2024年2月14日	森から世界を変えるプラットフォーム「生物多様性」	遠隔	SICA加盟国JICA拠点事務所	20名	ベール事務所(西村所長)の主催、主に事務所NS向けのプロジェクト発表	JICAおよびプロジェクト	○	○	×

添付 2: 成果品

越境生態系における生物多様性保全戦略の強化に向けた提言（スペイン語、日本語要約）



Desarrollo de Capacidades
en Manejo y Conservación
Integral de la Biodiversidad
en la Región SICA



CCAD

COMISIÓN CENTROAMERICANA DE AMBIENTE Y DESARROLLO



Agencia de Cooperación
Internacional del Japón



Recomendaciones para fortalecer las estrategias de conservación sostenible de la biodiversidad en los ecosistemas transfronterizos

CAPÍTULO 1: INTRODUCCIÓN.....	3
CAPÍTULO 2: OBJETIVOS DE LAS RECOMENDACIONES, MÉTODO DE ELABORACIÓN Y ESTRUCTURA...4	
2.1 Objetivos de las recomendaciones.....	4
2.2 Metodología para la elaboración de las recomendaciones.....	4
2.3 Estructura de las recomendaciones.....	6
CAPÍTULO 3: RECOMENDACIONES.....	7
3.1 Resumen de las recomendaciones.....	7
3.2 Explicación de las recomendaciones.....	13
 ADJUNTO	
Relación entre las Recomendaciones y Metas Mundiales para 2030 del Marco Mundial de Biodiversidad de Kunming-Montreal.....	23
Metas Mundiales para 2030 del Marco Mundial de Biodiversidad de Kunming-Montreal	24

Este documento fue elaborado en febrero de 2024 por el Equipo del Proyecto de Desarrollo de Capacidades en manejo y conservación integral de la Biodiversidad a nivel regional en la región de SICA.

CAPÍTULO 1 INTRODUCCIÓN

El Convenio sobre la Diversidad Biológica (CDB) define la diversidad biológica como "los ecosistemas, las especies y la diversidad genética". Existen dos enfoques para la conservación de la biodiversidad: 1) la conservación in situ, cuyo objetivo es mantener las especies dentro de su hábitat original, y 2) la conservación ex situ, cuyo objetivo es mantener los individuos en un hábitat distinto al de origen. La conservación in situ, requiere el mantenimiento de la biodiversidad en un entorno (Ecosistema) con una variedad de usos diferentes de la tierra, lo que exige no sólo la conservación sino también diferentes actividades, y el establecimiento de un mecanismo de gobernanza de la gestión integral entre sectores y partes interesadas, es decir, un sistema de coexistencia y trabajo en colaboración intersectorial.

El CDB ha establecido un marco internacional para la conservación de la biodiversidad: en la 15ª Conferencia (COP15), celebrada en Montreal (Canadá) en diciembre de 2022, donde se adoptó el Marco Mundial de Biodiversidad de Kunming-Montreal (GBF) como nuevo objetivo mundial para 2030. Como objetivo de acción, el marco establece la meta "30 por 30" cuyo fin es conservar al menos el 30% de cada una de las zonas terrestres y marinas, se identificaron explícitamente las herramientas de aplicación, incluidas Otras Medidas Eficaces de Conservación basadas en Áreas (OMECA), que son zonas distintas a las tradicionales áreas silvestres protegidas, pero que igualmente contribuyen a la conservación de la biodiversidad. El GBF también hace hincapié en el trabajo de colaboración, destinado a garantizar la continuidad mediante iniciativas a escala regional, no sólo dentro de un país, sino también entre varios países y por parte de distintos sectores.

La región Centroamericana alberga el 8% de la biodiversidad mundial, pero su pérdida debido a la degradación ecológica es un grave problema. Por ello, el Sistema de la Integración Centroamericana (SICA) ha creado la Comisión Centroamericana de Ambiente y Desarrollo (CCAD) para dirigir la política medioambiental de la región, que contribuye a la conservación y uso sostenible de la biodiversidad en la región del SICA, bajo su propia estrategia de acción ambiental regional, la Estrategia Ambiental Regional Marco (ERAM) (2021-2025).

Además, la Convención de Ramsar, el Programa sobre el Hombre y la Biosfera de la UNESCO (Programa MAB) y la Convención del Patrimonio Mundial, se utilizan ampliamente como marcos internacionales eficaces y como herramientas prácticas para los mecanismos de gobernanza a través de la gestión integral. Uno de los mejores ejemplos de esta área del SICA es El Plan Trifinio, una Reserva de la Biosfera transfronteriza de la UNESCO (RBT) entre los tres países de Guatemala, El Salvador y Honduras. El Plan Trifinio funciona como un sistema tripartito de gestión de la biosfera y se considera un buen ejemplo de la aplicación concreta del concepto de Corredor Biológico Mesoamericano (CBM), que se puso en marcha con el apoyo del Banco Mundial y otros donantes.

CAPÍTULO 2

OBJETIVOS DE LAS RECOMENDACIONES, MÉTODO DE ELABORACIÓN Y ESTRUCTURA

2.1 Objetivos de las recomendaciones

El objetivo de estas recomendaciones es orientar al SICA-CCAD y a los ministerios responsables de los ocho países miembros, para fortalecer la conservación sostenible de la biodiversidad en los ecosistemas transfronterizos de la región del SICA. El CDB recomienda que las organizaciones multilaterales regionales, desarrollen Estrategias y Planes de Acción Regionales sobre Biodiversidad (EPARB)¹, en los que el SICA-CCAD tiene un papel importante que desempeñar en Centroamérica. Por lo tanto, un objetivo específico de las recomendaciones es contribuir a la revisión de la actual ERAM, o a la preparación de la próxima ERAM y a la preparación de Estrategias Regionales de Biodiversidad en línea con el CDB-GBF.

2.2 Metodología para la elaboración de las recomendaciones

La Agencia de Cooperación Internacional de Japón (JICA) y el SICA-CCAD, implementaron el Proyecto de Desarrollo de Capacidades en manejo y conservación integral de la Biodiversidad a nivel regional en la región de SICA. (2019-2024). El proyecto se compone de tres resultados sobre gestión de la biodiversidad; resultado 1: creación de una plataforma regional de información; resultado 2: difusión de prácticas y lecciones para el desarrollo sostenible; y resultado 3: fortalecimiento de la capacidad de los recursos humanos. Las recomendaciones se elaboraron a partir de los resultados y las lecciones aprendidas de cada resultado, centrándose en los proyectos piloto ejecutados para los ecosistemas transfronterizos del cuadro siguiente, además del análisis del resultado 2.

Ecosistemas seleccionados para el Proyecto Piloto

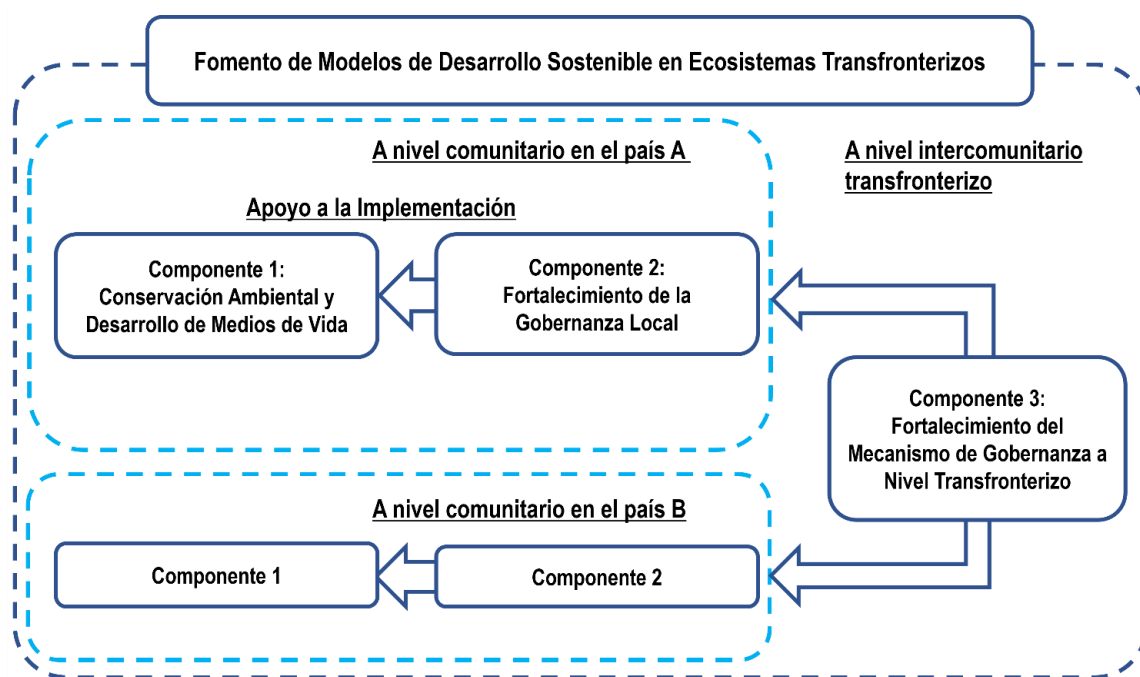
Ecosistema Transfronterizo	Países	Categoría
Selva Maya	Guatemala, Belice	Áreas protegidas nacionales (una parte, por país)
Golfo de Fonseca	El Salvador, Honduras, Nicaragua.	Áreas protegidas nacionales (una parte, por país)
La Amistad	Costa Rica, Panamá	Sitios del Patrimonio Mundial (binacional), Reservas Biosferas (RB) (por país), Áreas protegidas nacionales (una parte)
Montecristi	República Dominicana (colindante con Haití, país no miembro del SICA)	Áreas protegidas nacionales (por país)

Fuente: Equipo del Proyecto

El uso sostenible y la conservación y utilización de los ecosistemas requieren actividades de producción

¹ UNEP/CBD/COP/DEC/X/2 ([COP Decision \(cbd.int\)](http://www.cbd.int/decision/cop/))

respetuosas con el medio ambiente y una gestión adecuada de la tierra a través de mecanismos de gobernanza. Como se muestra en el siguiente diagrama, el proyecto piloto consiste, por tanto, en "actividades de producción respetuosas con el medio ambiente a nivel comunitario", apoyadas por "mecanismos de gobernanza de los ecosistemas a nivel comunitario" y "mecanismos de gobernanza de los ecosistemas intercomunitarios" que vinculan a las comunidades transfronterizas para mantener la conectividad ecológica. Mediante su fortalecimiento, el proyecto pretendía fomentar y fortalecer el modelo de desarrollo sostenible de los ecosistemas transfronterizos. Como se indica en la introducción sobre la conservación de los ecosistemas, es importante establecer mecanismos de gobernanza que gestionen de forma integral los ecosistemas entre los distintos usos, sectores y partes interesadas. Por este motivo, el proyecto piloto hizo hincapié en los enfoques integrados, inclusivos y adaptativos de la participación de las partes interesadas, por ejemplo, la toma de decisiones de abajo hacia arriba.



Fuente: Equipo del Proyecto

Estructura del Proyecto Piloto

2.3 Estructura de las recomendaciones

Las recomendaciones comprenden cuatro temas, basados en una tipología de lecciones aprendidas derivadas principalmente de los proyectos piloto: (i) "Fortalecimiento de los mecanismos de gobernanza de los ecosistemas" en un nivel organizacional superior, (ii) "Fortalecimiento de las actividades de producción respetuosas con el medio ambiente" y (iii) "Fortalecimiento de la participación y colaboración de las partes interesadas" sobre el terreno, y (iv) "Fortalecimiento de las funciones de la CCAD" a nivel del sistema de apoyo. Debe tenerse en cuenta que el proyecto piloto se centró en zonas no protegidas de ecosistemas transfronterizos, por lo que las recomendaciones también se centran en los ecosistemas transfronterizos, pero hay muchos aspectos que también son útiles para las zonas

protegidas y los ecosistemas no transfronterizos.

CAPÍTULO 3 RECOMENDACIONES

3.1 Resumen de las recomendaciones

A continuación, se ofrece un resumen de las recomendaciones y su relevancia para los Objetivos 2030 del Marco Mundial de Biodiversidad Kunming-Montreal. Un mayor detalle se muestra en el apéndice adjunto.

Resumen de las Recomendaciones

Recomendaciones		Objetivos correspondientes del GBF*1
Recomendaciones para fortalecer los mecanismos de gobernanza de ecosistemas		
1) Uso y aplicación de marcos internacionales de conservación adecuados a las características de cada ecosistema	Deben seleccionarse y adoptarse métodos adecuados a cada situación, en particular las características ecológicas dentro de los ecosistemas transfronterizos y el entorno socioeconómico, incluidas las relaciones diplomáticas entre los países pertinentes. El marco internacional de conservación, como las Reservas de la Biosfera (RB) de la UNESCO, que permite la designación regional, puede ser una forma eficaz de aplicar la gestión del paisaje en varios países, para la conservación de la biodiversidad local.	1, 2, 3
2) Aumento del valor y las ventajas de la zona de amortiguamiento de la RB y otras zonas alrededor de las áreas protegidas	Es importante fortalecer los incentivos de conservación para la población local y mejorar las funciones de conservación de los ecosistemas, potenciando los valores locales y las ventajas relacionadas con el uso de la tierra, como en las zonas de amortiguamiento de las RB, mediante la promoción de sistemas de certificación de productos y apertura de nuevos mercados para su comercialización.	9, 10, 18
3) Inclusión adecuada de diversas partes interesadas	La participación de un amplio abanico de partes interesadas, en particular de los trabajadores de la industria primaria, es importante para la conservación de la biodiversidad. Para garantizar la inclusión de los participantes adecuados, es necesario conocer con precisión las características de cada parte	1, 9, 10, 15, 20, 21, 22, 23

Recomendaciones		Objetivos correspondientes del GBF*1
	interesada y su papel en la conservación y el uso de los ecosistemas.	
4) Creación de una organización para la coordinación entre las partes interesadas	Para una colaboración fluida con las diversas partes interesadas en la conservación de la biodiversidad, es importante crear una institución que coordine a todos los sectores. Se espera que la importancia de esta función de coordinación aumente aún más en el futuro, debido a los requisitos de divulgación de información sobre la conservación de la naturaleza para las empresas.	1, 9, 10, 15, 18, 20, 21, 22, 23
5) Establecimiento de normas generales de gestión de las zonas ecológicas amplias y fomento del uso compartido de los recursos	Muchas especies silvestres migran por amplias zonas, y existen diferentes vínculos entre la naturaleza y la población local en distintos países. El uso sostenible de los recursos naturales y la estabilización de los medios de subsistencia de la población local, requieren el establecimiento de normas y sistemas de gestión (gobernanza) para el uso sostenible de los ecosistemas transfronterizos.	3, 4, 5, 9, 10
6) Evaluación y visualización del valor más amplio de los ecosistemas y la biodiversidad	Comprender y compartir adecuadamente los valores materiales e inmateriales de los ecosistemas y la biodiversidad entre las partes interesadas es esencial para la conservación de los ecosistemas. Por este motivo, es importante evaluar, visualizar y compartir con precisión la información sobre el valor intrínseco de los ecosistemas.	4, 5, 9, 10, 14, 15, 20, 21, 22
7) Efectos de sinergia al vincular la conservación de la biodiversidad y la acción contra el cambio climático	La conservación de la biodiversidad y la acción contra el cambio climático tienen compensaciones y sinergias. Para que estas últimas sean eficaces, es necesario fortalecer los vínculos entre ambas a nivel práctico.	8
Recomendaciones para fortalecer las actividades de producción respetuosas con el medio ambiente		
8) Promoción de la introducción y capacitación sobre actividades productivas respetuosas con el	La conservación de la biodiversidad exige que las industrias primarias que utilizan/alteran directamente la tierra tengan en cuenta los ecosistemas. Su aplicación eficaz requiere la introducción de tecnologías de producción respetuosas con el medio ambiente y que a su vez sean compatibles con los	8, 9, 10, 11

Recomendaciones		Objetivos correspondientes del GBF*1
medio ambiente y compatibles con beneficios económicos	beneficios económicos, y que estos beneficios económicos sean fácilmente entendibles mostrando ventajas concretas.	
9) Establecimiento de normas/límites adecuados de uso de los recursos del ecosistema	Las normas de gestión de los ecosistemas deben establecerse sobre una base científica y teniendo en cuenta los medios de subsistencia de la población local. Un establecimiento inadecuado de las normas puede convertirlas en una norma vacía y, además, crear una sensación de injusticia, sobre todo en ecosistemas extensos.	3, 7, 9, 10
10) Fortalecimiento efectivo de las industrias primarias mediante el reforzamiento de los conocimientos básicos sobre mercados y comercio	Se están realizando diversos esfuerzos para hacer frente al riesgo de que la disminución de los ingresos de las industrias primarias provoque una mayor degradación ecológica. Para alcanzar el objetivo, es necesario fortalecer los conocimientos básicos sobre mercado y comercio tanto de los productores como de los donantes.	9, 10
11) Promoción de la revalorización y utilización de los recursos locales	El reconocimiento y la utilización de los recursos locales contribuyen al desarrollo local sostenible y a la conservación de la biodiversidad, pero la falta de intercambio de información entre regiones y generaciones conlleva el riesgo de degradación medioambiental. Por tanto, es necesario reevaluar los recursos y, a continuación, promover un mayor intercambio y utilización de la información.	9, 10, 14, 21
Recomendaciones para fortalecer la participación y colaboración de las partes interesadas		
12) Identificación de patrimonios compartidos y concienciación basada en un análisis integral de las características de la comunidad	El establecimiento de mecanismos eficaces de gobernanza de los ecosistemas requiere una comprensión precisa de la conciencia ecológica compartida de los residentes de la zona objetivo. Para ello es necesario analizar y comprender exhaustivamente la conciencia compartida que tiene la población, incluidas las características del régimen de propiedad de la tierra y otros sistemas sociales, las actividades económicas, y seleccionar las organizaciones objetivo-adecuadas.	1, 5, 9, 22, 23

Recomendaciones		Objetivos correspondientes del GBF*1
13) Fortalecimiento de los enfoques participativos de abajo hacia arriba que tengan en cuenta a los habitantes y la composición social de la comunidad	Un enfoque participativo de abajo hacia arriba es eficaz para crear mecanismos de gobernanza de la conservación de los ecosistemas dirigidos por la comunidad. Hay que tener en cuenta que, para adoptar adecuadamente este enfoque, es importante conocer en profundidad, las estructuras sociales de la comunidad, como las de género y las intergeneracionales.	9, 22, 23
14) Aceleración de la asimilación de las partes interesadas mediante el uso de herramientas digitales	El desarrollo de la tecnología digital ha facilitado y abaratado la creación de redes entre países y sectores. Es necesario acelerar el uso de iNaturalist y otros medios en la conservación de la biodiversidad, para fomentar una mayor participación de los interesados. Para alcanzar este objetivo los países deben invertir en infraestructura que permita conectividad en las comunidades rurales.	20, 22, 23
Recomendaciones para el fortalecimiento de las funciones de CCAD		
15) Fortalecimiento de la función regional de conservación de la biodiversidad convirtiendo la CCAD en un centro regional del CDB.	Garantizar la conectividad terrestre y paisajística entre provincias y países, por ejemplo, a través de corredores biológicos, es crucial para la conservación de la biodiversidad, y los centros regionales de capacidad desempeñan un papel importante al respecto. A tal efecto, la Secretaría del CDB ha seleccionado centros regionales de conformidad con la resolución del Convenio (CBD/COP/DEC/15/8). Si la CCAD es seleccionada como centro regional para Centroamérica, se recomienda que se revise el ERAM, teniendo en cuenta el GBF, para mejorar el estatus internacional y el funcionamiento de la CCAD y fortalecer aún más la conservación de la biodiversidad en la región del SICA.	1-23

Fuente: Equipo del Proyecto

*1 : Objetivo 2030 del Marco Mundial de Biodiversidad Kunming-Montreal (Ver: tabla abajo)

Objetivo 2030 del Marco Mundial de Biodiversidad Kunming-Montreal (GBF) (Traducción Resumida)

Reducir las amenazas a la biodiversidad
1. Someter todas las zonas a una planificación espacial participativa, integrada y sensible a la biodiversidad y/o a procesos de gestión eficaces.
2. Restaurar eficazmente el 30% de las zonas ecológicas degradadas.
3. Conservación de al menos el 30% de la superficie terrestre y marina mediante áreas protegidas y OMEC (objetivo 30 por 30).
4. Garantizar medidas urgentes de gestión para reducir significativamente el riesgo de extinción y minimizar los conflictos entre el hombre y la fauna salvaje.
5. Garantizar que el uso de las especies silvestres sea sostenible, seguro y legal, incluso evitando la caza excesiva.
6. Reducir la tasa de entrada y establecimiento de especies exóticas invasoras en al menos un 50%.
7. Reducir a la mitad el exceso de nutrientes que se vierten al medio ambiente, reducir a la mitad el riesgo general de pesticidas y productos químicos altamente tóxicos, y prevenir y reducir la contaminación por plásticos.
8. Minimizar el impacto del cambio climático en la biodiversidad, por ejemplo, mediante soluciones basadas en la naturaleza y/o planteamientos ecosistémicos.
Satisfacer las necesidades de los ciudadanos
9. Lograr que la gestión y el uso de las especies silvestres sean sostenibles y aporten beneficios sociales, económicos y medioambientales a las personas.
10. Las zonas agrícolas, acuícolas, pesqueras y forestales se gestionan de forma sostenible y contribuyen a la resistencia y a la eficiencia y productividad a largo plazo, de los sistemas de producción y a la seguridad alimentaria.
11. Restaurar, mantener y mejorar las contribuciones de la naturaleza (NCP) mediante soluciones basadas en la naturaleza y/o enfoques ecosistémicos.
12. Aumentar la superficie, la calidad, la accesibilidad y los beneficios de los espacios verdes y acuáticos en las zonas urbanas, y garantizar que la planificación urbana tenga en cuenta la biodiversidad.
13. Tomar medidas sobre el reparto de beneficios de los recursos genéticos y la información digital de secuencias (DSI) y facilitar un aumento significativo del reparto de beneficios de acuerdo con el documento sobre Acceso y Reparto de Beneficios (ABS).
Herramientas y medidas

14. Velar por que los diversos valores de la biodiversidad se integren en las políticas y normativas, los planes, los procesos de desarrollo, las estrategias de erradicación de la pobreza, las evaluaciones ambientales estratégicas, las evaluaciones de impacto ambiental y las cuentas nacionales, cuando proceda.
15. Garantizar que los operadores (empresas), en particular las grandes corporaciones y las instituciones financieras, tomen medidas para evaluar y revelar los riesgos para la biodiversidad, su dependencia de la biodiversidad y su impacto en ella, y proporcionar la información necesaria para un consumo sostenible.
16. Reducir la huella global, posibilitando elecciones de consumo sostenibles con información adecuada, reduciendo a la mitad el desperdicio de alimentos, disminuyendo considerablemente el consumo excesivo y reduciendo significativamente la generación de residuos.
17. Restablecer medidas de bioseguridad y acciones para el manejo de la biotecnología y el reparto de sus beneficios.
18. Identificar y eliminar o reformar los incentivos (por ejemplo, las subvenciones) perjudiciales para la biodiversidad, ahorrando al menos 500.000 millones de dólares al año, y ampliar los incentivos beneficiosos para la biodiversidad.
19. Recaudación de 200.000 millones de dólares anuales de todas las fuentes, aumentando la financiación internacional de los países desarrollados a los países en desarrollo hasta 20.000 millones de dólares anuales en 2025 y 30.000 millones de dólares anuales en 2030.
20. Fortalecer la creación y el desarrollo de capacidades y el acceso a la tecnología y su transferencia.
21. Poner a disposición de los responsables de la toma de decisiones, los profesionales y el público los mejores datos, información y conocimientos disponibles.
22. Garantizar la participación de mujeres y niñas, niños y jóvenes, personas con discapacidad, pueblos indígenas y comunidades locales en la toma de decisiones relacionadas con la biodiversidad.
23. Garantizar la igualdad de género a través de un enfoque que tenga en cuenta las cuestiones de género, incluido el reconocimiento de los derechos de las mujeres y las niñas a la tierra y los recursos naturales y la participación a todos los niveles.

Fuente: Marco Mundial de Biodiversidad de Kunming-Montreal (GBF), Equipo del Proyecto

3.2 Explicación de las recomendaciones

Recomendaciones para fortalecer los mecanismos de gobernanza de los ecosistemas

1) **Uso y aplicación de marcos internacionales de conservación adecuados a las características de cada ecosistema**

Se recomienda promover el uso de marcos internacionales de conservación como los sitios del Patrimonio Mundial, los humedales Ramsar, las Reservas Biosferas (RB) y las OMEC para mantener la conectividad ecológica transfronteriza.

La continuidad de los ecosistemas que permite el intercambio de genes es importante para la supervivencia de las

especies, y esto requiere un marco de gestión que trascienda las divisiones administrativas que dividen artificialmente los ecosistemas, y permita la colaboración de las diversas partes interesadas. Esta necesidad es especialmente acuciante en los ecosistemas transfronterizos que atraviesan varios países con sistemas políticos, económicos y sociales diferentes. Por ejemplo, el ecosistema seleccionado para el proyecto piloto, el Parque Internacional La Amistad, un ecosistema transfronterizo a través de Costa Rica y Panamá, está inscrito conjuntamente como Patrimonio Natural de la Humanidad en el marco internacional de ambos países. La Unidad Técnica Binacional (UTEB), creada como entidad gestora para ello, se encarga de la buena gestión del parque internacional mediante reuniones periódicas (dos veces al año) para compartir información sobre objetivos, estrategias y actividades de conservación, y mediante actividades conjuntas reales sobre el terreno.

Al adoptar y poner en funcionamiento estos marcos, es necesario tener plenamente en cuenta, seleccionar y promover las características específicas de cada ecosistema, como las relaciones diplomáticas y los acuerdos entre los países interesados, las condiciones políticas, sociales y económicas y las diferencias culturales. Por ejemplo, en el caso del mencionado El Trifinio, se observan similitudes con el de La Amistad, donde el desarrollo y la gestión conjuntos se llevan a cabo con un comité tripartito formado sobre la base de un acuerdo político a un nivel superior. Por otro lado, también existen ecosistemas transfronterizos con elementos inestables en las relaciones diplomáticas, respecto a las fronteras y ecosistemas con condiciones políticas y socioeconómicas muy diferentes entre los países involucrados. A este respecto, en el cuadro siguiente se resumen tres formas básicas de gestión de ecosistemas transfronterizos, basadas en la experiencia de este proyecto.

<p>Para los casos difíciles de alcanzar acuerdos políticos entre países que comparten ecosistemas transfronterizos</p>	<p>No es fácil llegar a un acuerdo político, sobre la gestión cooperativa de los ecosistemas transfronterizos, en regiones donde las relaciones diplomáticas relativas a las fronteras son inseguras. Sin embargo, incluso en esta situación, el personal técnico de los ministerios y organismos competentes de cada país suele reconocer y compartir la importancia de la conservación de los ecosistemas transfronterizos. Por lo tanto, se considera posible promover la conservación de los ecosistemas transfronterizos de forma generalmente coherente en ambos países, compartiendo los planes y sus avances a nivel técnico, mientras que cada país lleva a cabo la conservación de los ecosistemas objetivo por su cuenta. La utilización y colaboración de organizaciones no gubernamentales (ONG) también debería considerarse positivamente como una forma concreta de aplicación.</p>
<p>Para los casos en que los países incluidos en un ecosistema transfronterizo comparten entre sí planes de desarrollo</p>	<p>En las áreas donde se han desarrollado planes maestros conjuntos de varios países², como en el caso del Golfo de Fonseca, entre El Salvador, Nicaragua y Honduras, se espera que esto sea una oportunidad para concretar acuerdos políticos a un nivel superior, y llevar a cabo una gestión conjunta utilizando un marco con procedimientos de registro relativamente sencillos, como la RB.</p>

² Según Resumen_Ejecutivo_Plan_Maestro_BCIE.pdf, el Banco Centroamericano de Integración Económica elaboró en 2019 un Plan Maestro de Desarrollo Económico en el Golfo de Fonseca, y la conservación del corredor de manglares figura como una de las actividades.

(incluido el uso de la tierra entre otros)	
Para los países incluidos en un ecosistema transfronterizo, que ya implementan una política de gestión conjunta del medioambiente	Cuando ya existe una gestión conjunta, como en el caso de La Amistad entre Costa Rica y Panamá, se espera una mayor mejora de la gestión. En el caso de La Amistad, el registro del Patrimonio Mundial es binacional, pero el registro de la RB es individual para Costa Rica y Panamá; si la RB puede registrarse también como RB transfronteriza, se espera que sea posible una gestión cooperativa con la Convención del Patrimonio Mundial y se amplíe el alcance de las actividades.

Fuente: Equipo del Proyecto

2) Aumento del valor y las ventajas de la zona de amortiguamiento de la RB y otras zonas alrededor de las áreas protegidas

En el caso de las zonas que deben desempeñar un papel más importante en la conservación de los ecosistemas, como las zonas de amortiguamiento de las RB, se formulan recomendaciones para fomentar el uso del valor y la ventaja de estas zonas. Aunque la importancia y el valor de las RB son reconocidos por los gobiernos, las organizaciones de apoyo y los expertos, las partes interesadas más importantes sobre el terreno, la población local, no son plenamente conscientes de esta importancia, valor y forma de aprovechar este potencial. Por lo tanto, como primer paso, es necesario aumentar la concienciación sobre el valor de la zona que rodea el área protegida y, como siguiente paso, promover el uso del potencial regional, mediante la promoción del sistema de certificación de productos y el reconocimiento del valor de la zona circundante y su diferenciación de otras zonas.

La Amistad está registrada como RB por los respectivos gobiernos de Costa Rica y Panamá, y la comunidad del proyecto piloto se encuentra en esta zona de amortiguamiento. El gobierno local de Coto Brus, donde se encuentra la comunidad costarricense, ha puesto en marcha una iniciativa de marca regional denominada “Ruta de Agua” y espera establecer vínculos con la parte panameña, que se encuentra en el mismo ecosistema y cuenta con recursos turísticos

diferentes. Como producto de dicha iniciativa, se recomienda trabajar con esquemas de certificación en marcos internacionales, por ejemplo, la Certificación de Producto de la RB. En la laguna de Saladilla de Montecristi, también objeto del proyecto piloto, ni siquiera se reconocían plenamente los límites del área protegida, por lo que se instalaron señales que indicaban los límites como un paso para mejorar esta situación.

3) Inclusión adecuada de diversas partes interesadas

Se recomienda fortalecer la inclusión de un gran número de partes interesadas en las actividades de conservación de la biodiversidad. La importancia de esto se menciona en el primer Capítulo “Introducción”, pero un ejemplo más concreto es la meta 10 del GBF: “Para la conservación y restauración de la biodiversidad y la salud de las funciones de los ecosistemas, son necesarias prácticas sostenibles en la agricultura, la pesca y otras industrias primarias para garantizar los medios de vida de la población local en términos de seguridad.”

En el proyecto piloto, por ejemplo, había varios grupos de interés con características diferentes entre Montecristi y La Amistad. En el primero, la agricultura, la ganadería y la pesca se practican ampliamente en la laguna de Saladilla y sus alrededores (zona protegida),

utilizando las aguas de la laguna, existiendo varias organizaciones que gestionan o apoyan estas actividades. En las zonas vecinas se están construyendo un puerto, un complejo industrial y una central eléctrica asociados, que también son partes interesadas que afectan al ecosistema de la laguna. En La Amistad, la producción de café, el pastoreo y otras formas de agricultura se practican en toda la zona de amortiguamiento que rodea la reserva legal, con un gran número de partes interesadas implicadas en la industria del café, y el pueblo indígena Ngäbe-Buglé de Panamá como parte interesada transfronteriza. Los trabajadores de Ngäbe-Buglé son estacionales que se desplazan entre Panamá y Costa Rica para apoyar el cultivo del café y forman parte integrante de la industria cafetera de ambos países, pero también realizan actividades tradicionales como la caza y la recolección de plantas y animales que pueden tener repercusiones negativas en el ecosistema si se llevan más allá de la capacidad de carga. Para incorporar a las diversas partes interesadas, es necesario comprender adecuadamente su existencia y características, incluidas sus respectivas funciones en la conservación y utilización del ecosistema.

4) Creación de una organización para la coordinación entre las partes interesadas

Como se indica en el punto 3), la colaboración con diversas partes interesadas es esencial para la conservación de la biodiversidad. Para que esta colaboración se lleve a cabo sin contratiempos, es esencial contar con una función de coordinación entre las distintas partes interesadas, por lo que recomendamos fortalecer y crear una organización encargada de ello.

El proyecto piloto de La Amistad contó con el apoyo, por parte costarricense, del Comité Sectorial Local Agropecuario (COSELES), dependiente del Ministerio de Agricultura. El COSELES desempeña una función de coordinación entre los organismos pertinentes y los beneficiarios para el desarrollo rural, y en el proyecto piloto también fue responsable de una amplia gama de

actividades, desde la selección de los beneficiarios hasta la coordinación de la ejecución de las actividades con varios organismos, lo que contribuyó notablemente a la gestión eficiente del proyecto piloto.

En los últimos años, ha habido una tendencia creciente, representada por el Grupo de Trabajo sobre Divulgación Financiera Relacionada con la Naturaleza (TNFD) y el Reglamento Europeo sobre Prevención de la Deforestación (EUDR), para que las empresas que operan físicamente fuera de los ecosistemas, pero que no utilizan indirectamente la biodiversidad, estén obligadas a divulgar información relacionada con la conservación de la naturaleza, con la expectativa de una mayor participación de las empresas en las actividades de conservación. Al mismo tiempo, se trata de una mayor diversificación de las partes interesadas, por lo que es esencial fortalecer la función de coordinación de las partes interesadas, para utilizar eficazmente y supervisar adecuadamente estas expectativas.

5) Establecimiento de normas generales de gestión de los ecosistemas y fomento del uso compartido de los recursos

La flora y la fauna de los ecosistemas, representadas por organismos migratorios como peces y crustáceos, son compartidas y utilizadas por los residentes que viven en zonas transfronterizas, sustentando sus medios de vida. Se recomienda que, con el fin de garantizar la sostenibilidad de este uso y estabilizar así el ecosistema y los medios de subsistencia de los residentes locales, se establezca e introduzca un plan de gestión que incluya normas de uso y control de los recursos naturales transfronterizos, a través de un plan maestro de gestión de ecosistemas o similar.

El proyecto piloto del Golfo de Fonseca intentó la cooperación transfronteriza en acuicultura, centrándose en el marisco, un recurso común para todo el Golfo. El Salvador es el único de los tres países del Golfo de Fonseca que cuenta con una instalación de producción de crustáceos, y los mariscos jóvenes



producidos aquí se exportan a Honduras para completar su desarrollo. El proceso de exportación llevó mucho tiempo, aproximadamente ocho meses, para confirmar y aplicar los procedimientos relacionados con el control sanitario, como la cuarentena animal y vegetal. Algunas inspecciones sanitarias no podían realizarse en ambos países y se llevaban a cabo en Costa Rica. Además de establecer normas comunes de utilización como la talla de captura, por ejemplo, en el caso de los mariscos, la gestión de ecosistemas también debería incluir actividades para acelerar el uso equitativo y proporcional de los recursos de producción, por ejemplo, aclarando y simplificando las normas de exportación, en relación con la experiencia descrita anteriormente. Esto permitiría establecer un régimen de gestión más realista que equilibre la conservación y la utilización, incluida la recuperación.

6) Evaluación y visualización del valor más amplio de los ecosistemas y la biodiversidad

En la conservación de los ecosistemas, es esencial que las partes interesadas comprendan en detalle y compartan el valor de los ecosistemas y de la biodiversidad presente en ellos. Este valor suele expresarse en términos de indicadores fácilmente cuantificables, como el tipo de hábitat, las especies presentes y su abundancia, los niveles de amenaza, la rareza, la diversidad, la conectividad, entre otros³. En la práctica, además de estos valores materiales, también existen las contribuciones no materiales de la naturaleza a las personas (NCP). Estos también están estrechamente relacionados con el bienestar humano, como la calidad de vida⁴, y son sinónimos de servicios culturales, que comprenden el aprendizaje y la inspiración, las experiencias físicas y psicológicas y la formación de la identidad⁴. Por ejemplo, aprender y sentir el significado y el papel de los diversos organismos vivos, el conocimiento tradicional y la

identidad de vivir en ecosistemas, son pasos importantes para provocar un cambio de comportamiento en relación con la conservación ecológica humana. Estos valores inmateriales también deben valorarse y compartirse adecuadamente, y es preciso reconocer plenamente el valor intrínseco de los ecosistemas.

Asimismo, es importante garantizar una información que permita visualizar los valores de los ecosistemas. Por ejemplo, la continuidad física de los ecosistemas es importante, pero según la experiencia del proyecto piloto, la población local no parece tener suficiente conciencia de los ecosistemas contiguos ni conocimiento de su importancia. En la laguna Saladilla, en Montecristi, apenas había datos científicos sobre el ecosistema. Con base en lo anterior, se recomienda fortalecer el monitoreo de los ecosistemas, particularmente en lo que se refiere a la continuidad, y fortalecer la visualización de los movimientos de aves y jaguares en un área amplia. Se recomienda el uso de herramientas digitales (ver recomendación 14) como uno de los medios para ello.

7) Efectos de sinergia al vincular la conservación de la biodiversidad y la acción contra el cambio climático

Se recomienda fortalecer los vínculos entre la conservación de la biodiversidad y las acciones de adaptación al cambio climático y los ejecutores de estas acciones para cumplir con los compromisos y desarrollar sinergias.

La producción de energía de biomasa como medida de adaptación al cambio climático no es favorable para la conservación de los ecosistemas, ya que provoca la aceleración de monocultivos como el maíz y la caña de azúcar, y del mismo modo, la energía hidroeléctrica que también contribuye a las medidas de adaptación al cambio climático puede alterar significativamente el

³ Transforming Biodiversity Governance, 2022, Earth System Governance/Cambridge University Press

⁴ [r1-2_13.pdf \(biodic.go.jp\)](#)

ciclo natural. En otras palabras, existe una estrecha relación entre la conservación de la biodiversidad y las medidas de adaptación al cambio climático. Por otro lado, las soluciones basadas en la naturaleza (NbS), tipificadas por la forestación, que se utiliza para la compensación de carbono contribuyen a la conservación de la biodiversidad en forma de restauración forestal y conservación de los agroecosistemas. En los proyectos piloto, por ejemplo, las plantaciones de manglares en el Golfo de Fonseca para ampliar los hábitats y la acuicultura de moluscos, para restaurar la diversidad, también son alternativas de adaptación al cambio climático bajo el concepto de carbono azul. De este modo, muchas actividades son útiles tanto para la conservación de los ecosistemas como para el cambio climático y se espera que tengan un efecto sinérgico.

A medida que la importancia de la conservación de los ecosistemas y las acciones de adaptación al cambio climático aumentan año tras año, es necesario acelerar la colaboración entre las partes interesadas para resolver las compensaciones y desarrollar dichas sinergias. La CCAD, en colaboración con el Consejo Agropecuario Centroamericano (CAC) del SICA, ha puesto en marcha una iniciativa de acción contra el cambio climático denominada AFOLU 2040, y se espera que en el futuro se refuerce una colaboración similar.

Recomendaciones para fortalecer las actividades de producción respetuosas con el medio ambiente

8) Promoción de la introducción y capacitación de actividades productivas respetuosas con el medio ambiente y compatibles con beneficios económicos

A medida que aumenta la situación en la que los organismos vivos y los seres humanos viven en el mismo ecosistema, crece la relación entre la conservación de la biodiversidad y las industrias

primarias, como la agricultura y la pesca, que son medios de ingresos humanos. Como las industrias primarias utilizan directamente los ecosistemas, se les exige que les presten más atención a medida que se desarrollen. Sin embargo, la maximización de los beneficios es prioritaria, sobre todo en los casos en que las industrias primarias son el único medio de ingresos. Por este motivo, se recomienda introducir tecnologías de producción respetuosas con el medio ambiente, que permitan a la vez el entendimiento de los beneficios económicos y fortalecer las enseñanzas de estos beneficios económicos en el marco de las capacitaciones técnicas.

En muchos casos, el ánimo de lucro y la conservación de la biodiversidad van de la mano. Por ejemplo, el proyecto piloto de La Amistad combinaba el café y la apicultura con la plantación de árboles. Las abejas y los árboles son parte de la biodiversidad, y al mismo tiempo, los árboles sirven de alimento a las abejas y brindan sombra al café, y son un factor para aumentar su productividad. Como muchos de estos efectos tardan de medio a largo plazo en manifestarse, la orientación técnica debe demostrar estos beneficios económicos de forma fácil de entender y lo más cuantitativamente posible.

Por ejemplo, se recomienda incentivar el reciclaje de residuos de cultivo a través del compostaje, y la producción natural de plaguicidas, o la reducción de plaguicidas y fertilizantes químicos mediante su uso, porque los beneficios económicos son más fáciles de entender y se aceptan más fácilmente.

9) Establecimiento de normas/límites adecuados de uso de los recursos del ecosistema

La importancia de establecer normas de gestión de los ecosistemas transfronterizos se ha explicado en el punto 5), y se recomienda que los criterios y restricciones de uso que se incluyan sean realistas y tengan plenamente en cuenta la vida de la población local, además de tener una base científica.

El proyecto piloto en El Salvador ha puesto a prueba la

acuicultura de moluscos con el objetivo de mejorar los medios de subsistencia y restaurar los recursos. Los residentes capturan moluscos en las marismas de la zona protegida, donde la norma para la captura de moluscos es una longitud de concha de 10 cm o más. Estimando aproximadamente a partir de la tasa de crecimiento, se tardaría 10 años en crecer 10 cm, lo que no es realista desde la perspectiva del mantenimiento de los medios de subsistencia de los residentes de los alrededores, y, de hecho, los residentes de la comunidad no eran conscientes de esta norma. En otras palabras, la falta de consideración por los medios de subsistencia de los residentes es la causa de la norma vacía. De lo anterior se desprende que las normas y restricciones de gestión deben establecerse teniendo suficientemente en cuenta tanto la base científica como la vida de las personas que viven en las inmediaciones. Además, especialmente en el caso de los ecosistemas transfronterizos, donde algunos países no establecen normas y restricciones, o donde las normas y restricciones difieren, el efecto de conservación se verá muy perjudicado por una sensación de injusticia.

10) Fortalecimiento efectivo de las industrias primarias mediante el reforzamiento de los conocimientos básicos sobre mercados y comercio

Se hacen recomendaciones para fortalecer los conocimientos comerciales y de mercado tanto de los productores como de los expertos cooperantes de una conservación más eficaz de la biodiversidad y de la coexistencia de las industrias primarias.

Como se menciona tanto en Capítulo 1 “Introducción”, como en las recomendaciones anteriores 3) y 8), existe una estrecha relación entre la biodiversidad y la industria primaria, que es la que hace uso de ella. El estancamiento de la industria primaria y el consiguiente descenso de los ingresos repercuten negativamente, por ejemplo, provocando la expansión de las tierras agrícolas y otras destrucciones ecológicas, por lo que se están realizando muchos esfuerzos para fortalecer

la industria primaria sostenible, incluidos los proyectos piloto.

Sin embargo, en muchos casos, estos esfuerzos no funcionan correctamente debido a la falta de conocimientos comerciales tanto por parte de los productores como de los expertos cooperantes. Por ejemplo, el cultivo ecológico del café es un medio tanto para conservar los ecosistemas como para mejorar los medios de subsistencia, pero en una reunión de revisión del estado de conservación regional celebrada para el proyecto piloto en Costa Rica y Panamá por parte de una organización de apoyo binacional, se escucharon opiniones como que “es correcto entender el cultivo ecológico del café como un requisito mínimo para vender en el mercado internacional, más que como un medio de añadir valor”, y “el factor precio del café no es si es orgánico o no, sino simplemente su sabor”, fueron algunas de las diferentes opiniones basadas en la situación real del mercado.

Además, aunque en el proyecto se hizo hincapié en el aumento de los precios y los ingresos, la realidad es que la reducción de los costes es, en realidad, la medida más fácil de abordar. Por ejemplo, en la cría de dorados (Pargos) del proyecto piloto de Nicaragua, se alimentaba a los dorados con más comida de la que podían ingerir con una frecuencia elevada, lo que provocaba un aumento de los costos. El proyecto introdujo un método de alimentación adecuado para el crecimiento de dorados, lo que redujo los costos y también permitió preservar el ecosistema, al mejorar la calidad del agua gracias a la reducción de los alimentos no consumidos. Estos conocimientos básicos de los mercados y el comercio real, son necesarios para que los productores y quienes apoyan la conservación y el uso de los ecosistemas refuercen las industrias primarias eficientes y, en última instancia, conserven la biodiversidad.

11) Promover la revalorización y utilización de los recursos locales

El reconocimiento y la utilización adecuada de los

recursos locales, es una forma de mejorar los incentivos locales para el desarrollo sostenible y la conservación de la biodiversidad. Sin embargo, este recurso también tiene un componente tradicional y cultural, que probablemente se pierda con la modernización. Además, en las zonas rurales, que en general se consideran más cerradas, se considera que algunos recursos y sus usos no se toman en cuenta debido a la falta de conocimientos y experiencia. Por lo tanto, se recomienda que se realicen esfuerzos para revalorizar los recursos locales con el fin de promover su utilización.

El proyecto piloto también identificó el potencial de utilización de varios recursos locales como muestra a continuación:

- En Belice, especies de tomates criollos no utilizados en la Selva Maya;
- En Honduras, mariscos, ampliamente conocidos, pero no explotados por su valor intrínseco;
- En Costa Rica, especies de árboles y pastos útiles para la producción de café y la apicultura; en Panamá, abejas criollas con un mercado establecido como miel de gran valor en México y otros lugares;
- En la República Dominicana, los bagres son especies no nativas que amenazan los ecosistemas lacustres, al tiempo que se consideran comestibles o disponibles para la alimentación animal.

Recomendaciones para fortalecer la participación y colaboración de las partes interesadas

12) Identificación de patrimonios compartidos y concienciación basada en un análisis integral de las características de la comunidad

La clave para el desarrollo de mecanismos eficaces de gobernanza de los ecosistemas es la percepción de éstos como patrimonio compartido por parte de los

habitantes de la zona objetivo. El contenido de los ecosistemas que los habitantes perciben como compartidos viene determinado por diversos factores, principalmente sistemas sociales como los sistemas y formas de propiedad de la tierra, pero también influyen otros factores como la historia de la formación local y comunitaria, el tipo de actividad económica y cómo se lleva a cabo, y su acceso. Por lo tanto, se recomienda que el apoyo al establecimiento de mecanismos de gobernanza analice y evalúe de manera integral estos diversos aspectos y determine los ecosistemas y organizaciones que deben recibir apoyo.

Las comunidades destinatarias del proyecto piloto tenían características diferentes. Por ejemplo, la comunidad de Selva Maya de Guatemala está aislada y alejada dentro del área protegida, mientras que la comunidad de Montecristi está situada en una zona fronteriza clave, donde el comercio es floreciente y el acceso a varias partes del país es bueno. Asimismo, en la primera, las comunidades utilizan conjuntamente el bosque en una forma clara de concesión, mientras que, en la segunda, el agua de la laguna del área protegida se utiliza de forma no planificada. En la comunidad de La Amistad, no había recursos que fueran explícitamente compartidos por los residentes tanto en términos de uso como de propiedad. Estas características influyeron en la planificación y el diseño, la ejecución y el funcionamiento del proyecto piloto.

Como tendencia general, se observó un alto sentido de solidaridad y de uso compartido de los ecosistemas entre los residentes para las comunidades migrantes y remotas que tienen una distancia social más marcada, y en concesiones forestales donde existen claramente activos compartidos (ecosistemas). El sentido de compartir también se percibió como alto en grupos que utilizan ecosistemas similares y producen los mismos productos, como el café, y se considera uno de los puntos clave para construir un mecanismo eficiente de gobernanza con la participación activa de las partes interesadas.

13) Fortalecimiento de los enfoques participativos de abajo hacia arriba que tengan en cuenta a los habitantes y la composición social de la comunidad

Un enfoque participativo y de abajo hacia arriba es eficaz para establecer mecanismos de gobernanza de la conservación de los ecosistemas con el involucramiento activo de las comunidades. La planificación, la ejecución, el seguimiento y la evaluación dirigidos por las comunidades pueden mejorar su capacidad para ejecutar actividades y seguir promoviendo iniciativas y proyectos locales. Se recomienda la adopción activa de este enfoque en el establecimiento de mecanismos de gobernanza para la conservación de los ecosistemas.

Un enfoque participativo no es suficiente con reunir a los miembros de la comunidad; debe hacerse en la fase preliminar y en el proceso de trabajo, con pleno conocimiento y consideración de las estructuras dentro de la comunidad, como la existencia de grupos, incluidos los de género e intergeneracionales. Además, dado que la equidad y el liderazgo son elementos clave para la sostenibilidad de la gobernanza, también es importante tratar de identificar a las personas con estas cualidades y, mediante la aprobación previa ⁵, desarrollar a estas personas como líderes de las estructuras de gobernanza.

14) Aceleración de la asimilación de las partes interesadas mediante el uso de herramientas digitales

El desarrollo y la difusión de herramientas digitales a través de la tecnología han facilitado y abaratado la interconexión de personas más allá de las fronteras nacionales y sectoriales. Por este motivo, se formulan recomendaciones para acelerar la inclusión de las personas en la conservación de la biodiversidad a través de comunidades virtuales y otros medios.

El proyecto piloto del Golfo de Fonseca intentó realizar

un seguimiento colaborativo intercomunitario de la biodiversidad utilizando "iNaturalist", una aplicación gratuita de observación biológica gestionada por la Academia de Ciencias de California. Además de su facilidad de uso, iNaturalist se utiliza ampliamente en todo el mundo por su valor científico a la hora de identificar científicamente los organismos observados. Costa Rica y Panamá ya han establecido proyectos a escala nacional y los datos se acumulan a diario. En el proyecto piloto, el número total de observaciones fue bajo, debido a que muchos de los participantes eran personas mayores no familiarizadas con la aplicación, y acostumbrados a no llevar teléfonos inteligentes a los lugares de actividades para agricultura y pesca. En cambio, varios jóvenes y personas de mediana edad con interés por la naturaleza mostraron un aumento constante del número de observaciones. Si se organizan concursos sobre el número y el contenido de las observaciones para este grupo, y se aumentan los incentivos por el número de observaciones, será posible acumular grandes cantidades de datos que antes eran inalcanzables. En el proyecto piloto de La Amistad, el asesoramiento técnico y la coordinación de reuniones se llevaron a cabo mediante grupos de WhatsApp, y la frecuencia y el contenido de la comunicación mediante mensajes, imágenes y vídeos, superaron con creces las expectativas, en parte gracias a la atenta respuesta del personal técnico de apoyo, lo que aumentó la eficacia de las actividades.

Es importante mencionar que un elemento clave para el incremento del uso de estas herramientas digitales es el acceso a conectividad de internet en las zonas rurales, ya que en estas regiones suele ser deficiente. Por esta razón es necesario incentivar a los gobiernos a mejorar la infraestructura de comunicación digital en estas zonas.

⁵ Free Prior Informed Consent (FPIC)

Recomendaciones para el fortalecimiento de las funciones de la CCAD

15) Fortalecimiento de la función regional de conservación de la biodiversidad convirtiendo la CCAD en un centro regional del CDB

La 10ª Conferencia en el Convenio sobre la Diversidad Biológica (CDB-COP10, 2010), en la que se adoptaron los Objetivos de Aichi (2011-2020), recomendó que las organizaciones regionales "consideren la posibilidad de desarrollar o actualizar estrategias regionales de biodiversidad, según proceda, incluso acordando metas regionales, como medio para complementar y apoyar las acciones nacionales y contribuir a la aplicación de las metas mencionadas"⁶. Además, en la COP15 (2022), en la que se adoptó el Marco Mundial de Kunming-Montreal para la Diversidad Biológica (GBF), sucesor de los objetivos de Aichi, se debatió la necesidad de crear capacidades a escala regional, y se discutieron medidas más concretas para seleccionar centros de creación de capacidades (centros regionales) en cada región y desarrollar la transferencia de tecnología desde estos centros⁷, aumentando así la importancia de que las organizaciones regionales desempeñen un papel central en las respuestas a escala regional, y su eficacia en la conservación de la biodiversidad.

En el proceso de elaboración de esta propuesta, la CCAD ya ha presentado una solicitud al CDB para convertirse en centro regional para la región centroamericana. La selección final tendrá lugar en la COP 16 del CDB, prevista para octubre de 2024. Si la CCAD es seleccionada como el centro regional, surgirán varias posibilidades para ampliar su contribución a la conservación de la biodiversidad a nivel regional, por ejemplo, estableciendo directrices regionales y supervisando la OECM, que es una importante herramienta de conservación de la biodiversidad en el marco del GBF. Dado que, de ser seleccionado como el centro, se espera que aumente

la captación de fondos de apoyo, especialmente a nivel regional, también se recomienda un estudio preliminar de una estrategia regional.

⁶ CBD/COP/DEC/10/2: [Convention on Biological Diversity \(cbd.int\)](https://www.cbd.int/convention/10/2)

⁷ CBD/COP/DEC/15/8: [15/8. Capacity-building and development and technical and scientific cooperation \(cbd.int\)](https://www.cbd.int/15/8)

Adjunto 1

Relación entre las Recomendaciones y Metas mundiales para 2030 del Marco Mundial de Biodiversidad de Kunming-Montreal (GBF)

		Recomendaciones para reforzar las estrategias de conservación sostenible de la biodiversidad en los ecosistemas transfronterizos																		
		1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)				
		Recomendaciones para reforzar los mecanismos de gobernanza de ecosistemas	Uso y aplicación de marcos internacionales de conservación adecuados a las características de cada ecosistema	Mejora del valor y las ventajas de las zonas protegidas, como las zonas de amortiguación de las RB	Inclusión adecuada de diversas partes interesadas	Creación de una organización para la coordinación entre las partes interesadas	Establecer normas generales de gestión de las zonas amplias ecológicas y fomentar el uso compartido de los recursos	Evaluación y visualización del valor más amplio de los ecosistemas y la biodiversidad	Efectos sinérgicos de vincular la conservación de la biodiversidad y la acción contra el cambio climático	Recomendaciones para reforzar las actividades de producción respetuosas con el medio ambiente	Promover la introducción y orientación de actividades productivas respetuosas con el medio ambiente que sean fácilmente	Establecer normas límites adecuados de uso de los recursos del ecosistema	Fortalecimiento efectivo de las industrias primarias mediante el refuerzo de los conocimientos básicos sobre mercados y comercio	Promover la revalorización y utilización de los recursos locales	Recomendaciones para reforzar la participación y colaboración de las partes interesadas	Activos compartidos y concienciación basada en un análisis integral de las características de la comunidad	Reforzar los enfoques participativos ascendentes que tengan en cuenta a los habitantes y la composición social de la comunidad	Acelerar la asimilación de las partes interesadas mediante el uso de DX	Recomendación para reforzar funcionalidad de CCAD	Reforzar la función regional de conservación de la biodiversidad convirtiendo la CCAD en un centro regional del CDB.
Objetivo 2030 del Marco de Biodiversidad Kunming-Montreal																				
Reducir las amenazas a la biodiversidad																				
1	Someter todas las zonas a una planificación espacial participativa, integrada y sensible a la biodiversidad y/o a procesos de gestión eficaces																			
2	Restaurar eficazmente el 30% de las zonas ecológicas degradadas																			
3	Conservación de al menos el 30% de la superficie terrestre y marina mediante áreas protegidas y OMEC (objetivo 30 por 30)																			
4	Garantizar medidas urgentes de gestión para reducir significativamente el riesgo de extinción y minimizar los conflictos entre el hombre y la fauna salvaje																			
5	Garantizar que el uso de las especies silvestres sea sostenible, seguro y legal, incluso evitando la caza excesiva																			
6	Reducir la tasa de entrada y establecimiento de especies exóticas invasoras al menos en un 50%																			
7	Reducir a la mitad el exceso de nutrientes que se vierten al medio ambiente, reducir a la mitad el riesgo general de pesticidas y productos químicos altamente tóxicos, y prevenir y reducir la contaminación por plásticos																			
8	Minimizar el impacto del cambio climático en la biodiversidad, por ejemplo mediante soluciones basadas en la naturaleza y/o planteamientos ecosistémicos																			
Reducir las amenazas a la biodiversidad																				
9	Lograr que la gestión y el uso de las especies silvestres sean sostenibles y aporten beneficios sociales, económicos y medioambientales a las personas																			
10	Las zonas agrícolas, acuícolas, pesqueras y forestales se gestionan de forma sostenible y contribuyen a la resistencia y a la eficiencia y productividad a largo plazo de los sistemas de producción y a la seguridad alimentaria																			
11	Restaurar, mantener y mejorar la contribución de la naturaleza (NCP) mediante soluciones basadas en la naturaleza y/o enfoques ecosistémicos																			
12	Aumentar la superficie, la calidad, la accesibilidad y los beneficios de los espacios verdes y acuáticos en las zonas urbanas, y garantizar que la planificación urbana tenga en cuenta la biodiversidad																			
13	Tomar medidas sobre el reparto de beneficios de los recursos genéticos y la información digital de secuencias (DSI) y facilitar un aumento significativo del reparto de beneficios de acuerdo con el documento sobre Acceso y Reparto de Beneficios (ABS)																			
Herramientas y medidas																				
14	Velar por que los diversos valores de la biodiversidad se integren en las políticas y normativas, los planes, los procesos de desarrollo, las estrategias de erradicación de la pobreza, las evaluaciones ambientales estratégicas, las evaluaciones de impacto ambiental y las cuentas nacionales, cuando proceda																			
15	Garantizar que los operadores (empresas), en particular las grandes corporaciones y las instituciones financieras, tomen medidas para evaluar y revelar los riesgos para la biodiversidad, su dependencia de la biodiversidad y su impacto en ella, y proporcionar la información necesaria para un consumo sostenible																			
16	Reducir la huella global, posibilitando elecciones de consumo sostenibles con información adecuada, reduciendo a la mitad el desperdicio de alimentos, disminuyendo considerablemente el consumo excesivo y reduciendo significativamente la generación de residuos																			
17	Restablecer medidas de bioseguridad y para el manejo de la biotecnología y el reparto de sus beneficios																			
18	Identificar y eliminar o reformar los incentivos (por ejemplo las subvenciones) perjudiciales para la biodiversidad, ahorrando al menos 500.000 millones de dólares al año, y ampliar los incentivos beneficiosos para la biodiversidad																			
19	Recaudación de 200.000 millones de dólares anuales de todas las fuentes, aumentando la financiación internacional de los países desarrollados a los países en desarrollo hasta 20.000 millones de dólares anuales en 2025 y 30.000 millones de dólares anuales en 2030																			
20	Reforzar la creación y el desarrollo de capacidades y el acceso a la tecnología y su transferencia																			
21	Poner a disposición de los responsables de la toma de decisiones, los profesionales y el público los mejores datos, información y conocimientos disponibles																			
22	Garantizar la participación de mujeres y niñas, niños y jóvenes, personas con discapacidad, pueblos indígenas y comunidades locales en la toma de decisiones relacionadas con la biodiversidad																			
23	Garantizar la igualdad de género a través de un enfoque que tenga en cuenta las cuestiones de género, incluido el reconocimiento de los derechos de las mujeres y las niñas a la tierra y los recursos naturales y la participación a todos los niveles																			

Adjunto 2

Metas Mundiales para 2030 del Marco Mundial de Biodiversidad de Kunming-Montreal

Reducir las amenazas a la biodiversidad	
Meta 1	Garantizar que todas las zonas estén sujetas a planificación espacial participativa integrada que tenga en cuenta la biodiversidad y/o procesos de gestión eficaces que aborden el cambio en el uso de la tierra y los océanos, a fin de que la pérdida de zonas de suma importancia para la biodiversidad, incluidos los ecosistemas de gran integridad ecológica, se acerque a cero para 2030, respetando al mismo tiempo los derechos de los pueblos indígenas y las comunidades locales.
Meta 2	Garantizar que para 2030 al menos un 30 % de las zonas de ecosistemas terrestres, de aguas continentales y costeros y marinos degradados estén siendo objeto de una restauración efectiva, con el fin de mejorar la biodiversidad y las funciones y los servicios de los ecosistemas y la integridad y conectividad ecológicas.
Meta 3	Garantizar y hacer posible que, para 2030, al menos un 30 % de las zonas terrestres y de aguas continentales y de las zonas marinas y costeras, especialmente las zonas de particular importancia para la biodiversidad y las funciones y los servicios de los ecosistemas, se conserven y gestionen eficazmente mediante sistemas de áreas protegidas ecológicamente representativos, bien conectados y gobernados equitativamente y otras medidas de conservación eficaces basadas en áreas, reconociendo, cuando proceda, los territorios indígenas y tradicionales, y que estén integradas a los paisajes terrestres, marinos y oceánicos más amplios, garantizando al mismo tiempo que toda utilización sostenible, cuando proceda en dichas zonas, sea plenamente coherente con la obtención de resultados de conservación, reconociendo y respetando los derechos de los pueblos indígenas y las comunidades locales, incluidos aquellos relativos a sus territorios tradicionales.
Meta 4	Garantizar que se adopten con urgencia medidas de gestión para detener la extinción de especies amenazadas conocidas y para la recuperación y conservación de las especies, en particular, las especies amenazadas, a fin de reducir significativamente el riesgo de extinción, así como de mantener y restaurar la diversidad genética entre las poblaciones de especies autóctonas, silvestres y domesticadas y dentro de ellas a fin de preservar su potencial de adaptación, entre otras cosas, mediante prácticas sostenibles de gestión y conservación in situ y ex situ, y gestionar eficazmente las interacciones entre los seres humanos y la fauna y flora silvestres, con miras a reducir al mínimo los conflictos entre los seres humanos y las especies silvestres en favor de la coexistencia.
Meta 5	Garantizar que el uso, la recolección y el comercio de especies silvestres sea sostenible, seguro y lícito, previniendo la sobreexplotación, minimizando los impactos sobre las especies no buscadas y los ecosistemas, y reduciendo el riesgo de propagación de patógenos, aplicando el enfoque por ecosistemas, al tiempo que se respeta y protege la utilización consuetudinaria sostenible por los pueblos indígenas y las comunidades locales.

Meta 6	Eliminar, minimizar o reducir las especies exóticas invasoras o mitigar sus impactos en la biodiversidad y los servicios de los ecosistemas mediante la detección y la gestión de las vías de introducción de las especies exóticas, previniendo la introducción y el establecimiento de especies exóticas invasoras prioritarias, reduciendo las tasas de introducción y establecimiento de otras especies exóticas invasoras conocidas o potenciales en al menos un 50 % para 2030, y erradicando o controlando las especies exóticas invasoras, en especial en lugares prioritarios, como las islas.
Meta 7	Reducir para 2030 los riesgos de contaminación y el impacto negativo de la contaminación de todas las fuentes a niveles que no sean perjudiciales para la diversidad biológica y las funciones y los servicios de los ecosistemas, considerando los efectos acumulativos, entre otras cosas: a) reduciendo al menos a la mitad el exceso de nutrientes que se liberan al medio ambiente, como por ejemplo mediante un ciclo y un uso más eficientes de los nutrientes; b) reduciendo el riesgo general de los plaguicidas y las sustancias químicas altamente peligrosas al menos a la mitad, incluido mediante la gestión integrada de plagas, basándose en la ciencia, teniendo en cuenta la seguridad alimentaria y los medios de vida; y c) previniendo, reduciendo y procurando eliminar la contaminación por plástico.
Meta 8	Minimizar el impacto del cambio climático y la acidificación de los océanos en la biodiversidad, y aumentar su resiliencia mediante medidas de mitigación, adaptación y reducción del riesgo de desastres, entre otras cosas por medio de soluciones basadas en la naturaleza y/o enfoques basados en los ecosistemas, al tiempo que se minimizan los impactos negativos y se fomentan los impactos positivos de la acción por el clima en la biodiversidad.
Satisfacer las necesidades de las personas mediante la utilización sostenible y la participación en los beneficios	
Meta 9	Garantizar que la gestión y el uso de especies silvestres sean sostenibles, proporcionando así beneficios sociales, económicos y ambientales para las personas, en especial aquellas que se encuentran en situaciones de vulnerabilidad y aquellas que más dependen de la biodiversidad, entre otras cosas, mediante actividades, productos y servicios sostenibles basados en la biodiversidad que la fortalezcan, y mediante la protección y promoción de la utilización consuetudinaria sostenible por los pueblos indígenas y las comunidades locales.
Meta 10	Garantizar que las superficies dedicadas a la agricultura, la acuicultura, la pesca y la silvicultura se gestionen de manera sostenible, en particular a través de la utilización sostenible de la diversidad biológica, entre otras cosas, mediante un aumento sustancial del empleo de prácticas favorables a la diversidad biológica, tales como enfoques de intensificación sostenible, enfoques agroecológicos y otros enfoques innovadores, contribuyendo a la resiliencia y a la eficiencia y productividad a largo plazo de estos sistemas de producción y a la seguridad alimentaria, conservando y restaurando la diversidad biológica y manteniendo las contribuciones de la naturaleza a las personas, entre ellas las funciones y los servicios de los ecosistemas.
Meta 11	Restaurar, mantener y mejorar las contribuciones de la naturaleza a las personas, entre ellas las funciones y los servicios de los ecosistemas, tales como la regulación del aire, el agua y el clima, la salud de los suelos, la polinización y la reducción del riesgo de enfermedades, así como la

	protección frente a peligros y desastres naturales, mediante soluciones basadas en la naturaleza y/o enfoques basados en los ecosistemas en beneficio de todas las personas y la naturaleza.
Meta 12	Aumentar significativamente la superficie, la calidad y la conectividad de los espacios verdes y azules en las zonas urbanas y densamente pobladas, así como el acceso a ellos y los beneficios que se deriven de ellos, de manera sostenible, integrando la conservación y la utilización sostenible de la diversidad biológica, y garantizar una planificación urbana que tenga en cuenta la diversidad biológica, mejorando la diversidad biológica autóctona, la conectividad y la integridad ecológicas y mejorando la salud y el bienestar de los seres humanos y su conexión con la naturaleza, así como contribuyendo a una urbanización inclusiva y sostenible y a la prestación de funciones y servicios de los ecosistemas.
Meta 13	Tomar medidas jurídicas, de políticas, administrativas y de creación de capacidad a todos los niveles, según proceda, con miras a lograr la participación justa y equitativa en los beneficios que se deriven de la utilización de los recursos genéticos y de la información digital sobre secuencias de recursos genéticos, así como de los conocimientos tradicionales asociados a los recursos genéticos, y a lograr que para 2030 se haya propiciado un aumento significativo de los beneficios compartidos, de conformidad con los instrumentos internacionales de acceso y participación en los beneficios aplicables.
Herramientas y soluciones para la implementación y la integración	
Meta 14	Garantizar la integración plena de la biodiversidad y sus múltiples valores en las políticas, los reglamentos, los procesos de planificación y de desarrollo, las estrategias de erradicación de la pobreza, las evaluaciones ambientales estratégicas y las evaluaciones de impacto ambiental, cuando proceda, las cuentas nacionales, en todos los niveles de gobierno y todos los sectores, en particular aquellos que provocan impactos significativos en la biodiversidad, armonizando progresivamente todas las actividades públicas y privadas pertinentes y las corrientes financieras y fiscales con los objetivos y las metas del presente Marco.
Meta 15	Tomar medidas jurídicas, administrativas o de políticas para alentar y habilitar a las empresas para que, y en particular, en el caso de las empresas transnacionales y las instituciones financieras, garantizar que: <ul style="list-style-type: none"> a) Hagan periódicamente un seguimiento y una evaluación de sus riesgos, dependencias de la biodiversidad e impactos en ella, y los den a conocer de manera transparente, incluido, en el caso de las grandes empresas y las empresas transnacionales e instituciones financieras, mediante el establecimiento de requisitos a lo largo de sus operaciones, cadenas de suministro y de valor y carteras; b) Proporcionen la información necesaria a los consumidores a fin de promover modalidades de consumo sostenibles; c) Informen sobre el cumplimiento de los reglamentos y medidas de acceso y participación en los beneficios, según proceda;

	con el fin de reducir progresivamente los impactos negativos en la biodiversidad, aumentar los impactos positivos, reducir los riesgos relacionados con la biodiversidad para las empresas y las instituciones financieras, y promover acciones encaminadas a lograr modalidades de producción sostenibles.
Meta 16	Garantizar que se aliente y apoye a las personas para que elijan opciones de consumo sostenible, entre otras cosas mediante el establecimiento de marcos de políticas, legislativos o normativos de apoyo, mejorando la enseñanza y el acceso a información pertinente y precisa y alternativas, y, para 2030, reducir la huella mundial del consumo de manera equitativa, entre otras cosas reduciendo a la mitad el desperdicio mundial de alimentos, reduciendo significativamente el consumo excesivo, y reduciendo sustancialmente la generación de desechos, a fin de que todas las personas puedan vivir bien en armonía con la Madre Tierra.
Meta 17	En todos los países, establecer y aplicar medidas de seguridad de la biotecnología, y fortalecer la capacidad al respecto, tal como se establece en el artículo 8 g) del Convenio sobre la Diversidad Biológica, y medidas para la gestión de la biotecnología y la distribución de sus beneficios, tal como se establece en el artículo 19 del Convenio.
Meta 18	Identificar para 2025 y eliminar, eliminar gradualmente o reformar los incentivos, entre ellos los subsidios, perjudiciales para la diversidad biológica, de manera proporcionada, justa, efectiva y equitativa, reduciéndolos sustancial y progresivamente en al menos 500.000 millones de dólares de los Estados Unidos al año para 2030, empezando por los incentivos más perjudiciales, y aumentar los incentivos positivos para la conservación y la utilización sostenible de la diversidad biológica.
Meta 19	<p>Aumentar sustancial y progresivamente, de manera eficaz, oportuna y de fácil acceso, el nivel de recursos financieros de todas las fuentes, entre ellos los recursos nacionales, internacionales, públicos y privados, de conformidad con el artículo 20 del Convenio, a fin de implementar las estrategias y planes de acción nacionales en materia de biodiversidad, movilizándolo al menos 200.000 millones de dólares de los Estados Unidos al año para 2030, entre otras cosas:</p> <p>a) Aumentando el total de recursos financieros internacionales relacionados con la biodiversidad procedentes de los países desarrollados, incluida la asistencia oficial para el desarrollo, y de los países que asuman voluntariamente las obligaciones de las Partes que son países desarrollados, para los países en desarrollo, en particular, los países menos adelantados y los pequeños Estados insulares en desarrollo, así como los países con economías en transición, al menos a 20.000 millones de dólares de los Estados Unidos al año para 2025 y al menos a 30.000 millones de dólares al año para 2030;</p> <p>b) Aumentando significativamente la movilización de recursos nacionales, facilitada mediante la preparación y aplicación de planes nacionales de financiación de la biodiversidad o instrumentos similares de acuerdo con las necesidades, prioridades y circunstancias nacionales;</p> <p>c) Apalancando la financiación privada, promoviendo la financiación combinada, aplicando estrategias de obtención de recursos nuevos y adicionales, y alentando al</p>

	<p>sector privado a invertir en la biodiversidad, entre otras cosas, mediante fondos de impacto y otros instrumentos;</p> <p>d) Estimulando planes innovadores, como pagos por los servicios de los ecosistemas, bonos verdes, compensaciones y créditos de biodiversidad y mecanismos de participación en los beneficios, con salvaguardias ambientales y sociales;</p> <p>e) Optimizando los beneficios secundarios y las sinergias de la financiación destinada a atender las crisis de la biodiversidad y del clima;</p> <p>f) Reforzando el papel de las acciones colectivas, entre ellas las de los pueblos indígenas y las comunidades locales, las acciones centradas en la Madre Tierra [1] y los enfoques no relacionados con el mercado, incluida la gestión comunitaria de los recursos naturales y la cooperación y solidaridad de la sociedad civil dirigidas a la conservación de la diversidad biológica;</p> <p>g) Reforzando la eficacia, eficiencia y transparencia de la provisión y utilización de los recursos;</p>
<p>Meta 20</p>	<p>Fortalecer la creación y el desarrollo de capacidad, así como el acceso a tecnología y transferencia de tecnología, y promover el desarrollo y el acceso a la innovación y la cooperación científica y técnica, incluido a través de la cooperación Sur-Sur, Norte-Sur y triangular, para satisfacer las necesidades de una implementación eficaz, en particular en los países en desarrollo, promoviendo el desarrollo conjunto de tecnología y programas conjuntos de investigación científica para la conservación y la utilización sostenible de la diversidad biológica y el fortalecimiento de las capacidades de investigación científica y de seguimiento, en forma acorde con el nivel de ambición de los objetivos y las metas del Marco.</p>
<p>Meta 21</p>	<p>Garantizar que los responsables de la toma de decisiones, los profesionales y el público tengan acceso a los mejores datos, información y conocimientos disponibles a fin de guiar una gobernanza eficaz y equitativa y una gestión integrada y participativa de la biodiversidad, y de fortalecer la comunicación, la sensibilización, la educación, el seguimiento, la investigación y la gestión de los conocimientos y, también en este contexto, garantizar que se acceda a los conocimientos tradicionales, innovaciones, prácticas y tecnologías de los pueblos indígenas y las comunidades locales únicamente con su consentimiento libre, previo e informado[2], de acuerdo con la legislación nacional.</p>
<p>Meta 22</p>	<p>Garantizar la participación y representación plena, equitativa, inclusiva, efectiva y con perspectiva de género de los pueblos indígenas y las comunidades locales en la toma de decisiones, y su acceso a la justicia y a información en materia de biodiversidad, respetando sus culturas y sus derechos sobre las tierras, los territorios, los recursos y los conocimientos tradicionales, así como de las mujeres y las niñas, la infancia y la juventud y las personas con discapacidad, y garantizar la protección plena de los defensores y las defensoras de los derechos humanos relacionados con el medio ambiente.</p>

Meta 23	Garantizar la igualdad de género en la implementación del Marco mediante un enfoque con perspectiva de género en el cual todas las mujeres y las niñas tengan igualdad de oportunidades y capacidad para contribuir a los tres objetivos del Convenio, entre otras cosas reconociendo su igualdad en cuanto a los derechos y el acceso a las tierras y a los recursos naturales y su participación y liderazgo plenos, equitativos, significativos e informados en todos los niveles de acción, participación, formulación de políticas y toma de decisiones relacionados con la biodiversidad.
<p>[1] <i>Acciones centradas en la Madre Tierra: enfoque eco-céntrico y basado en derechos que posibilita la implementación de acciones tendientes a lograr relaciones armónicas y complementarias entre las personas y la naturaleza, promoviendo la continuidad de todos los seres vivos y sus comunidades y garantizando la no mercantilización de las funciones ambientales de la Madre Tierra.</i></p> <p>[2] <i>En el presente Marco, la expresión “consentimiento libre, previo e informado” se refiere a la terminología tripartita de “consentimiento previo y fundamentado” o “consentimiento libre, previo e informado” o “aprobación y participación”.</i></p>	

Fuente: Marco Mundial de Biodiversidad de Kunming-Montreal (GBF)

越境生態系における持続的生物多様性保全戦略の強化に向けた提言

第1章 はじめに

生物多様性条約（Convention on Biological Diversity : CBD）は、生物多様性を『生態系、種および遺伝子の多様性から成る』と定義している。生物多様性の保全には、1) 本来の生息地内での存続を目指す生息域内保全（*in situ*）と、2) 本来の生息地とは別の場所で個体を維持しようとする生息域外保全（*ex situ*）の2つのアプローチがあるが、本提言は1)を対象とする。生息域内保全では、様々な異なる土地利用が行われている環境（生態系）で生物多様性を維持させる必要があり、これには、保全のみならず異なる利用、そして、セクターやステークホルダーを横断した包括的管理ガバナンスメカニズム、つまり共存・協働業務（cross-sectoral collaboration）体制の構築が必要である。

CBDは生物多様性保全に関する国際的枠組みを設定している。2022年12月にカナダのモントリオールで開催されたCBD第15回締約国会議（COP15）では、2030年までの新たな世界目標として昆明－モントリオール生物多様性枠組（Kunming-Montreal Global Biodiversity Framework : GBF）が採択され、行動目標として、陸域と海域のそれぞれの30%以上を保全する「30 by 30」、この実施ツールとして、保護地域以外で生物多様性保全に資する地域（Other Effective area-based Conservation Measures : OECMs）などが明示された。GBFでも、異なるセクターあるいは、国内のみならず複数国間を跨ぐ地域レベルでの取り組みによる連続性の確保を目指した協働業務が強調されている。

中米地域は世界の8%の生物多様性を有しているが、生態系の劣化によりその損失が大きな問題となっている。そのため中米統合機構（El Sistema de la Integración Centroamericana : SICA）は、地域の環境政策を主導する中米環境開発委員会（La Comisión Centroamericana de Ambiente y Desarrollo : CCAD）を発足させ、自身の地域環境活動戦略である「地域環境戦略フレームワーク（Framework Regional Environmental Strategy : ERAM）（2021-2025年）」の下、SICA地域の生物多様性の保全と持続可能な利用に貢献している。

なお、包括的管理ガバナンスメカニズムの実践ツールとして、ラムサール条約やユネスコ人間と生物圏計画（Man and the Biosphere Programme : MAB プログラム）、世界遺産条約（World Natural Heritage Site）等が効果的な国際枠組みとして広く活用されているが、このSICA地域の代表例の1つとして、グアテマラとエルサルバドル、ホンジュラスの3か国を跨ぎ、越境ユネスコ生物圏保存地域（Transboundary Biosphere Reserve : TBR）として登録されているEl Plan Trifinioが挙げられる。El Plan Trifinioでは3か国共同による生物圏管理が機能しており、世界銀行等の支援により打ち出されたメソアメリカ生物回廊構想（Mesoamerican Biological Corridor : MBC）を具体的に実施した好例と位置付けられている。

第2章 提言の目的、作成方法と構成

2.1 提言の目的・目標

本提言の目的は、SICA 地域における越境生態系における持続的生物多様性保全の強化ために、SICA-CCAD や、この加盟 8 か国担当省庁が採るべき方向性を提示することである。

CBD は、地域の多国間政府組織に対し、地域生物多様性戦略（Regional Biodiversity Strategies and Action Plans: RBSAPs）の策定を推奨しており¹、これについて中米では SICA-CCAD が果たすべき役割は大きい。このため、提言の具体的目標は、CBD-GBF に合わせた、現行 ERAM 改訂または次期 ERAM の作成と地域生物多様性戦略作成のための貢献である。

2.2 提言の作成方法

国際協力機構（Japan International Cooperation Agency : JICA）と SICA-CCAD は、SICA 地域における生物多様性の統合的管理と保全に関する能力強化プロジェクト（Project for Capacity Development on Integrated Management and Conservation of Biodiversity at regional level in SICA Region）を 2019 年から 2024 年まで実施した。プロジェクトは、生物多様性管理に関する、成果 1：地域情報プラットフォームの構築、成果 2：持続可能な開発のための実践・教訓の普及、成果 3：人資源の能力強化で構成されており、提言は、主に成果 2 の結果分析に加え、下表の越境生態系を対象に実施したパイロットプロジェクトを中心として、各成果の結果と教訓に基づいて作成した。

パイロットプロジェクト対象生態系

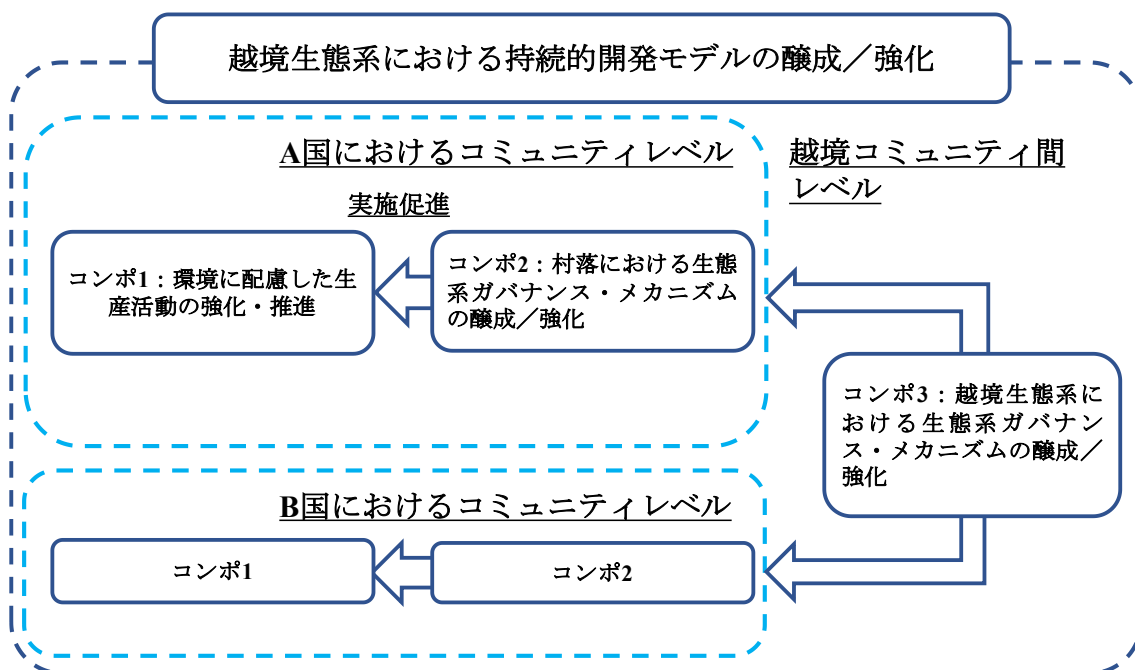
越境生態系	国	タイプ
セルバマヤ	グアテマラ、ベリーズ	国立保護区（一部・国別）
フォンセカ湾	エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグア	国立保護区（一部・国別）
ラ・アミスタ	コスタリカ、パナマ	世界遺産（二国）、BR（国別）、国立保護区（一部）
モンテクリスティ	ドミニカ共和国（SICA 非加盟国ハイチと隣接）	国立保護区（国別）

出典：JICA プロジェクトチーム

生態系の持続的利用と保全と利用には、環境に配慮した生産活動とそのガバナンスメカニズムによる適切な土地管理が必要である。このためパイロットプロジェクトは、下図に示すとおり、“コミュニティレベルでの環境に配慮した生産活動”、それを支える“コミュニティレベルでの生態系ガバナンスメカニズム”、更に、生態系連続性の維持を目的に、国境を跨ぎ同一生態系に存在するコミュニティを連携させるため“コミュニティ間生態系ガバナ

¹ UNEP/CBD/COP/DEC/X/2 ([COP Decision \(cbd.int\)](#))

ンスメカニズム”、これらの強化による、越境生態系持続的開発モデルの醸成・強化を目指した。なお、はじめに示したとおり、生態系保全では、異なる利用、セクターやステークホルダーを横断して生態系を包括的に管理するガバナンスメカニズムの構築が重要なため、パイロットプロジェクトでは、例えば、ボトムアップ型意思決定など、ステークホルダーの参加を促すための統合的、包摂的、順応的なアプローチを重視した。



出典：プロジェクトチーム

パイロットプロジェクトの構造

2.2 提言の構成

提言は、パイロットプロジェクトを中心としてデータプラットフォームやトレーニングなどから得られる教訓をタイプ別に分類し、上位レベルとして①“生態系ガバナンスメカニズムの強化”、現場レベルとして、②“環境に配慮した生産活動の強化”と③“ステークホルダー参加・協働の強化”、これらの支援体制レベルとして④“CCAD 機能の強化”の4つのテーマで構成した。なお、パイロットプロジェクトは越境生態系の非保護区に焦点を当てて実施したため、提言も越境生態系に焦点を当てているが、保護区や非越境生態系にとっても有用な面が多数ある。

第3章 提言

3.1 要約

以下および添付に提言の要約および昆明・モントリオール生物多様性枠組 2030 年ターゲットとの関連を示す。

提言要約

提言		関連 GBF ターゲ ット*1
＜生態系ガバナンスメカニズムの強化にかかる提言＞		
1) 個々の生態系の特性に適した国際的保全枠組みの活用・運用	越境生態系内の生態学的特性及び関連国間の外交関係を含む社会経済環境など、それぞれの状況に適した手法を選択・採用すべき。地域の生物多様性保全のため、複数国をまたぐ広域ランドスケープ管理を実施するには、地域指定が可能なユネスコ生物圏保存地域（Biosphere Reserve: BR）等の国際的保全枠組が効果的である。	1, 2, 3
2) BR 緩衝地域など保護区周辺の価値、優位性の向上	産品認証制度の普及などを通し、BR 緩衝地域などの価値及び土地利用に関連する優位性の向上を図ることで、地域住民の保全インセンティブを強化し、生態系保全機能を向上させることが重要である。	9,10,18
3) 多様なステークホルダーの適切な取り込み	生物多様性保全には、一次産業従事者を中心とする多様なステークホルダーの参加が重要である。適切な参加者を確実に取り込むためには、各ステークホルダーの特性や生態系保全と利用における役割を正確に理解する必要がある。	1,9,10,1 5,20,21, 22, 23
4) ステークホルダー間調整のための組織の設置	生物多様性保全における多様なステークホルダーと円滑な協働のためには、分野横断的に調整を行う機関の設置が重要である。企業に対する自然環境保全情報の開示要求により、今後、このような調整機能の重要度は更に増していくものと予測される。	1,9,10,1 5,18,20, 21, 22,23
5) 広域生態系管理ルールの設定とリソース共有の促進	野生生物には広範囲を移動する種が多く、各国の村々における自然と住民との関係には、多様性がある。自然資源の持続的利用と地域住民の生活の安定化には、広域生態系管理のルールや管理体制（ガバナンス）の構築が必要である。	3,4,5,9,1 0

提言		関連 GBF ターゲット*1
6) 生態系・生物多様性の幅広い価値の評価と可視化	生態系保全には、ステークホルダー間における生態系と生物多様性の物質的、非物質的価値に関する適切な理解と共有が不可欠である。このため、生態系の本来の価値を正確に評価し、可視化、情報共有することが重要である。	4,5,9,10, 14,15,20 ,21,22
7) 生物多様性保全と気候変動対策の連携による相乗効果の発現	生物多様性保全と気候変動対策は、トレードオフと相乗効果の双方の関係を有する。後者の効果的発現には、実務レベルにおいて両者の連携を強化する必要がある。	8
＜環境に配慮した生産活動の強化にかかる提言＞		
8) 経済便益を意識し易い環境配慮型生産活動の導入と指導の推進	生物多様性保全には、直接的に土地を利用する／改変する第一次産業による生態系への配慮が求められる。この効率的実施には、経済便益を意識し易い環境配慮型生産技術の導入をもって、具体的便益を示したうえで分かりやすく説明する必要がある。	8,9,10,11
9) 適切な生態系資源利用基準・制限の設定	生態系管理の規則は、科学的根拠に加え地域住民の生活を十分に考慮し設定する必要がある。不適切なルール設定は規則の形骸化の原因となり、更には、特に広域生態系においては、不公平感を生むリスクを伴う。	3,7,9,10
10) 市場・商業に関する基礎知識の強化による効果的な一次産業強化	第一次産業における所得の低下は、さらなる生態系の劣化に繋がるリスクを伴うことから、様々な努力が行われている。目標達成には、生産者と支援者双方の市場・商業に関する基礎知識を強化する必要がある。	9,10
11) ローカル資源の再評価・利活用の促進	地元資源の認識と活用は、地域の持続的開発と生物多様性保全に寄与するが、地域間や世代間での情報共有不足は、環境劣化を招くリスクを伴う。このため、資源を再評価したうえで、更なる情報共有と利活用を促進する必要がある。	9,10,14, 21
＜ステークホルダー参加・協働強化にかかる提言＞		
12) コミュニティ特性の総合的分析に基づく共有資産・意識の把握	効果的な生態系ガバナンスメカニズムの構築には、対象地域住民の生態系共有意識を正確に把握する必要がある。このためには、土地所有制度をはじめとする社会システムや経済活動の特徴など、住民が持つ共有意識を総合的に分析、把握し、適切な対象組織を選定する必要がある。	1,5,9,22, 23
13) コミュニティの住民・社会構成に配慮した参加型ボトムアップアプローチの強化	コミュニティ主導の生態系保全ガバナンスメカニズムの構築には、住民参加型のボトムアップアプローチが有効である。なお、アプローチの適切な採用には、ジェンダーや世代間など、コミュニティ内の社会構造に関する深い理解が重要である。	9,22,23

提言		関連 GBF ターゲット*1
14) DX 利用による興味ある人々の取り込みの加速	デジタル技術の発達により、国やセクターを超えるネットワーク構築が容易かつ安価となった。生物多様性保全でもより多くのステークホルダーの参加を促す手段として、iNaturalist などの活用を加速させる必要がある。	20,22,23
<CCAD 機能の強化>		
15) CCAD の CBD 地域センター化による地域生物多様性保全機能の強化	生物多様性保全には、生物回廊等による県や国を跨ぐ土地/ランドスケープの連結性確保が極めて重要であり、そのためには、地域のキャパシティビルディング拠点が重要な役割を担う。そのための CBD 事務局は、条約の議決に則り地域センターを選抜している (CBD/COP/DEC/15/8)。CCAD が中米の地域センターとして選定された場合には、GBF に配慮しつつ ERAM を改訂することで、CCAD の国際的地位と機能を向上させ、SICA 地域の生物多様性保全をより一層強化することを推奨する。	1-23

出典：プロジェクトチーム

*1：昆明・モンリオール生物多様性枠組 2030 年ターゲット（参照：下表）

昆明・モンリオール生物多様性枠組 2030 年ターゲット（略訳）

<生物多様性への脅威を減らす>
1. すべての地域を参加型・統合的で生物多様性に配慮した空間計画下及び/又は効果的な管理プロセス下に置く
2. 劣化した生態系の 30%の地域を効果的な回復下に置く
3. 陸と海のそれぞれ少なくとも 30%を保護地域及び OECM により保全 (30 by 30 目標)
4. 絶滅リスクを大幅に減らすために緊急の管理行動を確保、人間と野生生物との軋轢を最小化
5. 乱獲を防止するなど、野生種の利用等が持続的かつ安全、合法的なものにする
6. 侵略的外来種の導入率及び定着率を 50%以上削減
7. 環境中に流出する過剰な栄養素の半減、農薬及び有害性の高い化学物質による全体的なリスクの半減、プラスチック汚染の防止・削減
8. 自然を活用した解決策/生態系を活用したアプローチ等を通じた、気候変動による生物多様性への影響の最小化
<人々のニーズを満たす>
9. 野生種の管理と利用を持続可能なものとし、人々に社会的、経済的、環境的な恩恵をもたらす
10. 農業、養殖業、漁業、林業地域が持続的に管理され、生産システムの強靱性及び長期的な効率性と生産性、並びに食料安全保障に貢献
11. 自然を活用した解決策/生態系を活用したアプローチを通じた、自然の寄与(NCP)の回復、維持、強化
12. 都市部における緑地・親水空間の面積、質、アクセス、便益の増加、及び生物多様性を配慮した都市計画の確保
13. 遺伝資源及びデジタル配列情報(DSI)に係る利益配分の措置をとり、アクセスと利益配分(ABS)に関する文書に従った利益配分の大幅な増加を促進

<ツールと解決策>

14. 生物多様性の多様な価値を、政策・方針、規制、計画、開発プロセス、貧困撲滅戦略、戦略的環境アセスメント、環境インパクトアセスメント及び必要に応じ国民勘定に統合することを確保
15. 事業者（ビジネス）が、特に大企業や金融機関等は確実に、生物多様性に係るリスク、生物多様性への依存や影響を評価・開示し、持続可能な消費のために必要な情報を提供するための措置を講じる
16. 適切な情報により持続可能な消費の選択を可能とし、食料廃棄の半減、過剰消費の大幅な削減、廃棄物発生的大幅削減等を通じて、グローバルフットプリントを削減
17. バイオセーフティのための措置、バイオテクノロジーの取り扱いおよびその利益配分のための措置を確立
18. 生物多様性に有害なインセンティブ（補助金等）の特定、及びその廃止又は改革を行い、少なくとも年間 5,000 億ドルを削減するとともに、生物多様性に有益なインセンティブを拡大
19. あらゆる資金源から年間 2,000 億ドル動員、先進国から途上国への国際資金は 2025 年までに年間 200 億ドル、2030 年までに年間 300 億ドルまで増加
20. 能力構築及び開発並びに技術へのアクセス及び技術移転を強化
21. 最良の利用可能なデータ、情報及び知識を、意思決定者、実務家及び一般の人々が利用できるようにする
22. 女性及び女兒、子ども及び若者、障害者、先住民及び地域社会の生物多様性に関連する意思決定への参画を確保
23. 女性及び女兒の土地及び自然資源に関する権利とあらゆるレベルで参画を認めることを含めたジェンダーに対応したアプローチを通じ、ジェンダー平等を確保

出典：昆明・モンリオール生物多様性枠組、プロジェクトチーム

3.2 プロジェクトの教訓等に基づく提言解説

<生態系ガバナンスメカニズムの強化にかかる提言>

1) 個々の生態系の特性に適した国際的保全枠組みの活用・運用

越境を中心とする生態系の連続性の保持のため、世界遺産やラムサール湿地、BR、OECM 等の国際的保全枠組みの活用促進を提言する。

生物種の存続には、遺伝子の交流を可能とする生態系の連続性が重要であり、そのためには、生態系を人為的に分割する行政区分を越え、多様なステークホルダーが協働可能な管理枠組みが必要である。異なる政治・経済・社会システムを有する複数の国を跨ぎ存在する越境生態系では、この必要性は顕著である。例えば、パイロットプロジェクトの対象生態系である、コスタリカとパナマを跨ぐ越境生態系であるラ・アミスタ国際公園は、2 国共同で、国際的枠組みである世界自然遺産（World Natural Heritage Site）に登録されており、この管理組織として設立された二国間技術委員会（Unidad Tecnica Binacional : UTEB）が、定期会合（年二回）を通じた保全目標や戦略、活動情報の共有、現場での実際の共同活動を通じ国際公園を良好に管理している。

これら枠組みの採用・運用では、関係国間の外交関係や合意事項、政治・社会・経済状況、文化の違いなどそれぞれの生態系固有の特性を十分に考慮し、選定、推進する必要がある。例えば、前述の El Trifinio の場合、上記のラ・アミスタとの類似性がみられ、上位レベル

の政治的合意に基づき形成された三か国委員会を中核に共同開発・管理が行われている。他方、国境に関する外交関係に不安定要素を抱える越境生態系や関係国間では、政治や社会経済状況が大きく異なる生態系もある。以上より、本プロジェクトの経験に基づき、3つの越境生態系管理基本形を下表のとおり取り纏めた。

越境生態系に含まれる国同士の政治的合意が難しい場合	国境に関する外交関係に不安を有する地域では、越境生態系協働管理に係る政治的合意は容易ではない。しかしこのような状況でも、各国管轄省庁の技術者には、越境生態系保全の重要性を認識・共有している場合が少なくない。したがって、各国単独で対象生態系保全を行いつつも、技術者レベルでそれぞれの計画やその進捗の共有を図る事により、両国で概ね整合性のある越境生態系保全を進めることが可能と考えられる。また、具体的な実施方法として、非政府団体（NGO）の活用・連携も前向きに検討すべきである。
越境生態系に含まれる国同士が開発計画（含、土地利用）等を共有している場合	エルサルバドル、ニカラグア、ホンジュラスを跨ぐフォンセカ湾など、複数国共同でのマスタープラン ² が策定されている地域では、これを起点に、上位レベルでの政治的合意の締結し、BRなど登録手続きが比較的容易な枠組みを用いた共同管理の実現が期待される。
越境生態系に含まれる国同士が当該地域の自然環境を共同管理の方針を有しこれを実現している場合	コスタリカ、パナマのラ・アミスタのように、既に共同管理が行われている場合は、更なる管理の充実が期待される。ラ・アミスタの場合、世界遺産登録は二国間であるが、BR登録はコスタリカ、パナマ個別の登録である。BRも越境BRとして登録できれば、世界遺産条約との協働管理が可能となり、活動の幅が広がるものと予測される。

出典：プロジェクトチーム

2) BR 緩衝地域など保護区周辺の価値、優位性の向上

BR 緩衝地域など、生態系保全上、より大きな役割が求められる地域について、その地域の価値、アドバンテージの活用促進を提言する。BR の意義や価値は行政や支援組織、専門家は認識しているが、現場の最重要ステークホルダーである住民は、この意義や価値、そしてアドバンテージの活用方法を十分に認識していない、または実感できていない。このため、初歩的な対応としては、保護区周辺の価値にかかる啓発や、次の段階として産品認証制度の普及などにより、周辺地域の価値の認識、他地域のとの差別化による地域アドバンテージの利用を促す必要がある。

ラ・アミスタはコスタリカ、パナマそれぞれの政府により BR に登録されており、パイロットプロジェクト対象コミュニティはこの緩衝地区に位置する。認証制度コスタリカ側コミュニティが位置するコト・ブルス郡政府は、Ruta de Agua という地域ブランディングのイニシアティブを開始、同一の生態系に位置し、異なる観光資源を有するパナマ側との連携を望んでおり、このような取り組みと BR 産品認証など国際枠組みでの認証制度との連

² 02.Resumen_Ejecutivo_Plan_Maestro_BCIE.pdf の通り、2019 年に中米経済統合銀行によりフォンセカ湾における経済開発マスタープランが策定され、マングローブによるコリドー保全も活動の一つに挙げられている。

携が推奨される。なお、同じくパイロットプロジェクト対象であるモンテクリスティのサラディージャ湖では、保護区の境界でさえ十分に認識されていない状況であったため、この改善の一步として境界線を示す看板を設置した。

3) 多様なステークホルダーの適切な取り込み

生物多様性保全活動における多数のステークホルダーの取り込みの強化を提言する。この重要性は「はじめ」にも述べているが、より具体的な例として、GBF 目標 10 “生物多様性の保全・回復ならびに生態系機能の健全化のためには、農業、漁業をはじめとした第一次産業を持続可能な手法で実践することが、地域住民の生計を確保するセーフガードの面からも必要である“、が挙げられる。

パイロットプロジェクトでは、例えば、モンテクリスティとラ・アミスタでは特徴の異なる多数のステークホルダーが存在した。前者では、サラディージャ湖（保護区）の内部と周辺で、湖の水を利用した農業、畜産、漁業が広く営まれており、更に、これらを管理または支援する複数の組織が存在している。近隣地区には港湾やこれに付随する産業団地や発電所の建設も進められており、これらも湖の生態系に影響を及ぼすステークホルダーとなっている。後者では、法定保護区を囲む緩衝地域全域でコーヒー生産や放牧などの農業が行われており、これに関わる多数のステークホルダーが存在、更に、国境を跨いだステークホルダーとしてパナマ先住民ノベ・ブグレ族がいる。ノベ・ブグレ族はパナマとコスタリカの間を移動しながらコーヒー栽培を支援する季節労働者で、両国のコーヒー産業に不可欠な存在であると同時に、伝統的に行われる動植物の狩猟・採取など、キャリングキャパシティを超えると生態系に負の影響を及ぼしえる活動を有する存在でもある。多様なステークホルダーの取り込みには、その存在はもちろん、生態系保全と利用にかかるそれぞれの役割など特性を適切に把握する必要がある。

4) ステークホルダー間調整のための組織の設置

上記 3) のとおり、生物多様性保全では多様なステークホルダーとの協働が必須となっている。この協働の円滑な実施には、異なるステークホルダーを横断的に活動する調整機能が不可欠であり、これを担当する機関の強化、設置を提言する。

ラ・アミスタのパイロットプロジェクトでは、コスタリカ側で農業省傘下・農牧業ローカルセクター委員会（Comité Sectorial Locales Agropecuarios : COSELES）の協力を得た。COSELES は農村部の開発にかかる各関連機関と受益者間の調整の役割を担っており、パイロットプロジェクトでも受益者選定から複数機関との活動実施調整まで幅広く担当し、パイロットプロジェクトの効率的運営に大きく寄与した。

近年、自然関連財務情報開示タスクフォース（Taskforce on Nature-related Financial

Disclosures : TNFD)や欧州森林破壊防止規則 (EU Regulation on Deforestation-free Products : EUDR) を代表に、物理的には生態系の外で事業を展開するが、間接的にのみ生物多様性を利用する企業に対しても、自然保全関連情報の開示を求める動きが高まっているおり、企業の保全活動への参加拡大が期待される。一方で、これはステークホルダーの一層の多様化であり、この期待を効果的に活用、適正にモニタリングするためにもステークホルダー調整機能の強化は不可欠である。

5) 広域生態系管理ルールの設定とリソース共有の促進

魚や貝などの移動性生物を代表に、生態系の動植物は広い範囲に居住する多くの住民により共有、利用、これらの生活を支えている。この利用の持続性の確保、ひいては生態系と地域住民の生活の安定化の目的として、広域生態系管理マスタープラン等を通じ広域での利用やモニタリング・ルールを含む管理計画の設定・導入を促すことを提言する。

フォンセカ湾でのパイロットプロジェクトでは、湾全体の共通資源である貝を対象に、養殖のための越境協力を試みた。エルサルバドルはフォンセカ湾 3 か国の中で唯一稚貝生産施設を有しており、ここで生産される稚貝をホンジュラスへの輸出、活用した。輸出プロセスでは、動植物防疫など衛生管理関連手続きの確認と実施に約 8 か月という長い時間を費やした。一部の衛生検査は両国で対応できず、コスタリカで実施した。広域生態系管理では、例えば貝の場合、捕獲可能サイズなど共通の利用ルールの設定に加え、上記の経験にも関連し、例えば輸出ルールの明確・簡易化など資源生産リソースの共有を加速する活動も含むべきである。これにより、回復も含む保全と利用のバランスがとれたより現実的な管理体制の構築が可能となる。

6) 生態系・生物多様性の幅広い価値の評価と可視化

生態系保全では、ステークホルダー間での生態系とそこに存在する生物多様性の価値に関する詳細な理解と共有が欠かせない。この価値は、一般的には、生息地の種類、生息種、脅威のレベル、生息種等の豊かさ、稀少さ、多様性、連結性等、定量化が容易な指標で示されるが³、実際には、このような物質的価値に加え、非物質的価値 (Non-material Nature Contributions to People: Non-material NCP) も有する。こえらは生活の質 (Quality of Life) など人間の幸福にも深く結び付けられ⁴、文化的サービスと同義であり、学習・インスピレーション、身体・心理的体験、アイデンティティの形成などで構成される⁵。例えば、多様な生物の意義や役割や生態系の中に生きる伝統的知見やアイデンティティを学び、感じる事などが当てはまると考えられ、これらは人間の生態系保全に関する行動変容をもたらす

³ Transforming Biodiversity Governance, 2022, Earth System Governance/Cambridge University Press

⁴ [r1-2_13.pdf \(biodic.go.jp\)](#)

⁵ [r1-2_13.pdf \(biodic.go.jp\)](#)

重要なステップでもある。このような、非物質的な価値も適切に評価、共有し、生態系の本来の価値を十分に認識する必要がある。

また、価値の可視化を可能とする情報の確保も重要である。例えば、生態系の物理的な連続性が重要性であるが、パイロットプロジェクトの経験から、地域住民は、連続する生態系の認識とその重要性に関する知識が不十分と思われる。モンテクリスティのラグーナ・サラディージャ湖では、生態系に関する科学的なデータがほぼ無い状況であった。以上より、生態系モニタリングの強化、特に連続性については、鳥類やジャガーの広範囲での移動の視覚化の強化を提言する。なお、このツールの一つとしては後述 14) の DX 利用が推奨される。

7) 生物多様性保全と気候変動対策の連携による相乗効果の発現

生物多様性保全と気候変動対策とのトレードオフを解消、相乗効果を発現させるため両者とこれらの実施者の結びつき強化を提言する。

気候変動対策としてのバイオマスエネルギー生産はトウモロコシやサトウキビなどのモノカルチャーを加速させる要因となり、同様に、気候変動対策としても貢献する水力発電は自然循環を大きく変化させる可能性が高いため、生態系保全には好ましいものではない。つまり、生物多様性保全と気候変動対策の間にはトレードオフの関係が存在する。一方で、気候変動対策の主要対策としてカーボンオフセットに用いられる植林に代表される自然由来の解決策（Nature-based Solutions : NbS）は、森林回復や農業生態系保全という形で生物多様性保全に資する。パイロットプロジェクトでも、例えば、フォンセカ湾で取り組んだ生物の生息域の拡大を目的としたマングローブ植林や多様性回復も目的とした貝養殖は、ブルーカーボンとして気候変動対策にも有用である。このように、生態系保全と気候変動の双方に有用で相乗効果が期待できる活動も多い。

生態系保全と気候変動対策の重要性が年々増している中、トレードオフを解消、このような相乗効果発現すべく、関係者間の連携を加速する必要がある。CCAD は、SICA の中米農業委員会（Consejo Agropecuario Centroamericano : CAC）と共同で AFOLU 2040 という気候変動対策イニシアティブを実施しており、今後も同様の連携の強化が期待される。

<環境に配慮した生産活動の強化にかかる提言>

8) 経済便益を意識し易い環境配慮型生産活動の導入と指導の推進

生物と人間が同一生態系で生活する状況が増加する中、生物多様性保全と人間の所得手段である農業や漁業など第一次産業との関係は深度を増している。第一次産業は直接的に生態系を利用する行為であるため、深度の進化と共に生態系へのより一層の配慮が求められる

る。しかしながら、第一次産業が唯一の所得手段であるケースでは、特に、利益最大化が優先される。このため、経済便益を意識しやすい環境配慮型生産技術の導入、技術指導などにおける経済便益が分かり易い説明方法の強化を提言する。

利益獲得と生物多様性保全が両立するケースは多い。例えば、ラ・アミスタのパイロットプロジェクトでは、コーヒー、養蜂と植林を組み合わせた。蜂と樹木は生物多様性そのものである、同時に樹木は蜂の餌やコーヒーの日陰樹としても活躍、それらの生産性を高める要素にもなる。これらの効果の発現は中長期を要するものが多いため、技術指導では、この経済便益を分かり易く、できる限り定量的に示す必要がある。

なお、生産活動における環境配慮の方法としては、保護や回復策、軽減策や循環利用策が考えられるが、中でも、作物残渣などを利用した堆肥や農薬製造など循環利用、またはこれらの利用による化学農薬や化学肥料の削減が、経済便益が分かり易くより受け入れやすいと考えられる。

9) 適切な生態系資源利用基準・制限の設定

上記の 5) で広域生態系管理ルールの設定の重要性を説明したが、ここに含まれる利用基準や制限は、科学的根拠に加え地域住民の生活を十分に勘案した現実的なものとするを提言する。

エルサルバドルのパイロットプロジェクトでは、生計向上と資源回復の双方を目的に貝養殖を試行した。住民は保護区内の干潟で貝を捕獲しているが、ここでの貝の捕獲基準は、貝殻の長さ 10 cm 以上である。成長速度から大まかに推定すると、10 cm の成長には 10 年が必要で、これは周辺住民の生計維持の観点から現実的とは言えず、実際、コミュニティ住民はこの基準を意識していなかった。つまり、住民生活への配慮の不足が基準形骸化の原因になっている。以上より、管理基準や制限は、科学的根拠と周辺住民の生活の双方を十分に配慮し設定される必要がある。また特に、越境生態系のように複数の国をまたがる場合は、一部の国が基準・制限を設定しない、あるいは基準・制限が異なる場合、不公平感により保全効果は大きく損なわれるため、5) に示す広域、生態系全体とでのルールの設定が極めて重要である。

10) 市場・商業に関する基礎知識の強化による効果的な一次産業強化

より効率的な生物多様性保全と第一次産業の共存のため、生産者、支援側の双方の市場・商業面の知識の強化を提言する。

上記のはじめにや 3)、8) に述べた通り生物多様性と、これを利用した産業である第一次産業の関係は深い。第一次産業の低迷とこれに付随する所得低下は、農地拡大など生態系破壊の引き金となるなど、負の関係があるため、パイロットプロジェクトも含め、第一次産

業強化のための多くの努力がなされている。しかし、生産者、支援側双方で商業の知識が不足しており、これら努力が適切に機能しないケースは少なくない。例えば、生態系保全と生計向上の両立手段として有機栽培があるが、コスタリカとパナマのパイロットプロジェクトで開催した二国間支援機関保全検討会では、「コーヒーの有機栽培は、付加価値化の手段というより、国際市場で販売するための最低条件という理解が正しい」、「コーヒーの価格要素は有機か否かではなく、シンプルに味」という、実際の市場の現状に基づく異なる意見が聞かれた。また支援では、価格や所得増が重視・強調されがちであるが、実際には費用減が取り組みやすい対策であるという現実もある。例えば、ニカラグアパイロットプロジェクトの鯛養殖では、鯛が食べきれない程の餌を高い頻度で与え、費用増の原因となっていた。このため、鯛の成長に合わせた適切な給餌方法を導入し費用を削減、更に、食べ残しが減ることによる水質改善という生態系保全にもつながった。このような現実の市場・商業に関する基礎知識を、生産者、そして生態系の保全と利用の支援を行うそれぞれが持つことにより、効率的な一次産業の強化、ひいては生物多様性保全の実現に必要なである。

11) ローカル資源の再評価・利活用の促進

ローカル資源の適切な認識と活用は、地域の持続的開発と生物多様性保全インセンティブの向上のための一策である。しかしこの資源は、伝統・文化的な要素もあり、近代化による伝統・文化の喪失と共に失われる可能性があると考えられる。また、一般論として閉鎖性の高い地方部においては、知識や知見の不足により認識されていない資源や利用方法もあると考えられる。このため、ローカル資源の再評価の取り組みにより、この利活用促進を図ることを提言する。

パイロットプロジェクトでも、幾つかのローカル資源の利活用の可能性が確認された。セルバマヤのベリーズでは未利用のトマト自生種、ホンジュラスでは、広く知られているが本来の価値が活かされていない貝、コスタリカではコーヒー生産や養蜂に有効な樹種や草花、パナマではメキシコなどでは価値が高いはちみつとして市場が確立されている自生蜂、ドミニカ共和国では、湖の生態系を脅かす外来種である一方で食用または動物用の餌に利用可能と考えられるナマズなどである。

<ステークホルダー参加・協働強化にかかる提言>

12) コミュニティ特性の総合的分析に基づく共有資産・意識の確認

実効性の高い生態系ガバナンスメカニズムの構築には、対象となる地域の住民が生態系を共有資産として認識していることが鍵である。住民が共有していると感じる生態系の内容

は、土地所有制度・形態などの社会システムを中心に、その他、地域やコミュニティ形成の歴史、経済活動の種類や実施方法、アクセスなど様々な要素の影響を受け決定されている。したがって、ガバナンスメカニズム構築支援では、このような多岐に渡る側面を総合的に分析・評価、支援対象とする生態系および組織を決定することを提言する。

パイロットプロジェクトの対象コミュニティは、それぞれが異なる特性を有していた。例えば、セルバマヤ・グアテマラのコミュニティが保護区内に隔離された僻地である一方で、モンテクリスティのコミュニティは国境の要所に位置し、商業が盛んで各地へのアクセスも良い場所に位置している。同様に、前者ではコンセッションという明確な形でコミュニティが森林を共同利用しているのに対し、後者では無計画な状態で保護区内の湖の水が利用されている。ラ・アミスタのコミュニティでは利用と所有の双方で住民が、コンセッションのように明確に権利という形で共有している資源は無かった。これらの特性がパイロットプロジェクトの計画・設計、実施・運営に影響を与えた。

なお、一般的傾向として、社会的距離が生まれやすい移民コミュニティや僻地コミュニティ、森林コンセッションなど明確な共有資産（生態系）がある場合においては、住民の連帯の意識が高く、また生態系の共有意識が高かった。また、コーヒーなど、同様の生態系を利用し同一産品を生産しているグループでも共有意識が高いと感じられ、ステークホルダーの積極参加による効率的生態系ガバナンスメカニズム構築上の一つのポイントであると考えられる。

13) コミュニティの住民・社会構成に配慮した参加型ボトムアップアプローチの強化

コミュニティの積極参加による生態系保全ガバナンス・メカニズムの構築には、参加型のボトムアップのアプローチが有効である。住民主導で計画・実施・モニタリング・評価を行うことにより、彼らの活動実施能力が向上され、更には活動イニシアティブを促進することができる。生態系保全ガバナンスメカニズムの構築における、このアプローチの積極採用を提言する。

参加型アプローチは、コミュニティ住民を集めるだけでは不十分であり、前段階、および活動過程で、ジェンダーや世代間など、グループの存在といったコミュニティ内の構造を十分に把握、配慮して行う必要がある。なお、公平性とリーダーシップがガバナンスの持続性を左右する重要要素であることから、このような素養を備えた人材を見抜くよう努め、事前の承認⁶を通し、このような人材をガバナンス組織のリーダーに据え育成することも重要である。

⁶ Free Prior Informed Consent (FPIC)

14) DX 利用による興味ある人々の取り込みの加速

デジタル技術による DX の発展と普及により、国やセクターの垣根を跨いだ人々のネットワーク構築は容易かつ安価なものとなった。このため、仮想コミュニティなどを通じた人々の生物多様性保全への取り込みの加速を提言する。

フォンセ湾のパイロットプロジェクトでは、カリフォルニア科学アカデミーが運営する無料生物観察アプリケーション“iNaturalist”を利用したコミュニティ間共同生物多様性モニタリングを試みた。iNaturalist は、操作方法の分かり易さに加え、科学的に観察生物を同定するという学術的価値もあり、全世界で広く活用されている。コスタリカやパナマは国レベルでのプロジェクトを構築済みであり、データが日々蓄積されている。パイロットプロジェクトでは、参加者の多くがアプリケーションに不慣れな年配者であったことや農業や漁業の現場にはスマートフォンを持ちこまない習慣が原因となり、全体としては観測数が伸び悩んだ。一方、若年・中堅の自然に興味のある数名は観測数を順調に伸ばした。一般的事項ではあるが、ここからも DX 利用はコミュニティの将来を支える若手に有効であり、この層を対象とした観測数や内容に関するコンクールなどを開催、観察数像のインセンティブを高めると、これまでは入手不可能であった膨大なデータの蓄積が可能となる。また、ラ・アミスタのパイロットプロジェクトでは WhatsApp Group を利用し技術アドバイスや会議調整を行ったが、支援側技術者の丁寧な対応もあり、メッセージや画像、動画を使った予想を大きく超える頻度と内容のコミュニケーションがなされ活動の効率化につながった。

<CCAD 機能強化にかかる提言>

15) CCAD の CBD 地域センター化による地域生物多様性保全機能の強化

先の世界目標である愛知目標（2011～2020 年）が採択された、生物多様性条約第 10 回締約国会議（CBD-COP10、2010 年）では、地域機関に対し、“国の行動を補完・支援し、上記目標の実施に貢献する手段として、地域ターゲットの合意を含め、適宜、生物多様性地域戦略の策定または更新を検討するよう促す”と勧告している⁷。更に、愛知目標の後継である昆明－モントリオール生物多様性枠組（GBF）を採択した COP15（2022 年）では、地域レベルでの能力強化の必要性が議論され、地域毎に能力強化拠点（地域センター）を選定し、そこを拠点として技術移転を展開するというより具体的な策が議論され⁸、生物多様性保全における地域レベルの対応、この実効に中心的役割を担う地域機関の重要度が日

⁷ CBD/COP/DEC/10/2: [Convention on Biological Diversity \(cbd.int\)](http://www.cbd.int/convention)

⁸ CBD/COP/DEC/15/8: [15/8. Capacity-building and development and technical and scientific cooperation \(cbd.int\)](http://www.cbd.int/15/8)

増しに高まっている。

この提言策過程で、CCADは中米地域の地域センターとなるべく申請書をCBDに提出済みである。最終選定は、2024年10月に開催予定のCBD-COP16の場で行われる予定である。CCADが地域センターとして選ばれた場合、例えばGBFで重要な生物多様性保全ツールとして掲げられているOECMの地域指針の設定やモニタリングなど、地域レベル生物多様性保全への貢献拡大に関するに多様な可能性が生まれる。センターとして選ばれた場合、特に地域レベルでの支援資金呼び込みの強化が期待されていることに鑑み、地域戦略の事前検討も提言する。

提言の要約および昆明・モンリオール生物多様性枠組 2030年ターゲットとの関連

		越境生態系における持続的生物多様性保全戦略の強化に向けた提言														
		1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)
		<生態系ガバナンス・メカニズムの強化にかかわる提言>							<政策に促進した自然資源の強化にかかわる提言>							
		1) 個々の生態系の特性に適した国際的保全枠組みの活用・運用 2) BIR保護地域など保護区域の価値、機能的性の向上 3) 多様なステークホルダーの適切な取り込み 4) ステークホルダー間調整のための組織の設置 5) 広域生態系管理・ルール・政策とリンクを共有の促進 6) 生態系・生物多様性の幅広い価値の評価と可視化 7) 生物多様性保全と気候変動対策の連携による相乗効果の発現 8) 経済福祉を促進し高い環境意識を醸成する活動の導入と推進の促進 9) 適切な生態系資源利用基準・枠組の策定 10) 市場・商業に関する基礎知識の強化による効果的な気候変動 11) ローカル資源の管理・利益の促進 12) コミュニティ特性の総合的分析に基づく共有資源・意識の促進 13) コミュニティの住民・社会組織を促進した参加型ガバナンス・アプローチの強化 14) DX活用による興味ある人々の取り込みの促進 15) CCAD/CAD地域センター化による地域生物多様性保全機能の強化														
昆明・モンリオール生物多様性枠組 2030年ターゲット	<生物多様性への脅威を減らす>															
	1) すべての地域を参加型・統合的で生物多様性に配慮した空間計画下及び又は効果的な管理プロセス下に置く															
	2) 劣化した生態系の30%の地域を効果的な回復下に置く															
	3) 陸と海のそれぞれ少なくとも30%を保護地域及びOECDにより保全 (30 by 30目標)															
	4) 絶滅リスクを大幅に減らすために緊急の管理行動を確保、人間と野生生物との軋轢を最小化															
	5) 乱獲を防止するなど、野生種の利用等が持続的かつ安全、合法的なものにする															
	6) 侵略的外来種の導入率及び定着率が50%以上削減															
	7) 環境中に流出する過剰な栄養素の削減、農業及び有害性の高い化学物質による全体的なリスクの削減、プラスチック汚染の防止・削減															
	8) 自然を活用した解決策/生態系を活用したアプローチ等を通じた、気候変動による生物多様性への影響の最小化															
	<人々のニーズを満たす>															
	9) 野生種の管理と利用を持続可能なものとし、人々に社会的、経済的、環境的な恩恵をもたらす															
	10) 農業、養殖業、漁業、林業地域が持続的に管理され、生産システムの強靱性及び長期的な効率性と生産性、並びに食料安全保障に貢献															
	11) 自然を活用した解決策/生態系を活用したアプローチ等を通じた、自然の寄与(NCP)の回復、維持、強化															
	12) 都市部における緑地・親水空間の面積、質、アクセス、便益の増加、及び生物多様性を配慮した都市計画の確保															
	13) 遺伝資源及びデジタル配列情報(DSI)に係る利益配分の措置をとり、アクセスと利益配分(ABS)に関する文書に合った利益配分の大幅な増加を促進															
	<ツールと解決策>															
	14) 生物多様性の多様な価値を、政策・方針、規制、計画、開発プロセス、貧困撲滅戦略、戦略的環境アセスメント、環境インパクトアセスメント及び必要に応じ国民決定に統合することを確保															
	15) 事業者（ビジネス）が、特に大企業や金融機関等は確実に、生物多様性に係るリスク、生物多様性への依存や影響を評価・開示し、持続可能な消費のために必要な情報を提供するための措置を講じる															
	16) 適切な情報により持続可能な消費の選択を可能とし、食料廃棄の削減、過剰消費の大幅な削減、廃棄物発生量の大幅削減等を通じて、グローバルフットプリントを削減															
	17) バイオセーフティのための措置、バイオテクノロジーの取り扱いおよびその利益配分のための措置を確立															
18) 生物多様性に有害なインセンティブ（補助金等）の特定、及びその廃止又は改革を行い、少なくとも年間5,000億ドルを削減するとともに、生物多様性に有益なインセンティブを拡大																
19) あらゆる資金から年間2,000億ドル動員、先進国から途上国への国際資金は2025年までに年間200億ドル、2030年までに年間300億ドルまで増加																
20) 能力構築及び開発並びに技術へのアクセス及び技術移転を強化																
21) 最良の利用可能なデータ、情報及び知識を、意思決定者、実務家及び一般の人々が利用できるようにする																
22) 女性及び若人、子ども及び若者、障害者、先住民及び地域社会の生物多様性に関連する意思決定への参加を確保																
23) 女性及び若人の土地及び自然資源に関する権利とあらゆるレベルで参加を認めることを含めたジェンダーに対応したアプローチを通じ、ジェンダー平等を確保																

添付 3: PDM

当初（バージョン 1.1 RD 添付版）（英語、スペイン語）

Project Design Matrix

(Version 1.1 Dated 30 March 2018)

Project Title: Project for Capacity Development on Integrated Management and Conservation of Biodiversity at regional level in SICA Region

Implementing Agency: Eight (8) CCAD Member Countries in coordination with SICA-CCAD

Target Group: Relevant personnel of CCAD member countries in coordination with SICA-CCAD

Period of Project: five (5) years

Project Site: SICA region (eight (8) member countries in coordination with SICA-CCAD)

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption
Overall Goal			
Regional institutional framework and governance on biodiversity conservation and sustainable use in the SICA region is strengthened.	1. Regional Environmental Strategy Framework (ERAM) is revised by utilizing information and database of the regional information platform.	CCAD publication/reports Publication/Website	SICA and its member countries keep high priority on biodiversity conservation and sustainable resource utilization.
Project Purpose			
Management capacity on utilization and conservation of biodiversity of member countries in coordination with SICA-CCAD is strengthened.	1. The regional information platform is referred to for making policies, plans and reports related to biodiversity. 2. At least one activity on utilization and conservation of biodiversity which refer to the knowledge and experiences of the Project is introduced in each member countries.	Interview to C/Ps CCAD publication/reports Publication/Website	Budgets of SICA and its member countries are not drastically reduced.
Outputs			
1. A regional information platform for conservation and utilization of biodiversity in the SICA region is established.	1.1 At least xx modules (e.g. regional information / data of biological corridors, wetlands, biodiversity) are available in the regional information platform.	Records of the Project activities.	-No drastic change in management administration system/structure in ES-CCAD -No devastating natural disasters than assumed will occur in the pilot sites
	1.2 More than 80% of training participants of the information platform understand its function and modules to utilize the platform in articulation with national information system.	Questionnaire/Interview Survey	
2. Results of pilot projects such as good practice and lesson learned focused on small scale rural community and indigenes people are socialized, from the view point of sustainable	2.1 At least xx sustainable economic development models are compiled based on the pilot projects and good practices	Records of the Project activities.	

development and proposal for implementation of regional and national policies	and shared among the member countries. 2.2 More than 90% of the pilot activities are jointly evaluated as "very useful" for developing sustainable economy development models for the region.	Questionnaire/Interview Survey	
3. Regional organizational and human resources capacity for conservation and utilization of biodiversity are strengthened in coordination with SICA-CCAD.	3.1 More than xx % of training participants' knowledge level is increased.	Questionnaire to the participants.	
	3.2 Regional seminars and workshops to share knowledge and experiences in SICA are organized more than XX times.	Seminar/Workshop reports Project reports	
Activities	Inputs		Pre-Conditions
1.1 Evaluate and analyze current state of existing data such as biological corridors, wetlands, biodiversity database etc. in the region (i.e. regional and national level)	The Japanese Side	The SICA Side	-All the SICA member countries assign their directors of biodiversity or equivalent level senior officer as the focal points of the project -SICA and its member countries agree to share existing data for the regional information platform
1.2 Develop design for a regional information platform as a multi biodiversity platform for data exchange and information sharing among the SICA member countries, particularly for biological corridors, wetlands, biodiversity.	1. Experts -Chief Advisor/Ecosystem Management -Project Coordinator/Training Planning/Institutional Capacity -Other Short-Term Experts (e.g. GIS/Data Base, Remote sensing, Agro-forestry, Eco-tourism, etc.) -Local Coordinator	1. Counterpart -Project Director -Project Coordinator -Member of Regional Technical Committee on Seas and Biodiversity of CCAD -Other Members for each activity	
1.3 Build the regional information platform		2. Facility Office space for the experts with necessary equipment, Internet.	Issues and countermeasures
1.4 Organize training for selected staff of the member countries in coordination with SICA-CCAD for utilization and maintenance of the information platform (i.e. collecting, processing, and making data/information available) in articulation with national information system.	2 Equipment -Equipment for construction of a regional information platform for conservation and utilization of biodiversity -Other necessary equipment		
1.5 Produce "regional biodiversity outlook" using the information system	3. Training		
2.1 Develop selection criteria for pilot projects of sustainable economic development which contribute to both improvement of livelihoods at community level and biodiversity conservation	Trainings in Japan and/or other countries -Politics and governance of biodiversity management and conservation -Management of national park, world heritage, protected areas and biological corridor		
2.2 Call for pilot project proposals (e.g. PES, ABS, agro-forestry, branding agricultural product, promotion of ecotourism/agro tourism, development of ventures for environmental sustainable community economic alternatives, emphasizing activities in wetland ecosystems, protected areas and prioritized biological corridors etc.) from related countries	-Compensatory measures for biodiversity (e.g. Biodiversity offsetting) -Management and conservation of wetlands. -Management and conservation of biodiversity in collaboration among academic, private and public sectors.		
2.3 Select pilot projects and make decisions of actual supports for the pilot projects			

2.4 Support implementation of the pilot projects	- Environmental conservation by local governments with the focus on harmony between urban environment and ecosystem		
2.5 Evaluate and analyze the results of pilot projects (i.e. financial sustainability, impact, lessons learnt, etc.) and compile their lessons learnt.			
2.6 Collect good practices related to sustainable economic development among the region.			
2.7 Develop an inventory of sustainable economic development models adaptable within the region based on 2.5 and 2.6.			
2.8 Integrate the inventory into the information platform developed in Output 1.			
2.9 Make recommendations for improving regional and national level related policies based on the results obtained through the pilot projects			
3.1 Evaluate and analyze training needs from SICA member countries in coordination with SICA-CCAD.			
3.2 Develop regional training program and curriculum on selected themes for the project for SICA member country in coordination with SICA-CCAD based on training resources in SICA region, Japan and neighboring countries (Latin America region) in collaboration with JICA's bilateral projects			
3.3 Conduct training including seminars and workshops, and review the plan based on the result of the training			
3.4 Make recommendations on regional organizational structure and necessary human resources for strengthening conservation and utilization of biodiversity within the CCAD framework			

Matriz de Diseño del Proyecto (PDM-JICA)

(Ver 1.1 Fecha de Elaboración: 15 de febrero 2018)

Título del Proyecto: Proyecto de Desarrollo de las Capacidades en Manejo y Conservación Integral de la Biodiversidad al nivel regional en la Región del SICA

Órgano Ejecutor: Ministerios de medio ambiente de los ocho países de la CCAD en coordinación con la Secretaría Ejecutiva de la CCAD

Grupo objeto: Los 8 países de la CCAD, Funcionarios de los ministerios de medio ambiente de los países, miembros de la comisión técnica regional de mares y biodiversidad de la CCAD

Período de proyecto: Cinco (5) años

Sitio de Proyecto: Los ocho países de la CCAD

Resumen del proyecto	Indicadores verificables	Medios de verificación	Condiciones previas
Objetivo Superior			
La institucionalidad regional y gobernanza para la conservación de la biodiversidad y su uso sostenible en la región SICA son fortalecidas.	1. La Estrategia Regional Ambiental Marco (ERAM) es revisada y actualizada para la utilización de las informaciones y datos en la plataforma informática regional.	Publicación/Reportes de la CCAD Website	La CCAD-SICA mantiene la alta prioridad en la conservación de la biodiversidad y su uso sostenible.
Objetivo del Proyecto			
Se fortalecerán las capacidades en manejo y conservación integral de la biodiversidad nacional y regional, en los países que conforman la Región del SICA.	1. La plataforma informática regional de biodiversidad de SICA es referenciada y utilizada en el proceso de elaboración de las políticas, planes, reportes nacionales y regionales relacionados con biodiversidad. 2. Por lo menos una actividad de utilización de los resultados y conocimientos adquiridos por el Proyecto es realizada en cada uno de los países.	Entrevistas a los C/Ps Publicación/Reportes de la CCAD Website	El presupuesto de la CCAD-SICA no será drásticamente reducido.
Resultados Esperados			
1. Construcción de una Plataforma Informática Regional para el manejo y la conservación integral de la biodiversidad en los países que conforman la Región del SICA	1.1 Por lo menos XX módulos (Ej. Información regional / datos de corredores biológicos, humedales, biodiversidad) están disponibles en la plataforma informática regional.	Registro de las actividades del Proyecto	-No hay cambio drástico en el manejo del sistema administrativo y estructura de la Secretaría Ejecutiva de la

	1.2 Más de un 80% de los participantes en las capacitaciones comprende la función de la plataforma informática regional y la saben utilizar, articulada con las plataformas nacionales.	Cuestionarios /entrevistas	CCAD -No ocurren los desastres naturales drásticos en los sitios del Proyecto
2. Socialización de los resultados de los Proyectos Pilotos como buenas prácticas y lecciones aprendidas con el enfoque de pequeña escala de comunidades locales y pueblos indígenas, desde la perspectiva del desarrollo sostenible, y propuestas para la implementación de la política regional y las políticas nacionales.	2.1 Por lo menos xx modelos de desarrollo económico sostenible son construidos en base a los proyectos pilotos y buenas prácticas, y compartidos entre los países.	Registro de las actividades del Proyecto.	
	2.2 Por lo menos un 90% de los proyectos piloto son evaluados “Muy Útil” conjuntamente entre la CCAD y la JICA, para promover y disseminar los modelos de desarrollo económico sostenible.	Cuestionarios /entrevistas	
3. Fortalecimiento de la capacidad regional de organización y recursos humanos para la conservación y utilización de la biodiversidad en coordinación con el SICA-CCAD.	3.1 Más de xx % de los participantes en la capacitación son aprobados por las pruebas de comprensión ofrecidas por el Proyecto.	Cuestionarios /entrevistas.	
	3.2 Seminarios y talleres regionales y nacionales para desarrollo de las capacidades del manejo de conservación de biodiversidad, vinculados con los resultados 1 y 2 son realizados más de XX veces en la región.	Seminarios Reportes de talleres Reportes del Proyecto	
Actividades	Insumos		Condiciones Previas
1.1 Diagnóstico, análisis y evaluación de la situación actual de los datos e informaciones sobre corredores biológicos, humedales y la biodiversidad en la región (al nivel regional y nacional)	Parte Japonesa	Parte de SICA CCAD	-Los países miembros de la CCAD asignan los miembros de la Comisión Técnica Regional de Mares y Biodiversidad con presencia constante. -Los países miembros de la CCAD están de acuerdos con compartimiento de los datos existentes para la construcción de la plataforma informática regional de la biodiversidad.
1.2 Diseño y construcción del sistema informático regional, incluyendo corredores biológicos, humedales y biodiversidad.	1. Expertos -Líder del Equipo Japonés/Manejo Integral de Ecosistemas -Coordinador del Proyecto/Plan de Capacitación y Fortalecimiento de Institucionalidad Regional -Expertos de Corto Plazo (ej. GIS/Base de Datos, Sensoramiento Remoto, Agroforestal, Ecoturismo, etc.) -Coordinador Local de origen centroamericano o dominicano	1. Contrapartes -Director del Proyecto -Coordinador del Proyecto -Los miembros de la Comisión Técnica Regional de Mares y Biodiversidad CCAD -Otros técnicos relacionados al Proyecto 2. Facilidades Espacio de trabajo para los expertos y contrapartes con los equipos necesarios, internet, teléfono en la oficina de la Secretaría Ejecutiva de	
1.3 Construcción de la Plataforma Informática y generación de conocimientos que contribuyan al establecimiento del “Mecanismo Regional de Facilitación para el Convenio sobre La Diversidad Biológica (CHM)”	2. Equipos y materiales		
			Temas y contramedidas

1.4 Capacitación de los recursos humanos para el uso y mantenimiento de la plataforma informática regional articulada con las nacionales existentes, incluyendo recolectar, procesar, y poner a disposición datos e informaciones.	<ul style="list-style-type: none"> -Equipos para la construcción de la plataforma informática regional de biodiversidad -Equipo y materiales necesarios para los proyectos pilotos -Otros equipos necesarios 	la CCAD.
1.5 Elaborar "SICA-Regional Biodiversity Outlook" utilizando la plataforma informática regional		
2.1 Crear un sistema para la convocatoria regional de propuestas técnicas sobre proyectos pilotos en la región con los criterios de selección establecidos por la Comisión Técnica Regional de Mares y Biodiversidad CCAD	<p><u>3. Capacitación (en Japón o en otros países)</u></p>	
2.2 Convocatoria de Proyectos Pilotos (Por ejemplo: Mecanismo de financiamiento, PES, ABS, Sello regional de acreditación, generación de marca regional-nacional de productos agrícolas, promoción de ecoturismo, desarrollo de emprendimientos con alternativas económicas comunitarias ambientales sostenibles, haciendo en énfasis en actividades en los ecosistemas de humedales, áreas protegidas y corredores biológicos priorizados, etc.)	<ul style="list-style-type: none"> -Política y gobernanza del manejo y conservación de la biodiversidad -Manejo de parques nacionales, patrimonios mundiales, áreas protegidas y corredores biológicos -Medidas compensatorias para la biodiversidad (Biodiversity Offsetting) -Manejo y conservación de los humedales -Manejo y conservación de la biodiversidad con la colaboración entre industria-academia-gobierno -Conservación ambiental por gobiernos locales con el enfoque a la armonía entre medio ambiente urbano y ecosistema. 	
2.3 Aprobación y selección de proyectos pilotos y los insumos necesarios para su ejecución.		
2.4 Implementación de los proyectos piloto aprobados.		
2.5 Evaluación de los proyectos piloto		
2.6 Recolección de buenas prácticas relacionadas al desarrollo económico sostenible en la región.		
2.7 Creación del Inventario de los posibles modelos de desarrollo económico en la región SICA		
2.8 Integrar las buenas prácticas y lecciones aprendidas en la plataforma informática regional creada en el resultado 1.		
2.9 Propuestas para la mejor implementación de las políticas regionales y nacionales, en base a los resultados generados		
3.1 Diagnóstico y análisis de las necesidades de capacitación de los recursos humanos		
3.2 Elaboración de los modelos de programa y currículum de cursos regionales en diferentes temas seleccionados y su ejecución en base a los recursos potenciales en la región SICA y los países de América Latina y Japón, en coordinación con los proyectos bilaterales de JICA.		

3.3 Ejecución del programa de capacitación, incluyendo seminarios, talleres y la revisión de los resultados.			
3.4 Hacer recomendaciones a la estructura organizacional regional y de recursos humanos necesarios para el fortalecimiento de la conservación y el uso de biodiversidad en el marco de la CCAD.			

改訂（バージョン 2.0）（英語、スペイン語）

Project Design Matrix**(PDM Version 2.0 dated 06 April 2022)****Project Title:****Project for Capacity Development on Integrated Management and Conservation of Biodiversity at regional level in SICA Region****Implementing Agency: Eight (8) CCAD Member Countries in coordination with SICA-CCAD****Target Group: Relevant personnel of CCAD member countries in coordination with SICA-CCAD****Period of Project: five (5) years****Project Site: SICA region (eight (8) member countries in coordination with SICA-CCAD)**

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption
Overall Goal			
Regional institutional framework and governance on biodiversity conservation and sustainable use in the SICA region is strengthened.	1. Regional Environmental Strategy Framework (ERAM) is revised by utilizing information and database of the regional information platform.	CCAD publication/reports Publication/Website	SICA and its member countries keep high priority on biodiversity conservation and sustainable resource utilization.
Project Purpose			
Management capacity on utilization and conservation of biodiversity of member countries in coordination with SICA-CCAD is strengthened.	1. Based on the lessons learned from Outputs 1-3, sustainable models and approaches that are considered useful to promote ecosystem and biodiversity conservation in transboundary areas and protected areas are compiled into policy recommendations. 2. Policy recommendations are submitted to CCAD as a collective effort and consensus of the stakeholders (i.e. villages and counterparts), and their importance is discussed and recognized at the ministers' meeting.	Interview to C/Ps CCAD publication/reports Publication/Website	Budgets of SICA and its member countries are not drastically reduced.
Outputs			
1. A regional information platform for conservation and utilization of biodiversity in the SICA region is established.	1.1 At least 5 modules (e.g. regional information / data of biological corridors, wetlands, biodiversity) are available in the regional information platform.	Records of the Project activities.	-No drastic change in management administration

Monitoring Form 1

	1.2 More than 80% of training participants of the information platform understand its development, utilization and maintenance.	Questionnaire/Interview Survey	system/structure in ES-CCAD -No devastating natural disasters than assumed will occur in the pilot sites
	1.3 Future utilization of the project results in the region is discussed and shared among the member countries through CCAD framework.		
2. Results of pilot projects such as good practice and lesson learned focused on small scale rural community and indigenes people are socialized, from the view point of sustainable development and proposal for implementation of regional and national policies	2.1 In the 4 pilot project areas, models for sustainable ecosystem conservation in transboundary areas are compiled as lesson learned case studies.	Records of the Project activities.	
	2.2 Establish a mechanism for cross-border exchange of information and sharing of experience and knowledge among the selected pilot communities in each pilot region.	Questionnaire/Interview Survey	
	2.3 The leaders of the pilot activities in each community understand the experience and good practice in the pilot communities within other countries.		
3. Regional organizational and human resources capacity for conservation and utilization of biodiversity are strengthened in coordination with SICA-CCAD.	3.1 80% or more of training participants rate their level of knowledge increased as a result of the training program.	Questionnaire to the participants.	
	3.2 At least 8 regional seminars and workshops are held to share SICA's knowledge and experience.	Seminar/Workshop reports Project reports	
Activities	Inputs		Pre-Conditions
1.1 Evaluate and analyze current state of existing data such as biological corridors, wetlands, biodiversity database etc. in the region (i.e. regional and national level)	The Japanese Side		-All the SICA member countries assign their directors of biodiversity or equivalent level senior officer as the focal points of the project -SICA and its member countries agree to share existing data for the regional information platform
1.2 Develop design for a regional information platform as a multi biodiversity platform for data exchange and information sharing among the SICA member countries, particularly for biological corridors, wetlands, biodiversity.	1. Experts 1) From March 2019 to April 2022 -Chief Advisor/Ecosystem Management -Project Coordinator/Training Planning/Institutional Capacity -Other Short-Term Experts (e.g. GIS/Data Base, Remote sensing, Agro-forestry, Eco-tourism, etc.) -Local Coordinator 2) From May 2022 【Long-term expert】 ▪ Project coordinator : In addition to the arrangement of meetings, he will also be responsible for coordination and collaboration with Japanese consultants		
1.3 Build the regional information platform	The SICA Side		Issues and countermeasures
1.4 In coordination with SICA-CCAD, train selected staff of the member countries on the establishment, use and maintenance of national information platforms (e.g. collection, processing and use of available information).	1. Counterpart -Project Director -Project Coordinator -Member of Regional Technical Committee on Seas and Biodiversity of CCAD -Other Members for each activity 2. Facility Office space for the experts with necessary equipment, Internet.		

1.5 Compile a "Regional Biodiversity Outlook (Preparatory Guidelines / Summary)" using the platform.	and implementation of Output 1 (establishment of a biodiversity platform) and Output 3 (capacity building through training).		
2.1 Develop selection criteria for pilot projects of sustainable economic development which contribute to both improvement of livelihoods at community level and biodiversity conservation	<p>【Consultant team】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ Team leader (chief advisor): Specialized in ecosystem management / regional collaboration, lead ecosystem conservation and regional collaboration, consolidating all outputs of the project. ▪ Expert of Community empowerment and cooperation: In charge of strengthening communication and collaboration between pilot communities within each region. ▪ Expert of Participatory livelihood enhancement: In charge of supporting pilot activities in each community. 		
2.2 Develop proposals for pilot projects with pilot community stakeholders (e.g., PES, ABS, agroforestry, agro-branding, promotion of ecotourism/agricultural tourism, development of environmentally sustainable local economic alternatives in priority areas such as wetland ecosystems, protected areas and biological corridors).	<p>2 Equipment</p> <ul style="list-style-type: none"> -Equipment for construction of a regional information platform for conservation and utilization of biodiversity -Other necessary equipment <p>3. Training</p> <p>Trainings in Japan and/or other countries</p> <ul style="list-style-type: none"> -Politics and governance of biodiversity management and conservation -Management of national park, world heritage, protected areas and biological corridor -Compensatory measures for biodiversity (e.g. Biodiversity offsetting) -Management and conservation of wetlands. -Management and conservation of biodiversity in collaboration among academic, private and public sectors. - Environmental conservation by local governments with the focus on harmony between urban environment and ecosystem 		
2.3 Select pilot projects and make decisions of actual supports for the pilot projects			
2.4 Support implementation of the pilot projects			
2.5 Evaluate and analyze the results of pilot projects (i.e. financial sustainability, impact, lessons learnt, etc.) and compile their lessons learnt.			
2.6 Collect examples of good practices related to sustainable ecosystem conservation in the region with an objective of strengthening governance mechanisms in transboundary ecosystems.			
2.7 Develop recommendations on governance mechanisms in transboundary ecosystems (cf. Indicator 1) that can be adapted within the region based on Indicators 2.5 and 2.6.			
2.8 Upload the above good practice, recommendations and lesson learnt to the information platform developed in Output 1.			
2.9 Make recommendations for improving regional and national level related policies based on the results obtained through the pilot projects			
3.1 Evaluate and analyze training needs from SICA member countries in coordination with SICA-CCAD.			

<p>3.2 In cooperation with SICA-CCAD, develop regional training programs and curricula on specific topics for the project, based on training resources in the SICA region, Japan and neighboring countries (Latin America region).</p>			
<p>3.3 Conduct training including seminars and workshops, and review the plan based on the result of the training</p>			
<p>3.4 Provide recommendations on strengthening the capacity of local organizational structures and necessary human resources to promote the conservation and use of biodiversity in the framework of CCAD.</p>			

wetland ecosystems, protected areas and biological corridors).	Actual																					^	^		
2.3 Select pilot projects and make decisions of actual supports for the pilot projects	Plan																					X	X		
	Actual																								
	Plan																					X	X		
2.4 Support implementation of the pilot projects	Actual																								
	Plan																					X	X		
2.5 Evaluate and analyze the results of pilot projects (i.e. financial sustainability, impact, lessons learnt, etc.) and compile their lessons learnt.	Actual																								
	Plan																					X	X		
2.6 Collect examples of good practices related to sustainable ecosystem conservation in the region with an objective of strengthening governance mechanisms in transboundary ecosystems.	Actual																								
	Plan																					X	X		
2.7 Develop recommendations on governance mechanisms in transboundary ecosystems (cf. Indicator 1) that can be adapted within the region based on Indicators 2.5 and 2.6.	Actual																								
	Plan																					X	X		
2.8 Upload the above good practice, recommendations and lesson learnt to the information platform developed in Output 1.	Actual																								
	Plan																					X	X		
2.9 Make recommendations for improving regional and national level related policies based on the results obtained through the pilot projects	Actual																								
	Plan																					X	X		
Output 3: 3. Regional organizational and human resources capacity for conservation and utilization of biodiversity are strengthened in coordination with SICA-CCAD.																									
3.1 Evaluate and analyze training needs from SICA member countries in coordination with SICA-CCAD.	Plan																					X	X		
	Actual																								
3.2 In cooperation with SICA-CCAD, develop regional training programs and curricula on specific topics for the project, based on training resources in the SICA region, Japan and neighboring countries (Latin America region).	Plan																					X	X		
	Actual																								
3.3 Conduct training including seminars and workshops, and review the plan based on the result of the training	Plan																					X	X		
	Actual																					X	X		
3.4 Provide recommendations on strengthening the capacity of local organizational structures and necessary human resources to promote the conservation and use of biodiversity in the framework of CCAD.	Plan																					X	X		
	Actual																								
Duration / Phasing																									
Monitoring Plan		Year	1st Year				2nd Year				3rd Year				4th Year				5th Year				Remarks	Issue	Solution
Monitoring		Plan	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV			
Joint Coordinating Committee		Actual																							
Set-up the Detailed Plan of Operation		Plan																							
Submission of Monitoring Sheet		Actual																							
Monitoring Mission from Japan		Plan																							
Joint Monitoring		Actual																							
Post Monitoring		Plan																							
Actual		Actual																							
Reports/Documents		Plan																							
Project Completion Report		Actual																							
Plan		Plan																							
Actual		Actual																							
Public Relations		Plan																							
Public Relation activities		Actual																							
Plan		Plan																							
Actual		Actual																							

Matriz de Diseño del Proyecto (PDM)

(Ver 2.0 Fecha: 06 de abril 2022)

Título del Proyecto:

Proyecto de Desarrollo de las Capacidades en Manejo y Conservación Integral de la Biodiversidad al nivel regional en la Región del SICA

Órgano Ejecutor:

Ministerios de medio ambiente de los ocho países de la CCAD en coordinación con la Secretaría Ejecutiva de la CCAD

Grupo objeto:

Los 8 países de la CCAD, Funcionarios de los ministerios de medio ambiente de los países, miembros de la comisión técnica regional de mares y biodiversidad de la CCAD

Período de proyecto:

Cinco (5) años

Sitio de Proyecto:

Los ocho países de la CCAD

Resumen del proyecto	Indicadores verificables	Medios de verificación	Condiciones previas
Objetivo Superior			
La institucionalidad regional y gobernanza para la conservación de la biodiversidad y su uso sostenible en la región SICA son fortalecidas.	1. La Estrategia Regional Ambiental Marco (ERAM) es revisada y actualizada para la utilización de las informaciones y datos en la plataforma informática regional.	Publicación/Reportes de la CCAD Website	La CCAD-SICA mantiene la alta prioridad en la conservación de la biodiversidad y su uso sostenible.
Objetivo del Proyecto			
Se fortalecerán las capacidades en manejo y conservación integral de la biodiversidad nacional y regional, en los países que conforman la Región del SICA.	1. Con base en las lecciones aprendidas de los resultados esperados 1 a 3, los modelos y enfoques sostenibles que se consideran útiles para promover la conservación de los ecosistemas y la biodiversidad en las zonas transfronterizas y las áreas protegidas se recopilan en recomendaciones políticas. 2. Las recomendaciones políticas se presentan a la CCAD como un esfuerzo colectivo y un consenso de las partes interesadas (es decir, las comunidades y las contrapartes), y su importancia se discute y reconoce en la reunión de ministros.	Entrevistas a los C/Ps Publicación/Reportes de la CCAD Website	El presupuesto de la CCAD-SICA no será drásticamente reducido.
Resultados Esperados			

1. Construcción de una Plataforma Informática Regional para el manejo y la conservación integral de la biodiversidad en los países que conforman la Región del SICA	1.1 Por lo menos 5 módulos (Ej. Información regional / datos de corredores biológicos, humedales, biodiversidad) están disponibles en la plataforma informática regional.	Registro de las actividades del Proyecto	-No hay cambio drástico en el manejo del sistema administrativo y estructura de la Secretaría Ejecutiva de la CCAD -No ocurren los desastres naturales drásticos en los sitios del Proyecto
	1.2 Más del 80% de los participantes en la formación de la plataforma de información comprenden su desarrollo, utilización y mantenimiento.	Cuestionarios /entrevistas	
	1.3 La utilización futura de los resultados del proyecto en la región se discute y se comparte entre los países miembros a través del marco de la CCAD.		
2. Socialización de los resultados de los Proyectos Pilotos como buenas prácticas y lecciones aprendidas con el enfoque de pequeña escala de comunidades locales y pueblos indígenas, desde la perspectiva del desarrollo sostenible, y propuestas para la implementación de la política regional y las políticas nacionales.	2.1 En las 4 zonas del proyecto piloto, se recopilan modelos de conservación sostenible de los ecosistemas transfronterizos como estudios de casos de lecciones aprendidas.	Registro de las actividades del Proyecto.	
	2.2 Establecer un mecanismo para el intercambio transfronterizo de información y la puesta en común de experiencias y conocimientos entre las comunidades piloto seleccionados en cada región piloto.	Cuestionarios /entrevistas	
	2.3 Líderes de las actividades piloto de cada comunidad conocen las experiencias y buenas prácticas de las comunidades dentro de los proyectos piloto en otros países.		
3. Fortalecimiento de la capacidad regional de organización y recursos humanos para la conservación y utilización de la biodiversidad en coordinación con el SICA-CCAD.	3.1 El 80% o más de los participantes en la formación aumentaron su nivel de conocimientos como resultado del programa de formación.	Cuestionarios /entrevistas.	
	3.2 Se celebran al menos 8 seminarios y talleres regionales para compartir los conocimientos y la experiencia de SICA.	Seminarios Reportes de talleres Reportes del Proyecto	
Actividades	Insumos		Condiciones Previas
1.1 Diagnóstico, análisis y evaluación de la	Parte Japonesa	Parte de SICA CCAD	-Los países miembros de la

<p>situación actual de los datos e informaciones sobre corredores biológicos, humedales y la biodiversidad en la región (al nivel regional y nacional)</p>	<p>1. Expertos</p> <p>(1) Desde marzo 2019-abril 2022</p> <ul style="list-style-type: none"> - Líder del Equipo Japonés/Manejo Integral de Ecosistemas - Coordinador del Proyecto/Plan de Capacitación y Fortalecimiento de Institucionalidad Regional - Expertos de Corto Plazo (ej. GIS/Base de Datos, Sensoramiento Remoto, Agroforestal, Ecoturismo, etc.) - Coordinador Local de origen centroamericano o dominicano <p>(2) Desde mayo 2022</p>	<p>1. Contrapartes</p> <ul style="list-style-type: none"> - Director del Proyecto - Coordinador del Proyecto - Los miembros de la Comisión Técnica Regional de Mares y Biodiversidad CCAD - Otros técnicos relacionados al Proyecto 	<p>CCAD asignan los miembros de la Comisión Técnica Regional de Mares y Biodiversidad con presencia constante.</p> <p>- Los países miembros de la CCAD están de acuerdo con compartimiento de los datos existentes para la construcción de la plataforma informática regional de la biodiversidad.</p>
<p>1.2 Diseño y construcción del sistema informático regional, incluyendo corredores biológicos, humedales y biodiversidad.</p>	<p>[Experto a largo plazo]</p> <ul style="list-style-type: none"> - Coordinador del proyecto : Además de la organización de las reuniones, también se encargará de la coordinación y la colaboración con los consultores japoneses y de la ejecución del resultado esperado 1 (creación de una plataforma de biodiversidad) y del resultado esperado 3 (creación de capacidades mediante la formación). 	<p>2. Facilidades</p> <p>Espacio de trabajo para los expertos y contrapartes con los equipos necesarios, internet, teléfono en la oficina de la Secretaría Ejecutiva de la CCAD.</p>	
<p>1.3 Construcción de la Plataforma Informática y generación de conocimientos que contribuyan al establecimiento del "Mecanismo Regional de Facilitación para el Convenio sobre La Diversidad Biológica (CHM)"</p>	<p>[Equipo de consultores japoneses]</p> <ul style="list-style-type: none"> - Jefe de equipo (asesor principal): Especializado en gestión de ecosistemas/colaboración regional, dirige la conservación de los ecosistemas y la colaboración regional, consolidando todos los resultados del proyecto. - Experto en Potenciación y cooperación de las comunidades: Encargado de reforzar la comunicación y la colaboración entre las comunidades piloto dentro de cada región. - Experto en Mejora participativa de los medios de vida: Encargado de apoyar las actividades piloto en cada comunidad. 		<p>Temas y contramedidas</p>
<p>1.4 En coordinación con el SICA-CCAD, formar al personal seleccionado de los países miembros en el establecimiento, uso y mantenimiento de las plataformas nacionales de información (por ejemplo, recopilación, procesamiento y uso de la información disponible).</p>	<p>2. Equipos y materiales</p> <ul style="list-style-type: none"> - Equipos para la construcción de la plataforma informática regional de biodiversidad - Equipo y materiales necesarios para los 		
<p>1.5 Elaborar una "Perspectiva regional de la biodiversidad (directrices preparatorias / resumen)" utilizando la plataforma.</p>			
<p>2.1 Crear un sistema para la convocatoria regional de propuestas técnicas sobre proyectos pilotos en la región con los criterios de selección establecidos por la Comisión Técnica Regional de Mares y Biodiversidad CCAD</p>			
<p>2.2 Desarrollar propuestas de proyectos pilotos con las partes interesadas de la comunidad</p>			

<p>piloto (por ejemplo, PSA, APB, agroforestería, marca agrícola, promoción del ecoturismo/turismo agrícola, desarrollo de alternativas económicas locales ambientalmente sostenibles en áreas prioritarias como ecosistemas de humedales, áreas protegidas y corredores biológicos).</p>	<p>proyectos pilotos - Otros equipos necesarios</p>		
<p>2.3 Aprobación y selección de proyectos pilotos y los insumos necesarios para su ejecución.</p>	<p>3. Capacitación (en Japón o en otros países)</p>		
<p>2.4 Implementación de los proyectos piloto aprobados.</p>	<p>- Política y gobernanza del manejo y conservación de la biodiversidad</p>		
<p>2.5 Evaluación de los proyectos piloto</p>	<p>- Manejo de parques nacionales, patrimonios mundiales, áreas protegidas y corredores biológicos</p>		
<p>2.6 Recoger ejemplos de buenas prácticas relacionadas con la conservación sostenible de los ecosistemas en la región con el objetivo de reforzar los mecanismos de gobernanza en los ecosistemas transfronterizos.</p>	<p>- Medidas compensatorias para la biodiversidad (Biodiversity Offsetting)</p>		
<p>2.7 Elaborar recomendaciones sobre los mecanismos de gobernanza en los ecosistemas transfronterizos (véase el Indicador 1) que puedan adaptarse en la región sobre la base de los Indicadores 2.5 y 2.6.</p>	<p>- Manejo y conservación de los humedales</p>		
<p>2.8 Subir las buenas prácticas, recomendaciones y lecciones aprendidas anteriores a la plataforma de información desarrollada en el resultado 1.</p>	<p>- Manejo y conservación de la biodiversidad con la colaboración entre</p>		
<p>2.9 Propuestas para la mejor implementación de las políticas regionales y nacionales, en base a los resultados generados</p>	<p>industria-academia-gobierno</p>		
<p>3.1 Diagnóstico y análisis de las necesidades de capacitación de los recursos humanos</p>	<p>- Conservación ambiental por gobiernos locales con el enfoque a la armonía entre medio ambiente urbano y ecosistema.</p>		

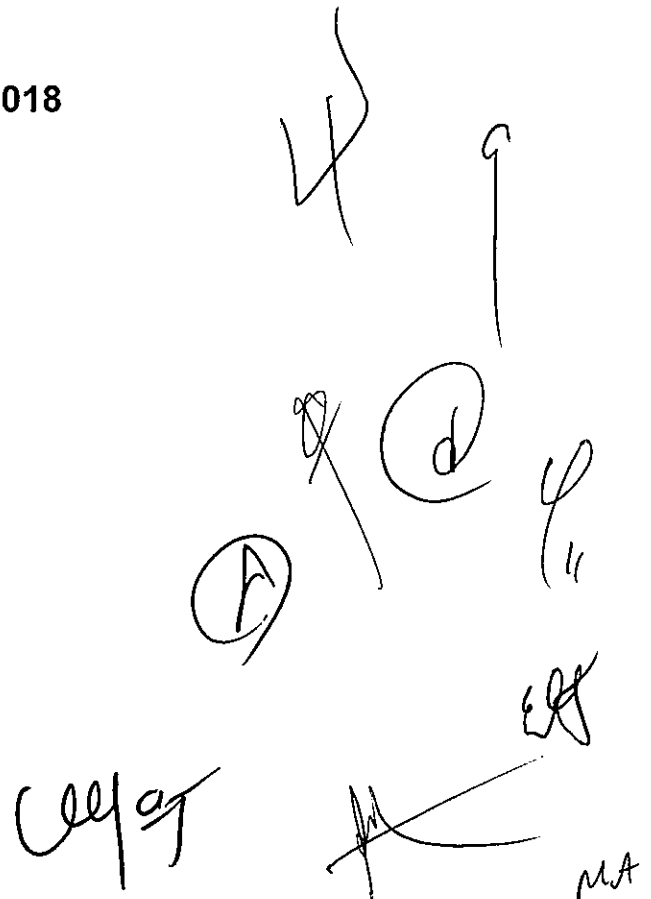
<p>3.2 En cooperación con el SICA-CCAD, desarrollar programas regionales de formación y planes de estudio sobre temas específicos para el proyecto, basándose en los recursos de formación de la región del SICA, Japón y los países vecinos (región de América Latina).</p>			
<p>3.3 Ejecución del programa de capacitación, incluyendo seminarios, talleres y la revisión de los resultados.</p>			
<p>3.4 Proporcionar recomendaciones sobre el fortalecimiento de la capacidad de las estructuras organizativas locales y los recursos humanos necesarios para promover la conservación y el uso de la biodiversidad en el marco de la CCAD.</p>			

添付 4: R/D, M/M, Minutes of JCC

討議議事録 (R/D) (当初／オリジナル) (英語、スペイン語)

RECORD OF DISCUSSIONS
FOR
PROJECT FOR CAPACITY DEVELOPMENT ON INTEGRATED
MANAGEMENT AND CONSERVATION OF BIODIVERSITY AT
REGIONAL LEVEL IN SICA REGION
AGREED UPON BETWEEN
CENTRAL AMERICAN COMMISSION ON ENVIRONMENT AND
DEVELOPMENT
OF
CENTRAL AMERICAN INTEGRATION SYSTEM
AND
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

Dated 19 June 2018



Handwritten signatures and initials in the bottom right corner of the page. The signatures include a large stylized 'W' at the top, a circled 'd', a circled 'A', and several other illegible signatures and initials, including 'MA' at the bottom right.

Based on the minutes of meetings on the Detailed Planning Survey for "Project for Capacity Development on Integrated Management and Conservation of Biodiversity at regional level in SICA Region" (hereinafter referred to as "the Project") signed on 16 February 2018 between member countries of Central American Commission on Environment and Development, Central American Integration System (hereinafter referred to as "the Counterpart") and the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA"), JICA held a series of discussions with the Counterpart and relevant organizations to develop a detailed plan of the Project.

The purpose of this record of discussions (hereinafter referred to as "the R/D") is to establish a mutual agreement for its implementation by both parties and to agree on the detailed plan of the Project as described in the followings and the Annexes, which will be implemented within the framework of the Note Verbale to be exchanged between the Government of Japan and the member countries of the Central American Commission on Environment and Development hereinafter referred to as "CCAD"), Central American Integration System (hereinafter referred to as "SICA").

The Counterpart will be responsible for the implementation of the Project in cooperation with JICA, coordinate with other relevant organizations and ensure that the self-reliant operation of the Project is sustained during and after the implementation period in order to contribute toward social and economic development of SICA.

Both parties also agreed that the Project will be implemented in accordance with the "Basic Principles for Technical Cooperation" published in December 2016 (hereinafter referred to as "the BP"), unless other arrangements are agreed in the R/D.

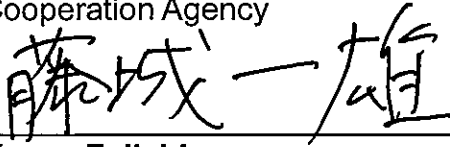
The R/D is delivered at Santo Domingo as of the day and year first above written. The R/D may be amended by a minutes of meetings between both parties, except the plan of operation to be modified in monitoring sheets. The minutes of meetings will be signed by authorized persons of each side who may be different from the signers of the R/D.

Done in duplicate in English and Spanish languages, both are equally authentic. In case of any divergence of interpretation, the English text will prevail.

Copy

Handwritten signatures and initials in black ink, including a circled 'A', a signature that looks like 'Y', and another signature that looks like 'ER'. At the bottom right, the initials 'MA' are written.

For
Japan International
Cooperation Agency



Kazuo Fujishiro
Chief Representative
JICA El Salvador Office

For
CCAD and Dominican Republic



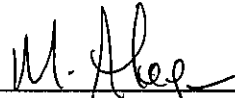
Angel Estevez
Minister of Environment and Natural
Resources
Pro Tempore President
Dominican Republic

For
Guatemala



Magner Estrada
Vice Minister of Ministry of
Environment and Natural Resources
Guatemala

For
Belize



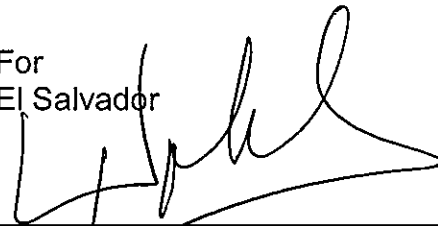
Omar Figueroa
Minister of Agriculture, Fisheries,
Forestry, the Environment and
Sustainable Development
Belize

For
Honduras



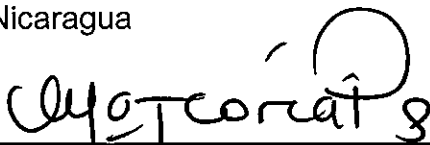
Elvis Rodas
Vice Minister of Ministry of
Environment and Natural Resources
Honduras

For
El Salvador



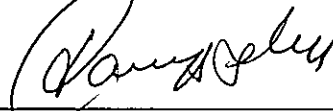
Lina Pohl
Minister of Environment and Natural
Resources
El Salvador

For
Nicaragua



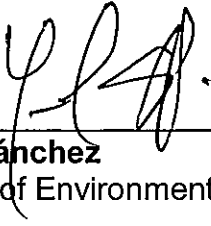
Minister of Environment
Nicaragua

For
Costa Rica



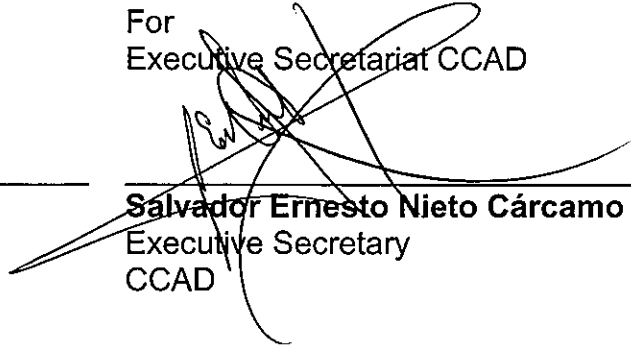
Norma Patricia Campos Mesén
Representative of the Minister of
Environment and Energy
Costa Rica

For
Panama



Yamil Sánchez
Minister of Environment
Panama

For
Executive Secretariat CCAD



Salvador Ernesto Nieto Cárcamo
Executive Secretary
CCAD

Annex 1 Main Points Discussed

Annex 2 Project Design Matrix (PDM)

Annex 3 Plan of Operation (PO)

Annex 4 Implementation Structure

Annex 5 List of Proposed Members of Joint Coordinating Committee

Annex 6 List of JICA's technical cooperation projects in nature conservation area in SICA member countries

OPFJ

Handwritten notes and symbols including a circled 'A', a circled 'Q', a circled '4', a circled 'y', and a circled 'ed'.

MA

MAIN POINTS DISCUSSED

I. Project Description

Both parties confirmed that the Project Description is shown below based on the minutes of meetings of the Detailed Planning Survey on the Project signed on 16 February 2018.

1. BACKGROUND

(1) Background of the Project

Following the "Tokyo Declaration" and "Action Plan" adopted at the "Japan-Central American Summit Meeting" held in Tokyo in August 2005, JICA has been supporting each member country of the Central American Integration System (SICA), which consists of eight (8) countries (Panama, Belize, Guatemala, El Salvador, Honduras, Nicaragua, Costa Rica, Dominican Republic), with focus on bilateral cooperation.

On the other hand, since SICA member countries are located in geographically narrow region, whilst development issues specific to each country exist, there are also many common development issues. Thus, SICA member countries are working on resolving development issues and regional common development issues beyond such borders by producing "regional public goods" where benefits are brought to sub-regions of multiple countries.

Based on these circumstances, in order to align JICA's cooperation with these regional initiatives, the first SICA - JICA Annual Conference was held in October 2015 and four priority areas of SICA regional cooperation were agreed. They are: (1) mobility and logistics; (2) strengthening of infrastructure / housing natural disaster responsiveness; (3) ecosystem / wetland conservation; and (4) gender ((5) rural territorial development was added in 2016).

With regard to the abovementioned "ecosystem / wetland conservation", JICA and Central American Commission on Environment and Development (CCAD) under SICA have been considering a regional technical cooperation project on sustainable conservation and utilization of biodiversity in the SICA region.

In order to formalize the regional cooperation project, JICA conducted a data collection survey in countries where Mexico was added to the eight (8) SICA member countries in 2016. During its survey period, a regional workshop was held in Managua, Nicaragua, in August 2016 to discuss a draft outline of the SICA-JICA regional project.

Consequently, in May 2017, SICA General Secretariat came up with a formal request for new technical cooperation, which was immediately submitted to the Government of Japan.

(2) Challenges to be addressed

Referring the result of the data collection survey conducted in 2016 and the regional workshop held in Nicaragua in August 2016, both sides have confirmed the following challenges in terms of regional biodiversity conservation.

a. Improvement of regional knowledge base

Information for policy decision making on ecosystem and wetland management as a whole region is insufficient or access to information is limited.

-Information on Mesoamerica Biological Corridor

The Mesoamerican Biological Corridor (MBC) Concept, which has been promoted by Mexico and Colombia in addition to the eight (8) SICA member countries, aims at securing biodiversity by linking the fragmented habitats of wildlife and enabling their movement. The MBC concept also contributes to sustainable development, while residents heavily depend on natural resources. In promoting the MBC concept, it is important to examine information on where the fragmentation is progressing, where the population is increasing and the development pressure is rising, where and what measures have been taken. However, the information on the MBC is dispersed in each country. To realize the MBC concept effectively, it is an important issue for the entire region that the formation of the relevant activities, projects and programs and its implementation status are grasped in a centralized manner in the region.

-Regional Biodiversity Information

Although database on biodiversity is constructed and managed in each country, it has not been fully utilized for regional policy formulation up to the present. If these databases could be integrated, it can guide information necessary for policy decision-making and become an important policy tool. In particular, it is desirable to formulate an integrated database which includes detailed information on species such as endangered species and alien species in the area, detailed information on indicator species in important ecosystem areas, etc. and show them on the regional map. Such a database helps to set up efficient protected areas in the region, and to evaluate the situation based on objective data.

-Information on Wetlands

Accessibility to information on wetlands also should be improved. It is a field left behind from the support of donors, as compared with terrestrial ecosystems such as forests. However, wetlands also play an indispensable role for the survival of local residents, such as supply of food and water, prevention and mitigation of floods, provision of sightseeing places and opportunities. Furthermore, wetlands are areas where water and land meet, and because of their rich productivity, they become habitats for various animals and plants. Thus, wetlands are one of important ecosystems and a regional information system on wetlands which can be a basis of wetland conservation should be developed.

b. Securing sustainability of conservation activities

Continuous efforts are needed for ecosystem conservation. However lack of funds is always a serious issue. Each country's ecosystem conservation budget is not sufficient for covering diverse needs. Moreover, it is difficult to get continuous support from overseas. There are many examples that conservation activities are continued only when some donors support them. How to secure sufficient resources to complement the budget and donor funds is extremely important and common to all countries. Various funding sources including GEF should be explored. In addition, it is urgent to develop sustainable economic development models that contribute to ecological conservation and disseminate them.

c. Sharing knowledge and experience within the region

Handwritten signature/initials

Handwritten initials/signature

Handwritten marks and initials, including a large '9' and 'MA' at the bottom right.

MA

In SICA member countries, various activities related to ecosystem and wetland management and conservation that could be applied to other SICA countries have been implemented. However, sharing knowledge and experiences within the region is not enough and each country formulates policies and management systems independently. As a result, despite the variety of options available, the experiences have not been fully utilized. Thus, sharing experiences and knowledge within the region is a priority issue.

(3) Basic Concept of the Project

As a result of the surveys and the series of discussions, the following four specific targets were identified.

Specific target 1: Build a regional system of knowledge management related to conservation and sustainable use of biodiversity and ecosystems.

Specific target 2: Establish models for sustainable economic development based on participatory ecosystems and biodiversity conservation.

Specific target 3: Ensure the provision of ecosystem services that enhance the conservation and use of wetlands, ensure the conservation and sustainability of global, regional and local biodiversity, and contribute to the benefits of residents.

Specific target 4: Share knowledge and experience of the region.

In order to achieve the above four specific objectives, this project will develop "regional biodiversity information platform" and "sustainable economic development model(s)" that is consistent with conservation and utilization of biodiversity. Furthermore, the project will promote capacity development through these efforts and knowledge and experiences inside and outside the SICA region.

Aligning with ERAM (Regional Environment Strategy Framework) and EMSA (Mesoamerica Sustainable Environment Strategy), the project aims at contributing to biodiversity conservation and utilization, particularly in Mesoamerican Biological Corridor (MBC), in the SICA region through production of regional public goods in this field.

2. OUTLINE OF THE PROJECT

Details of the Project are described in the Logical Framework (Project Design Matrix: PDM) (Annex 2) and the tentative Plan of Operation (Annex 3).

(1) Title of the Project

Project for Capacity Development on Integrated Management and Conservation of Biodiversity at regional level in SICA Region

(2) Overall Goal

Regional institutions and governance on biodiversity conservation and sustainable use in the SICA region is strengthened.

Uyot

(A)

Q

4

MA

(3) Project Purpose

Management capacity on utilization and conservation of biodiversity of SICA and its member countries is strengthened.

(4) Outputs

1) A regional information platform for conservation and utilization of biodiversity in the SICA region is established.

2) Results of pilot projects such as good practice and lesson learned focused on small scale rural community and indigenes people are socialized, from the view point of sustainable development and proposal for implementation of regional and national policies.

3) Regional organizational and human resources capacity for conservation and utilization of biodiversity are strengthened in coordination with SICA-CCAD.

(5) Activities

As shown in Annex 2.

(6) Implementation Structure

The Project implementation structure chart is given in Annex 4. The roles and assignments of relevant organizations are as follows:

1) CCAD-SICA

- Project Director
President, CCAD
- Project Coordinator
Executive Secretary, ES-CCAD
- Implementation Team
Regional technical committee members on seas and biodiversity appointed from each member state in coordination with SICA-CCAD

2) JICA Experts

The JICA experts will give necessary technical guidance, advice and recommendations to the member counties in coordination with SICA-CCAD, regional technical committee on biodiversity and other relevant organizations on any matters pertaining to the implementation of the Project.

3) Joint Coordinating Committee

Joint Coordinating Committee (hereinafter referred to as "JCC") will be established in order to provide a decision and facilitate inter-organizational coordination. JCC will be held at least once a year and as a need arises. JCC will approve an annual work plan, review overall progress, conduct monitoring and evaluation of the Project, and exchange opinions on major issues that arise during the implementation of the Project. A list of proposed members of JCC is shown in Annex 5.

(7) Target Areas and Beneficiaries

1) Target Area: SICA region (eight (8) member countries in coordination with SICA-CCAD)

2) Beneficiaries: Direct beneficiaries are relevant personnel of CCAD member countries in coordination with SICA-CCAD such as regional technical committee members on biodiversity, whilst indirect beneficiaries are local communities in the SICA member countries

(8) Duration

The duration of the Project will be five (5) years from the arrival date of the first JICA expert for the Project.

(9) Reports

CCAD member countries in coordination with SICA-CCAD and JICA experts will jointly prepare the following reports in English.

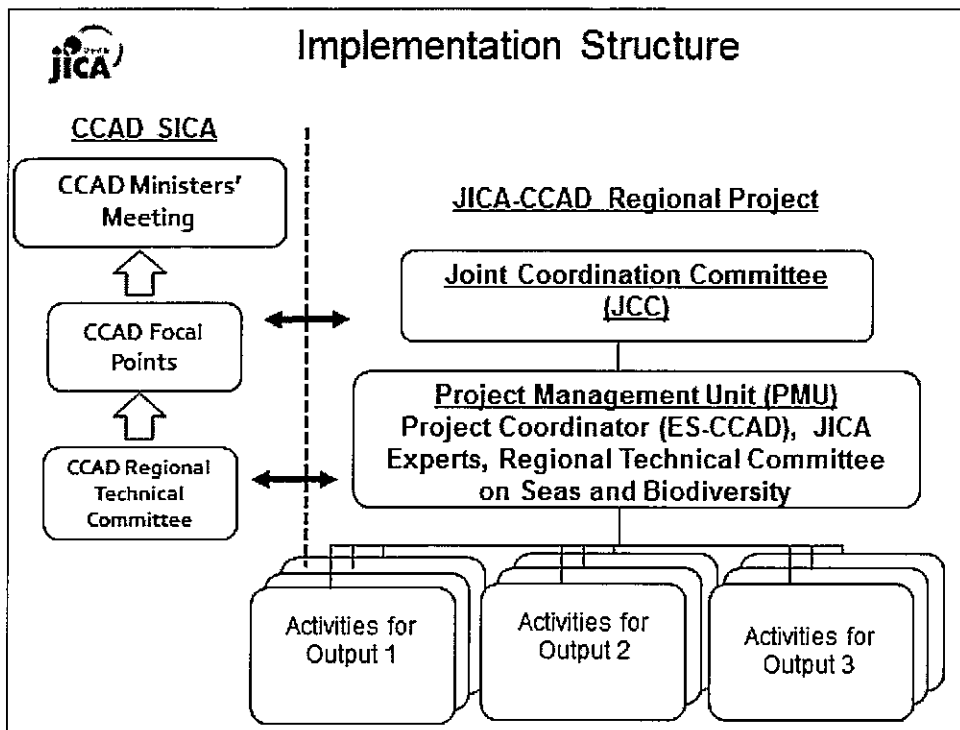
- 1) Monitoring Sheets on semi-annual basis until the project completion
- 2) Project Completion Report at the time of project completion

II. Environmental and Social Considerations

With regard to the Section 10.1 of the BP, the Project is likely to have minimal adverse impact on the environment and society under the 'JICA Guidelines for Environmental and Social Considerations (April 2010)'.

MA

Annex 4: Implementation Structure



Copy

(A)

g

ed

MA

Annex 5: List of Proposed Members of Joint Coordination Committee

1. Chair
Project Director, President of CCAD
2. Members from SICA
 - 1) Project Coordinator, Executive Secretary of ES-CCAD
 - 2) CCAD Focal Points from member country
 - 3) Members of Regional Technical Committee on Seas and Biodiversity
 - 4) Other persons that the SICA side might consider necessary
(Cooperation partners, NGOs, consultants, etc) , if necessary
3. Japanese side:
 - 1) Japanese Experts
 - 2) Chief Representative of JICA El Salvador Office
 - 3) JICA Advisor to SICA
 - 4) Representative(s) from the Embassy of Japan
 - 5) Other persons that Japanese side might consider necessary

04/05

~~MA~~

↑

①

②

③

④

⑤

MA

Annex 6: List of JICA's technical cooperation projects in nature conservation area in SICA member countries (as of February 2018)

El Salvador:

-Project for Integrated Wetland Management in Olomega and El Jocotal Lagoons (on-going)

Honduras:

-La Union Biological Corridor Project for Sustainable Use and Conservation of Biodiversity (on-going)
-Project for strengthening of sustainable watershed management with community participation in the forest protected area of El Cajon dam (completed)

Nicaragua

- Project on Participatory Forest Management (completed)

Costa Rica:

-Project for Promoting Participatory Biodiversity Conservation (completed)

Panama:

-Project for Participatory Community Development and Integrated Management of the Alhajuela Lake Sub-watershed (completed)

Dominican Republic:

-Sustainable Watershed Management Project in the Upper Area of the Sabana Yegua Dam in the Dominican Republic (completed)



MA

Project Design Matrix

(Version 1.1, Dated 30 March 2018)

Project Title: Project for Capacity Development on Integrated Management and Conservation of Biodiversity at regional level in SICA Region

Implementing Agency: Eight (8) CCAD Member Countries in coordination with SICA-CCAD

Target Group: Relevant personnel of CCAD member countries in coordination with SICA-CCAD

Period of Project: five (5) years

Project Site: SICA region (eight (8) member countries in coordination with SICA-CCAD)

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption
Overall Goal			
Regional institutional framework and governance on biodiversity conservation and sustainable use in the SICA region is strengthened.	1. Regional Environmental Strategy Framework (ERAM) is revised by utilizing information and database of the regional information platform.	CCAD publication/reports Publication/Website	SICA and its member countries keep high priority on biodiversity conservation and sustainable resource utilization.
Project Purpose			
Management capacity on utilization and conservation of biodiversity of member countries in coordination with SICA-CCAD is strengthened.	1. The regional information platform is referred to for making policies, plans and reports related to biodiversity. 2. At least one activity on utilization and conservation of biodiversity which refer to the knowledge and experiences of the Project is introduced in each member countries.	Interview to C/Ps CCAD publication/reports Publication/Website	Budgets of SICA and its member countries are not drastically reduced.
Outputs			
1. A regional information platform for conservation and utilization of biodiversity in the SICA region is established.	1.1 At least xx modules (e.g. regional information / data of biological corridors, wetlands, biodiversity) are available in the regional information platform. 1.2 More than 80% of training participants of the information platform understand its function and modules to utilize the platform in articulation with national information	Records of the Project activities. Questionnaire/Interview Survey	-No drastic change in management administration system/structure in ES-CCAD -No devastating natural disasters than assumed will occur in the pilot sites

Handwritten notes and signatures:

- Initials: MM, BP, Z, P, D, U, J
- Signature: Uyo
- Other marks: A circled 'K', a checkmark, and a lightning bolt symbol.

	system.		
2. Results of pilot projects such as good practice and lesson learned focused on small scale rural community and indigenes people are socialized, from the view point of sustainable development and proposal for implementation of regional and national policies	2.1 At least xx sustainable economic development models are compiled based on the pilot projects and good practices and shared among the member countries.	Records of the Project activities.	
	2.2 More than 90% of the pilot activities are jointly evaluated as "very useful" for developing sustainable economy development models for the region.	Questionnaire/Interview Survey	
3. Regional organizational and human resources capacity for conservation and utilization of biodiversity are strengthened in coordination with SICA-CCAD.	3.1 More than xx % of training participants' knowledge level is increased.	Questionnaire to the participants.	
	3.2 Regional seminars and workshops to share knowledge and experiences in SICA are organized more than XX times.	Seminar/Workshop reports Project reports	
Activities	Inputs		Pre-Conditions
1.1 Evaluate and analyze current state of existing data such as biological corridors, wetlands, biodiversity database etc. in the region (i.e. regional and national level)	The Japanese Side	The SICA Side	-All the SICA member countries assign their directors of biodiversity or equivalent level senior officer as the focal points of the project -SICA and its member countries agree to share existing data for the regional information platform
1.2 Develop design for a regional information platform as a multi biodiversity platform for data exchange and information sharing among the SICA member countries, particularly for biological corridors, wetlands, biodiversity.	1. Experts -Chief Advisor/Ecosystem Management -Project Coordinator/Training Planning/Institutional Capacity -Other Short-Term Experts (e.g. GIS/Data Base, Remote sensing, Agro-forestry, Eco-tourism, etc.) -Local Coordinator	1. Counterpart -Project Director -Project Coordinator -Member of Regional Technical Committee on Seas and Biodiversity of CCAD -Other Members for each activity	
1.3 Build the regional information platform		2. Facility Office space for the experts with necessary equipment, Internet.	
1.4 Organize training for selected staff of the member countries in coordination with SICA-CCAD for utilization and maintenance of the information platform (i.e. collecting, processing, and making data/information available) in articulation with national information system.	2 Equipment -Equipment for construction of a regional information platform for conservation and utilization of biodiversity -Other necessary equipment		
1.5 Produce "regional biodiversity outlook" using the information system			
			Issues and countermeasures

A series of handwritten signatures and initials are located at the bottom of the page. From left to right, there is a signature that appears to be 'MMA', followed by several other stylized signatures and initials, including one that looks like 'Cey' and another that looks like 'T'.

2.1 Develop selection criteria for pilot projects of sustainable economic development which contribute to both improvement of livelihoods at community level and biodiversity conservation	<p>3. Training</p> <p>Trainings in Japan and/or other countries</p> <ul style="list-style-type: none"> -Politics and governance of biodiversity management and conservation -Management of national park, world heritage, protected areas and biological corridor -Compensatory measures for biodiversity (e.g. Biodiversity offsetting) -Management and conservation of wetlands. -Management and conservation of biodiversity in collaboration among academic, private and public sectors. - Environmental conservation by local governments with the focus on harmony between urban environment and ecosystem 		
2.2 Call for pilot project proposals (e.g. PES, ABS, agro-forestry, branding agricultural product, promotion of ecotourism/agro tourism, development of ventures for environmental sustainable community economic alternatives, emphasizing activities in wetland ecosystems, protected areas and prioritized biological corridors etc.) from related countries			
2.3 Select pilot projects and make decisions of actual supports for the pilot projects			
2.4 Support implementation of the pilot projects			
2.5 Evaluate and analyze the results of pilot projects (i.e. financial sustainability, impact, lessons learnt, etc.) and compile their lessons learnt.			
2.6 Collect good practices related to sustainable economic development among the region.			
2.7 Develop an inventory of sustainable economic development models adaptable within the region based on 2.5 and 2.6.			
2.8 Integrate the inventory into the information platform developed in Output 1.			
2.9 Make recommendations for improving regional and national level related policies based on the results obtained through the pilot projects			
3.1 Evaluate and analyze training needs from SICA member countries in coordination with SICA-CCAD.			
3.2 Develop regional training program and curriculum on selected themes for the project for SICA member country in coordination with SICA-CCAD based on training resources in SICA region, Japan and neighboring countries (Latin America region) in collaboration with JICA's bilateral projects			
3.3 Conduct training including seminars and workshops, and review the plan based on the result of the training			
3.4 Make recommendations on regional organizational structure and necessary human resources for strengthening conservation and utilization of biodiversity within the CCAD framework			

Project Design Matrix

Project Title: Project for Capacity Development on Integrated Management and Conservation of Biodiversity at regional level in SICA Region

Version 1.1

Implementing Agency: Eight (8) CCAD Member Countries in coordination with SICA-CCAD

Dated 30 March 2018

Target Group: Relevant personnel of CCAD member countries in coordination with SICA-CCAD

Period of Project: five (5) years

Project Site: SICA region (eight (8) member countries in coordination with SICA-CCAD)

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption	Achievement	Remarks
Overall Goal					
Regional institutional framework and governance on biodiversity conservation and sustainable use in the SICA region is strengthened.	1. Regional Environmental Strategy Framework (ERAM) is revised by utilizing information and database of the regional information platform.	CCAD publication/reports Publication/Web site	-SICA and its member countries keep high priority on biodiversity conservation and sustainable resource utilization.		
Management capacity on utilization and conservation of biodiversity of member countries in coordination with SICA-CCAD is strengthened.	1. The regional information platform is referred to for making policies, plans and reports related to biodiversity.	Interview to C/Ps CCAD publication/reports Publication/Website	-Budgets of SICA and its member countries are not drastically reduced.		
	2. At least one activity on utilization and conservation of biodiversity which refer to the knowledge and experiences of the Project is introduced in each member countries.				
Outputs					
1. A regional information platform for conservation and utilization of biodiversity in the SICA region is established..	1.1 At least xx modules (e.g. regional information / data of biological corridors, wetlands, biodiversity) are available in the regional information platform.	Records of the Project activities.	-No drastic change in management administration system/structure in ES-CCAD -No devastating natural disasters than assumed will occur in the pilot sites		
	1.2 More than 80% of training participants of the information platform understand its function and modules to utilize the platform in articulation with national information system.	Questionnaire/Interview Survey			
2. Results of pilot projects such as good practice and lesson learned focused on small scale rural community and indigenes people are socialized, from the view point of sustainable development and proposal for implementation of regional and national policies	2.1 At least xx sustainable economic development models are compiled based on the pilot projects and good practices and shared among the member countries.	Records of the Project activities.			

Handwritten notes and signatures at the bottom of the page, including a circled 'A' and various scribbles.

	2.2 More than 90% of the pilot activities are jointly evaluated as "very useful" for developing sustainable economy development models for the region.	Questionnaire/Interview Survey		
3. Regional organizational and human resources capacity for conservation and utilization of biodiversity are strengthened in coordination with SICA-CCAD.	3.1 More than xx % of training participants' knowledge level is increased.	Questionnaire to the participants.		
	3.2 Regional seminars and workshops to share knowledge and experiences in SICA are organized more than XX times.	Seminar/Workshop reports Project reports		
Activities	Inputs		Pre-Conditions	
1.1 Evaluate and analyze current country of existing data such as biological corridors, wetlands, biodiversity database etc. in the region (i.e. regional	The Japanese Side	The SICA Side	-All the SICA member countries assign their directors of biodiversity or equivalent level senior officer as the focal points of the project	
1.2 Develop design for a regional information platform as a multi biodiversity platform for data exchange and information shearing among the SICA member countries, particularly for biological corridors, wetlands, biodiversity.	1. Experts -Chief Advisor/Ecosystem Management -Project Coordinator/Training Planning/Institutional Capacity -Other Short-Term Experts (e.g. GIS/Data Base, Remote sensing, Agro-forestry, Eco-tourism, etc.) -Local Coordinator (Local Consultant)	1. Counterpart -Project Director -Project Coordinator -Member of Regional Technical Committee on Seas and Biodiversity of CCAD -Other Members for each activity	-SICA and its member countries agree to share existing data for the regional information platform	
1.3 Build the regional information platform	2 Equipment -Equipment for construction of a regional information platform for conservation and utilization of biodiversity -Other necessary equipment	2. Facility Office space for the experts with necessary equipment, Internet.	Issues and countermeasures	
1.4 Organize training for selected staff of the member countries in coordination with SICA-CCAD for utilization and maintenance of the information platform (i.e. collecting, processing, and making data/information available) in articulation with national information system	3. Training Trainings in Japan and/or other countries -Politics and governance of biodiversity management and conservation -Management of national park, world heritage, protected areas and biological corridor -Compensatory measures for biodiversity (e.g. Biodiversity offsetting) -Management and conservation of wetlands. -Management and conservation of biodiversity in collaboration among academic, private and public sectors.			
1.5 Produce "regional biodiversity outlook" using the information system				
2.1 Develop selection criteria for pilot projects of sustainable economic development which contribute to both improvement of livelihoods at community level and biodiversity conservation				
2.2 Call for pilot project proposals (e.g. PES, ABS, agro-forestry, branding agricultural product, promotion of ecotourism/agro tourism, development of ventures for environmental sustainable community economic alternatives, emphasizing activities in wetland ecosystems, protected areas and prioritized biological corridors etc.) from related countries				

Handwritten notes and signatures at the bottom of the page, including a large circled 'A' and various scribbles and signatures.

2.3 Select pilot projects and make decisions of actual supports for the pilot projects	- Environmental conservation by local governments with the focus on harmony between urban environment and ecosystem
2.4 Support implementation of the pilot projects	
2.5 Evaluate and analyze the results of pilot projects (i.e. financial sustainability, impact, lessons learnt, etc.) and compile their lessons learnt.	
2.6 Collect good practices related to sustainable economic development among the region.	
2.7 Develop an inventory of sustainable economic development models adaptable within the region based on 2.5 and 2.6.	
2.8 Integrate the inventory into the information platform developed in Output 1.	
2.9 Make recommendations for improving regional and national level related policies based on the results obtained through the pilot projects	
3.1 Evaluate and analyze training needs from SICA member countries in coordination with SICA-CCAD.	
3.2 Develop regional training program and curriculum on selected themes for the project for SICA member country in coordination with SICA-CCAD based on training resources in SICA region, Japan and neighboring countries (Latin America region) in collaboration with JICA's bilateral projects	
3.3 Conduct training including seminars and workshops, and review the plan based on the result of the training	
3.4 Make recommendations on regional organizational structure and necessary human resources for strengthening conservation and utilization of biodiversity within the CCAD framework	

A series of handwritten marks including a circled 'A', a circled 'R', and the word 'Output' written vertically. There are also several arrows and scribbled lines.

INA

Tentative Plan of Operation

Version 1.1

Dated 30 March 2018

Project Title: Project for Capacity Development on Integrated Management and Conservation of Biodiversity at regional level in SICA Region

Inputs	Year	1st Year				2nd Year				3rd Year				4th Year				5th Year				Remarks	Monitoring	
		I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV		Issue	Solution
		Plan	Actual	Plan	Actual	Plan	Actual	Plan	Actual	Plan	Actual	Plan	Actual	Plan	Actual	Plan	Actual	Plan	Actual	Plan	Actual			
Expert																								
Chief Advisor/Ecosystem Management	Plan																							
Actual	Actual																							
Project Coordinator/Training Planning/Institutional Capacity	Plan																							
Actual	Actual																							
Short term experts	Plan																							
Actual	Actual																							
	Plan																							
	Actual																							
Equipment																								
	Plan																							
	Actual																							
	Plan																							
	Actual																							
Training in Japan																								
Trainings in Japan	Plan																							
	Actual																							
In-country/Third country Training																								
	Plan																							
	Actual																							

Activities	Year	1st Year				2nd Year				3rd Year				4th Year				5th Year				Responsible Organization		Achievements	Issue & Countermeasures
		I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	Japan	SICA		
		Plan	Actual	Plan	Actual	Plan	Actual	Plan	Actual	Plan	Actual	Plan	Actual	Plan	Actual	Plan	Actual	Plan	Actual	Plan	Actual				
Sub-Activities																									
Output 1: A regional information platform for conservation and utilization of biodiversity in the SICA region is established.																									
1.1 Evaluate and analyze current country of existing data such as biological corridors, wetlands, biodiversity database etc. in the region (i.e. regional and national level)	Plan																								
	Actual																								
1.2 Develop design for a regional information platform as a multi biodiversity platform for data exchange and information shearing among the SICA member countries, particularly for biological corridors, wetlands, biodiversity.	Plan																								
	Actual																								
1.3 Build the regional information platform	Plan																								
	Actual																								
1.4 Organize training for selected staff of the member countries in coordination with SICA-CCAD for utilization and maintenance of the information platform (i.e. collecting, processing, and making data/information available) in articulation with national information system.	Plan																								
	Actual																								
1.5 Produce "regional biodiversity outlook" using the information system	Plan																								
	Actual																								
Output 2: Results of pilot projects such as good practice and lesson learned focused on small scale rural community and indigenes people are socialized, from the view point of sustainable development and proposal for implementation of regional and national policies																									
2.1 Develop selection criteria for pilot projects of sustainable economic development which contribute to both improvement of livelihoods at community level and biodiversity conservation	Plan																								
	Actual																								
2.2 Call for pilot project proposals (e.g. PES, ABS, agro-forestry, branding agricultural product, promotion of ecotourism/agro tourism, development of ventures for environmental sustainable community economic alternatives, emphasizing activities in wetland ecosystems, protected areas and prioritized biological corridors etc.) from related countries	Plan																								
	Actual																								

Handwritten notes and signatures at the bottom of the page, including a circled 'A', various initials, and a signature that appears to be 'Ceyar'.

REGISTRO DE DISCUSIONES

SOBRE

**EL PROYECTO DE DESARROLLO DE LAS CAPACIDADES EN
MANEJO Y CONSERVACIÓN INTEGRAL DE LA BIODIVERSIDAD
A NIVEL REGIONAL EN LA REGIÓN DEL SICA**

ACORDADO ENTRE

**LA COMISIÓN CENTROAMERICANA DE AMBIENTE Y
DESARROLLO (CCAD)**

DEL

SISTEMA DE LA INTEGRACIÓN CENTROAMERICANA (SICA)

Y

**LA AGENCIA DE COOPERACIÓN INTERNACIONAL DEL JAPÓN
(JICA)**

Fecha el 19 de junio de 2018

CCAD

(b)

(c)

4

4

[Signature]

MA



Basado en la minuta de reuniones sobre el Estudio de Planificación Detallada para el "Proyecto de Desarrollo de Capacidad para la Gestión y Conservación Integrada de la Biodiversidad a nivel regional en la Región del SICA" (en lo sucesivo denominado "el Proyecto") firmado el 16 de febrero de 2018 entre los países miembros de la Comisión Centroamericana de Ambiente y Desarrollo del Sistema de Integración Centroamericana (en lo sucesivo, "la Contraparte") y la Agencia de Cooperación Internacional del Japón (en lo sucesivo, "JICA"), JICA realizó una serie de debates con la Contraparte y las organizaciones pertinentes para desarrollar un plan detallado del Proyecto.

El propósito de este registro de discusiones (en lo sucesivo, "el R/D") es establecer un acuerdo mutuo para su implementación por ambas partes y acordar el plan detallado del Proyecto, como se describe en los párrafos siguientes y los Apéndices, que se implementará en el marco de la Nota Verbal que se intercambiará entre el Gobierno del Japón y los países miembros de la Comisión Centroamericana de Ambiente y Desarrollo en lo sucesivo denominada "CCAD") del Sistema de Integración Centroamericana (en lo sucesivo denominado "SICA").

La Contraparte será responsable de la implementación del Proyecto en cooperación con JICA, coordinará con otras organizaciones relevantes y asegurará que la operación autosuficiente del Proyecto se mantenga durante y después del período de implementación con el fin de contribuir al desarrollo social y económico del SICA.

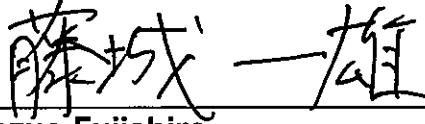
Ambas partes también acordaron que el Proyecto se implementará de acuerdo con los "Principios Básicos para la Cooperación Técnica" publicados en diciembre de 2016 (en lo sucesivo, "los PB"), a menos que se acuerden otros arreglos en el R/D.

El R/D se entrega en Santo Domingo a partir del día y el año antes mencionados. El R/D puede ser modificado por una minuta de reuniones entre ambas partes, excepto el plan de operación que se modificará en las hojas de monitoreo. Las minutas de reuniones serán firmadas por personas autorizadas de cada parte que pueden ser diferentes de los firmantes del R/D.

Hecho en duplicado en inglés y español, ambos son igualmente auténticos. En caso de divergencia de interpretación, prevalecerá el texto en inglés.

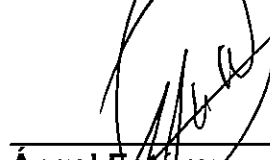
A collection of handwritten signatures and initials in black ink. On the left, there is a large signature that appears to be 'Cepet'. In the center and right, there are several smaller signatures and initials, including a circled 'A', a signature with a large loop, a signature with a large '4', a signature with a large 'E', and initials 'MA' at the bottom right. An arrow points upwards from the right side of the page.

En representación de
Agencia de Cooperación
Internacional del Japón



Kazuo Fujishiro
Jefe Representante
Oficina de JICA en El Salvador

En representación de
CCAD y República Dominicana



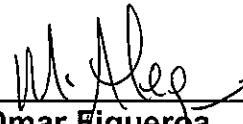
Ángel Estévez
Ministro de Medio Ambiente y Recursos
Naturales
Presidente Pro Tempore CCAD
República Dominicana

En representación de
Guatemala



Magner Estrada
Viceministro del Ministerio de
Ambiente y Recursos Naturales
Guatemala

En representación de
Belice



Omar Figueroa
Ministro de Agricultura, Pesca, Bosques,
Ambiente y Desarrollo Sostenible
Belice

En representación de
Honduras



Elvis Rodas
Viceministro del Ministerio de
Recursos Naturales y Ambiente
Honduras

En representación de
El Salvador



Lina Dolores Pohl
Ministra de Medio Ambiente y Recursos
Naturales
El Salvador

En representación de
Nicaragua



Ministerio del Medio Ambiente y los
Recursos Naturales
Nicaragua

En representación de
Costa Rica



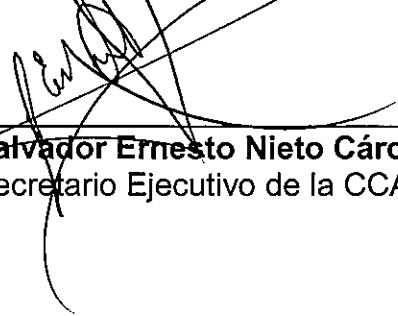
Patricia Campos
Representante del Ministerio de
Ambiente y Energía
Costa Rica

En representación de
Panamá



Yamil Sánchez
Viceministro del Ministerio de
Ambiente
Panamá

En representación de
Secretaría Ejecutiva de la CCAD



Salvador Ernesto Nieto Cárcamo
Secretario Ejecutivo de la CCAD

Apéndice 1 Puntos principales discutidos

Apéndice 2 Matriz de diseño del proyecto (PDM)

Apéndice 3 Plan de operación (PO)

Apéndice 4 Estructura de implementación

Apéndice 5 Lista de miembros propuestos del Comité Conjunto de Coordinación

Apéndice 6 Lista de proyectos de cooperación técnica de JICA en el área de conservación de la naturaleza en los países miembros del SICA

004 05

Handwritten notes and signatures, including a circled 'A', a signature, and an arrow pointing upwards.

PRINCIPALES PUNTOS DISCUTIDOS

I. Descripción del proyecto

Ambas partes confirmaron que la Descripción del Proyecto se muestra a continuación con base en la minuta de reuniones del Estudio de Planificación Detallada del Proyecto firmada el 16 de febrero de 2018.

1. ANTECEDENTES

(1) Antecedentes del proyecto

Tras la "Declaración de Tokio" y el "Plan de Acción" adoptados en la "Cumbre Japón-Centroamérica" celebrada en Tokio en agosto de 2005, JICA ha estado apoyando a cada país miembro del Sistema de Integración Centroamericana (SICA), que consta de ocho (8) países (Panamá, Belice, Guatemala, El Salvador, Honduras, Nicaragua, Costa Rica, República Dominicana), con enfoque en la cooperación bilateral.

Por otro lado, dado que los países miembros del SICA están ubicados en una región geográficamente estrecha, aunque existen cuestiones de desarrollo específicas para cada país, también existen muchos problemas comunes de desarrollo. Por lo tanto, los países miembros del SICA están trabajando para resolver los problemas de desarrollo y los problemas regionales comunes de desarrollo más allá de esas fronteras mediante la producción de "bienes públicos regionales" en los que los beneficios se transfieren a las subregiones de varios países.

Con base en estas circunstancias, con el fin de alinear la cooperación de JICA con estas iniciativas regionales, la primera Conferencia Anual SICA - JICA se llevó a cabo en octubre de 2015 y se acordaron cuatro áreas prioritarias de cooperación regional del SICA. Son: (1) movilidad y logística; (2) fortalecimiento de la capacidad de respuesta a desastres naturales de infraestructura/vivienda; (3) conservación de ecosistemas/humedales; y (4) género ((5) el desarrollo rural territorial se agregó en 2016).

Con respecto a la "conservación de ecosistemas/humedales" antedicha, JICA y la Comisión Centroamericana de Ambiente y Desarrollo (CCAD) del SICA han estado considerando un proyecto regional de cooperación técnica sobre la conservación y utilización sostenible de la biodiversidad en la región del SICA. Con el fin de formalizar el proyecto de cooperación regional, JICA realizó un estudio de recolección de datos en los países, donde México se agregó a los ocho (8) países miembros del SICA en 2016. Durante el período del estudio, se llevó a cabo un taller regional en Managua, Nicaragua, en agosto de 2016, para discutir un borrador del proyecto regional SICA-JICA.

En consecuencia, en mayo de 2017, la Secretaría General del SICA presentó una solicitud formal de nueva cooperación técnica, que fue presentada inmediatamente al Gobierno del Japón.

(2) Desafíos a abordar

Refiriéndose al resultado del estudio de recopilación de datos realizado en 2016 y el taller regional celebrado en Nicaragua en agosto de 2016, ambas partes confirmaron los siguientes desafíos en términos de conservación de la biodiversidad regional.

a. Mejora de la base de conocimiento regional

La información para la toma de decisiones políticas sobre el manejo de ecosistemas y humedales como una región completa es insuficiente, o el acceso a la información es limitado.

-Información sobre el corredor biológico de Mesoamérica

El Concepto del Corredor Biológico Mesoamericano (CBM), que ha sido promovido por México y Colombia, además de los ocho (8) países miembros del SICA, apunta a asegurar la biodiversidad al vincular los hábitats fragmentados de la vida silvestre y permitir su movimiento. El concepto de CBM también contribuye al desarrollo sostenible, a pesar de que los residentes dependen en gran medida de los recursos naturales. Al promover el concepto de CBM, es importante examinar la información sobre dónde la fragmentación está progresando, dónde está aumentando la población y la presión del desarrollo está aumentando, dónde y qué medidas se han tomado.

Sin embargo, la información sobre el CBM está dispersa en cada país. Para hacer realidad el concepto de CBM de manera efectiva, es un tema importante para toda la región que la formación de las actividades, proyectos y programas relevantes y su estado de implementación se capten de manera centralizada en la región.

-Información sobre la Biodiversidad Regional

Aunque la base de datos sobre biodiversidad se construye y gestiona en cada país, no se ha utilizado plenamente para la formulación de políticas regionales a la fecha. Si estas bases de datos pudieran integrarse, pueden guiar la información necesaria para la toma de decisiones sobre políticas y convertirse en una importante herramienta para políticas. En particular, es conveniente formular una base de datos integrada que incluya información detallada sobre especies tales como especies en peligro y especies exóticas en el área, información detallada sobre especies indicadoras en áreas importantes del ecosistema, etc., y mostrarlas en el mapa regional. Tal base de datos ayuda a establecer áreas protegidas eficientes en la región y a evaluar la situación con base en datos objetivos.

-Información sobre Humedales

La accesibilidad a la información sobre los humedales también debería mejorarse. Es un campo que el apoyo de los donantes ha dejado de lado, en comparación con los ecosistemas terrestres, como los bosques. Sin embargo, los humedales también desempeñan un papel indispensable para la supervivencia de los residentes locales, como el suministro de alimentos y agua, la prevención y mitigación de las inundaciones, la provisión de lugares de interés turístico y oportunidades. Además, los humedales son áreas donde el agua y la tierra se encuentran, y debido a su rica productividad, se convierten en hábitats para varios animales y plantas. Por lo tanto, los humedales son uno de los ecosistemas importantes y se debe desarrollar un sistema de información regional sobre los humedales que pueda ser la base de su conservación.

b. Asegurar la sostenibilidad de las actividades de conservación

Se requieren esfuerzos continuos para la conservación de ecosistemas. Sin embargo, la falta de fondos es siempre un problema grave. El presupuesto de

049

Handwritten notes and signatures, including a large upward-pointing arrow and several illegible signatures.

conservación de ecosistemas de cada país no es suficiente para cubrir las diversas necesidades. Además, es difícil obtener apoyo continuo del exterior. Hay muchos ejemplos de que las actividades de conservación continúan solo cuando algunos donantes las apoyan. Cómo asegurar recursos suficientes para complementar el presupuesto y los fondos de los donantes es extremadamente importante y común para todos los países. Deben explorarse diversas fuentes de financiación, incluido el FMAM. Además, es urgente desarrollar modelos sostenibles de desarrollo económico que contribuyan a la conservación ecológica y diseminarlos.

c. Compartir conocimiento y experiencia dentro de la región

En los países miembros del SICA, se han implementado diversas actividades relacionadas con el manejo y la conservación de ecosistemas y humedales que podrían aplicarse a otros países del SICA. Sin embargo, compartir conocimientos y experiencias dentro de la región no es suficiente y cada país formula políticas y sistemas de gestión de forma independiente. Como resultado, a pesar de la variedad de opciones disponibles, las experiencias no se han utilizado por completo. Por lo tanto, compartir experiencias y conocimiento dentro de la región es un tema prioritario.

(3) Concepto básico del Proyecto

Como resultado de los estudios y la serie de discusiones, se identificaron los siguientes cuatro objetivos específicos.

Objetivo específico 1: Construir un sistema regional de gestión del conocimiento relacionado con la conservación y el uso sostenible de la biodiversidad y los humedales.

Objetivo específico 2: Establecer modelos para un desarrollo económico sostenibles sobre la base de ecosistemas participativos y la conservación de la biodiversidad.

Objetivo específico 3: Garantizar la prestación de servicios ecosistémicos que mejoren la conservación y el uso de los humedales, garantizar la conservación y la sostenibilidad de la biodiversidad mundial, regional y local, y contribuir a los beneficios de los residentes.

Objetivo específico 4: Compartir el conocimiento y la experiencia en la región.

Para lograr estos cuatro objetivos anteriores, este proyecto desarrollará una "plataforma regional de información sobre biodiversidad" y "modelo(s) de desarrollo económico sostenible" que sean consistentes con la conservación y utilización de la biodiversidad. Además, el proyecto promoverá el desarrollo de capacidades de recursos humanos a través de estos esfuerzos y los conocimientos y experiencias dentro y fuera de la región del SICA.

Alineándose con la Estrategia Regional Ambiental Marco (en lo sucesivo, "ERAM") y la Estrategia Mesoamericana de Sustentabilidad Ambiental (en lo sucesivo "EMSA"), el proyecto apunta a contribuir a la conservación y utilización de la biodiversidad, particularmente en el Corredor Biológico Mesoamericano (CBM) y en el Corredor Biológico en el Caribe (CBC), localizados en la región

SICA, mediante la producción de bienes públicos regionales en este campo.

2. RESUMEN DEL PROYECTO

Los detalles del Proyecto se describen en el Marco Lógico (Matriz de Diseño del Proyecto: PDM) (Apéndice 2) y el Plan Operativo tentativo (Apéndice 3).

(1) Título del proyecto

Proyecto de desarrollo de las capacidades en manejo y conservación integral de la biodiversidad a nivel regional en la región del SICA.

(2) Objetivo Superior

La institucionalidad regional y gobernanza para la conservación de la biodiversidad y su uso sostenible en la región SICA son fortalecidas.

(3) Objetivo del Proyecto

Se fortalecerán las capacidades en manejo y conservación integral de la biodiversidad nacional y regional, en los países que conforman la Región del SICA.

(4) Resultados Esperados

1) Construcción de una Plataforma Informática Regional para el manejo y la conservación integral de la biodiversidad en los países que conforman la Región del SICA.

2) Socialización de los resultados de los Proyectos Pilotos como buenas prácticas y lecciones aprendidas con el enfoque de pequeña escala de comunidades locales y pueblos indígenas, desde la perspectiva del desarrollo sostenible, y propuestas para la implementación de la política regional y las políticas nacionales.

3) Fortalecimiento de la capacidad regional de organización y recursos humanos para la conservación y utilización de la biodiversidad en coordinación con el SICA-CCAD.

(5) Actividades

Como se muestra en el Apéndice 2.

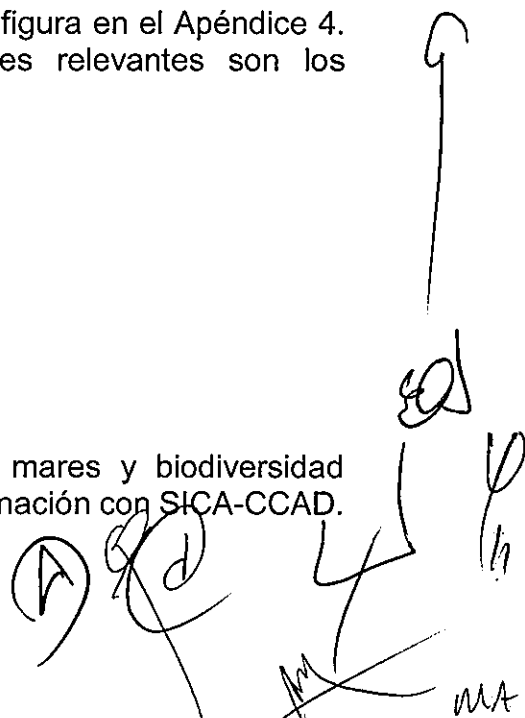
(6) Estructura de implementación

La tabla de estructura de implementación del proyecto figura en el Apéndice 4. Los roles y las asignaciones de las organizaciones relevantes son los siguientes:

1) CCAD-SICA

- Director del Proyecto
Presidente, CCAD
- Coordinador del Proyecto
Secretario Ejecutivo, ES-CCAD
- Equipo de implementación
Miembros del comité técnico regional sobre mares y biodiversidad designados por cada estado miembro en coordinación con SICA-CCAD.

CCAD



2) Expertos de JICA

Los expertos de JICA brindarán orientación técnica, consejos y recomendaciones a los países miembros en coordinación con el comité técnico regional sobre biodiversidad del SICA-CCAD, y otras organizaciones relevantes sobre cualquier asunto relacionado con la implementación del Proyecto.

3) Comité Coordinador Conjunto

Se establecerá un Comité Coordinador Conjunto (en lo sucesivo, "CCC") para proporcionar una decisión y facilitar la coordinación entre las organizaciones. El CCC se reunirá al menos una vez al año y según surja la necesidad. El CCC aprobará un plan de trabajo anual, revisará el progreso general, supervisará y evaluará el Proyecto e intercambiará opiniones sobre los principales problemas que surjan durante la implementación del Proyecto. Una lista de los miembros propuestos para el CCC se muestra en el Apéndice 5.

(7) Áreas objetivo y Beneficiarios

1) Área objetivo: Región SICA (ocho (8) países miembros en coordinación con SICA-CCAD)

2) Beneficiarios: Los beneficiarios directos son personal relevante de los países miembros de CCAD en coordinación con SICA-CCAD como miembros del comité técnico regional sobre diversidad biológica, mientras que los beneficiarios indirectos son las comunidades locales en los países miembros del SICA.

(8) Duración

La duración del Proyecto será de cinco (5) años a partir de la fecha de llegada del primer experto de JICA para el Proyecto.

(9) Informes

Países miembros de CCAD en coordinación con SICA-CCAD y los expertos de JICA prepararán conjuntamente los siguientes informes en inglés.

1) Hojas de seguimiento semestrales hasta la finalización del proyecto

2) Informe de finalización del proyecto al momento de la finalización del proyecto.

II. Consideraciones Ambientales y Sociales

Con respecto a la Sección 10.1 de los PB, es probable que el Proyecto tenga un impacto adverso mínimo sobre el medio ambiente y la sociedad según las "Directrices de JICA para Consideraciones Ambientales y Sociales (abril de 2010)".

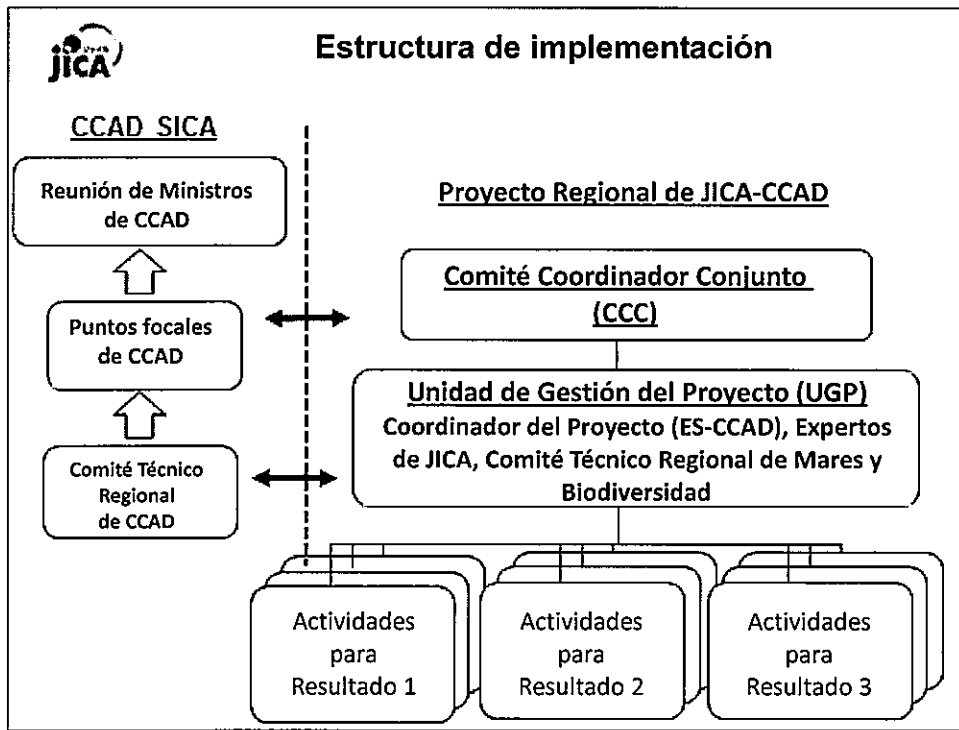
Weyor

(A) (B) (C)

45
MA

↑
6
11

Apéndice 4: Estructura de implementación



Copy

(A)

2/12

4

4

MA

Apéndice 5: Lista de miembros propuestos del Comité Coordinador Conjunto

1. Presidente
Director de Proyecto, Presidente de CCAD
2. Miembros de SICA
 - 1) Coordinador del Proyecto, Secretario Ejecutivo de ES-CCAD
 - 2) Puntos Focales de CCAD del país miembro
 - 3) Miembros del Comité Técnico Regional de Mares y Biodiversidad
 - 4) Otras personas que el lado del SICA podría considerar necesarias (socios de cooperación, ONG, consultores, etc.), si es necesario
3. Lado japonés:
 - 1) Expertos japoneses
 - 2) Representante Principal de la Oficina de JICA en El Salvador
 - 3) Asesor de JICA para el SICA
 - 4) Representante(s) de la Embajada del Japón
 - 5) Otras personas que el lado japonés podría considerar necesario

Uy a J

Handwritten notes and signatures at the bottom right of the page, including a large upward-pointing arrow and several illegible signatures.

Apéndice 6: Lista de proyectos de cooperación técnica de JICA en el área de conservación de la naturaleza en los países miembros del SICA (Hasta febrero de 2018)

El Salvador:

- Proyecto para el manejo integral de los humedales en las lagunas de Olomega y El Jocotal (en curso)

Honduras:

- Proyecto del Corredor Biológico La Unión para el uso sostenible y la conservación de la biodiversidad (en curso)
- Proyecto para el fortalecimiento del manejo sostenible de cuencas con participación comunitaria en el área forestal protegida de la presa El Cajón (completado)

Nicaragua

- Proyecto sobre manejo forestal participativo (completado)

Costa Rica:

- Proyecto para Promover la conservación participativa de la biodiversidad (completado)

Panamá:

- Proyecto de desarrollo comunitario participativo y gestión integrada de la subcuenca del Lago Alhajuela (completado)

República Dominicana:

- Proyecto de manejo sostenible de cuencas hidrográficas en el área alta de la Represa Sabana Yegua en República Dominicana (completado)

Uyot

(A)

FE

4

U

ED

MA



Matriz de Diseño del Proyecto

(Ver 1.1, Fecha de Elaboración: 30 de marzo 2018)

Título del Proyecto: Proyecto de Desarrollo de las Capacidades en Manejo y Conservación Integral de la Biodiversidad al nivel regional en la Región del SICA

Órgano Ejecutor: Ministerios de medio ambiente de los ocho países de la CCAD en coordinación con la Secretaría Ejecutiva de la CCAD

Grupo objeto: Los 8 países de la CCAD, Funcionarios de los ministerios de medio ambiente de los países, miembros de la comisión técnica regional de mares y biodiversidad de la CCAD

Período de proyecto: Cinco (5) años

Sitio de Proyecto: Los ocho países de la CCAD

Resumen del proyecto	Indicadores verificables	Medios de verificación	Condiciones previas
Objetivo Superior			
La institucionalidad regional y gobernanza para la conservación de la biodiversidad y su uso sostenible en la región SICA son fortalecidas.	1. La Estrategia Regional Ambiental Marco (ERAM) es revisada y actualizada para la utilización de las informaciones y datos en la plataforma informática regional.	Publicación/Reportes de la CCAD Website	La CCAD-SICA mantiene la alta prioridad en la conservación de la biodiversidad y su uso sostenible.
Objetivo del Proyecto			
Se fortalecerán las capacidades en manejo y conservación integral de la biodiversidad nacional y regional, en los países que conforman la Región del SICA.	1. La plataforma informática regional de biodiversidad de SICA es referenciada y utilizada en el proceso de elaboración de las políticas, planes, reportes nacionales y regionales relacionados con biodiversidad. 2. Por lo menos una actividad de utilización de los resultados y conocimientos adquiridos por el Proyecto es realizada en cada uno de los países.	Entrevistas a los C/Ps Publicación/Reportes de la CCAD Website	El presupuesto de la CCAD-SICA no será drásticamente reducido.
Resultados Esperados			

Handwritten signatures and initials are present at the bottom of the page. On the left, there is a circled signature. Below it, there are several other signatures and initials, including one that appears to be 'WTF' and another that looks like 'Ceyor' with an arrow pointing to it.

1. Construcción de una Plataforma Informática Regional para el manejo y la conservación integral de la biodiversidad en los países que conforman la Región del SICA	1.1 Por lo menos XX módulos (Ej. Información regional / datos de corredores biológicos, humedales, biodiversidad) están disponibles en la plataforma informática regional.	Registro de las actividades del Proyecto	-No hay cambio drástico en el manejo del sistema administrativo y estructura de la Secretaría Ejecutiva de la CCAD -No ocurren los desastres naturales drásticos en los sitios del Proyecto
	1.2 Más de un 80% de los participantes en las capacitaciones comprende la función de la plataforma informática regional y la saben utilizar, articulada con las plataformas nacionales.	Cuestionarios /entrevistas	
2. Socialización de los resultados de los Proyectos Pilotos como buenas prácticas y lecciones aprendidas con el enfoque de pequeña escala de comunidades locales y pueblos indígenas, desde la perspectiva del desarrollo sostenible, y propuestas para la implementación de la política regional y las políticas nacionales.	2.1 Por lo menos xx modelos de desarrollo económico sostenible son construidos en base a los proyectos pilotos y buenas prácticas, y compartidos entre los países.	Registro de las actividades del Proyecto.	
	2.2 Por lo menos un 90% de los proyectos pilotos son evaluados "Muy Útil" conjuntamente entre la CCAD y la JICA, para promover y diseminar los modelos de desarrollo económico sostenible.	Cuestionarios /entrevistas	
3. Fortalecimiento de la capacidad regional de organización y recursos humanos para la conservación y utilización de la biodiversidad en coordinación con el SICA-CCAD.	3.1 Más de xx % de los participantes en la capacitación son aprobados por las pruebas de comprensión ofrecidas por el Proyecto.	Cuestionarios /entrevistas.	
	3.2 Seminarios y talleres regionales y nacionales para desarrollo de las capacidades del manejo de conservación de biodiversidad, vinculados con los resultados 1 y 2 son realizados más de XX veces en la región.	Seminarios Reportes de talleres Reportes del Proyecto	
Actividades	Insumos		Condiciones Previas
1.1 Diagnóstico, análisis y evaluación de la situación actual de los datos e informaciones sobre corredores biológicos, humedales y la biodiversidad en la región (al nivel regional y nacional)	Parte Japonesa	Parte de SICA CCAD	-Los países miembros de la CCAD asignan los miembros de la Comisión Técnica Regional de Mares y Biodiversidad con presencia constante.
	<u>1. Expertos</u> -Líder del Equipo Japonés/Manejo	<u>1. Contrapartes</u> -Director del Proyecto -Coordinador del Proyecto	

Handwritten notes and signatures:

- A circled 'D' with a checkmark.
- Handwritten initials 'M' and 'A'.
- A signature that appears to be 'Celyot'.

<p>1.2 Diseño y construcción del sistema informático regional, incluyendo corredores biológicos, humedales y biodiversidad.</p>	<p>Integral de Ecosistemas -Coordinador del Proyecto/Plan de Capacitación y Fortalecimiento de Institucionalidad Regional</p>	<p>-Los miembros de la Comisión Técnica Regional de Mares y Biodiversidad CCAD -Otros técnicos relacionados al Proyecto</p>	<p>-Los países miembros de la CCAD están de acuerdo con compartimiento de los datos existentes para la construcción de la plataforma informática regional de la biodiversidad.</p>
<p>1.3 Construcción de la Plataforma Informática y generación de conocimientos que contribuyan al establecimiento del "Mecanismo Regional de Facilitación para el Convenio sobre La Diversidad Biológica (CHM)"</p>	<p>-Expertos de Corto Plazo (ej. GIS/Base de Datos, Sensoramiento Remoto, Agroforestal, Ecoturismo, etc.)</p>	<p>2. Facilidades Espacio de trabajo para los expertos y contrapartes con los equipos necesarios, internet, teléfono en la oficina de la Secretaría Ejecutiva de la CCAD.</p>	<p>Temas y contramedidas</p>
<p>1.4 Capacitación de los recursos humanos para el uso y mantenimiento de la plataforma informática regional articulada con las nacionales existentes, incluyendo recolectar, procesar, y poner a disposición datos e informaciones.</p>	<p>-Coordinador Local de origen centroamericano o dominicano</p>		
<p>1.5 Elaborar "SICA-Regional Biodiversity Outlook" utilizando la plataforma informática regional</p>	<p>2. Equipos y materiales</p>		
<p>2.1 Crear un sistema para la convocatoria regional de propuestas técnicas sobre proyectos pilotos en la región con los criterios de selección establecidos por la Comisión Técnica Regional de Mares y Biodiversidad CCAD</p>	<p>-Equipos para la construcción de la plataforma informática regional de biodiversidad -Equipo y materiales necesarios para los proyectos pilotos</p>		
<p>2.2 Convocatoria de Proyectos Pilotos (Por ejemplo: Mecanismo de financiamiento, PES, ABS, Sello regional de acreditación, generación de marca regional-nacional de productos agrícolas, promoción de ecoturismo, desarrollo de emprendimientos con alternativas económicas comunitarias ambientales sostenibles, haciendo en énfasis en actividades en los ecosistemas de humedales, áreas protegidas y corredores biológicos priorizados, etc.)</p>	<p>-Otros equipos necesarios</p> <p>3. Capacitación (en Japón o en otros países)</p>		
<p>2.3 Aprobación y selección de proyectos pilotos y los</p>	<p>-Política y gobernanza del manejo y conservación de la biodiversidad -Manejo de parques nacionales,</p>		

Handwritten notes and signatures:

- A circled letter 'A' with a checkmark.
- A circled letter 'B' with a checkmark.
- Handwritten initials 'M.A.' and 'C.A.'.
- A large handwritten signature 'C.A.' with an arrow pointing to the right.

insumos necesarios para su ejecución.

patrimonios mundiales, áreas protegidas y corredores biológicos

- Medidas compensatorias para la biodiversidad (Biodiversity Offsetting)
- Manejo y conservación de los humedales
- Manejo y conservación de la biodiversidad con la colaboración entre industria-academia-gobierno
- Conservación ambiental por gobiernos locales con el enfoque a la armonía entre medio ambiente urbano y ecosistema.

2.4 Implementación de los proyectos piloto aprobados.

2.5 Evaluación de los proyectos piloto

2.6 Recolección de buenas prácticas relacionadas al desarrollo económico sostenible en la región.

2.7 Creación del Inventario de los posibles modelos de desarrollo económico en la región SICA

2.8 Integrar las buenas prácticas y lecciones aprendidas en la plataforma informática regional creada en el resultado 1.

2.9 Propuestas para la mejor implementación de las políticas regionales y nacionales, en base a los resultados generados

3.1 Diagnóstico y análisis de las necesidades de capacitación de los recursos humanos



Cely

3.2 Elaboración de los modelos de programa y currículum de cursos regionales en diferentes temas seleccionados y su ejecución en base a los recursos potenciales en la región SICA y los países de América Latina y Japón, en coordinación con los proyectos bilaterales de JICA.

3.3 Ejecución del programa de capacitación, incluyendo seminarios, talleres y la revisión de los resultados.

3.4 Hacer recomendaciones a la estructura organizacional regional y de recursos humanos necesarios para el fortalecimiento de la conservación y el uso de biodiversidad en el marco de la CCAD.

Handwritten notes and signatures:

- Top left: A circled 'A' and a circled 'P'.
- Middle left: A large 'F' with a checkmark to its left.
- Bottom left: A signature.
- Center: The word 'Objet' written vertically, with an arrow pointing downwards.
- Bottom center: A signature.

Project Design Matrix

Título del Proyecto: Proyecto de Desarrollo de las Capacidades en Manejo y Conservación Integral de la Biodiversidad al nivel regional en la Región del SICA

Version 1.1

Órgano Ejecutor: Ministerios de medio ambiente de los ocho países de la CCAD en coordinación con la Secretaría Ejecutiva de la CCAD

Dated 30 March 2018

Grupo objeto: Los 8 países de la CCAD, Funcionarios de los ministerios de medio ambiente de los países, miembros de la comisión técnica regional de mares y biodiversidad de la CCAD

Periodo de proyecto: Cinco (5) años

Sitio de Proyecto: Los ocho países de la CCAD

Resumen del proyecto	Indicadores verificables	Medios de verificación	Condiciones previas	Logros	Comentarios
Objetivo Superior					
La institucionalidad regional y gobernanza para la conservación de la biodiversidad y su uso sostenible en la región SICA son fortalecidas.	1. La Estrategia Regional Ambiental Marco (ERAM) es revisada y actualizada para la utilización de las informaciones y datos en la plataforma informática regional.	Publicación/Reportes de la CCAD Website	La CCAD-SICA mantiene la alta prioridad en la conservación de la biodiversidad y su uso sostenible.		
Se fortalecerán las capacidades en manejo y conservación integral de la biodiversidad nacional y regional, en los países que conforman la Región del SICA.	1. La plataforma informática regional de biodiversidad de SICA es referenciada y utilizada en el proceso de elaboración de las políticas, planes, reportes nacionales y regionales relacionados con biodiversidad.	Entrevistas a los C/Ps Publicación/Reportes de la CCAD Website	El presupuesto de la CCAD-SICA no será drásticamente reducido.		
	2. Por lo menos una actividad de utilización de los resultados y conocimientos adquiridos por el Proyecto es realizada en cada uno de los países.				
Resultados Esperados					
1. Construcción de una Plataforma Informática Regional para el manejo y la conservación integral de la biodiversidad en los países que conforman la Región del SICA	1.1 Por lo menos XX módulos (Ej. Información regional / datos de corredores biológicos, humedales, biodiversidad) están disponibles en la plataforma informática regional.	Registro de las actividades del Proyecto	-No hay cambio drástico en el manejo del sistema administrativo y estructura de la Secretaría Ejecutiva de la CCAD -No ocurren los desastres naturales drásticos en los sitios del Proyecto		
	1.2 Más de un 80% de los participantes en las capacitaciones comprende la función de la plataforma informática regional y la saben utilizar, articulada con las plataformas nacionales	Cuestionarios /entrevistas			
2. Socialización de los resultados de los Proyectos Pilotos como buenas prácticas y lecciones aprendidas con el enfoque de pequeña escala de comunidades locales y pueblos indígenas, desde la perspectiva del desarrollo sostenible, y propuestas para la implementación de la política regional y las políticas	2.1 Por lo menos xx modelos de desarrollo económico sostenible son construidos en base a los proyectos pilotos y buenas prácticas, y compartidos entre los países.	Registro de las actividades del Proyecto.			

deyer

nacionales.	2.2 Por lo menos un 90% de los proyectos pilotos son evaluados "Muy Útil" conjuntamente entre la CCAD y la JICA, para promover y disseminar los modelos de desarrollo económico	Cuestionarios /entrevistas		
3. Desarrollo de las Capacidades de los Recursos Humanos y Fortalecimiento Institucional a nivel regional en el marco de la CCAD, para la promoción de la implementación de la ERAM	3.1 Más de xx % de los participantes en la capacitación son aprobados por las pruebas de comprensión ofrecidas por el Proyecto.	Cuestionarios /entrevistas.		
	3.2 Seminarios y talleres regionales y nacionales para desarrollo de las capacidades del manejo de conservación de biodiversidad.	Seminarios Reportes de talleres Reportes del Proyecto		
Actividades	Insumos		Condiciones Previas	
1.1 Diagnóstico, análisis y evaluación de la situación actual de los datos e informaciones sobre corredores biológicos, humedales y la biodiversidad en la región (al nivel regional y nacional)	Parte Japonesa 1. Expertos -Lider del Equipo Japonés/Manejo Integral de Ecosistemas -Coordinador del Proyecto/Plan de Capacitación y Fortalecimiento de Institucionalidad Regional -Expertos de Corto Plazo (ej. GIS/Base de Datos, Sensoramiento Remoto, Agroforestal, Ecoturismo, etc.) -Coordinador Local de origen centroamericano o dominicano	Parte de SICA CCAD 1. Contrapartes -Director del Proyecto -Coordinador del Proyecto -Los miembros de la Comisión Técnica Regional de Mares y Biodiversidad CCAD -Otros técnicos relacionados al Proyecto 2. Facilidades Espacio de trabajo para los expertos y contrapartes con los equipos necesarios, internet, teléfono en la oficina de la Secretaría Ejecutiva de la CCAD.	-los países miembros de la CCAD asignan los miembros de la Comisión Técnica Regional de Mares y Biodiversidad con presencia constante. -Los países miembros de la CCAD están de acuerdos con compartimiento de los datos existentes para la construcción de la plataforma informática regional de la biodiversidad	
1.2 Diseño y construcción del sistema informático regional, incluyendo corredores biológicos, humedales y biodiversidad.			Temas y contramedidas	
1.3 Construcción de la Plataforma Informática y generación de conocimientos que contribuyan al establecimiento del "Mecanismo Regional de Facilitación para el Convenio sobre La Diversidad				
1.4 Capacitación de los recursos humanos para el uso y mantenimiento de la plataforma informática regional articulada con las nacionales existentes, incluyendo recolectar, procesar, y poner a disposición datos e informaciones.	2. Equipos y materiales -Equipos para la construcción de la plataforma informática regional de biodiversidad -Equipo y materiales necesarios para los proyectos pilotos -Otros equipos necesarios			
1.5 Elaborar "SICA-Regional Biodiversity Outlook" utilizando la plataforma informática regional	3. Capacitación (en Japón o en otros países) -Política y gobernanza del manejo y conservación de la biodiversidad -Manejo de parques nacionales, patrimonios mundiales, áreas protegidas y corredores biológicos -Medidas compensatorias para la biodiversidad (Biodiversity Offsetting) Manejo y conservación de los			
2.1 Crear un sistema para la convocatoria regional de propuestas técnicas sobre proyectos pilotos en la región con los criterios de selección establecidos por la Comisión Técnica Regional de Mares y Biodiversidad CCAD				
2.2 Convocatoria de Proyectos Pilotos (Por ejemplo: Mecanismo de financiamiento, PES, ABS, Sello regional de acreditación, generación de marca				

Handwritten signatures and initials are present at the bottom of the page, including a large signature on the left and another on the right.

regional de acreditación, generación de marca regional-nacional de productos agrícolas, promoción de ecoturismo, desarrollo de emprendimientos con alternativas económicas comunitarias ambientales sostenibles, haciendo en énfasis en actividades en los ecosistemas de humedales, áreas protegidas y corredores biológicos priorizados, etc.)

2.3 Aprobación y selección de proyectos pilotos y los insumos necesarios para su ejecución.

2.4 Implementación de los proyectos piloto aprobados.

2.5 Evaluación de los proyectos piloto

2.6 Recolección de buenas prácticas relacionadas al desarrollo económico sostenible en la región.

2.7 Creación del Inventario de los posibles modelos de desarrollo económico en la región SICA

2.8 Integrar las buenas prácticas y lecciones aprendidas en la plataforma informática regional creada en el resultado 1.

2.9 Propuestas para la mejor implementación de las políticas regionales y nacionales, en base a los resultados generados

3.1 Diagnóstico y análisis de las necesidades de capacitación de los recursos humanos

3.2 Elaboración de los modelos de programa y currículum de cursos regionales en diferentes temas seleccionados y su ejecución en base a los recursos potenciales en la región SICA y los países de América Latina y Japón, en coordinación con los proyectos bilaterales de JICA.

3.3 Ejecución del programa de capacitación, incluyendo seminarios, talleres y la revisión de los resultados.

3.4 Hacer recomendaciones a la estructura organizacional regional y de recursos humanos necesarios para el fortalecimiento de la conservación y el uso de biodiversidad en el marco de la CCAD.

Manejo y conservación de los humedales
 -Manejo y conservación de la biodiversidad con la colaboración entre industria-academia-gobierno -
 Conservación ambiental por gobiernos locales con el enfoque a la armonía entre medio ambiente urbano y ecosistema.

Handwritten signatures and initials:

- Top left: A circular stamp or signature.
- Bottom left: Initials "MA" and "ED".
- Center: A signature that appears to be "Cely" with a horizontal line extending to the right.

Plan de Operaciones Tentativo

Version 1.1

Fecha: 30 Marzo 2018

Título del Proyecto: Proyecto de Desarrollo de las Capacidades en Manejo y Conservación Integral de la Biodiversidad al nivel regional en la Región del SICA

Insumos	Año	Monitoreo																				Comentarios	Monitoreo		
		1er Año				2º Año				3er Año				4º Año				5º Año					Obstáculos	Soluciones	
		I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV				
Expert																									
Jefe Asesor/Manejo de Ecosistemas	Plan																								
	Actual																								
Coordinador de Proyecto/Planificación de entrenamiento/Capacidad Institucional	Plan																								
	Actual																								
Expertos de Corto Plazo	Plan																								
	Actual																								
Equipo																									
	Plan																								
	Actual																								
	Plan																								
	Actual																								
Entrenamiento en Japón																									
Entrenamiento en Japón	Plan																								
	Actual																								
Entrenamiento en el País/Tercer País																									
	Plan																								
	Actual																								
Actividades																						Organización responsable		Logros	Obstáculos y contramedidas
Sub-Actividades																						Japón SICA			
Resultado 1: Construcción de una Plataforma Informática Regional para el manejo y la conservación integral de la biodiversidad en los países que conforman la Región del SICA																									
1.1 Diagnóstico, análisis y evaluación de la situación actual de los datos e informaciones sobre corredores biológicos, humedales y la biodiversidad en la región (al nivel regional y nacional)	Plan																								
	Actual																								
1.2 Diseño y construcción del sistema informático regional, incluyendo corredores biológicos, humedales y biodiversidad.	Plan																								
	Actual																								
1.3 Construcción de la Plataforma Informática y generación de conocimientos que contribuyan al establecimiento del "Mecanismo Regional de Facilitación para el Convenio sobre La Diversidad Biológica (CHM)"	Plan																								
	Actual																								
1.4 Capacitación de los recursos humanos para el uso y mantenimiento de la plataforma informática regional articulada con las nacionales existentes, incluyendo recolectar, procesar, y poner a disposición datos e informaciones.	Plan																								
	Actual																								
1.5 Elaborar "SICA-Regional Biodiversity Outlook" utilizando la plataforma informática regional	Plan																								
	Actual																								
Resultado 2. Socialización de los resultados de los Proyectos Pilotos como buenas prácticas y lecciones aprendidas con el enfoque de pequeña escala de comunidades locales y pueblos indígenas, desde la perspectiva del desarrollo sostenible, y propuestas para la implementación de la política regional y las políticas nacionales.																									
2.1 Crear un sistema para la convocatoria regional de propuestas técnicas sobre proyectos pilotos en la región con los criterios de selección establecidos por la Comisión Técnica Regional de Mares y Biodiversidad CCAD	Plan																								
	Actual																								
2.2 Convocatoria de Proyectos Pilotos (Por ejemplo: Mecanismo de financiamiento, PES, ABS, Sello regional de acreditación, generación de marca regional-nacional de productos agrícolas, promoción de ecoturismo, desarrollo de emprendimientos con alternativas económicas comunitarias ambientales sostenibles, haciendo énfasis en actividades en los ecosistemas de humedales, áreas protegidas y corredores biológicos priorizados, etc.)	Plan																								
	Actual																								

討議議事録 (R/D) (改訂版) (英語、スペイン語)



**MINUTES OF MEETINGS
BETWEEN
THE JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY (JICA)
AND
THE CENTRAL AMERICAN COMMISSION ON ENVIRONMENT AND
DEVELOPMENT (CCAD)
ON
PROJECT FOR CAPACITY DEVELOPMENT ON INTEGRATED
MANAGEMENT AND CONSERVATION OF BIODIVERSITY AT REGIONAL
LEVEL IN SICA REGION**

The Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA"), and the Central American Commission on Environment and Development (hereinafter referred to as "CCAD") hereby agree that as per the Annex 1 based on the discussions at the JCC held on April 6th, 2022, the Record of Discussions (i.e. Annex 2) on "the project for the development of capacities in integrated management and conservation of biodiversity at Regional in the SICA region" signed on June 19th, 2018 is amended.

This amendment become effective as of April 6th, 2022.

The parties subscribe two original copies of the present document, done in both English and Spanish languages, both are equally authentic. In case of any divergence of interpretation, the English text shall prevail.

Annex 1 : Comparison Table for Amendment of the R/D

Annex 2 : Record of Discussions (signed on June 19th, 2018)

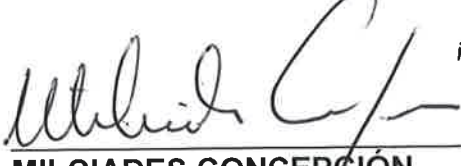
Panama City, Panama, April 6, 2022

For
Japan International Cooperation Agency

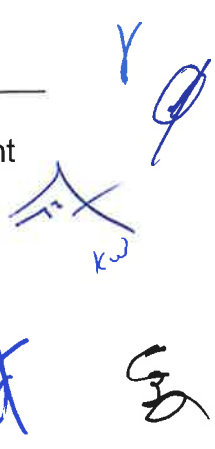


MASARU KOZONO
Chief Representative
JICA Office in El Salvador

For
The CCAD and Panama



MILCIADES CONCEPCIÓN
Minister of the Ministry of Environment
President Pro Tempore of the CCAD
Republic of Panama



For
Belize



KENRICK WILLIAMS
Vice Minister of the Ministry of Sustainable
Development, Climate Change and
Disaster Risk Management
Belize

For
Guatemala



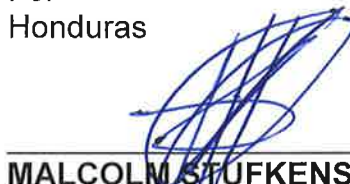
ANGEL ERNESTO LAVARREDA
Vice Minister of the Ministry of Environment
and Natural Resources
Republic of Guatemala

For
El Salvador



MAYRA ARGUETA
Representative of Minister of Environment
and Natural Resources
Republic of El Salvador

For
Honduras



MALCOLM STUFKENS
Sub Secretary of the Secretariat of Energy,
Natural Resources, Environment and Mines
Republic of Honduras

For
Nicaragua



FANNY SUMAYA CASTILLO
Minister of the Ministry of Environment and
Natural Resources
Republic of Nicaragua

For
Costa Rica



CYNTHIA BARZUNA
Vice Minister of the Ministry of Environment
and Energy
Republic of Costa Rica

For
Dominican Republic



ORLANDO JORGE MERA
Minister of the Ministry of Environment and
Natural Resources
Dominican Republic

For
Executive Secretariat CCAD



JAIR URRIOLA QUIROZ
Executive Secretary
CCAD

Handwritten notes and initials: *M.C*, *KCS*, *ESJ*, *Y*, *72*, *1*



ANNEX 1

Comparison Table for Amendment of the R/D

1. 2.OUTLINE OF THE PROJECT (6) Implementation Structure

Present Statement	Revised Statement
<p>2) JICA Experts The JICA experts will give necessary technical guidance, advice and recommendations to the member countries in coordination with SICA-CCAD, regional technical committee on biodiversity and other relevant organizations on any matters pertaining to the implementation of the Project.</p>	<p>2) JICA Experts 【Long-term expert】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ Project coordinator : In addition to the arrangement of meetings, he will also be responsible for coordination and collaboration with Japanese consultants and implementation of Output 1 (establishment of a biodiversity platform) and Output 3 (capacity building through training). <p>【Japanese consultant team】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ Team leader (chief advisor): Specialized in ecosystem management / regional collaboration, lead ecosystem conservation and regional collaboration, consolidating all outputs of the project. ◇ Expert of Community empowerment and cooperation: In charge of strengthening communication and collaboration between pilot communities within each region. ◇ Expert of Participatory livelihood enhancement: In charge of supporting pilot activities in each community.

2. Project Design Matrix (PDM) (Annex 2 of the R/D)

Item	Present Statement	Revised Statement
Overall Goal	Regional institutional framework and governance on biodiversity conservation and sustainable use in the SICA region is strengthened.	No change
Indicator	Regional Environmental Strategy Framework (ERAM) is revised by utilizing information and database of the regional information platform.	No change
Project Purpose	Management capacity on utilization and conservation of biodiversity of member countries in coordination with SICA-CCAD is strengthened.	No change
Indicator 1	The regional information platform is referred to for making policies, plans and reports related to biodiversity.	Changed and move to Indicator 1.3
Indicator 2	At least one activity on utilization and conservation of biodiversity which refer to the knowledge and experiences of the	Replaced by new Indicators 1 &2.

M. C. [Signature]

9/28

	Project is introduced in each member countries.	
(New) Indicator 1	Added	Based on the lessons learned from Outputs 1-3, sustainable models and approaches that are considered useful to promote ecosystem and biodiversity conservation in transboundary areas and protected areas are compiled into policy recommendations.
(New) Indicator 2	Added	Policy recommendations are submitted to CCAD as a collective effort and consensus of the stakeholders (i.e. villages and counterparts), and their importance is discussed and recognized at the ministers' meeting.

Item	Present Statement	Revised Statement
Output 1	A regional information platform for conservation and utilization of biodiversity in the SICA region is established.	No change
Indicator 1.1	At least xx modules (e.g. regional information / data of biological corridors, wetlands, biodiversity) are available in the regional information platform.	At least 5 modules (e.g. regional information / data of biological corridors, wetlands, biodiversity) are available in the regional information platform.
Indicator 1.2	More than 80% of training participants of the information platform understand its function and modules to utilize the platform in articulation with national information system.	More than 80% of training participants of the information platform understand its development, utilization and maintenance.
(New) Indicator 1.3	Changed and moved from Indicator 1	Future utilization of the project results in the region is discussed and shared among the member countries through CCAD framework.
Output 2	Results of pilot projects such as good practice and lesson learned focused on small scale rural community and indigenes people are socialized, from the view point of sustainable development and proposal for implementation of regional and national policies.	No change ※ This Output should be consistent for all the pilot projects in 4 regions, so the indicators described here should also be regarded as common and general indicators for all of the pilot projects.
Indicator 2.1	At least xx sustainable economic development models are compiled based on the pilot projects and good practices and shared among the member countries.	In the 4 pilot project areas, models for sustainable ecosystem conservation in transboundary areas are compiled as lesson learned case studies.
Indicator 2.2	More than 90% of the pilot activities are jointly evaluated as "very useful" for developing sustainable economy development models for the region.	Establish a mechanism for cross-border exchange of information and sharing of experience and knowledge among the selected pilot communities in each pilot region.
(New) Indicator 2.3	Added	The leaders of the pilot activities in each community understand the experience and good practice in the pilot communities within other countries.
Output 3	Regional organizational and human resources capacity for conservation and utilization of biodiversity are strengthened	No change

mlk

BE M.C. [Signature]

	in coordination with SICA-CCAD.	
Indicator 3.1	More than xx% of training participants' knowledge level is increased.	80% or more of training participants rate their level of knowledge increased as a result of the training program.
Indicator 3.2	Regional seminars and workshops to share knowledge and experiences in SICA are organized more than xx times.	At least 8 regional seminars and workshops are held to share SICA's knowledge and experience.

Item	Present Statement	Revised Statement
Activity 1.1	Evaluate and analyze current state of existing data such as biological corridors, wetlands, biodiversity database etc. in the region (i.e. regional and national level)	No change
Activity 1.2	Develop design for a regional information platform as a multi biodiversity platform for data exchange and information sharing among the SICA member countries, particularly for biological corridors, wetlands, biodiversity.	No change
Activity 1.3	Build the regional information platform	No change
Activity 1.4	Organize training for selected staff of the member countries in coordination with SICA-CCAD for utilization and maintenance of the information platform (i.e. collecting, processing, and making data/information available) in articulation with national information system.	In coordination with SICA-CCAD, train selected staff of the member countries on the establishment, use and maintenance of national information platforms (e.g. collection, processing and use of available information).
Activity 1.5	Produce "regional biodiversity outlook" using the information system.	Compile a "Regional Biodiversity Outlook (Preparatory Guidelines / Summary)" using the platform.
Activity 2.1	Develop selection criteria for pilot projects of sustainable economic development which contribute to both improvement of livelihoods at community level and biodiversity conservation	No change
Activity 2.2	Call for pilot project proposals (e.g. PES, ABS, agro-forestry, branding agricultural product, promotion of ecotourism / agro tourism, development of ventures for environmental sustainable community economic alternatives, emphasizing activities in wetland ecosystems, protected areas and prioritized biological corridors etc.) from related countries	Develop proposals for pilot projects with pilot community stakeholders (e.g., PES, ABS, agroforestry, agro-branding, promotion of ecotourism/agricultural tourism, development of environmentally sustainable local economic alternatives in priority areas such as wetland ecosystems, protected areas and biological corridors).
Activity 2.3	Select pilot projects and make decisions of actual supports for the pilot projects.	No change
Activity 2.4	Support implementation of the pilot projects.	No change
Activity 2.5	Evaluate and analyze the results of pilot projects (i.e. financial sustainability, impact, lessons learnt, etc.) and compile their lessons learnt.	No change
Activity 2.6	Collect good practices related to	Collect examples of good practices related to

mb

G M C X

	sustainable economic development among the region.	sustainable ecosystem conservation in the region with an objective of strengthening governance mechanisms in transboundary ecosystems.
Activity 2.7	Develop an inventory of sustainable economic development models adaptable within the region based on 2.5 and 2.6.	Develop recommendations on governance mechanisms in transboundary ecosystems (cf. Indicator 1) that can be adapted within the region based on Indicators 2.5 and 2.6.
Activity 2.8	Integrate the inventory into the information platform developed in Output 1.	Upload the above good practice, recommendations and lesson learnt to the information platform developed in Output 1.
Activity 2.9	Make recommendations for improving regional and national level related policies based on the results obtained through the pilot projects.	No change
Activity 3.1	Evaluate and analyze training needs from SICA member countries in coordination with SICA-CCAD.	No change
Activity 3.2	Develop regional training program and curriculum on selected themes for the project for SICA member country in coordination with SICA-CCAD based on training resources in SICA region, Japan and neighboring countries (Latin America region) in collaboration with JICA's bilateral projects	In cooperation with SICA-CCAD, develop regional training programs and curricula on specific topics for the project, based on training resources in the SICA region, Japan and neighboring countries (Latin America region).
Activity 3.3	Conduct training including seminars and workshops, and review the plan based on the result of the training.	No change
Activity 3.4	Make recommendations on regional organizational structure and necessary human resources for strengthening conservation and utilization of biodiversity within the CCAD framework	Provide recommendations on strengthening the capacity of local organizational structures and necessary human resources to promote the conservation and use of biodiversity in the framework of CCAD.

Item	Present Statement	Revised Statement
Inputs The Japanese Side 1. Experts	-Chief Advisor/Ecosystem Management -Project Coordinator/Training Planning/Institutional Capacity -Other Short-Term Experts (e.g. GIS/Data Base, Remote sensing, Agro-forestry, Eco-tourism, etc.) -Local Coordinator	- Team leader (chief advisor): Ecosystem management/regional collaboration - Project coordinator/training planning/institutional capacity - Expert of Community empowerment and cooperation - Expert of Participatory livelihood enhancement

3. List of Proposed Members of Joint Coordinating Committee (Annex 5 of the R/D)

Present Statement	Revised Statement
3. Japanese side: 2) Chief Representative of JICA El Salvador Office	3. Japanese side: 2) Chief Representative of JICA Office in the SICA member countries.

mle

CSJ M. Cd

4. Reason

1. Implementation Structure

- To respond to diverse needs in a variety of specialized fields, a team of experts with a high level of expertise in each field will be assigned.

2. Project Design Matrix (PDM)

- It was found necessary to have a holistic indicator to evaluate the purpose of the project (i.e. what was learned from all of the project activities) as a concrete output (i.e. policy recommendations) of the project.
- Based on the project's current achievements, indicators were quantified where possible and appropriate.
- Based on the needs and current situation of SICA member countries about information platform and human resources, activities of Output 1 and 3 were modified.
- To clarify significance of the pilot activities with a view to strengthening governance mechanisms in transboundary protected areas, activities of Output 2 were amended.

3. Member of Joint Coordinating Committee

- To allow greater flexibility for the chief representative of JICA offices to participate in CCAD Ministers' meeting depending on a host country, the list of Proposed Members of Joint Coordinating Committee was amended.

8

J!-

Mye

M.C. 



**MINUTA DE REUNIONES
ENTRE
LA AGENCIA DE COOPERACIÓN INTERNACIONAL DEL JAPÓN (JICA)
Y
LA COMISIÓN CENTROAMERICANA DE AMBIENTE Y DESARROLLO
(CCAD)
SOBRE
EL PROYECTO DE DESARROLLO DE LAS CAPACIDADES EN MANEJO Y
CONSERVACIÓN INTEGRAL DE LA BIODIVERSIDAD A NIVEL REGIONAL
EN LA REGIÓN DEL SICA**

La Agencia de Cooperación Internacional del Japón (en adelante se denominará "JICA"), y la Comisión Centroamericana de Ambiente y Desarrollo (en adelante se denominará "CCAD") acuerda que de acuerdo con el Anexo 1, con base en las discusiones en el Comité de Coordinación Conjunta (denominado CCC) celebrado el 6 de abril de 2022, se modifica el Registro de Discusiones (es decir, Anexo 2) sobre el "Proyecto de Desarrollo de Capacidades en Manejo y Conservación Integral de la Biodiversidad a Nivel Regional en la Región del SICA" firmado el 19 de junio de 2018.

Esta enmienda entra en vigencia a partir del 6 de abril de 2022.

Las partes suscriben dos ejemplares originales del presente documento, en los idiomas español e inglés, ambos igualmente auténticos. En caso de discrepancias de interpretación, prevalecerá el texto en inglés.

Anexo 1 : Tabla de comparación para la enmienda del Registro de Discusiones

Anexo 2 : Registro de Discusiones (firmado el 19 de junio de 2018)

Ciudad de Panamá, Panamá, 6 de abril de 2022

En representación de JICA

MASARU KOZONO
Jefe Representante
Oficina de JICA en El Salvador

En representación de la CCAD y Panamá

MILCIADES CONCEPCIÓN
Ministro de Ambiente
Presidente Pro Tempore de la CCAD
República de Panamá

En representación de
Belice



KENRICK WILLIAMS

Viceministro de Desarrollo Sostenible,
Cambio Climático y Gestión de Riesgo de
Desastres
Belice

En representación de
El Salvador



MAYRA ARGUETA

Representante del Ministro de Medio
Ambiente y Recursos Naturales
República de El Salvador

En representación de
Nicaragua



FANNY SUMAYA CASTILLO

Ministra del Ambiente y los Recursos
Naturales
República de Nicaragua

En representación de la
República Dominicana



ORLANDO JORGE MERA

Ministro de Medio Ambiente y Recursos
Naturales
República Dominicana

En representación de
Guatemala



ANGEL ERNESTO LAVARREDA

Viceministro de Ambiente y Recursos
Naturales
República de Guatemala

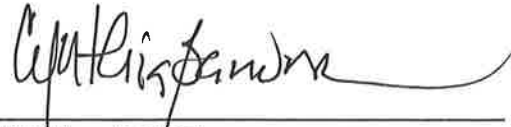
En representación de
Honduras



MALCOLM STUFKENS

Subsecretario de Energía, Recursos
Naturales, Ambiente y Minas
República de Honduras

En representación de
Costa Rica



CYNTHIA BARZUNA

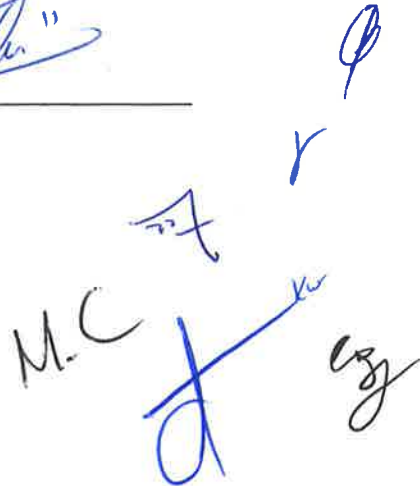
Viceministra de Ambiente y Energía
República de Costa Rica

En representación de la
Secretaría Ejecutiva de la CCAD



JAIR URRIOLA QUIROZ

Secretario Ejecutivo
CCAD



M.C
d
r
ky

ANEXO 1

Tabla de comparación para la enmienda del Registro de Discusiones

1. 2. RESUMEN DEL PROYECTO (6) Estructura de implementación

Antes	Versión Enmendada
<p>2) Expertos de la JICA Los expertos de la JICA darán la orientación técnica necesaria, el asesoramiento y las recomendaciones a los países miembros en coordinación con el SICA-CCAD, el comité técnico regional sobre la biodiversidad y otras organizaciones pertinentes sobre cualquier asunto relacionado con la ejecución del Proyecto.</p>	<p>2) 【Experto a largo plazo】 <ul style="list-style-type: none"> ◇ Coordinador del proyecto : Además de la organización de las reuniones, también se encargará de la coordinación y la colaboración con los consultores japoneses y de la ejecución del resultado esperado 1 (creación de una plataforma de biodiversidad) y del resultado esperado 3 (creación de capacidades mediante la formación). 【Equipo de consultores japoneses】 <ul style="list-style-type: none"> ◇ Jefe de equipo (asesor principal): Especializado en gestión de ecosistemas/colaboración regional, dirige la conservación de los ecosistemas y la colaboración regional, consolidando todos los resultados del proyecto. ◇ Experto en Potenciación y cooperación de las comunidades: Encargado de reforzar la comunicación y la colaboración entre las comunidades piloto dentro de cada región. ◇ Experto en Mejora participativa de los medios de vida: Encargado de apoyar las actividades piloto en cada comunidad. </p>

2. Matriz de diseño del proyecto (PDM) (Apéndice 2 de R/D)

Ítem	Antes	Versión enmendada
Objetivo Superior	La institucionalidad regional y gobernanza para la conservación de la biodiversidad y su uso sostenible en la región SICA son fortalecidas.	No hay cambios
Indicador	La Estrategia Regional Ambiental Marco (ERAM) es revisada y actualizada para la utilización de las informaciones y datos en la plataforma informática regional.	No hay cambios
Objetivo del Proyecto	Se fortalecerán las capacidades en manejo y conservación integral de la biodiversidad nacional y regional, en los países que conforman la Región del SICA.	No hay cambios
Indicador 1	La plataforma informática regional de biodiversidad de SICA es referenciada y utilizada en el proceso de elaboración de las políticas, planes, reportes nacionales y regionales relacionados con biodiversidad.	Cambiado y trasladado al Indicador 1.3

f!-

mle

Handwritten signatures and initials in blue ink, including a large signature and the initials 'M.C.', 'K', and 'K-2'.

Indicador 2	Por lo menos una actividad de utilización de los resultados y conocimientos adquiridos por el Proyecto es realizada en cada uno de los países.	Sustituido por los nuevos indicadores 1 y 2.
(Nuevo) Indicador 1	Añadido	Con base en las lecciones aprendidas de los resultados esperados 1 a 3, los modelos y enfoques sostenibles que se consideran útiles para promover la conservación de los ecosistemas y la biodiversidad en las zonas transfronterizas y las áreas protegidas se recopilan en recomendaciones políticas.
(Nuevo) Indicador 2	Añadido	Las recomendaciones políticas se presentan a la CCAD como un esfuerzo colectivo y un consenso de las partes interesadas (es decir, las comunidades y las contrapartes), y su importancia se discute y reconoce en la reunión de ministros.

Ítem	Antes	Versión Enmendada
Resultado Esperado 1	Construcción de una Plataforma Informática Regional para el manejo y la conservación integral de la biodiversidad en los países que conforman la Región del SICA.	No hay cambios
Indicador 1.1	Por lo menos XX módulos (Ej. Información regional / datos de corredores biológicos, humedales, biodiversidad) están disponibles en la plataforma informática regional.	Por lo menos 5 módulos (Ej. Información regional / datos de corredores biológicos, humedales, biodiversidad) están disponibles en la plataforma informática regional.
Indicador 1.2	Más de un 80% de los participantes en las capacitaciones comprende la función de la plataforma informática regional y la saben utilizar, articulada con las plataformas nacionales.	Más del 80% de los participantes en la formación de la plataforma de información comprenden su desarrollo, utilización y mantenimiento.
(Nuevo) Indicador 1.3	Cambiado y trasladado del Indicador 1	La utilización futura de los resultados del proyecto en la región se discute y se comparte entre los países miembros a través del marco de la CCAD.
Resultado Esperado 2	Socialización de los resultados de los Proyectos Pilotos como buenas prácticas y lecciones aprendidas con el enfoque de pequeña escala de comunidades locales y pueblos indígenas, desde la perspectiva del desarrollo sostenible, y propuestas para la implementación de la política regional y las políticas nacionales.	No hay cambios ※ Este resultado debe ser coherente para todos los proyectos piloto en 4 regiones, por lo que los indicadores descritos aquí también deben considerarse como indicadores comunes y generales para todos los proyectos piloto.
Indicador 2.1	Por lo menos xx modelos de desarrollo económico sostenible son construidos en base a los proyectos pilotos y buenas prácticas, y compartidos entre los países.	En las 4 zonas del proyecto piloto, se recopilan modelos de conservación sostenible de los ecosistemas transfronterizos como estudios de casos de lecciones aprendidas.
Indicador 2.2	Por lo menos un 90% de los proyectos pilotos son evaluados "Muy Útil" conjuntamente entre la CCAD y la JICA,	Establecer un mecanismo para el intercambio transfronterizo de información y la puesta en común de experiencias y

71-

mbe

M-C
d
100

Handwritten signatures and initials on the right side of the page.

	para promover y diseminar los modelos de desarrollo económico sostenible.	conocimientos entre las comunidades piloto seleccionados en cada región piloto.
(Nuevo) Indicador 2.3	Añadido	Líderes de las actividades piloto de cada comunidad conocen las experiencias y buenas prácticas de las comunidades dentro de los proyectos piloto en otros países.
Resultado Esperado 3	Fortalecimiento de la capacidad regional de organización y recursos humanos para la conservación y utilización de la biodiversidad en coordinación con el SICA-CCAD.	No hay cambios
Indicador 3.1	Más de xx % de los participantes en la capacitación son aprobados por las pruebas de comprensión ofrecidas por el Proyecto.	El 80% o más de los participantes en la formación aumentaron su nivel de conocimientos como resultado del programa de formación.
Indicador 3.2	Seminarios y talleres regionales y nacionales para desarrollo de las capacidades del manejo de conservación de biodiversidad, vinculados con los resultados 1 y 2 son realizados más de XX veces en la región.	Se celebran al menos 8 seminarios y talleres regionales para compartir los conocimientos y la experiencia de SICA.

Ítem	Antes	Versión Enmendada
Actividad 1.1	Diagnóstico, análisis y evaluación de la situación actual de los datos e informaciones sobre corredores biológicos, humedales y la biodiversidad en la región (al nivel regional y nacional).	No hay cambios
Actividad 1.2	Diseño y construcción del sistema informático regional, incluyendo corredores biológicos, humedales y biodiversidad.	No hay cambios
Actividad 1.3	Construcción de la Plataforma Informática y generación de conocimientos que contribuyan al establecimiento del "Mecanismo Regional de Facilitación para el Convenio sobre La Diversidad Biológica (CHM)".	No hay cambios
Actividad 1.4	Capacitación de los recursos humanos para el uso y mantenimiento de la plataforma informática regional articulada con las nacionales existentes, incluyendo recolectar, procesar, y poner a disposición datos e informaciones.	En coordinación con el SICA-CCAD, formar al personal seleccionado de los países miembros en el establecimiento, uso y mantenimiento de las plataformas nacionales de información (por ejemplo, recopilación, procesamiento y uso de la información disponible).
Actividad 1.5	Elaborar "SICA-Regional Biodiversity Outlook" utilizando la plataforma informática regional.	Elaborar una "Perspectiva regional de la biodiversidad (directrices preparatorias / resumen)" utilizando la plataforma.
Actividad 2.1	Crear un sistema para la convocatoria regional de propuestas técnicas sobre proyectos pilotos en la región con los criterios de selección establecidos por la Comisión Técnica Regional de Mares y Biodiversidad CCAD.	No hay cambios

me

by MC

Actividad 2.2	Convocatoria de Proyectos Pilotos (Por ejemplo: Mecanismo de financiamiento, PES, ABS, Sello regional de acreditación, generación de marca regional-nacional de productos agrícolas, promoción de ecoturismo, desarrollo de emprendimientos con alternativas económicas comunitarias ambientales sostenibles, haciendo énfasis en actividades en los ecosistemas de humedales, áreas protegidas y corredores biológicos priorizados, etc.).	Desarrollar propuestas de proyectos pilotos con las partes interesadas de la comunidad piloto (por ejemplo, PSA, APB, agroforestería, marca agrícola, promoción del ecoturismo/turismo agrícola, desarrollo de alternativas económicas locales ambientalmente sostenibles en áreas prioritarias como ecosistemas de humedales, áreas protegidas y corredores biológicos).
Actividad 2.3	Aprobación y selección de proyectos pilotos y los insumos necesarios para su ejecución.	No hay cambios
Actividad 2.4	Implementación de los proyectos piloto aprobados.	No hay cambios
Actividad 2.5	Evaluación de los proyectos piloto.	No hay cambios
Actividad 2.6	Recolección de buenas prácticas relacionadas al desarrollo económico sostenible en la región.	Recoger ejemplos de buenas prácticas relacionadas con la conservación sostenible de los ecosistemas en la región con el objetivo de reforzar los mecanismos de gobernanza en los ecosistemas transfronterizos.
Actividad 2.7	Creación del Inventario de los posibles modelos de desarrollo económico en la región SICA.	Elaborar recomendaciones sobre los mecanismos de gobernanza en los ecosistemas transfronterizos (véase el Indicador 1) que puedan adaptarse en la región sobre la base de los Indicadores 2.5 y 2.6.
Actividad 2.8	Integrar las buenas prácticas y lecciones aprendidas en la plataforma informática regional creada en el resultado 1.	Subir las buenas prácticas, recomendaciones y lecciones aprendidas anteriores a la plataforma de información desarrollada en el resultado 1.
Actividad 2.9	Propuestas para la mejor implementación de las políticas regionales y nacionales, en base a los resultados generados.	No hay cambios
Actividad 3.1	Diagnóstico y análisis de las necesidades de capacitación de los recursos humanos.	No hay cambios
Actividad 3.2	Elaboración de los modelos de programa y currículum de cursos regionales en diferentes temas seleccionados y su ejecución en base a los recursos potenciales en la región SICA y los países de América Latina y Japón, en coordinación con los proyectos bilaterales de JICA.	En cooperación con el SICA-CCAD, desarrollar programas regionales de formación y planes de estudio sobre temas específicos para el proyecto, basándose en los recursos de formación de la región del SICA, Japón y los países vecinos (región de América Latina).
Actividad 3.3	Ejecución del programa de capacitación, incluyendo seminarios, talleres y la revisión de los resultados.	No hay cambios
Actividad 3.4	Hacer recomendaciones a la estructura organizacional regional y de recursos humanos necesarios para el fortalecimiento de la conservación y el uso de biodiversidad	Proporcionar recomendaciones sobre el fortalecimiento de la capacidad de las estructuras organizativas locales y los recursos humanos necesarios para promover

4!

mlc

mlc

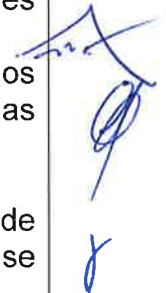

	en el marco de la CCAD.	la conservación y el uso de la biodiversidad en el marco de la CCAD.
--	-------------------------	----------------------------------------------------------------------

Ítem	Antes	Versión Enmendada
Insumos Parte Japonesa 1. Expertos	- Líder del Equipo Japonés/Manejo Integral de Ecosistemas - Coordinador del Proyecto/Plan de Capacitación y Fortalecimiento de Institucionalidad Regional - Expertos de Corto Plazo (ej. GIS/Base de Datos, Sensoramiento Remoto, Agroforestal, Ecoturismo, etc.) - Coordinador Local de origen centroamericano o dominicano	- Jefe de equipo (asesor principal): Gestión de ecosistemas/colaboración regional - Coordinador del Proyecto/Plan de Capacitación y Fortalecimiento de Institucionalidad Regional - Experto en Empoderamiento y cooperación de la comunidad - Experto en Mejora participativa de los medios de vida

3. Lista de miembros propuestos del Comité Coordinador Conjunto (Apéndice 5 de R/D)

Antes	Versión Enmendada
3. Lado japonés: 2) Representante Principal de la Oficina de JICA en El Salvador	3. Lado japonés 2) Representante Principal de la Oficina de la JICA en los países de miembros del SICA-CCAD.

4. Razón

<p>1. Estructura de implementación</p> <ul style="list-style-type: none"> - Para responder a diversas necesidades en una variedad de campos especializados, se asignará un equipo de expertos con un alto nivel de experiencia en cada campo. <p>2. Matriz de diseño del proyecto (PDM)</p> <ul style="list-style-type: none"> - Se encontró necesario tener un indicador holístico para evaluar el propósito del proyecto (es decir, lo que se aprendió de todas las actividades del proyecto) como un resultado concreto (es decir, recomendaciones de políticas) del proyecto. - Con base en los logros actuales del proyecto, se cuantificaron los indicadores cuando fue posible y apropiado. - Con base en las necesidades y situación actual de los países miembros del SICA en cuanto a plataforma de información y recursos humanos, se modificaron las actividades del Resultado Esperado 1 y 3. - Para aclarar la importancia de las actividades piloto con punto de vista a fortalecer los mecanismos de gobernanza en las áreas protegidas transfronterizas, se modificaron las actividades del Resultado Esperado 2. <p>3. Miembro de Comité Coordinador Conjunto</p> <ul style="list-style-type: none"> - Para permitir una mayor flexibilidad para que el representante principal de las oficinas de JICA participe en la reunión de Ministros del CCAD dependiendo de un país anfitrión, se modificó la lista de Miembros Propuestos del Comité Coordinador Conjunto. 	
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------

M.C. [Handwritten signature]

[Handwritten signature]

M.C.

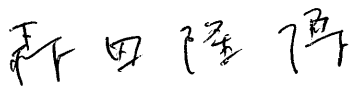
協議議事録 (M/M) (英語)

MINUTES OF MEETINGS
BETWEEN
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY (JICA)
AND
CENTRAL AMERICAN COMMISSION ON ENVIRONMENT AND DEVELOPMENT (CCAD)
OF
CENTRAL AMERICAN INTEGRATION SYSTEM (SICA)
ON
THE STRATEGIC CAPACITY BUILDING PROJECT
FOR SUSTAINABLE UTILIZATION AND CONSERVATION OF BIODIVERSITY IN SICA

Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") has dispatched the Detailed Planning Survey Team (hereinafter referred to as "the Team") headed by Mr. Takahiro Morita, Senior Deputy Director General, Global Environment Department, JICA, to the Dominican Republic from 11 to 17 February 2018 for the purpose of formulating the technical cooperation project of the "Strategic Capacity Building Project for Sustainable Utilization and Conservation of Biodiversity in SICA" (hereinafter referred to as "the Project").

During its stay, both the Team and Central American Commission on Environment and Development, Central American Integration System, had a series of discussions and exchanged the views on the Project with respect to referable measures to be taken by both sides for smooth implementation of the Project. As a result of these discussions, both sides agreed to the matters referred to in the document attached here to.

Santo Domingo, 16 February 2018



Mr. Takahiro MORITA

Team Leader

Detailed Planning Survey Team

Japan International Cooperation Agency



Dr. Francisco Domínguez Brito
Minister of Environment and Natural
Resources
Dominican Republic

President Pro Tempore
Central American Commission on Environment
and Development
Central American Integration System



Mr. Salvador Ernesto Nieto Carcamo
Executive Secretary

Central American Commission on Environment and Development
Central American Integration System



ATTACHED DOCUMENT

1. Background

(1) Background of the Project

Following the "Tokyo Declaration" and "Action Plan" adopted at the "Japan-Central American Summit Meeting" held in Tokyo in August 2005, JICA has been supporting each member country of the Central American Integration System ((hereinafter referred to as "SICA"), which consists of eight (8) countries (Panama, Belize, Guatemala, El Salvador, Honduras, Nicaragua, Costa Rica, Dominican Republic), with focus on bilateral cooperation.

On the other hand, since SICA member countries are located in geographically narrow region, whilst development issues specific to each country exist, there are also many common development issues. Thus, SICA member countries are working on resolving development issues and regional common development issues beyond such borders by producing "regional public goods" where benefits are brought to sub-regions of multiple countries.

Based on these circumstances, in order to align JICA 's cooperation with these regional initiatives, the first SICA - JICA Annual Conference was held in October 2015 and five priority areas of SICA regional cooperation were agreed. They are: (1) Logistics Agreed to implement cooperation in line with logistics; (2) strengthening of infrastructure / housing natural disaster responsiveness; (3) ecosystem / wetland conservation; (4) gender; and (5) rural territorial development).

With regard to the abovementioned "ecosystem / wetland conservation", JICA and Central American Commission on Environment and Development (hereinafter referred to as "CCAD") under SICA have been considering a regional technical cooperation project on sustainable conservation and utilization of biodiversity in the SICA region.

In order to formalize the regional cooperation project, JICA conducted a data collection survey in countries where Mexico was added to the eight (8) SICA member countries in 2016. During its survey period, a regional workshop was held in Managua, Nicaragua, in August 2016 to discuss a draft outline of the SICA-JICA regional project.

Consequently, in May 2017, SICA General Secretariat came up with a formal request for new technical cooperation, which was immediately submitted to the Government of Japan.

(2) Challenges to be addressed

Referring the result of the data collection survey conducted in 2016 and the regional workshop held in Nicaragua in August 2016, both sides have confirmed the following challenges in terms of regional biodiversity conservation.

a. Improvement of regional knowledge base

Information for policy decision making on ecosystem and wetland management as a whole region is insufficient or access to information is limited.

-Information on Mesoamerica Biological Corridor

The Mesoamerican Biological Corridor (hereinafter referred to as "MBC") Concept, which has been promoted by Mexico and Colombia in addition to the eight (8) SICA member countries, aims at securing biodiversity by linking the fragmented habitats of wildlife and enabling their movement. The MBC concept also contributes to sustainable development, while residents heavily depend on natural resources. In promoting the MBC concept, it is important to examine information on where the fragmentation is progressing, where the population is increasing and the development pressure is rising, where and what measures have been taken.

However, the information on the MBC is dispersed in each country. To realize the MBC concept effectively, it is an important issue for the entire region that the formation of the relevant activities, projects and programs and its implementation status are grasped in a centralized manner in the region.

-Regional Biodiversity Information

Although database on biodiversity is constructed and managed in each country, it has not been fully utilized for regional policy formulation up to the present. If these databases could be integrated, it can guide information necessary for policy decision-making and become an important policy tool. In particular, it is desirable to formulate an integrated database which includes detailed information on species such as endangered species and alien species in the area, detailed information on indicator species in important ecosystem areas, etc. and show them on the regional map. Such a database helps to set up efficient protected areas in the region, and to evaluate the situation based on objective data.

-Information on Wetlands

Accessibility to information on wetlands also should be improved. It is a field left behind from the support of donors, as compared with terrestrial ecosystems such as forests. However, wetlands also play an indispensable role for the survival of local

residents, such as supply of food and water, prevention and mitigation of floods, provision of sightseeing places and opportunities. Furthermore, wetlands are areas where water and land meet, and because of their rich productivity, they become habitats for various animals and plants. Thus, wetlands are one of important ecosystems and a regional information system on wetlands which can be a basis of wetland conservation should be developed.

b. Securing sustainability of conservation activities

Continuous efforts are needed for ecosystem conservation. However lack of funds is always a serious issue. Each country's ecosystem conservation budget is not sufficient for covering diverse needs. Moreover, it is difficult to get continuous support from overseas. There are many examples that conservation activities are continued only when some donors support them. How to secure sufficient resources to complement the budget and donor funds is extremely important and common to all countries. Various funding sources including GEF should be explored. In addition, it is urgent to develop sustainable economic development models that contribute to ecological conservation and disseminate them.

c. Sharing knowledge and experience within the region

In SICA member countries, various activities related to ecosystem and wetland management and conservation that could be applied to other SICA countries have been implemented. However, sharing knowledge and experiences within the region is not done enough, and each country formulates policies and management systems independently. As a result, despite the variety of options available, the experiences have not been fully utilized. Thus, sharing experiences and knowledge within the region is a priority issue.

(3) Basic Concept of the Project

As a result of the surveys and the series of discussions, the following four specific targets were identified.

Specific target 1: Build a regional system of knowledge management related to conservation and sustainable use of biodiversity and ecosystems.

Specific target 2: Establish models for sustainable economic development based on participatory ecosystems and biodiversity conservation.

Specific target 3: Ensure the provision of ecosystem services that enhance the conservation and use of wetlands, ensure the conservation and sustainability of global,



regional and local biodiversity, and contribute to the benefits of residents.

Specific target 4: Share knowledge and experience of the region.

In order to achieve the above four specific objectives, this project will develop "regional biodiversity information platform" and "sustainable economic development model(s)" that is consistent with conservation and utilization of biodiversity. Furthermore, the project will promote capacity development through these efforts and knowledge and experiences inside and outside the SICA region.

Aligning with ERAM (Regional Environment Strategy Framework) and EMSA (Mesoamerica Sustainable Environment Strategy), the project aims at contributing to biodiversity conservation and utilization, particularly in Mesoamerican Biological Corridor (MBC), in the SICA region through production of regional public goods in this field.

2. Purpose of the Project

Both sides agreed that the main purpose of the Project is:

Management Capacity of relevant organizations concerning biodiversity conservation and utilization in the SICA region is strengthened in coordination with SICA-CCAD.

3. Duration of the Project

Both sides agreed that the duration of the Project is five (5) years and the Project would commence when the first Japanese expert(s) arrive in the SICA region..

4. Major points to be concerned

Both sides confirmed that the major points to be concerned as follows:

(1) Regional Biodiversity Information Platform

As mentioned in 1-(2)-a above, various information and databases exist in each country, but they are not supposed to be used as a region. Therefore, under the condition that all the member countries agree on data sharing as a SICA region, the Project will support to link existing biological corridor information, biodiversity database and wetland management information owned by each country.

In addition, the project will help to compile existing data on endangered species in the region, detailed information on alien species, indicator species in important ecosystem areas, and put them on the regional map. As a result, it becomes possible to formulate appropriate environmental conservation policies including setting protected areas as a whole region, and to monitor and evaluate environmental

conditions based on objective data. Furthermore, it is also possible to incorporate forest change data obtained from JJ - FAST (JICA-JAXA Forest Early Warning System in the Tropics) into this information platform for enhancement of ecosystem management in the region..

(2) Collaboration with existing cooperation projects

As mentioned in 1-(2)-c above, various activities related to strengthening management capacities for ecosystem and wetland conservation have been implemented in the SICA region. For instance, JICA is currently supporting technical cooperation projects in the field of nature conservation in Honduras, El Salvador and Costa Rica. In addition, the survey identified 21 regional cooperation projects, of which 16 are supported by GIZ.

However, the result of the survey also showed that experiences and knowledge in the region are not fully shared nor utilized within the SICA region in a strategic manner. Thus, contributing to regional capacity building for biodiversity conservation and utilization, each member country is encouraged to consolidate their existing knowledge and experiences, which are withdrawn from such bilateral and regional projects, with other member countries through the Project.

(3) Pilot activities harmonizing conservation with sustainable use of biodiversity

From the viewpoint of securing sustainability of conservation activities as mentioned in 1-(2)-b above, shortage of funds is a serious challenge. It is necessary to explore ways to utilize benefits from natural resources that exist in the region for sustainable environmental conservation and improvement of communities' livelihoods. Thus, the pilot projects under this project shall contribute to sustainable economic development model (e.g. mechanisms to sustainably gain external resources such as PES, ABS, and certification system, branding of agricultural and forest products, promotion of ecotourism), and knowledge and experiences of pilot activities are expected to be shared among the region.

Number and scale of the pilot projects will be decided in the Joint Coordination Committee (JCC), which is mentioned in the Attachment 4 of the draft Record of Discussions (hereinafter referred to as "R/D"), within the Project budget limitation.

(4) Role of each member country in the project

Each member country is expected to share its knowledge and experiences of its biodiversity conservation policies, mechanisms, activities including donors' cooperation projects. Attachment 6 of the R/D shows JICA's technical cooperation projects in nature conservation area in SICA member countries. The host countries of

these projects are required to share their results and lessons learnt with other member countries.

(5) Title of the Project

The project title shall be modified from “Strategic Capacity Building Project for Sustainable Utilization and Conservation of Biodiversity in SICA” to “Project for Capacity Development on Integrated Management and Conservation of Biodiversity in SICA”

6. Framework of the Project

As a result of the discussions, both sides agreed on a draft of R/D shown in ANNEX II. After the approval of JICA headquarters, JICA El Salvador Office and CCAD shall prepare final R/D and sign it. Based on the signed R/D, JICA Headquarters will start project implementation procedures including dispatch of Japanese experts.

Both sides acknowledged that the Project Design Matrix (hereinafter referred to as “PDM”) provides an overall framework and necessary elements for the implementation of the Project in an appropriate manner. Both sides agreed PDM ver. 1 as per ANNEX I.

7. Implementation Structure

Both sides confirmed to establish implementation structure as described in the Attachment 4 of the draft of R/D to ensure smooth implementation of the Project. CCAD is the coordination entity of the Project.

CCAD member countries in coordination with SICA-CCAD will take necessary procedural action to set up the structure. Technical issues will be discussed between the regional technical committee for seas and biodiversity with Japanese expert team, and proposed project activities will be implemented by each member country in coordination with CCAD as shown in the implementation structure in the draft of R/D, ANNEX II.

8. Joint Coordinating Committee

Joint Coordinating Committee (hereinafter referred to as "JCC") will be established in order to provide a decision and facilitate inter-organizational coordination. JCC will be held at least once a year and as a need arises. JCC will approve an annual work plan, review overall progress, conduct monitoring and evaluation of the Project, and exchange opinions on major issues that arise during the implementation of the Project. A list of proposed members of JCC is as follows:

(1) Chair

Project Director, President of CCAD

(2) Members from SICA

- 1) Project Coordinator, Executive Secretary of CCAD
- 2) CCAD Focal Points from member country
- 3) Members of Regional Technical Committee on Seas and Biodiversity
- 4) Other persons that the SICA side might consider necessary (Cooperation partners, NGOs, consultants, etc), if necessary

(3) Japanese side:

- 1) Japanese Experts
- 2) Chief Representative of JICA El Salvador Office
- 3) JICA Advisor to SICA
- 4) Representative(s) from the Embassy of Japan
- 5) Other persons that Japanese side might consider necessary

9. Target Site of the Project

Both sides agreed that the Project activities mentioned in the PDM ver. 1 are implemented in the SICA region. Actual target site(s) such as places where pilot activities are implemented will be discussed and decided after the project has been started.

10. Undertakings of JICA

After the signing of R/D, JICA will take, at its own expense, the following measures in accordance with the laws and regulations in force in Japan.

(1) Dispatch of Japanese Experts and Local Coordinator

JICA will send the following Japanese experts and a local coordinator to El Salvador where the executive secretariat of CCAD is located. The experts, who are supposed to be based at CCAD, will visit the member countries for supporting implementation of

Project activities, where/if necessary. Depending on availability of capable expert personnel, JICA will decide assignment period and number of experts.

- Chief Advisor/Ecosystem Management
- Project Coordinator/Training Planning/Institutional Capacity
- Other Short-Term Experts (e.g. GIS/Data Base, Remote sensing, Agro-forestry, Eco-tourism, etc.)
- A Local Coordinator from SICA member countries

(2) Provision of Machinery and Equipment

JICA will provide such machinery, equipment and other materials (hereinafter referred to as “the Equipment”) necessary for the implementation of the Project with in the budget.

(3) Training of related Personnel

JICA will provide training opportunities of related personnel in Japan or other countries. For capacity development of SICA member countries in coordination with SICA-CCAD, the followings training courses are expected to be organized under framework of the project:

- Politics and governance of biodiversity management and conservation
- Management of national park, world heritage, protected areas and biological corridor
- Compensatory measures for biodiversity (Biodiversity offsetting)
- Management and conservation of wetlands
- Management and conservation of biodiversity in collaboration among academic, private and public sectors.
- Environmental conservation by local governments with the focus on harmony between urban environment and ecosystem.

11. Tentative Schedule

Once JICA has completed internal procedures for commencement of the project, the R/D will be signed. The Project will be commenced within six (6) months after the signing of the R/D.

- | | |
|----------|--------------------------------|
| ANNEX I | Project Design Matrix (PDM) |
| ANNEX II | Draft of Record of Discussions |

Project Design Matrix

ANNEX I

(Version 1, Dated 15 February 2018)

Project Title: Project for Capacity Development on Integrated Management and Conservation of Biodiversity in SICA

Implementing Agency: Eight (8) CCAD Member Countries in coordination with SICA-CCAD

Target Group: Relevant personnel of CCAD member countries in coordination with SICA-CCAD

Period of Project: five (5) years

Project Site: SICA region (eight (8) member countries in coordination with SICA-CCAD)

Overall Goal	Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption
Regional institutional framework and governance on biodiversity conservation and sustainable use in the SICA region is strengthened.		1. Regional Environmental Strategy Framework (ERAM) is revised by utilizing information and database of the regional information platform.	CCAD publication/reports Publication/Website	SICA and its member countries keep high priority on biodiversity conservation and sustainable resource utilization.
Project Purpose				
Management capacity on utilization and conservation of biodiversity of member countries in coordination with SICA-CCAD is strengthened.		1. The regional information platform is referred to for making policies, plans and reports related to biodiversity. 2. At least one activity on utilization and conservation of biodiversity which refer to the knowledge and experiences of the Project is introduced in each member countries.	Interview to C/Ps CCAD publication/reports Publication/Website	Budgets of SICA and its member countries are not drastically reduced.
Outputs				
1. A regional information platform for conservation and utilization of biodiversity in the SICA region is established.		1.1 At least xx modules (e.g. regional information / data of biological corridors, wetlands, biodiversity) are available in the regional information platform. 1.2 More than 80% of training participants of the information platform understand its function and modules to utilize the platform in articulation with national information system.	Records of the Project activities. Questionnaire/Interview Survey	-No drastic change in management administration system/structure in ES-CCAD -No devastating natural disasters than assumed will occur in the pilot sites

<p>2. Results of pilot projects such as good practice and lesson learned focused on small scale rural community and indigenes people are socialized, from the view point of sustainable development and proposal for implementation of regional and national policies</p>	<p>2.1 At least xx sustainable economic development models are compiled based on the pilot projects and good practices and shared among the member countries.</p> <p>2.2 More than 90% of the pilot activities are jointly evaluated as "very useful" for developing sustainable economy development models for the region.</p>	<p>Records of the Project activities.</p> <p>Questionnaire/Interview Survey</p>	
<p>3. Regional organizational and human resources capacity for conservation and utilization of biodiversity are strengthened in coordination with SICA-CCAD.</p>	<p>3.1 More than xx % of training participants' knowledge level is increased.</p> <p>3.2 Regional seminars and workshops to share knowledge and experiences in SICA are organized more than XX times.</p>	<p>Questionnaire to the participants.</p> <p>Seminar/Workshop reports Project reports</p>	
<p>Activities</p>			
<p>1.1 Evaluate and analyze current country of existing data such as biological corridors, wetlands, biodiversity database etc. in the region (i.e. regional and national level)</p>	<p>The Japanese Side</p> <p>1. Experts -Chief Advisor/Ecosystem Management -Project Coordinator/Training Planning/Institutional Capacity -Other Short-Term Experts (e.g. GIS/Data Base, Remote sensing, Agro-forestry, Eco-tourism, etc.) -Local Coordinator</p>	<p>The SICA Side</p> <p>1. Counterpart -Project Director -Project Coordinator -Member of Regional Technical Committee on Seas and Biodiversity of CCAD -Other Members for each activity</p> <p>2. Facility Office space for the experts with necessary equipment, Internet.</p>	<p>Pre-Conditions</p> <p>-All the SICA member countries assign their directors of biodiversity or equivalent level senior officer as the focal points of the project -SICA and its member countries agree to share existing data for the regional information platform</p>
<p>1.2 Develop design for a regional information platform as a multi biodiversity platform for data exchange and information shearing among the SICA member countries, particularly for biological corridors, wetlands, biodiversity.</p>	<p>2 Equipment -Equipment for construction of a regional information platform for conservation and utilization of biodiversity -Other necessary equipment</p> <p>3. Training Trainings in Japan and/or other countries -Politics and governance of biodiversity management and conservation -Management of national park, world</p>		<p>Issues and countermeasures</p>
<p>1.3 Build the regional information platform</p>			
<p>1.4 Organize training for selected staff of the member countries in coordination with SICA-CCAD for utilization and maintenance of the information platform (i.e. collecting, processing, and making data/information available) in articulation with national information system.</p>			
<p>1.5 Produce "regional biodiversity outlook" using the information system</p>			
<p>2.1 Develop selection criteria for pilot projects of sustainable economic development which contribute to both improvement of livelihoods at community level and biodiversity conservation</p>			
<p>2.2 Call for pilot project proposals (e.g. PES, ABS,</p>			

<p>agro-forestry, branding agricultural product, promotion of ecotourism/agro tourism, development of ventures for environmental sustainable community economic alternatives, emphasizing activities in wetland ecosystems, protected areas and prioritized biological corridors etc.) from related countries</p> <p>2.3 Select pilot projects and make decisions of actual supports for the pilot projects</p> <p>2.4 Support implementation of the pilot projects</p> <p>2.5 Evaluate and analyze the results of pilot projects (i.e. financial sustainability, impact, lessons learnt, etc.) and compile their lessons learnt.</p> <p>2.6 Collect good practices related to sustainable economic development among the region.</p> <p>2.7 Develop an inventory of sustainable economic development models adaptable within the region based on 2.5 and 2.6.</p> <p>2.8 Integrate the inventory into the information platform developed in Output 1.</p> <p>2.9 Make recommendations for improving regional and national level related policies based on the results obtained through the pilot projects</p> <p>3.1 Evaluate and analyze training needs from SICA member countries in coordination with SICA-CCAD.</p> <p>3.2 Develop regional training program and curriculum on selected themes for the project for SICA member country in coordination with SICA-CCAD based on training resources in SICA region, Japan and neighboring countries (Latin America region) in collaboration with JICA's bilateral projects</p> <p>3.3 Conduct training including seminars and workshops, and review the plan based on the result of the training</p> <p>3.4 Make recommendations on regional organizational structure and necessary human resources for strengthening conservation and utilization of biodiversity within the CCAD framework</p>	<p>heritage, protected areas and biological corridor</p> <ul style="list-style-type: none"> -Compensatory measures for biodiversity (e.g. Biodiversity offsetting) -Management and conservation of wetlands. -Management and conservation of biodiversity in collaboration among academic, private and public sectors. - Environmental conservation by local governments with the focus on harmony between urban environment and ecosystem 	
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

Handwritten signature and initials in the bottom right corner of the page.

(DRAFT)

ANNEX II

RECORD OF DISCUSSIONS

FOR

**PROJECT FOR CAPACITY DEVELOPMENT ON INTEGRATED
MANAGEMENT AND CONSERVATION OF BIODIVERSITY IN
SICA**

AGREED UPON BETWEEN

**CENTRAL AMERICAN COMMISSION ON ENVIRONMENT AND
DEVELOPMENT**

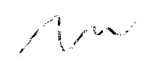
OF

CENTRAL AMERICAN INTEGRATION SYSTEM

AND

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

Dated xx xx 2018



(DRAFT)

Based on the minutes of meetings on the Detailed Planning Survey for "Project for Capacity Development on Integrated Management and Conservation of Biodiversity in SICA" (hereinafter referred to as "the Project") signed on 16 February 2018 between Central American Commission on Environment and Development, Central American Integration System (hereinafter referred to as "the Counterpart") and the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA"), JICA held a series of discussions with the Counterpart and relevant organizations to develop a detailed plan of the Project.

The purpose of this record of discussions (hereinafter referred to as "the R/D") is to establish a mutual agreement for its implementation by both parties and to agree on the detailed plan of the Project as described in the followings and the Annexes, which will be implemented within the framework of the Note Verbale to be exchanged between the Government of Japan and the Central American Integration System (hereinafter referred to as "SICA").

The Counterpart will be responsible for the implementation of the Project in cooperation with JICA, coordinate with other relevant organizations and ensure that the self-reliant operation of the Project is sustained during and after the implementation period in order to contribute toward social and economic development of SICA.

Both parties also agreed that the Project will be implemented in accordance with the "Basic Principles for Technical Cooperation" published in December 2016 (hereinafter referred to as "the BP"), unless other arrangements are agreed in the R/D.

The R/D is delivered at San Salvador as of the day and year first above written. The R/D may be amended by a minutes of meetings between both parties, except the plan of operation to be modified in monitoring sheets. The minutes of meetings will be signed by authorized persons of each side who may be different from the signers of the R/D.

Done in duplicate in English and Spanish languages, both are equally authentic. In case of any divergence of interpretation, the English text will prevail.

For
Japan International
Cooperation Agency

For
Central American Commission on
Environment and Development
Central American Integration System

Mr. Kazuo Fujishiro
Chief Representative
JICA El Salvador Office

Mr. Salvador Ernesto Nieto Cárcamo
Executive Secretary
Executive Secretariat of Central
American Commission on Environment
and Development



(DRAFT)

Annex 1 Main Points Discussed

Annex 2 Project Design Matrix (PDM)

Annex 3 Plan of Operation (PO)

Annex 4 Implementation Structure

Annex 5 List of Proposed Members of Joint Coordinating Committee

Annex 6 List of JICA's technical cooperation projects in nature conservation area in SICA member countries



MAIN POINTS DISCUSSED

I. Project Description

Both parties confirmed that the Project Description is shown below based on the minutes of meetings of the Detailed Planning Survey on the Project signed on 16 February 2018.

1. BACKGROUND

(1) Background of the Project

Following the "Tokyo Declaration" and "Action Plan" adopted at the "Japan-Central American Summit Meeting" held in Tokyo in August 2005, JICA has been supporting each member country of the Central American Integration System (SICA), which consists of eight (8) countries (Panama, Belize, Guatemala, El Salvador, Honduras, Nicaragua, Costa Rica, Dominican Republic), with focus on bilateral cooperation.

On the other hand, since SICA member countries are located in geographically narrow region, whilst development issues specific to each country exist, there are also many common development issues. Thus, SICA member countries are working on resolving development issues and regional common development issues beyond such borders by producing "regional public goods" where benefits are brought to sub-regions of multiple countries.

Based on these circumstances, in order to align JICA's cooperation with these regional initiatives, the first SICA - JICA Annual Conference was held in October 2015 and five priority areas of SICA regional cooperation were agreed. They are: (1) Logistics Agreed to implement cooperation in line with logistics; (2) strengthening of infrastructure / housing natural disaster responsiveness; (3) ecosystem / wetland conservation; (4) gender; and (5) rural territorial development).

With regard to the abovementioned "ecosystem / wetland conservation", JICA and Central American Commission on Environment and Development (CCAD) under SICA have been considering a regional technical cooperation project on sustainable conservation and utilization of biodiversity in the SICA region.

In order to formalize the regional cooperation project, JICA conducted a data collection survey in countries where Mexico was added to the eight (8) SICA member countries in 2016. During its survey period, a regional workshop was held in Managua, Nicaragua, in August 2016 to discuss a draft outline of the SICA-JICA regional project.

Consequently, in May 2017, SICA General Secretariat came up with a formal request for new technical cooperation, which was immediately submitted to the Government of Japan.

(2) Challenges to be addressed

Referring the result of the data collection survey conducted in 2016 and the regional workshop held in Nicaragua in August 2016, both sides have confirmed the following challenges in terms of regional biodiversity conservation.

a. Improvement of regional knowledge base

Information for policy decision making on ecosystem and wetland management



(DRAFT)

as a whole region is insufficient or access to information is limited.

-Information on Mesoamerica Biological Corridor

The Mesoamerican Biological Corridor (MBC) Concept, which has been promoted by Mexico and Colombia in addition to the eight (8) SICA member countries, aims at securing biodiversity by linking the fragmented habitats of wildlife and enabling their movement. The MBC concept also contributes to sustainable development, while residents heavily depend on natural resources. In promoting the MBC concept, it is important to examine information on where the fragmentation is progressing, where the population is increasing and the development pressure is rising, where and what measures have been taken. However, the information on the MBC is dispersed in each country. To realize the MBC concept effectively, it is an important issue for the entire region that the formation of the relevant activities, projects and programs and its implementation status are grasped in a centralized manner in the region.

-Regional Biodiversity Information

Although database on biodiversity is constructed and managed in each country, it has not been fully utilized for regional policy formulation up to the present. If these databases could be integrated, it can guide information necessary for policy decision-making and become an important policy tool. In particular, it is desirable to formulate an integrated database which includes detailed information on species such as endangered species and alien species in the area, detailed information on indicator species in important ecosystem areas, etc. and show them on the regional map. Such a database helps to set up efficient protected areas in the region, and to evaluate the situation based on objective data.

-Information on Wetlands

Accessibility to information on wetlands also should be improved. It is a field left behind from the support of donors, as compared with terrestrial ecosystems such as forests. However, wetlands also play an indispensable role for the survival of local residents, such as supply of food and water, prevention and mitigation of floods, provision of sightseeing places and opportunities. Furthermore, wetlands are areas where water and land meet, and because of their rich productivity, they become habitats for various animals and plants. Thus, wetlands are one of important ecosystems and a regional information system on wetlands which can be a basis of wetland conservation should be developed.

b. Securing sustainability of conservation activities

Continuous efforts are needed for ecosystem conservation. However lack of funds is always a serious issue. Each country's ecosystem conservation budget is not sufficient for covering diverse needs. Moreover, it is difficult to get continuous support from overseas. There are many examples that conservation activities are continued only when some donors support them. How to secure sufficient resources to complement the budget and donor funds is extremely important and common to all countries. Various funding sources including GEF should be explored. In addition, it is urgent to develop sustainable economic development models that contribute to ecological conservation and disseminate them.



(DRAFT)

c. Sharing knowledge and experience within the region

In SICA member countries, various activities related to ecosystem and wetland management and conservation that could be applied to other SICA countries have been implemented. However, sharing knowledge and experiences within the region is not enough and each country formulates policies and management systems independently. As a result, despite the variety of options available, the experiences have not been fully utilized. Thus, sharing experiences and knowledge within the region is a priority issue.

(3) Basic Concept of the Project

As a result of the surveys and the series of discussions, the following four specific targets were identified.

Specific target 1: Build a regional system of knowledge management related to conservation and sustainable use of biodiversity and ecosystems.

Specific target 2: Establish models for sustainable economic development based on participatory ecosystems and biodiversity conservation.

Specific target 3: Ensure the provision of ecosystem services that enhance the conservation and use of wetlands, ensure the conservation and sustainability of global, regional and local biodiversity, and contribute to the benefits of residents.

Specific target 4: Share knowledge and experience of the region.

In order to achieve the above four specific objectives, this project will develop "regional biodiversity information platform" and "sustainable economic development model(s)" that is consistent with conservation and utilization of biodiversity. Furthermore, the project will promote capacity development through these efforts and knowledge and experiences inside and outside the SICA region.

Aligning with ERAM (Regional Environment Strategy Framework) and EMSA (Mesoamerica Sustainable Environment Strategy), the project aims at contributing to biodiversity conservation and utilization, particularly in Mesoamerican Biological Corridor (MBC), in the SICA region through production of regional public goods in this field.

2. OUTLINE OF THE PROJECT

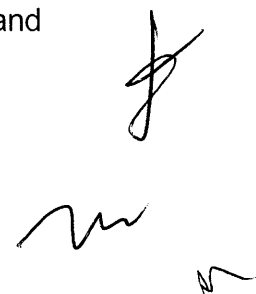
Details of the Project are described in the Logical Framework (Project Design Matrix: PDM) (Annex 2) and the tentative Plan of Operation (Annex 3).

(1) Title of the Project

Project for Capacity Development on Integrated Management and Conservation of Biodiversity in SICA

(2) Overall Goal

Regional institutions and governance on biodiversity conservation and sustainable use in the SICA region is strengthened.



(DRAFT)

(3) Project Purpose

Management capacity on utilization and conservation of biodiversity of SICA and its member countries is strengthened.

(4) Outputs

1) A regional information platform for conservation and utilization of biodiversity in the SICA region is established.

2) Results of pilot projects such as good practice and lesson learned focused on small scale rural community and indigenes people are socialized, from the view point of sustainable development and proposal for implementation of regional and national policies.

3) Regional organizational and human resources capacity for conservation and utilization of biodiversity are strengthened in coordination with SICA-CCAD.

(5) Activities

As shown in Annex 2.

(6) Implementation Structure

The Project implementation structure chart is given in Annex 4. The roles and assignments of relevant organizations are as follows:

1) CCAD-SICA

- Project Director
President, CCAD
- Project Coordinator
Executive Secretary, ES-CCAD
- Implementation Team
Regional technical committee members on seas and biodiversity appointed from each member state in coordination with SICA-CCAD

2) JICA Experts

The JICA experts will give necessary technical guidance, advice and recommendations to the member counties in coordination with SICA-CCAD, regional technical committee on biodiversity and other relevant organizations on any matters pertaining to the implementation of the Project.

3) Joint Coordinating Committee

Joint Coordinating Committee (hereinafter referred to as "JCC") will be established in order to provide a decision and facilitate inter-organizational coordination. JCC will be held at least once a year and as a need arises. JCC will approve an annual work plan, review overall progress, conduct monitoring and evaluation of the Project, and exchange opinions on major issues that arise during the implementation of the Project. A list of proposed members of JCC is shown in Annex 5.



(DRAFT)

(7) Target Areas and Beneficiaries

1) Target Area: SICA region (eight (8) member countries in coordination with SICA-CCAD)

2) Beneficiaries: Direct beneficiaries are relevant personnel of CCAD member countries in coordination with SICA-CCAD such as regional technical committee members on biodiversity, whilst indirect beneficiaries are local communities in the SICA member countries

(8) Duration

The duration of the Project will be five (5) years from the arrival date of the first JICA expert for the Project.

(9) Reports

CCAD member counties in coordination with SICA-CCAD and JICA experts will jointly prepare the following reports in English.

- 1) Monitoring Sheets on semi-annual basis until the project completion
- 2) Project Completion Report at the time of project completion

II. Environmental and Social Considerations

With regard to the Section 10.1 of the BP, the Project is likely to have minimal adverse impact on the environment and society under the 'JICA Guidelines for Environmental and Social Considerations (April 2010)'.

III. Revision of BP

(To be discussed later)



Project Design Matrix

(Version 1, Dated 15 February 2018)

Project Title: Project for Capacity Development on Integrated Management and Conservation of Biodiversity in SICA

Implementing Agency: Eight (8) CCAD Member Countries in coordination with SICA-CCAD

Target Group: Relevant personnel of CCAD member countries in coordination with SICA-CCAD

Period of Project: five (5) years

Project Site: SICA region (eight (8) member countries in coordination with SICA-CCAD)

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption
<p>Overall Goal</p> <p>Regional institutional framework and governance on biodiversity conservation and sustainable use in the SICA region is strengthened.</p>	<p>1. Regional Environmental Strategy Framework (ERAM) is revised by utilizing information and database of the regional information platform.</p>	<p>CCAD publication/reports Publication/Website</p>	<p>SICA and its member countries keep high priority on biodiversity conservation and sustainable resource utilization.</p>
<p>Project Purpose</p> <p>Management capacity on utilization and conservation of biodiversity of member countries in coordination with SICA-CCAD is strengthened.</p>	<p>1. The regional information platform is referred to for making policies, plans and reports related to biodiversity. 2. At least one activity on utilization and conservation of biodiversity which refer to the knowledge and experiences of the Project is introduced in each member countries.</p>	<p>Interview to C/Ps CCAD publication/reports Publication/Website</p>	<p>Budgets of SICA and its member countries are not drastically reduced.</p>
<p>Outputs</p> <p>1. A regional information platform for conservation and utilization of biodiversity in the SICA region is established.</p>	<p>1.1 At least xx modules (e.g. regional information / data of biological corridors, wetlands, biodiversity) are available in the regional information platform. 1.2 More than 80% of training participants of the information platform understand its function and modules to utilize the platform in articulation with national information system.</p>	<p>Records of the Project activities. Questionnaire/Interview Survey</p>	<p>-No drastic change in management administration system/structure in ES-CCAD -No devastating natural disasters than assumed will occur in the pilot sites</p>

<p>2. Results of pilot projects such as good practice and lesson learned focused on small scale rural community and indigenes people are socialized, from the view point of sustainable development and proposal for implementation of regional and national policies</p>	<p>2.1 At least xx sustainable economic development models are compiled based on the pilot projects and good practices and shared among the member countries.</p> <p>2.2 More than 90% of the pilot activities are jointly evaluated as "very useful" for developing sustainable economy development models for the region.</p>	<p>Records of the Project activities.</p>	
<p>3. Regional organizational and human resources capacity for conservation and utilization of biodiversity are strengthened in coordination with SICA-CCAD.</p>	<p>3.1 More than xx % of training participants' knowledge level is increased.</p> <p>3.2 Regional seminars and workshops to share knowledge and experiences in SICA are organized more than XX times.</p>	<p>Questionnaire to the participants.</p> <p>Seminar/Workshop reports Project reports</p>	
<p>Activities</p> <p>1.1 Evaluate and analyze current country of existing data such as biological corridors, wetlands, biodiversity database etc. in the region (i.e. regional and national level)</p> <p>1.2 Develop design for a regional information platform as a multi biodiversity platform for data exchange and information shearing among the SICA member countries, particularly for biological corridors, wetlands, biodiversity.</p> <p>1.3 Build the regional information platform</p> <p>1.4 Organize training for selected staff of the member countries in coordination with SICA-CCAD for utilization and maintenance of the information platform (i.e. collecting, processing, and making data/information available) in articulation with national information system.</p> <p>1.5 Produce "regional biodiversity outlook" using the information system</p> <p>2.1 Develop selection criteria for pilot projects of sustainable economic development which contribute to both improvement of livelihoods at community level and biodiversity conservation</p> <p>2.2 Call for pilot project proposals (e.g. PES, ABS,</p>	<p>Inputs</p> <p>The Japanese Side</p> <p>1. Experts -Chief Advisor/Ecosystem Management -Project Coordinator/Training Planning/Institutional Capacity -Other Short-Term Experts (e.g. GIS/Data Base, Remote sensing, Agro-forestry, Eco-tourism, etc.) -Local Coordinator</p> <p>2 Equipment -Equipment for construction of a regional information platform for conservation and utilization of biodiversity -Other necessary equipment</p> <p>3. Training Trainings in Japan and/or other countries -Politics and governance of biodiversity management and conservation -Management of national park, world</p>	<p>The SICA Side</p> <p>1. Counterpart -Project Director -Project Coordinator -Member of Regional Technical Committee on Seas and Biodiversity of CCAD -Other Members for each activity</p> <p>2. Facility Office space for the experts with necessary equipment, Internet.</p>	<p>Pre-Conditions</p> <p>-All the SICA member countries assign their directors of biodiversity or equivalent level senior officer as the focal points of the project -SICA and its member countries agree to share existing data for the regional information platform</p> <p>Issues and countermeasures</p>

<p>agro-forestry, branding agricultural product, promotion of ecotourism/agro tourism, development of ventures for environmental sustainable community economic alternatives, emphasizing activities in wetland ecosystems, protected areas and prioritized biological corridors etc.) from related countries</p> <p>2.3 Select pilot projects and make decisions of actual supports for the pilot projects</p> <p>2.4 Support implementation of the pilot projects</p> <p>2.5 Evaluate and analyze the results of pilot projects (i.e. financial sustainability, impact, lessons learnt, etc.) and compile their lessons learnt.</p> <p>2.6 Collect good practices related to sustainable economic development among the region.</p> <p>2.7 Develop an inventory of sustainable economic development models adaptable within the region based on 2.5 and 2.6.</p> <p>2.8 Integrate the inventory into the information platform developed in Output 1.</p> <p>2.9 Make recommendations for improving regional and national level related policies based on the results obtained through the pilot projects</p> <p>3.1 Evaluate and analyze training needs from SICA member countries in coordination with SICA-CCAD.</p> <p>3.2 Develop regional training program and curriculum on selected themes for the project for SICA member country in coordination with SICA-CCAD based on training resources in SICA region, Japan and neighboring countries (Latin America region) in collaboration with JICA's bilateral projects</p> <p>3.3 Conduct training including seminars and workshops, and review the plan based on the result of the training</p> <p>3.4 Make recommendations on regional organizational structure and necessary human resources for strengthening conservation and utilization of biodiversity within the CCAD framework</p>	<p>heritage, protected areas and biological corridor</p> <ul style="list-style-type: none"> -Compensatory measures for biodiversity (e.g. Biodiversity offsetting) -Management and conservation of wetlands. -Management and conservation of biodiversity in collaboration among academic, private and public sectors. - Environmental conservation by local governments with the focus on harmony between urban environment and ecosystem
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

Tentative Plan of Operation

Version 1

Dated 15 Feb 2018

Project Title: Project for Capacity Development on Integrated Management and Conservation of Biodiversity in SICA												Monitoring																							
Inputs	Expert	Chief Advisor/Ecosystem Management	Project Coordinator/Training Planning/Institutional Capacity	Short term experts	Equipment	Training in Japan Trainings in Japan	In-country/Third country Training	1st Year				2nd Year				3rd Year				4th Year				5th Year				Remarks	Issue	Solution					
								I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV								
Activities																												Responsible Organization		Issue & Countermeasures					
Sub-Activities																												Japan		SICA					
Output 1: A regional information platform for conservation and utilization of biodiversity in the SICA region is established.																																			
1.1 Evaluate and analyze current country of existing data such as biological corridors, wetlands, biodiversity database etc. in the region (i.e. regional and national level)																																			
1.2 Develop design for a regional information platform as a multi biodiversity platform for data exchange and information shearing among the SICA member countries, particularly for biological corridors, wetlands, biodiversity.																																			
1.3 Build the regional information platform																																			
1.4 Organize training for selected staff of the member countries in coordination with SICA-CCAD for utilization and maintenance of the information platform (i.e. collecting, processing, and making data/information available) in articulation with national information system.																																			
1.5 Produce "regional biodiversity outlook" using the information system																																			
Output 2: Results of pilot projects such as good practice and lesson learned focused on small scale rural community and indigenes people are socialized, from the view point of sustainable development and proposal for implementation of regional and national policies																																			
2.1 Develop selection criteria for pilot projects of sustainable economic development which contribute to both improvement of livelihoods at community level and biodiversity conservation																																			
2.2 Call for pilot project proposals (e.g. PES, ABS, agro-ecotourism/agro tourism, development of ventures for environmental sustainable community economic alternatives, emphasizing activities in wetland ecosystems, protected areas and prioritized biological corridors etc.) from related countries																																			

	Plan	Actual	5th Year												Remarks	Issue	Solution	
			1st Year			2nd Year			3rd Year			4th Year						
	Plan	Actual	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV				
2.3 Select pilot projects and make decisions of actual supports for the pilot projects																		
2.4 Support implementation of the pilot projects																		
2.5 Evaluate and analyze the results of pilot projects (i.e. financial sustainability, impact, lessons learnt, etc.) and compile their lessons learnt.																		
2.6 Collect good practices related to sustainable economic development among the region.																		
2.7 Develop an inventory of sustainable economic development models adaptable within the region based on 2.5 and 2.6.																		
2.8 Integrate the inventory into the information platform developed in Output 1.																		
2.9 Make recommendations for improving regional and national level related policies based on the results obtained through the pilot projects																		

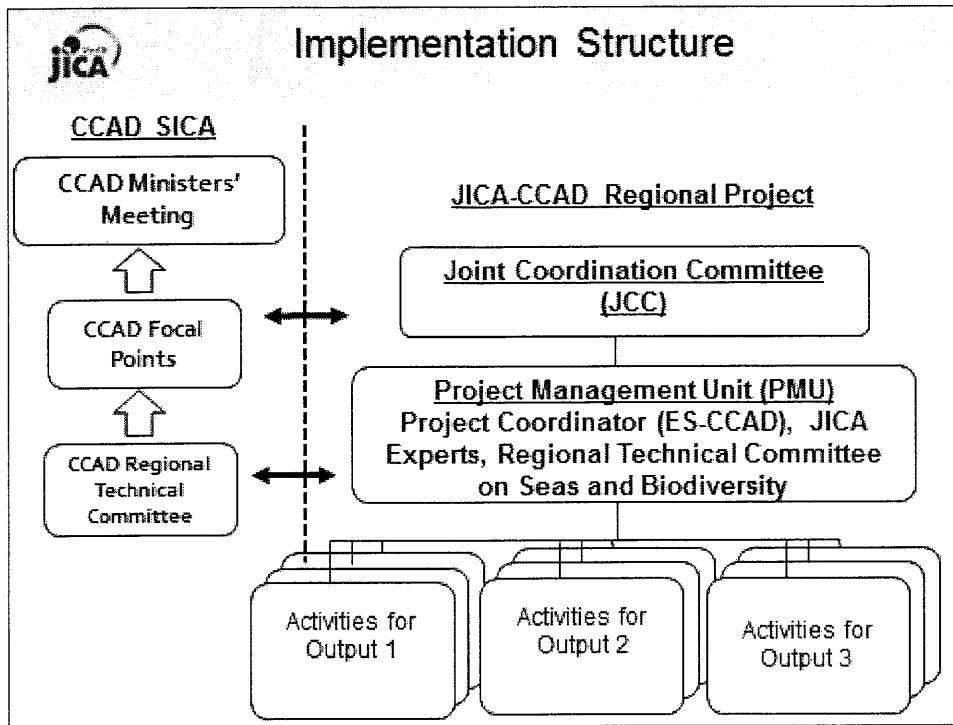
Output 3: Regional organizational and human resources capacity for conservation and utilization of biodiversity are strengthened in coordination with SICA-CCAD.

	Plan	Actual	5th Year												Remarks	Issue	Solution	
			1st Year			2nd Year			3rd Year			4th Year						
	Plan	Actual	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV				
3.1 Evaluate and analyze training needs from SICA member countries in coordination with SICA-CCAD.																		
3.2 Develop regional training program and curriculum on selected themes for the project for SICA member country in coordination with SICA-CCAD based on training resources in SICA region, Japan and neighboring countries (Latin America region) in collaboration with JICA's bilateral projects																		
3.3 Conduct training including seminars and workshops, and review the plan based on the result of the training																		
3.4 Make recommendations on regional organizational structure and necessary human resources for strengthening conservation and utilization of biodiversity within the CCAD framework																		

Duration / Phasing

	Year	5th Year												Remarks	Issue	Solution		
		1st Year			2nd Year			3rd Year			4th Year							
	Year	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV					
Monitoring Plan																		
Monitoring	Plan																	
Joint Coordinating Committee	Actual																	
Set-up the Detailed Plan of Operation	Plan																	
Submission of Monitoring Sheet	Actual																	
Monitoring Mission from Japan	Plan																	
Joint Monitoring	Actual																	
Post Monitoring	Plan																	
Reports/Documents	Actual																	
Project Completion Report	Plan																	
	Actual																	
Public Relations	Plan																	
Public Relation activities	Actual																	

(DRAFT)
Annex 4: Implementation Structure



[Handwritten signature]

(DRAFT)

Annex 5

List of Proposed Members of Joint Coordination Committee

1. Chair
Project Director, President of CCAD
2. Members from SICA
 - 1) Project Coordinator, Executive Secretary of ES-CCAD
 - 2) CCAD Focal Points from member country
 - 3) Members of Regional Technical Committee on Seas and Biodiversity
 - 4) Other persons that the SICA side might consider necessary
(Cooperation partners, NGOs, consultants, etc) , if necessary
3. Japanese side:
 - 1) Japanese Experts
 - 2) Chief Representative of JICA El Salvador Office
 - 3) JICA Advisor to SICA
 - 4) Representative(s) from the Embassy of Japan
 - 5) Other persons that Japanese side might consider necessary



(DRAFT)

Annex 6

**List of JICA's technical cooperation projects in nature conservation area
in SICA member countries
(as of February 2018)**

El Salvador:

-Project for Integrated Wetland Management in Olomega and El Jocotal Lagoons (on-going)

Honduras:

-La Union Biological Corridor Project for Sustainable Use and Conservation of Biodiversity (on-going)

-Project for strengthening of sustainable watershed management with community participation in the forest protected area of El Cajon dam (completed)

Nicaragua

- Project on Participatory Forest Management (completed)

Costa Rica:

-Project for Promoting Participatory Biodiversity Conservation (on-going)

Panama:

-Project for Participatory Community Development and Integrated Management of the Alhajuela Lake Sub-watershed (completed)

Dominican Republic:

-Sustainable Watershed Management Project in the Upper Area of the Sabana Yegua Dam in the Dominican Republic (completed)



2019年5月開催合同調整委員会議事録 (Minutes of JCC) (英語、スペイン語)

**MINUTES OF MEETINGS
BETWEEN
THE JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY (JICA)
AND
THE CENTRAL AMERICAN COMMISSION ON ENVIRONMENT AND
DEVELOPMENT (CCAD)
ON
PROJECT FOR CAPACITY DEVELOPMENT ON INTEGRATED
MANAGEMENT AND CONSERVATION OF BIODIVERSITY AT REGIONAL
LEVEL IN SICA REGION**


The Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and the Central American Commission on Environment and Development (hereinafter referred to as "CCAD"), as part of The LVI Extraordinary Meeting of CCAD Council of Ministers, they met in the first Joint Coordination Committee (hereinafter referred to as "JCC"), with the purpose of presenting and approving the Annual Operational Plan of the project for the development of capacities in integrated management and conservation of biodiversity at Regional in the SICA region (hereinafter referred to as "the Project").

As a result of the discussions, both parties agreed on the Annual Operational Plan (POA) and the List of New Members of Joint Coordination Committee for the Project for Capacity Development on Integrated Management and Conservation of Biodiversity at Regional Level in SICA Region in the attached document.

The parties subscribe three original copies of the present document, done in English and Spanish languages, both are equally authentic. In case of any divergence of interpretation, the English text shall prevail.

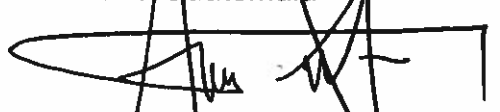
Antigua Guatemala, Guatemala, may 28, 2019

For
Japan International Cooperation Agency



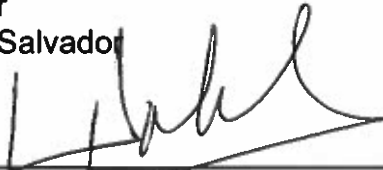
Kazuo Fujishiro
Chief Representative
JICA Office in el Salvador

For
The CCAD and Guatemala



Alfonso Alonzo Vargas
Minister of Environment and Natural
Resources
Pro Tempore President CCAD
Guatemala

For
El Salvador



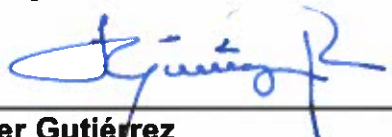
Lina Dolores Pohl
Minister of Environment and Natural
Resources
El Salvador

For
Honduras



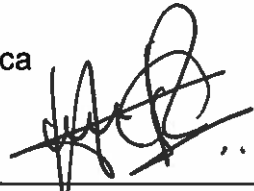
Elvis Rodas
Viceminister of the Ministry of Natural
Resources and Environment
Honduras

For
Nicaragua



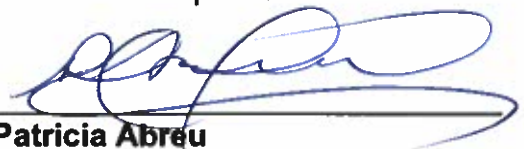
Javier Gutiérrez
Viceminister of the Ministry of
Environment and Natural Resources
Nicaragua

For
Costa Rica



Haydee Rodríguez
Viceminister of the Ministry of
Environment and Energy
Costa Rica

For
Dominican Republic



Patricia Abreu
Viceminister of the Ministry of
Environment and Natural Resources
Dominican Republic

For
Panama



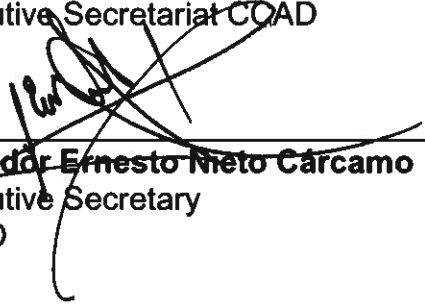
Berta Zevallos
Representative of the Ministry of
Environment
Panama

For
Belize



Edgar Ek
Representative of the Ministry of
Agriculture, Fisheries, Forests,
Environment and Sustainable
Development
Belize

For
Executive Secretariat CCAD



Salvador Ernesto Nieto Cárcamo
Executive Secretary
CCAD

Attached Document

1. Annual Operational Plan (POA)

1.1 Main activities to be developed in the first year of the Project (from April 2019 to March 2020)

- Compilation and analysis of existing information to identify the information to be mounted on the regional information platform on biodiversity.
- Two workshops to identify:
 - A common regional theme or issue to establish the main theme of the project.
 - Themes for training course for the Output 3.
- Execution of a training course.
- Modification of the Project Design Matrix (PDM) and the Operating Plan (PO), if necessary.

1.2 Schedule of the Project's Annual Operational Plan

See Annex 1.

1.3 Current Project Design Matrix (PDM)

See Annex 2.

2. List of Members of Joint Coordination Committee

See Annex 3.

Annex 1. Project for Capacity Development on Integrated Management and Conservation of Biodiversity at Regional Level in SICA Region
Schedule of the Project's Annual Operational Plan (April 2019-March 2020)

Outputs	No.	Activities	No.	Works	Month												Principle Input		
					4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
1	1.1	Evaluate and analyze current state of existing data such as biological corridors, wetlands, biodiversity database etc. in the region (i.e. regional and national level)	1.1.1	To diagnose to know the types of regional information on the biodiversity needed by the Secretary and the member countries of CCAD (surveys, interviews and workshop with CTMyB).	P	X	X	X	X									Local consultant Workshop w/ CTMyB x1	
			1.1.2	To collect existing information	P			X	X	X	X	X	X	X					Local consultant
			1.1.3	To analyze and evaluate the collected information.	P			X	X	X	X	X	X	X					Local consultant
			1.1.4	To identify the information that will be on the platform	P										X				Local consultant Workshop w/ CTMyB x1
	1.2	Develop design for a regional information platform as a multi-exchange and information sharing among the SICA member countries, particularly for biological corridors, wetlands, biodiversity.	1.2.1	To develop a list of possible administrator entities of the regional information platform.	P				X										
			1.2.2	To define the administering entity of the regional information platform, after the negotiation with it.	P					X	X	X	X						
	1.3	To approve the administrative entity of the regional information platform in the Council of Ministers.	1.2.3		P										X				
					P														
	1.5	Produce "regional biodiversity outlook" using the information system	1.5.1	To define the contents (draft of the table of contents)	P											X	X		Workshop w/ CTMyB x1 (=1.1.4)
					P														
2	2.1	Develop selection criteria for pilot projects of sustainable economic development which contribute to both improvement of livelihoods at community level and biodiversity conservation	2.1.1	To define common topic of pilot projects (improvement of the life of the farmers, introduction of suitable productive techniques, participation in the conservation, forest reforestation, financial mechanisms among others...)	P		X	X	X	X	X	X	X	X				Workshop w/ CTMyB WS x1 (=1.1.1, 1.1.4)	
			2.1.2	To draw up a list of good practices of the common theme.	P			X	X	X	X	X							Local consultant
			2.1.3	To identify the criteria and conditions of good practice through an analysis of existing good practices.	P					X	X	X	X	X	X	X			
	2.5	Evaluate and analyze the results of pilot projects (i.e. financial sustainability, impact, lessons learnt, etc.) and compile their lessons learnt.	2.5.1	To establish a methodology to evaluate pilot projects and identify the lessons learned from them.	P					X	X	X	X	X	X				Local consultant
			3.1.1	To develop a questionnaire to diagnose the needs of each country.	P		X	X											
			3.1.2	To send the questionnaire to the members of CTMyB.	P			X											
3	3.1	Evaluate and analyze training needs from SICA member countries in coordination with SICA-CCAD.	3.1.3	To conduct the survey in each country.	P			X	X	X	X	X							
			3.1.4	To collect and analyze questionnaire.	P					X	X	X							
			3.1.5	To prioritize training course themes, sharing survey results with CTMyB.	P						X	X	X						Workshop w/ CTMyB 1 (=1.1.4)
			3.2.1	To develop a list of possible sources (entities) for training course.	P								X	X	X	X			Workshop w/ CTMyB x1(=1.1.4)
			3.3.3	To select the training course participants.	P					X	X	X							
3.3	3.3.4	Conduct training including seminars and workshops, and review the plan based on the result of the training	3.3.5	To prepare logistics for training course.	P				X	X	X								
			3.3.5	To execute the training course (including OJT-learn by doing).	P						X	X	X						Cost for training course

Annex 2. Project Design Matrix

(Version 1.1, Dated 30 March 2018)

Project Title: Project for Capacity Development on Integrated Management and Conservation of Biodiversity at regional level in

SICA Region

Implementing Agency: Eight (8) CCAD Member Countries in coordination with SICA-CCAD

Target Group: Relevant personnel of CCAD member countries in coordination with SICA-CCAD

Period of Project: five (5) years

Project Site: SICA region (eight (8) member countries in coordination with SICA-CCAD)

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption
Overall Goal			
Regional institutional framework and governance on biodiversity conservation and sustainable use in the SICA region is strengthened.	1. Regional Environmental Strategy Framework (ERAM) is revised by utilizing information and database of the regional information platform.	CCAD publication/reports Publication/Website	SICA and its member countries keep high priority on biodiversity conservation and sustainable resource utilization.
Project Purpose			
Management capacity on utilization and conservation of biodiversity of member countries in coordination with SICA-CCAD is strengthened.	1. The regional information platform is referred to for making policies, plans and reports related to biodiversity. 2. At least one activity on utilization and conservation of biodiversity which refer to the knowledge and experiences of the Project is introduced in each member countries.	Interview to C/Ps CCAD publication/reports Publication/Website	Budgets of SICA and its member countries are not drastically reduced.
Outputs			
1. A regional information platform for conservation and utilization of biodiversity in the SICA region is established.	1.1 At least xx modules (e.g. regional information / data of biological corridors, wetlands, biodiversity) are available in the regional information platform. 1.2 More than 80% of training participants of the information platform understand its function and modules to utilize the platform in articulation with national information system.	Records of the Project activities. Questionnaire/Interview Survey	-No drastic change in management administration system/structure in ES-CCAD -No devastating natural disasters than assumed will occur in the pilot sites

<p>2. Results of pilot projects such as good practice and lesson learned focused on small scale rural community and indigenes people are socialized, from the view point of sustainable development and proposal for implementation of regional and national policies</p>	<p>2.1 At least xx sustainable economic development models are compiled based on the pilot projects and good practices and shared among the member countries. 2.2 More than 90% of the pilot activities are jointly evaluated as "very useful" for developing sustainable economy development models for the region.</p>	<p>Records of the Project activities. Questionnaire/Interview Survey</p>	
<p>3. Regional organizational and human resources capacity for conservation and utilization of biodiversity are strengthened in coordination with SICA-CCAD.</p>	<p>3.1 More than xx % of training participants' knowledge level is increased. 3.2 Regional seminars and workshops to share knowledge and experiences in SICA are organized more than XX times.</p>	<p>Questionnaire to the participants. Seminar/Workshop reports Project reports</p>	
<p>Activities</p> <p>1.1 Evaluate and analyze current state of existing data such as biological corridors, wetlands, biodiversity database etc. in the region (i.e. regional and national level)</p> <p>1.2 Develop design for a regional information platform as a multi biodiversity platform for data exchange and information sharing among the SICA member countries, particularly for biological corridors, wetlands, biodiversity.</p> <p>1.3 Build the regional information platform</p> <p>1.4 Organize training for selected staff of the member countries in coordination with SICA-CCAD for utilization and maintenance of the information platform (i.e. collecting, processing, and making data/information available) in articulation with national information system.</p> <p>1.5 Produce "regional biodiversity outlook" using the information system</p> <p>2.1 Develop selection criteria for pilot projects of sustainable economic development which contribute to both improvement of livelihoods at community level and biodiversity conservation</p> <p>2.2 Call for pilot project proposals (e.g. PES, ABS, agro-forestry, branding agricultural product, promotion of ecotourism/agro tourism, development of ventures for</p>	<p>Inputs</p> <p>The Japanese Side</p> <p>1. Experts -Chief Advisor/Ecosystem Management -Project Coordinator/Training Planning/Institutional Capacity -Other Short-Term Experts (e.g. GIS/Data Base, Remote sensing, Agro-forestry, Eco-tourism, etc.) -Local Coordinator</p> <p>2. Equipment -Equipment for construction of a regional information platform for conservation and utilization of biodiversity -Other necessary equipment</p> <p>3. Training Trainings in Japan and/or other countries -Politics and governance of biodiversity management and conservation -Management of national park, world heritage, protected areas and</p>	<p>The SICA Side</p> <p>1. Counterpart -Project Director -Project Coordinator -Member of Regional Technical Committee on Seas and Biodiversity of CCAD -Other Members for each activity</p> <p>2. Facility Office space for the experts with necessary equipment, Internet.</p>	<p>Pre-Conditions</p> <p>-All the SICA member countries assign their directors of biodiversity or equivalent level senior officer as the focal points of the project -SICA and its member countries agree to share existing data for the regional information platform</p> <p>Issues and countermeasures</p>

<p>environmental sustainable community economic alternatives, emphasizing activities in wetland ecosystems, protected areas and prioritized biological corridors etc.) from related countries</p>	<p>biological corridor -Compensatory measures for biodiversity (e.g. Biodiversity offsetting) -Management and conservation of wetlands.</p>	
<p>2.3 Select pilot projects and make decisions of actual supports for the pilot projects</p>		
<p>2.4 Support implementation of the pilot projects</p>	<p>-Management and conservation of biodiversity in collaboration among academic, private and public sectors.</p>	
<p>2.5 Evaluate and analyze the results of pilot projects (i.e. financial sustainability, impact, lessons learnt, etc.) and compile their lessons learnt.</p>	<p>- Environmental conservation by local governments with the focus on harmony between urban environment and ecosystem</p>	
<p>2.6 Collect good practices related to sustainable economic development among the region.</p>		
<p>2.7 Develop an inventory of sustainable economic development models adaptable within the region based on 2.5 and 2.6.</p>		
<p>2.8 Integrate the inventory into the information platform developed in Output 1.</p>		
<p>2.9 Make recommendations for improving regional and national level related policies based on the results obtained through the pilot projects</p>		
<p>3.1 Evaluate and analyze training needs from SICA member countries in coordination with SICA-CCAD.</p>		
<p>3.2 Develop regional training program and curriculum on selected themes for the project for SICA member country in coordination with SICA-CCAD based on training resources in SICA region, Japan and neighboring countries (Latin America region) in collaboration with JICA's bilateral projects</p>		
<p>3.3 Conduct training including seminars and workshops, and review the plan based on the result of the training</p>		
<p>3.4 Make recommendations on regional organizational structure and necessary human resources for strengthening conservation and utilization of biodiversity within the CCAD framework</p>		

Annex 3: List of Member of Joint Coordination Committee.

1. President
Minister of the Pro-tempore Presidency of CCAD (Project Director).
2. Members of CCAD
 - 1) Ministers or representatives of the participant countries.
 - 2) Executive Secretary of CCAD (Project Coordinator).
 - 3) Focal points of CCAD of the participant countries.
 - 4) Members of the Regional Technical Committee of Seas and Biodiversity, if necessary.
 - 5) Other people that CCAD might consider necessary (cooperation collaborates, NGO, consultants, etc.), if necessary.
3. Japanese side:
 - 1) Chief Representative of JICA El Salvador office.
 - 2) Japanese Experts of the Project
 - 3) Chief Representative of JICA office from the country of the Pro-tempore Presidency of CCAD.
 - 4) Other people that the Japanese side might consider necessary, such as officer(s) from JICA Headquarters, JICA's Advisor for SICA and Representative(s) of the Embassy of Japan from the country of the Pro-tempore Presidency of CCAD.

**MINUTA DE REUNIONES
ENTRE
LA AGENCIA DE COOPERACIÓN INTERNACIONAL DEL JAPÓN (JICA)
Y
LA COMISIÓN CENTROAMERICANA DE AMBIENTE Y DESARROLLO
(CCAD)
SOBRE
EL PROYECTO DE DESARROLLO DE LAS CAPACIDADES EN MANEJO Y
CONSERVACIÓN INTEGRAL DE LA BIODIVERSIDAD A NIVEL REGIONAL
EN LA REGIÓN DEL SICA**

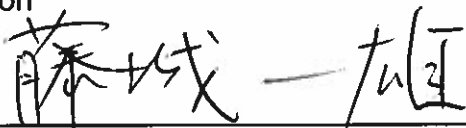
La Agencia de Cooperación Internacional del Japón (en adelante se denominará "JICA") y la Comisión Centroamericana de Ambiente y Desarrollo (en adelante se denominará "CCAD"), en el marco de la LVI Reunión Extraordinaria del Consejo de Ministros de la CCAD, se reunieron en el Primer Comité de Coordinación Conjunta (en adelante se denominará "CCC"), con el propósito de presentar y aprobar el Plan Anual de Trabajo del Proyecto de Desarrollo de las Capacidades en Manejo y Conservación Integral de la Biodiversidad a Nivel Regional en la Región del SICA (en adelante se denominará "el Proyecto").

Como resultado de las discusiones, ambas partes acordaron aprobar el Plan Operativo Anual (POA) y la Lista Nueva de los Miembros de Comité Coordinador Conjunto para el Proyecto Regional de Desarrollo de Capacidad en Manejo y Conservación Integral de la Biodiversidad en la Región del SICA en el documento adjunto.

Las partes suscriben tres ejemplares originales del presente documento, en los idiomas español e inglés, ambos igualmente auténticos. En caso de discrepancias de interpretación, prevalecerá el texto en inglés.

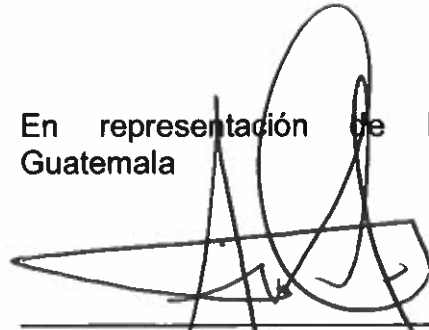
Antigua Guatemala, Guatemala, 28 de mayo de 2019

En representación de
Agencia de Cooperación Internacional del
Japón



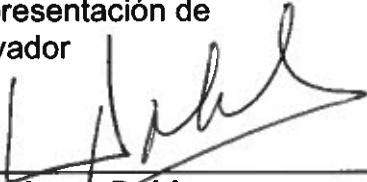
Kazuo Fujishiro
Jefe Representante
Oficina de JICA en El Salvador

En representación de la CCAD y
Guatemala



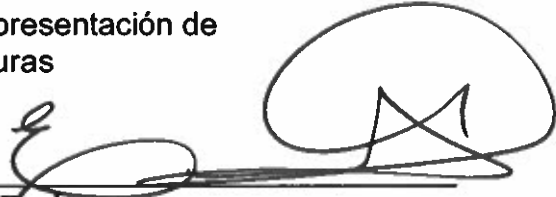
Alfonso Alonzo Vargas
Ministro de Ambiente y Recursos Naturales
Presidente Pro Tempore CCAD
Guatemala

En representación de
El Salvador



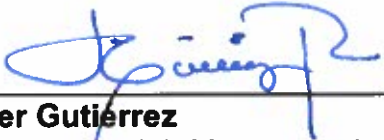
Lina Dolores Pohl
Ministra de Medio Ambiente y
Recursos Naturales
El Salvador

En representación de
Honduras



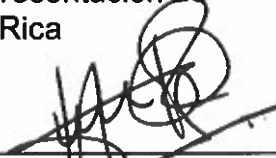
Elvis Rodas
Viceministro del Ministerio de Recursos
Naturales y Ambiente
Honduras

En representación de
Nicaragua



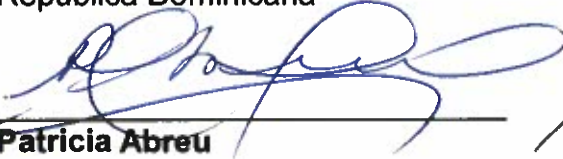
Javier Gutiérrez
Viceministro del Ministerio de Medio
Ambiente y los Recursos Naturales
Nicaragua

En representación de
Costa Rica



Haydee Rodríguez
Viceministra del Ministerio de Ambiente
y Energía
Costa Rica

En representación de
República Dominicana



Patricia Abreu
Viceministra del Ministerio
de Ambiente y Recursos Naturales
República Dominicana

En representación de
Panamá




Berta Zevallos
Representante del Ministerio de
Ambiente
Panamá

En representación de
Belice



Edgar Ek
Representante del Ministerio de
Agricultura, Pesca, Bosques,
Ambiente y Desarrollo Sostenible
Belice

En representación de
Secretaría Ejecutiva de la CCAD



Salvador Ernesto Nieto Cárcamo
Secretario Ejecutivo de la CCAD

Documento adjunto

1. Plan Operativo Anual (POA)

1.1 Actividades principales a ser desarrolladas en el primero año del Proyecto (del abril 2019 al marzo 2020)

- Recopilación y análisis de las informaciones existentes para identificar las informaciones a montar en la plataforma informática regional sobre la biodiversidad.
- Dos talleres para identificar:
 - Un tema o reto común regional para establecer el eje principal del Proyecto.
 - Los temas de capacitaciones para el Resultado 3.
- Ejecución de un curso de capacitación.
- Modificación de Matriz del Diseño de Proyecto (PDM) y el Plan Operativo (PO), en caso necesario.

1.2 Cronograma del Plan Operativo Anual del Proyecto

Ver el Anexo 1.

1.3 Matriz del Diseño de Proyecto (PDM) actual

Ver el Anexo 2.

2. Lista de Miembros del Comité Coordinador Conjunto

Ver el Anexo 3

Anexo 1. Proyecto de Desarrollo de Capacidades en Manejo y Conservación Integral de la Biodiversidad en la Región del SICA
 Cronograma del Plan Operativo Anual del Proyecto (Abril 2019 - marzo 2020)

Resultados	No.	Actividades	No.	Tareas	Mes												Insumos Principales			
					4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
1	1.1	Diagnóstico, análisis y evaluación de la situación actual de los datos e informaciones sobre corredores biológicos, humedales y la biodiversidad en la región (al nivel regional y nacional)	1.1.1	Realizar diagnóstico para saber los tipos de informaciones regionales sobre la biodiversidad que necesitan la Secretaría y los países miembros de CCAD (encuestas, entrevistas y taller con CTMyB).	P	X	X	X										Consultor Local Taller con CTMyB x1		
			1.1.2	Recopilar las informaciones existentes	P			X	X	X	X	X	X	X					Consultor Local	
			1.1.3	Analizar y evaluar las informaciones recopiladas.	P			X	X	X	X	X	X	X					Consultor Local	
	1.2	Diseño y construcción del sistema informático regional, incluyendo corredores biológicos humedales y biodiversidad.	1.2.1	Elaborar una lista de posibles entidades administradoras de la plataforma regional informática.	P					X									Consultor Local Taller con CTMyB x1	
			1.2.2	Definir la entidad administradora de la plataforma regional informática, después de la negociación con la misma.	P						X	X	X	X						
			1.2.3	Aprobar la entidad administradora de la plataforma regional informática en el Consejo de Ministros.	P										X					
	1.5	Elaborar "SICA-Regional Biodiversity Outlook", utilizando la plataforma informática regional.	1.5.1	Definir los contenidos (borrador de la tabla de contenidos)	P														Taller con CTMyB x1 (=1.1.4)	
			2.1.1	Definir tema común de proyectos piloto (mejoramiento de la vida de los agricultores, introducción de técnicas productivas adecuadas, participación en la conservación, mecanismos financieros entre otros...)	P	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X				Taller con CTMyB WS x2(=1.1.1, 1.1.4)	
			2.1.2	Elaborar la lista de buenas prácticas de los temas comunes.	P				X	X	X	X	X	X					Consultor Local	
	2	2.1	Crear un sistema para la convocatoria regional de propuestas técnicas sobre proyectos piloto en la región con los criterios de selección establecidos por la CTMyB, CCAD	2.1.3	Identificar los criterios y condiciones de buenas prácticas a través de un análisis de buenas prácticas existentes.	P					X	X	X	X	X	X			Consultor Local	
				2.5	Evaluar y analizar los resultados de los proyectos pilotos y identificar las lecciones aprendidas.	P							X	X	X	X	X			Consultor Local
				2.5.1	Establecer una metodología para evaluar proyectos pilotos e identificar las lecciones aprendidas de los mismos.	P														
		3.1	Diagnóstico y análisis de las necesidades de capacitación de los recursos humanos	3.1.1	Elaborar una encuesta para diagnosticar las necesidades de cada país.	P		X	X											
				3.1.2	Enviar la encuesta a los miembros de CTMyB.	P			X											
				3.1.3	Realizar la encuesta en cada país.	P				X	X	X								
3.2		Elaboración de los modelos de programa y currículum de cursos seleccionados y su ejecución en base a los recursos potenciales en la región SICA y los países de América Latina y Japón, en coordinación con los proyectos bilaterales de JICA.	3.2.1	Elaborar una lista de posibles fuentes (entidades) para realizar las capacitaciones.	P								X	X	X	X			CTMyB WSx1 (=1.1.4)	
			3.1.4	Recoger y analizar las encuestas.	P					X	X	X								
			3.1.5	Priorizar los temas de capacitación, compartiendo los resultados de la encuesta con el CTMyB.	P							X	X	X					Taller con CTMyB 1(=1.1.4)	
3.3		Ejecución del programa de capacitación, incluyendo seminarios, talleres y la revisión de los resultados.	3.3.3	Seleccionar a los participantes de las capacitaciones.	P				X	X	X									
			3.3.4	Preparar las logísticas para las capacitaciones.	P					X	X									
			3.3.5	Ejecutar las capacitaciones (incluye "OJT"-aprender haciendo).	P						X	X	X							Costo para la capacitación

Anexo 2. Matriz de Diseño del Proyecto (PDM-JICA)

(Ver 1, Fecha de Elaboración: 15 de febrero 2018)

Título del Proyecto: Proyecto de Desarrollo de las Capacidades en Manejo y Conservación Integral de la Biodiversidad al nivel regional en la Región del SICA

Órgano Ejecutor: Ministerios de medio ambiente de los ocho países de la CCAD en coordinación con la Secretaría Ejecutiva de la CCAD

Grupo objeto: Los 8 países de la CCAD, Funcionarios de los ministerios de medio ambiente de los países, miembros de la comisión técnica regional de mares y biodiversidad de la CCAD

Período de proyecto: Cinco (5) años

Sitio de Proyecto: Los ocho países de la CCAD

Resumen del proyecto	Indicadores verificables	Medios de verificación	Condiciones previas
<p>Objetivo Superior La institucionalidad regional y gobernanza para la conservación de la biodiversidad y su uso sostenible en la región SICA son fortalecidas.</p>	<p>1. La Estrategia Regional Ambiental Marco (ERAM) es revisada y actualizada para la utilización de las informaciones y datos en la plataforma informática regional.</p>	<p>Publicación/Reportes de la CCAD Website</p>	<p>La CCAD-SICA mantiene la alta prioridad en la conservación de la biodiversidad y su uso sostenible.</p>
<p>Objetivo del Proyecto Se fortalecerán las capacidades en manejo y conservación integral de la biodiversidad nacional y regional, en los países que conforman la Región del SICA.</p>	<p>1. La plataforma informática regional de biodiversidad de SICA es referenciada y utilizada en el proceso de elaboración de las políticas, planes, reportes nacionales y regionales relacionados con biodiversidad. 2. Por lo menos una actividad de utilización de los resultados y conocimientos adquiridos por el Proyecto es realizada en cada uno de los países.</p>	<p>Entrevistas a los C/Ps Publicación/Reportes de la CCAD Website</p>	<p>El presupuesto de la CCAD-SICA no será drásticamente reducido.</p>
<p>Resultados Esperados 1. Construcción de una Plataforma Informática Regional para el manejo y la conservación integral de la biodiversidad en los países que conforman la Región del SICA</p>	<p>1.1 Por lo menos XX módulos (Ej. Información regional / datos de corredores biológicos, humedales, biodiversidad) están disponibles en la plataforma informática regional.</p>	<p>Registro de las actividades del Proyecto</p>	<p>-No hay cambio drástico en el manejo del sistema administrativo y estructura de la Secretaría Ejecutiva de la CCAD</p>

	<p>1.2 Más de un 80% de los participantes en las capacitaciones comprende la función de la plataforma informática regional y la saben utilizar, articulada con las plataformas nacionales.</p>	<p>Cuestionarios /entrevistas</p>	<p>-No ocurren los desastres naturales drásticos en los sitios del Proyecto</p>
<p>2. Socialización de los resultados de los Proyectos Pilotos como buenas prácticas y lecciones aprendidas con el enfoque de pequeña escala de comunidades locales y pueblos indígenas, desde la perspectiva del desarrollo sostenible, y propuestas para la implementación de la política regional y las políticas nacionales.</p>	<p>2.1 Por lo menos xx modelos de desarrollo económico sostenible son construidos en base a los proyectos pilotos y buenas prácticas, y compartidos entre los países.</p>	<p>Registro de las actividades del Proyecto.</p>	
	<p>2.2 Por lo menos un 90% de los proyectos pilotos son evaluados "Muy Útil" conjuntamente entre la CCAD y la JICA, para promover y diseminar los modelos de desarrollo económico sostenible.</p>	<p>Cuestionarios /entrevistas</p>	
<p>3. Fortalecimiento de la capacidad regional de organización y recursos humanos para la conservación y utilización de la biodiversidad en coordinación con el SICA-CCAD.</p>	<p>3.1 Más de xx % de los participantes en la capacitación son aprobados por las pruebas de comprensión ofrecidas por el Proyecto.</p>	<p>Cuestionarios /entrevistas.</p>	
	<p>3.2 Seminarios y talleres regionales y nacionales para desarrollo de las capacidades del manejo de conservación de biodiversidad, vinculados con los resultados 1 y 2 son realizados más de XX veces en la región.</p>	<p>Seminarios Reportes de talleres Reportes del Proyecto</p>	
<p>Actividades</p>	<p>Insumos</p>	<p>Condiciones Previas</p>	
<p>1.1 Diagnóstico, análisis y evaluación de la situación actual de los datos e informaciones sobre corredores biológicos, humedales y la biodiversidad en la región (al nivel regional y nacional)</p>	<p>Parte Japonesa</p> <p><u>1. Expertos</u></p> <ul style="list-style-type: none"> -Líder del Equipo Japonés/Manejo Integral de Ecosistemas -Coordinador del Proyecto/Plan de Capacitación y Fortalecimiento de Institucionalidad Regional -Expertos de Corto Plazo (ej. GIS/Base de Datos, Sensoramiento 	<p>Parte de SICA CCAD</p> <p><u>1. Contrapartes</u></p> <ul style="list-style-type: none"> -Director del Proyecto -Coordinador del Proyecto -Los miembros de la Comisión Técnica Regional de Mares y Biodiversidad CCAD -Otros técnicos relacionados al Proyecto 	<ul style="list-style-type: none"> -Los países miembros de la CCAD asignan los miembros de la Comisión Técnica Regional de Mares y Biodiversidad con presencia constante. -Los países miembros de la CCAD están de acuerdo con compartimiento de los datos existentes para la construcción de la plataforma informática regional de la biodiversidad.
<p>1.2 Diseño y construcción del sistema informático regional, incluyendo corredores biológicos, humedales y biodiversidad.</p>	<p>2. Facilidades</p>		

Espacio de trabajo para los expertos y contrapartes con los equipos necesarios, internet, teléfono en la oficina de la Secretaría Ejecutiva de la CCAD.

	Temas y contramedidas
--	------------------------------

	<p>Remoto, Agroforestal, Ecoturismo, etc.)</p> <p>-Coordinador Local de origen centroamericano o dominicano</p> <p>2. Equipos y materiales</p> <p>-Equipos para la construcción de la plataforma informática regional de biodiversidad</p> <p>-Equipo y materiales necesarios para los proyectos pilotos</p> <p>-Otros equipos necesarios</p> <p>3. Capacitación (en Japón o en otros países)</p> <p>-Política y gobernanza del manejo y conservación de la biodiversidad</p> <p>-Manejo de parques nacionales, patrimonios mundiales, áreas protegidas y corredores biológicos</p> <p>-Medidas compensatorias para la biodiversidad (Biodiversity Offsetting)</p> <p>-Manejo y conservación de los humedales</p> <p>-Manejo y conservación de la biodiversidad con la colaboración entre industria-academia-gobierno</p> <p>-Conservación ambiental por gobiernos locales con el enfoque a la armonía entre medio ambiente urbano y ecosistema.</p>
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>1.3 Construcción de la Plataforma Informática y generación de conocimientos que contribuyan al establecimiento del "Mecanismo Regional de Facilitación para el Convenio sobre La Diversidad Biológica (CHM)"</p>	
<p>1.4 Capacitación de los recursos humanos para el uso y mantenimiento de la plataforma informática regional articulada con las nacionales existentes, incluyendo recolectar, procesar, y poner a disposición datos e informaciones.</p>	
<p>1.5 Elaborar "SICA-Regional Biodiversity Outlook" utilizando la plataforma informática regional</p>	
<p>2.1 Crear un sistema para la convocatoria regional de propuestas técnicas sobre proyectos pilotos en la región con los criterios de selección establecidos por la Comisión Técnica Regional de Mares y Biodiversidad CCAD</p>	
<p>2.2 Convocatoria de Proyectos Pilotos (Por ejemplo: Mecanismo de financiamiento, PES, ABS, Sello regional de acreditación, generación de marca regional-nacional de productos agrícolas, promoción de ecoturismo, desarrollo de emprendimientos con alternativas económicas comunitarias ambientales sostenibles, haciendo énfasis en actividades en los ecosistemas de humedales, áreas protegidas y corredores biológicos priorizados, etc.)</p>	
<p>2.3 Aprobación y selección de proyectos pilotos y los insumos necesarios para su ejecución.</p>	
<p>2.4 Implementación de los proyectos piloto aprobados.</p>	
<p>2.5 Evaluación de los proyectos piloto</p>	

2.6	Recolección de buenas prácticas relacionadas al desarrollo económico sostenible en la región.
2.7	Creación del Inventario de los posibles modelos de desarrollo económico en la región SICA
2.8	Integrar las buenas prácticas y lecciones aprendidas en la plataforma informática regional creada en el resultado 1.
2.9	Propuestas para la mejor implementación de las políticas regionales y nacionales, en base a los resultados generados
3.1	Diagnóstico y análisis de las necesidades de capacitación de los recursos humanos
3.2	Elaboración de los modelos de programa y currículum de cursos regionales en diferentes temas seleccionados y su ejecución en base a los recursos potenciales en la región SICA y los países de América Latina y Japón, en coordinación con los proyectos bilaterales de JICA.
3.3	Ejecución del programa de capacitación, incluyendo seminarios, talleres y la revisión de los resultados.
3.4	Hacer recomendaciones a la estructura organizacional regional y de recursos humanos necesarios para el fortalecimiento de la conservación y el uso de biodiversidad en el marco de la CCAD.

Anexo 3: Lista de Miembros del Comité Coordinador Conjunto

1. **Presidente**
Ministro de la Presidencia Pro-tempore de CCAD (Director del Proyecto).
2. **Miembros de CCAD**
 - 1) Ministros o representantes de los países miembros.
 - 2) Secretario Ejecutivo de CCAD (Coordinador del Proyecto).
 - 3) Oficiales de enlace de CCAD de los países miembros.
 - 4) Miembros del Comité Técnico Regional de Mares y Biodiversidad, en caso necesario.
 - 5) Otras personas que el lado del CCAD podría considerar necesarias (socios de cooperación, ONG, consultores, etc.), en caso necesario.
3. **Lado japonés:**
 - 1) Jefe Representante de la Oficina de JICA en El Salvador.
 - 2) Expertos japoneses del Proyecto.
 - 3) Jefe Representante de la oficina de JICA del país de Presidencia Pro-tempore de CCAD.
 - 4) Otras personas que el lado japonés podría considerar necesario, tales como el/los funcionario(s) de la Sede Central de JICA, Asesor de JICA para el SICA y Representante(s) de la Embajada del Japón del país de Presidencia Pro-tempore de CCAD.

2020年2月開催合同調整委員会議事録 (Minutes of JCC) (英語、スペイン語)

**MINUTES OF MEETINGS
BETWEEN
THE JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY (JICA)
AND
THE CENTRAL AMERICAN COMMISSION ON ENVIRONMENT AND
DEVELOPMENT (CCAD)
ON
PROJECT FOR CAPACITY DEVELOPMENT ON INTEGRATED
MANAGEMENT AND CONSERVATION OF BIODIVERSITY AT REGIONAL
LEVEL IN SICA REGION**

The Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA"), and the Central American Commission on Environment and Development (hereinafter referred to as "CCAD"), as part of The LXIV Ordinary Meeting of CCAD Council of Ministers, they met in the second Joint Coordination Committee (hereinafter referred to as "JCC"), in order to present the progress of activities of the Japanese fiscal year 2019, and to request the approval of the information to be published on the regional information platform on biodiversity, the conceptual note for the pilot projects of Result 2 and the Annual Work Plan of the second year (Japanese Fiscal Year 2020), of the Project for the Capacity Development on Integrated Management and Conservation of Biodiversity at Regional in the SICA region (hereinafter referred to as "the Project").

As a result of the discussions, both parties agreed on approval of the accomplishment of the achievement of the main activities for the first year, the information to be published on the regional information platform on biodiversity, the concept note for the pilot projects of Result 2 and the Annual Work Plan of the second year (Japanese Fiscal Year 2020), for the Project for Capacity Development on Integrated Management and Conservation of Biodiversity at Regional Level in SICA Region in the attached document.

The parties subscribe three original copies of the present document, done in both English and Spanish languages, both are equally authentic. In case of any divergence of interpretation, the English text shall prevail.

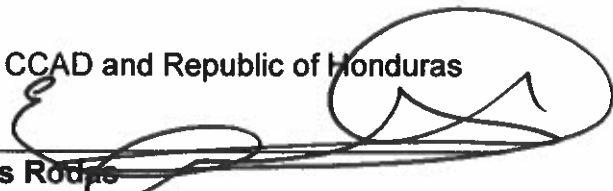
Tela, Atlántida, Honduras, February 18th, 2020

For
Japan International Cooperation Agency



Mika Yamamoto
Chief Representative
JICA Office in El Salvador

For
The CCAD and Republic of Honduras




Elvis Rodas
Minister of Energy, Natural Resources,
Environment and Mines
President Pro Tempore CCAD
Republic of Honduras



MA

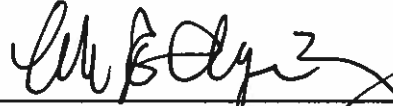


For
Belize

for 

Omar Figueroa
Minister of Agriculture, Fisheries, Forestry,
Environment and Sustainable Development
Belize

For
Republic of Costa Rica



Carlos Manuel Rodríguez
Minister of Environment and Energy
Republic of Costa Rica

For
Republic of El Salvador



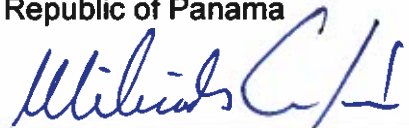
Fernando López Larreynaga
Minister of Environment and Natural
Resources
Republic of El Salvador

For
Republic of Nicaragua



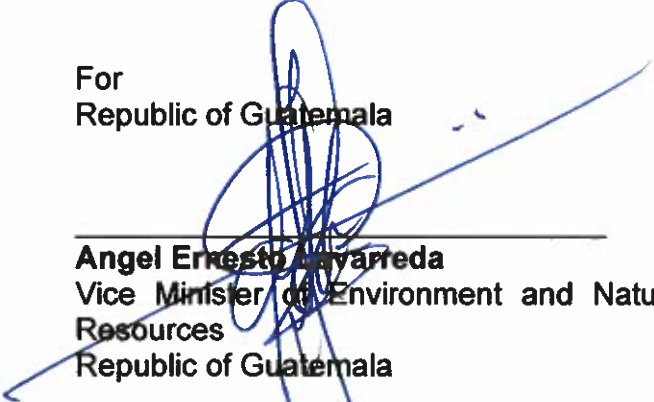
Fanny Sumaya Castillo Lara
Minister of Environment and Natural
Resources
Republic of Nicaragua

For
Republic of Panama



Milciades Concepcion
Minister of Environment
Republic of Panama

For
Republic of Guatemala



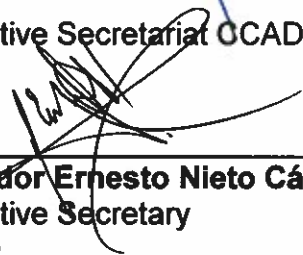
Angel Ernesto Avarreda
Vice Minister of Environment and Natural
Resources
Republic of Guatemala

For
Dominican Republic



Rosa Haydee Otero Nieves
Representative of the Ministry
Environment and Natural Resources
Dominican Republic

For
Executive Secretariat CCAD



Salvador Ernesto Nieto Cárcamo
Executive Secretary
CCAD



Attached Document

1 Progress and accomplishment of the planned activities in 2019

Summary of the Progress and achievement: The activities planned for 2019 were achieved.

Planned activities	Progress and achievement
Collection and analysis of existing information to identify the information to be uploaded on the regional information platform on biodiversity.	<ul style="list-style-type: none"> Information in each country was identified. Basic concept of the Regional Environmental Observatory has been established. It is a joint work with GIZ, MAR2R Project, and the Information and Technology (IT) Unit of the General Secretariat of SICA.
Two workshops to identify: <ul style="list-style-type: none"> A common regional theme for pilot projects Training course topics 	<ul style="list-style-type: none"> A single workshop was held to gather the information needed to identify the common regional theme for pilot projects and potential training topics
<ul style="list-style-type: none"> Executing a training course 	<ul style="list-style-type: none"> JICA organized a training course "Conservation of ecosystems through collaborative management of protected areas" with the participation of the 8 member countries of CCAD
<ul style="list-style-type: none"> Modification of the Project Design Matrix (PDM) and the Operational Plan, if necessary. 	<ul style="list-style-type: none"> At the moment, PDM change is not needed.

2 List of information to be published in the Regional Biodiversity Information Platform.

See Annex 1.

3 Concept paper of the pilot projects of the Output 2.

See Annex 2.

4 Annual Operation Plan for Japanese Fiscal Year (JFY) 2020.

4.1 Principal activities to be development in the second year of the Project (JFY 2020).

- Output 1: Development of Regional Information Platform on Biodiversity.
- Output 2: Detailed design and kick-off of the pilot projects.

Handwritten signatures and initials in blue ink, including 'MA', 'MC', 'EP', and others.


- Output 3: Implementation of a training course in Japan and other training courses, according to detailed design of each pilot Project.
- 4.2 Schedule of Annual Operative Plan JFY 2020
See Annex 3.





    
+! MC MA EP

Annex1. Information to be published in the Regional Information Platform on Biodiversity

List of mammals	List of plants
List of birds	National red list of species
List of reptiles	Forest map
List of amphibians	Ecosystem map
List of fresh water fish species	Wetlands map
List of coastal and marine fish species	Map of protected areas and international designated areas (RAMSAR, World Heritage among others)
List of insects	

All countries have agreed to provide the information in this table and publish them in the Platform. The information to be published can vary, depends on the availability of the information of each country.



 A. - M.C
 MA





Annex 2. Concept Note for Pilot Projects of Output 2

Common title of the Pilot Projects:

Establishment of sustainable models for strengthening the ecological connectivity of transboundary areas by restoring ecosystems and improving livelihoods with local communities.

1 Background

1.1 The "Convention for the Conservation of the Biodiversity and the Protection of Priority Wilderness Areas in Central America", signed by the presidents of Central American countries in 1992, emphasizes the conservation of transboundary areas as a regional challenge.

1.2 "Conservation of wetlands and biological corridor" is one of the 5 priority themes of "Action Plan of Regional Program for Central America and Dominican Republic" of JICA.

1.3 The Record of Discussion of the "Project for Capacity Development on Integrated Management and Conservation of Biodiversity at regional level in SICA Region," endorsed by the ministers or representatives of the 8 CCAD member countries, the CCAD Executive Secretary and the representative of JICA on June 19, 2018, define in Output 2 the activities in the local communities.

1.4 The need to build a common regional theme for the implementation of the pilot projects of Output 2 of the Project, to characterize it as a regional project and differentiate it from bilateral projects (JICA with a counterpart country).

1.5 JICA wants to build improved, sustainable and applicable models, strengthening existing experiences in the region and leveraging their knowledge.

2 Justification and relevance:

2.1 Pilot projects in transboundary areas provide accomplishment of the Sustainable Development Goals 1, 2, 6, 12, 14, 15, and 17.

2.2 The "Ecosystem Restoration" contributes to the region's accomplishment of the international agenda of the "United Nations Decade on Ecosystem Restoration" from 2021 to 2030.

Handwritten initials and signatures in blue ink at the bottom of the page, including "A.", "M.C.", and several illegible signatures.

- 2.3 The "2015-2020 Framework Regional Environmental Strategy (ERAM, for its acronym in Spanish)" includes "Forests, Seas and Biodiversity" and "Funding Mechanism" as some of its Strategic Lines.
- 2.4 The following Strategic Actions are defined in the Strategic Line of "Forests, Seas and Biodiversity":
 - Strengthen the connectivity of protected areas and biological corridors, terrestrial and marine systems.
 - Strengthen the participation of local communities, indigenous people and African descendant people.
 - Promote sustainable productive activities and facilitate the development of economic alternatives for the communities who live in protected areas.
- 2.5 Ecological connectivity is an important and consistent regional issue from the idea of "Path of the Panther" (Paseo Pantera Project) and "Mesoamerican Biological Corridor Project", among other initiatives.
- 2.6 Transboundary areas have been a relevant topic of regional cooperation in the region and CCAD has experiences in the *Selva Maya*, El Trifinio, the Gulf of Fonseca and other transboundary areas.
- 2.7 The restoration of ecosystems in transboundary areas also provides regional CCAD initiatives such as the "5 Forests Initiative", "AFOLU Initiative", among others.
- 2.8 The conservation of protected areas and other important transboundary areas for conservation also contributes to accomplishment of national development and conservation policies of the 8 member countries of the CCAD, contributing to the sustainable development of the rural areas of each country.

3 Basic concepts:

3.1 Common objective of the Pilot Projects:

Establishment of sustainable models for strengthening the ecological connectivity of transboundary areas by restoring ecosystems and improving livelihoods with local communities

3.2 Expected Outputs of the Pilot Projects:

- Expected Output 1. Ecosystem Restoration with the direct involvement of communities.
- Expected Output 2. Development of productive activities with consideration in the environment in several selected local communities.

Handwritten signatures and initials in blue ink, including "A.", "H.C", "MA", and several illegible scribbles.

- Expected Output 3. Proposal for governance mechanisms of transboundary protected areas and their areas of influence.
- Expected Output 4. Proposal for a sustainable development model for the area of influence of transboundary protected areas.

3.3 Definition of the details of each pilot project:

The activities, indicators, methodology, resources (inputs), communities and other details necessary for the implementation of the pilot projects will be planned in the first half of the Japanese fiscal year (between April and September 2020) with the relevant counterparts of the counterpart countries of each implementation area.

The detailed plans of each site to be intervened will be divided into: national activities and joint (transboundary) activities, each country having to approve their national activities (those concerning their territory), while the joint activities (transboundary) will have to be approved by each of the related countries, in order to initiate their implementation.

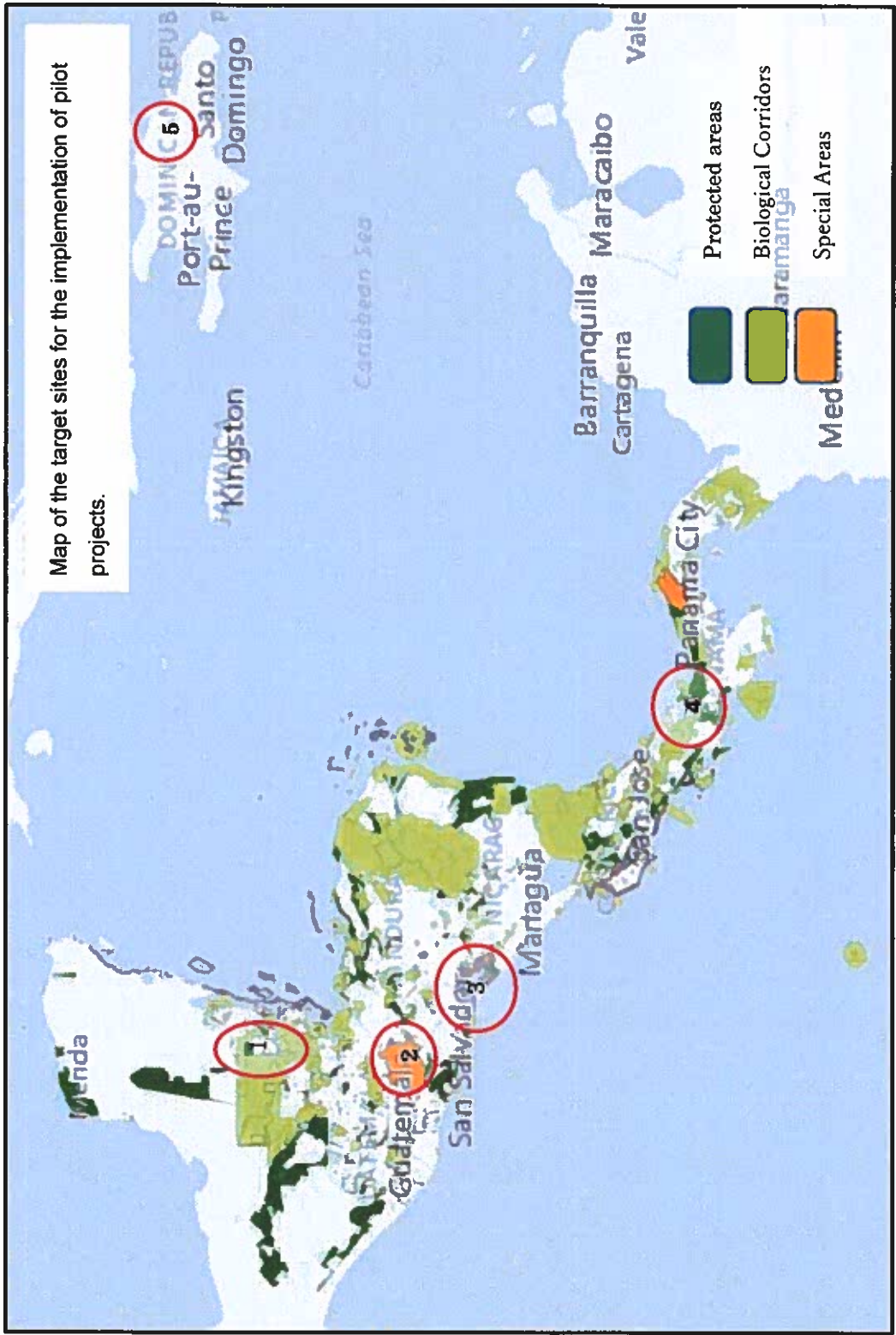
3.4 Target areas of the Pilot Projects:

No.	Areas of Implementation	Beneficiary Participating Countries
1	Selva Maya	Guatemala and Belize
2	Trifinio*	Guatemala, El Salvador and Honduras
3	Gulf of Fonseca	El Salvador, Honduras and Nicaragua
4	La Amistad	Costa Rica and Panama
5	Montecristi	Dominican Republic

* This area will be used primarily as an example area for other transboundary areas.

AH-M-C

MA



A.-M.-C

[Handwritten signature]

[Handwritten signature]

[Handwritten signature]

[Handwritten signature]

[Handwritten signature]

Annex 3. Annual Operative Plan

Output	No.	Activities	Actions	Year 2 (JFY 2020)				
				4-6	7-9	10-12	1-3	
1	1.2	Develop design for a regional information platform as a multi biodiversity platform for data exchange and information shearing among the SICA member countries, particularly for biological corridors, wetlands, biodiversity.	1.2.3	To construct the Regional Environmental Observatory as the base of Regional Information Platform on Biodiversity in cooperation with other projects.				
			1.2.4	To put the information of each country in order, that will be uploaded in the platform.				
			1.2.5	Collect information of each county to upload the platform.				
			1.2.6	To share platform design and make necessary corrections.				
	1.3	Build the regional information platform	1.3.1	To construct the platform version 1.				
			1.3.2	To upload the information to the platform version 1.				
			1.3.3	To make corrections of the version 1.				
			1.3.6	To give necessary supports to the agent that shall maintain the platform.				
	1.4	Organize training for selected staff of the member countries in coordination with SICA-CCAD for utilization and maintenance of the information platform (i.e. collecting, processing, and making data/information available) in articulation with national information system.	1.4.1	To define training course programs				
			1.4.2	To identify the participants.				
			1.4.3	To carry out the logistics preparation.				
			1.4.4	To implement the training course.				
			1.4.5	Training participants prepare regional biodiversity information to be uploaded to the platform.				
			1.4.6	To upload the information elaborated to the platform.				
	1.5	Produce "regional biodiversity outlook" using the information system.	1.5.1	To define the contents (content table).				
1.5.2			To define chapters that each country will be in charge.					

[Handwritten signature]
M.A

[Handwritten signature]
H.-M.C
[Handwritten signature]
[Handwritten signature]

2	2.1	Develop selection criteria for pilot projects of sustainable economic development which contribute to both improvement of livelihoods at community level and biodiversity conservation	2.1.3	To identify the criteria and conditions of good practices, analyzing the existing successful practices.				
			2.1.4	To develop criteria and procedure of pilot projects based on them of good practices.				
	2.2	Call for pilot project proposals (e.g. PES, ABS, agro-forestry, branding agricultural product, promotion of ecotourism/agro tourism, development of ventures for environmental sustainable community economic alternatives, emphasizing activities in wetland ecosystems, protected areas and prioritized biological corridors etc.) from related countries	2.2.1	To contract consultants to elaborate detailed plans of the pilot projects				
			2.2.2	To elaborate detailed plans of the pilot project in coordination with counterpart institutions.				
	2.3	Select pilot projects and make decisions of actual supports for the pilot projects	2.3.1	To contract consultants to elaborate detailed plans of the pilot projects.				
			2.3.2	To elaborate detailed plans of the pilot project in coordination with counterpart institutions.				
	2.4	Support implementation of the pilot projects	2.4.1	To elaborate the Terms of Reference for the implementation of pilot projects.				
			2.4.2	To implement the pilot projects.				
	2.5	Evaluate and analyze the results of pilot projects (i.e. financial sustainability, impact, lessons learnt, etc.) and compile their lessons learnt.	2.5.1	To define the methodologies for the evaluation, analysis and identification of lessons learnt.				
			2.5.2	To carry out a training course to the member of CTMyB on the methodologies of evaluation, analysis and identification of lessons learnt				
			2.5.3	To monitor the pilot projects' activities.				

WTA

H.-M.-C

3	3.1	Evaluate and analyze training needs from SICA member countries in coordination with SICA-CCAD.	3.1.6	To identify the necessary themes for the implementation of the pilot projects.				
	3.2	Develop regional training program and curriculum on selected themes for the project for SICA member country in coordination with SICACCAD based on training resources in SICA region, Japan and neighboring countries (Latin America region) in collaboration with JICA's bilateral projects	3.2.1	To elaborate the list of resources that can give the training courses.				
			3.2.2	To elaborate the programs of the training course programs necessary for the implementation of the pilot projects.				
	3.3	Conduct training including seminars and workshops, and review the plan based on the result of the training.	3.3.1	To define the evaluation methodology for the training courses.				
			3.3.2	To recruit the participants of the training courses.				
			3.3.3	To carry out the training courses.				
			3.3.4	To evaluate the implemented training courses.				

[Handwritten signature]

Y. M. C

MA

[Handwritten signature]

[Handwritten signature]

[Handwritten signature]

**MINUTA DE REUNIONES
ENTRE
LA AGENCIA DE COOPERACIÓN INTERNACIONAL DEL JAPÓN (JICA)
Y
LA COMISIÓN CENTROAMERICANA DE AMBIENTE Y DESARROLLO
(CCAD)
SOBRE
EL PROYECTO DE DESARROLLO DE LAS CAPACIDADES EN MANEJO Y
CONSERVACIÓN INTEGRAL DE LA BIODIVERSIDAD A NIVEL REGIONAL
EN LA REGIÓN DEL SICA**

La Agencia de Cooperación Internacional del Japón (en adelante se denominará "JICA") y la Comisión Centroamericana de Ambiente y Desarrollo (en adelante se denominará "CCAD"), en el marco de la LXIV Reunión Ordinaria del Consejo de Ministros de la CCAD, se reunieron en el Segundo Comité de Coordinación Conjunta (en adelante se denominará "CCC"), con el propósito de presentar los avances de actividades del año fiscal japonés 2019, y solicitar la aprobación de la información a ser publicada en la plataforma informática regional sobre la biodiversidad, la nota conceptual para los proyectos pilotos del Resultado 2 y el Plan Anual de Trabajo del segundo año (Año Fiscal Japonés 2020) del Proyecto de Desarrollo de las Capacidades en Manejo y Conservación Integral de la Biodiversidad a Nivel Regional en la Región del SICA (en adelante se denominará "el Proyecto").

Como resultado de las discusiones, ambas partes acordaron aprobar el cumplimiento de las principales actividades para el primer año, la información a ser publicada en la plataforma informática regional sobre la biodiversidad, la nota conceptual para los proyectos pilotos del Resultado 2 y el Plan Anual de Trabajo del segundo año (Año Fiscal Japonés 2020), presentado en el documento adjunto.

Las partes suscriben tres ejemplares originales del presente documento, en los idiomas español e inglés, ambos igualmente auténticos. En caso de discrepancias de interpretación, prevalecerá el texto en inglés.

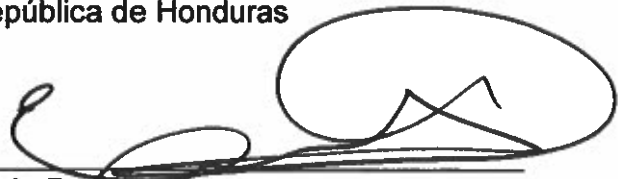
Tela, Atlántida, Honduras, 18 de febrero de 2020

En representación de
Agencia de Cooperación Internacional del
Japón



Mika Yamamoto
Jefe Representante
Oficina de JICA en El Salvador

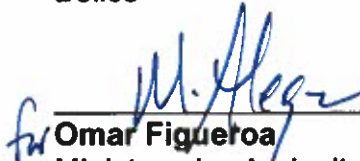
En representación de la CCAD y la
República de Honduras



Elvis Rodas
Ministro de Energía, Recursos Naturales,
Ambiente y Minas
Presidente Pro Tempore CCAD
República de Honduras

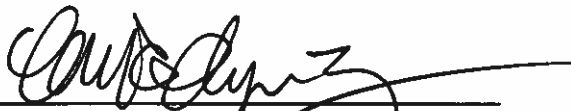


En representación de
Belice



Omar Figueroa
Ministro de Agricultura, Pesca, Bosques,
Ambiente y Desarrollo Sostenible
Belice

En representación de la
República de Costa Rica



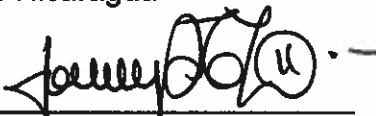
Carlos Manuel Rodríguez
Ministro de Ambiente y Energía
República de Costa Rica

En representación de la
República de El Salvador



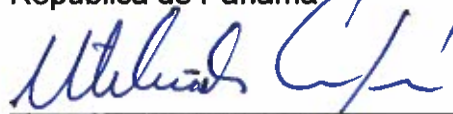
Fernando López Larreynaga
Ministro de Medio Ambiente y Recursos
Naturales
República de El Salvador

En representación de la
República de Nicaragua



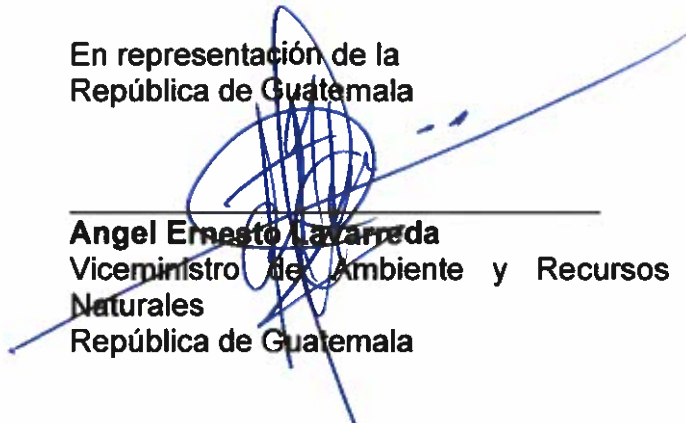
Fanny Sumaya Castillo Lara
Ministra del Ambiente y los Recursos
Naturales
República de Nicaragua

En representación de la
República de Panamá



Milciades Concepción
Ministro de Ambiente
República de Panamá

En representación de la
República de Guatemala



Angel Ernesto Lizarreda
Viceministro de Ambiente y Recursos
Naturales
República de Guatemala

En representación de
República Dominicana



Rosa Haydee Otero Nieves
Representante del Ministerio de Ambiente y
Recursos Naturales
República Dominicana

En representación de
Secretaría Ejecutiva de la CCAD



Salvador Ernesto Nieto Cárcamo
Secretario Ejecutivo de la CCAD



Documento Adjunto

1 Avance y alcance de las principales actividades planeadas en el año 2019.

Resumen de avance: Se han cumplido las principales actividades planeadas para el año 2019.

Actividades planeadas	Avances
Recopilación y análisis de las informaciones existentes para identificar las informaciones a montar en la plataforma informática regional sobre la biodiversidad.	<ul style="list-style-type: none"> Se identificaron informaciones existentes en cada país. Se ha establecido el concepto básico del Observatorio Ambiental Regional. Es un trabajo conjunto con GIZ, MAR2R y la Unidad de IT de la Secretaria General de SICA.
Dos talleres para identificar: <ul style="list-style-type: none"> Un tema regional común para los proyectos piloto Temas de capacitación 	<ul style="list-style-type: none"> Se realizó un único taller para recopilar la información necesaria para la identificación del tema regional común para los proyecto piloto y temas potenciales de capacitación.
<ul style="list-style-type: none"> Ejecución de un curso de capacitación. 	<ul style="list-style-type: none"> JICA organizó el curso "Conservación de ecosistemas a través de gestión colaborativa de áreas protegidas" con la participación de los 8 países miembros de CCAD.
<ul style="list-style-type: none"> Modificación de Matriz de Diseño de Proyecto y el Plan Operativo, en caso necesario. 	<ul style="list-style-type: none"> Por el momento, no es necesario el cambio de PDM.

2 Lista de información a ser publicada en la Plataforma Informática Regional sobre la Biodiversidad. Ver Anexo 1.

Handwritten notes and signatures in blue ink:

- Handwritten initials: "d!-" and "d"
- Handwritten text: "M-C"
- Handwritten text: "MA"
- Handwritten signatures: A large signature at the top right, and two smaller signatures at the bottom right.

3 Nota Conceptual de los Proyectos Piloto del Resultado 2.

Ver el Anexo 2.

4 Plan Operativo Anual AFJ 2020.

4.1 Actividades principales a ser desarrolladas en el segundo año del Proyecto (AFJ 2020).

- Resultado 1: Desarrollo de la plataforma informática regional sobre la biodiversidad.
- Resultado 2: Planificación detallada e inicio de implementación de actividades de los proyectos piloto.
- Resultado 3: Desarrollo de un curso de capacitación en Japón y otros cursos de capacitación, según los planes de implementación de los proyectos piloto.

4.2 Cronograma del Plan Operativo Anual AFJ 2020

Ver el Anexo 3.

Handwritten notes and signatures in blue ink:

- Top right: a large, stylized signature.
- Middle left: "T.-"
- Middle right: "M.C" followed by a signature.
- Bottom left: a signature.
- Bottom center: "MA" followed by a signature.
- Bottom right: a signature.

Anexo1. Información a publicar en la plataforma informática regional sobre la biodiversidad.

Lista de mamíferos	Lista de plantas
Lista de aves	Lista Roja Nacional
Lista de reptiles	Mapa de bosques
Lista de anfibios	Mapa de ecosistemas
Lista de peces de agua dulce	Mapa de humedales
Lista de peces costaneros y marinos	Mapa de áreas protegidas y designaciones internacionales (RAMSAR, Patrimonios mundiales etc.)
Lista de insectos	

Los países están de acuerdo en brindar la información en la tabla y publicarla en la plataforma informática regional sobre la biodiversidad.

La información a ser publicada puede variar dependiendo de la disponibilidad de cada país.

Handwritten notes and signatures in blue ink:

- Top left: "x! -"
- Top right: "MA" with a vertical line pointing to a signature.
- Middle: "M.C" with a signature.
- Bottom: "d" and "ER" with a signature.

Anexo 2. Nota Conceptual para los Proyectos Piloto del Resultado 2

Título común de los proyectos piloto:

Establecer modelos sostenibles para el fortalecimiento de la conectividad ecológica de las zonas transfronterizas mediante la recuperación de ecosistemas y el mejoramiento de medio de vida con las comunidades locales

1 Antecedentes

- 1.1 El "Convenio para la Conservación de la Biodiversidad y Protección de Áreas Silvestres Prioritarias en América Central", firmado por los presidentes de los países centroamericanos en 1992, pone énfasis en la conservación de las zonas transfronterizas como un reto regional.
- 1.2 "La conservación de los humedales y corredores biológicos" es uno de los 5 temas prioritarios del "Plan de Acción del Programa Regional para Centroamérica y República Dominicana" de JICA.
- 1.3 El Registro de Discusión del Proyecto de Desarrollo de Capacidades en Manejo y Conservación Integral de la Biodiversidad a nivel regional en la Región del SICA", firmado por los ministros o representantes de los 8 países miembros de la CCAD, el Secretario Ejecutivo de la CCAD, y el representante de JICA, el 19 de junio de 2018, define en el Resultado 2 las actividades en las comunidades locales.
- 1.4 La necesidad de construir un tema común regional para la ejecución de los "proyectos piloto" del Resultado 2 del Proyecto, para caracterizarle como un proyecto regional y diferenciarlo de los proyectos bilaterales (JICA con un país contraparte).
- 1.5 JICA quiere construir modelos mejorados, sostenibles, y replicable, fortaleciendo las experiencias existentes en la región y aprovechando sus conocimientos.

2 Justificación y relevancia:

- 2.1 Los proyectos piloto en las zonas transfronterizas aportan los cumplimientos de las Metas de Desarrollo Sostenible 1, 2, 6, 12, 14, 15 y 17.
- 2.2 La "Recuperación de Ecosistemas" aporta al cumplimiento de la región sobre la agenda internacional de la "Década de Naciones Unidas para la Recuperación de Ecosistemas" del 2021 al 2030.
- 2.3 La "Estrategia Regional Ambiental Marco 2015-2020 (ERAM)" incluye "Bosques, Mares y Biodiversidad" como algunas de sus Líneas Estratégicas.

JICA

M.C

Handwritten signatures and initials: ER, MA, and others.

2.4 En la Línea Estratégica de "Bosques, Mares y Biodiversidad" se definen las siguientes Acciones Estratégicas:

- Fortalecer los sistemas de conectividad de áreas protegidas y corredores biológicos terrestres y marinos.
- Fortalecer la participación de las comunidades locales y pueblos originarios, indígenas y afrodescendientes.
- Promover acciones productivas sostenibles y propiciar el desarrollo de alternativas económicas para las comunidades que cohabitan en las áreas protegidas.

2.5 La conectividad ecológica es un tema regional importante y consistente desde la idea de "Paseo Panthera" y "Proyecto de Corredor Biológico Mesoamericano", entre otras iniciativas.

2.6 Las zonas transfronterizas han sido un tema relevante de la cooperación regional en la región y la CCAD cuenta con experiencias en la Selva Maya, el Trifinio, el Golfo Fonseca y otras áreas transfronterizas.

2.7 La recuperación de ecosistemas en las zonas transfronterizas también aporta las iniciativas regionales de la CCAD tales como la "Iniciativa de los 5 Bosques", "Iniciativa de AFOLU", entre otras.

2.8 La conservación de las áreas protegidas y otras zonas de importancia transfronterizas para la conservación también aporta al cumplimiento de las políticas nacionales del desarrollo y la conservación de los 8 países miembros de la CCAD, aportando el desarrollo sostenible de las zonas rurales de cada país.

3 Conceptos básicos:

3.1 Objetivo común de los Proyectos Piloto:

Establecer modelos sostenibles para el fortalecimiento de la conectividad ecológica de las zonas transfronterizas mediante la recuperación de ecosistemas y el mejoramiento de medio de vida en las comunidades locales.

3.2 Resultados Esperados de los Proyectos Piloto:

- Resultado Esperado 1. Recuperación de ecosistemas con el involucramiento directo de las comunidades.
- Resultado Esperado 2. Desarrollo de actividades productivas con consideración en el medio ambiente en varias comunidades locales seleccionadas.
- Resultado Esperado 3. Propuesta de mecanismos de gobernanza de las áreas protegidas transfronterizas y sus zonas de influencia.
- Resultado Esperado 4. Propuesta de modelo de desarrollo sostenible de la zona de influencia de las áreas protegidas

A.I.

M.C

MA

transfronterizas

3.3 Definición de los detalles de cada proyecto piloto:

Se programarán las actividades, indicadores, metodología, comunidades (insumos) y otros detalles necesarios para la ejecución de los proyectos pilotos en el primer semestre del año fiscal japonés (entre abril y septiembre de 2020) con las contrapartes relevantes de los países contrapartes de cada área de implementación.

Los planes detallados de cada sitio a intervenir se dividirán en: las actividades nacionales y las actividades conjuntas (transfronterizas), debiendo cada país aprobar sus actividades nacionales (las que conciernen a su territorio), mientras que las actividades conjuntas (transfronterizas) deberán ser aprobadas por cada uno de los países a los que les compete, para iniciar su ejecución.

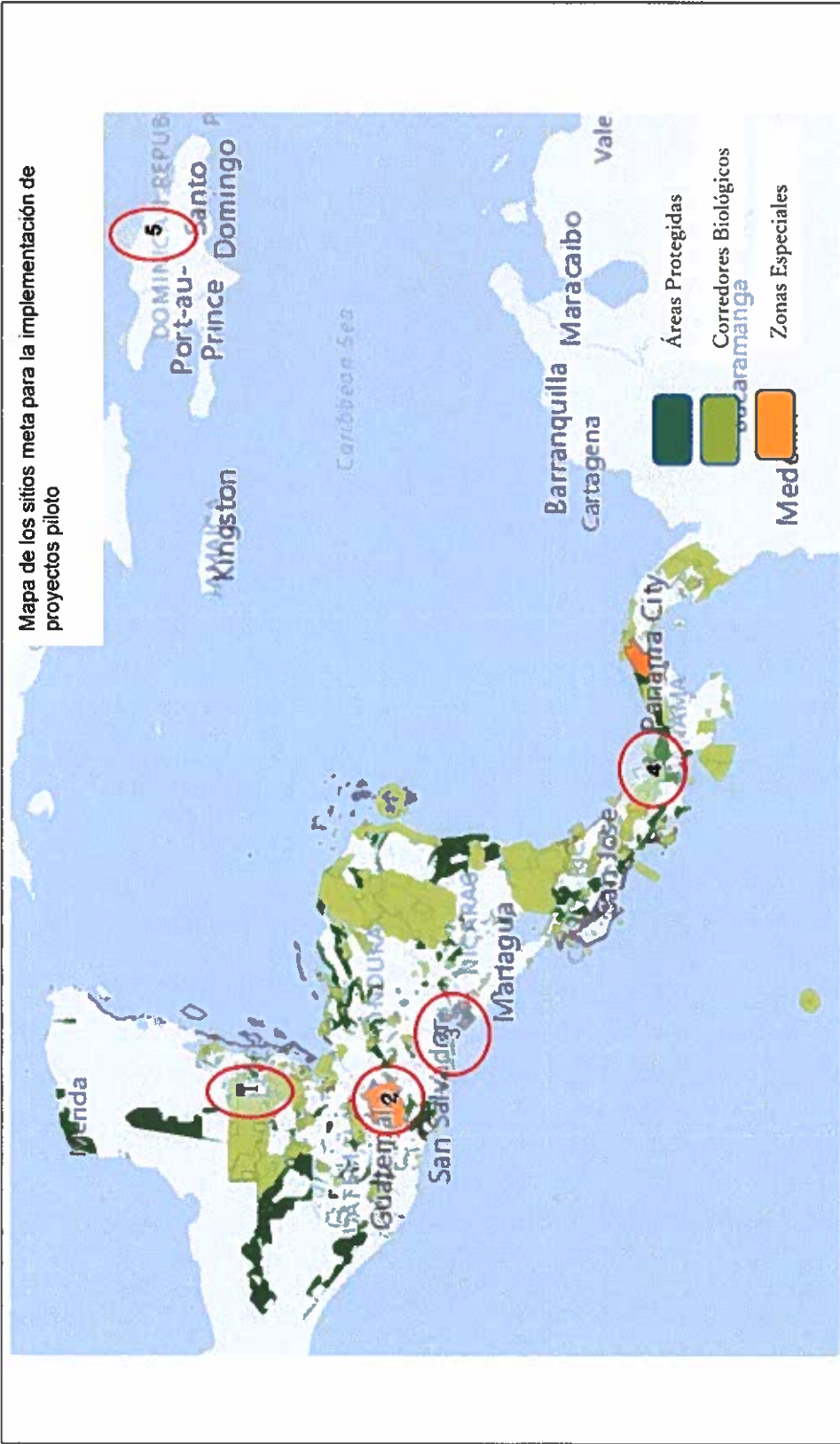
3.4 Áreas meta de los Proyectos Pilotos:

No.	Áreas de implementación	Países participantes beneficiados
1	Selva Maya	Guatemala y Belice
2	Trifinio*	Guatemala El Salvador y Honduras
3	Golfo Fonseca	El Salvador, Honduras y Nicaragua
4	La Amistad	Costa Rica y Panamá
5	Montecristi	República Dominicana

*Se aprovechará, principalmente, esta área como una zona de ejemplo para otras áreas transfronterizas.

Handwritten notes and signatures in blue ink, including "MA", "M-C", and several illegible signatures.




Mapa de los sitios meta para la implementación de proyectos piloto







21- M.C
[Handwritten signatures and initials]

Anexo 3. Plan Operativo Anual 2020



Resultado	No	Actividades	Tareas	Año 2 (AFJ 2020)				
				4-6	7-9	10-12	1-3	
1	1.2	Diseño y construcción del sistema informático regional, incluyendo corredores biológicos, humedales y biodiversidad.	1.2.3	Construir el Observatorio Ambiental Regional como la base de la Plataforma Informática Regional sobre la Biodiversidad en coordinación con otros proyectos.				
			1.2.4	Ordenar la información de cada país que se sube a la plataforma.				
			1.2.5	Recoger la información de cada país para subir a la plataforma.				
			1.2.6	Compartir el diseño de la plataforma y realizar correcciones necesarias.				
	1.3	Construcción de la Plataforma Informática y generación de conocimientos que contribuyan al establecimiento del "Mecanismo Regional de Facilitación para el Convenio sobre La Diversidad Biológica (CHM)"	1.3.1	Construir la versión 1 de la plataforma.				
			1.3.2	Subir la información a la versión 1.				
			1.3.3	Hacer correcciones de la versión 1.				
			1.3.6	Brindar apoyos necesarios a la entidad que mantenga la plataforma				
	1.4	Capacitación de los recursos humanos para el uso y mantenimiento de la plataforma informática regional articulada con las nacionales existentes, incluyendo recolectar, procesar, y poner a disposición datos e informaciones.	1.4.1	Definir los programas de las capacitaciones.				
			1.4.2	Identificar a los participantes.				
			1.4.3	Realizar la preparación logística.				
			1.4.4	Ejecutar la capacitación.				
			1.4.5	Los participantes de la capacitación elaboran la información de la biodiversidad regional a ser subido a la plataforma.				
			1.4.6	Subir la información elaborado a la plataforma.				
	1.5	Elaborar "SICA-Regional Biodiversity Outlook" utilizando la plataforma informática regional.	1.5.1	Definir los contenidos (table de contenido)				
			1.5.2	Definir capítulos que cada país se encarga.				


 H. M.C
 MA



2	2.1	Crear un sistema para la convocatoria regional de propuestas técnicas sobre proyectos pilotos en la región con los criterios de selección establecidos por la Comisión Técnica Regional de Mares y Biodiversidad CCAD.	2.1.3	Identificar los criterios y condiciones de las buenas prácticas, analizando las prácticas exitosas existentes.				
			2.1.4	Elaborar criterios y procedimiento de los proyectos piloto basado en los mismos de las buenas prácticas.				
	2.2	Convocatoria de Proyectos Pilotos (Por ejemplo: Mecanismo de financiamiento, PES, ABS, Sello regional de acreditación, generación de marca regional-nacional de productos agrícolas, promoción de ecoturismo, desarrollo de emprendimientos con alternativas económicas comunitarias ambientales sostenibles, haciendo énfasis en actividades en los ecosistemas de humedales, áreas protegidas y corredores biológicos priorizados, etc.)	2.2.1	Contratar a los consultores para la elaboración de los planes detallados de los proyectos piloto.				
			2.2.2	Elaborar los planes detallados de los proyectos piloto en coordinación con las instituciones contrapartes.				
	2.3	Aprobación y selección de proyectos pilotos y los insumos necesarios para su ejecución.	2.3.1	Contratar a los consultores para la elaboración de los planes detallados de los proyectos piloto.				
			2.3.2	Elaborar los planes detallados de los proyectos piloto en coordinación con las instituciones contrapartes.				
	2.4	Implementación de los proyectos piloto aprobados.	2.4.1	Elaborar los Términos de Referencia para la implementación de los proyectos piloto.				
			2.4.2	Implementar los proyectos piloto.				
	2.5	Evaluación de los proyectos piloto	2.5.1	Definir las metodologías para la evaluación, análisis, e identificación de lecciones aprendidas.				
			2.5.2	Realizar la capacitación a los miembros de CTMyB sobre la metodología de la evaluación, análisis e identificación de las lecciones aprendidas.				
			2.5.3	Monitorear las actividades e los proyectos piloto.				

+!- M-C 
   MA

3	3.1	Diagnóstico y análisis de las necesidades de capacitación de los recursos humanos	3.1.6	Identificar los temas necesarios para la implementación de los proyectos piloto.				
	3.2	Elaboración de los modelos de programa y currículum de cursos regionales en diferentes temas seleccionados y su ejecución en base a los recursos potenciales en la región SICA y los países de América Latina y Japón, en coordinación con los proyectos bilaterales de JICA.	3.2.1	Elaborar la lista de los recursos que puedan brindar las capacitaciones				
			3.2.2	Elaborar los programas de las capacitaciones necesarias para la implementación de los proyectos piloto				
	3.3	Ejecución del programa de capacitación, incluyendo seminarios, talleres y la revisión de los resultados.	3.3.1	Definir la metodología de la evaluación de las capacitaciones.				
			3.3.2	Convocar a los participantes de las capacitaciones.				
			3.3.3	Implementar las capacitaciones.				
			3.3.4	Evaluar las capacitaciones implementados.				

+!-
 M.C.
 M.C.
 MA
 q



2022年4月開催合同調整委員会議事録 (Minutes of JCC) (英語、スペイン語)



**MINUTES OF MEETINGS
BETWEEN
THE JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY (JICA)
AND
THE CENTRAL AMERICAN COMMISSION ON ENVIRONMENT AND
DEVELOPMENT (CCAD)
ON
PROJECT FOR CAPACITY DEVELOPMENT ON INTEGRATED
MANAGEMENT AND CONSERVATION OF BIODIVERSITY AT REGIONAL
LEVEL IN SICA REGION**

The Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA"), and the Central American Commission on Environment and Development (hereinafter referred to as "CCAD") hereby agree that as per the Annex 1 based on the discussions at the JCC held on April 6th, 2022, the Record of Discussions (i.e. Annex 2) on "the project for the development of capacities in integrated management and conservation of biodiversity at Regional in the SICA region" signed on June 19th, 2018 is amended.

This amendment become effective as of April 6th, 2022.

The parties subscribe two original copies of the present document, done in both English and Spanish languages, both are equally authentic. In case of any divergence of interpretation, the English text shall prevail.

Annex 1 : Comparison Table for Amendment of the R/D

Annex 2 : Record of Discussions (signed on June 19th, 2018)

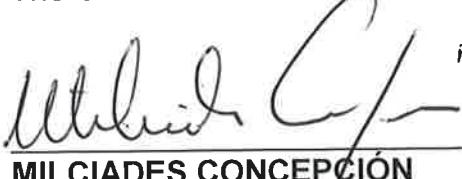
Panama City, Panama, April 6, 2022

For
Japan International Cooperation Agency

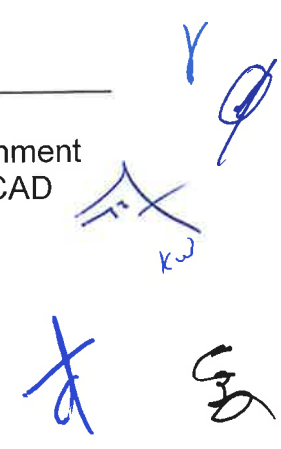


MASARU KOZONO
Chief Representative
JICA Office in El Salvador

For
The CCAD and Panama



MILCIADES CONCEPCIÓN
Minister of the Ministry of Environment
President Pro Tempore of the CCAD
Republic of Panama



For
Belize



KENRICK WILLIAMS
Vice Minister of the Ministry of Sustainable
Development, Climate Change and
Disaster Risk Management
Belize

For
Guatemala



ANGEL ERNESTO LAVARREDA
Vice Minister of the Ministry of Environment
and Natural Resources
Republic of Guatemala

For
El Salvador



MAYRA ARGUETA
Representative of Minister of Environment
and Natural Resources
Republic of El Salvador

For
Honduras



MALCOLM STUFKENS
Sub Secretary of the Secretariat of Energy,
Natural Resources, Environment and Mines
Republic of Honduras

For
Nicaragua



FANNY SUMAYA CASTILLO
Minister of the Ministry of Environment and
Natural Resources
Republic of Nicaragua

For
Costa Rica



CYNTHIA BARZUNA
Vice Minister of the Ministry of Environment
and Energy
Republic of Costa Rica

For
Dominican Republic



ORLANDO JORGE MERA
Minister of the Ministry of Environment and
Natural Resources
Dominican Republic

For
Executive Secretariat CCAD



JAIR URRIOLA QUIROZ
Executive Secretary
CCAD

Handwritten notes and signatures:
M.C
K.S.J
E.S.J
F.T



ANNEX 1

Comparison Table for Amendment of the R/D

1. 2.OUTLINE OF THE PROJECT (6) Implementation Structure

Present Statement	Revised Statement
<p>2) JICA Experts The JICA experts will give necessary technical guidance, advice and recommendations to the member countries in coordination with SICA-CCAD, regional technical committee on biodiversity and other relevant organizations on any matters pertaining to the implementation of the Project.</p>	<p>2) JICA Experts 【Long-term expert】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ Project coordinator : In addition to the arrangement of meetings, he will also be responsible for coordination and collaboration with Japanese consultants and implementation of Output 1 (establishment of a biodiversity platform) and Output 3 (capacity building through training). <p>【Japanese consultant team】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ Team leader (chief advisor): Specialized in ecosystem management / regional collaboration, lead ecosystem conservation and regional collaboration, consolidating all outputs of the project. ◇ Expert of Community empowerment and cooperation: In charge of strengthening communication and collaboration between pilot communities within each region. ◇ Expert of Participatory livelihood enhancement: In charge of supporting pilot activities in each community.

2. Project Design Matrix (PDM) (Annex 2 of the R/D)

Item	Present Statement	Revised Statement
Overall Goal	Regional institutional framework and governance on biodiversity conservation and sustainable use in the SICA region is strengthened.	No change
Indicator	Regional Environmental Strategy Framework (ERAM) is revised by utilizing information and database of the regional information platform.	No change
Project Purpose	Management capacity on utilization and conservation of biodiversity of member countries in coordination with SICA-CCAD is strengthened.	No change
Indicator 1	The regional information platform is referred to for making policies, plans and reports related to biodiversity.	Changed and move to Indicator 1.3
Indicator 2	At least one activity on utilization and conservation of biodiversity which refer to the knowledge and experiences of the	Replaced by new Indicators 1 &2.

M. C. [Handwritten signature]

9/28

	Project is introduced in each member countries.	
(New) Indicator 1	Added	Based on the lessons learned from Outputs 1-3, sustainable models and approaches that are considered useful to promote ecosystem and biodiversity conservation in transboundary areas and protected areas are compiled into policy recommendations.
(New) Indicator 2	Added	Policy recommendations are submitted to CCAD as a collective effort and consensus of the stakeholders (i.e. villages and counterparts), and their importance is discussed and recognized at the ministers' meeting.

Item	Present Statement	Revised Statement
Output 1	A regional information platform for conservation and utilization of biodiversity in the SICA region is established.	No change
Indicator 1.1	At least xx modules (e.g. regional information / data of biological corridors, wetlands, biodiversity) are available in the regional information platform.	At least 5 modules (e.g. regional information / data of biological corridors, wetlands, biodiversity) are available in the regional information platform.
Indicator 1.2	More than 80% of training participants of the information platform understand its function and modules to utilize the platform in articulation with national information system.	More than 80% of training participants of the information platform understand its development, utilization and maintenance.
(New) Indicator 1.3	Changed and moved from Indicator 1	Future utilization of the project results in the region is discussed and shared among the member countries through CCAD framework.
Output 2	Results of pilot projects such as good practice and lesson learned focused on small scale rural community and indigenes people are socialized, from the view point of sustainable development and proposal for implementation of regional and national policies.	No change ※ This Output should be consistent for all the pilot projects in 4 regions, so the indicators described here should also be regarded as common and general indicators for all of the pilot projects.
Indicator 2.1	At least xx sustainable economic development models are compiled based on the pilot projects and good practices and shared among the member countries.	In the 4 pilot project areas, models for sustainable ecosystem conservation in transboundary areas are compiled as lesson learned case studies.
Indicator 2.2	More than 90% of the pilot activities are jointly evaluated as "very useful" for developing sustainable economy development models for the region.	Establish a mechanism for cross-border exchange of information and sharing of experience and knowledge among the selected pilot communities in each pilot region.
(New) Indicator 2.3	Added	The leaders of the pilot activities in each community understand the experience and good practice in the pilot communities within other countries.
Output 3	Regional organizational and human resources capacity for conservation and utilization of biodiversity are strengthened	No change

mlk

BE M.C. [Signature]

	in coordination with SICA-CCAD.	
Indicator 3.1	More than xx% of training participants' knowledge level is increased.	80% or more of training participants rate their level of knowledge increased as a result of the training program.
Indicator 3.2	Regional seminars and workshops to share knowledge and experiences in SICA are organized more than xx times.	At least 8 regional seminars and workshops are held to share SICA's knowledge and experience.

Item	Present Statement	Revised Statement
Activity 1.1	Evaluate and analyze current state of existing data such as biological corridors, wetlands, biodiversity database etc. in the region (i.e. regional and national level)	No change
Activity 1.2	Develop design for a regional information platform as a multi biodiversity platform for data exchange and information sharing among the SICA member countries, particularly for biological corridors, wetlands, biodiversity.	No change
Activity 1.3	Build the regional information platform	No change
Activity 1.4	Organize training for selected staff of the member countries in coordination with SICA-CCAD for utilization and maintenance of the information platform (i.e. collecting, processing, and making data/information available) in articulation with national information system.	In coordination with SICA-CCAD, train selected staff of the member countries on the establishment, use and maintenance of national information platforms (e.g. collection, processing and use of available information).
Activity 1.5	Produce "regional biodiversity outlook" using the information system.	Compile a "Regional Biodiversity Outlook (Preparatory Guidelines / Summary)" using the platform.
Activity 2.1	Develop selection criteria for pilot projects of sustainable economic development which contribute to both improvement of livelihoods at community level and biodiversity conservation	No change
Activity 2.2	Call for pilot project proposals (e.g. PES, ABS, agro-forestry, branding agricultural product, promotion of ecotourism / agro tourism, development of ventures for environmental sustainable community economic alternatives, emphasizing activities in wetland ecosystems, protected areas and prioritized biological corridors etc.) from related countries	Develop proposals for pilot projects with pilot community stakeholders (e.g., PES, ABS, agroforestry, agro-branding, promotion of ecotourism/agricultural tourism, development of environmentally sustainable local economic alternatives in priority areas such as wetland ecosystems, protected areas and biological corridors).
Activity 2.3	Select pilot projects and make decisions of actual supports for the pilot projects.	No change
Activity 2.4	Support implementation of the pilot projects.	No change
Activity 2.5	Evaluate and analyze the results of pilot projects (i.e. financial sustainability, impact, lessons learnt, etc.) and compile their lessons learnt.	No change
Activity 2.6	Collect good practices related to	Collect examples of good practices related to

mb

G M C X

	sustainable economic development among the region.	sustainable ecosystem conservation in the region with an objective of strengthening governance mechanisms in transboundary ecosystems.
Activity 2.7	Develop an inventory of sustainable economic development models adaptable within the region based on 2.5 and 2.6.	Develop recommendations on governance mechanisms in transboundary ecosystems (cf. Indicator 1) that can be adapted within the region based on Indicators 2.5 and 2.6.
Activity 2.8	Integrate the inventory into the information platform developed in Output 1.	Upload the above good practice, recommendations and lesson learnt to the information platform developed in Output 1.
Activity 2.9	Make recommendations for improving regional and national level related policies based on the results obtained through the pilot projects.	No change
Activity 3.1	Evaluate and analyze training needs from SICA member countries in coordination with SICA-CCAD.	No change
Activity 3.2	Develop regional training program and curriculum on selected themes for the project for SICA member country in coordination with SICA-CCAD based on training resources in SICA region, Japan and neighboring countries (Latin America region) in collaboration with JICA's bilateral projects	In cooperation with SICA-CCAD, develop regional training programs and curricula on specific topics for the project, based on training resources in the SICA region, Japan and neighboring countries (Latin America region).
Activity 3.3	Conduct training including seminars and workshops, and review the plan based on the result of the training.	No change
Activity 3.4	Make recommendations on regional organizational structure and necessary human resources for strengthening conservation and utilization of biodiversity within the CCAD framework	Provide recommendations on strengthening the capacity of local organizational structures and necessary human resources to promote the conservation and use of biodiversity in the framework of CCAD.

Item	Present Statement	Revised Statement
Inputs The Japanese Side 1. Experts	-Chief Advisor/Ecosystem Management -Project Coordinator/Training Planning/Institutional Capacity -Other Short-Term Experts (e.g. GIS/Data Base, Remote sensing, Agro-forestry, Eco-tourism, etc.) -Local Coordinator	- Team leader (chief advisor): Ecosystem management/regional collaboration - Project coordinator/training planning/institutional capacity - Expert of Community empowerment and cooperation - Expert of Participatory livelihood enhancement

3. List of Proposed Members of Joint Coordinating Committee (Annex 5 of the R/D)

Present Statement	Revised Statement
3. Japanese side: 2) Chief Representative of JICA El Salvador Office	3. Japanese side: 2) Chief Representative of JICA Office in the SICA member countries.

mle

Cozy M. Cd

4. Reason

1. Implementation Structure

- To respond to diverse needs in a variety of specialized fields, a team of experts with a high level of expertise in each field will be assigned.

2. Project Design Matrix (PDM)

- It was found necessary to have a holistic indicator to evaluate the purpose of the project (i.e. what was learned from all of the project activities) as a concrete output (i.e. policy recommendations) of the project.
- Based on the project's current achievements, indicators were quantified where possible and appropriate.
- Based on the needs and current situation of SICA member countries about information platform and human resources, activities of Output 1 and 3 were modified.
- To clarify significance of the pilot activities with a view to strengthening governance mechanisms in transboundary protected areas, activities of Output 2 were amended.

3. Member of Joint Coordinating Committee

- To allow greater flexibility for the chief representative of JICA offices to participate in CCAD Ministers' meeting depending on a host country, the list of Proposed Members of Joint Coordinating Committee was amended.

8

J!-

Mye

M.C. 



**MINUTA DE REUNIONES
ENTRE
LA AGENCIA DE COOPERACIÓN INTERNACIONAL DEL JAPÓN (JICA)
Y
LA COMISIÓN CENTROAMERICANA DE AMBIENTE Y DESARROLLO
(CCAD)
SOBRE
EL PROYECTO DE DESARROLLO DE LAS CAPACIDADES EN MANEJO Y
CONSERVACIÓN INTEGRAL DE LA BIODIVERSIDAD A NIVEL REGIONAL
EN LA REGIÓN DEL SICA**

La Agencia de Cooperación Internacional del Japón (en adelante se denominará "JICA"), y la Comisión Centroamericana de Ambiente y Desarrollo (en adelante se denominará "CCAD") acuerda que de acuerdo con el Anexo 1, con base en las discusiones en el Comité de Coordinación Conjunta (denominado CCC) celebrado el 6 de abril de 2022, se modifica el Registro de Discusiones (es decir, Anexo 2) sobre el "Proyecto de Desarrollo de Capacidades en Manejo y Conservación Integral de la Biodiversidad a Nivel Regional en la Región del SICA" firmado el 19 de junio de 2018.

Esta enmienda entra en vigencia a partir del 6 de abril de 2022.

Las partes suscriben dos ejemplares originales del presente documento, en los idiomas español e inglés, ambos igualmente auténticos. En caso de discrepancias de interpretación, prevalecerá el texto en inglés.

Anexo 1 : Tabla de comparación para la enmienda del Registro de Discusiones

Anexo 2 : Registro de Discusiones (firmado el 19 de junio de 2018)

Ciudad de Panamá, Panamá, 6 de abril de 2022

En representación de JICA

MASARU KOZONO
Jefe Representante
Oficina de JICA en El Salvador

En representación de la CCAD y Panamá

MILCIADES CONCEPCIÓN
Ministro de Ambiente
Presidente Pro Tempore de la CCAD
República de Panamá

En representación de
Belice



KENRICK WILLIAMS

Viceministro de Desarrollo Sostenible,
Cambio Climático y Gestión de Riesgo de
Desastres
Belice

En representación de
El Salvador



MAYRA ARGUETA

Representante del Ministro de Medio
Ambiente y Recursos Naturales
República de El Salvador

En representación de
Nicaragua



FANNY SUMAYA CASTILLO

Ministra del Ambiente y los Recursos
Naturales
República de Nicaragua

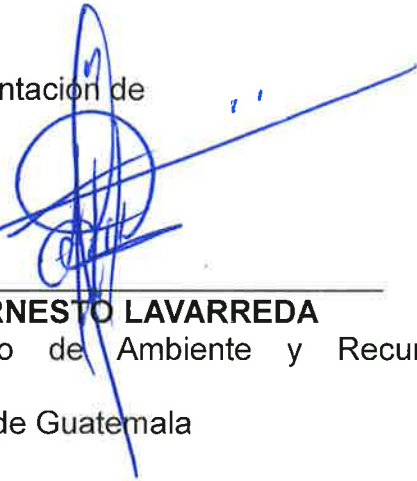
En representación de la
República Dominicana



ORLANDO JORGE MERA

Ministro de Medio Ambiente y Recursos
Naturales
República Dominicana

En representación de
Guatemala



ANGEL ERNESTO LAVARREDA

Viceministro de Ambiente y Recursos
Naturales
República de Guatemala

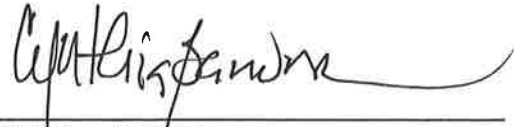
En representación de
Honduras



MALCOLM STUFKENS

Subsecretario de Energía, Recursos
Naturales, Ambiente y Minas
República de Honduras

En representación de
Costa Rica



CYNTHIA BARZUNA

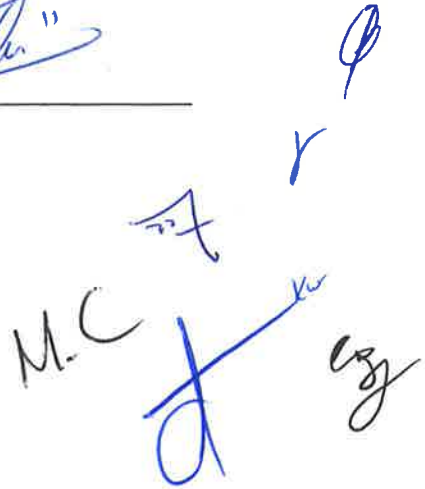
Viceministra de Ambiente y Energía
República de Costa Rica

En representación de la
Secretaría Ejecutiva de la CCAD



JAIR URRIOLA QUIROZ

Secretario Ejecutivo
CCAD



M.C
d
r
ky

ANEXO 1

Tabla de comparación para la enmienda del Registro de Discusiones

1. 2. RESUMEN DEL PROYECTO (6) Estructura de implementación

Antes	Versión Enmendada
<p>2) Expertos de la JICA Los expertos de la JICA darán la orientación técnica necesaria, el asesoramiento y las recomendaciones a los países miembros en coordinación con el SICA-CCAD, el comité técnico regional sobre la biodiversidad y otras organizaciones pertinentes sobre cualquier asunto relacionado con la ejecución del Proyecto.</p>	<p>2) 【Experto a largo plazo】 <ul style="list-style-type: none"> ◇ Coordinador del proyecto : Además de la organización de las reuniones, también se encargará de la coordinación y la colaboración con los consultores japoneses y de la ejecución del resultado esperado 1 (creación de una plataforma de biodiversidad) y del resultado esperado 3 (creación de capacidades mediante la formación). 【Equipo de consultores japoneses】 <ul style="list-style-type: none"> ◇ Jefe de equipo (asesor principal): Especializado en gestión de ecosistemas/colaboración regional, dirige la conservación de los ecosistemas y la colaboración regional, consolidando todos los resultados del proyecto. ◇ Experto en Potenciación y cooperación de las comunidades: Encargado de reforzar la comunicación y la colaboración entre las comunidades piloto dentro de cada región. ◇ Experto en Mejora participativa de los medios de vida: Encargado de apoyar las actividades piloto en cada comunidad. </p>

2. Matriz de diseño del proyecto (PDM) (Apéndice 2 de R/D)

Ítem	Antes	Versión enmendada
Objetivo Superior	La institucionalidad regional y gobernanza para la conservación de la biodiversidad y su uso sostenible en la región SICA son fortalecidas.	No hay cambios
Indicador	La Estrategia Regional Ambiental Marco (ERAM) es revisada y actualizada para la utilización de las informaciones y datos en la plataforma informática regional.	No hay cambios
Objetivo del Proyecto	Se fortalecerán las capacidades en manejo y conservación integral de la biodiversidad nacional y regional, en los países que conforman la Región del SICA.	No hay cambios
Indicador 1	La plataforma informática regional de biodiversidad de SICA es referenciada y utilizada en el proceso de elaboración de las políticas, planes, reportes nacionales y regionales relacionados con biodiversidad.	Cambiado y trasladado al Indicador 1.3

f!-

mle

Handwritten signatures and initials in blue ink, including a large signature and the initials 'M.C.', 'K', and 'K-2'.

Indicador 2	Por lo menos una actividad de utilización de los resultados y conocimientos adquiridos por el Proyecto es realizada en cada uno de los países.	Sustituido por los nuevos indicadores 1 y 2.
(Nuevo) Indicador 1	Añadido	Con base en las lecciones aprendidas de los resultados esperados 1 a 3, los modelos y enfoques sostenibles que se consideran útiles para promover la conservación de los ecosistemas y la biodiversidad en las zonas transfronterizas y las áreas protegidas se recopilan en recomendaciones políticas.
(Nuevo) Indicador 2	Añadido	Las recomendaciones políticas se presentan a la CCAD como un esfuerzo colectivo y un consenso de las partes interesadas (es decir, las comunidades y las contrapartes), y su importancia se discute y reconoce en la reunión de ministros.

Ítem	Antes	Versión Enmendada
Resultado Esperado 1	Construcción de una Plataforma Informática Regional para el manejo y la conservación integral de la biodiversidad en los países que conforman la Región del SICA.	No hay cambios
Indicador 1.1	Por lo menos XX módulos (Ej. Información regional / datos de corredores biológicos, humedales, biodiversidad) están disponibles en la plataforma informática regional.	Por lo menos 5 módulos (Ej. Información regional / datos de corredores biológicos, humedales, biodiversidad) están disponibles en la plataforma informática regional.
Indicador 1.2	Más de un 80% de los participantes en las capacitaciones comprende la función de la plataforma informática regional y la saben utilizar, articulada con las plataformas nacionales.	Más del 80% de los participantes en la formación de la plataforma de información comprenden su desarrollo, utilización y mantenimiento.
(Nuevo) Indicador 1.3	Cambiado y trasladado del Indicador 1	La utilización futura de los resultados del proyecto en la región se discute y se comparte entre los países miembros a través del marco de la CCAD.
Resultado Esperado 2	Socialización de los resultados de los Proyectos Pilotos como buenas prácticas y lecciones aprendidas con el enfoque de pequeña escala de comunidades locales y pueblos indígenas, desde la perspectiva del desarrollo sostenible, y propuestas para la implementación de la política regional y las políticas nacionales.	No hay cambios ※ Este resultado debe ser coherente para todos los proyectos piloto en 4 regiones, por lo que los indicadores descritos aquí también deben considerarse como indicadores comunes y generales para todos los proyectos piloto.
Indicador 2.1	Por lo menos xx modelos de desarrollo económico sostenible son construidos en base a los proyectos pilotos y buenas prácticas, y compartidos entre los países.	En las 4 zonas del proyecto piloto, se recopilan modelos de conservación sostenible de los ecosistemas transfronterizos como estudios de casos de lecciones aprendidas.
Indicador 2.2	Por lo menos un 90% de los proyectos pilotos son evaluados "Muy Útil" conjuntamente entre la CCAD y la JICA,	Establecer un mecanismo para el intercambio transfronterizo de información y la puesta en común de experiencias y

71-

mbe

M-C
d
100

Handwritten signatures and initials on the right margin.

	para promover y diseminar los modelos de desarrollo económico sostenible.	conocimientos entre las comunidades piloto seleccionados en cada región piloto.
(Nuevo) Indicador 2.3	Añadido	Líderes de las actividades piloto de cada comunidad conocen las experiencias y buenas prácticas de las comunidades dentro de los proyectos piloto en otros países.
Resultado Esperado 3	Fortalecimiento de la capacidad regional de organización y recursos humanos para la conservación y utilización de la biodiversidad en coordinación con el SICA-CCAD.	No hay cambios
Indicador 3.1	Más de xx % de los participantes en la capacitación son aprobados por las pruebas de comprensión ofrecidas por el Proyecto.	El 80% o más de los participantes en la formación aumentaron su nivel de conocimientos como resultado del programa de formación.
Indicador 3.2	Seminarios y talleres regionales y nacionales para desarrollo de las capacidades del manejo de conservación de biodiversidad, vinculados con los resultados 1 y 2 son realizados más de XX veces en la región.	Se celebran al menos 8 seminarios y talleres regionales para compartir los conocimientos y la experiencia de SICA.

Ítem	Antes	Versión Enmendada
Actividad 1.1	Diagnóstico, análisis y evaluación de la situación actual de los datos e informaciones sobre corredores biológicos, humedales y la biodiversidad en la región (al nivel regional y nacional).	No hay cambios
Actividad 1.2	Diseño y construcción del sistema informático regional, incluyendo corredores biológicos, humedales y biodiversidad.	No hay cambios
Actividad 1.3	Construcción de la Plataforma Informática y generación de conocimientos que contribuyan al establecimiento del "Mecanismo Regional de Facilitación para el Convenio sobre La Diversidad Biológica (CHM)".	No hay cambios
Actividad 1.4	Capacitación de los recursos humanos para el uso y mantenimiento de la plataforma informática regional articulada con las nacionales existentes, incluyendo recolectar, procesar, y poner a disposición datos e informaciones.	En coordinación con el SICA-CCAD, formar al personal seleccionado de los países miembros en el establecimiento, uso y mantenimiento de las plataformas nacionales de información (por ejemplo, recopilación, procesamiento y uso de la información disponible).
Actividad 1.5	Elaborar "SICA-Regional Biodiversity Outlook" utilizando la plataforma informática regional.	Elaborar una "Perspectiva regional de la biodiversidad (directrices preparatorias / resumen)" utilizando la plataforma.
Actividad 2.1	Crear un sistema para la convocatoria regional de propuestas técnicas sobre proyectos pilotos en la región con los criterios de selección establecidos por la Comisión Técnica Regional de Mares y Biodiversidad CCAD.	No hay cambios

me

by MC

Actividad 2.2	Convocatoria de Proyectos Pilotos (Por ejemplo: Mecanismo de financiamiento, PES, ABS, Sello regional de acreditación, generación de marca regional-nacional de productos agrícolas, promoción de ecoturismo, desarrollo de emprendimientos con alternativas económicas comunitarias ambientales sostenibles, haciendo énfasis en actividades en los ecosistemas de humedales, áreas protegidas y corredores biológicos priorizados, etc.).	Desarrollar propuestas de proyectos pilotos con las partes interesadas de la comunidad piloto (por ejemplo, PSA, APB, agroforestería, marca agrícola, promoción del ecoturismo/turismo agrícola, desarrollo de alternativas económicas locales ambientalmente sostenibles en áreas prioritarias como ecosistemas de humedales, áreas protegidas y corredores biológicos).
Actividad 2.3	Aprobación y selección de proyectos pilotos y los insumos necesarios para su ejecución.	No hay cambios
Actividad 2.4	Implementación de los proyectos piloto aprobados.	No hay cambios
Actividad 2.5	Evaluación de los proyectos piloto.	No hay cambios
Actividad 2.6	Recolección de buenas prácticas relacionadas al desarrollo económico sostenible en la región.	Recoger ejemplos de buenas prácticas relacionadas con la conservación sostenible de los ecosistemas en la región con el objetivo de reforzar los mecanismos de gobernanza en los ecosistemas transfronterizos.
Actividad 2.7	Creación del Inventario de los posibles modelos de desarrollo económico en la región SICA.	Elaborar recomendaciones sobre los mecanismos de gobernanza en los ecosistemas transfronterizos (véase el Indicador 1) que puedan adaptarse en la región sobre la base de los Indicadores 2.5 y 2.6.
Actividad 2.8	Integrar las buenas prácticas y lecciones aprendidas en la plataforma informática regional creada en el resultado 1.	Subir las buenas prácticas, recomendaciones y lecciones aprendidas anteriores a la plataforma de información desarrollada en el resultado 1.
Actividad 2.9	Propuestas para la mejor implementación de las políticas regionales y nacionales, en base a los resultados generados.	No hay cambios
Actividad 3.1	Diagnóstico y análisis de las necesidades de capacitación de los recursos humanos.	No hay cambios
Actividad 3.2	Elaboración de los modelos de programa y currículum de cursos regionales en diferentes temas seleccionados y su ejecución en base a los recursos potenciales en la región SICA y los países de América Latina y Japón, en coordinación con los proyectos bilaterales de JICA.	En cooperación con el SICA-CCAD, desarrollar programas regionales de formación y planes de estudio sobre temas específicos para el proyecto, basándose en los recursos de formación de la región del SICA, Japón y los países vecinos (región de América Latina).
Actividad 3.3	Ejecución del programa de capacitación, incluyendo seminarios, talleres y la revisión de los resultados.	No hay cambios
Actividad 3.4	Hacer recomendaciones a la estructura organizacional regional y de recursos humanos necesarios para el fortalecimiento de la conservación y el uso de biodiversidad	Proporcionar recomendaciones sobre el fortalecimiento de la capacidad de las estructuras organizativas locales y los recursos humanos necesarios para promover

mlc





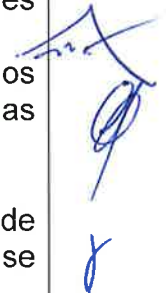
	en el marco de la CCAD.	la conservación y el uso de la biodiversidad en el marco de la CCAD.
--	-------------------------	----------------------------------------------------------------------

Ítem	Antes	Versión Enmendada
Insumos Parte Japonesa 1. Expertos	- Líder del Equipo Japonés/Manejo Integral de Ecosistemas - Coordinador del Proyecto/Plan de Capacitación y Fortalecimiento de Institucionalidad Regional - Expertos de Corto Plazo (ej. GIS/Base de Datos, Sensoramiento Remoto, Agroforestal, Ecoturismo, etc.) - Coordinador Local de origen centroamericano o dominicano	- Jefe de equipo (asesor principal): Gestión de ecosistemas/colaboración regional - Coordinador del Proyecto/Plan de Capacitación y Fortalecimiento de Institucionalidad Regional - Experto en Empoderamiento y cooperación de la comunidad - Experto en Mejora participativa de los medios de vida

3. Lista de miembros propuestos del Comité Coordinador Conjunto (Apéndice 5 de R/D)

Antes	Versión Enmendada
3. Lado japonés: 2) Representante Principal de la Oficina de JICA en El Salvador	3. Lado japonés 2) Representante Principal de la Oficina de la JICA en los países de miembros del SICA-CCAD.

4. Razón

<p>1. Estructura de implementación</p> <ul style="list-style-type: none"> - Para responder a diversas necesidades en una variedad de campos especializados, se asignará un equipo de expertos con un alto nivel de experiencia en cada campo. <p>2. Matriz de diseño del proyecto (PDM)</p> <ul style="list-style-type: none"> - Se encontró necesario tener un indicador holístico para evaluar el propósito del proyecto (es decir, lo que se aprendió de todas las actividades del proyecto) como un resultado concreto (es decir, recomendaciones de políticas) del proyecto. - Con base en los logros actuales del proyecto, se cuantificaron los indicadores cuando fue posible y apropiado. - Con base en las necesidades y situación actual de los países miembros del SICA en cuanto a plataforma de información y recursos humanos, se modificaron las actividades del Resultado Esperado 1 y 3. - Para aclarar la importancia de las actividades piloto con punto de vista a fortalecer los mecanismos de gobernanza en las áreas protegidas transfronterizas, se modificaron las actividades del Resultado Esperado 2. <p>3. Miembro de Comité Coordinador Conjunto</p> <ul style="list-style-type: none"> - Para permitir una mayor flexibilidad para que el representante principal de las oficinas de JICA participe en la reunión de Ministros del CCAD dependiendo de un país anfitrión, se modificó la lista de Miembros Propuestos del Comité Coordinador Conjunto. 	
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------

M.C.  





2022年10月開催合同調整委員会議事録 (Minutes of JCC) (スペイン語)



LXVII REUNIÓN EXTRAORDINARIA DEL CONSEJO DE MINISTROS DE LA COMISIÓN CENTROAMERICANA DE AMBIENTE Y DESARROLLO (CCAD)

En la ciudad de Santo Domingo, República Dominicana, a las nueve horas del día veintiséis de octubre del año 2022, da inicio la **LXVII Reunión Extraordinaria del Consejo de Ministros de la Comisión Centroamericana de Ambiente y Desarrollo (CCAD)**, estando presentes: **Miguel Ceara Hatton**, Ministro del Ministerio de Medio Ambiente y Recursos Naturales y Presidente Pro Tempore de la CCAD de la República Dominicana; **Heyddy Loredana Calderón Palma**, Ministra del Ministerio del Ambiente y los Recursos Naturales de la República de Nicaragua; **Kenrick Winston Williams**, Viceministro del Ministerio de Desarrollo Sostenible, Cambio Climático y Gestión del Riesgo de Desastres de Belice; **Miguel Esteban Piedrasanta Asensio**, Viceministro de Ambiente del Ministerio de Ambiente y Recursos Naturales de la República de Guatemala; **Diana Argelia Laguna Caicedo**, Viceministra del Ministerio de Ambiente de la República de Panamá; **Milagros De Camps**, Viceministra de Cambio Climático y Sustentabilidad del Ministerio de Ambiente y Energía de la República Dominicana; **Malcolm Stufkens**, Subsecretario de Ambiente de la Secretaría de Energía, Recursos Naturales, Ambiente y Minas de la República de Honduras (virtual); **Mayra Lourdes Argueta de Ardón**, Representante acreditada del Ministro de Medio Ambiente y Recursos Naturales de la República de El Salvador y **Norma Patricia Campos Mesén**, Representante acreditada del Ministro de Ambiente y Energía de la República de Costa Rica. Asimismo, se contó con la participación de los siguientes Oficiales de Enlace: **Carlos Moreno**, Oficial de Enlace de la CCAD de Belice; **María Elena Tayún**, Oficial de Enlace de la CCAD de Guatemala; Oficial de Enlace de la CCAD de El Salvador; **Fausto Díaz**, Oficial de Enlace de la CCAD de Honduras (Virtual); **Arlen Amador**, Oficial de Enlace de la CCAD de Nicaragua; **Víctor Francisco Cadavid**, Oficial de Enlace de la CCAD de la República de Panamá; **Rosa Otero**, Oficial de Enlace de la CCAD de la República Dominicana y por parte de la Secretaría Ejecutiva, estuvieron presentes: **Jair Urriola Quiroz**, Secretario Ejecutivo de la CCAD y su equipo técnico: Raúl Artiga, Mario Escobedo, Carlos González y Otty Ramos.

V. APROBACIÓN DEL PLAN DE TRABAJO DE PROYECTOS PILOTOS DEL PROYECTO DESARROLLO DE CAPACIDADES EN MANEJO Y CONSERVACIÓN INTEGRAL DE LA BIODIVERSIDAD EN LA REGIÓN SICA (CCAD-JICA).

El Sr. Michinori Yoshino y el Sr. Takeshi Inagawa, Coordinadores del Proyecto Desarrollo de Capacidades en Manejo y Conservación Integral de la Biodiversidad en la Región SICA, presentan al Consejo de Ministros el Plan de Trabajo de los Proyectos Pilotos que se desarrollarán en el marco del Proyecto en referencia, y que se ejecutarán en las siguientes zonas de intervención:

- **Selva Maya:** Guatemala (La Pasadita) apoyando la apicultura comunitaria. En Belice (San Antonio) apoyando la horticultura y el emprendimiento de grupo de mujeres.
- **Golfo de Fonseca:** Apoyando el fortalecimiento de la producción de los moluscos en El Salvador; la acuicultura amigable con medio ambiente de Pargo en Nicaragua y, el fortalecimiento de la producción de los moluscos, incluyendo el mangar en Honduras.
- **Amistad:** en Costa Rica y Panamá se apoyará el cultivo del café, la producción de miel de abeja, la siembra de árboles, flores para el mejoramiento del paisaje y la biodiversidad.
- **Montecristi:** en República Dominicana se desarrollarán talleres de sensibilización sobre biodiversidad y tecnología de la producción amigable en las zonas de Cañongo, Manzanilla y Carbonera.

El Consejo de Ministros de la CCAD acuerda:

15. Aprobar el Plan de Trabajo de Proyectos Pilotos que se ejecutarán en el marco del Proyecto de Desarrollo de Capacidades en Manejo y Conservación Integral de la Biodiversidad en la Región SICA, JICA-CCAD.



El Consejo de Ministros expresa su agradecimiento y felicitación a la Presidencia Pro Tempore de la República Dominicana, por la conducción de la reunión y por el apoyo recibido para la realización del presente Consejo, la cual finaliza a las trece horas con veinte minutos, del día veintiseis de octubre del año dos mil veintidós.



Miguel Ceara Hatton
Ministro
Ministerio de Medio Ambiente y Recursos
Naturales
República Dominicana



Heyddy Loredana Calderón Palma
Ministra
Ministerio del Ambiente y los Recursos Naturales
República de Nicaragua





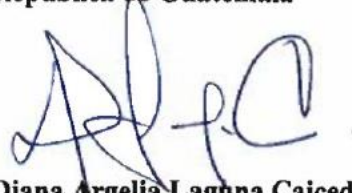
Kenrick Winston Williams
Viceministro
Ministerio de Desarrollo Sostenible, Cambio
Climático y Gestión del Riesgo de Desastres
Belice



Miguel Esteban Piedrasanta Asensio
Viceministro de Ambiente
Ministerio de Ambiente y Recursos Naturales
República de Guatemala



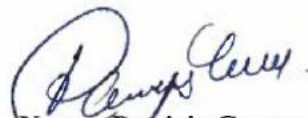
Malcolm Stufkens
Subsecretario de Ambiente
Secretaría de Energía, Recursos Naturales,
Ambiente y Minas
República de Honduras



Diana Argelia Laguna Caicedo
Viceministra de Ambiente
República de Panamá



Mayra Lourdes Argueta de Ardón
Representante acreditada del Ministro de
Medio Ambiente y Recursos Naturales
República de El Salvador



Norma Patricia Campos
Representante acreditada del Ministro de
Ambiente y Energía
República de Costa Rica

2023 年 4 月開催合同調整委員会議事録 (Minutes of JCC) (スペイン語)



SICA
Sistema de la Integración
Centroamericana

LXVIII REUNIÓN EXTRAORDINARIA DEL CONSEJO DE MINISTROS DE LA COMISIÓN CENTROAMERICANA DE AMBIENTE Y DESARROLLO (CCAD)

En la Ciudad de Belice, Belice, a las ocho horas del día diecinueve de abril del año 2023, da inicio la **LXVIII Reunión Extraordinaria del Consejo de Ministros de la Comisión Centroamericana de Ambiente y Desarrollo (CCAD)**, estando presentes: **Orlando Habet**, Ministro del Ministerio de Desarrollo Sostenible, Cambio Climático y Gestión del Riesgo de Desastres y Presidente Pro Tempore de la CCAD de Belice; **Heyddy Calderón Palma**, Ministra del Ministerio del Ambiente y de los Recursos Naturales de la República de Nicaragua; **Kenrick Winston Williams**, Viceministro del Ministerio de Desarrollo Sostenible, Cambio Climático y Gestión del Riesgo de Desastres; **Miguel Esteban Piedrasanta**, Viceministro de Ambiente del Ministerio de Ambiente y Recursos Naturales de la República de Guatemala; **Diana Laguna**, Viceministra del Ministerio de Ambiente de la República de Panamá; **Fausto David Díaz**, Representante acreditado del Ministro y Oficial de Enlace de la CCAD de la República de Honduras; **Norma Patricia Campos Mesén**, Representante acreditada del Ministro y Oficial de Enlace de la CCAD de Costa Rica; y **Rosa Otero Nieves**, Representante acreditada del Ministro y Oficial de Enlace de la CCAD de la República Dominicana. Asimismo, se contó con la participación de los siguientes Oficiales de Enlace: **Carlos Rolando Moreno**, Oficial de Enlace de la CCAD de Belice; **María Elena Tayún**, en representación del Oficial de Enlace de la CCAD de Guatemala; **Harold Gutiérrez**, Oficial de Enlace de la CCAD de Nicaragua; y **Víctor Francisco Cadavid**, Oficial de Enlace de la CCAD de Panamá. Por parte de la Secretaría Ejecutiva, estuvieron presentes: **Jair Urriola Quiroz**, Secretario Ejecutivo de la CCAD y su equipo técnico: Raúl Artiga, Mario Escobedo, Carlos González, Gandhi Montoya y Otty Ramos.

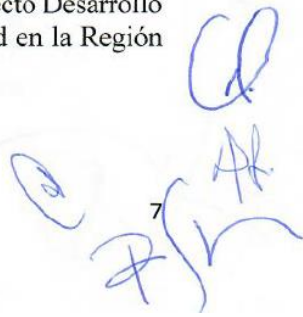
VII. AVANCES DEL PROYECTO DESARROLLO DE CAPACIDADES EN MANEJO Y CONSERVACIÓN INTEGRAL DE LA BIODIVERSIDAD EN LA REGIÓN SICA.

El Sr. Michinori Yoshino, Coordinador del Proyecto Desarrollo de Capacidades en Manejo y Conservación Integral de la Biodiversidad en la Región SICA, haciéndose acompañar del Sr. Juichiro Sasaki, Representante Residente de la Oficina de JICA en Belice así como de funcionarios de JICA de Japón, presentan al Consejo los avances del proyecto, a la fecha, destacando los siguientes:

- Alimentación de la plataforma de la Información en el OAR.
- Desarrollo de capacidades en gestión integrada y conservación de la Biodiversidad, por medio de un curso de formación para los países SICA, a llevarse a cabo en Japón.
- Avance de actividades en los proyectos pilotos en la Selva Maya, Golfo de Fonseca, Amistad y Montecristi.
- Recomendaciones políticas para fortalecer las contribuciones de la CCAD, principalmente en las zonas transfronterizas.

El Consejo de Ministros de la CCAD acuerda:

20. Agradecer al Sr. Michinori Yoshino la presentación de avances del Proyecto Desarrollo de Capacidades en Manejo y Conservación Integral de la Biodiversidad en la Región SICA.



El Consejo de Ministros expresa su agradecimiento y felicitación a la Presidencia Pro Tempore de Belice, por la conducción de la reunión y por el apoyo recibido para la realización del presente Consejo.

De igual manera, el Consejo de Ministros agradece, de manera muy especial, la honorable presencia y el tiempo dedicado por el Sr. Werner Vargas Torres, Secretario General del SICA, así como de la Sra. Carmen Marroquín, Directora de Cooperación Internacional de la SG SICA, por sus valiosos aportes brindados en el seno de esta reunión, la cual finaliza a las quince horas con cuarenta y cinco minutos, del día diecinueve de abril del año dos mil veintitrés.



Orlando Habet
Ministro
Ministerio de Desarrollo Sostenible, Cambio
Climático y Gestión del Riesgo de Desastres
Belice



Miguel Esteban Piedrasanta
Viceministro de Ambiente
Ministerio de Ambiente y Recursos Naturales
República de Guatemala



Fausto Díaz
Representante acreditado del Ministro
Secretaría de Energía, Recursos Naturales, Ambiente
y Minas
República de Honduras



Rosa Otero Nieves
Representante acreditada del Ministro
Ministerio de Medio Ambiente y Recursos Naturales
República Dominicana



Heyddy Calderón Palma
Ministra
Ministerio del Ambiente y de los Recursos
Naturales
República de Nicaragua



Diana Laguna
Viceministra
Ministerio de Ambiente
República de Panamá



Norma Patricia Campos
Representante acreditada del Ministro
Ministerio de Ambiente y Energía
República de Costa Rica

添付5: モニタリングシート

バージョン 1.0 / Version 1.0 (英語)

Project Monitoring Sheet

Project Title: Project for Capacity Development on Integrated Management and Conservation of Biodiversity at regional level in SICA Region

Version of the Sheet: Version 1 (March 2019 - September 2019).

Prepared by: Salvador Nieto, Executive Secretary, CCAD
Masaki Osawa, Senior Advisor, CCAD-JICA

Submission Date: September 30th, 2019.

I. Summary

1. Progress

1-1 Progress of Inputs

1-1-1 Japanese side

- Long Term Expert

Title/ Expertise	Activities done	Period
Chief Advisor	<ul style="list-style-type: none">• Coordination of the project concept and activities with high level counterparts (ministers and vice ministers) and focal points and members of the CTMyB of the CCAD member countries, and with the CCAD Executive Secretary.• Preparation of the Minutes of Meeting for the LVI extraordinary meeting of the Council of Ministers in Antigua Guatemala.• Preparation of the Annual Operating Plan.• Coordination for the development of 2 training courses for CCAD countries.• Planning and preparation for a workshop and CTMyB meetings.	From March 13 th up to the present time.

Title/ Expertise	Activities done	Period
Coordinator	<ul style="list-style-type: none"> • Project budget management. • Acquisition and control of materials acquired with the JICA fund. • Logistic support for the official trips of the project team. • Logistic work to carry out project workshop and support the CCAD sea and biodiversity technical committee. • Preparation and review of various documents concerning the project. 	From March 26 th up to the present time.

- Consulting

Topic	Period	Main achievements during this period
Technical Assistant	From September 2 nd up to the present time.	Preparation and assistance in the specific planning workshop. Preparation of the workshop report.

- Equipment

Team	Planned Quantity	Acquired			Future Acquisition Plan	Status
		Quantity	Date (MM/DD/Y Y)	Amount (USD)		
Desktop Printer	1	1	04/24/19	496.47	No	Under use in the office
Safe Box	1	1	05/14/19	280.00	No	Same
Monitor	2	2	05/14/19	296.61	No	Same
Photocopier	1	1	05/22/19	7,728.00	No	Same
Projector	1	1	05/24/19	542.80	No	Same
Paper Shredder	2	2	06/05/19	653.10	No	Same
Portable Printer	1	1	09/19/19	245.44	No	Same
Laptop PC	1	1	07/03/19	1,172.70	No	Same

- Operation cost
- Office stationery
- Official travel expenses for Japanese experts and the CCAD Executive Secretary

- CTMyB workshop and meeting expenses (air tickets, lodging and food expenses, insurance)

1-1-2. CCAD side and partner countries

- Counterpart Staff

Country	Title	Project Roles
Guatemala	Minister of Environment and Natural Resources	Project Director (March to June) as the President Pro Tempore of the CCAD
El Salvador	Minister of Environment and Natural Resources	Project Director (from July up to the present time) as the President Pro Tempore of the CCAD
CCAD Executive Secretary	Executive Secretary	Project Administrator
	Chief Administrative Officer	Liaison and CCAD Coordinator
	Administration Assistant	CCAD Administrative Assistant
8 member countries	CCAD Liaison Officials	CCAD focal points of each country
8 member countries	CTMyB Members	Technical focal points of each country

- Cost of administration and maintenance of the Project office
- Office supplies

1-2 Progress of Activities

1-2-1 Activities of Output 1: A regional information platform for conservation and utilization of biodiversity in the SICA region is established

Activities (% Progress)	Progress until the previous semester	Progress during this semester
1.1 Evaluate and analyze current state of existing data such as biological corridors, wetlands, biodiversity database etc. in the region (i.e. regional and national level) (45%)	Not applicable	<ul style="list-style-type: none"> ➤ A list of the information platforms on biodiversity at the international level has been prepared. ➤ A list of available information related to the biodiversity of the 8 CCAD countries has been prepared. ➤ A list of potential institutions that have information related to biodiversity has been prepared.
1.2 Develop design for a regional information platform as a multi biodiversity platform for data exchange and information sharing among the SICA member countries, particularly for biological corridors, wetlands, biodiversity.	Not applicable	<ul style="list-style-type: none"> ➤ The basic design of the platform has been defined, taking as reference the design of si-ESTAD¹
1.3 Build the regional information platform (0%)	Not applicable	The activity is not scheduled for this semester.
1.4 Organize training for selected staff of the member countries in coordination with SICA-CCAD for utilization and maintenance of the information platform (i.e. collecting, processing, and making data/information available) in articulation with national information system. (0%)	Not applicable	The activity is not scheduled for this semester.
1.5 Produce "regional biodiversity outlook" using the information system. (0%)	Not applicable	The activity is not scheduled for this semester.

¹ <http://siestad.sica.int/general/default.aspx>.

1-2-2 Activities of Output 2: Results of pilot projects such as good practice and lesson learned focused on small scale rural community and indigenes people are socialized, from the view point of sustainable development and proposal for implementation of regional and national policies

Activities (% progress)	Progress until the previous semester	Progress during this semester
2.1 Develop selection criteria for pilot projects of sustainable economic development which contribute to both improvement of livelihoods at community level and biodiversity conservation (20%)	Not applicable	➤ A workshop was held to gather information necessary to define a common regional topic for pilot projects.
2.2 Call for pilot project proposals (e.g. PES, ABS, agro-forestry, branding agricultural product, promotion of ecotourism/agro tourism, development of ventures for environmental sustainable community economic alternatives, emphasizing activities in wetland ecosystems, protected areas and prioritized biological corridors etc.) from related countries	Not applicable	The activity is not scheduled for this semester.
2.3 Select pilot projects and make decisions of actual supports for the pilot projects.	Not applicable	The activity is not scheduled for this semester.
2.4 Support implementation of the pilot projects	Not applicable	The activity is not scheduled for this semester.
2.5 Evaluate and analyze the results of pilot projects (i.e. financial sustainability, impact, lessons learnt, etc.) and compile their lessons learnt.	Not applicable	The activity is not scheduled for this semester.
2.6 Collect good practices related to sustainable economic development among the region.	Not applicable	The activity is not scheduled for this semester.
2.7 Develop an inventory of sustainable economic development models adaptable within the region based on 2.5 and 2.6.	Not applicable	The activity is not scheduled for this semester.
2.8 Integrate the inventory into the information platform developed in Output 1.	Not applicable	The activity is not scheduled for this semester.

Activities (% progress)	Progress until the previous semester	Progress during this semester
2.9 Make recommendations for improving regional and national level related policies based on the results obtained through the pilot projects	Not applicable	The activity is not scheduled for this semester.

1-2-3 Activities of Output 3: Regional organizational and human resources capacity for conservation and utilization of biodiversity are strengthened in coordination with SICA-CCAD.

Activities (% progress)	Progress until the previous semester	Progress during this semester
3.1 Evaluate and analyze training needs from SICA member countries in coordination with SICA-CCAD. (25%)	Not applicable	➤ A workshop was held to gather information necessary to define training topics.
3.2 Develop regional training program and curriculum on selected themes for the project for SICA member country in coordination with SICA-CCAD based on training resources in SICA region, Japan and neighboring countries (Latin America region) in collaboration with JICA's bilateral projects	Not applicable	The activity is not scheduled for this semester.
3.3 Conduct training including seminars and workshops, and review the plan based on the result of the training (10%)	Not applicable	<ul style="list-style-type: none"> ➤ The project promoted the recruitment of a JICA training course for the 8 CCAD countries. ➤ The project promoted the recruitment of a 3d country training course organized by the Ministry of Environment (MiAMBIENTE) of Panama with JICA.
3.4 Make recommendations on regional organizational structure and necessary human resources for strengthening conservation and utilization of biodiversity within the CCAD framework	Not applicable	The activity is not scheduled for this semester.

1-3 Achievement of Outputs

1-3-1 Achievements of Output 1: Construction of a Regional Computer Platform for the management and integral conservation of biodiversity in the countries that make up the SICA Region

Indicators	Achievements until last semester.	Achievements during this semester	Expectations of achievements in the next semester
1.1 At least xx modules (e.g. regional information / data of biological corridors, wetlands, biodiversity) are available in the regional information platform.	Not applicable	The current indicators are preliminary and need to be refined during the first year.	It is expected to define new indicators.
1.2 More than 80% of training participants of the information platform understand its function and modules to utilize the platform in articulation with national information system	Not applicable	The current indicators are preliminary and need to be refined during the first year.	It is expected to define new indicators.

1-3-2 Achievements of Output 2: Socialization of the Pilot Projects' results as good practices and lessons learned with the small-scale approach of local communities and indigenous peoples, from the perspective of sustainable development, and proposals for the implementation of regional policy and national policies.

Indicators	Achievements until last semester	Achievements during this semester	Expectations of achievements in the next semester
2.1 At least xx sustainable economic development models are compiled based on the pilot projects and good practices and shared among the member countries.	Not applicable	The current indicators are preliminary and need to be refined during the first year.	It is expected to define new indicators.
2.2 More than 90% of the pilot activities are jointly evaluated as "very useful" for developing sustainable economy development models for the region.	Not applicable	The current indicators are preliminary and need to be refined during the first year.	It is expected to define new indicators.

1-3-3 Achievements of Output 3: Strengthening of the regional capacity of organization and human resources for the conservation and use of biodiversity in coordination with SICA-CCAD.

Indicators	Achievements until last semester	Achievements during this semester	Expectations of achievements in the next semester
3.1 More than xx % of training participants' knowledge level is increased.	Not applicable	The current indicators are preliminary and need to be refined during the first year.	It is expected to define new indicators.
3.2 Regional seminars and workshops to share knowledge and experiences in SICA are organized more than XX times.	Not applicable	The current indicators are preliminary and need to be refined during the first year.	It is expected to define new indicators.

1-4 Achievement of the Project Purpose

1.4.1 Project Objective: Management capacity on utilization and conservation of biodiversity of member countries in coordination with SICA-CCAD is strengthened.

Indicators	Achievements until last semester.	Achievements during this semester	Expectations of achievements in the next semester
1. The regional information platform is referred to for making policies, plans and reports related to biodiversity.	Not applicable	The current indicators are preliminary and need to be refined during the first year.	It is expected to define new indicators.
2. At least one activity on utilization and conservation of biodiversity which refer to the knowledge and experiences of the Project is introduced in each member countries.	Not applicable	The current indicators are preliminary and need to be refined during the first year.	It is expected to define new indicators.

1.4.2: Discussions from the point of view of the 5 CAD evaluation criteria²

(1) Relevance

The conservation of biodiversity is related to the following goals, strategies and plans at international, regional and national levels.

International Level:

- Sustainable Development Goals (SDGs)
Goals 14 and 15 of the Sustainable Development Goals (SDGs). Likewise, at the level of activities to be developed, they may be relevant to the following SDG goals; Goals 1, 2, 6, 12, 14, 15, and 17.
- Aichi Targets

Regional Level:

The conservation of biodiversity is aligned with the Strategic Lines and Actions “Forest, Seas, and Biodiversity” of the “2015-2020 Framework Regional Environmental Strategy(ERAM)”.

Nacional Level

- All National Development Plans or an equivalent document, from the 8 CCAD countries, involve the issue of sustainable use of natural resources.
- All 8 CCAD countries have ratified the Convention for Biological Diversity.
- All 8 countries have the National Strategic Biodiversity Plan or an equivalent document.

² Development Assistance Committee of the Organization for Economic Cooperation and Development (OECD).

- All 8 CCAD countries have ratified other international conventions relevant to the conservation of biodiversity and the sustainable use of natural resources such as CITES, Ramsar convention, and the United Nations Framework Convention on Climate Change.

(2) Effectiveness

Not applicable to this report.

(3) Efficiency

Not applicable to this report.

(4) Impact

Not applicable to this report.

(5) Sustainability

The sustainability of Output 1 is being considered, planning that the regional information platform on biodiversity will be established on the platform of the IT Unit of the General Secretariat of SICA.

1-5 Changes of Risks and Actions for Mitigation

- There was a change of government in El Salvador (June 2019) and Panama (July 2019), as well as the presidential election in Guatemala (August 2019). As a strategic action, courtesy visits will be made to respective authorities to share the Project scheme.
- The consulting contract for technical assistance was delayed. One of the important tasks planned for the consulting was the preparation and implementation of the workshop for the detailed planning of the Project activities, and this delay in the contract affected the preparation phase especially in logistics matters. The CCAD Secretariat provided an assistant to help during this phase, and with this support, logistical arrangements were made for the participants. Likewise, JICA offices in El Salvador, Guatemala and Honduras sent their officials for assistance in the implementation of the workshop.

1-6 Progress of Actions undertaken by JICA

- JICA offices in El Salvador, Guatemala and Honduras sent their officials for assistance in the implementation of the workshop.
- Budgets are prepared to make courtesy visits to the 3 countries mentioned above.

1-7 Progress of Actions undertaken by the CCAD Secretariat and the counterpart Countries

- The CCAD Secretariat provided an administrative assistant for the preparation and management of the workshop.

1-8 Progress of Environmental and Social Considerations (if applicable)

Not applicable to this project.

1-9 Progress of Considerations on Gender/Peace Building/Poverty Reduction (if applicable)

Not applicable to this project.

1-10 Other remarkable/considerable issues related/affect to the project (such as other JICA's projects, activities of counterparts, other donors, private sectors, NGOs etc.)

- There is coordination between the CCAD projects (GIZ, GEF-WWF and JICA) and the IT Unit of SICA on the construction of a regional environmental information platform.
- The CUDECA Resilient Gulf Project invited JICA to the consultation workshop.

2. Delay of Work Schedule and/or Problems (if any)

There is no significant delay in this semester.

2-1 Detail

There is no significant delay in this semester.

2-2 Cause

There is no significant delay in this semester.

2-3 Action to be taken

There is no significant delay in this semester.

2-4 Roles of Responsible Persons/Organization (JICA, Executive Secretariat, Government of counterpart countries.)

There is no significant delay in this semester.

3. Modification of the Project Implementation Plan

3-1 PO

There is no change in the Operating Plan in this semester.

3-2 Other modifications on detailed implementation plan

(Remarks: The amendment of R/D and PDM (title of the project, duration, project site(s), target group(s), implementation structure, overall goal, project purpose, outputs, activities, and input) should be authorized by JICA HDQs. If the project team deems it necessary to modify any part of R/D and PDM, the team may propose the draft.)

No modification is observed in this semester.

4. Preparation of the CCAD Secretariat and the Governments of the CCAD Member Countries toward after completion of the Project.

Output 1:

The CCAD Secretariat is coordinating with the IT Unit of the General Secretariat of SICA for the administration and maintenance of the regional environmental platform. The specific details will be developed and defined as the Project advances.

Output 2:

Not applicable to this semester since the Project has just started. However, the financial mechanism or economic sustainability is a main issue of pilot projects to be developed and sustainability will be considered from the planning stage of each project.

Output 3:

Not applicable to this semester since the Project has just started.

II. Project Monitoring Sheet I & II as Attached

End

Project Title: Project for Capacity Development on Integrated Management and Conservation of Biodiversity at regional level in SICA Region

Version 1.1

Implementing Agency: Eight (8) CCAD Member Countries in coordination with SICA-CCAD

Dated September 30, 2019

Target Group: Relevant personnel of CCAD member countries in coordination with SICA-CCAD

Period of Project: From March, 2019 to March 2024 five (5) years

Project Site: SICA region (eight (8) member countries in coordination with SICA-CCAD)

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption	Achievement	Remarks
Overall Goal					
Regional institutional framework and governance on biodiversity conservation and sustainable use in the SICA region is strengthened.	1. Regional Environmental Strategy Framework (ERAM) is revised by utilizing information and database of the regional information platform.	CCAD publication/reports Publication/Website	SICA and its member countries keep high priority on biodiversity conservation and sustainable resource utilization.	Actual indicators are preliminary and need to be refined during the first year.	
Project Purpose					
Management capacity on utilization and conservation of biodiversity of member countries in coordination with SICA-CCAD is strengthened	1. The regional information platform is referred to for making policies, plans and reports related to biodiversity.	Interview to C/Ps CCAD publication/reports Publication/Website	Budgets of SICA and its member countries are not drastically reduced.	Actual indicators are preliminary and need to be refined during the first year.	
	2. At least one activity on utilization and conservation of biodiversity which refer to the knowledge and experiences of the Project is introduced in each member countries.			Actual indicators are preliminary and need to be refined during the first year.	
Outputs					
1. A regional information platform for conservation and utilization of biodiversity in the SICA region is established.	1.1 At least xx modules (e.g. regional information / data of biological corridors, wetlands, biodiversity) are available in the regional information platform.	Records of the Project activities.	-No drastic change in management administration system/structure in ES-CCAD -No devastating natural disasters than assumed will occur in the pilot sites	Actual indicators are preliminary and need to be refined during the first year.	
	1.2 More than 80% of training participants of the information platform understand its function and modules to utilize the platform in articulation with national information system.	Questionnaire/Interview Survey		Actual indicators are preliminary and need to be refined during the first year.	
2. Results of pilot projects such as good practice and lesson learned focused on small scale rural community and indigenes people are socialized, from the view point of sustainable development and proposal for implementation of regional and national policies	2.1 At least xx sustainable economic development models are compiled based on the pilot projects and good practices and shared among the member countries.	Records of the Project activities.		Actual indicators are preliminary and need to be refined during the first year.	
	2.2 More than 90% of the pilot activities are jointly evaluated as "very useful" for developing sustainable economy development models for the region.	Questionnaire/Interview Survey		Actual indicators are preliminary and need to be refined during the first year.	

3. Regional organizational and human resources capacity for conservation and utilization of biodiversity are strengthened in coordination with SICA-CCAD.	3.1 More than xx % of training participants' knowledge level is increased.	Questionnaire to the participants.		Actual indicators are preliminary and need to be refined during the first year.	
	3.2 Regional seminars and workshops to share knowledge and experiences in SICA are organized more than XX times.	Seminar/Workshop reports Project reports		Actual indicators are preliminary and need to be refined during the first year.	
Activities	Inputs		Pre-Conditions		
1.1 Evaluate and analyze current state of existing data such as biological corridors, wetlands, biodiversity database etc. in the region (i.e. regional and national level)	The Japanese Side 1. Experts -Chief Advisor/Ecosystem Management -Project Coordinator/Training Planning/Institutional Capacity -Other Short-Term Experts (e.g. GIS/Data Base, Remote sensing, Agro-forestry, Eco-tourism, etc.) -Local Coordinator	The SICA Side 1. Counterpart -Project Director -Project Coordinator -Member of Regional Technical Committee on Seas and Biodiversity of CCAD -Other Members for each activity 2. Facility Office space for the experts with necessary equipment, Internet.	-All the SICA member countries assign their directors of biodiversity or equivalent level senior officer as the focal points of the project -SICA and its member countries agree to share existing data for the regional information platform	A list of biodiversity information platforms has been developed at the international level. A list of available information related to the biodiversity of the 8 CCAD countries has been developed A list of potential institutions with biodiversity-related information has been developed.	
1.2 Develop design for a regional information platform as a multi biodiversity platform for data exchange and information sharing among the SICA member countries, particularly for biological corridors, wetlands, biodiversity.	2 Equipment -Equipment for construction of a regional information platform for conservation and utilization of biodiversity -Other necessary equipment			A concept design of the platform has been defined, taking as reference the design of si-ESTAD	
1.3 Build the regional information platform	3. Training Trainings in Japan and/or other countries -Politics and governance of biodiversity management and conservation		Temas y contramedidas	The activity is not scheduled for this semester.	
1.4 Organize training for selected staff of the member countries in coordination with SICA-CCAD for utilization and maintenance of the information platform (i.e. collecting, processing, and making data/information available) in articulation with national information system.	-Management of national park, world heritage, protected areas and biological corridor -Compensatory measures for biodiversity (e.g. Biodiversity offsetting)			The activity is not scheduled for this semester.	
1.5 Produce "regional biodiversity outlook" using the information system	-Management and conservation of wetlands.			The activity is not scheduled for this semester.	
2.1 Develop selection criteria for pilot projects of sustainable economic development which contribute to both improvement of livelihoods at community level and biodiversity conservation	-Management and conservation of biodiversity in collaboration among academic, private and public sectors. - Environmental conservation by local governments with the focus on harmony between urban environment and ecosystem			A workshop was held to gather information needed to define a common regional theme for pilot projects.	
2.2 Call for pilot project proposals (e.g. PES, ABS, agro-forestry, branding agricultural product, promotion of ecotourism/agro tourism, development of ventures for environmental sustainable community economic alternatives, emphasizing activities in wetland ecosystems, protected areas and prioritized biological corridors etc.) from related countries				The activity is not scheduled for this semester.	
2.3 Select pilot projects and make decisions of actual				The activity is not scheduled for this semester.	

supports for the pilot projects.			
2.4 Support implementation of the pilot projects			The activity is not scheduled for this semester.
2.5 Evaluate and analyze the results of pilot projects (i.e. financial sustainability, impact, lessons learnt, etc.) and compile their lessons learnt.			
2.6 Collect good practices related to sustainable economic development among the region.			The activity is not scheduled for this semester.
2.7 Develop an inventory of sustainable economic development models adaptable within the region based on 2.5 and 2.6.			The activity is not scheduled for this semester.
2.8 Integrate the inventory into the information platform developed in Output 1.			The activity is not scheduled for this semester.
2.9 Make recommendations for improving regional and national level related policies based on the results obtained through the pilot projects			The activity is not scheduled for this semester.
3.1 Evaluate and analyze training needs from SICA member countries in coordination with SICA-CCAD.			A workshop was held to gather information needed to define training theme.
3.2 Develop regional training program and curriculum on selected themes for the project for SICA member country in coordination with SICA-CCAD based on training resources in SICA region, Japan and neighboring countries (Latin America region) in collaboration with JICA's bilateral projects			The activity is not scheduled for this semester.
3.3 Conduct training including seminars and workshops, and review the plan based on the result of the training			The project promoted the call for a JICA training course for the 8 CCAD countries. The project promoted the call for a training course organized by the MiAmbiente de Panama with JICA
3.4 Make recommendations on regional organizational structure and necessary human resources for strengthening conservation and utilization of biodiversity within the CCAD framework			The activity is not scheduled for this semester.

バージョン 2.0 / Version 2.0 (英語)

Project Monitoring Sheet

Project Title: Project for Capacity Development on Integrated Management and Conservation of Biodiversity at regional level in SICA Region

Version of the Sheet: Version 2 (April 2020 - September 2020).

Prepared by: Salvador Nieto, Executive Secretary, CCAD
Masaki Osawa, Senior Advisor, CCAD-JICA

Submission Date: July 19th, 2021.

I. Summary

1. Progress

1-1 Progress of Inputs

1-1-1 Japanese side

- Long Term Expert as below

Title/ Expertise	Activities done	Period
Chief Advisor	<ul style="list-style-type: none">• Technical advices for the construction of Regional Environmental Observatory (OAR).• Making draft of terms of reference for pilot project implementation plan consultant.• Coordination for making concept of the pilot project with central office of JICA.• Coordination with JICA offices and counterpart institutions for pilot project planning.• Support to elaborate “Framework Regional Environmental Strategy 2021-2025” of CCAD.• Making monthly progress reports.• General coordination of the project administration with counterparts, JICA central Office and JICA offices in the region.	From March 13 th , 2019 up to the present time.

Title/ Expertise	Activities done	Period
Coordinator	<ul style="list-style-type: none"> • Preparation, review and translate of various documents concerning the project. • Logistic work with JICA office to recruit an administration assistant. Making draft documents such as terms of reference, contract, application form and interview questionnaire. • Participate in SICA's workshop to use a new online work system "Bitrix 24". 	From April 1 st , 2020 up to the present time.

- Operation cost

1-1-2. CCAD side and partner countries

- Counterpart Staff as below

Country	Title	Project Roles
Honduras	Minister of Environment and Natural Resources	Project Director (from January 2020 up to the end of June) as the President Pro Tempore of the CCAD
Nicaragua	Minister of Environment and Natural Resources	Project Director (from July 2020 up to the present time) as the President Pro Tempore of the CCAD
CCAD Executive Secretary	Executive Secretary	Project Administrator
	Chief Administrative Officer	Liaison and CCAD Coordinator
	Administration Assistant	CCAD Administrative Assistant
8 member countries	CCAD Liaison Officials	CCAD focal points of each country
8 member countries	CTMyB Members	Technical focal points of each country

- Cost of administration and maintenance of the Project office
- Office supplies

1-2 Progress of Activities

1-2-1 Activities of Output 1: A regional information platform for conservation and utilization of biodiversity in the SICA region is established

Activities (% Progress)	Progress until the previous semester	Progress during this semester
<p>1.1 Evaluate and analyze current state of existing data such as biological corridors, wetlands, biodiversity database etc. in the region (i.e. regional and national level) (45%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ The lists of species identified in the September 2019 workshop for the 8 countries have been investigated. ➤ However, no official lists could be found. ➤ Project contacted Belize and Honduras in order to ask for official lists of species, however, they could not be obtained either. 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ Same as the previous semester, because it was difficult to have contact with counterparts due to the new coronavirus pandemic.
<p>1.2 Develop design for a regional information platform as a multi biodiversity platform for data exchange and information sharing among the SICA member countries, particularly for biological corridors, wetlands, biodiversity (30%).</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ Work for the construction of the Regional Environmental Observatory was distributed in 3 CCAD projects. ➤ The CCAD-JICA Project was responsible for the ordering of geographical information that SICA owns. 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ The Regional Environmental Observatory (OAR) is under construction in cooperation with GIZ and WWF MAR2R projects of CCAD (see attached document 1).
<p>1.3 Build the regional information platform (20%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ This work was completed in March 2020. 	

Activities (% Progress)	Progress until the previous semester	Progress during this semester
1.4 Organize training for selected staff of the member countries in coordination with SICA-CCAD for utilization and maintenance of the information platform (i.e. collecting, processing, and making data/information available) in articulation with national information system. (0%)	The activity is not scheduled for previous semester.	The activity is suspended, because it was difficult to coordinate it due to the new coronavirus pandemic.
1.5 Produce "regional biodiversity outlook" using the information system. (0%)	The activity is not scheduled for previous semester.	The activity is not scheduled for this semester.

1-2-2 Activities of Output 2: Results of pilot projects such as good practice and lesson learned focused on small scale rural community and indigenes people are socialized, from the view point of sustainable development and proposal for implementation of regional and national policies

Activities (% progress)	Progress until the previous semester	Progress during this semester
2.1 Develop selection criteria for pilot projects of sustainable economic development which contribute to both improvement of livelihoods at community level and biodiversity conservation (20%)	➤ The conceptual paper of the pilot projects was prepared and the common theme of the pilot projects was agreed at the meeting of the Council of Ministers as the Joint Coordinating Committee.	➤ Terms of reference of local consultant for implementation plan of pilot project is under discussion.
2.2 Call for pilot project proposals (e.g. PES, ABS, agro-forestry, branding agricultural product, promotion of ecotourism/agro tourism, development of ventures for environmental sustainable community economic alternatives, emphasizing activities in wetland ecosystems, protected areas and prioritized biological corridors etc.) from related countries (0%).	The call for pilot projects could not be carried out, because the theme of pilot projects was not defined.	
2.3 Select pilot projects and make decisions of actual supports for the pilot projects (0%).	The call for pilot projects could not be carried out, because the theme of pilot projects was not defined.	

Activities (% progress)	Progress until the previous semester	Progress during this semester
2.4 Support implementation of the pilot projects(0%).	The activity is not scheduled for previous semester.	Discussions on the alternative implementation strategy of pilot project under the new coronavirus pandemic situation were carried out.
2.5 Evaluate and analyze the results of pilot projects (i.e. financial sustainability, impact, lessons learnt, etc.) and compile their lessons learnt (0%).	The activity is not scheduled for previous semester.	The activity is not scheduled for this semester.
2.6 Collect good practices related to sustainable economic development among the region (25%).	Information of implemented projects in the target areas of pilot projects have been collected.	Discussions on classification and types of good practices were carried out.
2.7 Develop an inventory of sustainable economic development models adaptable within the region based on 2.5 and 2.6 (25%).	Several model schemes have been created for the relationship between conservation activities and productive/economic activities.	
2.8 Integrate the inventory into the information platform developed in Output 1 (0%).	The activity is not scheduled for previous semester.	The activity is not scheduled for this semester.
2.9 Make recommendations for improving regional and national level related policies based on the results obtained through the pilot projects (0%).	The activity is not scheduled for previous semester.	The activity is not scheduled for this semester.

1-2-3 Activities of Output 3: Regional organizational and human resources capacity for conservation and utilization of biodiversity are strengthened in coordination with SICA-CCAD.

Activities (% progress)	Progress until the previous semester	Progress during this semester
3.1 Evaluate and analyze training needs from SICA member countries in coordination with SICA-CCAD. (25%)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ Information collected was ordered in the September 2019 workshop. ➤ A training plan in Japan for counterparts would be developed for May 2020. 	Same as the previous semester, because it was difficult to have contact with counterparts due to the new coronavirus pandemic.
3.2 Develop regional training program and curriculum on selected themes for the project for SICA member country in coordination with SICA-CCAD based on training resources in SICA region, Japan and neighboring countries (Latin America region) in collaboration with JICA's bilateral projects (10%)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ A Coordination was made in order that the project counterparts or related persons could participate in JICA training programs in Obihiro. ➤ Counterparts of the Project Visited La Unión Biological Corridor Project in Honduras. ➤ A conference on ABS was conducted by Costa Rican counterpart in CTMyB meeting in Honduras. 	The activities were suspended, because it was difficult to coordinate them due to the new coronavirus pandemic.

Activities (% progress)	Progress until the previous semester	Progress during this semester
<p>3.3 Conduct training including seminars and workshops, and review the plan based on the result of the training (10%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 8 countries sent participants to the Knowledge Co-Creation program on "Ecosystem Conservation Through Collaborative Management in Protected Areas" program in November 2019. ➤ A visit of CTMyB to the Union Biological Corridor Project in Honduras was held. ➤ A conference on ABS was conducted with Costa Rica's cooperation within the CTMyB meeting in March 2020. 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ A counterparts' visit to Japan was suspended due to the new coronavirus pandemic. ➤ A workshop on new "Framework Regional Environmental Strategy 2021-2025" was conducted with Seas and Biodiversity Committee members and other stakeholders.
<p>3.4 Make recommendations on regional organizational structure and necessary human resources for strengthening conservation and utilization of biodiversity within the CCAD framework (5%).</p>	<p>The activity is not scheduled for previous semester.</p>	<p>The activity was suspended, due to the new coronavirus pandemic.</p>

1-3 Achievement of Outputs

1-3-1 Achievements of Output 1: Construction of a Regional Computer Platform for the management and integral conservation of biodiversity in the countries that make up the SICA Region

Indicators	Achievements until last semester.	Achievements during this semester	Expectations of achievements in the next semester
1.1 At least xx modules (e.g. regional information / data of biological corridors, wetlands, biodiversity) are available in the regional information platform.	Existing geographic information (PREVDA Maps) has been ordered by themes during this semester.	The design of the Regional Environmental Observatory (OAR) is decided and OAR is under construction in cooperation with GIZ and WWF MAR2R projects of CCAD.	Construction of OAR will be finished and construction of the Regional Biodiversity Information Platform will be started.
1.2 More than 80% of training participants of the information platform understand its function and modules to utilize the platform in articulation with national information system	The trainings have not yet been carried out.	The trainings have not yet been carried out.	The OAR administration protocol will be discussed in the technical team in the CCAD Secretariate.

1-3-2 Achievements of Output 2: Socialization of the Pilot Projects' results as good practices and lessons learned with the small-scale approach of local communities and indigenous peoples, from the perspective of sustainable development, and proposals for the implementation of regional policy and national policies.

Indicators	Achievements until last semester	Achievements during this semester	Expectations of achievements in the next semester
2.1 At least xx sustainable economic development models are compiled based on the pilot projects and good practices and shared among the member countries.	The concept note for the implementation of pilot projects was signed. A list of executed and running projects at all 3 sites in the region was made.	Draft of terms of reference of the consultant on Implementation plans for the pilot projects was proposed and discussed with JICA headquarter office.	Terms of Reference will be elaborated and the recruitment of the consultant will be started.
2.2 More than 90% of the pilot activities are jointly evaluated as "very useful" for developing sustainable economy development models for the region.	A concept paper for pilot projects was agreed and signed. A list of executed and running projects at all 3 sites in the region was made.	Pilot project has not been begun yet.	

1-3-3 Achievements of Output 3: Strengthening of the regional capacity of organization and human resources for the conservation and use of biodiversity in coordination with SICA-CCAD.

Indicators	Achievements until last semester	Achievements during this semester	Expectations of achievements in the next semester
3.1 More than xx % of training participants' knowledge level is increased.	All participants in the training program in Japan positively evaluated the course.	Training courses was not carried out during this semester.	A rescheduled training plan will be elaborated as a part of the implementation plan of pilot projects.

Indicators	Achievements until last semester	Achievements during this semester	Expectations of achievements in the next semester
<p>3.2 Regional seminars and workshops to share knowledge and experiences in SICA are organized more than XX times.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 8 countries sent participants to the Knowledge Co-Creation program on "Ecosystem Conservation Through Collaborative Management in Protected Areas" program in November 2019. ➤ A visit of CTMyB to the Union Biological Corridor Project in Honduras was held in March 2020. ➤ A conference on ABS was conducted with Costa Rica's cooperation within the CTMyB meeting in March 2020. 	<p>Training courses was not carried out during this semester.</p>	<p>A rescheduled training plan will be elaborated as a part of the implementation plan of pilot projects.</p>

1-4 Achievement of the Project Purpose

1.4.1 Project Objective: Management capacity on utilization and conservation of biodiversity of member countries in coordination with SICA-CCAD is strengthened.

Indicators	Achievements until last semester.	Achievements during this semester	Expectations of achievements in the next semester
1. The regional information platform is referred to for making policies, plans and reports related to biodiversity.	There is cooperation and coordination of activities between 3 projects in CCAD for the creation of the Regional Environmental Observatory, and the first stage of its construction was divided into 3 projects. The CCAD-JICA Project was responsible for sorting existing geographic information in CCAD.	The design of the Regional Environmental Observatory (OAR) is decided and OAR is under construction in cooperation with GIZ and WWF MAR2R projects of CCAD.	Construction of the basic part of the OAR will be finished and construction of the Regional Biodiversity Information Platform will be started.
2. At least one activity on utilization and conservation of biodiversity which refer to the knowledge and experiences of the Project is introduced in each member countries.			The OAR administration protocol will be discussed in the technical team in the CCAD Secretariate.

1.4.2: Discussions from the point of view of the 5 CAD evaluation criteria¹

(1) Relevance

The conservation of biodiversity is related to the following goals, strategies and plans at international, regional and national levels.

International Level:

- Sustainable Development Goals (SDGs)
Goals 14 and 15 of the Sustainable Development Goals (SDGs). Likewise, at the level of activities to be developed, they may be relevant to the following SDG goals; Goals 1, 2, 6, 12, 14, 15, and 17.
- Aichi Targets

¹ Development Assistance Committee of the Organization for Economic Cooperation and Development (OECD).

Regional Level:

The conservation of biodiversity is aligned with the Strategic Lines and Actions “Forest, Seas, and Biodiversity” of the “2015-2020 Framework Regional Environmental Strategy(ERAM)”.

Nacional Level

- All National Development Plans or an equivalent document, from the 8 CCAD countries, involve the issue of sustainable use of natural resources.
- All 8 CCAD countries have ratified the Convention for Biological Diversity.
- All 8 countries have the National Strategic Biodiversity Plan or an equivalent document.
- All 8 CCAD countries have ratified other international conventions relevant to the conservation of biodiversity and the sustainable use of natural resources such as CITES, Ramsar convention, and the United Nations Framework Convention on Climate Change.

(2) Effectiveness

Not applicable to this report.

(3) Efficiency

Not applicable to this report.

(4) Impact

Not applicable to this report.

(5) Sustainability

The sustainability of Output 1 is being considered, planning that the regional information platform on biodiversity will be established on the platform of the IT Unit of the General Secretariat of SICA.

1-5 Changes of Risks and Actions for Mitigation

- Due to the pandemic of the new coronavirus, 2 experts evacuated to Japan. Also, all CCAD members’ countries declared a state of emergency and it was difficult to develop planned activities for this semester. Because of this situation, it is difficult to follow the current plan, we must wait and investigate what will happen in next months to reschedule the activities of the Project.

1-6 Progress of Actions undertaken by JICA

- JICA promoted regular remote meeting to elaborate the Terms of Reference for pilot project and also promoted discussions to establish a theoretical bases of the pilot project, as well as entire projects.

1-7 Progress of Actions undertaken by the CCAD Secretariat and the counterpart Countries

- CCAD promoted activities which could be carried out by means of remote meeting online system, such as online team meeting, seminars and discussion of the technical team.

1-8 Progress of Environmental and Social Considerations (if applicable)

It's the same as point 1-5. We must wait and investigate how the issue of the pandemic of the new coronavirus will develop.

1-9 Progress of Considerations on Gender/Peace Building/Poverty Reduction (if applicable)

Not applicable to this project.

1-10 Other remarkable/considerable issues related/affect to the project (such as other JICA's projects, activities of counterparts, other donors, private sectors, NGOs etc.)

- The next Framework Regional Environmental Strategy 2021-2025 is under production. JICA expert is a part of the technical team and in charge of Seas and Biodiversity Strategic Line.

2. Delay of Work Schedule and/or Problems (if any)

2-1 Detail

Almost all the activities are suspended due to new coronavirus pandemics. It is necessary to make a contingency and new rescheduled plan for the rest of the project period.

2-2 Cause

New coronavirus pandemic at global level.

2-3 Action to be taken

To make a contingency and a new rescheduled plan for the rest of the project period.

2-4 Roles of Responsible Persons/Organization (JICA, Executive Secretariat, Government of counterpart countries.)

Making a contingency and a new rescheduled plan for the rest of the project period will be a work in coordination between JICA headquarter office, JICA experts and Executive Secretariat.

3. Modification of the Project Implementation Plan

3-1 PO

There is no change in the Operating Plan in this semester.

3-2 Other modifications on detailed implementation plan

(Remarks: The amendment of R/D and PDM (title of the project, duration, project site(s), target group(s), implementation structure, overall goal, project purpose, outputs, activities, and input) should be authorized by JICA HDQs. If the project team deems it necessary to modify any part of R/D and PDM, the team may propose the draft.)

No modification is observed in this semester.

4. Preparation of the CCAD Secretariat and the Governments of the CCAD Member Countries toward after completion of the Project.

Output 1:

The CCAD Secretariat is coordinating with the IT Unit of the General Secretariat of SICA for the administration and maintenance of the regional environmental platform. The specific details will be developed and defined as the Project advances.

Output 2:

Not applicable to this semester, however, the financial mechanism or economic sustainability is a main issue of pilot projects to be developed and sustainability will be considered from the planning stage of each project.

Output 3:

Project has to request to counterparts' institutions that the counterparts of the project will continue to work within institutions.

II. Project Monitoring Sheet I & II as Attached Document 2

End

Attached Documents :

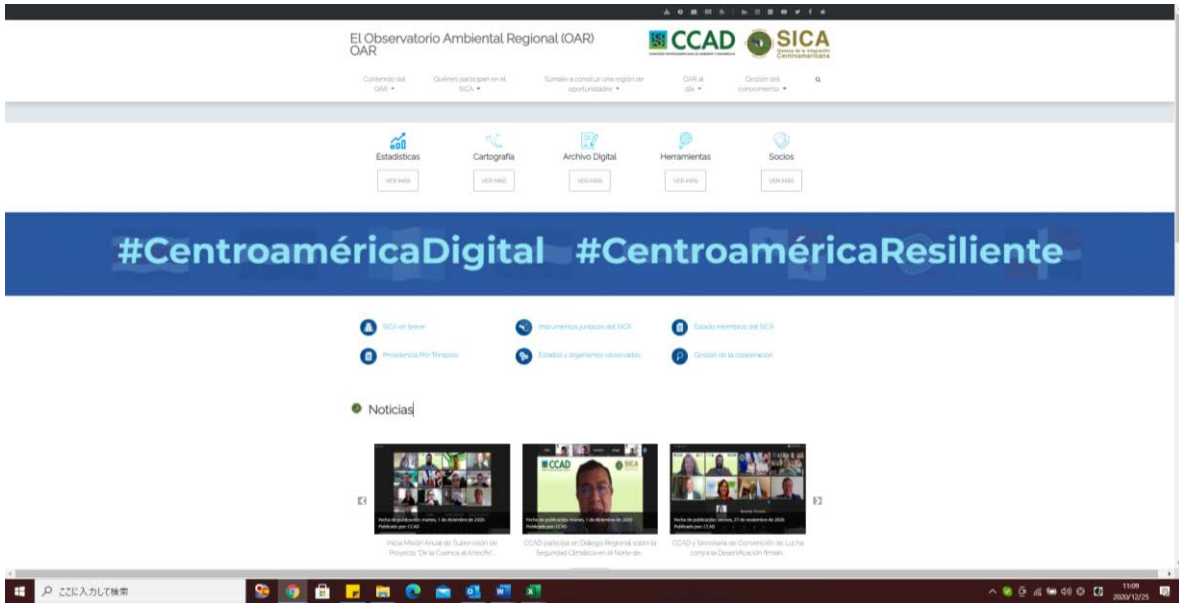
Attached document 1. Images of the Regional Biodiversity Information Platform as a part of the
Regional Environmental Observatory.

Attached document 2. Project Follow-up Sheet I and Sheet II

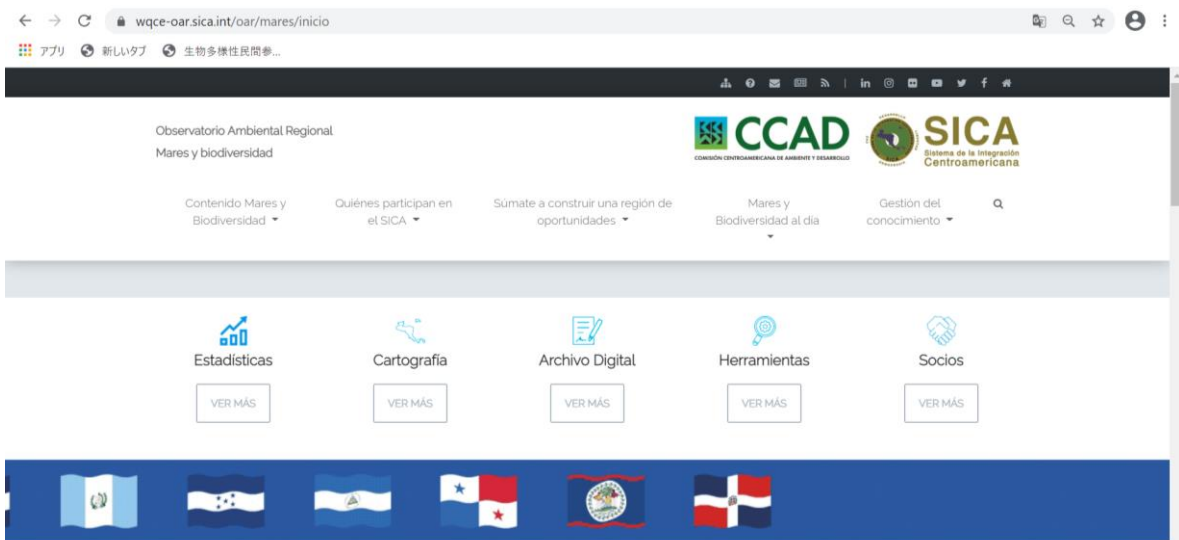
Attached Document 01 Regional Environmental Observatory (OAR)

(Following pages are not open for public yet.)

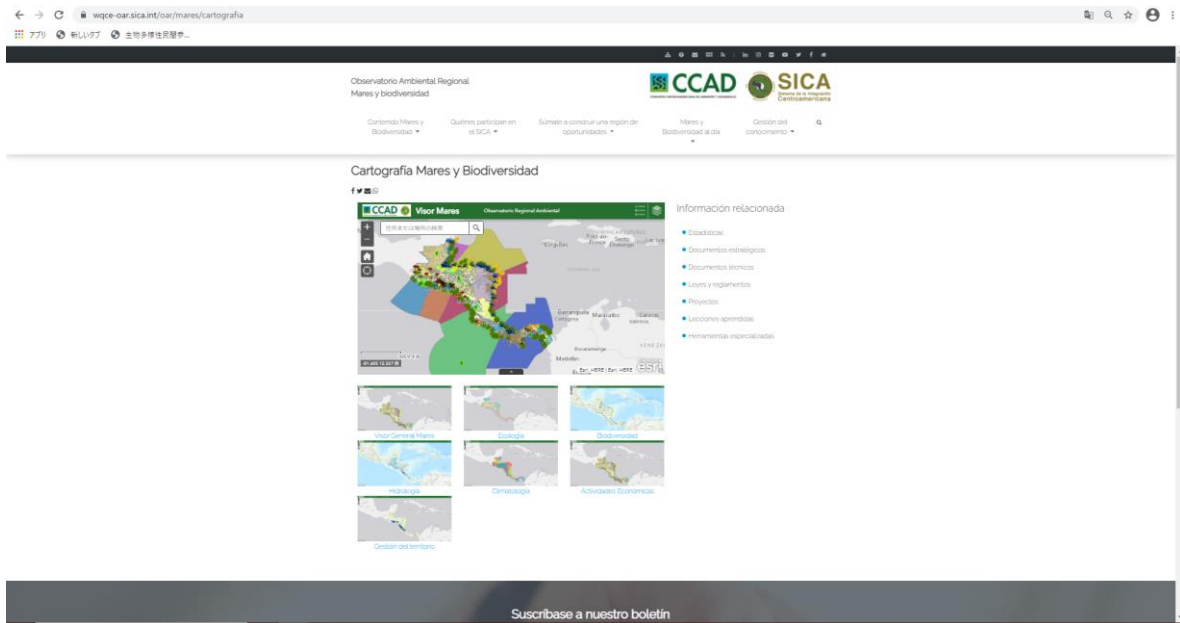
OAR home page.



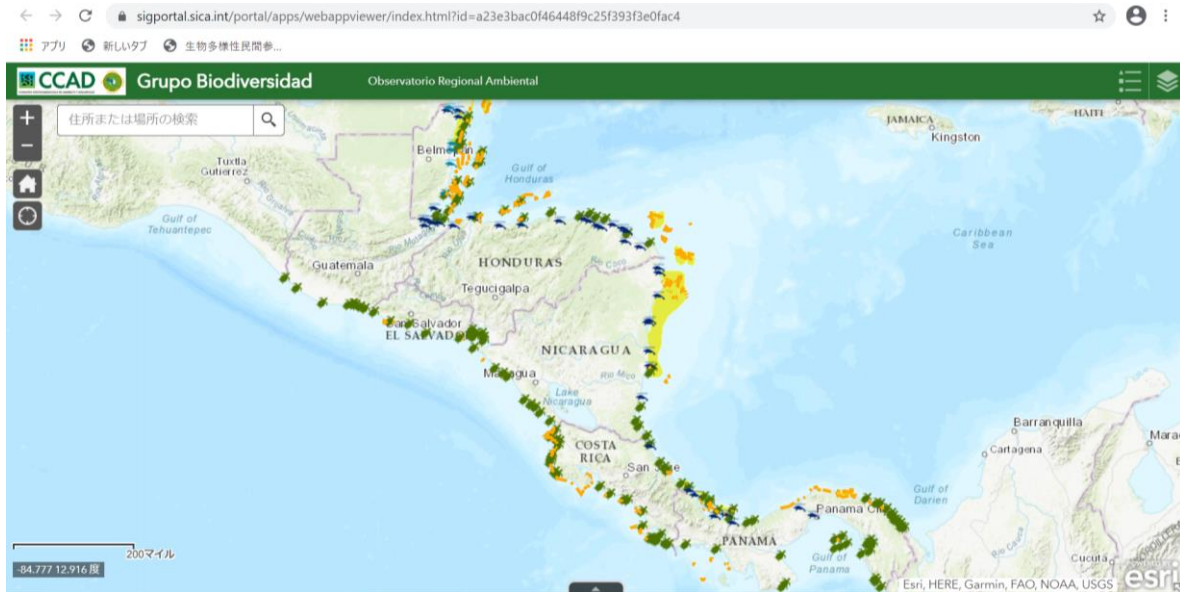
Seas and Biodiversity home section



A geographic information sub section in the Seas and Biodiversity section.



A geographic information map in the Seas and Biodiversity section.



Hoja I de Seguimiento de Proyecto: Project Design Matrix

Project Title: Project for Capacity Development on Integrated Management and Conservation of Biodiversity at regional level in SICA Region

Version 1.1

Implementing Agency: Eight (8) CCAD Member Countries in coordination with SICA-CCAD

Dated September 30th, 2020

Target Group: Relevant personnel of CCAD member countries in coordination with SICA-CCAD

Period of Project: From March, 2019 to March 2024 five (5) years

Project Site: SICA region (eight (8) member countries in coordination with SICA-CCAD)

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption	Achievement	Remarks
Overall Goal					
Regional institutional framework and governance on biodiversity conservation and sustainable use in the SICA region is strengthened.	1. Regional Environmental Strategy Framework (ERAM) is revised by utilizing information and database of the regional information platform.	CCAD publication/reports Publication/Website	SICA and its member countries keep high priority on biodiversity conservation and sustainable resource utilization.	Actual indicators are preliminary and need to be refined during the first year.	
Project Purpose					
Management capacity on utilization and conservation of biodiversity of member countries in coordination with SICA-CCAD is strengthened	1. The regional information platform is referred to for making policies, plans and reports related to biodiversity.	Interview to C/Ps CCAD publication/reports Publication/Website	Budgets of SICA and its member countries are not drastically reduced.	The design of the Regional Environmental Observatory (OAR) is decided and OAR is under construction in cooperation with GIZ and WWF MAR2R projects of CCAD.	
	2. At least one activity on utilization and conservation of biodiversity which refer to the knowledge and experiences of the Project is introduced in each member countries.				
Outputs					
1. A regional information platform for conservation and utilization of biodiversity in the SICA region is established.	1.1 At least xx modules (e.g. regional information / data of biological corridors, wetlands, biodiversity) are available in the regional information platform.	Records of the Project activities.	-No drastic change in management administration system/structure in ES-CCAD -No devastating natural disasters than assumed will occur in the pilot sites	The design of the Regional Environmental Observatory (OAR) is decided and OAR is under construction in cooperation with GIZ and WWF MAR2R projects of CCAD.	
	1.2 More than 80% of training participants of the information platform understand its function and modules to utilize the platform in articulation with national information system.	Questionnaire/Interview Survey			The trainings have not yet been carried out.
2. Results of pilot projects such as good practice and lesson learned focused on small scale rural community and indigenes people are socialized, from the view point of sustainable development and proposal for implementation of regional and national policies	2.1 At least xx sustainable economic development models are compiled based on the pilot projects and good practices and shared among the member countries.	Records of the Project activities.		Draft of terms of reference of the consultant on Implementation plans for the pilot projects was proposed and discussed with JICA headquarter office.	
	2.2 More than 90% of the pilot activities are jointly evaluated as "very useful" for developing sustainable economy development models for the region.	Questionnaire/Interview Survey			Pilot project has not been begun yet.
3. Regional organizational and human resources capacity for conservation and utilization of biodiversity are strengthened in coordination with SICA-CCAD.	3.1 More than xx % of training participants' knowledge level is increased.	Questionnaire to the participants.		Training courses was not carried out during this semester.	

	3.2 Regional seminars and workshops to share knowledge and experiences in SICA are organized more than XX times.	Seminar/Workshop reports Project reports		Training courses was not carried out during this semester.	
Activities	Inputs		Pre-Conditions		
1.1 Evaluate and analyze current state of existing data such as biological corridors, wetlands, biodiversity database etc. in the region (i.e. regional and national level)	The Japanese Side 1. Experts -Chief Advisor/Ecosystem Management -Project Coordinator/Training Planning/Institutional Capacity -Other Short-Term Experts (e.g. GIS/Data Base, Remote sensing, Agro-forestry, Eco-tourism, etc.) -Local Coordinator	The SICA Side 1. Counterpart -Project Director -Project Coordinator -Member of Regional Technical Committee on Seas and Biodiversity of CCAD -Other Members for each activity 2. Facility Office space for the experts with necessary equipment, Internet.	-All the SICA member countries assign their directors of biodiversity or equivalent level senior officer as the focal points of the project -SICA and its member countries agree to share existing data for the regional information platform	Same as the previous semester, because it was difficult to have contact with counterparts due to the new coronavirus pandemic.	
1.2 Develop design for a regional information platform as a multi biodiversity platform for data exchange and information sharing among the SICA member countries, particularly for biological corridors, wetlands, biodiversity.	2 Equipment -Equipment for construction of a regional information platform for conservation and utilization of biodiversity -Other necessary equipment			>The Regional Environmental Observatory (OAR) is under construction in cooperation with GIZ and WWF MAR2R projects of CCAD (see Attached Document 1).	
1.3 Build the regional information platform	3. Training Trainings in Japan and/or other countries -Politics and governance of biodiversity management and conservation -Management of national park, world heritage, protected areas and biological corridor -Compensatory measures for biodiversity (e.g. Biodiversity offsetting) -Management and conservation of wetlands. -Management and conservation of biodiversity in collaboration among academic, private and public sectors. - Environmental conservation by local governments with the focus on harmony between urban environment and ecosystem		Temas y contramedidas		
1.4 Organize training for selected staff of the member countries in coordination with SICA-CCAD for utilization and maintenance of the information platform (i.e. collecting, processing, and making data/information available) in articulation with national information system				The activity is suspended, because it was difficult to coordinate it due to the new coronavirus pandemic.	
1.5 Produce "regional biodiversity outlook" using the information system				The activity is not scheduled for this semester.	
2.1 Develop selection criteria for pilot projects of sustainable economic development which contribute to both improvement of livelihoods at community level and biodiversity conservation				Terms of reference of local consultant for implementation plan of pilot project is under discussion. document 3).	
2.2 Call for pilot project proposals (e.g. PES, ABS, agro-forestry, branding agricultural product, promotion of ecotourism/agro tourism, development of ventures for environmental sustainable community economic alternatives, emphasizing activities in wetland ecosystems, protected areas and prioritized biological corridors etc.) from related countries				Terms of reference of local consultant for implementation plan of pilot project is under discussion.	

<p>2.3 Select pilot projects and make decisions of actual supports for the pilot projects.</p>				<p>Terms of reference of local consultant for implementation plan of pilot project is under discussion.</p>	
<p>2.4 Support implementation of the pilot projects</p>				<p>Discussions on the alternative implementation strategy of pilot project under the new coronavirus pandemic situation were carried out.</p>	
<p>2.5 Evaluate and analyze the results of pilot projects (i.e. financial sustainability, impact, lessons learnt, etc.) and <u>complete their lessons learnt.</u></p>				<p>The activity is not scheduled for this semester.</p>	
<p>2.6 Collect good practices related to sustainable economic development among the region.</p>				<p>Discussions on classification and types of good practices were carried out.</p>	
<p>2.7 Develop an inventory of sustainable economic development models adaptable within the region based on 2.5 and 2.6.</p>				<p>Discussions on classification and types of good practices were carried out.</p>	
<p>2.8 Integrate the inventory into the information platform developed in Output 1.</p>				<p>The activity is not scheduled for this semester.</p>	
<p>2.9 Make recommendations for improving regional and national level related policies based on the results obtained through the pilot projects</p>				<p>The activity is not scheduled for this semester.</p>	
<p>3.1 Evaluate and analyze training needs from SICA member countries in coordination with SICA-CCAD.</p>				<p>Same as the previous semester, because it was difficult to have contact with counterparts due to the new coronavirus pandemic.</p>	
<p>3.2 Develop regional training program and curriculum on selected themes for the project for SICA member country in coordination with SICA-CCAD based on training resources in SICA region, Japan and neighboring countries (Latin America region) in collaboration with JICA's bilateral projects</p>				<p>The activities were suspended, because it was difficult to coordinate them due to the new coronavirus pandemic.</p>	
<p>3.3 Conduct training including seminars and workshops, and review the plan based on the result of the training</p>				<p>A counterparts' visit to Japan was suspended due to due to the new coronavirus pandemic.</p> <p>A workshop on new "Framework Regional Environmental Strategy 2021-2025" was conducted with Seas and Biodiversity Committee members and other stakeholders (see Attached Document 02 for the report of the workshop).</p>	
<p>3.4 Make recommendations on regional organizational structure and necessary human resources for strengthening conservation and utilization of biodiversity within the CCAD framework</p>				<p>The activity was suspended, because it was difficult to coordinate it due to the new coronavirus pandemic.</p>	

バージョン 3.0 / Version 3.0 (欠番)

バージョン 4.0 / Version 4.0 (英語)

Project Monitoring Sheet

Project Title: Project for Capacity Development on Integrated Management and Conservation of Biodiversity at regional level in SICA Region

Version of the Sheet: Version 4 (October 2020 - March 2021).

Prepared by: Jair Urriola, Executive Secretary, CCAD
Masaki Osawa, Senior Advisor, CCAD-JICA

Submission Date: July 19th, 2021.

I. Summary

1. Progress

1-1 Progress of Inputs

1-1-1 Japanese side

- Long Term Expert as below

Title/ Expertise	Activities done	Period
Chief Advisor	<ul style="list-style-type: none">• Technical advices for the construction of Regional Environmental Observatory (OAR).• Making draft of terms of reference for pilot project implementation plan consultant.• Coordination for making concept of the pilot project with central office of JICA.• Coordination with JICA offices and counterpart institutions for pilot project planning.• Support to elaborate “Framework Regional Environmental Strategy 2021-2025” of CCAD.• Making monthly progress reports.• General coordination of the project administration with counterparts, JICA central Office and JICA offices in the region.	From March 13 th , 2019 up to the present time.

Title/ Expertise	Activities done	Period
Coordinator	<ul style="list-style-type: none"> • Preparation, review and translate of various documents concerning the project. • Logistic work with JICA office to select an administration assistant and remote interview two applicants. Well-qualified person could not be found. • Meeting with an executive secretary of CCAD for resume project's activities after returned to El Salvador. • Participate in CCAD's remote meeting with new executive secretary for present the project. • Making accounting work for submit an annual financial report. 	From March 27 th , 2019 up to the present time.

- Operation cost

1-1-2. CCAD side and partner countries

- Counterpart Staff as below

Country	Title	Project Roles
Nicaragua	Minister of Environment and Natural Resources	Project Director (from July 2020 up to the present time) as the President Pro Tempore of the CCAD
Costa Rica	Minister of Environment and Energy	Project Director (from January 2021 up to the present time) as the President Pro Tempore of the CCAD
CCAD Executive Secretary	Executive Secretary	Project Administrator
	Chief Administrative Officer	Liaison and CCAD Coordinator
	Administration Assistant	CCAD Administrative Assistant
8 member countries	CCAD Liaison Officials	CCAD focal points of each country

Country	Title	Project Roles
8 member countries	CTMyB Members	Technical focal points of each country

- Cost of administration and maintenance of the Project office
- Office supplies

1-2 Progress of Activities

1-2-1 Activities of Output 1: A regional information platform for conservation and utilization of biodiversity in the SICA region is established

Activities (% Progress)	Progress until the previous semester	Progress during this semester
<p>1.1 Evaluate and analyze current state of existing data such as biological corridors, wetlands, biodiversity database etc. in the region (i.e. regional and national level) (45%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ The lists of species identified in the September 2019 workshop for the 8 countries have been investigated. ➤ However, no official lists could be found. ➤ Project contacted Belize and Honduras in order to ask for official lists of species, however, they could not be obtained either. 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ The Regional Environmental Observatory and the Biodiversity section were launched on March 19th.
<p>1.2 Develop design for a regional information platform as a multi biodiversity platform for data exchange and information sharing among the SICA member countries, particularly for biological corridors, wetlands, biodiversity (40%).</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ The Regional Environmental Observatory (OAR) is under construction in cooperation with GIZ and WWF MAR2R projects of CCAD. 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ The Regional Environmental Observatory (OAR) and the biodiversity section were launched. ➤ https://www.sica.int/oar/inicio. ➤ https://www.sica.int/oar/mares/inicio
<p>1.3 Build the regional information platform (25%)</p>		

Activities (% Progress)	Progress until the previous semester	Progress during this semester
<p>1.4 Organize training for selected staff of the member countries in coordination with SICA-CCAD for utilization and maintenance of the information platform (i.e. collecting, processing, and making data/information available) in articulation with national information system. (0%)</p>	<p>The activity is not scheduled for previous semester. The activity is suspended, because it was difficult to coordinate it due to the new coronavirus pandemic.</p>	<p>The regional information platform is located in SICA server and the external persons' access is limited. So, it is necessary to modify the strategy of information up-dating mechanism of the platform and the training contents.</p>
<p>1.5 Produce "regional biodiversity outlook" using the information system. (0%)</p>	<p>The activity is not scheduled for previous semester.</p>	<p>The activity is not scheduled for this semester.</p>

1-2-2 Activities of Output 2: Results of pilot projects such as good practice and lesson learned focused on small scale rural community and indigenes people are socialized, from the view point of sustainable development and proposal for implementation of regional and national policies

Activities (% progress)	Progress until the previous semester	Progress during this semester
2.1 Develop selection criteria for pilot projects of sustainable economic development which contribute to both improvement of livelihoods at community level and biodiversity conservation (100%)	➤ Terms of reference of local consultant for implementation plan of pilot project is under discussion.	➤ It was decided that a public open recruitment of the pilot project proposal will not be conducted, and that some local consultants will be hired for the elaboration of the implementation plans of the pilot projects.
2.2 Call for pilot project proposals (e.g. PES, ABS, agro-forestry, branding agricultural product, promotion of ecotourism/agro tourism, development of ventures for environmental sustainable community economic alternatives, emphasizing activities in wetland ecosystems, protected areas and prioritized biological corridors etc.) from related countries (10%).	The call for pilot projects could not be carried, because the method of recruitment was under discussion due to the new coronavirus.	➤ Terms of reference of local consultant for the elaboration of implementation plan of pilot project was elaborated.
2.3 Select pilot projects and make decisions of actual supports for the pilot projects (0%).	The call for pilot projects could not be carried out, because the theme of pilot projects was not defined.	

Activities (% progress)	Progress until the previous semester	Progress during this semester
2.4 Support implementation of the pilot projects(0%).	Discussions on the alternative implementation strategy of pilot project under the new coronavirus pandemic situation were carried out.	<p>➤ It was decided that:</p> <ul style="list-style-type: none"> • A public open recruitment of the pilot project proposal will not be conducted • Some local consultants will be hired for elaboration of the implementation plans of the pilot projects. • The pilot projects will be implemented by heiring local consultants, based on the implementation plans.
2.5 Evaluate and analyze the results of pilot projects (i.e. financial sustainability, impact, lessons learnt, etc.) and compile their lessons learnt (0%).	Discussions on the alternative implementation strategy of pilot project under the new coronavirus pandemic situation were carried out.	This activity is not scheduled for this period.
2.6 Collect good practices related to sustainable economic development among the region (25%).	Discussions on classification and types of good practices were carried out.	Some good practices was collected (see Attached Document XX) with assistance of the senior advisor.
2.7 Develop an inventory of sustainable economic development models adaptable within the region based on 2.5 and 2.6 (25%).	Discussions on classification and types of good practices were carried out.	
2.8 Integrate the inventory into the information platform developed in Output 1 (0%).	The activity is not scheduled for previous semester.	The activity is not scheduled for this semester.

Activities (% progress)	Progress until the previous semester	Progress during this semester
2.9 Make recommendations for improving regional and national level related policies based on the results obtained through the pilot projects (0%).	The activity is not scheduled for previous semester.	The activity is not scheduled for this semester.

1-2-3 Activities of Output 3: Regional organizational and human resources capacity for conservation and utilization of biodiversity are strengthened in coordination with SICA-CCAD.

Activities (% progress)	Progress until the previous semester	Progress during this semester
3.1 Evaluate and analyze training needs from SICA member countries in coordination with SICA-CCAD. (25%)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ Information collected was ordered in the September 2019 workshop. ➤ A training plan in Japan for counterparts would be developed for May 2020. 	Same as the previous semester, because it was difficult to have contact with counterparts due to the new coronavirus pandemic.
3.2 Develop regional training program and curriculum on selected themes for the project for SICA member country in coordination with SICA-CCAD based on training resources in SICA region, Japan and neighboring countries (Latin America region) in collaboration with JICA's bilateral projects (10%)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ A special training course for the project counterparts planned in May 2020 was suspended due to the pandemic of the new coronavirus. 	The chief advisor of the project participated in the regional training course carried out by CCAD, as a lecturer. The training course was on water resource management.
3.3 Conduct training including seminars and workshops, and review the plan based on the result of the training (10%)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ A counterparts' visit to Japan was suspended due to the new coronavirus pandemic. ➤ A workshop on new "Framework Regional Environmental Strategy 2021-2025" was conducted with Seas and Biodiversity Committee members and other stakeholders. 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ The chief advisor of the project participated in the regional training course carried out by CCAD, as a lecturer. The training course was on water resource management.

Activities (% progress)	Progress until the previous semester	Progress during this semester
3.4 Make recommendations on regional organizational structure and necessary human resources for strengthening conservation and utilization of biodiversity within the CCAD framework (5%).	The activity is not scheduled for previous semester.	The activity was suspended, due to the new coronavirus pandemic.

1-3 Achievement of Indicators of Outputs

1-3-1 Achievements of Indicators of Output 1: Construction of a Regional Computer Platform for the management and integral conservation of biodiversity in the countries that make up the SICA Region

Indicators	Achievements until last semester.	Achievements during this semester	Expectations of achievements in the next semester
<p>1.1 At least xx modules (e.g. regional information / data of biological corridors, wetlands, biodiversity) are available in the regional information platform.</p>	<p>The design of the Regional Environmental Observatory (OAR) is decided and OAR is under construction in cooperation with GIZ and WWF MAR2R projects of CCAD.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • The OAR and the its biodiversity section were launched on March 19th. • It is necessary to strengthen the Biodiversity Section with more information. • A series of discussions on the modification of the indicators was carried out with JICA, an analytical report on indicators was made by the Japanese expert and presented to JICA. 	<p>Strengthened the biodiversity section of the OAR as the regional biodiversity information platform.</p> <p>A quantitative goal of the indicator will be decided.</p>

Indicators	Achievements until last semester.	Achievements during this semester	Expectations of achievements in the next semester
<p>1.2 More than 80% of training participants of the information platform understand its function and modules to utilize the platform in articulation with national information system</p>	<p>The trainings have not yet been carried out.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • The administration mechanism of the platform is different from the plan. It is necessary to modify the indicators. • A series of discussions on the modification of the indicators was carried out with JICA, an analytical report on indicators was made by the Japanese expert and presented to JICA. 	<ul style="list-style-type: none"> •A modified indicator will be determined.

1-3-2 Achievements of Indicators of Output 2: Socialization of the Pilot Projects' results as good practices and lessons learned with the small-scale approach of local communities and indigenous peoples, from the perspective of sustainable development, and proposals for the implementation of regional policy and national policies.

Indicators	Achievements until last semester	Achievements during this semester	Expectations of achievements in the next semester
2.1 At least xx sustainable economic development models are compiled based on the pilot projects and good practices and shared among the member countries.	Draft of terms of reference of the consultant on Implementation plans for the pilot projects was proposed and discussed with JICA headquarter office.	<ul style="list-style-type: none"> • A series of discussions on the modification of the indicators was carried out with JICA, an analytical report on indicators was made by the Japanese expert and presented to JICA. • It is necessary to determine a quantitative goal of the indicator and some criteria of a “good practice”. 	<ul style="list-style-type: none"> • A modified indicator will be determined and a quantitative goal will be established. • Some pilot project implementation plans will be elaborated.

Indicators	Achievements until last semester	Achievements during this semester	Expectations of achievements in the next semester
<p>2.2 More than 90% of the pilot activities are jointly evaluated as "very useful" for developing sustainable economy development models for the region.</p>	<p>Pilot project has not been begun yet.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • A series of discussions on the modification of the indicators was carried out with JICA, an analytical report on indicators was made by the Japanese expert and presented to JICA. • A 90% is an excessively high goal. • It is necessary to determine a criterion of "useful" for the evaluation. 	<p>A modified indicator will be determined.</p> <p>No activity for this indicator is scheduled in the next semester.</p>

1-3-3 Achievements of Indicators of Output 3: Strengthening of the regional capacity of organization and human resources for the conservation and use of biodiversity in coordination with SICA-CCAD.

Indicators	Achievements until last semester	Achievements during this semester	Expectations of achievements in the next semester
3.1 More than xx % of training participants' knowledge level is increased.	Training courses was not carried out during this semester.	<ul style="list-style-type: none"> • A series of discussions on the modification of the indicators was carried out with JICA, an analytical report on indicators was made by the Japanese expert and presented to JICA. • It is necessary to determine a quantitative goal. 	<p>A modified indicator will be determined.</p> <p>Training plan is elaborated for some pilot project sites.</p>
3.2 Regional seminars and workshops to share knowledge and experiences in SICA are organized more than XX times.	➤ Training courses was not carried out during this semester.	<ul style="list-style-type: none"> • A series of discussions on the modification of the indicators was carried out with JICA, an analytical report on indicators was made by the Japanese expert and presented to JICA. • It is necessary to determine a quantitative goal. 	<p>A modified indicator will be determined.</p> <p>No workshop or seminar for this purpose is not scheduled in the next semester.</p>

1-4 Achievement of the Indicator of the Project Purpose

1.4.1 Project Objective: Management capacity on utilization and conservation of biodiversity of member countries in coordination with SICA-CCAD is strengthened.

Indicators	Achievements until last semester.	Achievements during this semester	Expectations of achievements in the next semester
1. The regional information platform is referred to for making policies, plans and reports related to biodiversity.	The design of the Regional Environmental Observatory (OAR) is decided and OAR is under construction in cooperation with GIZ and WWF MAR2R projects of CCAD.	<ul style="list-style-type: none"> A series of discussions on the modification of the indicators was carried out with JICA, an analytical report on indicators was made by the Japanese expert and presented to JICA. 	A modified indicator will be determined.
2. At least one activity on utilization and conservation of biodiversity which refer to the knowledge and experiences of the Project is introduced in each member countries.			

1.4.2: Discussions from the point of view of the 5 CAD evaluation criteria¹

(1) Relevance

The conservation of biodiversity is related to the following goals, strategies and plans at international, regional and national levels.

International Level:

- Sustainable Development Goals (SDGs)
Goals 14 and 15 of the Sustainable Development Goals (SDGs). Likewise, at the level of activities to be developed, they may be relevant to the following SDG goals; Goals 1, 2, 6, 12, 14, 15, and 17.
- Aichi Targets

Regional Level:

¹ Development Assistance Committee of the Organization for Economic Cooperation and Development (OECD).

The conservation of biodiversity is aligned with the Strategic Lines and Actions “Seas and Biodiversity” of the “2021-2025 Framework Regional Environmental Strategy (ERAM)”.

Nacional Level

- All National Development Plans or an equivalent document, from the 8 CCAD countries, involve the issue of sustainable use of natural resources.
- All 8 CCAD countries have ratified the Convention for Biological Diversity.
- All 8 countries have the National Strategic Biodiversity Plan or an equivalent document.
- All 8 CCAD countries have ratified other international conventions relevant to the conservation of biodiversity and the sustainable use of natural resources such as CITES, Ramsar convention, and the United Nations Framework Convention on Climate Change.

(2) Effectiveness

Not applicable to this report.

(3) Efficiency

Not applicable to this report.

(4) Impact

Not applicable to this report.

(5) Sustainability

The sustainability of Output 1 is being considered, planning that the regional information platform on biodiversity will be established on the platform of the IT Unit of the General Secretariat of SICA.

1-5 Changes of Risks and Actions for Mitigation

- Due to the pandemic of the new coronavirus, 2 experts evacuated to Japan. Also, all CCAD members' countries declared a state of emergency and it was difficult to develop planned activities for this semester. Because of this situation, it is difficult to follow the current plan. An adjustment of the PDM is indispensable.

1-6 Progress of Actions undertaken by JICA

- JICA promoted regular remote meeting to elaborate the Terms of Reference for pilot project and also promoted discussions to establish a theoretical bases of the pilot project, as well as entire projects.

1-7 Progress of Actions undertaken by the CCAD Secretariat and the counterpart Countries

- CCAD promoted activities which could be carried out by means of remote meeting online system, such as online team meeting, seminars and discussion among the technical teams and Technical Committee of Seas and Biodiversity.

1-8 Progress of Environmental and Social Considerations (if applicable)

It's the same as point 1-5. We must wait and investigate how the issue of the pandemic of the new coronavirus will develop.

1-9 Progress of Considerations on Gender/Peace Building/Poverty Reduction (if applicable)

Not applicable to this project.

1-10 Other remarkable/considerable issues related/affect to the project (such as other JICA's projects, activities of counterparts, other donors, private sectors, NGOs etc.)

- The next Framework Regional Environmental Strategy 2021-2025 is approved by Council of Ministers. JICA expert is a part of the technical team and in charge of Seas and Biodiversity Strategic Line.

2. Delay of Work Schedule and/or Problems (if any)

2-1 Detail

Almost all the activities are suspended due to new coronavirus pandemics. It is necessary to make a contingency and a rescheduled plan for the rest of the project period.

2-2 Cause

New coronavirus pandemic at global level.

2-3 Action to be taken

To make a contingency and a rescheduled plan for the rest of the project period.

2-4 Roles of Responsible Persons/Organization (JICA, Executive Secretariat, Government of counterpart countries.)

Making a contingency and a rescheduled plan for the rest of the project period will be a work in coordination between JICA headquarter office, JICA experts and Executive Secretariat of CCAD.

3. Modification of the Project Implementation Plan

3-1 PO

There is no change in the Operating Plan in this semester. But, it is expected that the PO is modified and adjusted to the COVID 19 pandemic situation.

3-2 Other modifications on detailed implementation plan

(Remarks: The amendment of R/D and PDM (title of the project, duration, project site(s), target group(s), implementation structure, overall goal, project purpose, outputs, activities, and input) should be authorized by JICA HDQs. If the project team deems it necessary to modify any part of R/D and PDM, the team may propose the draft.)

No modification is observed in this semester, but the modification was discussed and is expected to be determined in the next semester.

4. Preparation of the CCAD Secretariat and the Governments of the CCAD Member Countries toward after completion of the Project.

Output 1:

The CCAD Secretariat is coordinating with the IT Unit of the General Secretariat of SICA for the

administration and maintenance of the regional environmental platform. The specific details will be developed and defined as the Project advances.

Output 2:

Not applicable to this semester, however, the financial mechanism or economic sustainability is a main issue of pilot projects to be developed and sustainability will be considered from the planning stage of each project.

Output 3:

Project has to request to counterparts' institutions that the counterparts of the project will continue to work within institutions.

II. Project Monitoring Sheet I & II as Attached Document 2

End

Attached Document:

Attached document 1. Project Follow-up Sheet I and Sheet II

Project Title: Project for Capacity Development on Integrated Management and Conservation of Biodiversity at regional level in SICA Region

Version 1.1

Implementing Agency: Eight (8) CCAD Member Countries in coordination with SICA-CCAD

Dated March 31st, 2021

Target Group: Relevant personnel of CCAD member countries in coordination with SICA-CCAD

Period of Project: From March, 2019 to March 2024 five (5) years

Project Site: SICA region (eight (8) member countries in coordination with SICA-CCAD)

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption	Achievement	Remarks
Overall Goal Regional institutional framework and governance on biodiversity conservation and sustainable use in the SICA region is strengthened.	1. Regional Environmental Strategy Framework (ERAM) is revised by utilizing information and database of the regional information platform.	CCAD publication/reports Publication/Website	SICA and its member countries keep high priority on biodiversity conservation and sustainable resource utilization.	Actual indicators are preliminary and need to be refined during the first year.	
Project Purpose Management capacity on utilization and conservation of biodiversity of member countries in coordination with SICA-CCAD is strengthened	1. The regional information platform is referred to for making policies, plans and reports related to biodiversity. 2. At least one activity on utilization and conservation of biodiversity which refer to the knowledge and experiences of the Project is introduced in each member countries.	Interview to C/Ps CCAD publication/reports Publication/Website	Budgets of SICA and its member countries are not drastically reduced.	The design of the Regional Environmental Observatory (OAR) is decided and OAR is under construction in cooperation with GIZ and WWF MAR2R projects of CCAD.	
Outputs 1. A regional information platform for conservation and utilization of biodiversity in the SICA region is established.	1.1 At least xx modules (e.g. regional information / data of biological corridors, wetlands, biodiversity) are available in the regional information platform. 1.2 More than 80% of training participants of the information platform understand its function and modules to utilize the platform in articulation with national information system.	Records of the Project activities. Questionnaire/Interview Survey	-No drastic change in management administration system/structure in ES-CCAD -No devastating natural disasters than assumed will occur in the pilot sites	The design of the Regional Environmental Observatory (OAR) is decided and OAR is under construction in cooperation with GIZ and WWF MAR2R projects of CCAD. The trainings have not yet been carried out.	
2. Results of pilot projects such as good practice and lesson learned focused on small scale rural community and indigenes people are socialized, from the view point of sustainable development and proposal for implementation of regional and national policies	2.1 At least xx sustainable economic development models are compiled based on the pilot projects and good practices and shared among the member countries. 2.2 More than 90% of the pilot activities are jointly evaluated as "very useful" for developing sustainable economy development models for the region.	Records of the Project activities. Questionnaire/Interview Survey		Draft of terms of reference of the consultant on Implementation plans for the pilot projects was proposed and discussed with JICA headquarter office. Pilot project has not been begun yet.	
3. Regional organizational and human resources capacity for conservation and utilization of biodiversity are strengthened in coordination with SICA-CCAD.	3.1 More than xx % of training participants' knowledge level is increased.	Questionnaire to the participants.		Training courses was not carried out during this semester.	

	3.2 Regional seminars and workshops to share knowledge and experiences in SICA are organized more than XX times.	Seminar/Workshop reports Project reports		Training courses was not carried out during this semester.	
Activities	Inputs		Pre-Conditions		
1.1 Evaluate and analyze current state of existing data such as biological corridors, wetlands, biodiversity database etc. in the region (i.e. regional and national level)	The Japanese Side 1. Experts -Chief Advisor/Ecosystem Management -Project Coordinator/Training Planning/Institutional Capacity -Other Short-Term Experts (e.g. GIS/Data Base, Remote sensing, Agro-forestry, Eco-tourism, etc.) -Local Coordinator	The SICA Side 1. Counterpart -Project Director -Project Coordinator -Member of Regional Technical Committee on Seas and Biodiversity of CCAD -Other Members for each activity 2. Facility Office space for the experts with necessary equipment, Internet.	-All the SICA member countries assign their directors of biodiversity or equivalent level senior officer as the focal points of the project -SICA and its member countries agree to share existing data for the regional information platform	Same as the previous semester, because it was difficult to have contact with counterparts due to the new coronavirus pandemic.	
1.2 Develop design for a regional information platform as a multi biodiversity platform for data exchange and information sharing among the SICA member countries, particularly for biological corridors, wetlands, biodiversity.	2 Equipment -Equipment for construction of a regional information platform for conservation and utilization of biodiversity -Other necessary equipment			>The Regional Environmental Observatory (OAR) is under construction in cooperation with GIZ and WWF MAR2R projects of CCAD (see Attached Document 1).	
1.3 Build the regional information platform	3. Training Trainings in Japan and/or other countries -Politics and governance of biodiversity management and conservation -Management of national park, world heritage, protected areas and biological corridor -Compensatory measures for biodiversity (e.g. Biodiversity offsetting) -Management and conservation of wetlands. -Management and conservation of biodiversity in collaboration among academic, private and public sectors. - Environmental conservation by local governments with the focus on harmony between urban environment and ecosystem		Temas y contramedidas		
1.4 Organize training for selected staff of the member countries in coordination with SICA-CCAD for utilization and maintenance of the information platform (i.e. collecting, processing, and making data/information available) in articulation with national information system				The activity is suspended, because it was difficult to coordinate it due to the new coronavirus pandemic.	
1.5 Produce "regional biodiversity outlook" using the information system				The activity is not scheduled for this semester.	
2.1 Develop selection criteria for pilot projects of sustainable economic development which contribute to both improvement of livelihoods at community level and biodiversity conservation				Terms of reference of local consultant for implementation plan of pilot project is under discussion. document 3).	
2.2 Call for pilot project proposals (e.g. PES, ABS, agro-forestry, branding agricultural product, promotion of ecotourism/agro tourism, development of ventures for environmental sustainable community economic alternatives, emphasizing activities in wetland ecosystems, protected areas and prioritized biological corridors etc.) from related countries				Terms of reference of local consultant for implementation plan of pilot project is under discussion.	

2.3 Select pilot projects and make decisions of actual supports for the pilot projects.
2.4 Support implementation of the pilot projects
2.5 Evaluate and analyze the results of pilot projects (i.e. financial sustainability, impact, lessons learnt, etc.) and <u>complete their lessons learnt.</u>
2.6 Collect good practices related to sustainable economic development among the region.
2.7 Develop an inventory of sustainable economic development models adaptable within the region based on 2.5 and 2.6.
2.8 Integrate the inventory into the information platform developed in Output 1.
2.9 Make recommendations for improving regional and national level related policies based on the results obtained through the pilot projects
3.1 Evaluate and analyze training needs from SICA member countries in coordination with SICA-CCAD.
3.2 Develop regional training program and curriculum on selected themes for the project for SICA member country in coordination with SICA-CCAD based on training resources in SICA region, Japan and neighboring countries (Latin America region) in collaboration with JICA's bilateral projects
3.3 Conduct training including seminars and workshops, and review the plan based on the result of the training
3.4 Make recommendations on regional organizational structure and necessary human resources for strengthening conservation and utilization of biodiversity within the CCAD framework

Terms of reference of local consultant for implementation plan of pilot project is under discussion.	
Discussions on the alternative implementation strategy of pilot project under the new coronavirus pandemic situation were carried out. The activity is not scheduled for this semester.	
Discussions on classification and types of good practices were carried out.	
Discussions on classification and types of good practices were carried out.	
The activity is not scheduled for this semester.	
The activity is not scheduled for this semester.	
Same as the previous semester, because it was difficult to have contact with counterparts due to the new coronavirus pandemic.	
The activities were suspended, because it was difficult to coordinate them due to the new coronavirus pandemic.	
A counterparts' visit to Japan was suspended due to due to the new coronavirus pandemic. A workshop on new "Framework Regional Environmental Strategy 2021-2025" was conducted with Seas and Biodiversity Committee members and other stakeholders (see Attached Document 02 for the report of the workshop).	
The activity was suspended, because it was difficult to coordinate it due to the new coronavirus pandemic.	

バージョン 5.0 / Version 5.0 (英語)

Project Monitoring Sheet

Project Title: Project for Capacity Development on Integrated Management and Conservation of Biodiversity at regional level in SICA Region

Version of the Sheet: Version 5 (April 2021 – February 2022).

Prepared by: Jair Urriola, Executive Secretary, CCAD
Masaki Osawa, Senior Advisor, CCAD-JICA

Submission Date: March 1st, 2022.

I. Summary

1. Progress

1-1 Progress of Inputs

1-1-1 Japanese side

- Long Term Expert as below

Title/ Expertise	Activities done	Period
Chief Advisor	<ul style="list-style-type: none">• Technical advices for the construction of Regional Environmental Observatory (OAR).• Supervising consultant works of elaboration of implementation plan proposals of the pilot projects.• Coordination with JICA offices and counterpart institutions for pilot project planning.• Planning and elaboration of TORs of the virtual training course “Participatory Biodiversity Conservation”.• General coordination and supervise of the project administration with counterparts (SE-CCAD and national counterparts institutions), JICA central Office and JICA offices in the region.• Administration of accounting work, while the coordinator was absence.	From March 13 th , 2019 up to the present time.

Title/ Expertise	Activities done	Period
Coordinator	<ul style="list-style-type: none"> • Preparation, review and translate of various documents concerning the project. • Meeting with an executive secretary of CCAD to resume project's activities after returning to El Salvador. • Participating in CCAD's meeting with executive secretary for presenting the project. • Making accounting work for submitting an annual financial report. • Supporting logistics for the technical committee and council of ministers • Coordinating the virtual course on participatory biodiversity conservation 	<p>Ms. Yoko Akimoto From March 27th, 2019 to September 4th, 2022.</p> <p>Mr. Takeshi Inagawa: From October 27th, 2022 up to the present time.</p>

- Operation cost

1-1-2. CCAD side and partner countries

- Counterpart Staff as below

Country	Title	Project Roles
Costa Rica	Minister of Environment and Energy	Project Director (from January 2021 to June 2021 as the President Pro Tempore of the CCAD
Guatemala	Minister of Environment and Natural Resources	Project Director (from July 2021 to December 2021 as the President Pro Tempore of the CCAD
Panama	Minister of Environment	Project Director (from January 2022 up to the present time as the President Pro Tempore of the CCAD
CCAD Executive Secretary	Executive Secretary	Project Administrator
	Chief Administrative Officer	Liaison and CCAD Coordinator

Country	Title	Project Roles
	Administration Assistant	CCAD Administrative Assistant
8 member countries	CCAD Liaison Officials	CCAD focal points of each country
8 member countries	CTMyB Members	Technical focal points of each country
8 member countries	National counterparts related to the planning and implementation of the pilot projects.	Pilot projects' counterparts

- Cost of administration and maintenance of the Project office.
- Office supplies.

1-2 Progress of Activities

1-2-1 Activities of Output 1: A regional information platform for conservation and utilization of biodiversity in the SICA region is established

Activities (% Progress)	Progress until the previous semester	Progress during this period
1.1 Evaluate and analyze current state of existing data such as biological corridors, wetlands, biodiversity database etc. in the region (i.e. regional and national level) (60%)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ The Regional Environmental Observatory and the Biodiversity section were launched on March 19th. 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ A list of potential sources of biological information is elaborated (See attached document 1). ➤ Secretariate of CCAD requested the information agreed by Ministers' Council to 8 countries. ➤ Three countries shared information with the Project.

Activities (% Progress)	Progress until the previous semester	Progress during this period
1.2 Develop design for a regional information platform as a multi biodiversity platform for data exchange and information sharing among the SICA member countries, particularly for biological corridors, wetlands, biodiversity (70%).	➤ The Regional Environmental Observatory (OAR) and the biodiversity section were launched. https://www.sica.int/oar/inicio .	➤ The regional information platform is built as a section of OAR (https://www.sica.int/oar/mares/inicio), adopting the design of the SICA web pages.
1.3 Build the regional information platform (70%)		➤ Some information was uploaded to the platform to strengthen contents by Secretariate of CCAD.

Activities (% Progress)	Progress until the previous semester	Progress during this period
1.4 Organize training for selected staff of the member countries in coordination with SICA-CCAD for utilization and maintenance of the information platform (i.e. collecting, processing, and making data/information available) in articulation with national information system. (0%)	The regional information platform is located in SICA server and the external persons' access is limited. So, it is necessary to modify the strategy of information up-dating mechanism of the platform and the training contents.	➤ Same as the previous semester.
1.5 Produce "regional biodiversity outlook" using the information system. (0%)	The activity was not scheduled for previous semester.	➤ The activity has not started yet, due to the possible modification of the PDM of the project.

1-2-2 Activities of Output 2: Results of pilot projects such as good practice and lesson learned focused on small scale rural community and indigenes people are socialized, from the view point of sustainable development and proposal for implementation of regional and national policies

Activities (% progress)	Progress until the previous semester	Progress during this period
2.1 Develop selection criteria for pilot projects of sustainable economic development which contribute to both improvement of livelihoods at community level and biodiversity conservation (100%)	➤ It was decided that a public open recruitment of the pilot project proposal will not be conducted, and that some local consultants would be hired for the elaboration of the implementation	➤ The criteria were developed, decided and implemented as a activity of local consultants to select target communities and to propose activities there.
2.2 Call for pilot project proposals (e.g. PES, ABS, agro-forestry, branding agricultural product, promotion of ecotourism/agro tourism, development of ventures for environmental sustainable community economic alternatives, emphasizing activities in wetland ecosystems, protected areas and prioritized biological corridors etc.) from related countries (100%).	➤ Terms of reference of local consultant for the elaboration of implementation plan of pilot project was elaborated.	➤ Four consultant teams were hired to gather information and to make a proposal of the pilot projects. ➤ The proposals of implementation plan of pilot projects were made.
2.3 Select pilot projects and make decisions of actual supports for the pilot projects (70%).		

Activities (% progress)	Progress until the previous semester	Progress during this period
2.4 Support implementation of the pilot projects (5%).	<p>➤ It was decided that:</p> <ul style="list-style-type: none"> • A public open recruitment of the pilot project proposal would not be conducted • Some local consultants would be hired for elaboration of the implementation plans of the pilot projects. • The pilot projects would be implemented by heiring local consultants, based on the implementation plans. 	<p>➤ JICA Headquarter called for a public announcement to implement the pilot projects.</p>
2.5 Evaluate and analyze the results of pilot projects (i.e. financial sustainability, impact, lessons learnt, etc.) and compile their lessons learnt (0%).	This activity was not scheduled for the previous semester.	This activity was not scheduled for this semester.
2.6 Collect good practices related to sustainable economic development among the region (25%).	Some good practices was collected with assistance of the senior advisor.	Information on governance of transboundary protected area was collected.
2.7 Develop an inventory of sustainable economic development models adaptable within the region based on 2.5 and 2.6 (25%).	Some good practices was collected with assistance of the senior advisor.	information on governance of transboundary protected area was collected.
2.8 Integrate the inventory into the information platform developed in Output 1 (0%).	The activity was not scheduled for previous semester.	This activity was not scheduled for this semester.

Activities (% progress)	Progress until the previous semester	Progress during this period
2.9 Make recommendations for improving regional and national level related policies based on the results obtained through the pilot projects (0%).	The activity was not scheduled for previous semester.	This activity was not scheduled for this semester.

1-2-3 Activities of Output 3: Regional organizational and human resources capacity for conservation and utilization of biodiversity are strengthened in coordination with SICA-CCAD.

Activities (% progress)	Progress until the previous semester	Progress during this period
3.1 Evaluate and analyze training needs from SICA member countries in coordination with SICA-CCAD. (100%)	➤ There was no significantly progress due to the new coronavirus pandemic.	➤ A proposal of possible theme of training was made as a result of consultation work.
3.2 Develop regional training program and curriculum on selected themes for the project for SICA member country in coordination with SICA-CCAD based on training resources in SICA region, Japan and neighboring countries (Latin America region) in collaboration with JICA's bilateral projects (70%)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ There was no significantly progress due to the new coronavirus pandemic. ➤ The chief advisor of the project participated in the regional training course carried out by CCAD, as a lecturer. The training course was on water resource management. 	➤ A virtual training course on “Participative Biodiversity Conservation” was designed.

Activities (% progress)	Progress until the previous semester	Progress during this period
3.3 Conduct training including seminars and workshops, and review the plan based on the result of the training (40%)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ There was no significantly progress due to the new coronavirus pandemic. ➤ The chief advisor of the project participated in the regional training course carried out by CCAD, as a lecturer. The training course was on water resource management.. 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ A consultant team was contracted to carry out the virtual training course on “Participative Biodiversity Conservation”. ➤ Two workshops of the Technical Committee of Seas and Biodiversity were conducted (September 2021 as a virtual and Presential workshop and meeting in February 2022 in Panamá).
3.4 Make recommendations on regional organizational structure and necessary human resources for strengthening conservation and utilization of biodiversity within the CCAD framework (5%).	The activity was suspended, due to the new coronavirus pandemic.	<ul style="list-style-type: none"> ➤ Some unofficial discussions on regional organizational structure and necessary human resources were carried out in the CCAD Secretariate.

1-3 Achievement of Indicators of Outputs

1-3-1 Achievements of Indicators of Output 1: Construction of a Regional Computer Platform for the management and integral conservation of biodiversity in the countries that make up the SICA Region

Indicators	Achievements until last semester.	Achievements during this period	Expectations of achievements in the next semester
<p>1.1 At least xx modules (e.g. regional information / data of biological corridors, wetlands, biodiversity) are available in the regional information platform.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • The OAR and the its biodiversity section were launched on March 19th. • A series of discussions on the modification of the indicators was carried out with JICA. • An analytical report on indicators was made by the Japanese expert and presented to JICA. 	<ul style="list-style-type: none"> • Fifteen themes were established as the contents of “Mares y Biodiversidad” in OAR. • The decision of a quantitative goal and/or a modification of the indicator is under consideration. 	<p>A quantitative goal or a new indicator will be established.</p>

Indicators	Achievements until last semester.	Achievements during this period	Expectations of achievements in the next semester
<p>1.2 More than 80% of training participants of the information platform understand its function and modules to utilize the platform in articulation with national information system</p>	<ul style="list-style-type: none"> • The administration mechanism of the platform is different from the plan. It is necessary to modify the indicators. • A series of discussions on the modification of the indicators was carried out with JICA. • An analytical report on indicators was made by the Japanese expert and presented to JICA. 	<ul style="list-style-type: none"> • The decision of a quantitative goal and/or a modification of the indicator is under consideration. 	<ul style="list-style-type: none"> • A quantitative goal or a new indicator will be established.

1-3-2 Achievements of Indicators of Output 2: Socialization of the Pilot Projects' results as good practices and lessons learned with the small-scale approach of local communities and indigenous peoples, from the perspective of sustainable development, and proposals for the implementation of regional policy and national policies.

Indicators	Achievements until last semester	Achievements during this period	Expectations of achievements in the next semester
2.1 At least xx sustainable economic development models are compiled based on the pilot projects and good practices and shared among the member countries.	<ul style="list-style-type: none"> • A series of discussions on the modification of the indicators was carried out with JICA. • An analytical report on indicators was made by the Japanese expert and presented to JICA. 	<ul style="list-style-type: none"> • The decision of a quantitative goal and/or a modification of the indicator is under consideration. 	<ul style="list-style-type: none"> • A quantitative goal or a new indicator will be established.
2.2 More than 90% of the pilot activities are jointly evaluated as "very useful" for developing sustainable economy development models for the region.	<ul style="list-style-type: none"> • A series of discussions on the modification of the indicators was carried out with JICA • An analytical report on indicators was made by the Japanese expert and presented to JICA. 	The decision of a quantitative goal and/or a modification of the indicator is under consideration.	A quantitative goal or a new indicator will be established.

1-3-3 Achievements of Indicators of Output 3: Strengthening of the regional capacity of organization and human resources for the conservation and use of biodiversity in coordination with SICA-CCAD.

Indicators	Achievements until last semester	Achievements during this period	Expectations of achievements in the next semester
<p>3.1 More than xx % of training participants' knowledge level is increased.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • A series of discussions on the modification of the indicators was carried out with JICA, an analytical report on indicators was made by the Japanese expert and presented to JICA. • It is necessary to determine a quantitative goal 	<ul style="list-style-type: none"> • The virtual training course "Participatory Biodiversity Conservation" was planned and the contract for implementation was signed with FLACSO (international/regional academic organization). • The themes of the training course for Output 2 were identified as the results of the consultant works. 	<ul style="list-style-type: none"> • The virtual training course will be implemented. • A modified indicator will be determined. • Training plan will be elaborated for pilot project sites.

Indicators	Achievements until last semester	Achievements during this period	Expectations of achievements in the next semester
<p>3.2 Regional seminars and workshops to share knowledge and experiences in SICA are organized more than XX times.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • A series of discussions on the modification of the indicators was carried out with JICA, an analytical report on indicators was made by the Japanese expert and presented to JICA. • It is necessary to determine a quantitative goal 	<ul style="list-style-type: none"> • The Seas and Biodiversity Technical Committee was held three times (May and September 2021 by virtual, and on site meeting in February 2022). 	<p>A modified indicator will be determined.</p>

1-4 Achievement of the Indicator of the Project Purpose

1.4.1 Project Objective: Management capacity on utilization and conservation of biodiversity of member countries in coordination with SICA-CCAD is strengthened.

Indicators	Achievements until last semester.	Achievements during this period	Expectations of achievements in the next semester
1. The regional information platform is referred to for making policies, plans and reports related to biodiversity.	<ul style="list-style-type: none"> A series of discussions on the modification of the indicators was carried out with JICA, an analytical report on indicators was made by the Japanese expert and presented to JICA. 	<ul style="list-style-type: none"> OAR received 4374 visits between march 2021 and February 2022. 	A modified indicator will be determined.
2. At least one activity on utilization and conservation of biodiversity which refer to the knowledge and experiences of the Project is introduced in each member countries.			

1.4.2: Discussions from the point of view of the 5 CAD evaluation criteria¹

(1) Relevance

The conservation of biodiversity is related to the following goals, strategies and plans at international, regional and national levels.

International Level:

- Sustainable Development Goals (SDGs)
Goals 14 and 15 of the Sustainable Development Goals (SDGs). Likewise, at the level of activities to be developed, they may be relevant to the following SDG goals; Goals 1, 2, 6, 12, 14, 15, and 17.
- Aichi Targets

Regional Level:

¹ Development Assistance Committee of the Organization for Economic Cooperation and Development (OECD).

The conservation of biodiversity in transboundary area is aligned with the Strategic Lines and Actions “Seas and Biodiversity” of the “2021-2025 Framework Regional Environmental Strategy (ERAM)”.

Nacional Level

- All National Development Plans or an equivalent document, from the 8 CCAD countries, involve the issue of sustainable use of natural resources.
- All 8 CCAD countries have ratified the Convention for Biological Diversity.
- All 8 countries have the National Strategic Biodiversity Plan or an equivalent document.
- All 8 CCAD countries have ratified other international conventions relevant to the conservation of biodiversity and the sustainable use of natural resources such as CITES, Ramsar convention, and the United Nations Framework Convention on Climate Change.

(2) Effectiveness

Local consultants was hired in order to elaborate pilot projects implementation plan proposals. It is expected that the use of local human resources, who are familiar with local situation increases effectiveness and efficiency.

(3) Efficiency

Same as above “Effectiveness”.

(4) Impact

Not applicable to this report.

(5) Sustainability

The sustainability of Output 1 is being considered, planning that the regional information platform on biodiversity will be established on the platform of the IT Unit of the General Secretariat of SICA.

1-5 Changes of Risks and Actions for Mitigation

- Due to the pandemic of the new coronavirus, almost all the activities are delayed. It is necessary to modify PDM and PO, adjusting to the current status of the progress of the project.
- There are some indicators that have not quantitative goals established. In the same way, it is necessary to modify some indicators due to the COVID 19 pandemic. Modification and establishment of quantitative goals of several indicator are urgent issues.

1-6 Progress of Actions undertaken by JICA

- JICA contracted 4 local consultants to accelerate the process of elaboration of proposals of the pilot projects' activities.
- JICA's local offices in the region supported local consultants' activities, especially to coordinate with counterparts' institutions and the visits to pilot projects' target communities.

1-7 Progress of Actions undertaken by the CCAD Secretariat and the counterpart Countries

- CCAD facilitated the communication between local consultants and counterparts' institutions.
- Counterparts' institutions also facilitate the communication with local actors in order that the consultants could have access with them.

1-8 Progress of Environmental and Social Considerations (if applicable)

Not applicable to this project.

1-9 Progress of Considerations on Gender/Peace Building/Poverty Reduction (if applicable)

Not applicable to this project.

1-10 Other remarkable/considerable issues related/affect to the project (such as other JICA's projects, activities of counterparts, other donors, private sectors, NGOs etc.)

- Several regional projects were identified in the same transboundary area as the Project (e.g. Selva Maya, Gulfo de Fonseca and La Amistad). It is important to coordinate pilot projects' activities with those regional projects (see attachment 2 for identified projects).

2. Delay of Work Schedule and/or Problems (if any)

2-1 Detail

Almost all the activities are delayed due to new coronavirus pandemics. It is necessary to make a contingency and a rescheduled plan for the rest of the project period, including the modification of Project Design Matrix (PDM) and the operation plan (PO).

2-2 Cause

New coronavirus pandemic at global level.

2-3 Action to be taken

To make a contingency and a rescheduled plan for the rest of the project period, including the modification of PDM and PO and their approval in the next JCC.

2-4 Roles of Responsible Persons/Organization (JICA, Executive Secretariat, Government of counterpart countries.)

Making a draft of contingency and a rescheduled plan for the rest of the project period will be a important work in coordination between JICA headquarter office, JICA experts and Executive Secretariat of CCAD.

It is necessary to celebrate a Joint Coordination Committee (JCC) to authorize a contingency plan and medicated PDM (April 2022).

3. Modification of the Project Implementation Plan

3-1 PO

There is no change in the Operating Plan in this period. But it is expected that the PO will be modified and adjusted to the COVID 19 pandemic situation.

3-2 Other modifications on detailed implementation plan

(Remarks: The amendment of R/D and PDM (title of the project, duration, project site(s), target group(s), implementation structure, overall goal, project purpose, outputs, activities, and input) should be authorized by JICA HDQs. If the project team deems it necessary to modify any part of R/D and PDM, the team may propose the draft.)

No modification is observed in this period, but the modification was discussed and is expected to be determined in the next Joint Coordination Committee (JCC).

4. Preparation of the CCAD Secretariat and the Governments of the CCAD Member Countries toward after completion of the Project.

Output 1:

The sustainability of the OAR is still a crucial issue in the Secretariate of CCAD and for all regional projects that are working with it. Some unofficial meetings were held between the technical coordinators of the Secretariate of CCAD, but a clear solution has not identified yet.

Output 2:

Several projects and initiative are identified in Sela Maya, Golfo de Fonseca and La Amidad. So, it is important that Secretariate of CCAD calls for a meeting with all project/initiative in each area to coordinate activities and to align the framework of the governance of these areas in the term of protected area administration and biodiversity conservation.

Output 3:

It is important to select adequate participants for training courses and they will continue to work with counterparts' institutions. The Project requests to counterparts' institutions selection of appropriate participants of training courses and that the counterparts of the project will continue to work within institutions.

II. Project Monitoring Sheet I & II as Attached Document 2

End

Attached Document:

Attached document 1. Attached document 1. List of potential information sources

Attached document 2. List of identified list of regional projects in Selva Maya and Golf of
Fonseca

Attached document 3. Project Follow-up Sheet I and Sheet II

Attached document 1. List of potential information sources

País	Plataforma	Source
Belice	Biodiversity & Environmental Resouce Data S	http://www.biodiversity.bz/
Guatemala	SNIT	https://www.segeplan.gob.gt/nportal/index.php/servicios/sistemas-en-linea/sinit
El Salvador	CIDOC Virtual	https://cidoc.marn.gob.sv/
Honduras	CHM Honduras	http://www.chmhonduras.org/
Nicaragua		
Costa Rica	SNIT	http://www.snitcr.go.cr/
	CRBio	http://www.crbio.cr/crbio/?page_id=2&lang=es
	SINIA CR	http://sinia.go.cr/
Panama	SINIA Panamá	https://www.sinia.gob.pa/
República Dominicana	El Sistema de Información Ambiental (SIA) del Ministerio de Medio Ambiente y Recursos Naturales de la República Dominicana,	https://dominicana.gob.do/index.php/component/k2/item/52-servicios-clasificados-bajo-seccion-medioambiente#:~:text=El%20Sistema%20de%20Informaci%C3%B3n%20Ambiental,estado%20de%20los%20recursos%20naturales.

Attached document 2. List of identified list of regional projects in Selva Maya

No	Nombre del Proyecto	Periodo	Cooperante
1	Fortalecimiento de la cooperación estratégica y operativa regional para la protección de la Selva Maya	Enero 2020 - diciembre 2022	Alemania / BMZ / CT
2	Fomento del Monitoreo de Biodiversidad y Cambio Climático en la región Selva Maya	Agosto 2016 - diciembre 2022	Alemania / BMU / CT
3	Programa de Biodiversidad "Enlazando el Paisaje Centroamericano"	5 años, aprobado en 2017	KfW ejecutado por UICN
4	Proyecto One Health		
5	Five Great Forests of Mesoamerica, a regional initiative for climate, biodiversity, and people	2021-2025	Wildlife Conservation Society (WCS) con fondo de UE.
6	Proyecto 5 bosques	Formularion	CCAD/CI/GEF
7	Proyecto protección de recursos naturales Selva Maya Fase 2	2022-2027 en formulacion	KFW/ Ejecutor UICN
8	Proyecto de Desarrollo de Capacidad para la Gestión y Conservación Integrada de la Biodiversidad a nivel regional en la Región del SICA	2019-2024	JICA

Attached document 2. List of identified list of regional projects Golfo de Fonseca

No	Nombre del Proyecto	Periodo	Cooperante
1	Gestión trasfronteriza del golfo de Fonseca		Banco Mundial GEF
2	Plan Maestro de Proyectos de Inversión y Desarrollo Económico de Carácter Trinacional para el Golfo de Fonseca		BCIE
3	Golfo Resiliente		Fondo de adaptación, FAO (ejecutor)
4	Reserva de biosfera trasfronteriza en el Golfo de Fonseca		UNESCO
5	Fortalecimiento de las capacidades adaptativas de las comunidades vulnerables al clima en la cuenca del Goascorán de El Salvador y Honduras a través de prácticas y servicios integrados de adaptación basados en la comunidad	2022-2027	Fondo de Adaptación CCAD/WFP
6	Proyecto de Desarrollo de Capacidad para la Gestión y Conservación Integrada de la Biodiversidad a nivel regional en la Región del SICA	2019-2024	JICA

Lista de Proyectos regionales en el Golfo de Fonseca

No	Level	Nombre del Proyecto	Periodo	Cooperante
1	Regional	Gestión trasfronteriza del golfo de Fonseca		Banco Mundial GEF
2	Regional	Plan Maestro de Proyectos de Inversión y Desarrollo Económico de Carácter Trinacional para el Golfo de Fonseca		BCIE
3	Regional	Golfo Resiliente		Fondo de adaptación, FAO (ejecutor)
4	Regional	Reserva de biosfera trasfronteriza en el Golfo de Fonseca		UNECESO
5	Regional	Fortalecimiento de las capacidades adaptativas de las comunidades vulnerables al clima en la cuenca del Goascorán de El Salvador y Honduras a través de prácticas y servicios integrados de adaptación basados en la comunidad	2022-2027	Fondo de Adaptación CCAD/WFP
6		Proyecto de Desarrollo de Capacidad para la Gestión y Conservación Integrada de la Biodiversidad a nivel regional en la Región del SICA	2019-2024	JICA

Hoja I de Seguimiento de Proyecto: Project Design Matrix

Project Title: Project for Capacity Development on Integrated Management and Conservation of Biodiversity at regional level in SICA Region

Version 1.1

Implementing Agency: Eight (8) CCAD Member Countries in coordination with SICA-CCAD

Dated February 28th, 2022

Target Group: Relevant personnel of CCAD member countries in coordination with SICA-CCAD

Period of Project: From March, 2019 to March 2024 five (5) years

Project Site: SICA region (eight (8) member countries in coordination with SICA-CCAD)

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption	Achievement	Remarks
Overall Goal					
Regional institutional framework and governance on biodiversity conservation and sustainable use in the SICA region is strengthened.	1. Regional Environmental Strategy Framework (ERAM) is revised by utilizing information and database of the regional information platform.	CCAD publication/reports Publication/Website	SICA and its member countries keep high priority on biodiversity conservation and sustainable resource utilization.	Actual indicators are preliminary and need to be refined during the first year.	
Project Purpose					
Management capacity on utilization and conservation of biodiversity of member countries in coordination with SICA-CCAD is strengthened	1. The regional information platform is referred to for making policies, plans and reports related to biodiversity.	Interview to C/Ps CCAD publication/reports Publication/Website	Budgets of SICA and its member countries are not drastically reduced.	The design of the Regional Environmental Observatory (OAR) is decided and OAR is under construction in cooperation with GIZ and WWF MAR2R projects of CCAD.	
	2. At least one activity on utilization and conservation of biodiversity which refer to the knowledge and experiences of the Project is introduced in each member countries.				
Outputs					
1. A regional information platform for conservation and utilization of biodiversity in the SICA region is established.	1.1 At least xx modules (e.g. regional information / data of biological corridors, wetlands, biodiversity) are available in the regional information platform.	Records of the Project activities.	-No drastic change in management administration system/structure in ES-CCAD -No devastating natural disasters than assumed will occur in the pilot sites	The design of the Regional Environmental Observatory (OAR) is decided and OAR is under construction in cooperation with GIZ and WWF MAR2R projects of CCAD.	
	1.2 More than 80% of training participants of the information platform understand its function and modules to utilize the platform in articulation with national information system.	Questionnaire/Interview Survey			The trainings have not yet been carried out.
2. Results of pilot projects such as good practice and lesson learned focused on small scale rural community and indigenes people are socialized, from the view point of sustainable development and proposal for implementation of regional and national policies	2.1 At least xx sustainable economic development models are compiled based on the pilot projects and good practices and shared among the member countries.	Records of the Project activities.		Draft of terms of reference of the consultant on Implementation plans for the pilot projects was proposed and discussed with JICA headquarter office.	
	2.2 More than 90% of the pilot activities are jointly evaluated as "very useful" for developing sustainable economy development models for the region.	Questionnaire/Interview Survey			Pilot project has not been begun yet.
3. Regional organizational and human resources capacity for conservation and utilization of biodiversity are strengthened in coordination with SICA-CCAD.	3.1 More than xx % of training participants' knowledge level is increased.	Questionnaire to the participants.		Training courses was not carried out during this semester.	

	3.2 Regional seminars and workshops to share knowledge and experiences in SICA are organized more than XX times.	Seminar/Workshop reports Project reports		Training courses was not carried out during this semester.	
Activities	Inputs		Pre-Conditions		
1.1 Evaluate and analyze current state of existing data such as biological corridors, wetlands, biodiversity database etc. in the region (i.e. regional and national level)	The Japanese Side 1. Experts -Chief Advisor/Ecosystem Management -Project Coordinator/Training Planning/Institutional Capacity -Other Short-Term Experts (e.g. GIS/Data Base, Remote sensing, Agro-forestry, Eco-tourism, etc.) -Local Coordinator 2 Equipment -Equipment for construction of a regional information platform for conservation and utilization of biodiversity -Other necessary equipment 3. Training Trainings in Japan and/or other countries -Politics and governance of biodiversity management and conservation -Management of national park, world heritage, protected areas and biological corridor -Compensatory measures for biodiversity (e.g. Biodiversity offsetting)	The SICA Side 1. Counterpart -Project Director -Project Coordinator -Member of Regional Technical Committee on Seas and Biodiversity of CCAD -Other Members for each activity 2. Facility Office space for the experts with necessary equipment, Internet.	-All the SICA member countries assign their directors of biodiversity or equivalent level senior officer as the focal points of the project -SICA and its member countries agree to share existing data for the regional information platform	Same as the previous semester, because it was difficult to have contact with counterparts due to the new coronavirus pandemic.	
1.2 Develop design for a regional information platform as a multi biodiversity platform for data exchange and information sharing among the SICA member countries, particularly for biological corridors, wetlands, biodiversity.				➤The Regional Environmental Observatory (OAR) is under construction in cooperation with GIZ and WWF MAR2R projects of CCAD (see Attached Document 1).	
1.3 Build the regional information platform			Temas y contramedidas		
1.4 Organize training for selected staff of the member countries in coordination with SICA-CCAD for utilization and maintenance of the information platform (i.e. collecting, processing, and making data/information available) in articulation with national information system				The activity is suspended, because it was difficult to coordinate it due to the new coronavirus pandemic.	
1.5 Produce "regional biodiversity outlook" using the information system				The activity is not scheduled for this semester.	
2.1 Develop selection criteria for pilot projects of sustainable economic development which contribute to both improvement of livelihoods at community level and biodiversity conservation				Terms of reference of local consultant for implementation plan of pilot project is under discussion. document 3).	
2.2 Call for pilot project proposals (e.g. PES, ABS, agro-forestry, branding agricultural product, promotion of ecotourism/agro tourism, development of ventures for environmental sustainable community economic alternatives, emphasizing activities in wetland ecosystems, protected areas and prioritized biological corridors etc.) from related countries				Terms of reference of local consultant for implementation plan of pilot project is under discussion.	

2.3 Select pilot projects and make decisions of actual supports for the pilot projects.				Terms of reference of local consultant for implementation plan of pilot project is under discussion.	
2.4 Support implementation of the pilot projects				Discussions on the alternative implementation strategy of pilot project under the new coronavirus pandemic situation were carried out. The activity is not scheduled for this semester.	
2.5 Evaluate and analyze the results of pilot projects (i.e. financial sustainability, impact, lessons learnt, etc.) and compile their lessons learnt.				Discussions on classification and types of good practices were carried out.	
2.6 Collect good practices related to sustainable economic development among the region.				Discussions on classification and types of good practices were carried out.	
2.7 Develop an inventory of sustainable economic development models adaptable within the region based on 2.5 and 2.6.				The activity is not scheduled for this semester.	
2.8 Integrate the inventory into the information platform developed in Output 1.				The activity is not scheduled for this semester.	
2.9 Make recommendations for improving regional and national level related policies based on the results obtained through the pilot projects				Same as the previous semester, because it was difficult to have contact with counterparts due to the new coronavirus pandemic.	
3.1 Evaluate and analyze training needs from SICA member countries in coordination with SICA-CCAD.				The activities were suspended, because it was difficult to coordinate them due to the new coronavirus pandemic.	
3.2 Develop regional training program and curriculum on selected themes for the project for SICA member country in coordination with SICA-CCAD based on training resources in SICA region, Japan and neighboring countries (Latin America region) in collaboration with JICA's bilateral projects				A counterparts' visit to Japan was suspended due to due to the new coronavirus pandemic. A workshop on new "Framework Regional Environmental Strategy 2021-2025" was conducted with Seas and Biodiversity Committee members and other stakeholders (see Attached Document 02 for the report of the workshop).	
3.3 Conduct training including seminars and workshops, and review the plan based on the result of the training				The activity was suspended, because it was difficult to coordinate it due to the new coronavirus pandemic.	
3.4 Make recommendations on regional organizational structure and necessary human resources for strengthening conservation and utilization of biodiversity within the CCAD framework					

バージョン 6.0 / Version 6.0 (英語)

Project Monitoring Sheet

Project Title:

Project for Capacity Development on Integrated Management and Conservation of Biodiversity at the regional level in SICA Region

Version of the Sheet:

Version 6 (March - November 2022)

Prepared by:

Jair Urriola, CCAD, Executive Secretary

Michinori Yoshino, Chief Advisor, JICA Project Team

Submission Date:

November 25th, 2022

I. Summary

1. Progress

1-1 Progress of Inputs

1-1-1 Japanese side

- Staffs

Expertise	Name	Period
March 2019 - April 2022		
<Long-team expert>		
Chief Advisor	Mr. Masaki Osawa	March 13rd 2019 - March 31st, 2022
Coordinator	Ms. Yoko Akimoto	March 27th, 2019 - September 4th, 2021
	Mr. Takeshi Inagawa	October 27th, 2021 - April 30th, 2022
From May 2022		
<Long-term expert>		
Coordinator	Mr. Takeshi Inagawa * In addition to the administrative coordination such as the arrangement of meetings, he will also be responsible for coordination and collaboration with the consultant team below and the implementation of Output 1 (establishment of a biodiversity platform) and Output 3 (capacity building through training).	May 1st - November 30th 2022

Expertise	Name	Period
<Consultant team>		
Team leader (Chief Advisor) /Ecosystem Management / Regional Collaboration	Mr. Michinori Yoshino	May 16th -November 30th, 2022 *Intermittent Assignment
Expert of Participatory Livelihood Enhancement	Ms. Yayoi Yoshioka Mr. Yukio Nagahama	May 16th -November 30th, 2022 *Intermittent Assignment
Expert of Community empowerment and cooperation	Ms. Yayoi Yoshioka Ms. Yuki Ozaki	May 16th -November 30th, 2022 *Intermittent Assignment

- Cost for the operation of activities (local expert, rent-a-car, flight etc.)

1-1-2 CCAD side and partner countries

- Staffs

Role in the Project	Country	Name & Title
Project Director (Jan.-Jun. 2022)	Panama	Mr. Milciades Concepción Minister of Environment
Project Director (Jul.-Dec.2022)	Dominican Republic	Mr. Miguel Ceara Hatton Minister of Environment and Natural Resources
Project Coordinator	-	Mr. Jair Urriola Quiroz CCAD Executive Secretary
Chief Administrative Officer	-	Mr. Mario Escobedo CCAD Liaison and Coordinator
Administration Assistant	-	Ms. Otty Ramos de Ribera CCAD Administrative Assistant
CCAD Liaison Officials	8 member countries	CCAD focal points
Technical focal points of each country	8 member countries	Members of CCAD Technical Committee on Seas and Biodiversity (CTMyB)
Pilot projects' counterparts	8 member countries	

- Cost for operation and maintenance of the Project office.
- Office space in CCAD

1-2 Progress of Activities

Progress of each activity is as described table below. Two times of JCC (Joint Coordination Committee) have been held as part of CCAD Ministerial Meeting on 6 April 2022 and 26 October 2022. The PDM has been modified and approved by the former JCC (Attachment-5) and the pilot project implementation plan has been approved by the latter meeting (Attachment-6)

1-2-1 Activities of Output 1: A regional information platform for conservation and utilization of biodiversity in the SICA region is established

Activities (% Progress)	Progress until the previous semester	Progress during this period
1.1 Evaluate and analyze the current state of existing data such as biological corridors, wetlands, biodiversity database etc. in the region (i.e. regional and national level) (60%)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ A list of potential sources of biological information is elaborated ➤ Secretariate of CCAD requested the information agreed by the Ministers' Council to 8 countries. ➤ Three countries shared information with the Project. 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ Geographical, environmental, and socioeconomic datasets have been updated. ➤ Shared documents including previous JICA (MAPCOBIO and La Union Biological Corridor) and other donor project reports in the SICA region have been uploaded.
1.2 Develop design for a regional information platform as a multi biodiversity platform for data exchange and information sharing among the SICA member countries, particularly for biological corridors, wetlands, biodiversity (100%).	<ul style="list-style-type: none"> ➤ The regional information platform is built as a section of OAR (https://www.sica.int/oar/mares/inicio), adopting the design of the SICA web pages. ➤ Some information was uploaded to the platform to strengthen content by the Secretariate of CCAD. 	➤ This activity was completed in the previous period.
1.3 Build the regional information platform (100%)		➤ This activity was completed in the previous period.
1.4 In coordination with SICA-CCAD, train selected staff of the member countries on the establishment, use and maintenance of national information platforms (e.g. collection, processing and use of available information). (30%)	➤ The regional information platform is located in SICA server and external persons' access is limited. So, it is necessary to modify the strategy of the information updating mechanism of the platform and the training contents.	<ul style="list-style-type: none"> ➤ This activity was modified. ➤ Workshops on database management are scheduled in April 2023 as part of the technical meeting of CTMyB supported by IUCN Costa Rica Office.
1.5 Compile a "Regional Biodiversity Outlook (Preparatory Guidelines / Summary)" using the platform. (0%)	➤ The activity has not started yet, due to the possible modification of the PDM of the project.	<ul style="list-style-type: none"> ➤ This activity was modified. ➤ Preparatory guidelines will be prepared as a product of the above workshops.

1-2-2 Activities of Output 2: Results of pilot projects such as good practice and lesson learned focused on small scale rural community and indigenes people are socialized, from the viewpoint of sustainable development and proposal for implementation of regional and national policies

Activities (% progress)	Progress until the previous semester	Progress during this period
2.1 Develop selection criteria for pilot projects of sustainable economic development which contribute to both improvement of livelihoods at community level and biodiversity conservation (100%)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ The criteria were developed, decided and implemented as an activity of local consultants to select target communities and to propose activities there. ➤ Four local consultant teams were hired to gather 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ This activity was completed in the previous period.
2.2 Develop proposals for pilot projects with pilot community stakeholders (e.g., PES, ABS, agroforestry, agro-branding, promotion of ecotourism/agricultural tourism, development of environmentally sustainable local economic alternatives in priority areas such as wetland ecosystems, protected areas and biological corridors). (100%).	<ul style="list-style-type: none"> ➤ Four local consultant teams were hired to gather information and to make a proposal for the pilot projects. ➤ The proposals for the implementation plan of pilot projects were made. 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ This activity was modified. ➤ This activity was completed in the previous period.
2.3 Select pilot projects and make decisions of actual supports for the pilot projects (90%).		<ul style="list-style-type: none"> ➤ The draft implementation plan of pilot projects was prepared through coordination with relevant agencies and beneficiary communities. The plan has been approved in the CCAD minister's meeting organized on 27 October in Santo Domingo, Dominican Republic (see Attachment-6)
2.4 Support implementation of the pilot projects (10%).	<ul style="list-style-type: none"> ➤ JICA Headquarters called for a public announcement for the selection of the Japanese consultant team for finalizing the implementation plan of pilot projects and implementing the plan 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ The Japanese consultant team was selected. ➤ The consultant team prepared the draft implementation plan of the pilot projects, which has been approved as shown in 2.3 above.
2.5 Evaluate and analyze the results of pilot projects (i.e. financial sustainability, impact, lessons learnt, etc.) and compile their lessons learnt (0%).	<ul style="list-style-type: none"> ➤ This activity was not scheduled for this semester. 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ This activity was not scheduled for this semester.

Activities (% progress)	Progress until the previous semester	Progress during this period
2.6 Collect examples of good practices related to sustainable ecosystem conservation in the region with an objective of strengthening governance mechanisms in transboundary ecosystems. (25%).	➤ Information on governance of transboundary protected area was collected.	➤ This activity was modified. ➤ Information on the governance of transboundary protected areas and OECS was collected.
2.7 Develop recommendations on governance mechanisms in transboundary ecosystems (cf. Indicator 1) that can be adapted within the region based on Indicators 2.5 and 2.6. (25%).	➤ information on the governance of transboundary protected area was collected.	➤ This activity was modified. ➤ Information on the governance of transboundary protected areas and OECS was collected.
2.8 Upload the above good practice, recommendations and lesson learnt to the information platform developed in Output 1. (0%).	➤ This activity was not scheduled for this semester.	➤ This activity was modified. ➤ This activity was not scheduled for this semester.
2.9 Make recommendations for improving regional and national level-related policies based on the results obtained through the pilot projects (0%).	➤ This activity was not scheduled for this semester.	➤ This activity was not scheduled for this semester.

1-2-3 Activities of Output 3: Regional organizational and human resources capacity for conservation and utilization of biodiversity are strengthened in coordination with SICA-CCAD.

Activities (% progress)	Progress until the previous semester	Progress during this period
3.1 Evaluate and analyze training needs from SICA member countries in coordination with SICA-CCAD. (100%)	➤ A proposal of possible theme of the training was made as a result of consultation work.	➤ This activity was completed

Activities (% progress)	Progress until the previous semester	Progress during this period
3.2 In cooperation with SICA-CCAD, develop regional training programs and curricula on specific topics for the project, based on training resources in the SICA region, Japan and neighboring countries (Latin America region). (80%)	➤ A virtual training course on “Participative Biodiversity Conservation” was designed.	➤ Draft outline of SICA Country/Area-Focused Training Course in Japan (proposed period: May 2023) is prepared.
3.3 Conduct training including seminars and workshops, and review the plan based on the result of the training. (50%)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ A consultant team was contracted to carry out the virtual training course on “Participative Biodiversity Conservation”. ➤ Two workshops of the Technical Committee of Seas and Biodiversity were conducted (September 2021 as a virtual and Presential workshop and meeting in February 2022 in Panamá). 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ This activity was modified. ➤ The virtual training course on Participatory Biodiversity Conservation was held during March and May 2022. ➤ The concept of OECM (Other Effective area-based Conservation Measure) was explained during the Technical Committee of CTMyB in April, 2022.
3.4 Provide recommendations on strengthening the capacity of local organizational structures and necessary human resources to promote the conservation and use of biodiversity in the framework of CCAD. (30%).	➤ Some unofficial discussions on regional organizational structure and necessary human resources were carried out in the CCAD Secretariat.	<ul style="list-style-type: none"> ➤ This activity was modified. ➤ Discussions on the proposed organizational structure of the CCAD Secretariate with dedicated personnel were informally organized.

3-1 Achievement of Indicators of Outputs

1-3-1 Achievements of Indicators of Output 1: Construction of a Regional Computer Platform for the management and integral conservation of biodiversity in the countries that make up the SICA Region

Indicators	Achievements until last semester.	Achievements during this period	Expectations of achievements in the next semester
<p>1.1 At least 5 modules (e.g. regional information/data of biological corridors, wetlands, biodiversity) are available in the regional information platform.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ Fifteen themes were established as the contents of “Mares y Biodiversidad” in OAR. ➤ The decision of a quantitative goal and/or a modification of the indicator (evaluation indicator) is under consideration. 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ Actual datasets have been updated. ➤ Shared documents have been uploaded. ➤ The quantitative goal for this indicator was established. 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ Project newsletters as a module will be uploaded periodically
<p>1.2 More than 80% of training participants of the information platform understand its development, utilization and maintenance.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ The decision of a quantitative goal and/or a modification of the indicator (evaluation indicator) is under consideration. 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ The utilization and maintenance have been discussed at the Technical Committee (CTMyB). ➤ This indicator was modified, and the quantitative goal was established. 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ Workshops on database management are scheduled as part of the Technical Committee of Seas and Biodiversity (CTMyB) supported by IUCN Costa Rica Office.
<p>1.3 Future utilization of the project results in the region is discussed and shared among the member countries through CCAD framework.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ No particular achievement to report 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ This indicator was added. ➤ The project results are reported and discussed during the council of ministers and Technical Committee (CTMyB). 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ The project progress will be uploaded to OAR to share the progress with the member countries.

1-3-2 Achievements of Indicators of Output 2: Socialization of the Pilot Projects' results as good practices and lessons learned with the small-scale approach of local communities and indigenous peoples, from the perspective of sustainable development, and proposals for the implementation of regional policy and national policies.

Indicators	Achievements until last semester	Achievements during this period	Expectations of achievements in the next semester
2.1 In the 4 pilot project areas, models for sustainable ecosystem conservation in transboundary areas are compiled as lesson-learned case studies.	➤ The decision of a quantitative goal and/or a modification of the indicator is under consideration.	➤ This indicator was modified, and the quantitative goal was established.	➤ Draft lesson- learned on sustainable ecosystem conservation in transboundary areas will be prepared.
2.2 Establish a mechanism for cross-border exchange of information and sharing of experience and knowledge among the selected pilot communities in each pilot region.	➤ The decision of a quantitative goal and/or a modification of the indicator (evaluation indicator) is under consideration.	➤ This indicator was modified.	➤ The mechanisms for cross-border exchange of information and sharing of experience and knowledge among the selected pilot communities will be tried through the pilot projects
2.3 The leaders of the pilot activities in each community understand the experience and good practice in the pilot communities within other countries.	➤	➤ The indicator was added.	➤ The good practice in the pilot communities within the different countries will be shared between the leaders of the communities

1-3-3 Achievements of Indicators of Output 3: Strengthening of the regional capacity of organization and human resources for the conservation and use of biodiversity in coordination with SICA-CCAD.

Indicators	Achievements until last semester	Achievements during this period	Expectations of achievements in the next semester
3.1 80% or more of training participants rate their level of knowledge increased as a result of the training program.	<ul style="list-style-type: none"> ➤ The virtual training course “Participatory Biodiversity Conservation” was planned and the contract for implementation was signed with FLACSO (international/regional academic organization). ➤ The themes of the training course for Output 2 were identified as the results of the consultant works. 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ This indicator was modified, and the quantitative goal was established. ➤ 82% of the registered persons have completed the virtual training course. The majority of participants (88%) rated the course was exceptionally useful or highly useful. 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ A country-focused training course for SICA will be organized in May 2023 (JICA Tokyo).
3.2 At least 8 regional seminars and workshops are held to share SICA's knowledge and experience.	<ul style="list-style-type: none"> ➤ The Seas and Biodiversity Technical Committee was held three times (May and September 2021 by virtual, and on-site meeting in February 2022). 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ This indicator was modified, and the quantitative goal was established. ➤ Knowledge and experience were shared at the Technical meeting of CTMyB (April 2022 and Oct 2022) and other donor events (GIZ, April 2022 and AFOLU, Oct 2022). 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ A series of seminars, workshops and training programs will be held for sharing SICA's knowledge and experience.

1-4 Achievement of the Indicator of the Project Purpose

1.4.1 Project Objective: Management capacity on utilization and conservation of biodiversity of member countries in coordination with SICA-CCAD is strengthened.

Indicators	Achievements until last semester.	Achievements during this period	Expectations of achievements in the next semester
1. Based on the lessons learned from Outputs 1-3, sustainable models and approaches that are considered useful to promote ecosystem and biodiversity conservation in transboundary areas and protected areas are compiled into policy recommendations.	➤ OAR received 4374 visits between march 2021 and February 2022.	➤ These indicators were modified.	➤ Policy issues will be integrated into the outline of a country-focused training course for SICA (May 2023). ➤ The policy recommendations will be discussed based on the lessons learned obtained through the progress of the pilot project.
2. Policy recommendations are submitted to CCAD as a collective effort and consensus of the stakeholders (i.e. villages and counterparts), and their importance is discussed and recognized at the ministers' meeting.			

1.4.2 Discussions from the point of view of the 5 CAD evaluation criteria¹

(1) Relevance

The conservation of biodiversity is related to the following goals, strategies and plans at international, regional and national levels.

International Level:

- Sustainable Development Goals (SDGs)
Goals 14 and 15 of the Sustainable Development Goals (SDGs). Likewise, at the level of activities to be developed, they may be relevant to the following SDG goals; Goals 1, 2, 6, 12, 14, 15, and 17.
- Aichi Targets

¹ Development Assistance Committee of the Organization for Economic Cooperation and Development (OECD).

Regional Level:

The conservation of biodiversity in the transboundary area is aligned with the Strategic Lines and Actions “Seas and Biodiversity” of the “2021-2025 Framework Regional Environmental Strategy (ERAM)”

National Level:

- All National Development Plans or an equivalent document, from the 8 CCAD countries, involve the issue of sustainable use of natural resources.
- All 8 CCAD countries have ratified the Convention for Biological Diversity.
- All 8 countries have the National Strategic Biodiversity Plan or an equivalent document.
- All 8 CCAD countries have ratified other international conventions relevant to the conservation of biodiversity and the sustainable use of natural resources such as CITES, Ramsar convention, and the United Nations Framework Convention on Climate Change.

(2) Effectiveness

No issue to report. The effectiveness will be evaluated in parallel mainly with the implementation of the pilot projects.

(3) Efficiency

No issue to report. The efficiency will be evaluated in parallel mainly with the implementation of the pilot projects.

(4) Impact

No issue to report. The impact will be evaluated in parallel mainly with the implementation of the pilot projects.

(5) Sustainability

No issue to report. The sustainability will be evaluated in parallel mainly with the implementation of the pilot projects.

1-5 Changes of Risks and Actions for Mitigation

The followings are the changes in risks and actions for mitigating and recovering those risks.

- Due to the pandemic of the new coronavirus, almost all activities have been delayed. The project team will make effort to recover the delay as much as possible with the limited time and resources given for the project.
- There is a risk that the recent price increase and sharp fluctuation in exchange rates will put pressure on project operations. The Project team will closely monitor price increases and fluctuations in the exchange and, if necessary, will revise the project activities accordingly.

1-6 Progress of Actions undertaken by JICA

No particular issue to report.

1-7 Progress of Actions undertaken by the CCAD Secretariat and the counterpart Countries

No particular issue to report.

1-8 Progress of Environmental and Social Considerations (if applicable)

No particular issue to report.

1-9 Progress of Considerations on Gender/Peace Building/Poverty Reduction (if applicable)

No particular issue to report.

1-10 Other remarkable/considerable issues related/affect to the project (such as other JICA's projects, activities of counterparts, other donors, private sectors, NGOs etc.)

No particular issue to report.

2. Delay of Work Schedule and/or Problems (if any)

The issues related to the delay of work schedule and/or problems is as described in 1-5 above.

3. Modification of the Project Implementation Plan

3-1 PO

PO has been modified accordingly with the modification of PDM described in 3-2. The PO Version 02 is as attached (Attachment-2)

3-2 Other modifications on detailed implementation plan

PDM has been modified and approved by the JCC as described in the minutes of the meeting (attachment--5) and PDM version 02 (attachment-1)

4. Preparation of the CCAD Secretariat and the Governments of the CCAD Member Countries toward after completion of the Project.

No particular issue to report.

II. Project Monitoring Form 3-2 & 3-3

The Monitoring Form 3-2 & 3-3 are as attached (Attachment-3 & 4).

End

<Attachment>

Attachment-1 Monitoring Form 1 PDM version 02

Attachment-2 Monitoring Form 2 PO version 02

Attachment-3 Monitoring Form 3-2 Monitoring version 06

Attachment-4 Monitoring Form 3-3 Monitoring version 06

Attachment-5 Minutes of Meeting of JCC (06 April 2022)

Attachment-6 Minutes of Meeting of JCC (26 October 2022, excerpts of relevant parts of the project)

Attachment-1

Monitoring Form 1 PDM version 02

Project Design Matrix**(PDM Version 2.0 dated 06 April 2022)****Project Title:****Project for Capacity Development on Integrated Management and Conservation of Biodiversity at regional level in SICA Region****Implementing Agency: Eight (8) CCAD Member Countries in coordination with SICA-CCAD****Target Group: Relevant personnel of CCAD member countries in coordination with SICA-CCAD****Period of Project: five (5) years****Project Site: SICA region (eight (8) member countries in coordination with SICA-CCAD)**

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption
Overall Goal			
Regional institutional framework and governance on biodiversity conservation and sustainable use in the SICA region is strengthened.	1. Regional Environmental Strategy Framework (ERAM) is revised by utilizing information and database of the regional information platform.	CCAD publication/reports Publication/Website	SICA and its member countries keep high priority on biodiversity conservation and sustainable resource utilization.
Project Purpose			
Management capacity on utilization and conservation of biodiversity of member countries in coordination with SICA-CCAD is strengthened.	1. Based on the lessons learned from Outputs 1-3, sustainable models and approaches that are considered useful to promote ecosystem and biodiversity conservation in transboundary areas and protected areas are compiled into policy recommendations. 2. Policy recommendations are submitted to CCAD as a collective effort and consensus of the stakeholders (i.e. villages and counterparts), and their importance is discussed and recognized at the ministers' meeting.	Interview to C/Ps CCAD publication/reports Publication/Website	Budgets of SICA and its member countries are not drastically reduced.
Outputs			
1. A regional information platform for conservation and utilization of biodiversity in the SICA region is established.	1.1 At least 5 modules (e.g. regional information / data of biological corridors, wetlands, biodiversity) are available in the regional information platform.	Records of the Project activities.	-No drastic change in management administration

Monitoring Form 01

	1.2 More than 80% of training participants of the information platform understand its development, utilization and maintenance.	Questionnaire/Interview Survey	system/structure in ES-CCAD -No devastating natural disasters than assumed will occur in the pilot sites
	1.3 Future utilization of the project results in the region is discussed and shared among the member countries through CCAD framework.		
2. Results of pilot projects such as good practice and lesson learned focused on small scale rural community and indigenes people are socialized, from the view point of sustainable development and proposal for implementation of regional and national policies	2.1 In the 4 pilot project areas, models for sustainable ecosystem conservation in transboundary areas are compiled as lesson learned case studies.	Records of the Project activities.	
	2.2 Establish a mechanism for cross-border exchange of information and sharing of experience and knowledge among the selected pilot communities in each pilot region.	Questionnaire/Interview Survey	
	2.3 The leaders of the pilot activities in each community understand the experience and good practice in the pilot communities within other countries.		
3. Regional organizational and human resources capacity for conservation and utilization of biodiversity are strengthened in coordination with SICA-CCAD.	3.1 80% or more of training participants rate their level of knowledge increased as a result of the training program.	Questionnaire to the participants.	
	3.2 At least 8 regional seminars and workshops are held to share SICA's knowledge and experience.	Seminar/Workshop reports Project reports	
Activities	Inputs		Pre-Conditions
1.1 Evaluate and analyze current state of existing data such as biological corridors, wetlands, biodiversity database etc. in the region (i.e. regional and national level)	The Japanese Side	The SICA Side	-All the SICA member countries assign their directors of biodiversity or equivalent level senior officer as the focal points of the project -SICA and its member countries agree to share existing data for the regional information platform
1.2 Develop design for a regional information platform as a multi biodiversity platform for data exchange and information sharing among the SICA member countries, particularly for biological corridors, wetlands, biodiversity.	1. Experts 1) From March 2019 to April 2022 -Chief Advisor/Ecosystem Management -Project Coordinator/Training Planning/Institutional Capacity -Other Short-Term Experts (e.g. GIS/Data Base, Remote sensing, Agro-forestry, Eco-tourism, etc.) -Local Coordinator 2) From May 2022 【Long-term expert】 ▪ Project coordinator : In addition to the arrangement of meetings, he will also be responsible for coordination and collaboration with Japanese consultants	1. Counterpart -Project Director -Project Coordinator -Member of Regional Technical Committee on Seas and Biodiversity of CCAD -Other Members for each activity 2. Facility Office space for the experts with necessary equipment, Internet.	
1.3 Build the regional information platform			Issues and countermeasures
1.4 In coordination with SICA-CCAD, train selected staff of the member countries on the establishment, use and maintenance of national information platforms (e.g. collection, processing and use of available information).			

1.5 Compile a "Regional Biodiversity Outlook (Preparatory Guidelines / Summary)" using the platform.	and implementation of Output 1 (establishment of a biodiversity platform) and Output 3 (capacity building through training).		
2.1 Develop selection criteria for pilot projects of sustainable economic development which contribute to both improvement of livelihoods at community level and biodiversity conservation	<p>【Consultant team】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ Team leader (chief advisor): Specialized in ecosystem management / regional collaboration, lead ecosystem conservation and regional collaboration, consolidating all outputs of the project. ▪ Expert of Community empowerment and cooperation: In charge of strengthening communication and collaboration between pilot communities within each region. ▪ Expert of Participatory livelihood enhancement: In charge of supporting pilot activities in each community. 		
2.2 Develop proposals for pilot projects with pilot community stakeholders (e.g., PES, ABS, agroforestry, agro-branding, promotion of ecotourism/agricultural tourism, development of environmentally sustainable local economic alternatives in priority areas such as wetland ecosystems, protected areas and biological corridors).			
2.3 Select pilot projects and make decisions of actual supports for the pilot projects			
2.4 Support implementation of the pilot projects	2 Equipment		
2.5 Evaluate and analyze the results of pilot projects (i.e. financial sustainability, impact, lessons learnt, etc.) and compile their lessons learnt.	<p>-Equipment for construction of a regional information platform for conservation and utilization of biodiversity</p> <p>-Other necessary equipment</p>		
2.6 Collect examples of good practices related to sustainable ecosystem conservation in the region with an objective of strengthening governance mechanisms in transboundary ecosystems.	3. Training		
2.7 Develop recommendations on governance mechanisms in transboundary ecosystems (cf. Indicator 1) that can be adapted within the region based on Indicators 2.5 and 2.6.	<p>Trainings in Japan and/or other countries</p> <p>-Politics and governance of biodiversity management and conservation</p> <p>-Management of national park, world heritage, protected areas and biological corridor</p>		
2.8 Upload the above good practice, recommendations and lesson learnt to the information platform developed in Output 1.	<p>-Compensatory measures for biodiversity (e.g. Biodiversity offsetting)</p> <p>-Management and conservation of wetlands.</p>		
2.9 Make recommendations for improving regional and national level related policies based on the results obtained through the pilot projects	<p>-Management and conservation of biodiversity in collaboration among academic, private and public sectors.</p>		
3.1 Evaluate and analyze training needs from SICA member countries in coordination with SICA-CCAD.	<p>- Environmental conservation by local governments with the focus on harmony between urban environment and ecosystem</p>		

<p>3.2 In cooperation with SICA-CCAD, develop regional training programs and curricula on specific topics for the project, based on training resources in the SICA region, Japan and neighboring countries (Latin America region).</p>			
<p>3.3 Conduct training including seminars and workshops, and review the plan based on the result of the training</p>			
<p>3.4 Provide recommendations on strengthening the capacity of local organizational structures and necessary human resources to promote the conservation and use of biodiversity in the framework of CCAD.</p>			

Matriz de Diseño del Proyecto (PDM)

(Ver 2.0 Fecha: 06 de abril 2022)

Título del Proyecto:

Proyecto de Desarrollo de las Capacidades en Manejo y Conservación Integral de la Biodiversidad al nivel regional en la Región del SICA

Órgano Ejecutor:

Ministerios de medio ambiente de los ocho países de la CCAD en coordinación con la Secretaría Ejecutiva de la CCAD

Grupo objeto:

Los 8 países de la CCAD, Funcionarios de los ministerios de medio ambiente de los países, miembros de la comisión técnica regional de mares y biodiversidad de la CCAD

Período de proyecto:

Cinco (5) años

Sitio de Proyecto:

Los ocho países de la CCAD

Resumen del proyecto	Indicadores verificables	Medios de verificación	Condiciones previas
Objetivo Superior			
La institucionalidad regional y gobernanza para la conservación de la biodiversidad y su uso sostenible en la región SICA son fortalecidas.	1. La Estrategia Regional Ambiental Marco (ERAM) es revisada y actualizada para la utilización de las informaciones y datos en la plataforma informática regional.	Publicación/Reportes de la CCAD Website	La CCAD-SICA mantiene la alta prioridad en la conservación de la biodiversidad y su uso sostenible.
Objetivo del Proyecto			
Se fortalecerán las capacidades en manejo y conservación integral de la biodiversidad nacional y regional, en los países que conforman la Región del SICA.	1. Con base en las lecciones aprendidas de los resultados esperados 1 a 3, los modelos y enfoques sostenibles que se consideran útiles para promover la conservación de los ecosistemas y la biodiversidad en las zonas transfronterizas y las áreas protegidas se recopilan en recomendaciones políticas.	Entrevistas a los C/Ps Publicación/Reportes de la CCAD Website	El presupuesto de la CCAD-SICA no será drásticamente reducido.
	2. Las recomendaciones políticas se presentan a la CCAD como un esfuerzo colectivo y un consenso de las partes interesadas (es decir, las comunidades y las contrapartes), y su importancia se discute y reconoce en la reunión de ministros.		

Resultados Esperados			
<p>1. Construcción de una Plataforma Informática Regional para el manejo y la conservación integral de la biodiversidad en los países que conforman la Región del SICA</p>	<p>1.1 Por lo menos 5 módulos (Ej. Información regional / datos de corredores biológicos, humedales, biodiversidad) están disponibles en la plataforma informática regional.</p>	<p>Registro de las actividades del Proyecto</p>	<p>-No hay cambio drástico en el manejo del sistema administrativo y estructura de la Secretaría Ejecutiva de la CCAD -No ocurren los desastres naturales drásticos en los sitios del Proyecto</p>
	<p>1.2 Más del 80% de los participantes en la formación de la plataforma de información comprenden su desarrollo, utilización y mantenimiento.</p>	<p>Cuestionarios /entrevistas</p>	
	<p>1.3 La utilización futura de los resultados del proyecto en la región se discute y se comparte entre los países miembros a través del marco de la CCAD.</p>		
<p>2. Socialización de los resultados de los Proyectos Pilotos como buenas prácticas y lecciones aprendidas con el enfoque de pequeña escala de comunidades locales y pueblos indígenas, desde la perspectiva del desarrollo sostenible, y propuestas para la implementación de la política regional y las políticas nacionales.</p>	<p>2.1 En las 4 zonas del proyecto piloto, se recopilan modelos de conservación sostenible de los ecosistemas transfronterizos como estudios de casos de lecciones aprendidas.</p>	<p>Registro de las actividades del Proyecto.</p>	
	<p>2.2 Establecer un mecanismo para el intercambio transfronterizo de información y la puesta en común de experiencias y conocimientos entre las comunidades piloto seleccionados en cada región piloto.</p>	<p>Cuestionarios /entrevistas</p>	
	<p>2.3 Líderes de las actividades piloto de cada comunidad conocen las experiencias y buenas prácticas de las comunidades dentro de los proyectos piloto en otros países.</p>		
<p>3. Fortalecimiento de la capacidad regional de organización y recursos humanos para la conservación y utilización de la biodiversidad en coordinación con el SICA-CCAD.</p>	<p>3.1 El 80% o más de los participantes en la formación aumentaron su nivel de conocimientos como resultado del programa de formación.</p>	<p>Cuestionarios /entrevistas.</p>	
	<p>3.2 Se celebran al menos 8 seminarios y talleres regionales para compartir los conocimientos y la experiencia de SICA.</p>	<p>Seminarios Reportes de talleres Reportes del Proyecto</p>	

Actividades	Insumos		Condiciones Previas	
<p>1.1 Diagnóstico, análisis y evaluación de la situación actual de los datos e informaciones sobre corredores biológicos, humedales y la biodiversidad en la región (al nivel regional y nacional)</p>	<p style="text-align: center;">Parte Japonesa</p> <p>1. Expertos (1) Desde marzo 2019-abril 2022 - Líder del Equipo Japonés/Manejo Integral de Ecosistemas - Coordinador del Proyecto/Plan de Capacitación y Fortalecimiento de Institucionalidad Regional - Expertos de Corto Plazo (ej. GIS/Base de Datos, Sensoramiento Remoto, Agroforestal, Ecoturismo, etc.) - Coordinador Local de origen centroamericano o dominicano (2) Desde mayo 2022</p>		<p>Parte de SICA CCAD</p> <p>1. Contrapartes -Director del Proyecto -Coordinador del Proyecto -Los miembros de la Comisión Técnica Regional de Mares y Biodiversidad CCAD -Otros técnicos relacionados al Proyecto</p> <p>2. Facilidades Espacio de trabajo para los expertos y contrapartes con los equipos necesarios, internet, teléfono en la oficina de la Secretaría Ejecutiva de la CCAD.</p>	<p>-Los países miembros de la CCAD asignan los miembros de la Comisión Técnica Regional de Mares y Biodiversidad con presencia constante. -Los países miembros de la CCAD están de acuerdo con compartimiento de los datos existentes para la construcción de la plataforma informática regional de la biodiversidad.</p>
<p>1.2 Diseño y construcción del sistema informático regional, incluyendo corredores biológicos, humedales y biodiversidad.</p>	<p>[Experto a largo plazo] - Coordinador del proyecto : Además de la organización de las reuniones, también se encargará de la coordinación y la colaboración con los consultores japoneses y de la ejecución del resultado esperado 1 (creación de una plataforma de biodiversidad) y del resultado esperado 3 (creación de capacidades mediante la formación).</p>		<p>Temas y contramedidas</p>	
<p>1.3 Construcción de la Plataforma Informática y generación de conocimientos que contribuyan al establecimiento del “Mecanismo Regional de Facilitación para el Convenio sobre La Diversidad Biológica (CHM)”</p>	<p>[Equipo de consultores japoneses] - Jefe de equipo (asesor principal): Especializado en gestión de ecosistemas/colaboración regional, dirige la conservación de los ecosistemas y la colaboración regional, consolidando todos los resultados del proyecto.</p>			
<p>1.4 En coordinación con el SICA-CCAD, formar al personal seleccionado de los países miembros en el establecimiento, uso y mantenimiento de las plataformas nacionales de información (por ejemplo, recopilación, procesamiento y uso de la información disponible).</p>	<p>- Experto en Potenciación y cooperación de las comunidades: Encargado de reforzar la comunicación y la colaboración entre las</p>			
<p>1.5 Elaborar una "Perspectiva regional de la biodiversidad (directrices preparatorias / resumen)" utilizando la plataforma.</p>				

<p>2.1 Crear un sistema para la convocatoria regional de propuestas técnicas sobre proyectos pilotos en la región con los criterios de selección establecidos por la Comisión Técnica Regional de Mares y Biodiversidad CCAD</p>	<p>comunidades piloto dentro de cada región. - Experto en Mejora participativa de los medios de vida: Encargado de apoyar las actividades piloto en cada comunidad.</p>	
<p>2.2 Desarrollar propuestas de proyectos pilotos con las partes interesadas de la comunidad piloto (por ejemplo, PSA, APB, agroforestería, marca agrícola, promoción del ecoturismo/turismo agrícola, desarrollo de alternativas económicas locales ambientalmente sostenibles en áreas prioritarias como ecosistemas de humedales, áreas protegidas y corredores biológicos).</p>	<p><u>2. Equipos y materiales</u> - Equipos para la construcción de la plataforma informática regional de biodiversidad - Equipo y materiales necesarios para los proyectos pilotos - Otros equipos necesarios</p>	
<p>2.3 Aprobación y selección de proyectos pilotos y los insumos necesarios para su ejecución.</p>	<p><u>3. Capacitación (en Japón o en otros países)</u> - Política y gobernanza del manejo y conservación de la biodiversidad - Manejo de parques nacionales, patrimonios mundiales, áreas protegidas y corredores biológicos</p>	
<p>2.4 Implementación de los proyectos piloto aprobados.</p>	<p>- Medidas compensatorias para la biodiversidad (Biodiversity Offsetting) - Manejo y conservación de los humedales</p>	
<p>2.5 Evaluación de los proyectos piloto</p>	<p>- Manejo y conservación de la biodiversidad con la colaboración entre industria-academia-gobierno</p>	
<p>2.6 Recoger ejemplos de buenas prácticas relacionadas con la conservación sostenible de los ecosistemas en la región con el objetivo de reforzar los mecanismos de gobernanza en los ecosistemas transfronterizos.</p>	<p>- Conservación ambiental por gobiernos locales con el enfoque a la armonía entre medio ambiente urbano y ecosistema.</p>	
<p>2.7 Elaborar recomendaciones sobre los mecanismos de gobernanza en los ecosistemas transfronterizos (véase el Indicador 1) que puedan adaptarse en la región sobre la base de los Indicadores 2.5 y 2.6.</p>		
<p>2.8 Subir las buenas prácticas, recomendaciones y lecciones aprendidas anteriores a la plataforma de información desarrollada en</p>		

<p>el resultado 1.</p>			
<p>2.9 Propuestas para la mejor implementación de las políticas regionales y nacionales, en base a los resultados generados</p>			
<p>3.1 Diagnóstico y análisis de las necesidades de capacitación de los recursos humanos</p>			
<p>3.2 En cooperación con el SICA-CCAD, desarrollar programas regionales de formación y planes de estudio sobre temas específicos para el proyecto, basándose en los recursos de formación de la región del SICA, Japón y los países vecinos (región de América Latina).</p>			
<p>3.3 Ejecución del programa de capacitación, incluyendo seminarios, talleres y la revisión de los resultados.</p>			
<p>3.4 Proporcionar recomendaciones sobre el fortalecimiento de la capacidad de las estructuras organizativas locales y los recursos humanos necesarios para promover la conservación y el uso de la biodiversidad en el marco de la CCAD.</p>			

Attachment-2

Monitoring Form 2 PO version 02

Plan of Operation

Project Title: Project for Capacity Development on Integrated Management and Conservation of Biodiversity at regional level in SICA Region

Inputs	Year	1st Year				2nd Year				3rd Year				4th Year				5th Year				Remarks	Monitoring	
		I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV		Issue	Solution
Expert																								
From Mar 2019 - April 2022																								
Chief Advisor/Ecosystem Management	Plan																							
	Actual																							
Project Coordinator/Training Planning/Institutional Capacity	Plan																							
	Actual																							
Short term experts	Plan																							
	Actual																							
From May 2022																								
[Long-term expert]																								
Project Coordinator/Training Planning/Institutional Capacity	Plan																							
	Actual																							
[Consultant team]																								
Team leader (chief advisor): Specialized in ecosystem management / regional collaboration	Plan																							
	Actual																							
Expert of community empowerment and cooperation (1)	Plan																							
	Actual																							
Expert of community empowerment and cooperation (2)	Plan																							
	Actual																							
Expert of Participatory livelihood enhancement (1)	Plan																							
	Actual																							
Expert of Participatory livelihood enhancement (2)	Plan																							
	Actual																							
Equipment																								
	Plan																							
	Actual																							
Training in Japan																								
Trainings in Japan	Plan																							
	Actual																							
In-country/Third country Training																								
	Plan																							
	Actual																							
Activities																								
Sub-Activities																								
Output 1: A regional information platform for conservation and utilization of biodiversity in the SICA region is established.																								
1.1 Evaluate and analyze current country of existing data such as biological corridors, wetlands, biodiversity database etc. in the region (i.e. regional and national level)	Plan																							
	Actual																					X	X	
1.2 Develop design for a regional information platform as a multi biodiversity platform for data exchange and information shearing among the SICA member countries, particularly for biological corridors, wetlands, biodiversity.	Plan																							
	Actual																					X	X	
1.3 Build the regional information platform	Plan																							
	Actual																					X	X	

Output 3: 3. Regional organizational and human resources capacity for conservation and utilization of biodiversity are strengthened in coordination with SICA-CCAD.																														
3.1 Evaluate and analyze training needs from SICA member countries in coordination with SICA-CCAD.	Plan	[Gantt chart for 3.1 Plan]																									X	X		
	Actual	[Gantt chart for 3.1 Actual]																												
3.2 In cooperation with SICA-CCAD, develop regional training programs and curricula on specific topics for the project, based on training resources in the SICA region, Japan and neighboring countries (Latin America region).	Plan	[Gantt chart for 3.2 Plan]																									X	X		
	Actual	[Gantt chart for 3.2 Actual]																												
3.3 Conduct training including seminars and workshops, and review the plan based on the result of the training	Plan	[Gantt chart for 3.3 Plan]																									X	X		
	Actual	[Gantt chart for 3.3 Actual]																									X	X		
3.4 Provide recommendations on strengthening the capacity of local organizational structures and necessary human resources to promote the conservation and use of biodiversity in the framework of CCAD.	Plan	[Gantt chart for 3.4 Plan]																									X	X		
	Actual	[Gantt chart for 3.4 Actual]																												
Duration / Phasing																														
Monitoring Plan	Year	1st Year				2nd Year				3rd Year				4th Year				5th Year				Remarks	Issue	Solution						
		I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV									
Monitoring		[Gantt chart for Monitoring]																												
Joint Coordinating Committee	Plan	[Gantt chart for Joint Coordinating Committee Plan]																												
Set-up the Detailed Plan of Operation	Actual	[Gantt chart for Set-up the Detailed Plan of Operation Actual]																												
Submission of Monitoring Sheet	Plan	[Gantt chart for Submission of Monitoring Sheet Plan]																												
Monitoring Mission from Japan	Actual	[Gantt chart for Monitoring Mission from Japan Actual]																												
Joint Monitoring	Plan	[Gantt chart for Joint Monitoring Plan]																												
Post Monitoring	Actual	[Gantt chart for Post Monitoring Actual]																												
Reports/Documents		[Gantt chart for Reports/Documents]																												
Project Completion Report	Plan	[Gantt chart for Project Completion Report Plan]																												
Public Relations	Actual	[Gantt chart for Public Relations Actual]																												
Public Relation activities	Plan	[Gantt chart for Public Relation activities Plan]																												
	Actual	[Gantt chart for Public Relation activities Actual]																												

Plan de Operaciones

Título del Proyecto: Proyecto de Desarrollo de las Capacidades en Manejo y Conservación Integral de la Biodiversidad al nivel regional en la Región del SICA

Insumos	Año	Monitoreo																				Comentarios	Obstáculos	Soluciones	
		1er Año				2º Año				3er Año				4º Año				5º Año							
		I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV				
Expert																									
Desde mar 2019 hasta abril 2022																									
Jefe Asesor/Manejo de Ecosistemas	Plan																								
	Actual																								
Coordinador de Proyecto/Planificación de entrenamiento/Capacidad Institucional	Plan																								
	Actual																								
Expertos de Corto Plazo	Plan																								
	Actual																								
Desde mayo 2022																									
[Long-term expert]																									
Project Coordinator/Training Planning/Institutional Capacity	Plan																								
	Actual																								
[Consultant team]																									
Team leader (chief advisor): Specialized in ecosystem management / regional collaboration	Plan																								
	Actual																								
Expert of community empowerment and cooperation (1)	Plan																								
	Actual																								
Expert of community empowerment and cooperation (2)	Plan																								
	Actual																								
Expert of Participatory livelihood enhancement (1)	Plan																								
	Actual																								
Expert of Participatory livelihood enhancement (2)	Plan																								
	Actual																								
Equipo																									
	Plan																								
	Actual																								
	Plan																								
	Actual																								
Entrenamiento en Japón																									
Entrenamiento en Japón	Plan																								
	Actual																								
Entrenamiento en el País/Tercer País																									
	Plan																								
	Actual																								
Actividades																						Organización responsable		Logros	Obstáculos y contramedidas
Sub-Actividades																						Japón	SICA		
Resultado 1: Construcción de una Plataforma Informática Regional para el manejo y la conservación integral de la biodiversidad en los países que conforman la Región del SICA																									
1.1 Diagnóstico, análisis y evaluación de la situación actual de los datos e informaciones sobre corredores biológicos, humedales y la biodiversidad en la región (al nivel regional y nacional)	Plan																								
	Actual																						X	X	
1.2 Diseño y construcción del sistema informático regional, incluyendo corredores biológicos, humedales y biodiversidad.	Plan																								
	Actual																						X	X	
1.3 Construcción de la Plataforma Informática y generación de conocimientos que contribuyan al establecimiento del "Mecanismo Regional de Facilitación para el Convenio sobre La Diversidad Biológica (CHM)"	Plan																								
	Actual																						X	X	

Resultado 3. Desarrollo de las Capacidades de los Recursos Humanos y Fortalecimiento Institucional a nivel regional en el marco de la CCAD, para la promoción de la implementación de la ERAM																										
3.1 Diagnóstico y análisis de las necesidades de capacitación de los recursos humanos	Plan																									
	Actual																						X	X		
3.2 En cooperación con el SICA-CCAD, desarrollar programas regionales de formación y planes de estudio sobre temas específicos para el proyecto, basándose en los recursos de formación de la región del SICA, Japón y los países vecinos (región de América Latina).	Plan																									
	Actual																						X	X		
3.3 Ejecución del programa de capacitación, incluyendo seminarios, talleres y la revisión de los resultados.	Plan																									
	Actual																						X	X		
3.4 Proporcionar recomendaciones sobre el fortalecimiento de la capacidad de las estructuras organizativas locales y los recursos humanos necesarios para promover la conservación y el uso de la biodiversidad en el marco de la CCAD.	Plan																									
	Actual																						X	X		
Duración / Fases																										
Plan de Monitoreo																										
Monitoreo																										
Comité Coordinador Conjunto																										
Elaborar el Plan de Operaciones detallado																										
Entrega de Hojas de Monitoreo																										
Misiones de Monitoreo de Japón																										
Monitoreo conjunto																										
Post Monitoreo																										
Reportes/Documentos																										
Reporte de Finalización de Proyecto																										
Relaciones Públicas																										
Actividades de Relaciones Públicas																										

Attachment-3

Monitoring Form 3-2 Monitoring version 06

Project Design Matrix

PDM Version 2.0 dated 06 April 2022

Monitoring Version 06 dated 24 November 2022

Project Title:**Project for Capacity Development on Integrated Management and Conservation of Biodiversity at regional level in SICA Region****Implementing Agency: Eight (8) CCAD Member Countries in coordination with SICA-CCAD****Target Group: Relevant personnel of CCAD member countries in coordination with SICA-CCAD****Period of Project: five (5) years****Project Site: SICA region (eight (8) member countries in coordination with SICA-CCAD)**

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption	Achievement	Remark
Overall Goal					
Regional institutional framework and governance on biodiversity conservation and sustainable use in the SICA region is strengthened.	1. Regional Environmental Strategy Framework (ERAM) is revised by utilizing information and database of the regional information platform.	CCAD publication/reports Publication/Web site	SICA priorities member countries keep high priority on biodiversity conservation and sustainable resource utilization.		
Project Purpose					
Management capacity on utilization and conservation of biodiversity of member countries in coordination with SICA-CCAD is strengthened.	1. Based on the lessons learned from Outputs 1-3, sustainable models and approaches that are considered useful to promote ecosystem and biodiversity conservation in transboundary areas and protected areas are compiled into policy recommendations. 2. Policy recommendations are submitted to CCAD as a collective effort and consensus of the stakeholders (i.e. villages and counterparts), and their importance is	Interview to C/Ps CCAD publication/reports Publication/Web site	Budgets of SICA and its member countries are not drastically reduced.	<ul style="list-style-type: none"> ➤ Policy issues will be integrated into the outline of a country-focused training course for SICA (May 2023). ➤ The policy recommendations will be discussed based on the lessoned-learned obtained through the progress of the pilot project. 	

Monitoring Form 3-2

	discussed and recognized at the ministers' meeting.				
Outputs				➤	
1. A regional information platform for conservation and utilization of biodiversity in the SICA region is established.	1.1 At least 5 modules (e.g. regional information / data of biological corridors, wetlands, biodiversity) are available in the regional information platform.	Records of the Project activities.	-No drastic change in management administration system/structure in ES-CCAD -No devastating natural disasters than assumed will occur in the pilot sites	➤	Project newsletters as a module will be uploaded periodically
	1.2 More than 80% of training participants of the information platform understand its development, utilization and maintenance.	Questionnaire/Interview Survey		➤	Workshops on database management are scheduled as part of the Technical Committee of Seas and Biodiversity (CTMyB) supported by IUCN Costa Rica Office.
	1.3 Future utilization of the project results in the region is discussed and shared among the member countries through CCAD framework.			➤	The project progress will be uploaded to OAR to share the progress with the member countries.
2. Results of pilot projects such as good practice and lesson learned focused on small scale rural community and indigenous people are socialized, from the view point of sustainable development and proposal for implementation of regional and national policies	2.1 In the 4 pilot project areas, models for sustainable ecosystem conservation in transboundary areas are compiled as lesson learned case studies.	Records of the Project activities.		➤	Draft lesson- learned on sustainable ecosystem conservation in transboundary areas will be prepared.
	2.2 Establish a mechanism for cross-border exchange of information and sharing of experience and knowledge among the selected pilot communities in each pilot region.	Questionnaire/Interview Survey		➤	The mechanisms for cross-border exchange of information and sharing of experience and knowledge among the selected pilot communities will be tried through the pilot projects
	2.3 The leaders of the pilot activities in each community understand the experience and good practice in the pilot communities within other countries.			➤	The good practice in the pilot communities within the different countries will be shared between the leaders of the communities
3. Regional organizational and human resources capacity for conservation and utilization of biodiversity are strengthened in coordination with SICA-CCAD.	3.1 80% or more of training participants rate their level of knowledge increased as a result of the training program.	Questionnaire to the participants.		➤	A country-focused training course for SICA will be organized in May 2023 (JICA Tokyo).
	3.2 At least 8 regional seminars and workshops are held to share SICA's knowledge and experience.	Seminar/Workshop reports Project reports		➤	A series of seminar, workshop and training program will be held for sharing SICA's knowledge and experience.

Activities	Inputs		Pre-Conditions		
	The Japanese Side	The SICA Side	-All the SICA member countries assign their directors of biodiversity or equivalent level senior officer as the focal points of the project -SICA and its member countries agree to share existing data for the regional information platform	➤ Datasets have been updated. ➤ Shared documents have been uploaded.	
1.1 Evaluate and analyze current state of existing data such as biological corridors, wetlands, biodiversity database etc. in the region (i.e. regional and national level)	1. Experts 1) From March 2019 to April 2022 -Chief Advisor/Ecosystem Management -Project Coordinator/Training Planning/Institutional Capacity -Other Short-Term Experts (e.g. GIS/Data Base, Remote sensing, Agro-forestry, Eco-tourism, etc.) -Local Coordinator	1. Counterpart -Project Director -Project Coordinator -Member of Regional Technical Committee on Seas and Biodiversity of CCAD -Other Members for each activity			➤ This activity was completed in the previous period.
1.2 Develop design for a regional information platform as a multi biodiversity platform for data exchange and information sharing among the SICA member countries, particularly for biological corridors, wetlands, biodiversity.	2) From May 2022 【Long-term expert】 <ul style="list-style-type: none"> ▪ Project coordinator : In addition to the arrangement of meetings, he will also be responsible for coordination and collaboration with Japanese consultants and implementation of Output 1 (establishment of a biodiversity platform) and Output 3 (capacity building through training). 【Consultant team】 <ul style="list-style-type: none"> ▪ Team leader (chief advisor): Specialized in ecosystem management / regional collaboration, lead ecosystem conservation and regional collaboration, consolidating all outputs of the project. ▪ Expert of Community empowerment and cooperation: In charge of strengthening communication and collaboration between pilot communities within each region. ▪ Expert of Participatory livelihood enhancement: In charge of supporting pilot activities in each community. 	2. Facility Office space for the experts with necessary equipment, Internet.	Issues and countermeasures	➤ This activity was completed in the previous period.	
1.3 Build the regional information platform				➤ This activity was modified. ➤ Workshops on database management are scheduled as part of the Technical Committee of Seas and Biodiversity (CTMyB) supported by IUCN Costa Rica Office.	
1.4 In coordination with SICA-CCAD, train selected staff of the member countries on the establishment, use and maintenance of national information platforms (e.g. collection, processing and use of available information).					➤ This activity was modified. ➤ Preparatory guidelines will be prepared as a product of the above workshops.
1.5 Compile a "Regional Biodiversity Outlook (Preparatory Guidelines / Summary)" using the platform.					➤ This activity was completed in the previous period.
2.1 Develop selection criteria for pilot projects of sustainable economic development which contribute to both improvement of livelihoods at community level and biodiversity conservation					➤ This activity was modified. ➤ This activity was completed in the previous period.
2.2 Develop proposals for pilot projects with pilot community stakeholders (e.g., PES, ABS, agroforestry, agro-branding, promotion of ecotourism/agricultural	2. Equipment -Equipment for construction of a regional information platform for conservation and				

Monitoring Form 3-2

tourism, development of environmentally sustainable local economic alternatives in priority areas such as wetland ecosystems, protected areas and biological corridors).	utilization of biodiversity -Other necessary equipment
2.3 Select pilot projects and make decisions of actual supports for the pilot projects	3. Training Trainings in Japan and/or other countries -Politics and governance of biodiversity management and conservation -Management of national park, world heritage, protected areas and biological corridor -Compensatory measures for biodiversity (e.g. Biodiversity offsetting) -Management and conservation of wetlands.
2.4 Support implementation of the pilot projects	-Management and conservation of biodiversity in collaboration among academic, private and public sectors. - Environmental conservation by local governments with the focus on harmony between urban environment and ecosystem
2.5 Evaluate and analyze the results of pilot projects (i.e. financial sustainability, impact, lessons learnt, etc.) and compile their lessons learnt.	
2.6 Collect examples of good practices related to sustainable ecosystem conservation in the region with an objective of strengthening governance mechanisms in transboundary ecosystems.	
2.7 Develop recommendations on governance mechanisms in transboundary ecosystems (cf. Indicator 1) that can be adapted within the region based on Indicators 2.5 and 2.6.	
2.8 Upload the above good practice, recommendations and lesson learnt to the information platform developed in Output 1.	
2.9 Make recommendations for improving regional and national level related policies based on the results obtained through the pilot projects	

➤ The draft implementation plan of pilot projects was prepared through coordination with relevant agencies and beneficiary communities. The plan has been approved in the CCAD minister's meeting organized on 27 October in Santo Domingo, Dominican Republic.	
➤ The Japanese consultant team was selected. ➤ The consultant team prepared the draft implementation plan of the pilot projects, which has been approved as shown in 2.3 above.	
➤ This activity was not scheduled for this semester.	
➤ This activity was modified. ➤ Information on the governance of transboundary protected areas and OECM was collected.	
➤ This activity was modified. ➤ Information on the governance of transboundary protected areas and OECM was collected.	
➤ This activity was modified. ➤ This activity was not scheduled for this semester.	
➤ This activity was not scheduled for this semester.	

Monitoring Form 3-2

<p>3.1 Evaluate and analyze training needs from SICA member countries in coordination with SICA-CCAD.</p>				<ul style="list-style-type: none"> ➤ This activity was completed 	
<p>3.2 In cooperation with SICA-CCAD, develop regional training programs and curricula on specific topics for the project, based on training resources in the SICA region, Japan and neighboring countries (Latin America region).</p>				<ul style="list-style-type: none"> ➤ Draft outline of SICA Country/Area-Focused Training Course in Japan (proposed period: May 2023) is prepared. 	
<p>3.3 Conduct training including seminars and workshops, and review the plan based on the result of the training</p>				<ul style="list-style-type: none"> ➤ This activity was modified. ➤ The virtual training course on Participatory Biodiversity Conservation was held during March and May 2022. ➤ The concept of OECM (Other Effective area based Conservation Measure) was explained during the Technical Committee of Seas and Biodiversity (CTMyB) in April, 2022. 	
<p>3.4 Provide recommendations on strengthening the capacity of local organizational structures and necessary human resources to promote the conservation and use of biodiversity in the framework of CCAD.</p>				<ul style="list-style-type: none"> ➤ This activity was modified. ➤ Discussions on the proposed organizational structure of the CCAD Secretariate with dedicated personnel were informally organized. 	

Attachment-4

Monitoring Form 3-3 Monitoring version 06

Plan of Operation

PO Version 2.0, Dated 06 April 2022
Monitoring Version 6.0, Dated 24 Nov 2022

2019/20 2020/21 2021/22 2022/23 2023/24
3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 1

Project Title: Project for Capacity Development on Integrated Management and Conservation of Biodiversity at regional level in SICA Region																						Monitoring			
		Year	1st Year				2nd Year				3rd Year				4th Year				5th Year				Remarks	Issue	Solution
Inputs		I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV				
Expert																									
From Mar 2019 - April 2022																									
Chief Advisor/Ecosystem Management	Plan																								
	Actual																								
Project Coordinator/Training Planning/Institutional Capacity	Plan																								
	Actual																								
Short term experts	Plan																								
	Actual																								
From May 2022																									
[Long-term expert]																									
Project Coordinator/Training Planning/Institutional Capacity	Plan																								
	Actual																								
[Consultant team] Intermittent Assignment																									
Team leader (chief advisor): Specialized in ecosystem management / regional collaboration	Plan																								
	Actual																								
Expert of community empowerment and cooperation (1)	Plan																								
	Actual																								
Expert of community empowerment and cooperation (2)	Plan																								
	Actual																								
Expert of Participatory livelihood enhancement (1)	Plan																								
	Actual																								
Expert of Participatory livelihood enhancement (2)	Plan																								
	Actual																								
Equipment																									
	Plan																								
	Actual																								
	Plan																								
	Actual																								
Training in Japan																									
Trainings in Japan	Plan																								
	Actual																								
In-country/Third country Training																									
	Plan																								
	Actual																								
Activities	Year	1st Year				2nd Year				3rd Year				4th Year				5th Year				Responsible Organization		Achievements	Issue & Countermeasures
Sub-Activities		I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	Japan	SICA		
Output 1: A regional information platform for conservation and utilization of biodiversity in the SICA region is established.																									
1.1 Evaluate and analyze current country of existing data such as biological corridors, wetlands, biodiversity database etc. in the region (i.e. regional and national level)	Plan																								
	Actual																					X	X	As shown in the monitoring form 3-1	-
1.2 Develop design for a regional information platform as a multi biodiversity platform for data exchange and information shearing among the SICA member countries, particularly for biological corridors, wetlands, biodiversity.	Plan																								
	Actual																					X	X	As shown in the monitoring form 3-1	-

Attachment-5

Minutes of Meeting of JCC (06 April 2022)

Attachment-5

Minutes of Meeting of JCC (06 April 2022)



**MINUTES OF MEETINGS
BETWEEN
THE JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY (JICA)
AND
THE CENTRAL AMERICAN COMMISSION ON ENVIRONMENT AND
DEVELOPMENT (CCAD)
ON
PROJECT FOR CAPACITY DEVELOPMENT ON INTEGRATED
MANAGEMENT AND CONSERVATION OF BIODIVERSITY AT REGIONAL
LEVEL IN SICA REGION**

The Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA"), and the Central American Commission on Environment and Development (hereinafter referred to as "CCAD") hereby agree that as per the Annex 1 based on the discussions at the JCC held on April 6th, 2022, the Record of Discussions (i.e. Annex 2) on "the project for the development of capacities in integrated management and conservation of biodiversity at Regional in the SICA region" signed on June 19th, 2018 is amended.

This amendment become effective as of April 6th, 2022.

The parties subscribe two original copies of the present document, done in both English and Spanish languages, both are equally authentic. In case of any divergence of interpretation, the English text shall prevail.

Annex 1 : Comparison Table for Amendment of the R/D

Annex 2 : Record of Discussions (signed on June 19th, 2018)

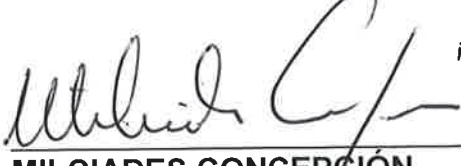
Panama City, Panama, April 6, 2022

For
Japan International Cooperation Agency

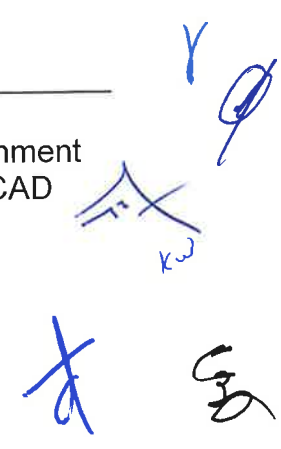


MASARU KOZONO
Chief Representative
JICA Office in El Salvador

For
The CCAD and Panama



MILCIADES CONCEPCIÓN
Minister of the Ministry of Environment
President Pro Tempore of the CCAD
Republic of Panama



For
Belize



KENRICK WILLIAMS
Vice Minister of the Ministry of Sustainable
Development, Climate Change and
Disaster Risk Management
Belize

For
Guatemala



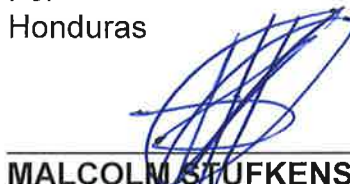
ANGEL ERNESTO LAVARREDA
Vice Minister of the Ministry of Environment
and Natural Resources
Republic of Guatemala

For
El Salvador



MAYRA ARGUETA
Representative of Minister of Environment
and Natural Resources
Republic of El Salvador

For
Honduras



MALCOLM STUFKENS
Sub Secretary of the Secretariat of Energy,
Natural Resources, Environment and Mines
Republic of Honduras

For
Nicaragua



FANNY SUMAYA CASTILLO
Minister of the Ministry of Environment and
Natural Resources
Republic of Nicaragua

For
Costa Rica



CYNTHIA BARZUNA
Vice Minister of the Ministry of Environment
and Energy
Republic of Costa Rica

For
Dominican Republic



ORLANDO JORGE MERA
Minister of the Ministry of Environment and
Natural Resources
Dominican Republic

For
Executive Secretariat CCAD



JAIR URRIOLA QUIROZ
Executive Secretary
CCAD

Handwritten notes and signatures:
M.C
K.S.J
E.S.J
Other illegible initials and marks.



ANNEX 1

Comparison Table for Amendment of the R/D

1. 2.OUTLINE OF THE PROJECT (6) Implementation Structure

Present Statement	Revised Statement
<p>2) JICA Experts The JICA experts will give necessary technical guidance, advice and recommendations to the member countries in coordination with SICA-CCAD, regional technical committee on biodiversity and other relevant organizations on any matters pertaining to the implementation of the Project.</p>	<p>2) JICA Experts 【Long-term expert】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ Project coordinator : In addition to the arrangement of meetings, he will also be responsible for coordination and collaboration with Japanese consultants and implementation of Output 1 (establishment of a biodiversity platform) and Output 3 (capacity building through training). <p>【Japanese consultant team】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ Team leader (chief advisor): Specialized in ecosystem management / regional collaboration, lead ecosystem conservation and regional collaboration, consolidating all outputs of the project. ◇ Expert of Community empowerment and cooperation: In charge of strengthening communication and collaboration between pilot communities within each region. ◇ Expert of Participatory livelihood enhancement: In charge of supporting pilot activities in each community.

2. Project Design Matrix (PDM) (Annex 2 of the R/D)

Item	Present Statement	Revised Statement
Overall Goal	Regional institutional framework and governance on biodiversity conservation and sustainable use in the SICA region is strengthened.	No change
Indicator	Regional Environmental Strategy Framework (ERAM) is revised by utilizing information and database of the regional information platform.	No change
Project Purpose	Management capacity on utilization and conservation of biodiversity of member countries in coordination with SICA-CCAD is strengthened.	No change
Indicator 1	The regional information platform is referred to for making policies, plans and reports related to biodiversity.	Changed and move to Indicator 1.3
Indicator 2	At least one activity on utilization and conservation of biodiversity which refer to the knowledge and experiences of the	Replaced by new Indicators 1 &2.

M. C. [Signature]

4!

mb

9/28

	Project is introduced in each member countries.	
(New) Indicator 1	Added	Based on the lessons learned from Outputs 1-3, sustainable models and approaches that are considered useful to promote ecosystem and biodiversity conservation in transboundary areas and protected areas are compiled into policy recommendations.
(New) Indicator 2	Added	Policy recommendations are submitted to CCAD as a collective effort and consensus of the stakeholders (i.e. villages and counterparts), and their importance is discussed and recognized at the ministers' meeting.

Item	Present Statement	Revised Statement
Output 1	A regional information platform for conservation and utilization of biodiversity in the SICA region is established.	No change
Indicator 1.1	At least xx modules (e.g. regional information / data of biological corridors, wetlands, biodiversity) are available in the regional information platform.	At least 5 modules (e.g. regional information / data of biological corridors, wetlands, biodiversity) are available in the regional information platform.
Indicator 1.2	More than 80% of training participants of the information platform understand its function and modules to utilize the platform in articulation with national information system.	More than 80% of training participants of the information platform understand its development, utilization and maintenance.
(New) Indicator 1.3	Changed and moved from Indicator 1	Future utilization of the project results in the region is discussed and shared among the member countries through CCAD framework.
Output 2	Results of pilot projects such as good practice and lesson learned focused on small scale rural community and indigenes people are socialized, from the view point of sustainable development and proposal for implementation of regional and national policies.	No change ※ This Output should be consistent for all the pilot projects in 4 regions, so the indicators described here should also be regarded as common and general indicators for all of the pilot projects.
Indicator 2.1	At least xx sustainable economic development models are compiled based on the pilot projects and good practices and shared among the member countries.	In the 4 pilot project areas, models for sustainable ecosystem conservation in transboundary areas are compiled as lesson learned case studies.
Indicator 2.2	More than 90% of the pilot activities are jointly evaluated as "very useful" for developing sustainable economy development models for the region.	Establish a mechanism for cross-border exchange of information and sharing of experience and knowledge among the selected pilot communities in each pilot region.
(New) Indicator 2.3	Added	The leaders of the pilot activities in each community understand the experience and good practice in the pilot communities within other countries.
Output 3	Regional organizational and human resources capacity for conservation and utilization of biodiversity are strengthened	No change

mlk

BE M.C. [Signature]

	in coordination with SICA-CCAD.	
Indicator 3.1	More than xx% of training participants' knowledge level is increased.	80% or more of training participants rate their level of knowledge increased as a result of the training program.
Indicator 3.2	Regional seminars and workshops to share knowledge and experiences in SICA are organized more than xx times.	At least 8 regional seminars and workshops are held to share SICA's knowledge and experience.

Item	Present Statement	Revised Statement
Activity 1.1	Evaluate and analyze current state of existing data such as biological corridors, wetlands, biodiversity database etc. in the region (i.e. regional and national level)	No change
Activity 1.2	Develop design for a regional information platform as a multi biodiversity platform for data exchange and information sharing among the SICA member countries, particularly for biological corridors, wetlands, biodiversity.	No change
Activity 1.3	Build the regional information platform	No change
Activity 1.4	Organize training for selected staff of the member countries in coordination with SICA-CCAD for utilization and maintenance of the information platform (i.e. collecting, processing, and making data/information available) in articulation with national information system.	In coordination with SICA-CCAD, train selected staff of the member countries on the establishment, use and maintenance of national information platforms (e.g. collection, processing and use of available information).
Activity 1.5	Produce "regional biodiversity outlook" using the information system.	Compile a "Regional Biodiversity Outlook (Preparatory Guidelines / Summary)" using the platform.
Activity 2.1	Develop selection criteria for pilot projects of sustainable economic development which contribute to both improvement of livelihoods at community level and biodiversity conservation	No change
Activity 2.2	Call for pilot project proposals (e.g. PES, ABS, agro-forestry, branding agricultural product, promotion of ecotourism / agro tourism, development of ventures for environmental sustainable community economic alternatives, emphasizing activities in wetland ecosystems, protected areas and prioritized biological corridors etc.) from related countries	Develop proposals for pilot projects with pilot community stakeholders (e.g., PES, ABS, agroforestry, agro-branding, promotion of ecotourism/agricultural tourism, development of environmentally sustainable local economic alternatives in priority areas such as wetland ecosystems, protected areas and biological corridors).
Activity 2.3	Select pilot projects and make decisions of actual supports for the pilot projects.	No change
Activity 2.4	Support implementation of the pilot projects.	No change
Activity 2.5	Evaluate and analyze the results of pilot projects (i.e. financial sustainability, impact, lessons learnt, etc.) and compile their lessons learnt.	No change
Activity 2.6	Collect good practices related to	Collect examples of good practices related to

mb

G M C X

	sustainable economic development among the region.	sustainable ecosystem conservation in the region with an objective of strengthening governance mechanisms in transboundary ecosystems.
Activity 2.7	Develop an inventory of sustainable economic development models adaptable within the region based on 2.5 and 2.6.	Develop recommendations on governance mechanisms in transboundary ecosystems (cf. Indicator 1) that can be adapted within the region based on Indicators 2.5 and 2.6.
Activity 2.8	Integrate the inventory into the information platform developed in Output 1.	Upload the above good practice, recommendations and lesson learnt to the information platform developed in Output 1.
Activity 2.9	Make recommendations for improving regional and national level related policies based on the results obtained through the pilot projects.	No change
Activity 3.1	Evaluate and analyze training needs from SICA member countries in coordination with SICA-CCAD.	No change
Activity 3.2	Develop regional training program and curriculum on selected themes for the project for SICA member country in coordination with SICA-CCAD based on training resources in SICA region, Japan and neighboring countries (Latin America region) in collaboration with JICA's bilateral projects	In cooperation with SICA-CCAD, develop regional training programs and curricula on specific topics for the project, based on training resources in the SICA region, Japan and neighboring countries (Latin America region).
Activity 3.3	Conduct training including seminars and workshops, and review the plan based on the result of the training.	No change
Activity 3.4	Make recommendations on regional organizational structure and necessary human resources for strengthening conservation and utilization of biodiversity within the CCAD framework	Provide recommendations on strengthening the capacity of local organizational structures and necessary human resources to promote the conservation and use of biodiversity in the framework of CCAD.

Item	Present Statement	Revised Statement
Inputs The Japanese Side 1. Experts	-Chief Advisor/Ecosystem Management -Project Coordinator/Training Planning/Institutional Capacity -Other Short-Term Experts (e.g. GIS/Data Base, Remote sensing, Agro-forestry, Eco-tourism, etc.) -Local Coordinator	- Team leader (chief advisor): Ecosystem management/regional collaboration - Project coordinator/training planning/institutional capacity - Expert of Community empowerment and cooperation - Expert of Participatory livelihood enhancement

3. List of Proposed Members of Joint Coordinating Committee (Annex 5 of the R/D)

Present Statement	Revised Statement
3. Japanese side: 2) Chief Representative of JICA El Salvador Office	3. Japanese side: 2) Chief Representative of JICA Office in the SICA member countries.

mle

CSJ M. Cd

4. Reason

1. Implementation Structure

- To respond to diverse needs in a variety of specialized fields, a team of experts with a high level of expertise in each field will be assigned.

2. Project Design Matrix (PDM)

- It was found necessary to have a holistic indicator to evaluate the purpose of the project (i.e. what was learned from all of the project activities) as a concrete output (i.e. policy recommendations) of the project.
- Based on the project's current achievements, indicators were quantified where possible and appropriate.
- Based on the needs and current situation of SICA member countries about information platform and human resources, activities of Output 1 and 3 were modified.
- To clarify significance of the pilot activities with a view to strengthening governance mechanisms in transboundary protected areas, activities of Output 2 were amended.

3. Member of Joint Coordinating Committee

- To allow greater flexibility for the chief representative of JICA offices to participate in CCAD Ministers' meeting depending on a host country, the list of Proposed Members of Joint Coordinating Committee was amended.

8

7!

ME

M.C. 



**MINUTA DE REUNIONES
ENTRE
LA AGENCIA DE COOPERACIÓN INTERNACIONAL DEL JAPÓN (JICA)
Y
LA COMISIÓN CENTROAMERICANA DE AMBIENTE Y DESARROLLO
(CCAD)
SOBRE
EL PROYECTO DE DESARROLLO DE LAS CAPACIDADES EN MANEJO Y
CONSERVACIÓN INTEGRAL DE LA BIODIVERSIDAD A NIVEL REGIONAL
EN LA REGIÓN DEL SICA**

La Agencia de Cooperación Internacional del Japón (en adelante se denominará "JICA"), y la Comisión Centroamericana de Ambiente y Desarrollo (en adelante se denominará "CCAD") acuerda que de acuerdo con el Anexo 1, con base en las discusiones en el Comité de Coordinación Conjunta (denominado CCC) celebrado el 6 de abril de 2022, se modifica el Registro de Discusiones (es decir, Anexo 2) sobre el "Proyecto de Desarrollo de Capacidades en Manejo y Conservación Integral de la Biodiversidad a Nivel Regional en la Región del SICA" firmado el 19 de junio de 2018.

Esta enmienda entra en vigencia a partir del 6 de abril de 2022.

Las partes suscriben dos ejemplares originales del presente documento, en los idiomas español e inglés, ambos igualmente auténticos. En caso de discrepancias de interpretación, prevalecerá el texto en inglés.

Anexo 1 : Tabla de comparación para la enmienda del Registro de Discusiones

Anexo 2 : Registro de Discusiones (firmado el 19 de junio de 2018)

Ciudad de Panamá, Panamá, 6 de abril de 2022

En representación de JICA

MASARU KOZONO
Jefe Representante
Oficina de JICA en El Salvador

En representación de la CCAD y Panamá

MILCIADES CONCEPCIÓN
Ministro de Ambiente
Presidente Pro Tempore de la CCAD
República de Panamá

En representación de
Belice



KENRICK WILLIAMS

Viceministro de Desarrollo Sostenible,
Cambio Climático y Gestión de Riesgo de
Desastres
Belice

En representación de
El Salvador



MAYRA ARGUETA

Representante del Ministro de Medio
Ambiente y Recursos Naturales
República de El Salvador

En representación de
Nicaragua



FANNY SUMAYA CASTILLO

Ministra del Ambiente y los Recursos
Naturales
República de Nicaragua

En representación de la
República Dominicana



ORLANDO JORGE MERA

Ministro de Medio Ambiente y Recursos
Naturales
República Dominicana

En representación de
Guatemala



ANGEL ERNESTO LAVARREDA

Viceministro de Ambiente y Recursos
Naturales
República de Guatemala

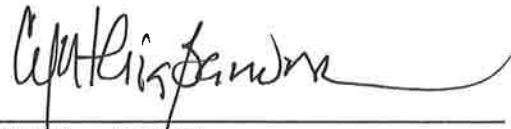
En representación de
Honduras



MALCOLM STUFKENS

Subsecretario de Energía, Recursos
Naturales, Ambiente y Minas
República de Honduras

En representación de
Costa Rica



CYNTHIA BARZUNA

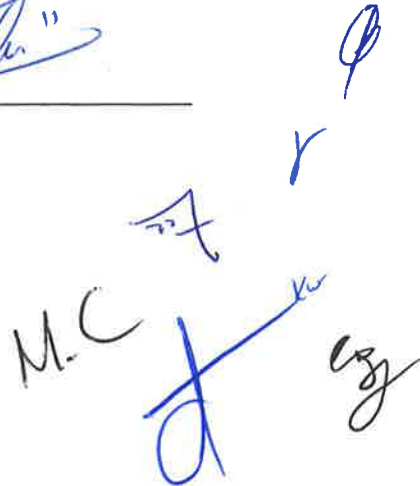
Viceministra de Ambiente y Energía
República de Costa Rica

En representación de la
Secretaría Ejecutiva de la CCAD



JAIR URRIOLA QUIROZ

Secretario Ejecutivo
CCAD



M.C
d
r
ky

ANEXO 1

Tabla de comparación para la enmienda del Registro de Discusiones

1. 2. RESUMEN DEL PROYECTO (6) Estructura de implementación

Antes	Versión Enmendada
<p>2) Expertos de la JICA Los expertos de la JICA darán la orientación técnica necesaria, el asesoramiento y las recomendaciones a los países miembros en coordinación con el SICA-CCAD, el comité técnico regional sobre la biodiversidad y otras organizaciones pertinentes sobre cualquier asunto relacionado con la ejecución del Proyecto.</p>	<p>2) 【Experto a largo plazo】 <ul style="list-style-type: none"> ◇ Coordinador del proyecto : Además de la organización de las reuniones, también se encargará de la coordinación y la colaboración con los consultores japoneses y de la ejecución del resultado esperado 1 (creación de una plataforma de biodiversidad) y del resultado esperado 3 (creación de capacidades mediante la formación). 【Equipo de consultores japoneses】 <ul style="list-style-type: none"> ◇ Jefe de equipo (asesor principal): Especializado en gestión de ecosistemas/colaboración regional, dirige la conservación de los ecosistemas y la colaboración regional, consolidando todos los resultados del proyecto. ◇ Experto en Potenciación y cooperación de las comunidades: Encargado de reforzar la comunicación y la colaboración entre las comunidades piloto dentro de cada región. ◇ Experto en Mejora participativa de los medios de vida: Encargado de apoyar las actividades piloto en cada comunidad. </p>

2. Matriz de diseño del proyecto (PDM) (Apéndice 2 de R/D)

Ítem	Antes	Versión enmendada
Objetivo Superior	La institucionalidad regional y gobernanza para la conservación de la biodiversidad y su uso sostenible en la región SICA son fortalecidas.	No hay cambios
Indicador	La Estrategia Regional Ambiental Marco (ERAM) es revisada y actualizada para la utilización de las informaciones y datos en la plataforma informática regional.	No hay cambios
Objetivo del Proyecto	Se fortalecerán las capacidades en manejo y conservación integral de la biodiversidad nacional y regional, en los países que conforman la Región del SICA.	No hay cambios
Indicador 1	La plataforma informática regional de biodiversidad de SICA es referenciada y utilizada en el proceso de elaboración de las políticas, planes, reportes nacionales y regionales relacionados con biodiversidad.	Cambiado y trasladado al Indicador 1.3

f!-

mle

Handwritten signatures and initials in blue ink, including a large signature and the initials 'M.C.', 'K', and 'K-2'.

Indicador 2	Por lo menos una actividad de utilización de los resultados y conocimientos adquiridos por el Proyecto es realizada en cada uno de los países.	Sustituido por los nuevos indicadores 1 y 2.
(Nuevo) Indicador 1	Añadido	Con base en las lecciones aprendidas de los resultados esperados 1 a 3, los modelos y enfoques sostenibles que se consideran útiles para promover la conservación de los ecosistemas y la biodiversidad en las zonas transfronterizas y las áreas protegidas se recopilan en recomendaciones políticas.
(Nuevo) Indicador 2	Añadido	Las recomendaciones políticas se presentan a la CCAD como un esfuerzo colectivo y un consenso de las partes interesadas (es decir, las comunidades y las contrapartes), y su importancia se discute y reconoce en la reunión de ministros.

Ítem	Antes	Versión Enmendada
Resultado Esperado 1	Construcción de una Plataforma Informática Regional para el manejo y la conservación integral de la biodiversidad en los países que conforman la Región del SICA.	No hay cambios
Indicador 1.1	Por lo menos XX módulos (Ej. Información regional / datos de corredores biológicos, humedales, biodiversidad) están disponibles en la plataforma informática regional.	Por lo menos 5 módulos (Ej. Información regional / datos de corredores biológicos, humedales, biodiversidad) están disponibles en la plataforma informática regional.
Indicador 1.2	Más de un 80% de los participantes en las capacitaciones comprende la función de la plataforma informática regional y la saben utilizar, articulada con las plataformas nacionales.	Más del 80% de los participantes en la formación de la plataforma de información comprenden su desarrollo, utilización y mantenimiento.
(Nuevo) Indicador 1.3	Cambiado y trasladado del Indicador 1	La utilización futura de los resultados del proyecto en la región se discute y se comparte entre los países miembros a través del marco de la CCAD.
Resultado Esperado 2	Socialización de los resultados de los Proyectos Pilotos como buenas prácticas y lecciones aprendidas con el enfoque de pequeña escala de comunidades locales y pueblos indígenas, desde la perspectiva del desarrollo sostenible, y propuestas para la implementación de la política regional y las políticas nacionales.	No hay cambios ※ Este resultado debe ser coherente para todos los proyectos piloto en 4 regiones, por lo que los indicadores descritos aquí también deben considerarse como indicadores comunes y generales para todos los proyectos piloto.
Indicador 2.1	Por lo menos xx modelos de desarrollo económico sostenible son construidos en base a los proyectos pilotos y buenas prácticas, y compartidos entre los países.	En las 4 zonas del proyecto piloto, se recopilan modelos de conservación sostenible de los ecosistemas transfronterizos como estudios de casos de lecciones aprendidas.
Indicador 2.2	Por lo menos un 90% de los proyectos pilotos son evaluados "Muy Útil" conjuntamente entre la CCAD y la JICA,	Establecer un mecanismo para el intercambio transfronterizo de información y la puesta en común de experiencias y

71-

mbe

M-C
d
100

Handwritten signatures and initials on the right side of the page.

	para promover y diseminar los modelos de desarrollo económico sostenible.	conocimientos entre las comunidades piloto seleccionados en cada región piloto.
(Nuevo) Indicador 2.3	Añadido	Líderes de las actividades piloto de cada comunidad conocen las experiencias y buenas prácticas de las comunidades dentro de los proyectos piloto en otros países.
Resultado Esperado 3	Fortalecimiento de la capacidad regional de organización y recursos humanos para la conservación y utilización de la biodiversidad en coordinación con el SICA-CCAD.	No hay cambios
Indicador 3.1	Más de xx % de los participantes en la capacitación son aprobados por las pruebas de comprensión ofrecidas por el Proyecto.	El 80% o más de los participantes en la formación aumentaron su nivel de conocimientos como resultado del programa de formación.
Indicador 3.2	Seminarios y talleres regionales y nacionales para desarrollo de las capacidades del manejo de conservación de biodiversidad, vinculados con los resultados 1 y 2 son realizados más de XX veces en la región.	Se celebran al menos 8 seminarios y talleres regionales para compartir los conocimientos y la experiencia de SICA.

Ítem	Antes	Versión Enmendada
Actividad 1.1	Diagnóstico, análisis y evaluación de la situación actual de los datos e informaciones sobre corredores biológicos, humedales y la biodiversidad en la región (al nivel regional y nacional).	No hay cambios
Actividad 1.2	Diseño y construcción del sistema informático regional, incluyendo corredores biológicos, humedales y biodiversidad.	No hay cambios
Actividad 1.3	Construcción de la Plataforma Informática y generación de conocimientos que contribuyan al establecimiento del "Mecanismo Regional de Facilitación para el Convenio sobre La Diversidad Biológica (CHM)".	No hay cambios
Actividad 1.4	Capacitación de los recursos humanos para el uso y mantenimiento de la plataforma informática regional articulada con las nacionales existentes, incluyendo recolectar, procesar, y poner a disposición datos e informaciones.	En coordinación con el SICA-CCAD, formar al personal seleccionado de los países miembros en el establecimiento, uso y mantenimiento de las plataformas nacionales de información (por ejemplo, recopilación, procesamiento y uso de la información disponible).
Actividad 1.5	Elaborar "SICA-Regional Biodiversity Outlook" utilizando la plataforma informática regional.	Elaborar una "Perspectiva regional de la biodiversidad (directrices preparatorias / resumen)" utilizando la plataforma.
Actividad 2.1	Crear un sistema para la convocatoria regional de propuestas técnicas sobre proyectos pilotos en la región con los criterios de selección establecidos por la Comisión Técnica Regional de Mares y Biodiversidad CCAD.	No hay cambios

me

by MC

Actividad 2.2	Convocatoria de Proyectos Pilotos (Por ejemplo: Mecanismo de financiamiento, PES, ABS, Sello regional de acreditación, generación de marca regional-nacional de productos agrícolas, promoción de ecoturismo, desarrollo de emprendimientos con alternativas económicas comunitarias ambientales sostenibles, haciendo énfasis en actividades en los ecosistemas de humedales, áreas protegidas y corredores biológicos priorizados, etc.).	Desarrollar propuestas de proyectos pilotos con las partes interesadas de la comunidad piloto (por ejemplo, PSA, APB, agroforestería, marca agrícola, promoción del ecoturismo/turismo agrícola, desarrollo de alternativas económicas locales ambientalmente sostenibles en áreas prioritarias como ecosistemas de humedales, áreas protegidas y corredores biológicos).
Actividad 2.3	Aprobación y selección de proyectos pilotos y los insumos necesarios para su ejecución.	No hay cambios
Actividad 2.4	Implementación de los proyectos piloto aprobados.	No hay cambios
Actividad 2.5	Evaluación de los proyectos piloto.	No hay cambios
Actividad 2.6	Recolección de buenas prácticas relacionadas al desarrollo económico sostenible en la región.	Recoger ejemplos de buenas prácticas relacionadas con la conservación sostenible de los ecosistemas en la región con el objetivo de reforzar los mecanismos de gobernanza en los ecosistemas transfronterizos.
Actividad 2.7	Creación del Inventario de los posibles modelos de desarrollo económico en la región SICA.	Elaborar recomendaciones sobre los mecanismos de gobernanza en los ecosistemas transfronterizos (véase el Indicador 1) que puedan adaptarse en la región sobre la base de los Indicadores 2.5 y 2.6.
Actividad 2.8	Integrar las buenas prácticas y lecciones aprendidas en la plataforma informática regional creada en el resultado 1.	Subir las buenas prácticas, recomendaciones y lecciones aprendidas anteriores a la plataforma de información desarrollada en el resultado 1.
Actividad 2.9	Propuestas para la mejor implementación de las políticas regionales y nacionales, en base a los resultados generados.	No hay cambios
Actividad 3.1	Diagnóstico y análisis de las necesidades de capacitación de los recursos humanos.	No hay cambios
Actividad 3.2	Elaboración de los modelos de programa y currículum de cursos regionales en diferentes temas seleccionados y su ejecución en base a los recursos potenciales en la región SICA y los países de América Latina y Japón, en coordinación con los proyectos bilaterales de JICA.	En cooperación con el SICA-CCAD, desarrollar programas regionales de formación y planes de estudio sobre temas específicos para el proyecto, basándose en los recursos de formación de la región del SICA, Japón y los países vecinos (región de América Latina).
Actividad 3.3	Ejecución del programa de capacitación, incluyendo seminarios, talleres y la revisión de los resultados.	No hay cambios
Actividad 3.4	Hacer recomendaciones a la estructura organizacional regional y de recursos humanos necesarios para el fortalecimiento de la conservación y el uso de biodiversidad	Proporcionar recomendaciones sobre el fortalecimiento de la capacidad de las estructuras organizativas locales y los recursos humanos necesarios para promover

4!

mlc

mlc

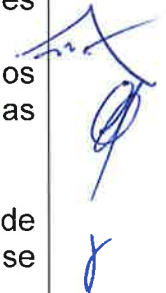

	en el marco de la CCAD.	la conservación y el uso de la biodiversidad en el marco de la CCAD.
--	-------------------------	----------------------------------------------------------------------

Ítem	Antes	Versión Enmendada
Insumos Parte Japonesa 1. Expertos	<ul style="list-style-type: none"> - Líder del Equipo Japonés/Manejo Integral de Ecosistemas - Coordinador del Proyecto/Plan de Capacitación y Fortalecimiento de Institucionalidad Regional - Expertos de Corto Plazo (ej. GIS/Base de Datos, Sensoramiento Remoto, Agroforestal, Ecoturismo, etc.) - Coordinador Local de origen centroamericano o dominicano 	<ul style="list-style-type: none"> - Jefe de equipo (asesor principal): Gestión de ecosistemas/colaboración regional - Coordinador del Proyecto/Plan de Capacitación y Fortalecimiento de Institucionalidad Regional - Experto en Empoderamiento y cooperación de la comunidad - Experto en Mejora participativa de los medios de vida

3. Lista de miembros propuestos del Comité Coordinador Conjunto (Apéndice 5 de R/D)

Antes	Versión Enmendada
3. Lado japonés: 2) Representante Principal de la Oficina de JICA en El Salvador	3. Lado japonés 2) Representante Principal de la Oficina de la JICA en los países de miembros del SICA-CCAD.

4. Razón

<p>1. Estructura de implementación</p> <ul style="list-style-type: none"> - Para responder a diversas necesidades en una variedad de campos especializados, se asignará un equipo de expertos con un alto nivel de experiencia en cada campo. <p>2. Matriz de diseño del proyecto (PDM)</p> <ul style="list-style-type: none"> - Se encontró necesario tener un indicador holístico para evaluar el propósito del proyecto (es decir, lo que se aprendió de todas las actividades del proyecto) como un resultado concreto (es decir, recomendaciones de políticas) del proyecto. - Con base en los logros actuales del proyecto, se cuantificaron los indicadores cuando fue posible y apropiado. - Con base en las necesidades y situación actual de los países miembros del SICA en cuanto a plataforma de información y recursos humanos, se modificaron las actividades del Resultado Esperado 1 y 3. - Para aclarar la importancia de las actividades piloto con punto de vista a fortalecer los mecanismos de gobernanza en las áreas protegidas transfronterizas, se modificaron las actividades del Resultado Esperado 2. <p>3. Miembro de Comité Coordinador Conjunto</p> <ul style="list-style-type: none"> - Para permitir una mayor flexibilidad para que el representante principal de las oficinas de JICA participe en la reunión de Ministros del CCAD dependiendo de un país anfitrión, se modificó la lista de Miembros Propuestos del Comité Coordinador Conjunto. 	
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------

M.C. [Handwritten signature]

[Handwritten signature]

M.C.

Attachment-6

**Minutes of Meeting of JCC
(26 October 2022, excerpts of relevant parts of the project)**



LXVII REUNIÓN EXTRAORDINARIA DEL CONSEJO DE MINISTROS DE LA COMISIÓN CENTROAMERICANA DE AMBIENTE Y DESARROLLO (CCAD)

En la ciudad de Santo Domingo, República Dominicana, a las nueve horas del día veintiséis de octubre del año 2022, da inicio la **LXVII Reunión Extraordinaria del Consejo de Ministros de la Comisión Centroamericana de Ambiente y Desarrollo (CCAD)**, estando presentes: **Miguel Ceara Hatton**, Ministro del Ministerio de Medio Ambiente y Recursos Naturales y Presidente Pro Tempore de la CCAD de la República Dominicana; **Heyddy Loredana Calderón Palma**, Ministra del Ministerio del Ambiente y los Recursos Naturales de la República de Nicaragua; **Kenrick Winston Williams**, Viceministro del Ministerio de Desarrollo Sostenible, Cambio Climático y Gestión del Riesgo de Desastres de Belice; **Miguel Esteban Piedrasanta Asensio**, Viceministro de Ambiente del Ministerio de Ambiente y Recursos Naturales de la República de Guatemala; **Diana Argelia Laguna Caicedo**, Viceministra del Ministerio de Ambiente de la República de Panamá; **Milagros De Camps**, Viceministra de Cambio Climático y Sustentabilidad del Ministerio de Ambiente y Energía de la República Dominicana; **Malcolm Stufkens**, Subsecretario de Ambiente de la Secretaría de Energía, Recursos Naturales, Ambiente y Minas de la República de Honduras (virtual); **Mayra Lourdes Argueta de Ardón**, Representante acreditada del Ministro de Medio Ambiente y Recursos Naturales de la República de El Salvador y **Norma Patricia Campos Mesén**, Representante acreditada del Ministro de Ambiente y Energía de la República de Costa Rica. Asimismo, se contó con la participación de los siguientes Oficiales de Enlace: **Carlos Moreno**, Oficial de Enlace de la CCAD de Belice; **María Elena Tayún**, Oficial de Enlace de la CCAD de Guatemala; Oficial de Enlace de la CCAD de El Salvador; **Fausto Díaz**, Oficial de Enlace de la CCAD de Honduras (Virtual); **Arlen Amador**, Oficial de Enlace de la CCAD de Nicaragua; **Víctor Francisco Cadavid**, Oficial de Enlace de la CCAD de la República de Panamá; **Rosa Otero**, Oficial de Enlace de la CCAD de la República Dominicana y por parte de la Secretaría Ejecutiva, estuvieron presentes: **Jair Urriola Quiroz**, Secretario Ejecutivo de la CCAD y su equipo técnico: Raúl Artiga, Mario Escobedo, Carlos González y Otty Ramos.

V. APROBACIÓN DEL PLAN DE TRABAJO DE PROYECTOS PILOTOS DEL PROYECTO DESARROLLO DE CAPACIDADES EN MANEJO Y CONSERVACIÓN INTEGRAL DE LA BIODIVERSIDAD EN LA REGIÓN SICA (CCAD-JICA).

El Sr. Michinori Yoshino y el Sr. Takeshi Inagawa, Coordinadores del Proyecto Desarrollo de Capacidades en Manejo y Conservación Integral de la Biodiversidad en la Región SICA, presentan al Consejo de Ministros el Plan de Trabajo de los Proyectos Pilotos que se desarrollarán en el marco del Proyecto en referencia, y que se ejecutarán en las siguientes zonas de intervención:

- **Selva Maya:** Guatemala (La Pasadita) apoyando la apicultura comunitaria. En Belice (San Antonio) apoyando la horticultura y el emprendimiento de grupo de mujeres.
- **Golfo de Fonseca:** Apoyando el fortalecimiento de la producción de los moluscos en El Salvador; la acuicultura amigable con medio ambiente de Pargo en Nicaragua y, el fortalecimiento de la producción de los moluscos, incluyendo el mangar en Honduras.
- **Amistad:** en Costa Rica y Panamá se apoyará el cultivo del café, la producción de miel de abeja, la siembra de árboles, flores para el mejoramiento del paisaje y la biodiversidad.
- **Montecristi:** en República Dominicana se desarrollarán talleres de sensibilización sobre biodiversidad y tecnología de la producción amigable en las zonas de Cañongo, Manzanilla y Carbonera.

El Consejo de Ministros de la CCAD acuerda:

15. Aprobar el Plan de Trabajo de Proyectos Pilotos que se ejecutarán en el marco del Proyecto de Desarrollo de Capacidades en Manejo y Conservación Integral de la Biodiversidad en la Región SICA, JICA-CCAD.

El Consejo de Ministros expresa su agradecimiento y felicitación a la Presidencia Pro Tempore de la República Dominicana, por la conducción de la reunión y por el apoyo recibido para la realización del presente Consejo, la cual finaliza a las trece horas con veinte minutos, del día veintiseis de octubre del año dos mil veintidós.



Miguel Ceara Hatton
Ministro
Ministerio de Medio Ambiente y Recursos
Naturales
República Dominicana



Heyddy Loredana Calderón Palma
Ministra
Ministerio del Ambiente y los Recursos Naturales
República de Nicaragua



Kenrick Winston Williams
Viceministro
Ministerio de Desarrollo Sostenible, Cambio
Climático y Gestión del Riesgo de Desastres
Belice



Miguel Esteban Piedrasanta Asensio
Viceministro de Ambiente
Ministerio de Ambiente y Recursos Naturales
República de Guatemala



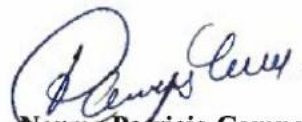
Malcolm Stufkens
Subsecretario de Ambiente
Secretaría de Energía, Recursos Naturales,
Ambiente y Minas
República de Honduras



Diana Argelia Laguna Caicedo
Viceministra de Ambiente
República de Panamá



Mayra Lourdes Argueta de Ardón
Representante acreditada del Ministro de
Medio Ambiente y Recursos Naturales
República de El Salvador



Norma Patricia Campos
Representante acreditada del Ministro de
Ambiente y Energía
República de Costa Rica

バージョン 7.0 / Version 7.0 (英語)

Project Monitoring Sheet

Project Title:

Project for Capacity Development on Integrated Management and Conservation of Biodiversity at the regional level in SICA Region

Version of the Sheet:

Version 7 (December 2022 - May 2023)

Prepared by:

Jair Urriola, CCAD, Executive Secretary

Michinori Yoshino, Chief Advisor, JICA Project Team

Submission Date:

June 7th, 2022

I. Summary

1. Progress

1-1 Progress of Inputs

1-1-1 Japanese side

- Staffs

Expertise	Name	Period
March 2019 - April 2022		
<Long-team expert>		
Chief Advisor	Mr. Masaki Osawa	March 13rd 2019 - March 31st, 2022
Coordinator	Ms. Yoko Akimoto Mr. Takeshi Inagawa	March 27th, 2019 - September 4th, 2021 October 27th, 2021 - April 30th 2022
From May 2022		
<Long-term expert>		
Coordinator	Mr. Takeshi Inagawa <i>* In addition to the administrative coordination such as the arrangement of meetings, he will also be responsible for coordination and collaboration with the consultant team below and the implementation of Output 1 (establishment of a biodiversity platform) and Output 3 (capacity building through training).</i>	May 1st 2022 - 31st May 2023

Expertise	Name	Period
<Consultant team>		
Team leader (Chief Advisor) /Ecosystem Management / Regional Collaboration	Mr. Michinori Yoshino	May 16 th 2022 - 31st 2023 *Intermittent Assignment
Expert of Participatory Livelihood Enhancement	Ms. Yayoi Yoshioka Mr. Yukio Nagahama	May 16 th 2022 - 31st 2023 *Intermittent Assignment
Expert of Community empowerment and cooperation	Ms. Yayoi Yoshioka Ms. Yuki Ozaki	May 16 th 2022 - 31st 2023 *Intermittent Assignment

- Cost for the operation of activities (local expert, rent-a-car, flight etc.)

1-1-2 CCAD side and partner countries

- Staffs

Role in the Project	Country	Name & Title
Project Director (Jan.-Jun. 2022)	Panama	Mr. Milciades Concepción Minister of Environment
Project Director (Jul.-Dec.2022)	Dominican Republic	Mr. Miguel Ceara Hatton Minister of Environment and Natural Resources
Project Director (Jan.-Jun. 2023)	Belize	Mr. Orlando Habet Minister of Sustainable Development, Climate Change and Disaster Risk Management
Project Coordinator	-	Mr. Jair Urriola Quiroz CCAD Executive Secretary
Chief Administrative Officer	-	Mr. Mario Escobedo CCAD Liaison and Coordinator
Administration Assistant	-	Ms. Otty Ramos de Ribera CCAD Administrative Assistant
CCAD Liaison Officials	8 member countries	CCAD focal points
Technical focal points of each country	8 member countries	Members of CCAD Technical Committee on Seas and Biodiversity (CTMyB)
Pilot projects' counterparts	8 member countries	

- Cost for operation and maintenance of the Project office.
- Office space in CCAD

1-2 Progress of Activities

The progress of each activity is as described table below. JCC (Joint Coordination Committee) has been held as part of CCAD Ministerial Meeting on 18 April 2023 in Belize (Attachment-5) and SICA Country-Focused Training "Capacity building on integrated biodiversity management and conservation" has been started on 27 May 2023.

1-2-1 Activities of Output 1: A regional information platform for conservation and utilization of biodiversity in the SICA region is established

Activities (% Progress)	Progress until the previous semester	Progress during this period
1.1 Evaluate and analyze the current state of existing data such as biological corridors, wetlands, biodiversity database etc. in the region (i.e. regional and national level) (70%)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ A list of potential sources of biological information was elaborated ➤ CCAD Secretariate requested the information agreed by the Ministers' Council to 8 countries. Three countries shared information with the Project. 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ Geographical, environmental, and socioeconomic datasets have been updated. ➤ Archived documents have been uploaded, including previous JICA (MAPCOBIO and La Union Biological Corridor) and other donor project reports in the SICA region.
1.2 Develop design for a regional information platform as a multi biodiversity platform for data exchange and information sharing among the SICA member countries, particularly for biological corridors, wetlands, biodiversity (100%).	<ul style="list-style-type: none"> ➤ The regional information platform was built as a section of Regional Environmental Observatory (Observatorio Ambiental Regional : OAR) (https://www.sica.int/oar/mares/inicio), adopting the design of the SICA web pages. 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ (This activity was completed in the previous period.)
1.3 Build the regional information platform (100%)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ Some information was uploaded to the platform to strengthen content by the Secretariate of CCAD. 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ (This activity was completed in the previous period.)
1.4 In coordination with SICA-CCAD, train selected staff of the member countries on the establishment, use and maintenance of national information platforms (e.g. collection, processing and use of available information). (40%)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ "Use and maintenance of biodiversity database in Japan and SICA Regional Environmental Observatory (OAR)" on the SICA country-focused training course, scheduled to take place at the end of May 2023 at JICA Tokyo has been prepared.
1.5 Compile a "Regional Biodiversity Outlook (Preparatory Guidelines / Summary)" using the platform. (10%)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ Contents of a Regional Biodiversity Outlook are discussed among the project team: Utilization and maintenance of OAR, cartography, digital archives and tools etc.

1-2-2 Activities of Output 2: Results of pilot projects such as good practice and lesson learned focused on small scale rural community and indigenes people are socialized, from the viewpoint of sustainable development and proposal for implementation of

regional and national policies

Activities (% progress)	Progress until the previous semester	Progress during this period
2.1 Develop selection criteria for pilot projects of sustainable economic development which contribute to both improvement of livelihoods at community level and biodiversity conservation (100%)	➤ The selection criteria for pilot projects was developed, and the selection was done and approved.	➤ (This activity was completed in the previous period.)
2.2 Develop proposals for pilot projects with pilot community stakeholders (e.g., PES, ABS, agroforestry, agro-branding, promotion of ecotourism/agricultural tourism, development of environmentally sustainable local economic alternatives in priority areas such as wetland ecosystems, protected areas and biological corridors). (100%).		➤ (This activity was completed in the previous period.)
2.3 Select pilot projects and make decisions of actual supports for the pilot projects (90%).		➤ (This activity was completed in the previous period.)
2.4 Support implementation of the pilot projects (40%).	➤ The implementation plan of the pilot projects for 8 communities in 4 transboundary ecosystems was prepared and approved.	➤ Subcontractors for the implementation of the pilot project in 3 of 4 ecosystems have been selected and contracted. ➤ The pilot projects have been implemented.
2.5 Evaluate and analyze the results of pilot projects (i.e. financial sustainability, impact, lessons learnt, etc.) and compile their lessons learnt (0%).	➤	➤ (This activity was not scheduled for this semester.)

Activities (% progress)	Progress until the previous semester	Progress during this period
2.6 Collect examples of good practices related to sustainable ecosystem conservation in the region with an objective of strengthening governance mechanisms in transboundary ecosystems. (35%).	➤ Information on the governance of transboundary protected areas and OECM was collected.	➤ Information on the governance of transboundary protected areas and OECM have been collected.
2.7 Develop recommendations on governance mechanisms in transboundary ecosystems (cf. Indicator 1) that can be adapted within the region based on Indicators 2.5 and 2.6. (25%).	➤	➤ Ideas on the contents of the recommendation have been discussed.
2.8 Upload the above good practice, recommendations and lesson learnt to the information platform developed in Output 1. (0%).	➤	➤ (This activity was not scheduled for this semester)
2.9 Make recommendations for improving regional and national level-related policies based on the results obtained through the pilot projects (0%).	➤	➤ (This activity was not scheduled for this semester)

1-2-3 Activities of Output 3: Regional organizational and human resources capacity for conservation and utilization of biodiversity are strengthened in coordination with SICA-CCAD.

Activities (% progress)	Progress until the previous semester	Progress during this period
3.1 Evaluate and analyze training needs from SICA member countries in coordination with SICA-CCAD. (100%)	➤ A proposal of possible theme of the training was made as a result of consultations.	➤ (This activity was completed)
3.2 In cooperation with SICA-CCAD, develop regional training programs and curricula on specific topics for the project, based on training resources in the SICA region, Japan and neighboring countries (Latin America region). (80%)	➤ The programs of training including seminars and workshops listed below were implemented.	➤ The training programs, including seminars and workshops listed below, have been prepared and/or implemented.

<p>3.3 Conduct training including seminars and workshops, and review the plan based on the result of the training. (50%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • October-November 2019 / Costa Rica and Japan / KCCP "Ecosystem Conservation through Collaborative Management of Protected Areas" • October 2019 / Panama / Third Country Training "Ecosystem-based Participatory Watershed Management" (2nd) • November 2020 / Remote (Panama) / Third Country Training "Ecosystem-based Participatory Watershed Management" (3rd) • May 2021 / Remote /Workshop of Seas and Biodiversity Technical Committee • September 2021 / Remote /Workshop of Seas and Biodiversity Technical Committee • October 2021 / Panama / Third Country Training "Ecosystem-Based Participatory Watershed Management" (4th) • February 2022 / Panama /Workshop of Seas and Biodiversity Technical Committee • March - May, 2022 / Remote / "Participatory Biodiversity Conservation Course" (53 hours) • April 2022 / Panama / Regional Seminar of the CCAD Technical Committee • "Areas contributing to Biodiversity Conservation outside Protected Areas (OECM) • October 2022/ Technical Workshop "Agriculture, 	<ul style="list-style-type: none"> • April 2023/2nd CCAD Environment Conference AFOLU Session "Areas contributing to Biodiversity Conservation outside Protected Areas (OECMs) and Biosphere Reserves (BRs) • May-June 2023 / Japan / SICA Country-Focused Training "Capacity building on integrated biodiversity management and conservation"
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

Activities (% progress)	Progress until the previous semester	Progress during this period
	<p>Forestry and Other Land Uses (AFOLU)" co-hosted by donors</p> <ul style="list-style-type: none"> November 2022 / Remote/ KCCP "Ecosystem Conservation through Collaborative Management of Protected Areas" 	
3.4 Provide recommendations on strengthening the capacity of local organizational structures and necessary human resources to promote the conservation and use of biodiversity in the framework of CCAD. (30%).	➤	<ul style="list-style-type: none"> ➤ Discussions on the proposed organizational structure of the CCAD Secretariate with dedicated personnel were informally held. ➤ The basic concept of the recommendations has been informally prepared.

3-1 Achievement of Indicators of Outputs

1-3-1 Achievements of Indicators of Output 1: Construction of a Regional Computer Platform for the management and integral conservation of biodiversity in the countries that make up the SICA Region

Indicators	Achievements until last semester.	Achievements during this period	Expectations of achievements in the next semester
1.1 At least 5 modules (e.g. regional information/data of biological corridors, wetlands, biodiversity) are available in the regional information platform.	<ul style="list-style-type: none"> ➤ Fifteen themes were established as the contents of "Mares y Biodiversidad" on OAR. 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ Cartography datasets have been updated to OAR ➤ Archived documents have been uploaded, including previous JICA (MAPCOBIO and La Union Biological Corridor) and other donor project reports in the SICA region to OAR 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ Availability of more than 5 modules will be confirmed on OAD

Indicators	Achievements until last semester.	Achievements during this period	Expectations of achievements in the next semester
1.2 More than 80% of training participants of the information platform understand its development, utilization and maintenance.	➤ Evaluation / Satisfaction Survey were carried out for the training courses (to be confirmed the result of the survey and analyzed).	➤ Training for "Use and maintenance of biodiversity database in Japan and SICA Regional Environmental Observatory (OAR)" on the SICA country-focused training course is scheduled to take place at the end of May 2023 at JICA Tokyo.	➤ Sufficient understanding on development, utilization and maintenance of OAR of more than 80% of training participants will be confirmed.
1.3 Future utilization of the project results in the region is discussed and shared among the member countries through CCAD framework.	➤	➤ The project results were reported and discussed during the Council of Ministers and Technical Committee (CTMyB).	➤ The project results will be uploaded to the OAR to share within the member countries.

1-3-2 Achievements of Indicators of Output 2: Socialization of the Pilot Projects' results as good practices and lessons learned with the small-scale approach of local communities and indigenous peoples, from the perspective of sustainable development, and proposals for the implementation of regional policy and national policies.

Indicators	Achievements until last semester	Achievements during this period	Expectations of achievements in the next semester
2.1 In the 4 pilot project areas, models for sustainable ecosystem conservation in transboundary areas are compiled as lesson-learned case studies.	➤ This indicator and its quantitative goal were established.	➤ Some practices on sustainable ecosystem conservation have been tried in 8 pilot communities located in 4 transboundary ecosystems through the pilot projects	➤ Models for sustainable ecosystem conservation in transboundary areas will be compiled based on the result and lesson-learned of pilot projects and case studies.

Indicators	Achievements until last semester	Achievements during this period	Expectations of achievements in the next semester
2.2 Establish a mechanism for cross-border exchange of information and sharing of experience and knowledge among the selected pilot communities in each pilot region.	➤ This indicator was modified.	➤ Some practices on the mechanisms for cross-border exchange of information and sharing of experience and knowledge among the communities have been tried in 8 communities located in 4 transboundary ecosystems through the pilot projects	➤ Models for sustainable ecosystem conservation in transboundary ecosystem will be compiled based on the result and lesson-learned of the pilot projects
2.3 The leaders of the pilot activities in each community understand the experience and good practice in the pilot communities within other countries.	➤ The indicator was added.	➤ (No particular achievement to report)	➤ The experience and good practice of the pilot project in 8 communities in 4 ecosystems will be shared by the leaders of each communities.

1-3-3 Achievements of Indicators of Output 3: Strengthening of the regional capacity of organization and human resources for the conservation and use of biodiversity in coordination with SICA-CCAD.

Inndicators	Achievements until last semester	Achievements during this period	Expectations of achievements in the next semester
3.1 80% or more of training participants rate their level of knowledge increased as a result of the training program.	➤ Evaluation / Satisfaction Survey were carried out for the training courses (to be confirmed the result of the survey and analyzed).	➤ The program on SICA country-focused training course, scheduled to take place at the end of May 2023 at JICA Tokyo has been prepared and started.	➤ Increase of level of knowledge of more than 80 % of the participant in the trainings will be confirmed.

Indicators	Achievements until last semester	Achievements during this period	Expectations of achievements in the next semester
3.2 At least 8 regional seminars and workshops are held to share SICA's knowledge and experience.	➤ All held regional seminars and workshops are listed in 1-2-3 Activities of Output 3	➤ All held regional seminars and workshops are listed in 1-2-3 Activities of Output 3	➤ Implementation of at least 8 regional seminars and workshops will be confirmed.

1-4 Achievement of the Indicator of the Project Purpose

1.4.1 Project Objective: Management capacity on utilization and conservation of biodiversity of member countries in coordination with SICA-CCAD is strengthened.

Indicators	Achievements until last semester.	Achievements during this period	Expectations of achievements in the next semester
1. Based on the lessons learned from Outputs 1-3, sustainable models and approaches that are considered useful to promote ecosystem and biodiversity conservation in transboundary areas and protected areas are compiled into policy recommendations.	➤ OAR received 4374 visits between march 2021 and February 2022.	➤ The policy recommendations will be discussed based on the lessons learned obtained through the progress of the pilot project.	➤ The policy recommendations will be discussed between relevant peoples and prepared based on the lessons learned obtained through the project output
2. Policy recommendations are submitted to CCAD as a collective effort and consensus of the stakeholders (i.e. villages and counterparts), and their importance is discussed and recognized at the ministers' meeting.			

1.4.2 Discussions from the point of view of the 5 CAD evaluation criteria¹

(1) Relevance

The conservation of biodiversity is related to the following goals, strategies and plans at international, regional and national levels.

International Level:

- Sustainable Development Goals (SDGs)

Goals 14 and 15 of the Sustainable Development Goals (SDGs). Likewise, at the level of activities to be developed, they may be relevant to the following SDG goals; Goals 1, 2, 6, 12, 14, 15, and 17.

- Aichi Targets

Regional Level:

The conservation of biodiversity in the transboundary area is aligned with the Strategic Lines and Actions “Seas and Biodiversity” of the “2021-2025 Framework Regional Environmental Strategy (ERAM)”

National Level:

- All National Development Plans or an equivalent document, from the 8 CCAD countries, involve the issue of sustainable use of natural resources.
- All 8 CCAD countries have ratified the Convention for Biological Diversity.
- All 8 countries have the National Strategic Biodiversity Plan or an equivalent document.
- All 8 CCAD countries have ratified other international conventions relevant to the conservation of biodiversity and the sustainable use of natural resources such as CITES, Ramsar convention, and the United Nations Framework Convention on Climate Change.

(2) Effectiveness

No issue to report. The effectiveness will be evaluated in parallel mainly with the implementation of the pilot projects.

(3) Efficiency

No issue to report. The efficiency will be evaluated in parallel mainly with the implementation of the pilot projects.

(4) Impact

No issue to report. The impact will be evaluated in parallel mainly with the implementation of the pilot projects.

¹ Development Assistance Committee of the Organization for Economic Cooperation and Development (OECD).

(5) Sustainability

No issue to report. The sustainability will be evaluated in parallel mainly with the implementation of the pilot projects.

1-5 Changes of Risks and Actions for Mitigation

No particular issue to report.

1-6 Progress of Actions undertaken by JICA

No particular issue to report.

1-7 Progress of Actions undertaken by the CCAD Secretariat and the counterpart Countries

No particular issue to report.

1-8 Progress of Environmental and Social Considerations (if applicable)

No particular issue to report.

1-9 Progress of Considerations on Gender/Peace Building/Poverty Reduction (if applicable)

No particular issue to report.

1-10 Other remarkable/considerable issues related/affect to the project (such as other JICA's projects, activities of counterparts, other donors, private sectors, NGOs etc.)

No particular issue to report.

2. Delay of Work Schedule and/or Problems (if any)

No particular issue to report.

3. Modification of the Project Implementation Plan

3-1 PO

No particular issue to report.

3-2 Other modifications on detailed implementation plan

PDM has been modified and approved by the JCC as described in the minutes of the meeting (attachment-5) and PDM version 02 (attachment-1)

4. Preparation of the CCAD Secretariat and the Governments of the CCAD Member Countries toward after completion of the Project.

No particular issue to report.

II. Project Monitoring Form 3-2 & 3-3

The Monitoring Form 3-2 & 3-3 are as attached (Attachment-3 & 4).

End

<Attachment>

Attachment-1 Monitoring Form 1 PDM version 02

Attachment-2 Monitoring Form 2 PO version 02

Attachment-3 Monitoring Form 3-2 Monitoring version 07

Attachment-4 Monitoring Form 3-3 Monitoring version 07

Attachment-5 Minutes of Meeting of JCC (18 April 2023)

Attachment-1

Monitoring Form 1 PDM version 02

Project Design Matrix**(PDM Version 2.0 dated 06 April 2022)****Project Title:****Project for Capacity Development on Integrated Management and Conservation of Biodiversity at regional level in SICA Region****Implementing Agency: Eight (8) CCAD Member Countries in coordination with SICA-CCAD****Target Group: Relevant personnel of CCAD member countries in coordination with SICA-CCAD****Period of Project: five (5) years****Project Site: SICA region (eight (8) member countries in coordination with SICA-CCAD)**

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption
Overall Goal			
Regional institutional framework and governance on biodiversity conservation and sustainable use in the SICA region is strengthened.	1. Regional Environmental Strategy Framework (ERAM) is revised by utilizing information and database of the regional information platform.	CCAD publication/reports Publication/Website	SICA and its member countries keep high priority on biodiversity conservation and sustainable resource utilization.
Project Purpose			
Management capacity on utilization and conservation of biodiversity of member countries in coordination with SICA-CCAD is strengthened.	1. Based on the lessons learned from Outputs 1-3, sustainable models and approaches that are considered useful to promote ecosystem and biodiversity conservation in transboundary areas and protected areas are compiled into policy recommendations. 2. Policy recommendations are submitted to CCAD as a collective effort and consensus of the stakeholders (i.e. villages and counterparts), and their importance is discussed and recognized at the ministers' meeting.	Interview to C/Ps CCAD publication/reports Publication/Website	Budgets of SICA and its member countries are not drastically reduced.
Outputs			
1. A regional information platform for conservation and utilization of biodiversity in the SICA region is established.	1.1 At least 5 modules (e.g. regional information / data of biological corridors, wetlands, biodiversity) are available in the regional information platform.	Records of the Project activities.	-No drastic change in management administration

Monitoring Form 01

	1.2 More than 80% of training participants of the information platform understand its development, utilization and maintenance.	Questionnaire/Interview Survey	system/structure in ES-CCAD -No devastating natural disasters than assumed will occur in the pilot sites
	1.3 Future utilization of the project results in the region is discussed and shared among the member countries through CCAD framework.		
2. Results of pilot projects such as good practice and lesson learned focused on small scale rural community and indigenes people are socialized, from the view point of sustainable development and proposal for implementation of regional and national policies	2.1 In the 4 pilot project areas, models for sustainable ecosystem conservation in transboundary areas are compiled as lesson learned case studies.	Records of the Project activities.	
	2.2 Establish a mechanism for cross-border exchange of information and sharing of experience and knowledge among the selected pilot communities in each pilot region.	Questionnaire/Interview Survey	
	2.3 The leaders of the pilot activities in each community understand the experience and good practice in the pilot communities within other countries.		
3. Regional organizational and human resources capacity for conservation and utilization of biodiversity are strengthened in coordination with SICA-CCAD.	3.1 80% or more of training participants rate their level of knowledge increased as a result of the training program.	Questionnaire to the participants.	
	3.2 At least 8 regional seminars and workshops are held to share SICA's knowledge and experience.	Seminar/Workshop reports Project reports	
Activities	Inputs		Pre-Conditions
1.1 Evaluate and analyze current state of existing data such as biological corridors, wetlands, biodiversity database etc. in the region (i.e. regional and national level)	The Japanese Side		-All the SICA member countries assign their directors of biodiversity or equivalent level senior officer as the focal points of the project -SICA and its member countries agree to share existing data for the regional information platform
1.2 Develop design for a regional information platform as a multi biodiversity platform for data exchange and information sharing among the SICA member countries, particularly for biological corridors, wetlands, biodiversity.	The SICA Side		
1.3 Build the regional information platform	1. Experts 1) From March 2019 to April 2022 -Chief Advisor/Ecosystem Management -Project Coordinator/Training Planning/Institutional Capacity -Other Short-Term Experts (e.g. GIS/Data Base, Remote sensing, Agro-forestry, Eco-tourism, etc.) -Local Coordinator 2) From May 2022 【Long-term expert】 ▪ Project coordinator : In addition to the arrangement of meetings, he will also be responsible for coordination and collaboration with Japanese consultants		
1.4 In coordination with SICA-CCAD, train selected staff of the member countries on the establishment, use and maintenance of national information platforms (e.g. collection, processing and use of available information).	1. Counterpart -Project Director -Project Coordinator -Member of Regional Technical Committee on Seas and Biodiversity of CCAD -Other Members for each activity 2. Facility Office space for the experts with necessary equipment, Internet.		
	Issues and countermeasures		

1.5 Compile a "Regional Biodiversity Outlook (Preparatory Guidelines / Summary)" using the platform.	and implementation of Output 1 (establishment of a biodiversity platform) and Output 3 (capacity building through training).		
2.1 Develop selection criteria for pilot projects of sustainable economic development which contribute to both improvement of livelihoods at community level and biodiversity conservation	<p>【Consultant team】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ Team leader (chief advisor): Specialized in ecosystem management / regional collaboration, lead ecosystem conservation and regional collaboration, consolidating all outputs of the project. ▪ Expert of Community empowerment and cooperation: In charge of strengthening communication and collaboration between pilot communities within each region. ▪ Expert of Participatory livelihood enhancement: In charge of supporting pilot activities in each community. 		
2.2 Develop proposals for pilot projects with pilot community stakeholders (e.g., PES, ABS, agroforestry, agro-branding, promotion of ecotourism/agricultural tourism, development of environmentally sustainable local economic alternatives in priority areas such as wetland ecosystems, protected areas and biological corridors).			
2.3 Select pilot projects and make decisions of actual supports for the pilot projects			
2.4 Support implementation of the pilot projects			
2.5 Evaluate and analyze the results of pilot projects (i.e. financial sustainability, impact, lessons learnt, etc.) and compile their lessons learnt.	2 Equipment		
2.6 Collect examples of good practices related to sustainable ecosystem conservation in the region with an objective of strengthening governance mechanisms in transboundary ecosystems.	<p>-Equipment for construction of a regional information platform for conservation and utilization of biodiversity</p> <p>-Other necessary equipment</p>		
2.7 Develop recommendations on governance mechanisms in transboundary ecosystems (cf. Indicator 1) that can be adapted within the region based on Indicators 2.5 and 2.6.	3. Training		
2.8 Upload the above good practice, recommendations and lesson learnt to the information platform developed in Output 1.	Trainings in Japan and/or other countries		
2.9 Make recommendations for improving regional and national level related policies based on the results obtained through the pilot projects	<p>-Politics and governance of biodiversity management and conservation</p> <p>-Management of national park, world heritage, protected areas and biological corridor</p> <p>-Compensatory measures for biodiversity (e.g. Biodiversity offsetting)</p> <p>-Management and conservation of wetlands.</p> <p>-Management and conservation of biodiversity in collaboration among academic, private and public sectors.</p>		
3.1 Evaluate and analyze training needs from SICA member countries in coordination with SICA-CCAD.	<p>- Environmental conservation by local governments with the focus on harmony between urban environment and ecosystem</p>		

<p>3.2 In cooperation with SICA-CCAD, develop regional training programs and curricula on specific topics for the project, based on training resources in the SICA region, Japan and neighboring countries (Latin America region).</p>			
<p>3.3 Conduct training including seminars and workshops, and review the plan based on the result of the training</p>			
<p>3.4 Provide recommendations on strengthening the capacity of local organizational structures and necessary human resources to promote the conservation and use of biodiversity in the framework of CCAD.</p>			

Matriz de Diseño del Proyecto (PDM)**(Ver 2.0 Fecha: 06 de abril 2022)****Título del Proyecto:**Proyecto de Desarrollo de las Capacidades en Manejo y Conservación Integral de la Biodiversidad al nivel regional en la Región del SICA**Órgano Ejecutor:**Ministerios de medio ambiente de los ocho países de la CCAD en coordinación con la Secretaría Ejecutiva de la CCAD**Grupo objeto:**Los 8 países de la CCAD, Funcionarios de los ministerios de medio ambiente de los países, miembros de la comisión técnica regional de mares y biodiversidad de la CCAD**Período de proyecto:**Cinco (5) años**Sitio de Proyecto:**Los ocho países de la CCAD

Resumen del proyecto	Indicadores verificables	Medios de verificación	Condiciones previas
Objetivo Superior			
La institucionalidad regional y gobernanza para la conservación de la biodiversidad y su uso sostenible en la región SICA son fortalecidas.	1. La Estrategia Regional Ambiental Marco (ERAM) es revisada y actualizada para la utilización de las informaciones y datos en la plataforma informática regional.	Publicación/Reportes de la CCAD Website	La CCAD-SICA mantiene la alta prioridad en la conservación de la biodiversidad y su uso sostenible.
Objetivo del Proyecto			
Se fortalecerán las capacidades en manejo y conservación integral de la biodiversidad nacional y regional, en los países que conforman la Región del SICA.	1. Con base en las lecciones aprendidas de los resultados esperados 1 a 3, los modelos y enfoques sostenibles que se consideran útiles para promover la conservación de los ecosistemas y la biodiversidad en las zonas transfronterizas y las áreas protegidas se recopilan en recomendaciones políticas. 2. Las recomendaciones políticas se presentan a la CCAD como un esfuerzo colectivo y un consenso de las partes interesadas (es decir, las comunidades y las contrapartes), y su importancia se discute y reconoce en la reunión de ministros.	Entrevistas a los C/Ps Publicación/Reportes de la CCAD Website	El presupuesto de la CCAD-SICA no será drásticamente reducido.

Resultados Esperados			
<p>1. Construcción de una Plataforma Informática Regional para el manejo y la conservación integral de la biodiversidad en los países que conforman la Región del SICA</p>	<p>1.1 Por lo menos 5 módulos (Ej. Información regional / datos de corredores biológicos, humedales, biodiversidad) están disponibles en la plataforma informática regional.</p>	<p>Registro de las actividades del Proyecto</p>	<p>-No hay cambio drástico en el manejo del sistema administrativo y estructura de la Secretaría Ejecutiva de la CCAD -No ocurren los desastres naturales drásticos en los sitios del Proyecto</p>
	<p>1.2 Más del 80% de los participantes en la formación de la plataforma de información comprenden su desarrollo, utilización y mantenimiento.</p>	<p>Cuestionarios /entrevistas</p>	
	<p>1.3 La utilización futura de los resultados del proyecto en la región se discute y se comparte entre los países miembros a través del marco de la CCAD.</p>		
<p>2. Socialización de los resultados de los Proyectos Pilotos como buenas prácticas y lecciones aprendidas con el enfoque de pequeña escala de comunidades locales y pueblos indígenas, desde la perspectiva del desarrollo sostenible, y propuestas para la implementación de la política regional y las políticas nacionales.</p>	<p>2.1 En las 4 zonas del proyecto piloto, se recopilan modelos de conservación sostenible de los ecosistemas transfronterizos como estudios de casos de lecciones aprendidas.</p>	<p>Registro de las actividades del Proyecto.</p>	
	<p>2.2 Establecer un mecanismo para el intercambio transfronterizo de información y la puesta en común de experiencias y conocimientos entre las comunidades piloto seleccionados en cada región piloto.</p>	<p>Cuestionarios /entrevistas</p>	
	<p>2.3 Líderes de las actividades piloto de cada comunidad conocen las experiencias y buenas prácticas de las comunidades dentro de los proyectos piloto en otros países.</p>		
<p>3. Fortalecimiento de la capacidad regional de organización y recursos humanos para la conservación y utilización de la biodiversidad en coordinación con el SICA-CCAD.</p>	<p>3.1 El 80% o más de los participantes en la formación aumentaron su nivel de conocimientos como resultado del programa de formación.</p>	<p>Cuestionarios /entrevistas.</p>	
	<p>3.2 Se celebran al menos 8 seminarios y talleres regionales para compartir los conocimientos y la experiencia de SICA.</p>	<p>Seminarios Reportes de talleres Reportes del Proyecto</p>	

Actividades	Insumos		Condiciones Previas
<p>1.1 Diagnóstico, análisis y evaluación de la situación actual de los datos e informaciones sobre corredores biológicos, humedales y la biodiversidad en la región (al nivel regional y nacional)</p>	<p align="center">Parte Japonesa</p> <p>1. Expertos (1) Desde marzo 2019-abril 2022 - Líder del Equipo Japonés/Manejo Integral de Ecosistemas - Coordinador del Proyecto/Plan de Capacitación y Fortalecimiento de Institucionalidad Regional - Expertos de Corto Plazo (ej. GIS/Base de Datos, Sensoramiento Remoto, Agroforestal, Ecoturismo, etc.) - Coordinador Local de origen centroamericano o dominicano (2) Desde mayo 2022</p>	<p align="center">Parte de SICA CCAD</p> <p>1. Contrapartes -Director del Proyecto -Coordinador del Proyecto -Los miembros de la Comisión Técnica Regional de Mares y Biodiversidad CCAD -Otros técnicos relacionados al Proyecto</p> <p>2. Facilidades Espacio de trabajo para los expertos y contrapartes con los equipos necesarios, internet, teléfono en la oficina de la Secretaría Ejecutiva de la CCAD.</p>	<p>-Los países miembros de la CCAD asignan los miembros de la Comisión Técnica Regional de Mares y Biodiversidad con presencia constante. -Los países miembros de la CCAD están de acuerdo con compartimiento de los datos existentes para la construcción de la plataforma informática regional de la biodiversidad.</p>
<p>1.2 Diseño y construcción del sistema informático regional, incluyendo corredores biológicos, humedales y biodiversidad.</p>	<p>[Experto a largo plazo] - Coordinador del proyecto : Además de la organización de las reuniones, también se encargará de la coordinación y la colaboración con los consultores japoneses y de la ejecución del resultado esperado 1 (creación de una plataforma de biodiversidad) y del resultado esperado 3 (creación de capacidades mediante la formación).</p>		
<p>1.3 Construcción de la Plataforma Informática y generación de conocimientos que contribuyan al establecimiento del “Mecanismo Regional de Facilitación para el Convenio sobre La Diversidad Biológica (CHM)”</p>			<p align="center">Temas y contramedidas</p>
<p>1.4 En coordinación con el SICA-CCAD, formar al personal seleccionado de los países miembros en el establecimiento, uso y mantenimiento de las plataformas nacionales de información (por ejemplo, recopilación, procesamiento y uso de la información disponible).</p>	<p>[Equipo de consultores japoneses] - Jefe de equipo (asesor principal): Especializado en gestión de ecosistemas/colaboración regional, dirige la conservación de los ecosistemas y la colaboración regional, consolidando todos los resultados del proyecto.</p>		
<p>1.5 Elaborar una "Perspectiva regional de la biodiversidad (directrices preparatorias / resumen)" utilizando la plataforma.</p>	<p>- Experto en Potenciación y cooperación de las comunidades: Encargado de reforzar la comunicación y la colaboración entre las</p>		

<p>2.1 Crear un sistema para la convocatoria regional de propuestas técnicas sobre proyectos pilotos en la región con los criterios de selección establecidos por la Comisión Técnica Regional de Mares y Biodiversidad CCAD</p>	<p>comunidades piloto dentro de cada región. - Experto en Mejora participativa de los medios de vida: Encargado de apoyar las actividades piloto en cada comunidad.</p>	
<p>2.2 Desarrollar propuestas de proyectos pilotos con las partes interesadas de la comunidad piloto (por ejemplo, PSA, APB, agroforestería, marca agrícola, promoción del ecoturismo/turismo agrícola, desarrollo de alternativas económicas locales ambientalmente sostenibles en áreas prioritarias como ecosistemas de humedales, áreas protegidas y corredores biológicos).</p>	<p><u>2. Equipos y materiales</u> - Equipos para la construcción de la plataforma informática regional de biodiversidad - Equipo y materiales necesarios para los proyectos pilotos - Otros equipos necesarios</p>	
<p>2.3 Aprobación y selección de proyectos pilotos y los insumos necesarios para su ejecución.</p>	<p><u>3. Capacitación (en Japón o en otros países)</u> - Política y gobernanza del manejo y conservación de la biodiversidad - Manejo de parques nacionales, patrimonios mundiales, áreas protegidas y corredores biológicos</p>	
<p>2.4 Implementación de los proyectos piloto aprobados.</p>	<p>- Medidas compensatorias para la biodiversidad (Biodiversity Offsetting) - Manejo y conservación de los humedales</p>	
<p>2.5 Evaluación de los proyectos piloto</p>	<p>- Manejo y conservación de la biodiversidad con la colaboración entre industria-academia-gobierno -Conservación ambiental por gobiernos locales con el enfoque a la armonía entre medio ambiente urbano y ecosistema.</p>	
<p>2.6 Recoger ejemplos de buenas prácticas relacionadas con la conservación sostenible de los ecosistemas en la región con el objetivo de reforzar los mecanismos de gobernanza en los ecosistemas transfronterizos.</p>		
<p>2.7 Elaborar recomendaciones sobre los mecanismos de gobernanza en los ecosistemas transfronterizos (véase el Indicador 1) que puedan adaptarse en la región sobre la base de los Indicadores 2.5 y 2.6.</p>		
<p>2.8 Subir las buenas prácticas, recomendaciones y lecciones aprendidas anteriores a la plataforma de información desarrollada en</p>		

<p>el resultado 1.</p>			
<p>2.9 Propuestas para la mejor implementación de las políticas regionales y nacionales, en base a los resultados generados</p>			
<p>3.1 Diagnóstico y análisis de las necesidades de capacitación de los recursos humanos</p>			
<p>3.2 En cooperación con el SICA-CCAD, desarrollar programas regionales de formación y planes de estudio sobre temas específicos para el proyecto, basándose en los recursos de formación de la región del SICA, Japón y los países vecinos (región de América Latina).</p>			
<p>3.3 Ejecución del programa de capacitación, incluyendo seminarios, talleres y la revisión de los resultados.</p>			
<p>3.4 Proporcionar recomendaciones sobre el fortalecimiento de la capacidad de las estructuras organizativas locales y los recursos humanos necesarios para promover la conservación y el uso de la biodiversidad en el marco de la CCAD.</p>			

Attachment-2

Monitoring Form 2 PO version 02

Plan de Operaciones

Título del Proyecto: Proyecto de Desarrollo de las Capacidades en Manejo y Conservación Integral de la Biodiversidad al nivel regional en la Región del SICA

Insumos	Año	Monitoreo																				Comentarios	Obstáculos	Soluciones	
		1er Año				2º Año				3er Año				4º Año				5º Año							
		I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV				
Expert																									
Desde mar 2019 hasta abril 2022																									
Jefe Asesor/Manejo de Ecosistemas	Plan																								
	Actual																								
Coordinador de Proyecto/Planificación de entrenamiento/Capacidad Institucional	Plan																								
	Actual																								
Expertos de Corto Plazo	Plan																								
	Actual																								
Desde mayo 2022																									
[Long-term expert]	Plan																								
	Actual																								
Project Coordinator/Training Planning/Institutional Capacity	Plan																								
	Actual																								
[Consultant team]	Plan																								
	Actual																								
Team leader (chief advisor): Specialized in ecosystem management / regional collaboration	Plan																								
	Actual																								
Expert of community empowerment and cooperation (1)	Plan																								
	Actual																								
Expert of community empowerment and cooperation (2)	Plan																								
	Actual																								
Expert of Participatory livelihood enhancement (1)	Plan																								
	Actual																								
Expert of Participatory livelihood enhancement (2)	Plan																								
	Actual																								
Equipo																									
	Plan																								
	Actual																								
	Plan																								
	Actual																								
Entrenamiento en Japón																									
Entrenamiento en Japón	Plan																								
	Actual																								
Entrenamiento en el País/Tercer País																									
	Plan																								
	Actual																								
Actividades																									
	Año	1er Año				2º Año				3er Año				4º Año				5º Año				Organización responsable		Logros	Obstáculos y contramedidas
		I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	Japón	SICA		
Sub-Actividades																									
Resultado 1: Construcción de una Plataforma Informática Regional para el manejo y la conservación integral de la biodiversidad en los países que conforman la Región del SICA																									
1.1 Diagnóstico, análisis y evaluación de la situación actual de los datos e informaciones sobre corredores biológicos, humedales y la biodiversidad en la región (al nivel regional y nacional)	Plan																								
	Actual																					X	X		
1.2 Diseño y construcción del sistema informático regional, incluyendo corredores biológicos, humedales y biodiversidad.	Plan																								
	Actual																					X	X		
1.3 Construcción de la Plataforma Informática y generación de conocimientos que contribuyan al establecimiento del "Mecanismo Regional de Facilitación para el Convenio sobre La Diversidad Biológica (CHM)"	Plan																								
	Actual																					X	X		

Attachment-3

Monitoring Form 3-2 Monitoring version 07

Project Design Matrix

PDM Version 2.0 dated 06 April 2022

Monitoring Version 07 dated 06 June 2023

Project Title:**Project for Capacity Development on Integrated Management and Conservation of Biodiversity at regional level in SICA Region****Implementing Agency: Eight (8) CCAD Member Countries in coordination with SICA-CCAD****Target Group: Relevant personnel of CCAD member countries in coordination with SICA-CCAD****Period of Project: five (5) years****Project Site: SICA region (eight (8) member countries in coordination with SICA-CCAD)**

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption	Achievement	Remark
Overall Goal					
Regional institutional framework and governance on biodiversity conservation and sustainable use in the SICA region is strengthened.	1. Regional Environmental Strategy Framework (ERAM) is revised by utilizing information and database of the regional information platform.	CCAD publication/reports Publication/Web site	SICA priorities member countries keep high priority on biodiversity conservation and sustainable resource utilization.		
Project Purpose					
Management capacity on utilization and conservation of biodiversity of member countries in coordination with SICA-CCAD is strengthened.	1. Based on the lessons learned from Outputs 1-3, sustainable models and approaches that are considered useful to promote ecosystem and biodiversity conservation in transboundary areas and protected areas are compiled into policy recommendations. 2. Policy recommendations are submitted to CCAD as a collective effort and consensus of the stakeholders (i.e. villages and counterparts), and their importance is	Interview to C/Ps CCAD publication/reports Publication/Web site	The budgets of SICA and its member countries are not drastically reduced.	➤ The policy recommendations will be discussed based on the lessons learned obtained through the progress of the pilot project.	

	discussed and recognized at the ministers' meeting.					
Outputs				➤		
1. A regional information platform for conservation and utilization of biodiversity in the SICA region is established.	1.1 At least 5 modules (e.g. regional information / data of biological corridors, wetlands, biodiversity) are available in the regional information platform.	Records of the Project activities.	-No drastic change in management administration system/structure in ES-CCAD -No devastating natural disasters than assumed will occur in the pilot sites	➤ Cartography datasets have been updated to OAR ➤ Archived documents have been uploaded, including previous JICA (MAPCOBIO and La Union Biological Corridor) and other donor project reports in the SICA region to OAR		
	1.2 More than 80% of training participants of the information platform understand its development, utilization and maintenance.	Questionnaire/Interview Survey			➤ Training for "Use and maintenance of biodiversity database in Japan and SICA Regional Environmental Observatory (OAR)" on the SICA country-focused training course is scheduled to take place at the end of May 2023 at JICA Tokyo.	
	1.3 Future utilization of the project results in the region is discussed and shared among the member countries through CCAD framework.				➤ The project results were reported and discussed during the Council of Ministers and Technical Committee (CTMyB).	
2. Results of pilot projects such as good practice and lesson learned focused on small scale rural community and indigenous people are socialized, from the view point of sustainable development and proposal for implementation of regional and national policies	2.1 In the 4 pilot project areas, models for sustainable ecosystem conservation in transboundary areas are compiled as lesson learned case studies.	Records of the Project activities.		➤ Some practices on sustainable ecosystem conservation have been tried in 8 pilot communities located in 4 transboundary ecosystems through the pilot projects		
	2.2 Establish a mechanism for cross-border exchange of information and sharing of experience and knowledge among the selected pilot communities in each pilot region.	Questionnaire/Interview Survey		➤ Some practices on the mechanisms for cross-border exchange of information and sharing of experience and knowledge among the communities have been tried in 8 communities located in 4 transboundary ecosystems through the pilot projects		
	2.3 The leaders of the pilot activities in each community understand the experience and			➤ (No particular achievement to report)		

	good practice in the pilot communities within other countries.				
3. Regional organizational and human resources capacity for conservation and utilization of biodiversity are strengthened in coordination with SICA-CCAD.	3.1 80% or more of training participants rate their level of knowledge increased as a result of the training program.	Questionnaire to the participants.		➤ The program on SICA country-focused training course, scheduled to take place at the end of May 2023 at JICA Tokyo has been prepared and started.	
	3.2 At least 8 regional seminars and workshops are held to share SICA's knowledge and experience.	Seminar/Workshop reports Project reports		➤ All held regional seminars and workshops are listed in 1-2-3 Activities of Output 3	
Activities	Inputs		Pre-Conditions		
1.1 Evaluate and analyze current state of existing data such as biological corridors, wetlands, biodiversity database etc. in the region (i.e. regional and national level)	The Japanese Side 1. Experts 1) From March 2019 to April 2022 -Chief Advisor/Ecosystem Management -Project Coordinator/Training Planning/Institutional Capacity -Other Short-Term Experts (e.g. GIS/Data Base, Remote sensing, Agro-forestry, Eco-tourism, etc.) -Local Coordinator 2) From May 2022 【Long-term expert】 ▪ Project coordinator : In addition to the arrangement of meetings, he will also be responsible for coordination and collaboration with Japanese consultants and implementation of Output 1 (establishment of a biodiversity platform) and Output 3 (capacity building through training). 【Consultant team】 ▪ Team leader (chief advisor): Specialized in ecosystem management / regional collaboration, lead ecosystem conservation and regional collaboration, consolidating all outputs of the project. ▪ Expert of Community empowerment and cooperation: In charge of strengthening	The SICA Side 1. Counterpart -Project Director -Project Coordinator -Member of Regional Technical Committee on Seas and Biodiversity of CCAD -Other Members for each activity 2. Facility Office space for the experts with necessary equipment, Internet.	-All the SICA member countries assign their directors of biodiversity or equivalent level senior officer as the focal points of the project -SICA and its member countries agree to share existing data for the regional information platform	➤ Geographical, environmental, and socioeconomic datasets have been updated. ➤ Archived documents have been uploaded, including previous JICA (MAPCOBIO and La Union Biological Corridor) and other donor project reports in the SICA region. ➤ (This activity was completed in the previous period.) ➤ (This activity was completed in the previous period.)	
1.2 Develop design for a regional information platform as a multi biodiversity platform for data exchange and information sharing among the SICA member countries, particularly for biological corridors, wetlands, biodiversity.					
1.3 Build the regional information platform			Issues and countermeasures	➤ "Use and maintenance of biodiversity database in Japan and SICA Regional Environmental Observatory (OAR)" on the SICA country-focused training course, scheduled to take place at the end of May 2023 at JICA Tokyo has been prepared.	
1.4 In coordination with SICA-CCAD, train selected staff of the member countries on the establishment, use and maintenance of				➤ Contents of a Regional Biodiversity Outlook are discussed among the project team: Utilization and	

Monitoring Form 3-2

<p>national information platforms (e.g. collection, processing and use of available information).</p>	<p>communication and collaboration between pilot communities within each region.</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ Expert of Participatory livelihood enhancement: In charge of supporting pilot activities in each community. 		<p>maintenance of OAR, cartography, digital archives and tools etc.</p>	
<p>1.5 Compile a "Regional Biodiversity Outlook (Preparatory Guidelines / Summary)" using the platform.</p>	<p>2. Equipment</p> <ul style="list-style-type: none"> -Equipment for construction of a regional information platform for conservation and utilization of biodiversity -Other necessary equipment <p>3. Training</p> <p>Trainings in Japan and/or other countries</p> <ul style="list-style-type: none"> -Politics and governance of biodiversity management and conservation -Management of national park, world heritage, protected areas and biological corridor 		<ul style="list-style-type: none"> ➤ Geographical, environmental, and socioeconomic datasets have been updated. ➤ Archived documents have been uploaded, including previous JICA (MAPCOBIO and La Union Biological Corridor) and other donor project reports in the SICA region. 	
<p>2.1 Develop selection criteria for pilot projects of sustainable economic development which contribute to both improvement of livelihoods at community level and biodiversity conservation</p>	<ul style="list-style-type: none"> -Compensatory measures for biodiversity (e.g. Biodiversity offsetting) -Management and conservation of wetlands. -Management and conservation of biodiversity in collaboration among academic, private and public sectors. - Environmental conservation by local governments with the focus on harmony between urban environment and ecosystem 		<ul style="list-style-type: none"> ➤ (This activity was completed in the previous period.) 	
<p>2.2 Develop proposals for pilot projects with pilot community stakeholders (e.g., PES, ABS, agroforestry, agro-branding, promotion of ecotourism/agricultural tourism, development of environmentally sustainable local economic alternatives in priority areas such as wetland ecosystems, protected areas and biological corridors).</p>			<ul style="list-style-type: none"> ➤ (This activity was completed in the previous period.) 	
<p>2.3 Select pilot projects and make decisions of actual supports for the pilot projects</p>			<ul style="list-style-type: none"> ➤ (This activity was completed in the previous period.) 	
<p>2.4 Support implementation of the pilot projects</p>			<ul style="list-style-type: none"> ➤ Subcontractors for the implementation of the pilot project in 3 of 4 ecosystems have been selected and contracted. ➤ The pilot projects have been implemented. 	
<p>2.5 Evaluate and analyze the results of pilot projects (i.e. financial sustainability, impact, lessons learnt, etc.) and compile their lessons learnt.</p>			<ul style="list-style-type: none"> ➤ (This activity was not scheduled for this semester.) 	
<p>2.6 Collect examples of good practices related</p>			<ul style="list-style-type: none"> ➤ Information on the governance 	

Monitoring Form 3-2

<p>to sustainable ecosystem conservation in the region with an objective of strengthening governance mechanisms in transboundary ecosystems.</p>				<p>of transboundary protected areas and OECM have been collected.</p>	
<p>2.7 Develop recommendations on governance mechanisms in transboundary ecosystems (cf. Indicator 1) that can be adapted within the region based on Indicators 2.5 and 2.6.</p>				<p>➤ Ideas on the contents of the recommendation have been discussed.</p>	
<p>2.8 Upload the above good practice, recommendations and lesson learnt to the information platform developed in Output 1.</p>				<p>➤ (This activity was not scheduled for this semester)</p>	
<p>2.9 Make recommendations for improving regional and national level related policies based on the results obtained through the pilot projects</p>				<p>➤ (This activity was not scheduled for this semester)</p>	
<p>3.1 Evaluate and analyze training needs from SICA member countries in coordination with SICA-CCAD.</p>				<p>➤ A proposal of possible theme of the training was made as a result of consultations.</p>	
<p>3.2 In cooperation with SICA-CCAD, develop regional training programs and curricula on specific topics for the project, based on training resources in the SICA region, Japan and neighboring countries (Latin America region).</p>				<p>➤ The programs of training including seminars and workshops were implemented</p>	
<p>3.3 Conduct training including seminars and workshops, and review the plan based on the result of the training</p>					
<p>3.4 Provide recommendations on strengthening the capacity of local organizational structures and necessary human resources to promote the conservation and use of biodiversity in the framework of CCAD.</p>				<p>➤ Discussions on the proposed organizational structure of the CCAD Secretariate with dedicated personnel were informally held. ➤ The basic concept of the recommendations has been informally prepared.</p>	

Attachment-4

Monitoring Form 3-3 Monitoring version 07

Attachment-5

Minutes of Meeting of JCC (18 April 2023)



SICA
Sistema de la Integración
Centroamericana

LXVIII REUNIÓN EXTRAORDINARIA DEL CONSEJO DE MINISTROS DE LA COMISIÓN CENTROAMERICANA DE AMBIENTE Y DESARROLLO (CCAD)

En la Ciudad de Belice, Belice, a las ocho horas del día diecinueve de abril del año 2023, da inicio la **LXVIII Reunión Extraordinaria del Consejo de Ministros de la Comisión Centroamericana de Ambiente y Desarrollo (CCAD)**, estando presentes: **Orlando Habet**, Ministro del Ministerio de Desarrollo Sostenible, Cambio Climático y Gestión del Riesgo de Desastres y Presidente Pro Tempore de la CCAD de Belice; **Heyddy Calderón Palma**, Ministra del Ministerio del Ambiente y de los Recursos Naturales de la República de Nicaragua; **Kenrick Winston Williams**, Viceministro del Ministerio de Desarrollo Sostenible, Cambio Climático y Gestión del Riesgo de Desastres; **Miguel Esteban Piedrasanta**, Viceministro de Ambiente del Ministerio de Ambiente y Recursos Naturales de la República de Guatemala; **Diana Laguna**, Viceministra del Ministerio de Ambiente de la República de Panamá; **Fausto David Díaz**, Representante acreditado del Ministro y Oficial de Enlace de la CCAD de la República de Honduras; **Norma Patricia Campos Mesén**, Representante acreditada del Ministro y Oficial de Enlace de la CCAD de Costa Rica; y **Rosa Otero Nieves**, Representante acreditada del Ministro y Oficial de Enlace de la CCAD de la República Dominicana. Asimismo, se contó con la participación de los siguientes Oficiales de Enlace: **Carlos Rolando Moreno**, Oficial de Enlace de la CCAD de Belice; **María Elena Tayún**, en representación del Oficial de Enlace de la CCAD de Guatemala; **Harold Gutiérrez**, Oficial de Enlace de la CCAD de Nicaragua; y **Víctor Francisco Cadavid**, Oficial de Enlace de la CCAD de Panamá. Por parte de la Secretaría Ejecutiva, estuvieron presentes: **Jair Urriola Quiroz**, Secretario Ejecutivo de la CCAD y su equipo técnico: Raúl Artiga, Mario Escobedo, Carlos González, Gandhi Montoya y Otty Ramos.

VII. AVANCES DEL PROYECTO DESARROLLO DE CAPACIDADES EN MANEJO Y CONSERVACIÓN INTEGRAL DE LA BIODIVERSIDAD EN LA REGIÓN SICA.

El Sr. Michinori Yoshino, Coordinador del Proyecto Desarrollo de Capacidades en Manejo y Conservación Integral de la Biodiversidad en la Región SICA, haciéndose acompañar del Sr. Juichiro Sasaki, Representante Residente de la Oficina de JICA en Belice así como de funcionarios de JICA de Japón, presentan al Consejo los avances del proyecto, a la fecha, destacando los siguientes:

- Alimentación de la plataforma de la Información en el OAR.
- Desarrollo de capacidades en gestión integrada y conservación de la Biodiversidad, por medio de un curso de formación para los países SICA, a llevarse a cabo en Japón.
- Avance de actividades en los proyectos pilotos en la Selva Maya, Golfo de Fonseca, Amistad y Montecristi.
- Recomendaciones políticas para fortalecer las contribuciones de la CCAD, principalmente en las zonas transfronterizas.

El Consejo de Ministros de la CCAD acuerda:

20. Agradecer al Sr. Michinori Yoshino la presentación de avances del Proyecto Desarrollo de Capacidades en Manejo y Conservación Integral de la Biodiversidad en la Región SICA.

El Consejo de Ministros expresa su agradecimiento y felicitación a la Presidencia Pro Tempore de Belice, por la conducción de la reunión y por el apoyo recibido para la realización del presente Consejo.

De igual manera, el Consejo de Ministros agradece, de manera muy especial, la honorable presencia y el tiempo dedicado por el Sr. Werner Vargas Torres, Secretario General del SICA, así como de la Sra. Carmen Marroquín, Directora de Cooperación Internacional de la SG SICA, por sus valiosos aportes brindados en el seno de esta reunión, la cual finaliza a las quince horas con cuarenta y cinco minutos, del día diecinueve de abril del año dos mil veintitrés.



Orlando Habet
Ministro
Ministerio de Desarrollo Sostenible, Cambio
Climático y Gestión del Riesgo de Desastres
Belice



Miguel Esteban Piedrasanta
Viceministro de Ambiente
Ministerio de Ambiente y Recursos Naturales
República de Guatemala



Fausto Díaz
Representante acreditado del Ministro
Secretaría de Energía, Recursos Naturales, Ambiente
y Minas
República de Honduras



Rosa Otero Nieves
Representante acreditada del Ministro
Ministerio de Medio Ambiente y Recursos Naturales
República Dominicana



Heyddy Calderón Palma
Ministra
Ministerio del Ambiente y de los Recursos
Naturales
República de Nicaragua



Diana Laguna
Viceministra
Ministerio de Ambiente
República de Panamá



Norma Patricia Campos
Representante acreditada del Ministro
Ministerio de Ambiente y Energía
República de Costa Rica

別添 1 : 生物多様性データベースリスト (日本語)

レベル	名称	カテゴリー	概要	ソース
SICA地域	World Resources Institute Data Platforms	環境	環境に関連した様々な他のデータソースへのリンク集	https://www.wri.org/resources/data-platforms
SICA地域	Protected Planet	保護区データ	IUCN関連NGOの保護区データベース	https://www.protectedplanet.net/
SICA地域	eBird	鳥類データ	GBIFデータ	https://www.gbif.org/dataset/4fa7b334-ce0d-4e88-aaae-2e0c138d049e
SICA地域	Global Forest Watch	地理データ	世界の森林をほぼリアルタイムで監視するためのオープンソースのWebアプリケーション	https://www.globalforestwatch.org/map/
SICA地域	iNaturalist	種	iNaturalistは市民科学のプロジェクトであり、ナチュラリスト、市民科学者と生物学者を対象としたオンラインのソーシャル・ネットワーク・サービスでもある。地球上の生物多様性に関する観察記録をマッピングし共有するというコンセプトの元作られた。	https://www.inaturalist.org/
SICA地域	Plantlife International	植物データ	Important Plant Areas	https://www.plantlifeipa.org/home
SICA地域	IUCN-ORMACC	環境	IUCNコスタリカ	https://iucn.cr/arcgis/home/
SICA地域	Inter-American Biodiversity Information Network (IABIN)	環境	OAS米州機構サイト	https://www.oas.org/en/sedi/dsd/iabin/
国際	Global Lakes and Wetlands Database	生態系	世界中の湿地に関するGISデータ	https://www.worldwildlife.org/pages/global-lakes-and-wetlands-database
国際	Global Land Cover Facility (GLCF)	衛星画像	リモートセンサス衛星画像	http://glcf.umd.edu/
国際	Visible EARTH NASA Land cover	生態系	NASAのLand Cover 地理情報	https://visibleearth.nasa.gov/view.php?id=61004
国際	IUCN Red List of Threatened Species	種	Red Listに載っている種のGISデータ	https://www.iucnredlist.org/resources/spatial-data-download
国際	FishNet 2	種	世界中の魚類についてGISデータ	http://www.fishnet2.net/repatriation.html
国際	Global Biodiversity Information Facility (GBIF)	種	種の記録登録	https://www.gbif.org/
国際	Atlas of Living Australia	種	Open access to Australia's biodiversity data, Australian node of GBIF	https://www.ala.org.au/
国際	Ocean Biodiversity Information System (OBIS)	種	海洋生物の記録登録	https://obis.org/
国際	WorldClim-Global Climate Data	気候	1970-2000年の気候データ	http://worldclim.org/version2
国際	Global Climate Monitor	気候	世界中の気候データ	https://www.globalclimatemonitor.org/
国際	DIVA-GIS	基礎地図	基礎データ	http://www.diva-gis.org/gdata
国際	FIRMS	火災	世界中の火災（森林火災）情報	https://firms.modaps.eosdis.nasa.gov/active_fire/#firms-shapefile
国際	UN-Office for Outer Space Affairs	リモートセンシング	基本的には災害についてのデータリンク	http://www.un-spider.org/
国際	ArcGIS Living Atlas of the world	地理データ	主に社会データ：エルサル、パナマのみ	https://livingatlas.arcgis.com/ja/browse/#d=2&type=maps
国際	SEDAC	社会経済	NASAの社会経済データセンター	https://sedac.ciesin.columbia.edu/maps/services/
国際	CEPALSTAT-CEPAL	環境	Comision Economica para America Latina y el Caribeの情報プラットフォーム	https://estadisticas.cepal.org/cepalstat/WEB_CEPALSTAT/estadisticasIndicadores.asp?idioma=e
国際	ResourceWatch	環境	環境に関連した様々なデータソースの情報をマップ上に表示	https://resourcewatch.org/https://resourcewatch.org/data/explore
国際	Natural Earth	地理データ	主に基礎地図	https://www.naturalearthdata.com/
国際	Environmental Data Explorer	環境	UNEPのデータ検索システム	http://geodata.grid.unep.ch/
国際	World Conservation Monitoring Centre (WCMC)	環境	UNEP-WCMCプラットフォーム	https://www.unep-wcmc.org/
国際	Avibase	鳥類データ	世界中の鳥の分類および分布データを整理するオンライン分類データベース	https://avibase.bsc-eoc.org
国際	BirdLife International Data Zone	鳥類データ	Endemic Bird Areas, Important Bird Areas	http://datazone.birdlife.org/home
国際	American Ornithological Society	鳥類データ	https://americanornithology.org/publications/north-and-middle-american-checklist/	https://americanornithology.org
国際	LandMark	先住民	Global Platform of Indigenous And Community Lands	http://www.landmarkmap.org/
国際	Climate Watch	気候	Emissions and Policies (NDC)	https://www.climatewatchdata.org/
	※関連する国際条約・枠組み			
国際	Pollinator Partnership	種	環境管理と花粉媒介者の保護	https://www.pollinator.org/
国際	Bonn Challenge	国際条約	ドイツ政府とIUCNの主導により始まった森林再生の目	https://www.bonnchallenge.org/
国際	Group of Like Minded Megadiverse Countries (LMMC)	国際条約	中米ではメキシコ、グアテマラ、コスタリカが参加	https://lmmcgroup.wordpress.com/2014/03/24/welcome-to-the-group-of-like-minded-megadiverse-countries/

国際	High Ambition Coalition (HAC) for Nature and People	国際条約	中米のコスタリカが主導	https://www.hacfornatureandpeople.org/home
コスタリカ	BiodataCR	種	元INBioのデータを移管	http://biodiversidad.go.cr/
コスタリカ	Sistema Nacional de Información Territorial	地理データ	国家データベース	https://www.snitr.go.cr/
コスタリカ	Sistema Nacional de Información Ambiental de Costa Rica	環境	国家データベース	http://sinia.go.cr/
グアテマラ	Sistema Nacional de Información Territorial	地理データ	国家データベース	https://portal.segeplan.gob.gt/segeplan/?page_id=6743

別添 2 : 地域生物多様性アウトルック (OAR ガイドライン) (スペイン語)

Guía del mantenimiento del Observatorio Ambiental Regional (OAR) - SICA



Desarrollo de Capacidades
en Manejo y Conservación
Integral de la Biodiversidad
en la Región SICA



Proyecto de Desarrollo de Capacidad para la Gestión y Conservación Integrada de la Biodiversidad a nivel regional en la Región del SICA

Febrero, 2024

Guía del mantenimiento del Observatorio Ambiental Regional (OAR) - SICA

- 1) Publicación y actualización de información sobre las actividades del Comité Técnico de la CCAD
- 2) Publicación y actualización de información cartográfica
- 3) Publicación y actualización de información sobre proyectos
- 4) Cómo grabar vídeos para YouTube
- 5) Publicación y actualización de información sobre formación para el desarrollo de capacidades
- 6) Recopilación y publicación de manuales útiles
- 7) Publicación y actualización de información sobre monitoreo de la biodiversidad (iNaturalist)
- 8) Elaboración y publicación de materiales para educación ambiental (Biodiversity Outlook)
- 9) Publicación y actualización de enlaces mutuos con otras plataformas de información ambiental
- 10) Guía de uso del SAC Web para publicar información y construir secciones en el Portal SICA

Mantenimiento:

<https://www.sica.int/oar>

El Observatorio Ambiental Regional (OAR) del SICA está gestionada de forma centralizada por la Dirección de Tecnologías de la Información (DTI) del SICA. Por ejemplo, para que un oficial de proyecto pueda actualizar la información, necesita ser autorizado por el DTI para acceder a la información, que necesita ser manipulada a través de la codificación de Microsoft Visual Studio.

Esto obliga a la Secretaría de la CCAD a emplear gestores de contenidos OAR, como estudiantes en prácticas, para actualizar la información de forma continua.

A continuación, figura unos ejemplos de publicación sobre contenidos.

1) Publicación y actualización de información sobre las actividades del Comité Técnico de la CCAD

La Presidencia de la CCAD (PPT) se determina por rotación semestral, con al menos una reunión (presencial o en línea) dentro del semestre dirigida por un miembro del Comité Técnico de la Presidencia. Los temas son iniciados por el representante del Comité Técnico de la Presidencia y coordinados con el coordinador.

Borrador de Temas (los siguientes son borradores de puntos específicos del orden del día y recomendaciones):

- 1) Trabajar para incorporar el Marco de Biodiversidad Kunming-Montreal, incluyendo las OMEC, en la próxima Estrategia Regional Ambiental Marco (ERAM)
- 2) Promoción de la gobernanza transfronteriza de los ecosistemas basada en las recomendaciones y lecciones aprendidas del Proyecto Biodiversidad JICA-CCAD
- 3) El mantenimiento del Observatorio Ambiental Regional (OAR)
- 4) El centro regional de la coordinación del Convenio sobre la Diversidad Biológica (CDB)
- 5) El monitoreo de la biodiversidad por la población local (iNaturalist)

6) Afiliación nacional a la Global Biodiversity Information Facility (GBIF) y afiliación regional como miembro asociado de la CCAD

Reuniones periódicas con los donantes y divulgación (intercambio) de información:

Se sugiere celebrar reuniones periódicas con los donantes pertinentes (Banco Mundial/GEF, Banco Interamericano de Desarrollo, UICN, GIZ, USAID, JICA, etc.) para evitar la duplicación de actividades y temas.

Además, debería prepararse una lista de los proyectos que se han ejecutado, se están ejecutando o se van a ejecutar utilizando OAR y poner la información a disposición del público.

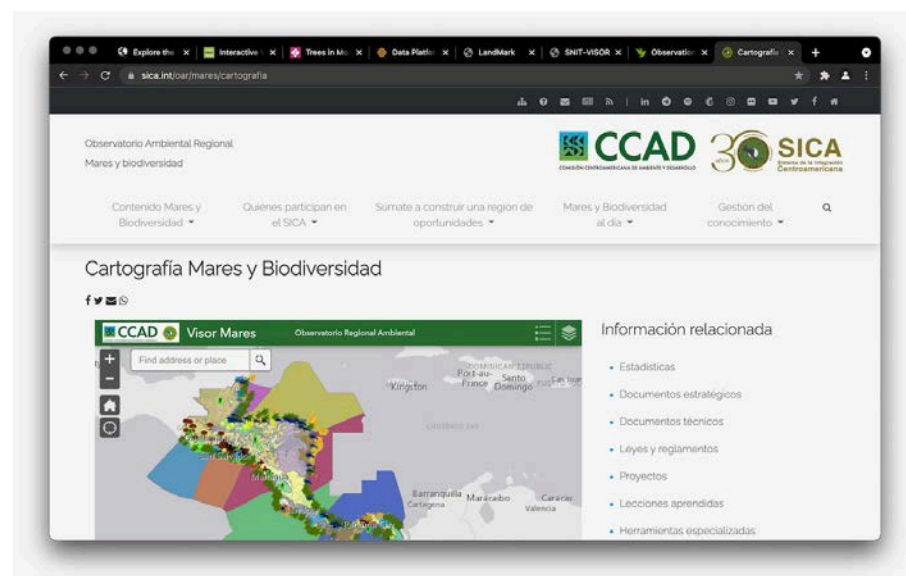
Divulgación (intercambio) de información sobre formación para el desarrollo de capacidades:

Elaborar una lista de los cursos de formación que se han impartido, se están impartiendo o se impartirán utilizando OAR y poner esta información a disposición del público.

Compartir los resultados de la participación en conferencias internacionales.

Compartir información sobre la nueva legislación pertinente.

2) Publicación y actualización de información cartográfica

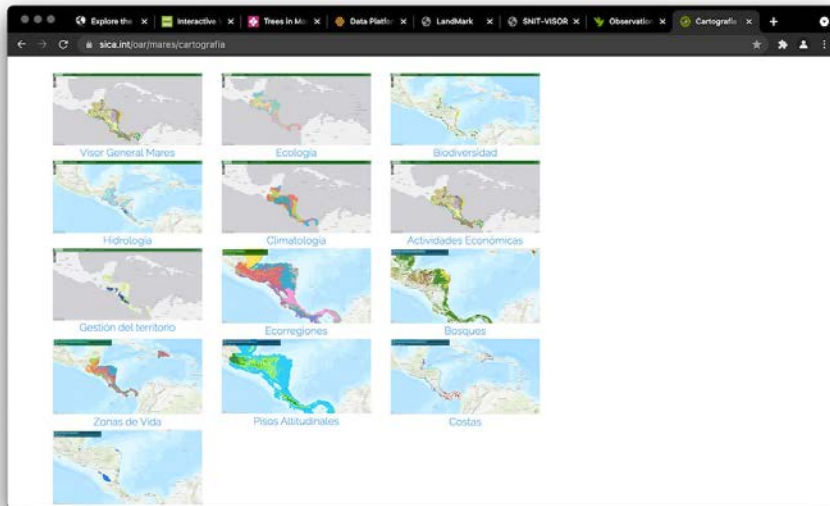


<https://www.sica.int/oar/cartografia>

Cartografía: Estrategia Regional Ambiental Marco (ERAM) y los temas del Comités Técnicos de la CCAD - Bosques, Mares y Biodiversidad, Recursos Hídricos, Cambio Climático y Gestión de Riesgos, Calidad Ambiental, Comercio y Ambiente, Mecanismos de Financiamiento

Mantenimiento:

Basado en datos de 2022 y necesitará ser actualizado; los datos de Visor en ArcGIS son mantenidos por Sr. Mario Escobedo, Coordinador del Comité Técnico de Mares y Biodiversidad de la CCAD.



<https://www.sica.int/oar/mares/cartografia>

Cartografía: Mares, Ecología, Biodiversidad, Hidrología, Climatología, Actividades Económicas, Gestión de territorio, Ecorregiones, Bosques, Zonas de Vida, Pisos Altitudinales, Costas, Cuerpos de Agua

Sitios de web de la referencia:

Global Biodiversity Information Facility (GBIF)

<https://www.gbif.org/>

Protected Areas (WDPA) and OECMs

<https://www.protectedplanet.net/>

World Resource Institute (WRI)

<https://www.wri.org/data>

Global Forest Watch

<https://www.globalforestwatch.org/>

3) Publicación y actualización de información sobre proyectos

Información sobre proyectos de la JICA y otros donantes.

Página del proyecto de biodiversidad de la JICA:

- a) Documentos del proyecto
- b) Vídeos del proyecto (YouTube)
- c) Newsletters (Biodiversity Outlook)
- d) Documentos de proyectos de conservación de la naturaleza
- e) Enlaces

sica.int/cooperacion/jica

Acerca del SICA | Institucionalidad regional | Participa | Nuestro trabajo | Gestión del conocimiento

SICA
Sistema de la Integración Centroamericana

Información actualizada a marzo 2019

Agencia de Cooperación Internacional del Japón (JICA)



Datos generales

Nombre oficial: Agencia de Cooperación Internacional del Japón (JICA)

Oficina de enlace: JICA El Salvador

Relaciones de cooperación con SICA: El Foro de Diálogo y Cooperación entre Japón y SICA se creó en 1995 y las Consultas Conjuntas a partir de 2015

Documento base para la cooperación: Plan Quinquenal de la Cooperación Regional entre SICA-JICA, 2015-2020

Datos relevantes de la cooperación

US\$5,000,000.00
Monto total en ejecución

3
Cantidad de proyectos en ejecución

Datos de admisión de Japón como observador del SICA

Información del donante: JICA-SICA

sica.int/redd/inicio

Programa Regional: Reducción de Emisiones por Deforestación y Degradación de Bosques en Centroamérica y República Dominicana (REDD/CCAD-GIZ)

CCAD COMISIÓN CENTROAMERICANA DE AMBIENTE Y DESARROLLO | SICA Sistema de la Integración Centroamericana

Conociendo REDD/CCAD-GIZ | Quiénes participan en el SICA | Súmate a construir una región de oportunidades | REDD/CCAD-GIZ al día | Gestión del conocimiento REDD/CCAD-GIZ



FORTALECIMIENTO DE LOS PUEBLOS INDÍGENAS DE LA REGIÓN SICA

#10AñosPorLosBosques
#AlemaniaCooperandoConSICA

Ocho países construyendo una región [VER MÁS](#) ades



Información del donante: Los proyectos de REDD por CCAD-GIZ



Información del proyecto: El video del Proyecto de Biodiversidad JICA-CCAD (Secretario Ejecutivo de la CCAD Jair Urriola)



Información del proyecto: El video del Proyecto de Biodiversidad JICA-CCAD (Sra. Rosalba Alvarenga, MARN El Salvador)

4) Cómo grabar vídeos para YouTube



1. Iluminación

Si va a grabar con una cámara o una cámara web, la iluminación influirá mucho en el aspecto y la calidad general del vídeo.

2. Evita grabar delante de una ventana

Si graba cerca de una ventana, evita ponerle justo delante de ella. Colócale a un lado o mirando hacia ella. De este modo, no quedará a oscuras ni le convertirá en una sombra.

3. Coloca bien la cámara

Inclina la cámara web o la cámara para que esté a la altura de los ojos y los espectadores no tengan que levantar la vista para verle. Sigue la regla de los tercios o sitúale en el centro del encuadre.

Cómo Grabar Videos Para YouTube - Cómo Mejorar Sus Videos

Fuente: https://www.youtube.com/watch?v=QPOZEN7zDmc&ab_channel=TheFigCoenEspa%C3%B1ol

Sabemos que comenzar en youtube puede ser algo complicado, especialmente si no sabes cómo grabar videos para youtube. Queremos ayudarte y darte algunos tips para grabar un buen video y comenzar en youtube. Aquí nuestros puntos sobre cómo grabar videos para youtube:

Contenido: para poder crecer en youtube, lo que necesitas es tener contenido de valor para tu audiencia. Para hacer videos, necesitas tener temas que le interesen a las personas, contenido que la gente esté buscando. Uno de los tips más importantes para comenzar en YouTube, es saber qué quiere tu audiencia y darle ese contenido, pues entre más busquen algún tema, más visitas y suscripciones tendrá tu canal. Así que para crear videos para youtube, es esencial dar contenido de valor.

Ir directo al tema: uno de los principales errores en youtube al grabar videos, es dar vueltas y no ir directo al punto. Las personas que estás video tus videos de youtube, quieren saber sobre un tema en específico, no quieren que los marees con cosas que no son el tema principal de tu video. Por eso al grabar para youtube, sé conciso y habla sobre el tema que tu título promete, de otra forma las personas no terminarán de ver tu video de youtube.

Estabiliza tus videos: para grabar un buen video, debes contar con un buen soporte, para que tu video de youtube tenga estabilidad y al momento de la edición no se vea con movimientos que pueda molestar a tu audiencia. Es importante que al grabar videos, tengas un tripie o una base donde tu cámara no tenga movimiento.

La iluminación: Todo buen video, cuenta con una luz que beneficie a la persona que está grabando. Los videos de youtube con calidad suelen tener más éxito, porque la falta de luz podría incomodar a los espectadores y hacerlos que no terminen de ver tus videos de YouTube. Nuestro tip para comenzar en YouTube, es comprar lámparas que ayuden a la iluminación de tus videos, o encontrar luz natural que te ayuden en el momento de grabar tus videos.

Audio: no hay nada más molesto que un video de YouTube con un mal audio, las personas se saldrán de tu video si el audio tiene mala calidad, pues lo que les interesa a las personas es ver y escuchar tu contenido. Por eso también te recomendamos que para grabar videos, compres un micrófono que ayude a tu audio y le dé más claridad a tus videos de YouTube.

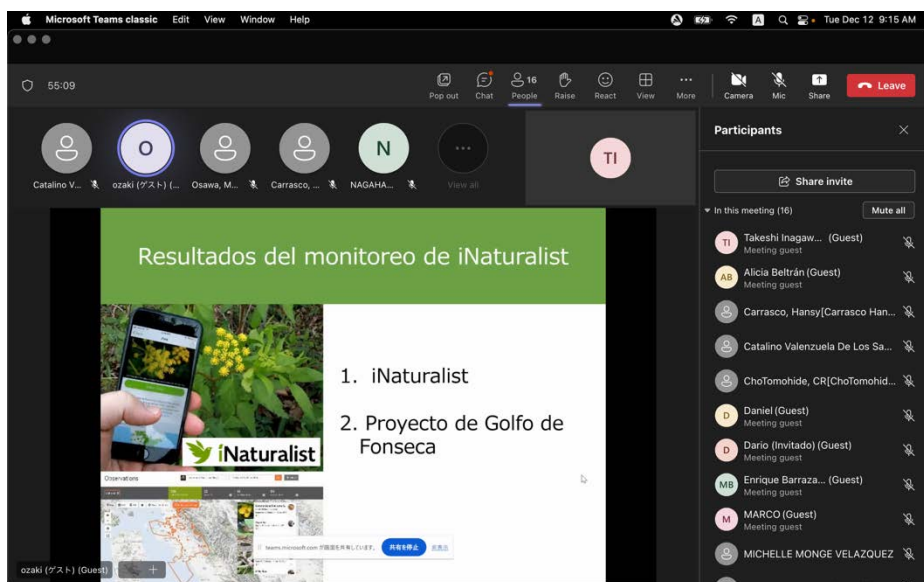
Agrega energía: para finalizar con los tips para grabar videos de YouTube, es tener energía durante la grabación, pues esto contagia a la audiencia y ayuda a retenerlos más durante el video. Para crear videos para YouTube necesitas poder transmitir tu energía através tus videos, pues a las personas no les gusta ver video donde el expositor tenga mala actitud o parezca que no quiere estar ahí.

5) Publicación y actualización de información sobre formación para el desarrollo de capacidades

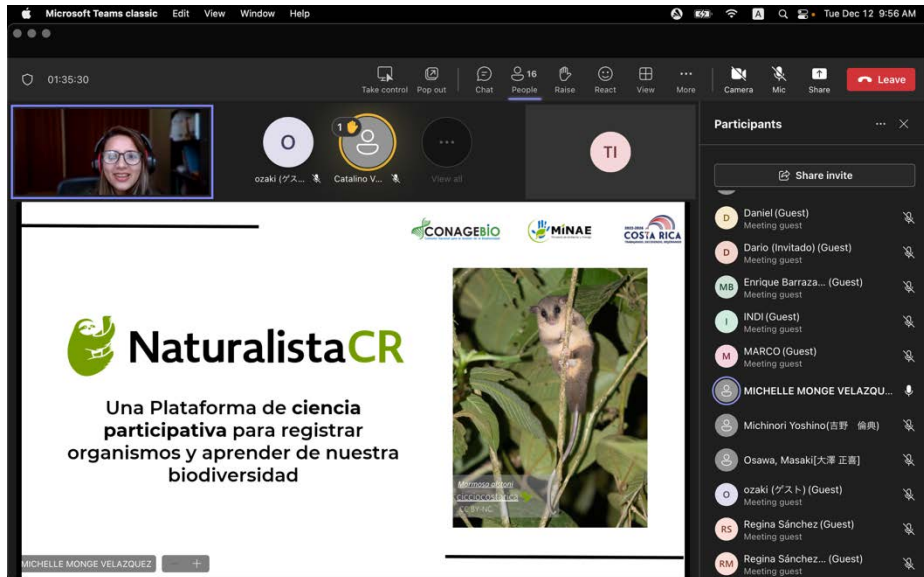
La JICA organiza periódicamente cursos de formación por terceros países en el ámbito de la conservación de la naturaleza. Hasta ahora, se han celebrado en Panamá “Ecosistemas con Enfoque Participativo en Manejo Integrado en Cuencas Hidrográficas (2019-2022)” y en Costa Rica “Fortalecimiento de Capacidades Colaborativas para la Gobernanza Participativa y el Ecoturismo en Áreas Protegidas (2023-2025)”

La información sobre la formación se publicará en el OAR, junto con otras formaciones impartidas por donantes.

Se han celebrado seminarios en línea sobre monitoreo de la biodiversidad utilizando iNaturalist para el Comité Técnico de Mares y Biodiversidad de la CCAD. Se espera que siga habiendo oportunidades de compartir los resultados del monitoreo por nodos nacionales de iNaturalist.



Información sobre formación: seminario de monitoreo de la biodiversidad con iNaturalist para el Comité Técnico de la CCAD (Diciembre de 2023).



Información sobre formación: seminario sobre monitoreo de la biodiversidad con iNaturalist para el Comité Técnico de la CCAD, presentado por la gestora de iNaturalist Costa Rica (Diciembre de 2023).

6) Recopilación y publicación de manuales útiles

Mantenimiento:

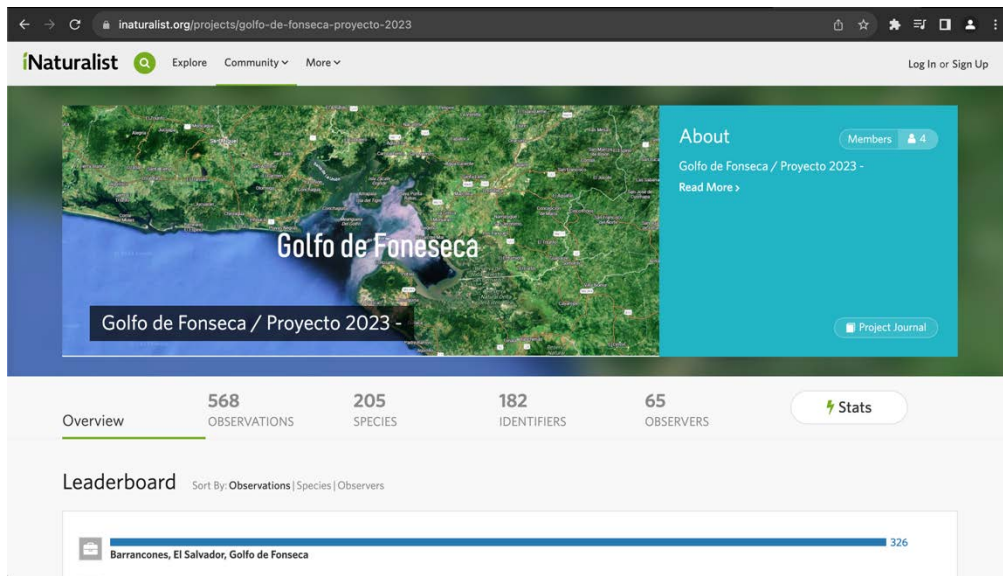
Recopilar documentos digitales de proyectos de conservación de la naturaleza de la JICA y de otros donantes y publicarlos en el OAR.



Manuales útiles: Proyectos relacionados con JICA (por ejemplo, MAPCOBIO de Costa Rica)

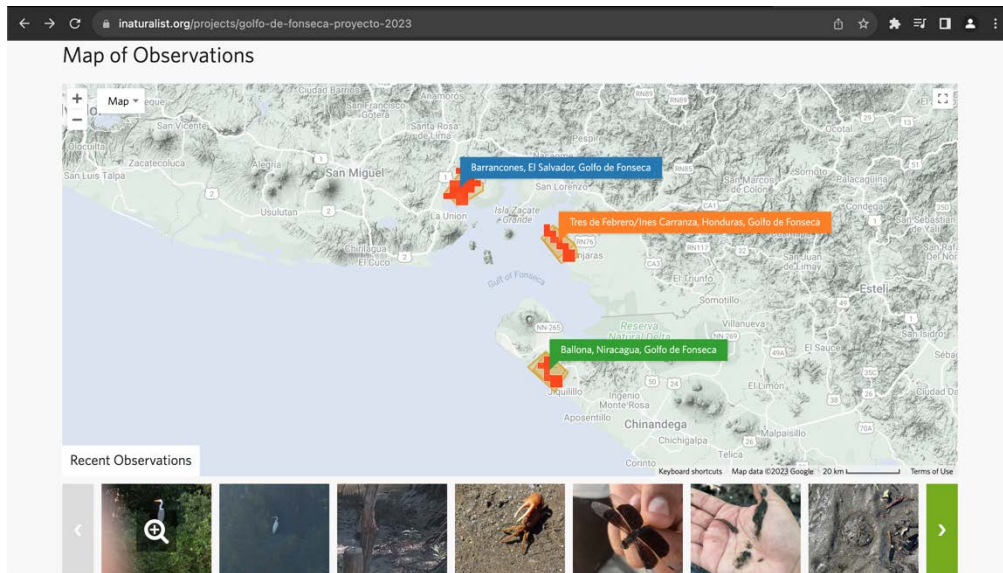
7) Publicación y actualización de información sobre monitoreo de la biodiversidad (iNaturalist)

El Proyecto de Biodiversidad JICA-CCAD implementó el monitoreo de la biodiversidad con iNaturalist en los sitios piloto del proyecto. Utilizando nodos nacionales de iNaturalist, los resultados del monitoreo de los países miembros de la CCAD se comparten en el OAR.

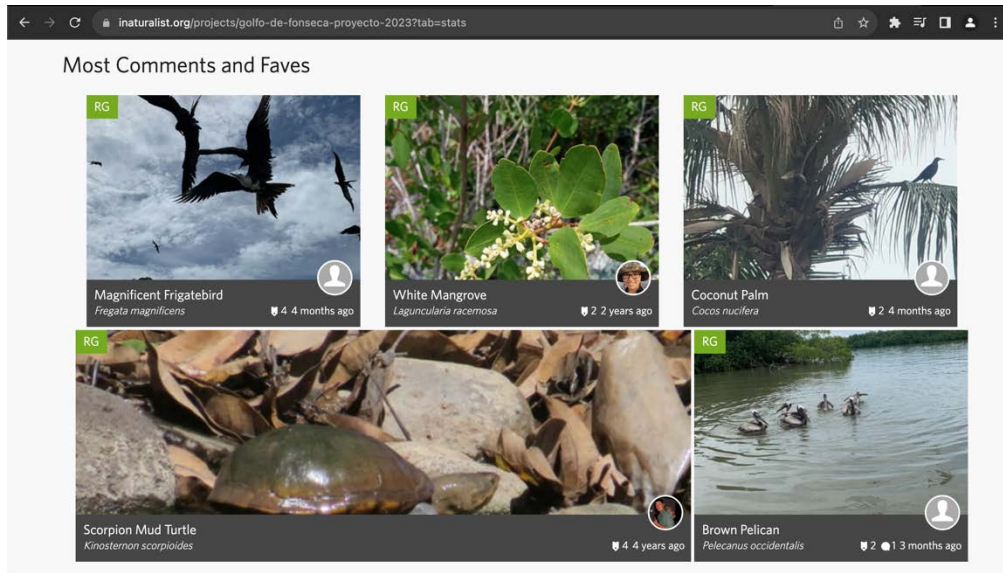


Monitoreo de Biodiversidad: Comunidad de Golfo de Fonseca – iNaturalist
Sitio piloto del proyecto de biodiversidad JICA-CCAD "Golfo de Fonseca"
(568 registros de observación, 205 especies, 182 identificadores, 65 contribuyentes, hasta septiembre de 2023):

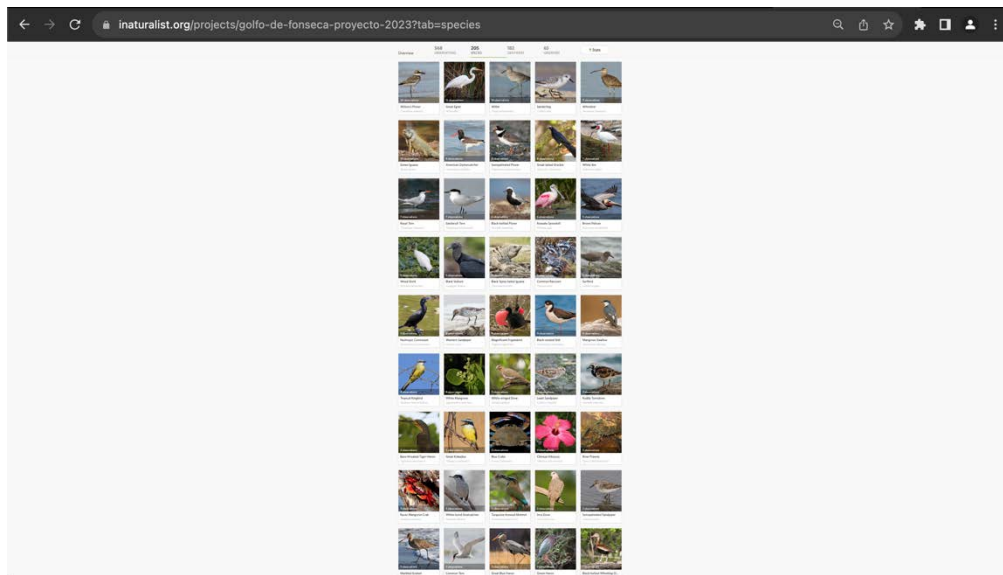
<https://www.inaturalist.org/projects/golfo-de-fonseca-proyecto-2023>



Monitoreo de Biodiversidad: Comunidad de Golfo de Fonseca – iNaturalist
Sitio piloto del proyecto de biodiversidad JICA-CCAD "Golfo de Fonseca"



Monitoreo de Biodiversidad: Comunidad de Golfo de Fonseca – iNaturalist
Sitio piloto del proyecto de biodiversidad JICA-CCAD "Golfo de Fonseca"

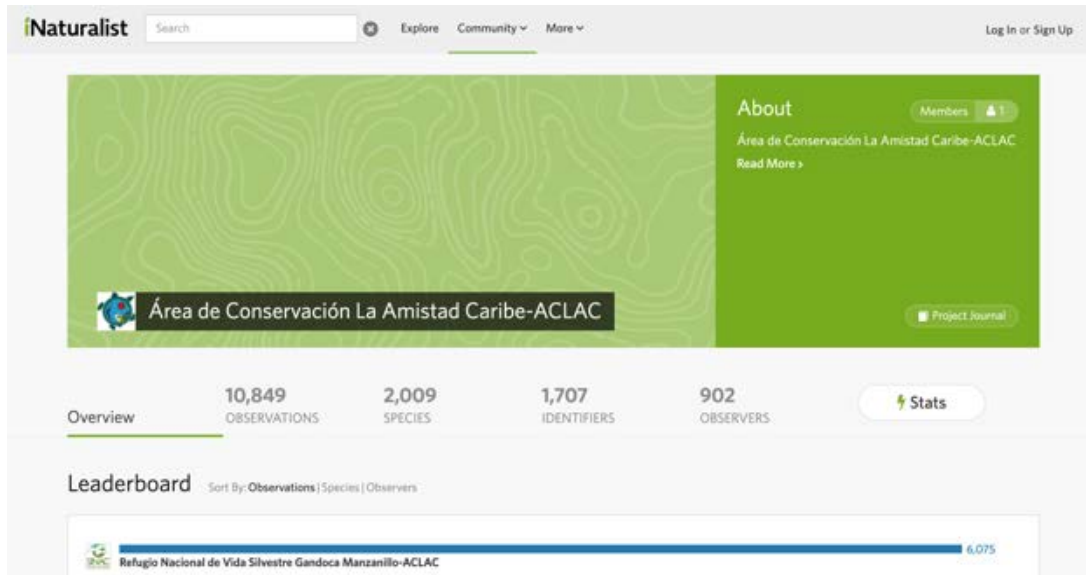


Monitoreo de Biodiversidad: Comunidad de Golfo de Fonseca – iNaturalist
Sitio piloto del proyecto de biodiversidad JICA-CCAD "Golfo de Fonseca"

Costa Rica opera los siguientes lados PILA Pacífico y Caribe en iNaturalist.

ACLAP:

<https://www.inaturalist.org/projects/parque-internacional-la-amistad-aclap>



ACLAC:

<https://www.inaturalist.org/projects/area-de-conservacion-la-amistad-caribe-aclac>

Monte Cristi, República Dominicana:

<https://www.inaturalist.org/projects/laguna-saladilla-monte-cristi-republica-dominicana>

iNaturalist de nodo nacional que opera a nivel nacional: Guatemala (Administrado por MARN Guatemala)

<https://guatemala.inaturalist.org/>

Panamá (Administrado por Ministerio de Ambiente de Panamá)

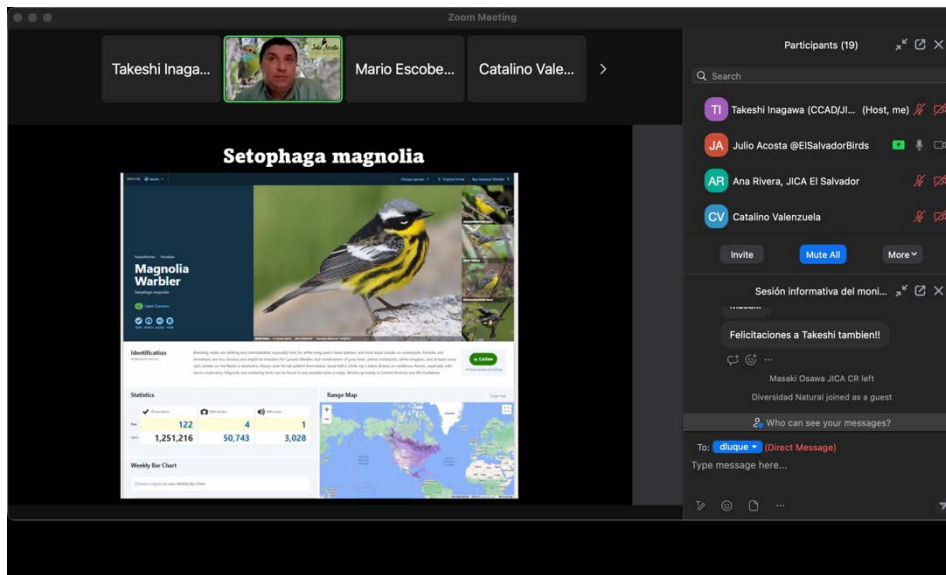
<https://panama.inaturalist.org/>

Los datos de iNaturalist figuran como referencias en bases de datos internacionales Global Biodiversity Information Facility (GBIF):

<https://www.gbif.org/>

Casos remitidos al GBIF:

<https://panama.inaturalist.org/observations/16268642>



Monitoreo de Biodiversidad: seminario sobre monitoreo de la biodiversidad con eBird para el Comité Técnico de la CCAD, presentado por el especialista de El Salvador (Octubre de 2023).

8) Elaboración y publicación de materiales para educación ambiental (Biodiversity Outlook)

El Proyecto de Biodiversidad JICA-CCAD publicó unos "Biodiversity Outlook" con información sobre la biodiversidad en la región del SICA. Se espera que se siga publicando material similar para la educación ambiental y otros fines.

Biodiversity Outlook publicadas hasta la fecha:

Puntos críticos de biodiversidad y bosques de manglares (Septiembre de 2022)

El Parque Nacional de La Amistad, Patrimonio de la Humanidad, y las abejas melíferas (Febrero de 2023)

Selva Maya, la mayor selva tropical de Centroamérica, y la civilización Maya (Junio de 2023)

El monitoreo de la biodiversidad y "carbono azul" (Septiembre de 2023)



Boletín del Proyecto de Conservación de la Biodiversidad de JICA/SICA (Sistema de la Integración Centroamericana), septiembre de 2022.

El Proyecto de Fortalecimiento de Capacidades en Manejo y Conservación Integral de la Biodiversidad en la Región del SICA es un proyecto conjunto de JICA y el Sistema de Integración Centroamericana (SICA) que estará plenamente operativo en proyectos piloto en cada región a partir de enero de 2023. El proyecto opera en Centroamérica y el Caribe (en ocho países miembros del SICA: Belice, Guatemala, El Salvador, Honduras, Nicaragua, Costa Rica, Panamá y República Dominicana), Centroamérica y el Mar Caribe, que conecta los continentes de América del Norte y del Sur, es uno de los principales "puntos calientes" de biodiversidad del mundo, con una gran variedad de flora y fauna en un área tan pequeña como Kyushu y Shikoku en Japón. Los puntos calientes son zonas de gran biodiversidad que están en peligro de ser destruidas por el ser humano. Como se muestra en el mapa de la derecha (Fig. 1), Centroamérica y el Caribe son regiones importantes para la conservación de la biodiversidad.



Fig. 1 Fuente: "Hotspots Revisited", Conservation International 2004

El biotopo de este mes destacará los "manglares" que también se encuentran en el Golfo de Fonseca (una bahía en el Océano Pacífico entre El Salvador, Honduras y Nicaragua), donde el proyecto está activo. Los manglares son curvas de vida que alimentan una gran variedad de plantas y animales y son un ecosistema importante en términos de biodiversidad. Además, el fondo de los manglares es un denso sumidero de gases de efecto invernadero y dióxido de carbono llamado turba (ton capas profundas de sedimentos ricos en materia orgánica), que se espera que ayude a mitigar el cambio climático. En algunos bosques de manglar, se han encontrado depósitos de turba de manglares extendidos por más de 10 m por debajo del suelo y datan hasta más de 10,000 años.

Los manglares contribuyen al control de inundaciones, depuración y almacenamiento de agua, producción pesquera, producción de madera, recarga de acuíferos, fijación de carbono y regulación climática, protección y estabilización de la línea de costa y como barrera natural para la protección de las comunidades ante huracanes o depresiones.



La Reserva del Estero Padre Ramos en Nicaragua, donde se encuentran las comunidades, es objetivo del proyecto. El proyecto apoya la pesca sostenible en el Golfo de Fonseca, por la gran cantidad de especies de marisqueo.



Especie de mangle rojo (*Rhizophora racemosa* G. Mey.) mostrada por técnico del Ministerio del Ambiente y los Recursos Naturales de Nicaragua (MARN).

Número especial sobre "Puntos críticos de biodiversidad y bosques de manglares"



Boletín del Proyecto de Conservación de la Biodiversidad de JICA/SICA (Sistema de la Integración Centroamericana), junio de 2022

El Proyecto de Fortalecimiento de Capacidades en Gestión Integrada y Conservación de la Biodiversidad en la Región del SICA (en adelante el Proyecto) es un proyecto conjunto de JICA y la Organización Centroamericana de Integración (SICA) que inició la implementación a gran escala de proyectos piloto en varias regiones en enero de 2023. El proyecto opera en Centroamérica y el Caribe (en ocho países miembros del SICA: Belice, Guatemala, El Salvador, Honduras, Nicaragua, Costa Rica, Panamá y República Dominicana). El número de este mes presenta el empujamiento del proyecto piloto, Selva Maya, el mayor bosque tropical de Centroamérica. Selva significa bosque tropical húmedo en español. La Selva Maya es una región de selva tropical que se extiende por Belice, el norte de Guatemala y el sureste de México (Figura 1). Es la selva tropical más extensa de la región, con más de 20 ecosistemas, que van desde las selvas perennifolias de Petén hasta las selvas secas del norte de la península de Yucatán, con importantes gradientes ecológicos y ambientales. La zona es rica en biodiversidad y alberga especies amenazadas como la guacamaya, el jaguar y el búho. También se encuentran aquí tortugas blancas (*Dermatemys mawii*) y monos aulladores carineros (*Alouatta pigra*), endemismo de Selva Maya. El hulo del pan (*Bromholm alacstrum*), el chicho (*Mastomys sp.*), el caco y las abejas son también importantes fuentes alternativas de ingresos y alimentos para la población rural.



Fig. 1 Extensión del mayor bosque tropical de Centroamérica, Selva Maya. Fuente: Selva Maya Programme

Selva Maya es una tierra ancestral y parte de la cultura maya; es un lugar de gran diversidad cultural, formado por más de 20 grupos étnicos diferentes. Muchas personas aún viven con los bosques de Selva Maya y se benefician de ellos. Por otro lado, Selva Maya se enfrenta a grandes amenazas como los incendios forestales, la tala ilegal y el tráfico de plantas y animales. El cambio de uso de la tierra debido a la agricultura y la degradación del suelo por los pesticidas también están teniendo un gran impacto. El proyecto apoya la agricultura y el cultivo de hortalizas adaptadas al cambio climático, la mejora de los medios de vida del grupo de mujeres y el intercambio de información entre los jóvenes.



Miembros de los medios de vida por el grupo de mujeres apoyado por el proyecto (fotos seleccionadas en Belice). Foto cortesía del equipo del proyecto.



Parcelas de cultivo de hortalizas en ejecución en el proyecto (pueblos de Belice).

Número especial sobre "Selva Maya, la mayor selva tropical de Centroamérica, y la civilización Maya"



Boletín del Proyecto de Conservación de la Biodiversidad de JICA/SICA (Sistema de la Integración Centroamericana), febrero de 2023

El Proyecto de Fortalecimiento de Capacidades en Gestión Integrada y Conservación de la Biodiversidad en la Región del SICA (en adelante el Proyecto) es un proyecto conjunto de JICA y la Organización Centroamericana de Integración (SICA) que inició la implementación a gran escala de proyectos piloto en varias regiones en enero de 2023. El proyecto opera en Centroamérica y el Caribe (en ocho países miembros del SICA: Belice, Guatemala, El Salvador, Honduras, Nicaragua, Costa Rica, Panamá y República Dominicana). El número de este mes presenta el empujamiento del proyecto piloto, el Parque Internacional La Amistad (PILA). Situado en la parte sur de la cordillera de Talamanca, a caballo entre Costa Rica y Panamá, el parque goza de gran prestigio nacional e internacional por sus valores naturales y culturales. La cordillera, junto con un grupo de parques nacionales y reservas naturales de la zona, fue designada **Reserva de la Biosfera** en 1992 en el marco del Programa sobre el Hombre y la Biosfera (MAB) de la UNESCO. Al año siguiente, en 1993, se reconoció la importancia y diversidad del ecosistema y se inscribió como **Patrimonio Natural de la Humanidad** de la UNESCO, el Área Protegida Montañas de Talamanca-La Amistad y Parque Nacional de La Amistad (este año se cumple el 40 aniversario). El parque nacional forma parte del PILA, un parque internacional de la paz gestionado conjuntamente por Panamá y Costa Rica.



Entrada al Parque Internacional La Amistad, parte del Patrimonio de la Humanidad (foto panameña).

El PILA pretende establecer un sistema de responsabilidad operativa compartida a través de la conservación, la gobernanza, la participación ciudadana y las asociaciones público-privadas entre comunidades, sociedades y colaboradores. Esto proporcionará beneficios socioeconómicos y servicios ecosistémicos a la población y las organizaciones locales. Al mismo tiempo, los residentes/organizaciones asumen la responsabilidad y el compromiso de conservar la biodiversidad y los recursos naturales en sus propios entornos comunitarios y lugares de producción, tanto dentro como fuera de las zonas protegidas.

El proyecto ha iniciado la agricultura en las áreas de los alrededores del PILA, en colaboración con la Agencia Nacional de Áreas de Conservación de Costa Rica (SINAC) y el Ministerio de Medio Ambiente panameño, así como la plantación de árboles para mejorar la producción de café y el paisaje. Este artículo presenta la agricultura.

Las abejas, principales protagonistas de la agricultura, desempeñan un papel fundamental en el apareamiento del polen para los cultivos y la fauna silvestre y son esenciales para la conservación de la biodiversidad. Según un informe de 2016 de la Plataforma Intergubernamental Científica y Pública sobre Biodiversidad y Servicios de los Ecosistemas (IPBES), el 75 % de los cultivos agrícolas y casi el 90 % de las plantas silvestres dependen al menos de los polinizadores animales, incluidas las abejas. Por el contrario, los países occidentales han informado de la disminución del número de polinizadores debido a los pesticidas y a los efectos del cambio climático.

El proyecto ha introducido en áreas de Panamá un híbrido de la especie común de abeja centroamericana *Apis mellifera* y su subespecie africana, así como una especie endémica y autóctona de abeja melífera del género *Megatrigona*. Las abejas melíferas están muy extendidas en el Neotrópico cálido, desde México hasta Argentina, y se caracterizan por carecer de aguijón; se han identificado unas 70 especies. En los cultivos agrícolas, son los únicos polinizadores conocidos de las plantas de vainilla. La agricultura está ganando atención como medio de subsistencia para las poblaciones de los países en desarrollo que dependen de la agricultura. En las áreas de los alrededores del PILA, que forman parte del Patrimonio Natural de la Humanidad, los resultados del proyecto son de gran importancia para establecer un método que permita a la vez conservar la biodiversidad y mejorar los medios de subsistencia de la población.



Reuniones comunitarias celebradas en el marco del proyecto. El proyecto debe equilibrar la conservación de la biodiversidad y la mejora de los medios de subsistencia de la población. (fotografía costarricense)

Seminario sobre tecnología agrícola en curso en el proyecto (el año objetivo de Costa Rica)

Número especial sobre "El Parque Internacional de la Amistad, Patrimonio de la Humanidad, y las abejas melíferas"



Boletín del Proyecto de Conservación de la Biodiversidad de JICA/SICA (Sistema de la Integración Centroamericana), septiembre de 2022

El Proyecto de Desarrollo de Capacidades para la Gestión y Conservación Integrada de la Biodiversidad en la Región del SICA, implementado conjuntamente por JICA y el Sistema de la Integración Centroamericana (SICA), con proyectos piloto en plena ejecución en cada región a partir de enero de 2023. Actualmente, el proyecto está implementando proyectos piloto de conservación de la biodiversidad en áreas y entre aldeas en cuatro ecosistemas situados en ocho países miembros del SICA en Centroamérica y el Caribe (Belice, Guatemala, El Salvador, Honduras, Nicaragua, Costa Rica, Panamá y República Dominicana). En el número de este mes, presentamos el monitoreo de la biodiversidad que se está llevando a cabo en uno de estos proyectos piloto en el Golfo de Fonseca (El Salvador, Honduras y Nicaragua), así como Carbono Azul para los manglares de la región, véase también el número especial de septiembre de 2022 sobre "Puntos críticos de biodiversidad y bosques de manglares".



Fig. 1 Comunidad Naturalist del Golfo de Fonseca en funcionamiento en el marco del proyecto: 508 observaciones y 205 especies identificadas hasta septiembre de 2022. <https://www.naturalist.org/projects/golfo-de-fonseca-proyecto-2023>

El proyecto utiliza **Naturalist** para el monitoreo de la biodiversidad en el Golfo de Fonseca. **Naturalist** es una red social participativa para compartir información sobre biodiversidad y aprender sobre la naturaleza. Está gestionada conjuntamente por la California Academy of Sciences y la National Geographic Society. El proyecto piloto estableció la Comunidad del Golfo de Fonseca (Figura 1) en **Naturalist** en marzo de 2023. El personal del proyecto, los biólogos y los residentes locales registran las observaciones de flora y fauna, y los miembros de la comunidad identifican las especies de las observaciones registradas. Si 30 usuarios coinciden en la identificación de una especie, se clasifica como "uso de investigación" y se introduce como referencia en el **Global Biodiversity Information Facility (GBIF)**, una base de datos internacional sobre biodiversidad. Hasta la fecha, hay unos 4.000 usos de investigación en todo el mundo* que citan registros de observación de investigación, muchos de los cuales se centran en los cambios y ampliaciones de hábitat debidos al cambio climático. Por lo tanto, estos monitores también pueden contribuir al monitoreo internacional de la biodiversidad. También es posible destacar los registros de observación más recientes, como se muestra en la Fig. 2, y enumerar las plantas y animales identificados, como se muestra en la Fig. 3. Obsérvese que la comunidad ha identificado hasta ahora 205 especies de plantas y animales.

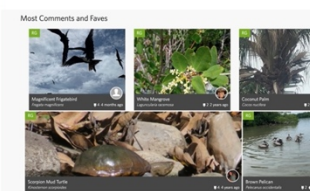


Fig. 2. La flora y la fauna más destacada de la comunidad del Golfo de Fonseca: la fragata común (*Fregata alicaudata*), el mangle blanco (*Laguncularia racemosa*), el cocotero (*Cocos nucifera*), la tortuga escorpión (*Pseudemys scoparioides*), pitirreano casavero (*Pithecaucobus occidentalis*).

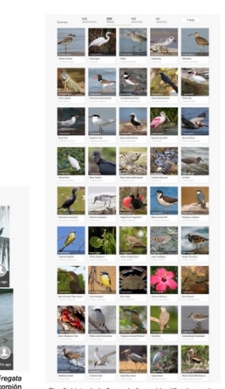
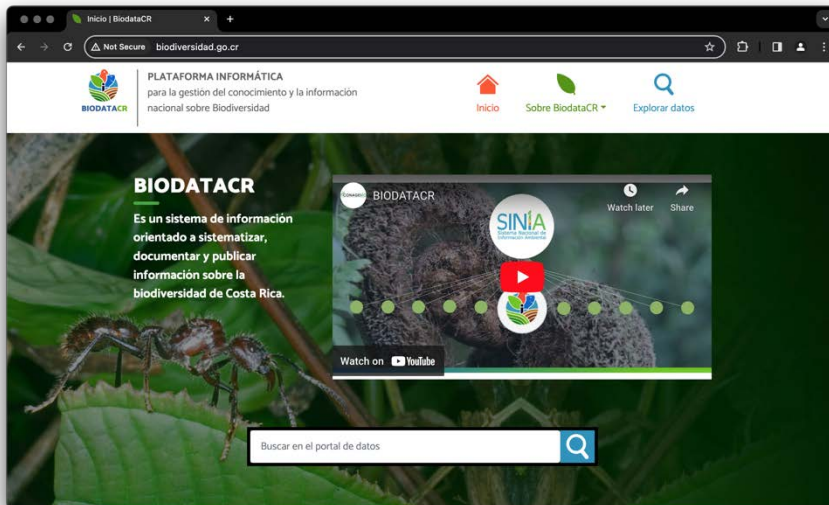


Fig. 3. Lista de la flora y la fauna identificadas en la comunidad del Golfo de Fonseca (foto lista parol).

Número especial sobre "Monitoreo de la biodiversidad y 'carbono azul'"

9) Publicación y actualización de enlaces mutuos con otras plataformas de información ambiental

En el OAR incluir sitios web de información ambiental gestionados por los países miembros de la CCAD y enlaces a bases de datos internacionales.



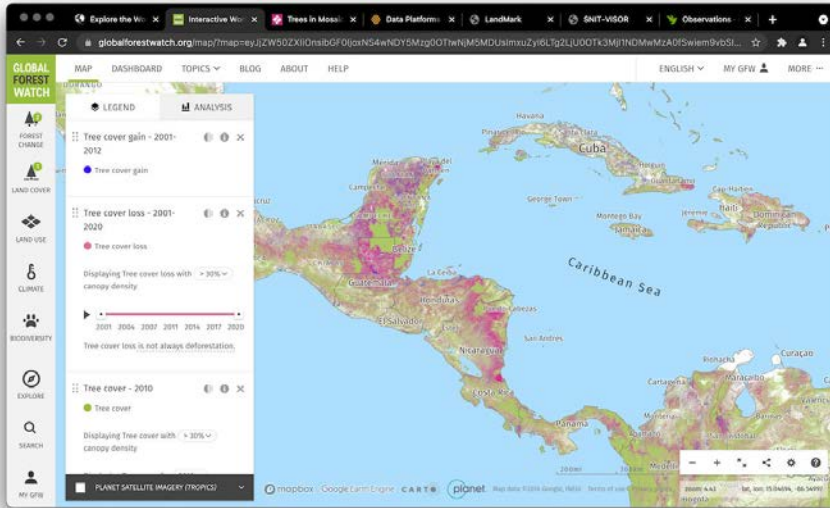
<http://biodiversidad.go.cr/>

Link: BiodataCR (Costa Rica)

Transferencia de datos ex-INBio, Costa Rica

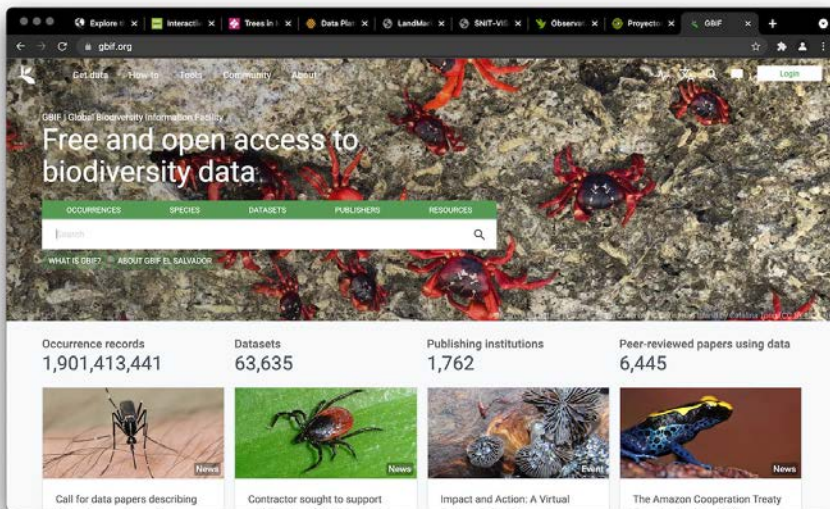


Link: ProtectedPlanet.net



Link: [GlobalForestWatch.org](https://globalforestwatch.org)

Aplicación web de código abierto para el seguimiento casi en tiempo real de los bosques del mundo



<https://www.gbif.org/>

Link: Global Biodiversity Information Facility

Registro de especies

10) Guía de uso del SAC Web para publicar información y construir secciones en el Portal SICA

Fuente: Dirección de Tecnologías de la Información (DTI), SICA (Abril de 2022)

Qué es el SAC Web

El SAC Web una aplicación web desarrollada por la Dirección de Tecnologías de la Información de la SG-SICA DTI/SG-SICA para administrar y publicar contenido en el Portal Integrado del SICA.

1 Ingreso al SAC Web

Acceda al vínculo a continuación para ingresar al

SAC Web <https://app-si.sica.int/>

Ingresar las credenciales que se le enviaron por correo.



Sistema Integrado de Información del SICA

si-SICA

Boosting the digital transformation of SICA!

Use your si-SICA account

[What's this?](#)

Next



Sistema Integrado de Información del SICA

si-SICA

Boosting the digital transformation of SICA!

Use your si-SICA account

[What's this?](#)

Sign in

2 Pantalla inicio del SAC

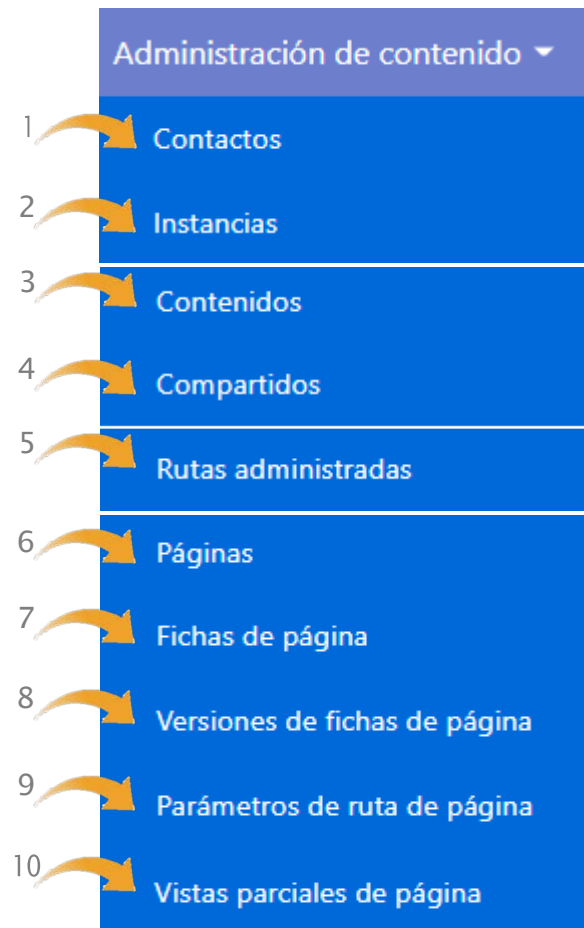
The screenshot shows the home page of the SAC Web system. On the left, there is a blue vertical navigation menu with the following items: "si-SICA", "Nombramiento titulares", "Directorio regional", "Gestión del conocimiento", and "Administración de contenido". The main content area has a header with "Sistema Integrado de Información del si-SICA" and a search bar labeled "Buscar en el si-SICA". In the top right corner, there is a user profile section for "Milton Edwin Adán Santos Mejía" with a dropdown arrow and the SICA logo. Two orange arrows point to the blue menu and the user profile, with red text labels: "Menú herramientas del SAC Web" and "Menú del usuario".

3 Cambio de contraseña del usuario del SAC Web

El primer paso después de ingresar por primera vez será cambiar la contraseña remitida por correo por una contraseña que sea de conocimiento exclusivo del usuario.

The screenshot shows a user profile dropdown menu. At the top, it displays the user's name "Milton Edwin Adán Santos Mejía" and a profile picture. Below the name, there are four menu items: "Configuración" (with a gear icon), "Iniciar sesión como otro usuario" (with a person icon), "Cerrar sesión" (with a power icon), and "Acerca de si-SICA" (with an information icon). An orange arrow points from the text "Configuración: Cambio de contraseña del usuario" to the "Configuración" menu item.

4 Opciones del SAC Web



5 Menús de edición de registros

Los menús de edición de registros y sus funciones son las mismas para todas las secciones de administración de información son los mismos para todas las



1. Ver registro sin posibilidad de edición
2. Crear nuevo registro
3. Editar registro (seleccionar previamente la fila del registro a editar)
4. Borrar registro
5. Protege registro
6. Desproteger registro
7. Descargar listado de registros
8. Actualizar listado de registro

9. Imprimir

6 Publicación de información en el Portal Integrado del SICA

En esta opción se publica la información en el portal integrado del SICA, seleccionar:

1. Menú azul columna izquierda:

Contenidos

Contenidos

Bienvenido al Sistema de Administración de Contenido versión web (SAC web)

La nueva herramienta de gestión de contenidos en SICA Digital para visibilizar la integración.

The screenshot displays the 'Contenidos' (Contents) page of the SICA Digital system. It features a grid of menu categories with their respective sub-items:

- SICA al día**
 - Agenda/Calendario Regional
 - Anuncios
 - Blog
 - Galería de Fotos
 - Imágenes
 - Logros
 - Noticias
- Gestión del conocimiento**
 - Glosario
 - Preguntas Frecuentes
 - Siglas
- Concursos**
 - Concursos
 - Formulario de Aplicación
 - Reglamento de Concurso
 - Términos de Referencia
- Proyectos no regionales**
 - Proyectos
- Reuniones**
 - Reuniones Grupo de Autoridades
- Documentos**
 - Actas
 - Acuerdos
 - Acuerdos Interinstitucionales
 - Agendas de trabajo
 - Artículos
 - Auditorías
 - Ayudas de Memorias
 - Boletines
 - Capacitaciones
 - Cartas
 - Comunicados Externos
 - Comunicados Internos
 - Convenios
 - Declaraciones
 - Discursos
 - Gaceta Oficial Digital
 - Indicadores
 - Informes
 - Leyes
 - Libros
 - Material Educativo
 - Memorandums de Entendimiento
 - Memorias
 - Metodologías
 - Otros documentos
 - Presentaciones
 - Presupuestos
 - Protocolos
 - Proyecto
 - Reglamentos
 - Reporte de seguimiento
 - Resoluciones
 - Resultados de Encuestas
 - Resumen de Proyecto
 - Revistas
 - Tratados

6.1 Noticias

En el grupo de menús "SICA al día" seleccionar la opción Noticias

A close-up view of the 'SICA al día' menu. The menu items are listed vertically, and the 'Noticias' item is highlighted with a yellow rectangular border.

- Agenda/Calendario Regional
- Anuncios
- Blog
- Galería de Fotos
- Imágenes
- Logros
- Noticias**

1. Barra de menús el icono +



2. Completar y/o seleccionar los siguientes campos en el formulario.

Contenido

1. Entidad (Entity): **Secretaría General del Sistema de la Integración Centroamericana** – ejemplo, se selecciona la entidad de la sección en la que debe visualizarse la noticia
2. Lenguaje (Language): **Español** – ejemplo, se selecciona el idioma en el que se creó la sección en la que se mostrará la información
3. Título: **Costa Rica comparte su experiencia exitosa a la región ...** – ejemplo, el título de la noticia comienza con la primera letra de la primera palabra en mayúsculas y el resto del texto en minúsculas, solo se exceptúan los nombres propios y siglas.
4. Fuente de Información: **SG-SICA** – ejemplo, seleccionar la fuente de información del listado disponible; si no se encuentra la fuente de información, solicitar a atencion.dti@sica.int se incorpore la o las fuentes de información que sean necesarias
5. Fecha de la noticia: **25/03/2022 04:40 p.m.** – ejemplo, seleccionar fecha y hora de la noticia
6. Cuerpo de la noticia: **Los países miembros del Sistema de la Integración Centroamericana (SICA) comprometidos con el desarrollo digital...** – ejemplo, se recomienda editar los textos en un programa procesador de palabras como Microsoft Word en el que una vez revisados:
 - i. Contenidos
 - ii. Gramática
 - iii. Ortografía
 - iv. Estilo editorial
 - v. Diagramación (en los casos que aplique)
7. Imagen miniatura: utilizar el botón

Seleccionar archivo

La imagen miniatura debe cumplir con las especificaciones técnicas de archivos gráficos para publicación en secciones del Portal Integrado del SICA, que se visualizan en el listado de noticias, ejemplo:

Noticias o Galerías de fotos **185 px ancho X 120 px alto** **jpg**
Fotografía Miniatura (Vista previa) **72 dpi**



8. Imagen normal: utilizar el botón

Seleccionar archivo

La imagen normal debe cumplir con las especificaciones técnicas de archivos gráficos para publicación en secciones del Portal Integrado del SICA, que se

visualizara en la noticia, ejemplo:

Noticias o Galerías
de fotos
Fotografía Normal

1024 px ancho X 664 px alto
72 dpi

jpg



9. Solo para boletín: *Recomendado dejar sin marcar*

Sólo para boletín

si-SICA > Contenidos > Noticias

Noticias

Entity

1er Encuentro de Estudiantes de Relaciones Internacionales de Centroamérica y Republica Dominicana

Language

Español

Contenido

Título

Fuente de Información

20minutos

Fecha de la Noticia

30/03/2022 08:36 a.m.



Cuerpo de la noticia

Imagen miniatura

Seleccionar archivo

Formato de archivo: jpg, jpeg, png

Imagen normal

Seleccionar archivo

Formato de archivo: jpg, jpeg, png

Logo asociado

Seleccionar archivo

Formato de archivo: jpg, jpeg, png

Sólo para boletín

Información relacionada

Metadatos

Registrar

Cancelar

3. Al finalizar:

1. Hacer clic sobre el botón "Registrar" al final de la página

Registrar

6.2 Documentos

En el grupo de menús “Documentos” se encuentran las diferentes categorías de documentos disponibles para publicar, ejemplo: seleccionar la opción Otros documentos

Documentos			
Actas	Cartas	Leyes	Protocolos
Acuerdos	Comunicados Externos	Libros	Proyecto
Acuerdos Interinstitucionales	Comunicados Internos	Material Educativo	Reglamentos
Agendas de trabajo	Convenios	Memorandums de Entendimiento	Reporte de seguimiento
Artículos	Declaraciones	Memorias	Resoluciones
Auditorías	Discursos	Metodologías	Resultados de Encuestas
Ayudas de Memorias	Gaceta Oficial Digital	Otros documentos	Resumen de Proyecto
Boletines	Indicadores	Presentaciones	Revistas
Capacitaciones	Informes	Presupuestos	Tratados

1. Barra de menús el icono +



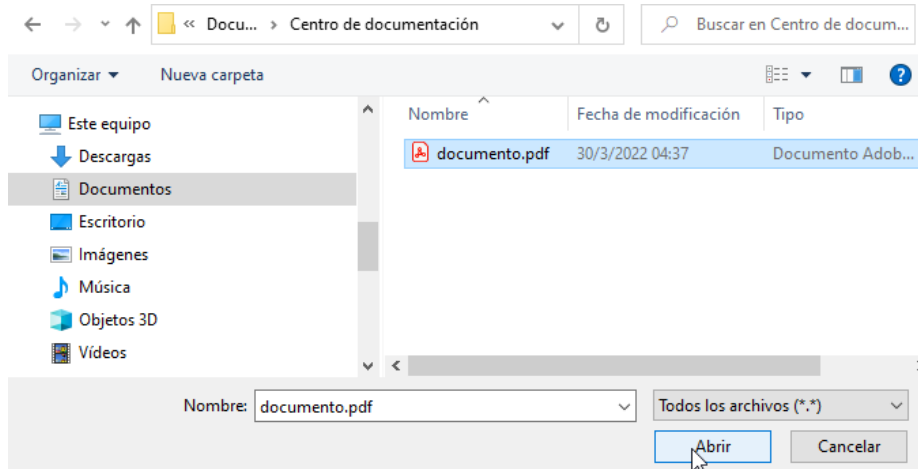
2. Completar y/o seleccionar los siguientes campos en el formulario.
 - a. Entidad (Entity): **Secretaría General del Sistema de la Integración Centroamericana** – ejemplo, se selecciona la entidad de la sección en la se visualizará el o los documentos
 - b. Lenguaje (Language): **Español** – ejemplo, se selecciona el idioma en que esta creado la sección en la que se mostrar la información.

Contenido

- c. Nombre del Sistema: **SICA** – seleccionar SICA
- d. Nombre del Documento: **Estudio en Costa Rica ...** – ejemplo, El título del documento, la primera letra de la primera palabra en Mayúsculas el resto de texto en minúsculas solo se exceptúan los nombres propios y SIGLAS.
- e. Adjunto: Seleccionar el botón

Seleccionar archivo

Seleccionar el documento:



Recomendaciones:

- i. Formato PDF
 - ii. Documento con tamaño optimizado para el web, 3Mb tamaño sugerido
 - iii. Capa de texto en el documento
- f. Imagen miniatura: *Seleccionar la imagen de acuerdo con las dimensiones recomendadas en el documento "Especificaciones técnicas"*

Portada
documentos en el
Centro de
documentación

208px ancho x 254 px alto
72 dpi

Jpg

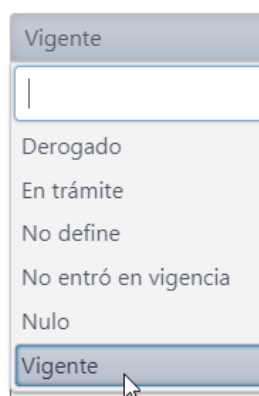


Situación Actual

de archivos gráficos"

- g. Estado del documento: *Seleccionar "Vigente"*

Estado del documento



- h. Descripción del Estado: *Recomendado dejar vacío*
- i. Depósito: *Recomendado dejar vacío*

Suscripción

- j. Fecha de la noticia: 25/03/2022 04:40 p.m. – ejemplo, seleccionar fecha y hora de la noticia
 - k. País: Seleccionar el país
 - l. Lugar: Seleccionar el lugar
3. Al finalizar:
- a. Hacer clic sobre el botón “Registrar” al final de la página

Registrar

Otros documentos

Entity
Secretaría General del Sistema de la Integración Centroamericana

Language
Español

Contenido

Nombre del Sistema
SICA

Nombre del Documento

Adjunto

Formato de archivo: pdf

Adjunto HTML

Formato de archivo: htm, html

Texto del Documento

Imagen miniatura

Formato de archivo: jpg, jpeg, png

Situación Actual

Estado del documento
Vigente

Descripción del Estado

Depósito

Suscripción

Fecha
30/03/2022 04:49 p.m.

País

Lugar

Información relacionada

Metadatos

Registrar Cancelar

6.3 Información relacionada

En sección podemos relacionar ente sí los diferentes tipos de información (documentos, noticias, galería de fotos entre otros) que se haya publicado previamente de la entidad o entidades a las que se tengan acceso en el SAC Web,

Procedimiento a continuación:

1. En la 2da sección de esta sección de Información relacionada en “Ítems disponibles” seleccionar el registro que se relacionará con la noticia del listado de la ventana inferior derecha utilizando el botón “+”, ejemplo:

Ítems disponibles

Buscar

Filters

Categoría de contenido

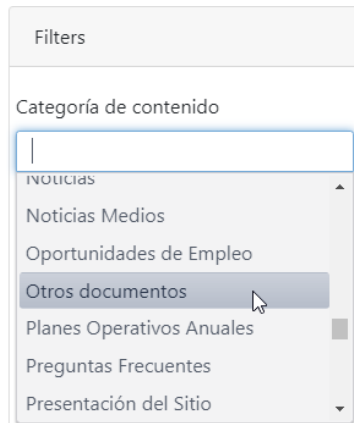
Selección categoría(s) de contenido

Ocultar filtros

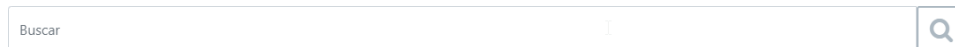
Nombre	Acciones
TDR "ASISTENCIA TÉCNICA EN SISTEMAS DE INFORMACIÓN, MONITOREO Y EVALUACIÓN DE INDICADORES Y ANÁLISIS DE	+

2. Puede ajustar la búsqueda seleccionando el listado de la categoría del documento o documentos que se relacionaran a la noticia utilizando la ventana inferior izquierda filtros

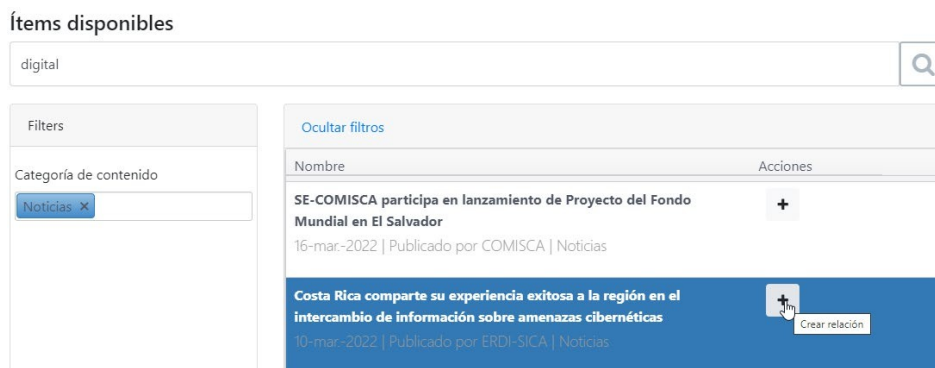
(filters), ejemplo.



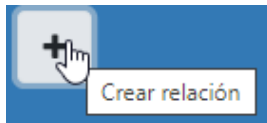
3. Y/o utilizar la opción buscar utilizando palabras que se utilizan en el título o contenido del registro



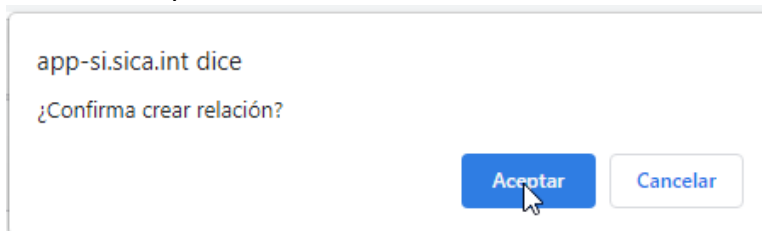
4. Ejemplo uso de las herramientas de búsqueda y filtrado por tipo de información al utilizar el botón “+”



5. Visualizará el mensaje “crear relación”



6. Hacer clic se visualizará otro mensaje ¿Confirma crear relación?, hacer clic en el botón “aceptar”



7. El registro se visualizará en la venta superior derecha se la **1era sección** “Ítems relacionados” de información relacionada en ejemplo:

Ítems relacionados

The screenshot shows two panels. The left panel, titled 'Filters', has a section 'Categoría de contenido' with a dropdown menu showing 'Seleccione categoría(s) de cont...'. The right panel, titled 'Ocultar filtros', contains a table with columns 'Nombre' and 'Acciones'. The table has one row with the text 'Costa Rica comparte su experiencia exitosa a la región en el intercambio de información sobre amenazas cibernéticas', the date '10-mar-2022', the author 'Publicado por ERDI-SICA', and the category 'Noticias'. Below the table, a message states 'No se han encontrado resultados para tu búsqueda.' and a suggestion 'Prueba diferentes categorías.' is provided.

8. Al finalizar:
 - a. Hacer clic sobre el botón “Registrar” al final de la página si realiza el proceso durante la creación del registro

Registrar

- b. Hacer clic sobre el botón “Actualizar” al final de la página si es una modificación de un registro.

Actualizar

6.4 Metadatos

En esta sección pueden asociar metadatos o palabras de un listado predeterminado que facilitará a los buscadores posicionar los registros que publiquen en el SAC en las mejores posiciones dentro de las búsquedas que realicen los usuarios

Metadatos

1. Seleccionar del listado disponible en “Etiquetas Portal SICA” una o varias palabras que tengan referencia con el registro en proceso de publicación,

Clasificadores

Etiquetas Portal SICA

The screenshot shows a dropdown menu for 'Etiquetas Portal SICA'. The search input contains 'SG SICA'. The dropdown list includes the following options: 'Serbia', 'SG SICA' (highlighted in blue), 'SG-SICA', and 'SICA'.

ejemplo:

2. Al finalizar:
 - a. Hacer clic sobre el botón “Registrar” al final de la página si realiza el proceso durante la creación del registro

Registrar

- b.** Hacer clic sobre el botón “Actualizar” al final de la página si es una modificación de un registro.

Actualizar

7 Opciones para construcción de secciones

7.1 Páginas

En esta opción se crean las páginas de la sección, seleccionar:

2. Menú azul columna izquierda:

Páginas

3. Barra de menús el icono +



4. Completar y/o seleccionar los siguientes campos en el formulario.
5. Plantilla (Page Template): *Contenido estático genérico*
6. Ruta administrada (Managed path): **/sección** – ejemplo, ruta de la sección en construcción
7. Nombre (Name): **breve** – ejemplo, aquí define el nombre de la página en el url, será escrito en minúsculas, sin espacios o caracteres especiales
8. Descripción (Description): **Sección en breve** – ejemplo, una breve descripción de la página para identificarla
9. Al finalizar:
10. Hacer clic sobre el botón “Agregar” al final de la página

Agregar

Registro de componentes

Object

0

Page template

Select a template

Managed path

Select a managed path

Workgroup

Select a workgroup

Name

Description

Requires authentication

Requires privilege

Layout

Agregar

Cancelar

7.2 Fichas de página

El portal SICA y sus secciones es posible construir versiones de las secciones en diferentes idiomas por lo que en esta área se asigna el idioma a la página para que se muestre en la sección del idioma correspondiente al elegido, seleccionar:

1. Menú azul columna izquierda:

Fichas de página

2. Barra de menús el icono +



3. Completar y/o seleccionar los siguientes campos en el formulario.
 - a. Página (Page): **/seccion/breve** – ejemplo, ruta de la página en la sección en construcción
 - b. Idioma (Lenguaje): **español** – ejemplo, aquí se asigna el idioma a la página para que se muestre en la sección del idioma correspondiente
4. Al finalizar:

- a. Hacer clic sobre el botón “Agregar” al final de la página

Agregar

Registro de componentes

Page
0

Language
0

Agregar **Cancelar**

7.3 Versiones de Fichas de página

En esta opción se ingresa cada página de la sección diagramada en código, un registro por página, seleccionar:

5. Menú azul columna izquierda:

Versiones de fichas de página

6. Barra de menús el icono +



7. Completar y/o seleccionar los siguientes campos en el formulario.

- Página (Page): **/seccion/breve (Español)** – ejemplo, ruta de la página en la sección en construcción
- Tipo de contenido (Content Type): **Texto enriquecido** – seleccionar tipo de contenido la página
- Título (Title): **Entidad en Breve** – escribir el título de la página que será visible en el navegador.
- Descripción (Description): **Sistema de la Integración Centroamericana (SICA) 8 países construyendo una región de oportunidades** – escribir una descripción del Portal SICA
- Encabezado (Header): Espacio para el código del encabezado de la página
- Contenido (Content): Espacio para el código del contenido de la página
- Pie de página (Footer): Espacio para el código del pie de página
- Estado de publicación (Publishing status): **Publicado** – Seleccionar esta opción para que sea visible en el navegador

8. Al finalizar:

- a. Hacer clic sobre el botón “Agregar” al final de la página

Agregar

Registro de componentes

Page

Select a page

Content type

Title

Description

Header

Content

Footer

Publishing status

0

Agregar

Cancelar

7.4 Parámetros de ruta de página

En esta opción se crean las páginas de la sección, seleccionar:

11. Menú azul columna izquierda:

Parámetros de ruta de página

12. Barra de menús el icono +



13. Completar y/o seleccionar los siguientes campos en el formulario.

14. Página (Page): **/seccion/breve (Español)** – ejemplo, ruta de la página en la sección en construcción

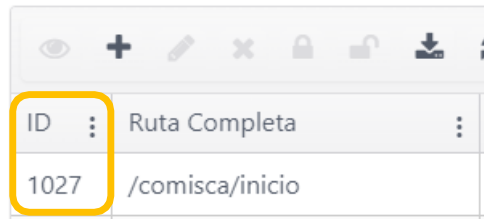
15. Tipo de dato (Date type): **System.Int32** – seleccionar la opción descrita

16. Nombre (Name): Se deben crear uno por cada registro

- i. id
 - ii. ident
 - iii. idm
17. Valor (Value): Se le asignara a cada item del literal c anterior los valores que se indican a continuación
- i. id – se asigna el valor generado al crear la página.
Abrir en una nueva ventana de navegador la opción del menú azul de la izquierda:

Páginas

En el listado elegir el valor de la columna correspondiente a la página a la que se asignara este parámetro de ruta.



ID	Ruta Completa
1027	/comisca/inicio

- ii. ident – solicitar a atencion.dti@sica.int este valor indicando el nombre de la entidad de la sección en construcción
 - iii. idm – el valor se deja vacío
18. Recibe valor nulo: seleccionar caja a todos los registros que se crearan
19. Al finalizar:
20. Hacer clic sobre el botón “Agregar” al final de la página

Recibe valor nulo

Agregar

Registro de componentes

Page
Select a page

Data type

Nombre

Valor

Recibe valor nulo

Agregar **Cancelar**

7.5 Vistas parciales de páginas

En esta opción se crean las páginas de la sección, seleccionar:

21. Menú azul columna izquierda:

Vistas parciales de página

22. Barra de menús el icono +



23. Completar y/o seleccionar los siguientes campos en el formulario.
24. Página (Page): **/seccion/breve** – ejemplo, ruta de la página en la sección en construcción
25. Vista parcial (Partial view): **Carousel de noticias** – ejemplo, vista parcial de la página en construcción
26. ID de origen del contenido (Content origin id): **0000** – ejemplo, este el id de la entidad si no se conoce solicitarla al correo atencion.dti@sica.int
27. ID de la categoría (Category id): dejar campo vacío
28. Orden (Orden): **4** – ejemplo la numeración define el orden ascendente de arriba hacia abajo en la que se mostraran los diferentes objetos definidos como vistas parciales
29. identificación de la sección (Section id): dejar campo vacío
30. Estilo de sección extra (css) (Extra section style (css)): dejar campo vacío
31. Clase css de sección adicional (Extra section css class): Este campo para algunas vistas parciales se puede utilizar el valor “container”, lo que hace es que limita al ancho estándar de las secciones del Portal SICA y no permite que llene el ancho al 100% del navegador
32. ¿Usar la clase css de fondo predeterminada? (Use default background css class?) – recomendado dejar sin marcar
33. ¿Excluir la clase css "homesection"? (Exclude "homesection" css class?) – reduce el espacio en 25 px arriba y debajo de la vista parcial que se está creando
34. ¿Es visible? (is visible?) Seleccionar para que se muestre esta vista parcial en el navegador
35. Al finalizar:
36. Hacer clic sobre el botón “Agregar” al final de la página

Agregar

Registro de componentes

Page

Select a page

Partial view

Select a partial view

Content origin id

0

Category id

0

Orden

Section id

Extra section style (css)

Extra section css class

- Use default background css class?
- Exclude "homesection" css class?
- Is visible?

Agregar

Cancelar

7.6 Rutas administradas

En esta opción se crean las páginas de la sección, seleccionar:

- Menú azul columna izquierda:

Rutas administradas

- Barra de menús el icono +



- Completar y/o seleccionar los siguientes campos en el formulario.
- Ruta (Path): **/seccion/** – *ejemplo*, se define la ruta después del dominio SICA (www.sica.int) que tendrá la sección que se elaborará
- Descripción (Description): **Sección en breve** – *ejemplo*, una breve descripción de la ruta administrada para identificarla

42. Layout: Solicitar a atencion.dti@sica.int el layout personalizado para esta nueva sección.
43. Al finalizar:
44. Hacer clic sobre el botón “Agregar” al final de la página

Agregar

Registro de componentes

Path

Description

Layout

Agregar

Cancelar

別添 3 : JICA/SICA 生物多様性保全プロジェクトニュースレター (日本語)



JICA/SICA (中米統合機構) 生物多様性保全プロジェクトニュースレター 2022年9月号 特集 「生物多様性ホットスポット」とマングローブ

2023年1月から各地域でパイロットプロジェクトが本格始動するJICAと中米統合機構(SICA)が共同で実施している「SICA地域における生物多様性の統合的管理と保全に関する能力強化プロジェクト、(以下、同プロジェクト)」。

同プロジェクトが活動するのは中米・カリブ海(ベリーズ、グアテマラ、エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグア、コスタリカ、パナマおよびドミニカ共和国のSICA加盟8カ国で展開)。北米大陸と南米大陸を結ぶ中米・カリブ海は、日本の九州と四国を合わせた程の狭いエリアでありながら多種多様な動植物が生息しており¹、世界有数の生物多様性の「ホットスポット」となっています。ホットスポットとは高い生物多様性を有しながら、人間による破壊の危機に瀕している地域を指します。右の地図(図1)にあるように中米・カリブ海は生物多様性保全において重要な地域となっています。



図1. 出典: "Hotspots Revisited", Conservation International 2004

2014年に福山雅治さんが中米コスタリカも訪れたNHKスペシャル「ホットスポット 最後の楽園」のシリーズ番組を観て、ホットスポットという言葉を目にしたという方もいるかも知れません。

今月号のニュースレターでは同プロジェクトが活動するフォンセカ湾(エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグアを結ぶ太平洋に面する湾)にも分布する「マングローブ林」にスポットを当てていきます。マングローブは多種多様な動植物を育む生命のゆりかごであり、生物多様性において重要な生態系です。また、マングローブ林の底には泥炭(枯れた植物が長期間、あまり分解が進まずに堆積したもの)と呼ばれる温室効果ガス・二酸化炭素の高密度な吸収源があり、気候変動緩和に役立つことが期待されています。² 一部のマングローブ林では、マングローブの泥炭堆積物が地下10メートル以上に広がっており、1万年以上前のものであることがわかっています。³

マングローブは、洪水の緩和、水の浄化と貯留、漁業生産、木材生産、帯水層の涵養、海岸線の保護と安定化に貢献し、台風・ハリケーンから地域社会を保護するための自然の防壁としても貢献しています。⁴



同プロジェクトのカウンターパートであるニカラグア環境省保護官が持つレッドマングローブの種 (*Rhizophora racemosa* G. Mey.)



同プロジェクトの対象村落のあるニカラグアのパドレ・ラモス河口保護区。マングローブが生い茂るフォンセカ湾では持続可能な漁業への支援が求められている。

日本にも分布するマングローブ

マングローブ林、実は東南アジアを中心に私たちの住むアジアに一番多く分布するって知ってましたか？日本では沖縄県の西表島や石垣島、宮古島、また鹿児島県の奄美大島にも生息しています。

しかしながら、中米のフォンセカ湾でも東南アジアでも海岸沿いの湿地がエビ養殖場などの拡大や燃料のための伐採によって、マングローブ林が危機に瀕しています。⁵ よって、同プロジェクトでは現地の漁業組合などを通じて持続可能な漁業での生計向上に取り組み、マングローブの植林活動を行う予定になっています。

私たちの暮らしとマングローブって関係あるの？

日本のスーパーで売っているエビ・ブラックタイガーの養殖場のための湿地開発、紙や合板、ホームセンターで買えるバーベキュー用の木炭など、私の生活に欠かせないものもマングローブを原材料としています。また、台風やハリケーンが襲ってきた場合にも、マングローブ林が沿岸部の防波堤として機能してくれています。⁴

マングローブ林の減少は私たち日本人にとっても他人事ではありません。マングローブ林が破壊されれば、土壌に貯められた炭素が一気に大気中に放出され、地球温暖化がさらに加速してしまいます。² また、生命のゆりかごであるマングローブ林の貴重な生物多様性を失うことになります。マングローブ林を保全することは、**国連の持続可能な開発目標 (SDGs) の13「気候変動に具体的な対策を」、14「海の豊かさを守ろう」、15「陸の豊かさを守ろう」**を達成するためにも重要です。私たち消費者にも責任ある行動が求められています。



プロジェクト対象村落との話し合い（エルサルバドル）。住民の生計向上と生物多様性保全の両立が求められる。



環境省保護官との話し合い（ニカラグア環境省 MARENA）。

参考リンク：

JICA 国際協力機構『プロジェクトホームページ』
https://www.jica.go.jp/project/all_c_america/005/index.html
JICA 国際協力機構『ODA 見える化サイト』
<https://www.jica.go.jp/oda/project/1701704/index.html>
SICA 中米統合機構『OAR（地域環境プラットフォーム）』（スペイン語）
<https://www.sica.int/oar/>

NHK オンデマンド『NHK スペシャル ホットスポット 最後の楽園』
<https://www.nhk-ondemand.jp/program/P201000070600000/>
ISME 国際マングローブ生態系協会（琉球大学農学部内）
<http://www.mangrove.or.jp/>

出典：

¹ UNEP-WCMC (2016). The State of Biodiversity in Latin America and the Caribbean: A mid-term review of progress towards the Aichi Biodiversity Targets. UNEP-WCMC, Cambridge, UK. <https://www.cbd.int/gbo/gbo4/outlook-grulac-en.pdf>

² Page, S.E., Rieley, J.O., Banks, C.J. (2011). Global and regional importance of the tropical peatland carbon pool. *Global Change Biology* 17, 798-818. <https://doi.org/10.1111/j.1365-2486.2010.02279.x>

³ Matthew Costa (2014). Muestreo de Turba en Manglares del sur del Golfo de California. dataMares. InteractiveResource. <http://dx.doi.org/10.13022/M3PP40>

⁴ Ministerio de Medio Ambiente y Recursos Naturales (MARN), El Salvador (2021). Impulsamos la reforestación y la restauración ecológica de manglares. Publicado el 05-08-2021. <https://marn.gob.sv/impulsamos-la-reforestacion-y-la-restauracion-ecologica-de-manglares/>

⁵ Polidoro, B.A., Carpenter, K.E., Collins, L., Duke, N.C., Ellison, A.M., Ellison, J.C., et al. (2010). The Loss of Species: Mangrove Extinction Risk and Geographic Areas of Global Concern. *PLoS ONE* 5(4): e10095. <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0010095>

執筆：

JICA/SICA（中米統合機構）生物多様性保全プロジェクト専門家
博士（森林生態学） 稲川 武
tinagawa@sica.int



JICA/SICA (中米統合機構) 生物多様性保全プロジェクトニュースレター 2023年2月号

特集 世界遺産「ラ・アミスタ国立公園」とミツバチ



2023年1月から各地域でパイロットプロジェクトが本格始動したJICA・中米統合機構（SICA）が共同で実施している「SICA 地域における生物多様性の統合的管理と保全に関する能力強化プロジェクト、（以下、同プロジェクト）」。

同プロジェクトが活動するのは中米・カリブ海（ベリーズ、グアテマラ、エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグア、コスタリカ、パナマおよびドミニカ共和国のSICA加盟8カ国で展開）。

今月号ではパイロットプロジェクト対象地である、「ラ・アミスタ国際公園（以下、PILA）」を紹介し、コスタリカとパナマにまたがるタラマンカ山脈の南部に位置し、その自然・文化的価値により国内外から高く評価されています。同山脈、一帯の国立公園や自然保護区群をまとめて、1982年にUNESCO-MAB（人間と生物圏計画）に基づき生物圏保護区に指定されました。翌年の1983年にはその生態系の重要性と多様性が評価され、UNESCO 世界自然遺産「タラマンカ山脈＝ラ・アミスタ保護区群とラ・アミスタ国立公園」として登録されました（今年で40周年を迎えます）。同国立公園はパナマとコスタリカが共同管理する国際平和公園であるPILAの一部となっています。

PILAではコミュニティ、社会、協力者間で保全・ガバナンス・市民参加・官民連携を通じて運営責任を共有する制度の確立を目指しています。それにより、現地の住民・組織に社会経済的利益と生態系サービスを提供することができます。同時に住民・組織が保護区の外内を問わず、自分たちのコミュニティの環境や生産現場において、生物多様性や自然資源の保全に対する責任とコミットメントを持つこととなります。



世界遺産の一部であるラ・アミスタ国際公園の入り口（パナマ側）

同プロジェクトではPILA周辺の村落でコスタリカ国家保全地域庁（SINAC）とパナマ環境省と共同で養蜂、コーヒー生産の改善や景観改善のための植林を開始しています。今回は養蜂について紹介します。

養蜂の主役であるミツバチは農作物や野生生物の花粉交配に大きな役割を果たしており、生物多様性の保全に欠かせない存在です。生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学・政策プラットフォーム（IPBES）の2016年の報告書¹によると農作物の75%、野生植物の90%近くがミツバチを含む動物による花粉媒介に頼っているようです。一方で欧米諸国では農薬や気候変動の影響によって、媒介者の数が減少していると報告されています。

同プロジェクトでは中米の養蜂で一般的なセイヨウミツバチ（*Apis mellifera*）とアフリカ産亜種の交雑種に加えて、地域固有の在来種であるメリポナ（*Melipona*）属のミツバチをパナマの村落で導入しました。メリポナ蜂はメキシコからアルゼンチンまでの温暖な新熱帯域に広く生息し、針のないのが特徴で70ほどの種が確認されています。農作物においてはバニラ植物に受粉する唯一の受粉媒介者として知られています。養蜂は農業に依存する途上国の住民の生計向上の一つとして注目を集めています。世界自然遺産の一部となっているPILA周辺の村落において、生物多様性の保全と住民の生計向上を両立させる手法の確立のため、同プロジェクトの成果は大きな意味を持っています。



同プロジェクトで実施中の養蜂技術セミナー（コスタリカ対象村落）



同プロジェクトで実施されたコミュニティでの会議。生物多様性の保全と住民の生計向上の両立が求められる。（コスタリカ村落）

日本にも固有の在来種ミツバチはいるの？

日本にもニホンミツバチ (*Apis cerana japonica*) という在来種 (アジアに広く生息するトウヨウミツバチの亜種) が存在します。異常気象に適応でき、飛行時間が長く、セイヨウミツバチに比べ刺すことが少ないようです²。養蜂においては日本でも生産性の高いセイヨウミツバチが導入されていますが、天敵となるスズメバチに対する防御力を持つニホンミツバチも見直されてきているようです。また、花の蜜がないにも関わらず、絶滅危惧種であるラン (*Cymbidium kanran*, *Cymbidium goeringii*) に受粉することが知られています³。気候変動や生物多様性を考える上で、在来種のミツバチは貴重な存在ですね。

私たちの暮らしとミツバチって関係あるの？

リンゴやスイカ、チョコレートやコーヒーのない世界を想像できるでしょうか？UNEP 国連環境計画⁴によると、世界で消費される食糧の90%を供給する100種の作物のうち、71種がミツバチによって受粉されています。1kgのハチミツを作るために、ミツバチは400万個の花を訪れ、地球を4周する距離を飛行しなければならないそうです。ところが大規模農業、農薬の使用、気候変動などがミツバチの個体数に影響を与えることがわかっています⁵。

ミツバチを守ることは、**国連の持続可能な開発目標 (SDGs) の13「気候変動に具体的な対策を」、15「陸の豊かさを守ろう」**を達成するためにも重要です。欧米諸国では、ミツバチを含む花粉媒介昆虫に影響のあるネオニコチノイド系農薬を使用しない農作物の認証制度がスタートしています。私たち消費者にも責任ある行動が求められています。



同プロジェクトの養蜂技術セミナーで収穫したハチミツ (コスタリカ対象村落)。



同プロジェクトで実施中の養蜂技術セミナー (パナマ対象村落)。中南米固有の在来種で、針を持たないメリボナ蜂を導入した。

出典：

¹ IPBES (2016). The assessment report of the Intergovernmental Science-Policy Platform on Biodiversity and Ecosystem Services on pollinators, pollination and food production. S.G. Potts, V. L. Imperatriz-Fonseca, and H. T. Ngo (eds). Secretariat of the Intergovernmental Science-Policy Platform on Biodiversity and Ecosystem Services, Bonn, Germany. 552 pages.
<https://doi.org/10.5281/zenodo.3402856>

² Park, D., Jung, J.W., Choi, B.S. et al. (2015). Uncovering the novel characteristics of Asian honey bee, *Apis cerana*, by whole genome sequencing. *BMC Genomics*, 16, 1. <https://doi.org/10.1186/1471-2164-16-1>

³ Tsuji, K., & Kato, M. (2010). Odor-guided bee pollinators of two endangered winter/early spring blooming orchids, *Cymbidium kanran* and *Cymbidium goeringii*, in Japan. *Plant Species Biology*, 25, 249-253.

⁴ UNEP (2018). #FridayFact: One in three spoonfuls of food depends on bees!. United Nations Environment Programme, Nairobi, Kenya.
<https://www.unep.org/news-and-stories/story/fridayfact-one-three-spoonfuls-food-depends-bees#sdendnote1sym>

⁵ FAO (2018). Why bees matter: The importance of bees and other pollinators for food and agriculture. Food and Agriculture Organization of the United Nations, Rome, Italy.

参考リンク：

JICA 国際協力機構 『プロジェクトホームページ』

https://www.jica.go.jp/project/all_c_america/005/index.html

JICA 国際協力機構 『ODA 見える化サイト』

<https://www.jica.go.jp/oda/project/1701704/index.html>

SICA 中米統合機構 『OAR (地域環境プラットフォーム)』 (スペイン語)

<https://www.sica.int/oar/>

執筆：

JICA/SICA (中米統合機構) 生物多様性保全プロジェクト専門家

博士 (森林生態学) 稲川 武

tinagawa@sica.int



2023年1月から各地域でパイロットプロジェクトが本格始動したJICA・中米統合機構（SICA）が共同で実施している「SICA地域における生物多様性の統合的管理と保全に関する能力強化プロジェクト、（以下、同プロジェクト）」同プロジェクトが活動するのは中米・カリブ海（ベリーズ、グアテマラ、エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグア、コスタリカ、パナマおよびドミニカ共和国のSICA加盟8カ国で展開）。

今月号ではパイロットプロジェクト対象地である、中米最大の熱帯林「セルバマヤ」を紹介します。セルバとはスペイン語でジャングル（熱帯雨林）を意味します。セルバマヤは、ベリーズ、グアテマラ北部、メキシコ南東部に広がる熱帯林地域です（図1）。同地域で最も広大な熱帯林で、ペテンの常緑樹林からユカタン半島北部の乾燥林まで、重要な生態と環境勾配が存在するため、20以上の生態系が存在します。生物多様性が豊かな地域であり、絶滅危惧種であるコンゴウインコ、ジャガー、バグなどが生息しています。セルバマヤの固有種であるシロガメ (*Dermatemys mawii*) やクロホエザル (*Alouatta pigra*) など見られます。パンノキ (*Brosimum alicastrum*) やチクル (*Manilkara sapota*)、カカオの木、ミツバチなど農村住民にとって重要な代替収入や食料にもなっています。¹

セルバマヤは先祖代々守られてきた土地であり、マヤ文化の一部でもあります。20以上の異なる民族で構成された文化多様性の非常に高いところ。今でもセルバマヤの森と共に暮らし、森から恩恵を受けて生活している人たちが多くいます。

一方でセルバマヤは森林火災、違法伐採、動植物の密売といった大きな脅威に直面しています。農業による土地利用の変化や、農薬などによる土壌劣化も大きな影響を及ぼしています。

同プロジェクトでは養蜂と気候変動に適応した野菜栽培、女性グループによる生計向上、若者間による情報共有を支援しています。



図1. 中米最大の熱帯林「セルバマヤ」の範囲
出典：Selva Maya Programme



同プロジェクトのグアテマラ対象村落。国際 NGO Rainforest Alliance が荒廃した土地の植生回復を行なっている。



同プロジェクトで実施中の野菜栽培の圃場（ベリーズ対象村落）



同プロジェクトで支援している女性グループによる生計向上（ベリーズ対象村落） 写真提供：プロジェクトチーム

マヤ文明

マヤと聞いて皆さんは何を思い浮かべるでしょうか？マヤ文明と答える方が多いのではないのでしょうか。マヤ文明は、現在のグアテマラ、ベリーズ、ホンジュラスとエルサルバドルの大部分、メキシコ南東部のテワンテペック地峡からユカタン半島全域を含むメソアメリカ南部のマヤ地域で、2500年以上の歴史を持つ民族と文化であったとされています。この地域では、何百ものマヤ遺跡が、少なくとも何らかの形で考古学調査や研究によって記録されていますが、小規模で未調査の（あるいは未知の）遺跡は非常に多く、ある研究では6,000以上のマヤ遺跡を記録しています²。よって、完全な考古学リストはまだ作成されていません。

グアテマラ熱帯林地帯で栄えたマヤ最大の神殿都市である「ティカル」は、貴重な遺跡および多様な生態系が評価され1979年にユネスコ世界複合遺産に登録されました。2011-2012年にティカル国立公園内にはODA政府開発援助によって文化遺産保存研究センターが建設されました。生物多様性の宝庫であるティカル国立公園内には、マヤの聖なる木とされる巨大なカポック (*Ceiba pentandra*)、ホンジュラスマホガニー (*Swietenia macrophylla*) などの木々や、ジャガーやプーマなどの野生動物も生息しています。

(最後に)

マヤの伝統的な生活、そして環境問題に直面する現代のマヤの人々を描いたドイツ人監督のドキュメンタリー映画「マヤ — 天の心、地の心 —」はお薦めです。



グアテマラの世界遺産ティカル国立公園内の大ジャガーの神殿



世界遺産ティカル国立公園内にある文化遺産保全研究センター



文化遺産保全研究センター内の展示品



ドキュメンタリー映画「マヤ — 天の心、地の心 —」

出典：

¹ Selva Maya Programme. *The tropical forest*. Selva Maya. <https://selvamaya.info/en/mayan-rainforest/the-selva/>

² Witschey, W.R.T. & Brown, C.T. (2010). *The Electronic Atlas of Ancient Maya Sites*. <http://mayagis.smv.org/>

参考リンク：

JICA 国際協力機構『プロジェクトページ』

https://www.jica.go.jp/project/all_c_america/005/index.html

JICA 国際協力機構『ODA 見える化サイト』

<https://www.jica.go.jp/oda/project/1701704/index.html>

SICA 中米統合機構『OAR (地域環境プラットフォーム)』(スペイン語)

<https://www.sica.int/oar/>

執筆・写真：

JICA/SICA (中米統合機構) 生物多様性保全プロジェクト専門家
博士 (森林生態学) 稲川 武
tinagawa@sica.int



ティカル国立公園内に生息するシロバナハナグマ (左)、マントホエザル (右)



JICA/SICA (中米統合機構) 生物多様性保全プロジェクトニュースレター 2023年9月号

特集 生物多様性モニタリングと「ブルーカーボン」

13 気候変動に
具体的な対策を

14 海の豊かさを
守ろう

15 陸の豊かさも
守ろう

2023年1月から各地域でパイロットプロジェクトが本格始動したJICAと中米統合機構(SICA)が共同で実施している「SICA地域における生物多様性の統合的管理と保全に関する能力強化プロジェクト」。同プロジェクトは中米・カリブ海に位置するSICA加盟8カ国(ベリーズ、グアテマラ、エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグア、コスタリカ、パナマおよびドミニカ共和国)に位置する4つの生態系で、村落や村落間での生物多様性保全に関するパイロットプロジェクトを実施中です。今月号では、その一つであるフォンセカ湾(エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグア)のパイロットプロジェクトで取り組んでいる生物多様性モニタリング、またブルーカーボンについて紹介します(同地域のマングローブについては『2022年9月号特集「生物多様性ホットスポット」とマングローブ』もご覧ください)。

フォンセカ湾ではiNaturalistを活用した生物多様性モニタリングを行っています。iNaturalistは生物多様性に関する情報を共有し、自然について学ぶ参加型のソーシャル・ネットワークです。¹ カルフォルニア科学アカデミーとナショナルジオグラフィック協会が共同運営しています。

パイロットプロジェクトではiNaturalistに「フォンセカ湾コミュニティ(図1)」を2023年3月に開設しました。プロジェクト関係者、生物学者や地域の住民によって動植物の観察が記録され、更に記録された観察結果はコミュニティメンバーによって種の同定がなされます。3/2のユーザーが種の同定に合意した場合、「研究用」と分類され、国際生物多様性データベースGBIF

(Global Biodiversity Information Facility)の参照先として登録されます。これまで「研究用」観察記録を引用した研究論文は世界で4,000件ほどあり²、その多くは気候変動に起因する生息域の移動と拡大に焦点を当てたものです。よって、これらのモニタリングは国際的生物多様性モニタリングへの貢献にも繋がります。図2のように、最も反響のあった観察記録のハイライト、図3のような同定された動植物の一覧表示も可能です。なお、同コミュニティではこれまでに205種の動植物が同定されています。

Most Comments and Faves

RG

Magnificent Frigatebird
Fregata magnificens
4 months ago

RG

White Mangrove
Laguncularia racemosa
2 years ago

RG

Coconut Palm
Cocos nucifera
2 months ago

RG

Scorpion Mud Turtle
Kinosternon scorpioides
4 years ago

RG

Brown Pelican
Pelecanus occidentalis
13 months ago

図2. フォンセカ湾コミュニティで最も反響のあった動植物: アメリカゲンカンドリ (*Fregata magnificens*)、ホワイトマングローブ (*Laguncularia racemosa*)、ココヤシ (*Cocos nucifera*)、スコロピオンドロガメ (*Kinosternon scorpioides*)、カッシュクペリカン (*Pelecanus occidentalis*)



図1. 同プロジェクトで運営中のiNaturalistフォンセカ湾コミュニティ: 2023年9月現在、568の観察数、205の種の同定が行われている。

<https://www.inaturalist.org/projects/golfo-de-fonseca-proyecto-2023>

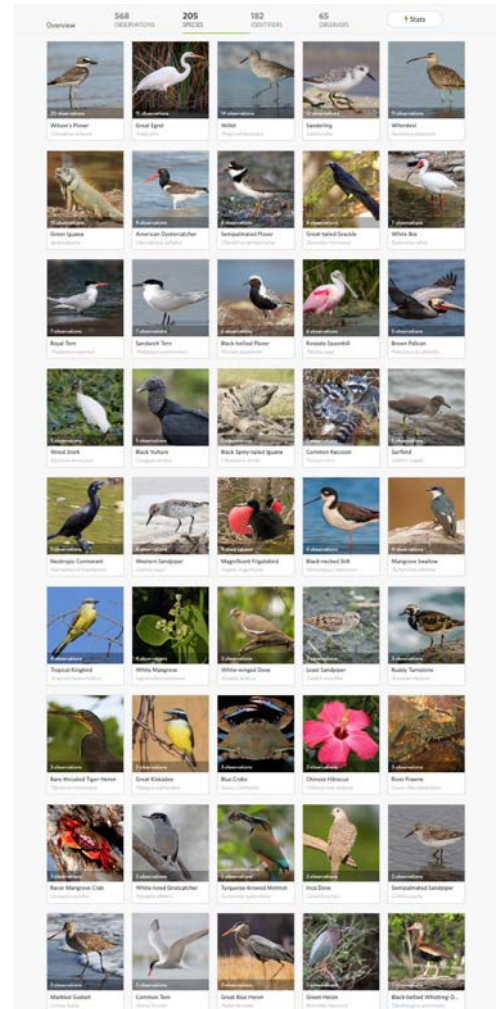


図3. フォンセカ湾コミュニティ内で同定された動植物の一覧(一部のみ)

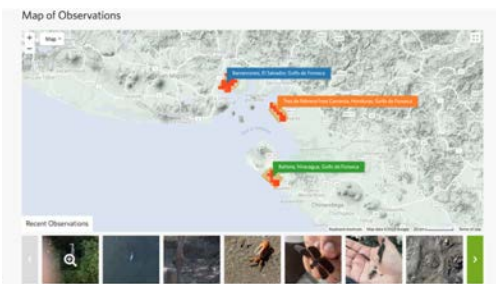


図4. 同プロジェクトのパイロットプロジェクト対象地（エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグアの3箇所）：下部に最近観察された写真がハイライトされている。

<https://www.inaturalist.org/projects/golfo-de-fonseca-proyecto-2023>



図5. フォンセカ湾でのパイロットプロジェクトを担当している長濱専門家（左）



図6. エルサルバドルサイトの赤貝の養殖場

ブルーカーボン

地球上で生態系によって吸収・固定される大気中のCO₂の半数以上は「沿岸浅海域（海底まで光が届くエリア）」と呼ばれるマングローブ林や干潟、塩性湿地、海草藻場などの海洋生態系によるものであるとして、2009年に国連環境計画（UNEP）によって「ブルーカーボン」と名付けられました³。森林や土壌などの陸域生態系によって吸収・固定される炭素「グリーンカーボン」の対語となっています。最近の研究では、沿岸浅海域の面積は海洋全体の0.5%にも満たないにもかかわらず、海洋全体が年間に固定する炭素量のおよそ8割近くを担っていると推定されています⁴。これらの炭素の一部は無酸素状態の沿岸浅海域の海底に有機炭素として堆積し、数千年の長期にわたって貯留されます^{5,6}。しかしながら、1970年以降ブルーカーボン生態系は全体の35%が消失し⁷、CO₂やメタンを含む温室効果ガスが排出されています⁸。

フォンセカ湾でのパイロットプロジェクト（エルサルバドルとホンジュラス）では、赤貝（*Anadara grandis*）とマングローブザルガイ（*Anadara tuberculosa*）の養殖の技術指導を行なっています（図6）。また、ニカラグアサイトでは植林用マングローブ苗の育成を行い、植林しています。貝類養殖は地域住民の収益源となり、貝殻は炭酸カルシウム（CaCO₃）としてCO₂を長期にわたって固定するため、ブルーカーボンによる気候変動の緩和に貢献します⁹。マングローブ林の底には泥炭（枯れた植物が長期間、あまり分解が進まずに堆積したもの）と呼ばれる二酸化炭素の高密度な吸収源があり、気候変動の緩和に役立つことが期待されています¹⁰。

出典：

¹ iNaturalist. About. iNaturalist. <https://www.inaturalist.org/pages/about>

² GBIF. Resource search – iNaturalist Research-grade Observations. <https://www.gbif.org/resource/search>

³ United Nations Environment Programme (2009). Blue carbon: the role of healthy oceans in binding carbon. <https://wedocs.unep.org/20.500.11822/7772>.

⁴ Hori, M., Bayne, C.J., Kuwae, T. (2019). Blue Carbon: Characteristics of the Ocean's Sequestration and Storage Ability of Carbon Dioxide. In: Kuwae, T., Hori, M. (eds) Blue Carbon in Shallow Coastal Ecosystems. Springer, Singapore. https://doi.org/10.1007/978-981-13-1295-3_1

⁵ Pendleton L, Donato DC, Murray BC, Crooks S, Jenkins WA, Sifleet S, et al. (2012). Estimating Global "Blue Carbon" Emissions from Conversion and Degradation of Vegetated Coastal Ecosystems. *PLoS ONE* 7(9): e43542. <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0043542>

⁶ Crooks, S., Rybczyk, J., O'Connell, K., Devier, D.L., Poppe, K., Emmett-Mattox, S. (2014). Coastal Blue Carbon Opportunity Assessment for the Snohomish Estuary: The Climate Benefits of Estuary Restoration. Report by Environmental Science Associates, Western Washington University, EarthCorps, and Restore America's Estuaries.

⁷ Gardner, Royal C. and Finlayson, C. (2018). Global Wetland Outlook: State of the World's Wetlands and Their Services to People. Ramsar Convention Secretariat, Stetson University College of Law Research Paper No. 2020-5, Available at SSRN: <https://ssrn.com/abstract=3261606>

⁸ W.R. Moomaw et al. (2018). Wetlands in a Changing Climate: Science, Policy and Management, *Wetlands* 38, no. 2: 183-205. <https://doi.org/10.1007/s13157-018-1023-8>.

⁹ Saderne, V., Gherardi, N.R., Macreadie, P.I. et al. (2019). Role of carbonate burial in Blue Carbon budgets. *Nature Communications* 10, 1106. <https://doi.org/10.1038/s41467-019-08842-6>

¹⁰ Page, S.E., Rieley, J.O., Banks, C.J. (2011). Global and regional importance of the tropical peatland carbon pool. *Global Change Biology* 17, 798-818. <https://doi.org/10.1111/j.1365-2486.2010.02279.x>

参考リンク：

JICA 国際協力機構 『プロジェクトページ』

https://www.jica.go.jp/project/all_c_america/005/index.html

JICA 国際協力機構 『ODA 見える化サイト』

<https://www.jica.go.jp/oda/project/1701704/index.html>

SICA 中米統合機構 『OAR（地域環境プラットフォーム）』（スペイン語）

<https://www.sica.int/oar/>

執筆・写真：

JICA/SICA（中米統合機構）生物多様性保全プロジェクト専門家

博士（森林生態学） 稲川 武

tinagawa@sica.int

別添4：パイロットプロジェクト報告書（日本語）

SICA 地域における生物多様性の統合的管理と保全に関する
能力強化プロジェクト

パイロットプロジェクト報告書

2024年2月

プロジェクトチーム

目次

パイロットプロジェクト報告書（セルバマヤ）	1
1. 生態系概要.....	1
2. パイロットプロジェクト（コミュニティレベル・ベリーズ）	3
3. パイロットプロジェクト（コミュニティレベル・グアテマラ）	12
4. パイロットプロジェクト（越境コミュニティ間レベル）	20
5. 教訓と提言.....	22
パイロットプロジェクト報告書（フォンセカ湾）	24
1. 生態系概要.....	24
2. パイロットプロジェクト（コミュニティレベル・エルサルバドル）	25
3. パイロットプロジェクト（コミュニティレベル・ホンジュラス）	31
4. パイロットプロジェクト（コミュニティレベル・ニカラグア）	37
5. パイロットプロジェクト（越境コミュニティ間レベル）	43
6. 教訓と提言.....	46
パイロットプロジェクト報告書（ラ・アミスタ）	48
1. 生態系概要.....	48
2. パイロットプロジェクト（コミュニティレベル・コスタリカ）	50
3. パイロットプロジェクト（コミュニティレベル・パナマ）	55
4. パイロットプロジェクト（越境コミュニティ間レベル）	60
5. 教訓と提言.....	62
パイロットプロジェクト報告書（モンテクリスティ）	66
1. 生態系概要.....	66
2. パイロットプロジェクト（コミュニティレベル・ドミニカ共和国）	69
3. 教訓と提言.....	74

略 語 集

略語	正式名称	和名
ACLA	Área de Conservación La Amistad (西)	ラ・アミスタ保全地域
ALIDES	Alianza para el Desarrollo Sostenible de Centroamérica (西)	持続可能な発展のための中米同盟
AMHE	Área de Manejo de Hábitat por Especie (西)	種別生息地管理地域
APROLAPA	Asociación de Productores Agroforestales La Pasadita (西)	ラ・パサディータ・アグロフォレストリー生産者協会 (グアテマラ)
BMDC	Belize Marketing and Development Corporation (英)	ベリーズ・マーケティング開発公社
BR	Biosphere Reserve (西)	生物圏保護区
CATIE	Centro Agronómico Tropical de Investigación y Enseñanza (西)	熱帯農業研究高等教育センター
CCAD	Comisión Centroamericana de Ambiente y Desarrollo (西)	中米環境開発委員会
CODOPESCA	Consejo Dominicano De Pesca Y Acuicultura (西)	ドミニカ共和国水産養殖協議会
CONAP	Consejo Nacional de Áreas Protegidas (西)	グアテマラ国家保護区管理委員会
COSELES	Comité Sectorial Locales Agropecuarios (西)	農牧業ローカルセクター委員会
DIGEPESCA	La Dirección General de Pesca y Acuicultura (西)	ホンジュラス漁業養殖総局
ERR	Evaluación Rural Rapida (西)	農村簡易評価
FD	Forest Department of Belize (英)	ベリーズ森林局
GAP	Good Agricultural Practice (英)	適正農業規範
GEC	Grupo Estratégico de Coordinación (西)	戦略調整グループ
GEF	Global Environment Facility (英)	地球環境ファシリティ
GIZ	German Agency for International Cooperation (英)	ドイツ国際協力公社
GOC	Grupo Operativo de Coordinación (西)	オペレーション調整グループ
IAD	Instituto Agrario Dominicano (西)	ドミニカ農業研究所
ICAFFE	Instituto del Café de Costa Rica (西)	コスタリカコーヒー協会
IDIAP	Instituto de Innovación Agropecuaria de Panamá (西)	パナマ農牧業イノベーション研究所
INDICASAT	Instituto de Investigaciones Científicas y Servicios de Alta Tecnología (西)	パナマ高等技術調査・サービス研究所
INDRHI	Instituto Nacional de Recursos Hidráulicos (西)	ドミニカ共和国国立水資源研究所
IPM	Integrated Pest Management (英)	総合的病害虫・雑草管理
IUCN	International Union for Conservation of Nature (英)	国際自然保護連合

略語	正式名称	和名
MAFSE	Ministry of Agriculture, Food Security, and Enterprise (英)	ベリーズ農業・食料安全保障・企業省
MAG	Ministerio de Agricultura y Ganadería (西)	コスタリカ農牧省
MARN	Ministerio de Medio Ambiente y Recursos Naturales (西)	エルサルバドル環境省
MEF	Ministerio de Economía y Finanzas (西)	パナマ経済財務省
MEFCCA	Ministerio de Economía Familiar, Comunitaria, Cooperativa y Asociativa (西)	ニカラグア家族・地域・協同組合経済省
METT	Management Effectiveness Tracking Tool (英)	管理効果追跡ツール
MiAmbiente	Ministerio de Ambiente (西)	パナマ環境省
MIDA	Ministerio de Desarrollo Agropecuario (西)	パナマ農牧開発省
MIDEPLAN	Ministerio de Planificación Nacional y Política Económica (西)	コスタリカ計画・経済政策省
MMARN	Ministerio de Medio Ambiente y Recursos Naturales (西)	ドミニカ共和国環境天然資源省
MoU	Memorandum of Understanding (英)	合意覚書
MSDRM	Ministry of Sustainable Development, Climate Change and Disaster Risk Management (英)	ベリーズ持続的開発・気候変動および災害リスク管理省
NBIO	National Biodiversity Office (英)	ベリーズ国家生物多様性局
NGO	Non-Governmental Organization (英)	非政府組織
OBC	Organizaciones de Base Comunitaria (西)	パナマ村落単位組織
PILA	Parque Internacional La Amistad (西)	ラ・アミスタ国際公園
PLAS	Planes Locales de Aprovechamiento Sostenible (西)	持続可能な利用のための地域計画
POA	Plan Operativo Annual (西)	年間活動計画
RBA	Reserva de la Biosfera Amistad (西)	ラ・アミスタ生物圏保護区(コスタリカ)
RBLA	Reserva de la Biosfera de La Amistad (西)	ラ・アミスタ生物圏保護区(パナマ)
RBM	Maya Biosphere Reserve (英)	マヤ生物圏保護区
SAPZSURH	Sub-Sistema de Áreas Naturales Protegidas de la Zona Sur De Honduras (西)	ホンジュラス南部自然保護地域サブシステム
SIGAP	Sistema Guatemalteco de Áreas Protegidas (西)	グアテマラ保護区システム
SINAC	Sistema Nacional de Áreas de Conservación (西)	コスタリカ国家保全地域管理局
TBR	Transboundary Biosphere Reserves (西)	越境生物圏保護区
UMC	Consession Management Unit (英)	コンセッション管理ユニット
UNDP	United Nations Development Programme (英)	国連開発計画
UTEB	Unidad Técnica Ejecutora Binacional (西)	二国間技術ユニット

パイロットプロジェクト報告書（セルバマヤ）

1. 生態系概要

<名称>

セルバマヤ（Selva Maya）

<国名・地域>

ベリーズ及びグアテマラ、メキシコを跨ぐ、南北アメリカではブラジルのアマゾンに続く熱帯雨林地域である。

<登録状況>

セルバマヤの境界は確定しておらず、また、国際登録された越境保護区も存在しない。国レベルの保護区は関係3か国合計で230か所あり、ベリーズおよびグアテマラの保護区は下表に示すとおりである。また、ラムサール登録湿地（グアテマラ Yaxha-Nakum-Naranjo 国立公園：2006年登録、面積371ha）や4か所のUNESCOエコパーク/Biosphere Reserve（Maya 生物圏保護区等：1990年登録、面積2,112km²）、3か所の世界遺産（Tikal 国立公園等）も存在する。

ベリーズおよびグアテマラの国レベルの保護区

国名	国の分類	箇所数	面積（km ² ）
ベリーズ	考古学保全地区	15	118.29
	鳥類サンクチュアリ	6	0.05
	私有地保護地区のポテンシャル地域	26	1,298.46
	寄付地域	1	6.97
	指定地区	6	1,305.54
	保全林	17	3,688.80
	マングローブ保全林	1	0.05
	海洋保全地域	8	2,021.36
	国立公園	18	1,701.33
	自然重要文化財	5	70.42
	自然保全地区	4	455.69
	民間保全地区	8	1,273.99
	公共保全地区	4	0.31
	繁殖地	11	85.86
	野生生物サンクチュアリ	9	1,485.54
小計	139	13,512.66	
グアテマラ	ビオトープ保護区	4	1,141.65
	文化重要財	3	63.84
	国立公園	6	7,058.97
	地方自治体の国立公園	21	14.47
	野生生物生息域	5	1,233.13
	生物保全区	2	1,578.43
	バイオスフィアリザーブ	3	14,174.02
	民間自然保護区	22	52.22
小計	66	25,316.73	
合計	205	38,829.39	

出典：プロジェクトチーム取り纏め。

<自然特性>

セルバマヤはヒョウやバクなど多様な種の生息地となっている。代表例としてはベリーズの Chiquibul 地域からグアテマラの Maya 生物圏保護地域を結ぶ Chiquibul-Maya 山脈生物圏保護区生態系回廊がある。セルバマヤには絶滅危惧種が非常に多く、哺乳類 11 種、鳥類 20 種、爬虫類 39 種、両生類 11 種および魚類 19 種 (Conservation International, 2004) が生息する。代表的な種としては、バク (*Tapirus bairdii*)、ジャガー (*Panthera onca*)、オセロット、(*Leopardus pardalis*)、クチジロペッカリー、メキシコクロホエザル (*Alouatta pigra*)、アカクモザル (*Ateles geoffroyi*)、コンゴウインコ (*Ara macao*)、オウギワシ (*Harpia harpyja*)、グアテマラワニ (*Crocodylus moreletii*) 等である。

セルバマヤは熱帯湿潤林や半湿潤林など 20 の生態系で構成される。森林タイプは山地熱帯雨林 (ベリーズ南部の Chiquibul および Maya 山脈等) と低地熱帯雨林 (グアテマラ Peten 県及びベリーズ北中央部等) に大別される。これらの雨林が水供給や炭素固定、景観連結性の維持、保全等の役割を担っている。

セルバマヤには先住民居住地や文化的価値の高い遺跡があり、文化的多様性にも富んでいる。これらは観光収入源であるため、周囲住民の森林など自然資源保全に関する関心を高める要素となっている。

<劣化ドライバー>

セルバマヤでは 2000 年から 2018 年までに 97,000 ha の森林が消失している。このドライバーとしては、農地や道路網の拡大、都市化のための土地の転用、森林火災、土地に係る権利の不明確さによる持続的な土地利用への住民の動機付けの不足、環境ガバナンス体制の不足などが、挙げられる。森林火災は深刻であり、2004 年の Conservation International の報告によると、グアテマラ国内の保護区では約 5,100 km² の森林が、火災の影響を受けている。この主因は、牧畜業における失火や廃棄物焼却関連である。また、タンパク質の確保や販売を目的としたバクやクモザルなど野生生物の狩猟が行われている。しかしながら、政府のパトロール能力の不足から十分な取り締まりが行われていない。

<社会経済特性>

セルバマヤには、ベリーズ、グアテマラ、メキシコの 3 か国合計で約 60 万人が居住している。主要な経済活動は農牧業で、うち牧畜は、広い面積で集約的に行われるケースもあり、生物多様性保全上のリスク要素の一つと考えられる。前述の通り、点在する遺跡は観光産業を生み出している。

<ガバナンスメカニズム>

○関連法規、戦略

広域および 2 国間の合意等

ベリーズ、グアテマラ共に CCAD の地域協力の枠組みによる、「持続開発に向けた中米同盟 (Alianza Centroamericana para el Desarrollo Sostenible : ALIDES)」、「中米における生物多様性の保全および優先度の高い野生生物生息域の保護に係る協定」に署名している。2 か国間合意として、2014 年に、環境保護と資源の持続的利用に係る合意案が作成されたが、国境紛争等外交上の課題もあり、発効に至っていない。

セルバマヤ統合戦略 2030

GIZ や IUCN の支援により、2021 年に、以下に示すセルバマヤ統合戦略 2030 が策定された。

セルバマヤ統合戦略 2030

項目	内容
目標	政策、戦略、ファイナンス、活動の調整の強化によりセルバマヤの保全と持続可能な開発に貢献する。
目的	<ul style="list-style-type: none"> セルバマヤの地域化により国レベルの持続可能な開発と保全の努力を強化する。 政府のセルバマヤに関する認識を促進する。 国際および国内レベルで、セルバマヤで得られた知識とその普及を強化する。 持続的ファイナンスメカニズムの強化。 テリトリーガバナンスとガバナビリティを強化、連携させる。
その他	「戦略調整グループ (Grupo Estratégico de Coordinación : GEC)」と「オペレーション調整グループ (Grupo Operativo de Coordinación : GOC)」が形成されている。GEC が政策策定、GOC が活動実施にかかるプラットフォームとなる。

出典：セルバマヤ統合戦略 2030 をプロジェクトチーム取り纏め。

○関連組織

セルバマヤの生態系保全に関連する主な政府機関は、ベリーズの持続的開発・気候変動および災害リスク管理省 (MSDRM) と、グアテマラの国家保護区管理委員会 (CONAP) である。MSDRM 下の保全関連部局は、国家生物多様性局 (NBIO) と森林局 (FD) である。前者は、主に国立公園の、後者は保全林や民有地の森林地の保全管理活動を実施している。NBIO の全体人員数は 6 名である。CONAP は、グアテマラの保護区システム (SIGAP) を管理しており、セルバマヤに関わるのは CONAP、Petén 県事務所である。CONAP の職員数は 375 名である。また、複数の NGO もセルバマヤで保全活動を行っている。

○その他 (考察、補足)

前述の通り、セルバマヤでは、ベリーズとグアテマラの国境係争等の課題もあり、越境管理に関する二国間合意の形成が遅れている。GIZ の支援により、2025 年までのセルバマヤ管理に係る関係国間の MoU の締結と、2030 年までの越境生物圏保存地域 (Transboundary Biosphere Reserve) としての登録が提案されているが、この合意形成には、時間を要すると推察される。一方、実務管理者レベルでの意見交換や協議は、ベリーズ、グアテマラ双方にとって比較的受け入れられやすいと考えられる。具体的には、国境を接するもしくは近隣する価値の高い生態系の管理方法について、両国管理者が情報交換や協議をし、管理目標や活動内容に統一性を持たせていくことである。これが、現実的越境地域保全に向けた第一歩と考えられる。なお、このような対応での各国調整では、中米環境分野の地域組織である CCAD のリーダーシップが期待される。加えて、NGO や民間レベルでの越境管理の取り組みも見られることから、これらとの連携も推奨される。

ベリーズ、グアテマラ間には越境河川が存在する。両国の関係者は、この河川の流域管理の必要性が高いと認識している。このため、このような越境流域を対象とすることが、越境地域保全の取り掛かりとして妥当性が高いと考えられる。

2. パイロットプロジェクト (コミュニティレベル・ベリーズ)

<名称>

包摂的な地域住民参加を前提とした環境保全型農業および女性の生計向上に係る能力強化支援

<背景>

本パイロットプロジェクトも対象である San Antonio コミュニティは、Elijio Panti 国立公園に隣接してい

る。ここでの土地資源の持続的利用は、コミュニティのみならず **Elijio Panti** 国立公園の保全にとって重要である。同コミュニティの土地は、ほぼ私有地であるため、個々の住民の共有資産としての自然資源利用に係る意識づけと行動変容が重要である。また、住民の大半は、主要所得手段である農業に関する技術や知識が不十分で、同様に、生計向上手段の多様化も遅れている。係る状況下、本パイロットプロジェクトでは環境保全型持続的野菜栽培モデルの導入と生計向上手段の多様化を目的とした。

<対象コミュニティ>

本パイロットプロジェクトはコロサル県 **San Antonio** コミュニティを対象とする。同コミュニティは、**Elijio Panti** 国立公園の **Mountain Pine Ridge** 保全林区（IUCN カテゴリーVI）に近接している。

<受益者>

San Antonio コミュニティの住民

<実施期間>

2023年3月～2024年2月

<実施方法>

本パイロットプロジェクトは、現地再委託により 1) 環境保全型野菜栽培、2) 女性グループ生計向上支援（食品加工）、3) 女性グループ生計向上支援（洋裁）、4) 村落ガバナンス能力の向上を実施した。1) から 3) は、まず、デモプロット/グループ単位でトレーニングを実施し、その後、個人レベル/グループとしての継続活動の技術適用を支援した。4) は、選定した組織評議会メンバーを対象に実施した。

<目的・成果>

○目的

多くの住民が裨益可能な持続的野菜栽培モデルの導入と生計向上オプションの多様化

○成果

成果 1： **San Antonio** コミュニティの住民の環境保全型野菜栽培に係る能力が向上される。

成果 2： **San Antonio** コミュニティ女性グループの生計向上活動実施能力が向上される。

成果 3： コミュニティ評議会のコミュニティの持続的発展促進に係る能力が向上される。

<活動実績>

活動実績を下表に示す。

成果横断的活動

日時	内容/議題	参加者（対象者 66 名）				備考
		女性	男性	計		
				人数	参加率 %	
2023年3月23日	パイロットプロジェクトの説明	14	30	44	81.5	各活動の期待されるアウトプット、コベネフィット、ターゲット、作業計画が周知された。
2023年3月24日	グループ編成/内部規程の策定	13	24	37	68.5	内部規程が作成され、グループの責任、ビジョン、ミッ

日時	内容/議題	参加者（対象者 66 名）				備考
		女性	男性	計		
				人数	参加率 %	
						ジョンを決定した上でメンバー、リーダー、共同リーダーが選出された。
2023 年 12 月 11 日	パイロットプロジェクトの評価	10	27	37	68.5	
2023 年 12 月 15 日	地域開発計画の一環としての継続計画の策定	6	22	28	42.4	

出典：プロジェクトチーム取り纏め。

環境保全型野菜栽培

日時	研修内容	参加者（対象者 37 名）				備考
		女性	男性	合計		
				人数	参加率 %	
2023 年 4 月 11 日	緑肥の導入、点滴灌漑の設置、土壌条件の分析	4	26	30	81.1	
2023 年 5 月 18 日	作物の栄養	1	17	18	48.6	液体および固形肥料の精製の実践を含む。
2023 年 5 月 23 日	マーケティングのツールと技術	1	17	18	48.6	ベリーズ・マーケティング開発社（BMDC）促進。
2023 年 6 月 6 日	協同組合の概要	3	21	24	64.9	
2023 年 6 月 10 日	バイオスティミュラントの精製	2	26	28	75.7	
2023 年 6 月 17 日	養苗場の造成	2	26	28	75.7	育苗トレイに種をまく習慣を含む。
2023 年 7 月 4 日	点滴灌漑システム	4	23	27	73.0	
2023 年 7 月 25 日	外部機関視察	2	8	10	選出された代表者	ブランカノー有機農場を訪問し、有機生産技術を学ぶ。
2023 年 7 月 31 日	コミュニティ内での視察での学びの情報共有	5	22	27	73.0	
2023 年 8 月 3 日	トマトの種子保存	5	37	42	-	日本人専門家による一般公開研修。
2023 年 8 月 4 日	土地の準備と灌漑の設置	3	21	24	64.9	灌漑システムを含む。
2023 年 8 月 9 日	野菜増殖技術	1	45	46	-	日本人専門家による一般公開研修。
2023 年 8 月 11 日	サンペドロへの参加型市場調査	1	5	6	選出された代表者	レストラン 1 軒から有機野菜への関心を確認。
2023 年 8 月 22 日	病害虫管理（IPM）	2	9	11	29.7	
2023 年 9 月 5 日	病虫害管理	NA	NA	19	51.4	ベリーズ大学と MAFSE が、気候スマート戦略の下、農薬使用の削減と有機農薬の準備のために実施。
2023 年 9 月 12 日	IPM を含む作物管理	0	14	14	37.8	
2023 年 9 月 28 日	収穫、収穫後、梱包	NA	NA	30	81.1	記録管理を含む。
2023 年 9 月 29 日	ぼかし肥料とバイオスティミュラントの準備	NA	NA	NA	NA	第 2 回植え付けトレーニング。
2023 年 10 月 1 日	山地微生物の合成	NA	NA	NA	NA	
2023 年 10 月 3 日	IPM を含む農作物管理	4	20	24	64.9	

日時	研修内容	参加者（対象者 37 名）				備考
		女性	男性	合計		
				人数	参加率 %	
/2023 年 10 月 19 日	実証圃場からの収穫と販売管理	NA	NA	30	81.1	収穫物の利用、利益分配の仕組み、収穫記録に関する内部合意を含む。
2023 年 11 月 30 日	IPM を含む農作物管理	2	20	22	59.5	ベリーズ農業保健局と連携して提供。
2023 年 12 月 4 日	作物を保護するカバー構造（雨除けトンネル）	4	32	36	-	日本人専門家が実施。
2023 年 12 月 7 日	苗木の接ぎ木（アボカド）	3	18	21	-	日本人専門家が実施。

出典：プロジェクトチーム取り纏め。

女性グループ生計向上支援（食品加工）

月日	研修内容	参加者（対象者 8 名）		備考
		人数	参加率 %	
2023 年 5 月 23 日	マーケティングのツールとテクニック	5	62.5	ベリーズ・マーケティング開発社 (BMDC) によるファシリテート。
2023 年 6 月 14 日	加工における食品の安全性	6	75.0	
2023 年 6 月 16 日	トマトジャム作り	8	100.0	
2023 年 6 月 22 日	施設の適切な利用プロセス	6	75.0	
2023 年 7 月 11 日	キュウリのピクルス製造	8	100.0	
2023 年 7 月 14 日	ドライフルーツとピーナッツバターの製造	5	62.5	セントラル・ファームにて開催。
2023 年 7 月 18 日	金融リテラシー	6	75.0	コストの種類、コストの計算、価格の設定、記録の保持、予算の見積もり。
2023 年 7 月 26 日	製品のブランディングとラベリング	5	62.5	
2023 年 8 月 4 日	ホールトマト缶の製造	7	87.5	
2023 年 8 月 15 日	ハバネロ・ペッパー・マッシュの保存とハバネロ・ペッパー・ソースとスパイシー・マンゴーソースの製造	7	87.5	
2023 年 8 月 15 日	外部視察	7	87.5	食品加工分野における課題、機会、教訓を学ぶため、同じカヨ地区の農産物加工会社 Hot Mama's を訪問。
2023 年 9 月 14 日	パパイヤジャム作り	6	75.0	
2023 年 9 月 18 日	パスタソース作り	4	50.0	現行製品の改良。
2023 年 9 月 29 日	トマトソース作り	4	50.0	生産工程の記録による現行製品の改良。
2023 年 12 月 1 日	利益分析と製品コストの設定	4	50.0	日本人専門家が実施。

出典：プロジェクトチーム取り纏め。

女性グループ生計向上支援（洋裁）

月日	研修内容	参加者（2023年4月までは14名、以降は7名の対象）		備考
		人数	参加率 %	
2023年4月12日	導入セッション	14	100	縫製の基本用語、材料、メジャー使用方法等の紹介。
2023年4月13日	導入セッション	15	93.3	身体の測り方とミシン糸の通し方について。
2023年4月22日	測定とパターンニング	9	64.3	
2023年4月23日	同上	11	78.6	ミシンの使い方を実演。
2023年5月23日	マーケティングのツールとテクニック	4	57.1	ベリーズ・マーケティング開発社（BMDC）によるファシリテーション。
2023年7月7日	金融リテラシー	6	85.7	コスト計算と価格設定を学習。
2023年7月10日	学生服のデザインとパターンニング	4	57.1	
2023年7月12日	学生服と男性用シャツのデザインとパターンニング	5	71.4	
2023年7月19日	製品（ブラウスとスカート）のパターンニングと縫製	5	71.4	
2023年7月20日	同上	7	100.0	ミシンの使い方を学習。
2023年7月21日	同上	4	57.1	
2023年7月24日	同上	9	128.6	
2023年7月28日	同上	4	57.1	
2023年8月4日	学生服のデザインとパターンニング	9	128.6	襟作りについて学習。
2023年8月5日	外部視察	8	114.3	ベルモパンの Gari Frikan Wear を訪問し、製品の価格設定とマーケティングに焦点を当てたセッションに参加。
2023年8月16日	パターンニング、縫製（メンズシャツ、半ズボン）	7	100.0	
2023年8月24日	学生服のデザインとパターン	7	100.0	
2023年9月16日	同上	10	142.9	
2023年11月18日	パターンニングと縫製（少年、男性用半袖シャツ）	3	42.9	グループより3人が参加し、後日残りのメンバーと教訓を共有。
2023年11月25日	パターンニングと縫製（ボタンダウンシャツ）	6	85.7	
2023年12月1日	利益分析と製品コストの設定	4	57.1	日本の専門家が実施。
2023年12月2日	パターンニングと縫製	5	71.4	
2023年12月9日	同上	3	42.9	

出典：プロジェクトチーム取り纏め。

コミュニティガバナンス能力の向上

月日	研修内容	参加者（対象者7名）				備考
		女性	男性	合計		
				人数	%	
2023年3月24日	グループの編成／内部規程の策定	0	3	3	42.9	パイロットプロジェクトのメンバーから、女性13名、男性24名が参加。

月日	研修内容	参加者 (対象者7名)				備考
		女性	男性	合計		
				人数	%	
2023年5月5日	村議会の役割と責任	0	2	2	28.6	女性4人、男性7人が参加。
2023年5月11日	管理業務	0	NA	NA	NA	女性4名、男性5名が参加し、議事録の作成方法を学習。
2023年7月11日	各グループ・リーダーとのパイロット活動のモニタリング	NA	NA	NA	NA	
2023年8月21日	同上	0	1	1	14.3	村議会から1名、パイロット活動メンバーから9名の計10名で会議実施。
2023年10月25日	同上	0	2	2	28.6	村議会から2名、パイロット活動メンバーから17名の計19名で会議実施。

出典：プロジェクトチーム取り纏め。

<結果・評価>

○活動結果と成果達成度

本パイロットプロジェクトの活動の結果と成果の達成度を下表に示す。

活動結果と成果達成度

指標	評価
成果1：San Antonio コミュニティの住民の環境保全型野菜栽培に係る能力が向上される。	以下の各活動の結果から、成果1は達成したと評価した。
1.1 環境保全型野菜栽培に係る展示圃場が形成される。	0.01 haの展示圃場がコミュニティ評議会から提供され、ここで各種栽培技術を実施した。
1.2 展示圃場での研修後に個人農地で導入技術が適用される。	37人の参加住民が、習得した技術を個人農地に導入した。指導した29種の技術を平均81.4%の参加住民が導入した。
1.3 低農薬野菜に係る住民メンバーのマーケティングの知識が向上される。	有機、低農薬野菜に係る市場調査を住民参加で行った。この結果、本土からのアクセスも比較的良いサンペドロ島の小売店やレストランを中心に、観光地で潜在的ニーズが確認された。72.7%の参加住民の低農薬野菜のマーケティングに係る知識が向上した。
1.4 継続計画が参加型により策定される。	パイロットプロジェクト終了時に、活動内容、必要なリソースや支援打診先候補などを示した継続計画を参加住民が策定した。
成果2：San Antonio コミュニティ女性グループの生計向上活動実施能力が向上される。	以下の各活動の結果から、成果2は達成したと評価した。
2.1 研修を通じて女性グループにより生産品が多様化される。	食品加工グループは、パイロットプロジェクトを通じ、生産可能商品の数を以前の2種（トマトペースト、トマトソース）から12種（トマトジャム、ピーナッツバター、ドライフルーツ、ピクルス等）に多様化した。洋裁グループは、パイロットプロジェクトを通じ、対応可能なサービスを、以前の既成の服への刺繍のみから、6種の服（ワンピース、シャツ、制服等）の縫製およびこれらへの刺繍に多様化させた。
2.2 研修にて導入された技術がその後も女性グループにより適用される。	食品加工グループは、研修終了後も習得した技術を利用し活動を継続している。しかし、主要商品のトマトペーストとトマトジャムの原材料であるトマトの生産量が異常豪雨で大幅に低下したため、当面生産活動は落ち混む見込みである。洋裁グループは、研修終了後も、制服、シャツ、ブラウス、ワンピース、スカートの作成をグループまたは個人で継続している。

指標	評価
2.3 女性グループの財務管理・マーケティングに係る知識が向上される。	食品加工と洋裁の2つのグループのメンバーの90.0%がマーケティングに係る知識が向上し、88.9%が財務管理に係る知識が向上した。
2.4 女性グループ活動に係る継続計画が参加型により策定される。	食品加工と洋裁の2つのグループが、以降3年間の継続計画を策定した。
成果3：コミュニティ評議会のコミュニティの持続的発展促進に係る能力が向上される。	以下の各活動の結果から、成果3は達成したと評価した。
3.1 パイロットプロジェクト開始時に、実施に係る住民合意が締結される。	パイロットプロジェクト開始時に、コミュニティ評議会参加のもと、参加住民は、活動グループの組織化、このメンバーの役割など内規を作成し、合意文書とした。
3.2 コミュニティ評議会の定例会議が開催される。	現地再委託先NGOの支援のもとコミュニティ評議会定例会が、3回開催された。定例会では、パイロットプロジェクトに係る問題点や懸念、この対応についてグループ・リーダーと検討し、これを通じて評議会メンバーの自然資源管理活動管理能力が強化された。
3.3 継続計画をコミュニティ評議会として支援するためのアクションプランが策定される。	各グループの継続計画の各活動について、コミュニティ評議会による支援が必要な物を確認し、評議会の合意を得た。

出典：プロジェクトチーム取り纏め。

○活動実施方法の妥当性

本パイロットプロジェクトの活動実施に係る投入（専門家、資機材）とスケジュールは概ね適切であった。しかし、現地再委託の人的リソースが不十分で、野菜栽培に係る有機肥料生産が遅れたことは反省点として挙げられる。

活動写真



展示圃場でのトマト栽培技術の指導。



コミュニティ周辺から収集した糞等を使用した有機肥料作成技術の指導。



農業保健局によるトマト病虫害問題分析結果の報告。



収穫したトマト。



雨除けトンネル農法の指導。



洋裁グループへのシャツ裁縫に関する技術指導。

活動写真



洋裁グループが作成したシャツ。モチーフは3種類のバリーズの国鳥。



洋裁グループへのマーケティング研修。



洋裁パターンに関する技術研修。



食品加工グループへのトマトソース作成技術研修。



食品加工グループが作成したトマトソースとサルサソース



食品加工グループへの財務管理研修。

3. パイロットプロジェクト（コミュニティレベル・グアテマラ）

<名称>

保護区・多目的利用ゾーンにおけるコミュニティ養蜂の実施支援

<背景>

本パイロットプロジェクト対象コミュニティであるコンセッション管理ユニット（Consession Management Unit: UMC）La Pasadita は、ペテン県サンアンドレス市、UNESCO Biosphere Reserve の Maya 生物圏保護区（RBM）内多目的利用ゾーンに位置する。コミュニティは、1990年の政府による RBM 設立以前から存在したため、この住民には制約はあるものの生産活動が認められている。La Pasadita は、UMC という名の通り、政府との持続的森林管理、利用に係るコンセッション契約を持っていたが、一部住民の規則違反（コンセッション用地の外部者への違法売却）により、2022年11月に契約が失効した。係る状況下、コンセッション責任団体である La Pasadita アグロフォレストリー生産者団体（APROLAPA）は、将来の生計に不安を抱いている。所轄官庁である国家保護局（CONAP）は、何等かのコミュニティ支援を検討している。しかしながら、この具体化は進んでいない。このような状況下、本パイロットプロジェクトは、住民参加型コミュニティ養蜂の導入による、保護区、多目的利用ゾーンにおける持続的生計向上の実現、またコミュニティ支援空白期間の短縮を目的に実施された。

<対象コミュニティ>

本パイロットプロジェクトの対象は、ペテン県サンアンドレス市、UNESCO Biosphere Reserve の Maya 生物圏保護区（RBM）内多目的利用ゾーンに位置する、コンセッション管理ユニット（Consession Management Unit: UMC）La Pasadita である。

<受益者>

本パイロットプロジェクトの受益者は、La Pasadita アグロフォレストリー生産者団体（APROLAPA）である。

<実施期間>

2022年11月～2024年1月

<目的・成果>

○目的

保護区の多目的利用地区にて実施可能な、森林保全と両立する持続的な生計モデルを形成する。

○成果

成果1： UMC La Pasadita の住民/APROLAPA の養蜂に係る能力が向上される。

成果2： RBM 保全と調和のとれたコミュニティの持続的発展の促進に係る APROLAPA 評議会の能力が向上される。

<実施方法>

本パイロットプロジェクトは現地業者へ委託し実施した。1) コミュニティ養蜂地の導入と 2) 村落ガバナンス能力の向上に関する活動について、前者は、本パイロットプロジェクトで整備したコミュニティ養蜂地でグループ単位の研修を実施、後者は評議会メンバーを対象に同じくグループ単位で研修を実施

した。

<活動実績>

下表に活動実績を示す。

成果横断的活動

日付	内容/議題	参加者 (対象者 33 名) *2023 年 8 月 15 日以降は 32 名			
		女性	男性	計	
				人数	参加率 %
2023 年 3 月	住民組織化とグループルール/内規の策定	2	35	37	89.2
2024 年 1 月	パイロット活動の評価	NA	NA	NA	NA
2024 年 1-2 月	継続計画の検討	NA	NA	NA	NA

出典：プロジェクトチーム取り纏め。

コミュニティ養蜂の導入

実施日	研修内容	参加者 (対象者計 33 名：La Pasadita 11 名、Corozal 11 名、Sibalon 11 名) *2023 年 8 月 15 日以降は計 32 名 (La Pasadita が 10 名に減)				備考
		女性	男性	合計		
				人数	参加率 %	
2022 年 12 月 29 日	養蜂箱の設置	1	31	31	93.9	
2023 年 1 月 4 日						
2023 年 1 月 9 日	蜜蝋および巣枠の設置	0	15	15	45.5	
2023 年 1 月 23 日	蜜蝋の巣枠への設置	NA	21	21	63.6	
2023 年 2 月 13 日	蜜蝋の養蜂箱への設置と巣箱の設置 (重層化)、養蜂箱内の点検	0	22	22	66.7	
2023 年 2 月 15 日	病虫害管理と必要な器具・装備 (防護服など) の使用方法	1	29	30	90.9	
2023 年 2 月 24 日	蜜蝋の巣枠への設置	1	28	29	87.9	
2023 年 3 月 1 日	養蜂箱における蜂蜜生産状況のモニタリング	1	24	25	75.8	
2023 年 3 月 10 日	蜂蜜の収穫	2	25	27	81.8	
2023 年 3 月 15 日	蜂蜜の収穫と収穫後の養蜂箱管理	2	24	26	78.8	
2023 年 3 月 17 日	蜂蜜の収穫	1	24	25	75.8	
2023 年 3 月 28 日	蜂蜜の販売に係る知識	1	28	29	87.9	
2023 年 4 月 3 日	養蜂地の導入	2	8	10	90.9	Sibalon
2023 年 4 月 4 日	蜂蜜の収穫	0	11	11	93.9	Corozal
2023 年 4 月 10 日	養蜂地の導入	1	7	8	72.7	Sibalon
2023 年 4 月 12 日	蜂蜜の収穫	2	18	20	60.6	
2023 年 4 月 13 日	巣枠用の蜜蝋作成と養蜂箱の管理	0	10	10	90.9	Corozal
2023 年 4 月 18 日	蜜蝋および巣枠の設置	0	6	6	54.5	Sibalon
2023 年 4 月 20 日	蜜蝋および巣枠の設置	1	6	7	63.6	La Pasadita
2023 年 4 月 20 日	蜜蝋および巣枠の設置	0	8	8	72.7	Corozal
2023 年 4 月 20 日	蜜蝋および巣枠の設置	1	7	8	72.7	Sibalon
2023 年 4 月 20 日	蜜蝋および巣枠の設置	0	11	11	100.0	Corozal
2023 年 5 月 1 日	蜂蜜の収穫	1	9	10	90.9	La Pasadita
2023 年 5 月 8 日	蜂蜜の収穫	0	9	9	81.8	Corozal
2023 年 5 月 17 日	蜂蜜の収穫	2	8	10	90.9	Sibalon

実施日	研修内容	参加者（対象者計 33 名：La Pasadita 11 名、Corozal 11 名、Sibalon 11 名） *2023 年 8 月 15 日以降は計 32 名（La Pasadita が 10 名に減）				備考
		女性	男性	合計		
				人数	参加率 %	
2023 年 5 月 31 日	女王バチの選別と生産などの養蜂箱管理	0	8	8	72.7	Corozal
2023 年 6 月 6 日	病虫害管理	1	6	7	63.6	Sibalon
2023 年 6 月 8 日	病虫害管理	0	9	9	81.8	La Pasadita
2023 年 6 月 12 日	女王バチの活動状況の検分	0	10	10	90.9	Corozal
2023 年 6 月 19 日	女王バチの活動状況の検分、病虫害管理	0	7	7	63.6	La Pasadita
2023 年 6 月 20 日	女王バチの活動状況の検分、病虫害管理	1	7	8	72.7	Sibalon
2023 年 6 月 21 日	財務管理	0	11	11	NA	
2023 年 6 月 22 日	財務管理	0	8	8	NA	
2023 年 6 月 22 日	女王バチの選別と蜂の活動状況のモニタリング	0	9	9	81.8	Corozal
2023 年 6 月 29 日	採餌場の導入、病虫害管理	0	9	9	81.8	La Pasadita
2023 年 6 月 30 日	蜂蜜販売と財務管理に向けた組織形成	2	27	29	87.9	
2023 年 7 月 3 日	養蜂地の管理	0	4	4	36.4	Sibalon
2023 年 7 月 4 日	養蜂地の管理	0	8	8	72.7	Corozal
2023 年 7 月 6 日	養蜂地の管理	2	9	11	100.0	Sibalon
2023 年 7 月 11 日	養蜂地の管理	0	8	8	72.7	La Pasadita
2023 年 7 月 13 日	病虫害管理	2	7	9	81.8	Sibalon
2023 年 7 月 18 日	蜂蜜の収穫と収穫後の養蜂地管理	0	11	11	100.0	Corozal
2023 年 7 月 19 日	養蜂地の管理、病虫害管理	1	8	9	81.8	La Pasadita
2023 年 7 月 24 日	病虫害管理	1	5	6	54.5	La Pasadita
2023 年 7 月 26 日	病虫害管理	1	10	11	100.0	La Pasadita
2023 年 8 月 2 日	養蜂地の管理、病虫害管理	1	5	6	54.5	Sibalon
2023 年 8 月 23 日	養蜂地の管理	1	8	9	81.8	La Pasadita
2023 年 8 月 23 日	財務管理	2	21	23	69.7	
2023 年 8 月 14 日	養蜂地の管理	1	9	10	90.9	Sibalon
2023 年 8 月 15 日	養蜂地の管理	1	5	6	60.0	
2023 年 8 月 18 日	財務管理	2	17	19	57.6	
2023 年 8 月 23 日	養蜂地の管理	1	9	10	90.9	Sibalon
2023 年 8 月 24 日	養蜂地の管理	0	6	6	60.0	La Pasadita
2023 年 8 月 28 日	採餌場の導入	0	8	8	72.7	Corozal
2023 年 8 月 28 日	採餌場の導入	1	8	9	81.8	Sibalon
2023 年 8 月 28 日	養蜂地の管理	NA	NA	NA	NA	La Pasadita
2023 年 8 月 20 日	採餌場の導入	0	7	7	70.0	La Pasadita
2023 年 8 月 31 日	採餌場の導入	0	5	5	45.5	Sibalon
2023 年 9 月 5 日	採餌場の導入	0	10	10	90.9	Corozal
2023 年 9 月 11 日	蜂蜜由来の製品の多様化	0	9	9	90.0	La Pasadita
2023 年 9 月 12 日	蜂蜜由来の製品の多様化	1	8	9		Sibalon
2023 年 9 月 12 日	財務管理	1	12	13	NA	La Pasadita ・ Sibalon
2023 年 9 月 14 日	蜂蜜由来の製品の多様化	1	8	9	90.0	La Pasadita
2023 年 9 月 16 日	病虫害管理	1	9	10	100.0	La Pasadita
2023 年 9 月 18 日	病虫害管理	0	9	9	81.8	Corozal

実施日	研修内容	参加者（対象者計 33 名：La Pasadita 11 名、Corozal 11 名、Sibalon 11 名） *2023 年 8 月 15 日以降は計 32 名（La Pasadita が 10 名に減）				備考
		女性	男性	合計		
				人数	参加率 %	
2023 年 9 月 21 日	蜂蜜由来の製品の多様化	1	6	7	63.6	Sibalon
2023 年 9 月 28 日	財務管理	2	16	18	NA	
2023 年 10 月 5 日	採餌および蜂蜜由来製品の多様化	0	5	5	50.0	La Pasadita
2023 年 10 月 8 日	採餌	NA	NA	NA	NA	Sibalon
2023 年 10 月 9 日	採餌	1	8	9	81.8	Sibalon
2023 年 10 月 17 日	養蜂地管理	1	6	7	70.0	La Pasadita
2023 年 10 月 18 日	養蜂地管理	0	9	9	81.8	Corozal
2023 年 10 月 19 日	採餌	NA	NA	NA	NA	Sibalon
2023 年 10 月 25 日	財務管理	NA	NA	7	NA	
2023 年 1 月 26 日	財務管理	0	7	7	NA	
2023 年 10 月 27 日	採餌および蜂蜜由来製品の多様化	1	8	9	90.0	La Pasadita
2023 年 10 月 31 日	養蜂地管理	0	9	9	81.8	Corozal
2023 年 10 月 31 日	採餌および養蜂地管理	0	5	5	45.5	Sibalon
2023 年 11 月 2 日	財務管理	0	4	4	100.0	
2023 年 11 月 3 日	財務管理	1	3	4	100.0	APROLAP A 代表、リーダー、財務管理、総務、総務補助の 4 名
2023 年 11 月 6 日	財務管理	1	3	4	100.0	リーダー、代表、財務管理、総務の 4 名
2023 年 11 月 8 日	養蜂地管理および蜂蜜由来製品の多様化	1	7	8	80.0	
2023 年 11 月 9 日	養蜂地管理および蜂蜜由来製品の多様化	1	5	6	54.5	
2023 年 11 月 9 日	財務管理	1	3	4	100.0	APROLAP A リーダー
2023 年 11 月 13 日	養蜂地管理	0	7	7	63.6	Corozal
2023 年 11 月 13 日	マーケティング	1	3	4	NA	APROLAP A 評議会メンバーを含む
2023 年 11 月 15 日	先進的な養蜂地の視察	1	29	30	93.8	
2023 年 11 月 20 日	養蜂地管理	1	6	7	NA	
2023 年 11 月 21 日	養蜂地管理および採餌	2	6	8	72.7	Sibalon
2023 年 11 月 23 日	養蜂地管理	0	6	6	54.5	Corozal
2023 年 12 月 4 日	養蜂地管理	1	4	5	50.0	La Pasadita
2023 年 12 月 7 日	養蜂地管理	0	5	5	45.5	Corozal
2023 年 12 月 5 日	養蜂地管理および採餌	1	6	7	63.6	Sibalon
2023 年 12 月 15 日	財務管理研修	1	7	8	NA	住民用マニュアルの手交
2023 年 12 月 15 日	商品のラベリング	NA	NA	10	47.6	

出典：プロジェクトチーム取り纏め。

コミュニティ評議会の能力向上

実施日	活動内容	参加者（対象者 33 名）			
		女性	男性	合計	
				人数	参加率 %
2023 年 5 月 4 日	グループ内規の順守状況のモニタリング会議	3	27	30	90.9
2023 年 5 月 16 日	グループ内規の順守状況のモニタリング会議	2	26	28	84.8
2023 年 6 月 27 日	パイロット活動の月例モニタリング会議	1	26	27	81.8
2023 年 8 月 3 日	パイロット活動の月例モニタリング会議	2	23	25	75.8
2023 年 9 月 28 日	パイロット活動の月例モニタリング会議	2	16	18	56.3
2023 年 11 月 2 日	パイロット活動の月例モニタリング会議	NA	NA	25	78.1
2023 年 12 月 13 日	パイロット活動の月例モニタリング会議	1	23	24	75.0

出典：プロジェクトチーム取り纏め。

<結果・評価>

○活動結果と成果達成度

本パイロットプロジェクトの活動の結果と成果の達成度を下表に示す。

活動結果と成果達成度

成果と指標	評価
成果 1：UMC La Pasadita の住民 /APROLAPA の養蜂に係る能力が向上される。	以下に示す活動結果から、成果 1 は達成したと評価した。
1.1 La Pasadita において集落ごとのコミュニティ養蜂地が形成される。	UMC La Pasadita の 3 コミュニティ（La Pasadita、Corozal、Sibalon）それぞれに養蜂地が設置された。各々巣箱数は、La Pasadita が 42 個、Corozal が 32 個、Sibalon が 36 個である。
1.2 研修後に各養蜂地にて研修の導入技術が適用される。	現地再委託先の専門家が、一般研修に加え高頻度で現地訪問（平均 7、8 回/月）を行い、コミュニティグループによる習得技術適用を支援した。
1.3 住民メンバーの財務管理に係る知識が向上される。	4 名の（APROLAPA 代表、財務、総務及び総務補助）住民をコアメンバーとして計 11 回の財務管理トレーニング（主なトピックは資金管理、税務、会社登録方法等）が実施された。
1.4 継続計画が参加型により策定される。	2024 年 1-2 月に継続計画を検討した。
成果 2：RBM 保全と調和のとれたコミュニティの持続的発展の促進に係る APROLAPA 評議会の能力が向上される。	以下に示す活動結果から、成果 2 は達成したと評価した。
2.1 パイロットプロジェクト開始時に、実施に係る住民合意が締結される。	2023 年 2 月にパイロットプロジェクト実施に係る住民の合意が形成された。
2.2 APROLAPA 評議会の定例会議が開催される。	計 7 回の APROLAPA 定例会議が平均 25.3 名の住民参加のもと実施され、パイロットプロジェクトの進捗、課題と解決法、プロジェクト終了後の継続計画について協議が行われた。
2.3 APROLAPA 評議会による継続計画への支援が合意される。	2024 年 1-2 月に継続計画を検討した。

出典：プロジェクトチーム取り纏め。

○活動実施方法の妥当性

本パイロットプロジェクトの実施に係る投入（専門家、資機材）およびスケジュールは概ね適切と言え

る。しかしながら、現地再委託の組織規模が大きく、組織内決済に時間を要し、再委託契約や資材調達に遅延が発生した。このため活動の一部をプロジェクト直営で対応する必要が生じた。

活動写真



巣箱の内検査方法の研修。



蜂の巣の病虫害確認方法の研修。



養蜂一般技術研修。



養蜂財務管理に関する研修。



花が少ない時期における蜂への給餌。



蜂蜜酒製造に関する研修。

活動写真



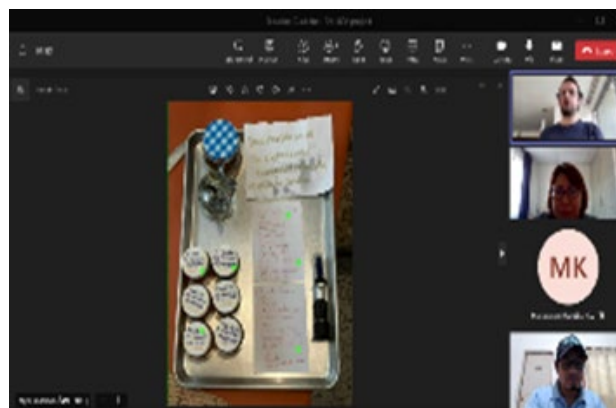
パイロットプロジェクト活動にかかる月例会議



蜂蜜の収穫。



収穫した蜂蜜。



蜂蜜業者との販売交渉。



関係者とのパイロット活動進捗の確認。



コミュニティ自然資源管理規程策定に係るワークショップ。

4. パイロットプロジェクト（越境コミュニティ間レベル）

<名称>

セルバマヤ保全に係るパートナーシップ枠組みの構築

<背景と目的>

本パイロットプロジェクトの対象である San Antonio コミュニティ（ベリーズ）およびコンセクション管理ユニット（UMC）La Pasadita（グアテマラ）は、いずれもセルバマヤ生態系内に位置するものの、コミュニティ間は 150km ほど離れている。このため、本パイロットプロジェクト開始以前は交流がなく、お互いを知ることは無い状況であった。また、San Antonio は保護区外に位置するため、セルバマヤへの帰属意識が薄いと思われた。従い、越境生態系保全に係り両コミュニティが関係性を構築する第一歩として、まずは情報共有を図り、お互いの地域で実践している持続的な自然資源管理手法の知見を深めることが、現実的と判断し、本パイロットプロジェクトを実施した。

<対象コミュニティ>

本パイロットプロジェクトは、ベリーズの San Antonio コミュニティおよび UMC La Pasadita を対象とする。

<受益者>

本パイロットプロジェクトは、上記対象コミュニティにおけるリーダーおよび次世代リーダー候補の若者である。

<実施期間>

2023年3月～2024年2月

<目的・成果>

○目的

セルバマヤの一部としてのベリーズの San Antonio とグアテマラの La Pasadita コミュニティの相互認識および、各コミュニティの自然資源保全の重要性に係る意識の向上

○成果

成果： ベリーズ・San Antonio 村とグアテマラ・UMC La Pasadita のコミュニティ間において、互いがセルバマヤの一部であり、各々の有する自然資源管理が重要であることへの共通理解を深める。

<実施方法>

本パイロットプロジェクトは現地業者への委託で実施した。セルバマヤ保全の重要性の確認やそれぞれの自然資源管理保全活動に関する情報交換を目的としたオンラインミーティングを皮切りにコミュニティ間交流を開始した。その後、オンラインミーティングを通じ、対面でのセルバマヤ保全共同キャンペーンの計画を具体化、2024年1月に UMC LaPasadita にて対面キャンペーンを開催、保全に係る情報交換に加え、保全に係るビジョンも話し合った。

<活動実績>

活動実績

月日	活動内容	参加者 (対象者 15 名) (グアテマラ 4 名、ベリーズ 11 名)				備考
		女性	男性	合計		
				No.	%	
2023 年 3 月 25 日	セルバマヤにおける各コミュニティの位置と周辺の自然資源を保全することの意義についての講義	4	9	13	86.7	グアテマラ 3 名 (女性 0 名)、ベリーズ 10 名 (女性 4 名を含む)。
2023 年 7 月 11 日	各対象コミュニティにおける既存の生態系保全活動の紹介	5	8	13	86.7	グアテマラ 4 名 (女性 1 名を含む)、ベリーズ 9 名 (女性 4 名を含む)。
2023 年 8 月 21 日	共同キャンペーンの計画策定	2	10	14	93.3	グアテマラ 4 名 (女性 0 名)、ベリーズ 10 名 (女性 2 名を含む)。
2023 年 11 月 21 日	各対象コミュニティを支援する NGO 等外部者の取り組みの紹介	NA	NA	10	66.7	グアテマラ 3 名 (女性 0 名)、ベリーズ 7 名
2024 年 1 月 31 日	生態系保全共同キャンペーンの実施	3	19	21	140.0	グアテマラ 15 名 (女性 1 名)、ベリーズ 6 名 (女性 2 名)。

出典：プロジェクトチーム取り纏め。

<活動結果・評価>

○活動結果と成果達成度

本パイロットプロジェクトの活動の結果と成果の達成度を下表に示す。

活動結果と成果達成度

成果・指標	評価
成果：ベリーズ・San Antonio 村とグアテマラ・UMC La Pasadita のコミュニティ間において、互いがセルバマヤの一部であり、各々の有する自然資源管理が重要であることへの共通理解を深める。	以下に示す活動結果から、成果 1 は達成したと評価した。
1. 両コミュニティにおける自然資源保全手法に係る知見が深められる。	両コミュニティの参加者は、特に現地視察を通じて自然資源保全手法に係る知見を深めた。
2. セルバマヤに係る幅広いビジョンを有する若者の自然資源保全活動への参加が促進される。	両コミュニティ共に若者の参加が促進された。特にグアテマラのコミュニティにおいて対面で行われた最終フォーラムでは、活発な意見交換がなされ、今後の交流継続にも高い関心が寄せられた。

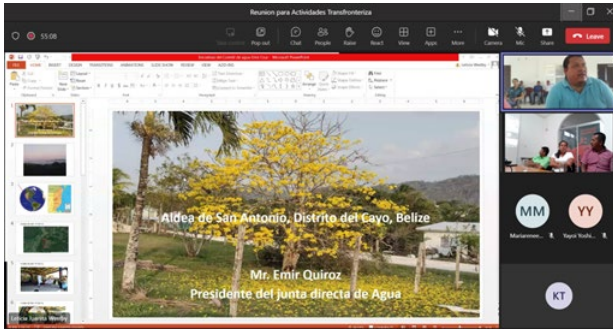
出典：プロジェクトチーム取り纏め。

○活動実施方法の妥当性

本パイロットプロジェクトでは、オンラインミーティングを実施したが、コミュニティのインターネット環境が不十分で、想定した効率性は得られなかった。ただし、プロジェクト終盤で実施したグアテマラ La Pasadita コミュニティでの対面・共同キャンペーンの存在が、モチベーション維持につながり、住

民参加は活発であった。越境ガバナンスメカニズム構築については、パイロットプロジェクト委託業者（NGO）が十分な経験を有していなかったため、日本人専門家の支援インプットが他のパイロットプロジェクトに比べて増加した。

活動写真



オンライン越境会議、San Antonio コミュニティで実践している水資源管理について、UMC La Pasadita へ説明。



生態系保全共同キャンペーンに先立った各コミュニティでの自然資源管理問題についてのワークショップ。



共同キャンペーン調整のための越境オンライン会議。



共同キャンペーン開催準備。

5. 教訓と提言

＜越境生態系保全ガバナンスメカニズムに関する教訓と提言＞

- 特にベリーズでは保護区共同管理の枠組みがあるため、保護区および保護区緩衝地域での活動では、保護活動の中心的役割を担うことが多い現地 NGO の巻き込みは肝要である。
- パイロットプロジェクトでは、コミュニティレベルと越境コミュニティ間レベルの双方で生態系保全ガバナンスの強化を行った。前者については、特にグアテマラ La Pasadita コミュニティでガバナンスが機能しており、養蜂活動に係るモニタリングミーティングが適切に運営された。同ミーティングは養蜂活動に係る懸念事項の円滑な解決を図る好機となり、また、APLORAPA 評議会はそのオブザーバーやアドバイザーとして機能した。参加住民の一部は「このようなガバナンス活動が養蜂

活動の円滑化、そして参加者の結束を強めるために有効であった」とコメントしていた。後者の越境コミュニティレベルでは、まずはオンラインでの「情報交換」からスタート、最終的には、対面での共同キャンペーンにて両コミュニティの共通ビジョン、ミッションなど「共通合意形成」を行った。参加者からは、キャンペーンについて、より現地に根ざしたこのような活動を次世代につなげられるよう、継続したいという意見が挙げられた。

<環境に配慮した経済活動に関する教訓と提言>

- 生物多様性保全はマルチセクターの要素が今後も一層強くなると考えられる。そのため、セクター間連携を図るプラットフォームの構築と維持が重要である。
- 農業支援では、昨今増加傾向にある異常気象の影響を十分に考慮する必要がある。ビニールハウス等で作物を保護するなど物理的対応が効果的であるが、本パイロットプロジェクトもその一例であるとおおり、プロジェクト予算の制限から、このような対応を適用できないケースが多い。この対策として、現地で手に入る安価な資材を用いた保護設備の開発と使用の実施が推奨される。
- 生物多様性保全プロジェクトの量的インパクトの評価は容易ではない。このため、この代替または追加として、プロジェクトを通じた対象者の生物多様性保全に係る意識の変化や、保全に資する活動への参加や継続の意思など行動変容のステップを、質的インパクトとして評価することが、プロジェクト効果の適切な把握に有効と考えられる。

<住民参加や支援方法に関する教訓と提言>

- 政府の体制変更や JICA 専門家の交代等、プロジェクトの根幹部分の変更の際は、活動の継続性が適切に維持されることが大切である。そのために、それまでの活動結果、課題と対応結果など過去の経緯を十分に把握し、新たな担当者と十分に協議を行い、必要に応じて各担当者の役割の見直しをする必要がある。
- 支援対象者の選定で政府に偏重傾向がある場合は、包摂的な参加、成果を目指す上でコミュニティにおけるリーダーシップを見極めることが有効な手段の一つである。
- 特にコミュニティレベルの活動で、より包括的な住民参加と成果を獲得するためには、コミュニティ内のリーダーシップの所在を見極め、利用することが有効な手段の一つである。

パイロットプロジェクト報告書（フォンセカ湾）

1. 生態系概要

<名称>

フォンセカ湾

<概要>

フォンセカ湾は、陸域にマングローブ林と浜辺を有するエルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグア（以下、フォンセカ湾 3 か国）を跨ぐ越境生態系である。フォンセカ湾周辺の人口は 75 万人以上と推定されており、この殆どの住民が湾の生態系サービスを利用している。フォンセカ湾の生態系は内戦や 3 か国の境界争いの影響を受けてきた。例えば、1990 年代のエルサルバドルやニカラグアの内戦の終結時には、フォンセカ湾 3 か国に平和維持活動が展開され、マングローブ林が伐採されて難民キャンプが建設された。境界争いについては、1992 年に国際司法裁判所が、フォンセカ湾の支配権は、フォンセカ湾に面する 3 か国で共有すると裁定し、2007 年には、エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグアの大統領が「マナグア宣言」を通じ、フォンセカ湾を「平和・安全・持続可能な開発地域」とし、国際司法裁判所の決定を履行するための 3 か国委員会の設立を決定した。その後、委員会設立の動きは停滞したが、2012 年にマナグア宣言再発効のための 3 か国会議が開始され、2014 年の会議で、フォンセカ開発マスタープランの作成に合意、2019 年に「フォンセカ湾のための 3 か国投資プロジェクト」と「経済開発マスタープラン」が中米経済統合銀行（CABEI）により作成された。マスタープランでは、フォンセカ湾開発のためのメカニズムとして 3 か国大統領委員会、事務局、技術委員会の設置が提案されているが、現在のところ設置されていない。なお、マスタープランが対応するテーマとして環境に関するものは含まれていない。移民流入による人口増加や貧困率の上昇がフォンセカ湾の自然資源への依存を高めた。その結果、政府、環境保護活動家、エビ養殖業者、塩生産者、地元コミュニティなど、さまざまな利害関係者の間で緊張関係が生まれている。その一方で、フォンセカ湾に対して国際協力機関による支援があり、無秩序な開発を減らし生物多様性を保全するためにフォンセカ湾には多くの保護区が存在する。

フォンセカ湾の保護区（括弧内は IUCN カテゴリ）

エルサルバドル	ホンジュラス	ニカラグア
Isla Martin Pérez (-)	San Lorenzo (IV)	Delta de Estero Real y Llanos de Apacunca (IV)
Isla Meanguera (-)	Isla del Tigre (IV)	Estero Padre Ramos (IV)
Isla Conchagueta (-)	Las Iguanas y Punta Condega (IV)	Volcán Cosigüina (IV)
Isla Zacatillo (-)	Los Delgaditos (IV)	
Manglares Golfo de Fonseca (-)	La Berbería (IV)	
	El Jicarito (IV)	
	Bahía Chismuyo (IV)	
	Archipiélago del Golfo de Fonseca (VI)	
	San Bernardo (IV)	

注：(-) Not reported

2. パイロットプロジェクト（コミュニティレベル・エルサルバドル）

<名前>

フォンセカ湾・ブルーカーボン固定による気候変動対策と生物多様性回復による持続可能な漁業の強化

<背景>

フォンセカ湾沿岸の住民にとって漁業資源（魚やエビ、カニ、貝）は重要なタンパク源であり、収入源でもある。2020年にエルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグアの沿岸で二枚貝類の大量斃死が発生し、2022年にはこの回復過程にあった。二枚貝類は、摂餌、排泄、底質の攪拌を通じて、沿岸の底質の動態に影響を与える。また、二枚貝類は摂餌により水質を浄化し、二枚貝の卵は他の生物の餌となるなど、沿岸生態系において重要な役割を果たしている。従って、フォンセカ湾の生物多様性の維持と周辺住民の生計に貢献する二枚貝類資源の回復は急務である。さらに、貝殻は、炭酸カルシウムが主成分であり、貝殻の質量の44%は二酸化炭素固定したものとされている。そのため二枚貝類は、気候変動対策としてのブルーカーボンとして注目されている。エルサルバドル環境省（MARN）は「持続可能な利用のための地域計画(Planes Locales de Aprovechamiento Sostenible)」(以下、PLAS)の作成、実施にかかる支援を提供している。本パイロットプロジェクトの対象である Barrancones コミュニティの PLAS は 2023 年に NGO (Fundación CAMPO) の支援により最終化された。PLAS には、二枚貝類を含む漁業資源の管理に係る事項も示されており、PLAS の実行は、Barrancones コミュニティのガバナンス能力の強化に直結している。つまり生物多様性の回復と生計向上の両方の観点から、貝類を養殖によって育成し、エルサルバドルの漁業規則に則って育成した貝を販売する。育成した貝は、販売前に複数回の産卵をする機会がある。卵は海流に乗ってフォンセカ湾内外へ移動し、貝資源を増やすことはもちろんのこと、他の生物の餌になることでフォンセカ湾および周辺海域の生物資源そのものの増加が期待できる。このような状況下、本パイロットプロジェクトは貝類養殖によるフォンセカ湾と近隣海岸の生物多様性の回復を目的に実施された。

<対象コミュニティ>

本パイロットプロジェクトはラ・ウニオン県パサキネス市 Barrancones コミュニティを対象とする。

<受益者>

Barrancones コミュニティの貝類採捕者。

<実施期間>

2023年3月～2024年1月

<目的・成果>

○目的

二枚貝の養殖によるフォンセカ湾およびその周辺海域の生物多様性の回復。

○成果

成果1：環境保全と生計向上

成果2：PLAS 委員会の強化

成果3：コミュニティにおける自然資源保護の重要性に対する意識の向上

<実施方法>

本パイロットプロジェクトは現地業者へ委託して実施した。各活動についてグループ単位で貝養殖施設など関連設備を導入、研修を実施した。

<活動実績>

活動実績

日付	活動内容	参加者			その他
		女性	男性	合計	
2023年3月29日	貝養殖場所の選定	5	4	9	
2023年4月12日	パイロットプロジェクト参加メンバーの選定	16	18	34	
2023年4月19日	生物多様性モニタリングの練習	8	3	11	
2023年4月25日	自然の重要性とその利用に関するインタビュー	0	0	75	
2023年4月27日	生物多様性モニタリングの練習	9	1	10	
2023年4月27日	販売用具の最小採捕サイズモニタリング	1	2	3	二枚貝（クリル）の販売サイズモニタリング。
2023年5月3日	プロジェクト開始イベント	20	10	30	
2023年5月4日	モニタリングの結果について議論	2	7	9	PLAS 委員会で議論。
2023年5月12日	PLAS 委員会強化のためのロードマップ作製	2	4	5	
2023年5月31日	販売用具の最小採捕サイズモニタリング	1	2	3	二枚貝（カスコ・デ・ブーロ）の販売サイズモニタリング。
2023年6月1日	生物多様性モニタリングの練習	6	4	10	生物多様性に関する講義。
2023年6月2日	モニタリング結果の議論	2	7	9	PLAS 委員会で議論。
2023年6月28日	漁業と持続可能な漁業に関する啓発活動	10	9	18	
2023年6月28日	第1回3つのコミュニティ情報交換会議	10	9	19	
2023年7月13日	生物多様性モニタリングの実施	8	5	13	生態系に関する講義。
2023年8月17日	生物多様性モニタリングの実施	7	6	13	持続性に関する講義。
2023年8月18日	持続可能な漁業に関する啓発活動	20	4	24	貝の養殖に関する講義。
2023年8月18日	販売用具の最小採捕サイズモニタリングの能力強化	20	4	24	

出典：プロジェクトチーム取り纏め。

<結果・評価>

○活動結果と成果達成度

本パイロットプロジェクトの活動結果と成果達成度を以下に示す。

成果1

成果1「環境保全と生計向上」に係る活動を予定通り実施し、Barrancones 住民の環境保全意識の向上と、環境に配慮した貝類漁業への取り組みの促進、生態系の回復に貢献をした。以上より、成果1は概ね達成したと評価する。主な活動実績と評価のポイントを以下に示す。

- 成果1の指標は、貝類養殖に必要な資機材が整備されること、住民が持続的な貝類漁業を実施できるようになること、そして生物多様性モニタリングの観察数が100件を超えることの3点である。まずパイロットプロジェクト開始当初、貝類養殖に係る許可は不要であると、天然資源環境省の職員に確認をしていたものの、稚貝導入直前になって天然資源環境省からの許可が必要なことが判明した。本プロジェクトの本邦研修に参加していた同省職員の協力により、迅速に許可を取得できた。

- 養殖場所の選定に関しては、貝類増養殖センター長の現地訪問により、最適な養殖場所を選定した。なお、選定方法、エルサルバドルの再委託先からホンジュラスの再委託先へ共有された。
- 資機材の調達についても貝類増養殖センター長からのアドバイスを受け、必要な資機材を迅速に調達した。そして住民の協力を得て養殖用の柵を2つ設置した。クリルの養殖には、メッシュ袋を縫製する必要があるが、これも住民の協力により迅速に完成した。貝類は現在順調に生育中である。パイロットプロジェクト期間終了までに販売可能サイズまで育成することは難しいものの、費用と生残率と想定できる利益から、持続可能な貝類養殖モデルを確立することができた。

生物多様性モニタリングの観察数が指標である 100 を大きく超え、目標達成を確認した。観察数も順調に増加しており、活動が対象コミュニティに浸透していると考えられる。

成果2

成果2「PLAS 委員会の強化」に係る活動を予定通り実施し、PLAS に基づいた貝類の資源管理を行い、持続可能な貝類漁業モデルを促進した。以上より、成果2は概ね達成したと評価する。主な活動実績と評価のポイントを以下に示す。

- 成果2の指標は、本パイロットプロジェクトに参加する女性グループの70%が貝類（クリルとカスコ・デ・ブーロ）の最小採捕サイズを知ることである。プロジェクト対象地域での最小採捕サイズは、クリルで45 mm、カスコ・デ・ブーロで100 mm である（この基準はエルサルバドル共通ではなく、場所によって異なる）。PLAS の暫定委員会と共に住民が販売しているクリルのサイズを調査したところ、85%以上が最小採捕サイズ（45mm）を満たしていた。住民によると、45 mm 未満のクリルは、市場に出さず、自家消費している。自家消費のため採捕量は少ないと考えられるが、資源管理の観点からは、最小採捕サイズ未満の個体は、利用しないよう啓発を行う必要があることがわかった。一方、カスコ・デ・ブーロについては、調査の結果、最小採捕サイズ（100 mm）を超える個体は確認できなかった。貝類増養殖センターでは55 mm 以上の個体を用いて稚貝を生産していることから、55 mm 以上のカスコ・デ・ブーロは産卵可能といえる。また、カスコ・デ・ブーロは、60 mm を超えると一か月あたり0.4 mm しか成長しないという研究結果がある。このことから、PLAS で定められている最小採捕サイズ（100 mm）に成長するには10年を要することになる。この規定のため、住民は、小さいカスコ・デ・ブーロはより市場価値の低いクリルと偽って販売するか、もしくは自家消費しているのが現状である。この厳しい規則は形骸化しており、住民生計にも負の影響を与えている。今後の対応としては、科学的根拠に基づいた最小採捕サイズの設定と、住民の生計向上を考慮した規則の策定が必要であると考えられる。
- また、貝類の最小採捕サイズを理解してもらうために、実物サイズのサイズチェック版を作成し、住民に啓発活動を行った。その結果、参加者30名が最小採捕可能サイズについて知識をえることができた。教材を用いたことで、参加者の興味関心を高めたとと思われる。

成果3

成果3「コミュニティにおける自然資源保護の重要性に対する意識の向上」に係る活動を予定通り実施し、地元における生態系や自然資源の重要性に対する認識を高めることに貢献した。以上より、成果3は概ね達成したと評価する。主な活動実績と評価のポイントを以下に示す。

- 成果3の指標は、生物多様性モニタリングの観察数と情報交換会議の開催数の2つである。エルサルバドルは、フォンセカ湾の3カ国の中で最も観察数が多かった。観察数の多かった上位4名が10代の若者であったことから、スマートフォンやアプリの操作に慣れている若者を巻き込むことが重要であると考えられる。
- 生物多様性モニタリングの結果は、フォンセカ湾3カ国の情報交換会議で共有された。会議の報告書の中で、モニタリング結果も取り纏められている。
- これらのことから、パイロット活動成果3の目標を達成したと考える。さらにモニタリングの結果は、プロジェクトの成果3であるCCADの能力強化活動の一環として、8カ国とのオンライン会議で共有された。

○活動実施方法の妥当性

本パイロットプロジェクトは現地再委託で行った。委託先は、過去にBarranconesコミュニティに対し農業支援を行った実績を持つNGOである。貝の養殖支援は未経験であったが、JICAによる支援実績もある水産養殖開発センターの協力を得ることができ、貝類養殖は順調に実施された。Barranconesコミュニティには環境省の資源保護管が1名在住している。再委託先はその保護管と良好な関係を築き、住民の取り込みに成功した。

活動写真



水産養殖開発センター。



水産養殖開発センターの稚貝生産施設。



水産養殖開発センター産の稚貝。



パイロットプロジェクト参加住民。



貝養殖用の網袋を縫う参加者。



貝養殖場。

活動写真



貝養殖場。



生育中の貝。



資源管理用簡易資材。



生物多様性モニタリング講習。



iNaturalist を用いた生物多様性モニタリングにかかる
研修。



自然保護と自然利用に関する意識調査。

3. パイロットプロジェクト（コミュニティレベル・ホンジュラス）

<名前>

フォンセカ湾におけるブルーカーボン固定による気候変動対策と生物多様性回復を通じた持続可能な漁業

<背景>

フォンセカ湾沿岸の住民にとって、魚、エビ、カニ、貝などの漁業資源は、重要なタンパク源かつ収入源である。2020年、エルサルバドルとホンジュラス、ニカラグアの沿岸で二枚貝の大量斃死が発生し、現在はこの回復の過程にある。従って、フォンセカ湾の生物多様性の回復と Tres de Febrero および Inés Carranza コミュニティの人々の生活に貢献する二枚貝類資源の回復は、急務である。二枚貝類は、摂餌、排泄、底質の攪拌を通じて沿岸の底質の動態に影響を与える。また、摂餌により水質を浄化し、二枚貝の卵は他の生物の餌となるなど、生態系において重要な役割を果たしている。二枚貝の貝殻は、炭酸カルシウムが主成分であり、貝殻の質量の44%は二酸化炭素固定したものであるとされている。そのため二枚貝類は、気候変動対策に資するブルーカーボンとして注目されている。

<対象コミュニティ>

本パイロットプロジェクトの対象はチオルテカ県マルコビア市に位置する Tres de Febrero と Inés Carranza コミュニティである。この2つのコミュニティは、ホンジュラス南部自然保護地域サブシステム（SAPZSURH）の種別生息地管理地域（AMHE）ロス・デルガディトスの緩衝地帯に位置している。

<受益者>

Tres de Febrero と Inés Carranza コミュニティの貝類採捕者。

<実施期間>

2023年3月～2024年1月

<目的・成果>

○目的

二枚貝の養殖による、フォンセカ湾およびその周辺海域の生物多様性の回復。

○成果

成果1：環境保全と生計向上

成果2：ロス・デルガディトス種別生息地管理地域の共同管理の強化

成果3：コミュニティにおける自然資源保護の重要性に対する意識の向上

<実施方法>

本パイロットプロジェクトは現地業者へ委託して実施した。各活動についてグループ単位で貝養殖施設など関連設備を導入、研修を実施した。

<活動実績>

活動実績

日付	活動内容	参加者			その他
		女性	男性	合計	
2023年7月4日	二枚貝（クリルとカスコ・デ・ブーロ）の資源モニタリング	5	5	10	第1回資源モニタリングを実施した。
2023年7月11日	グッドプラクティス漁業の講義	12	12	24	
2023年7月12日	クリルとカスコ・デ・ブーロの資源モニタリング	5	5	10	第2回資源モニタリングを実施した。
2023年7月18日	クリルとカスコ・デ・ブーロの資源モニタリング	5	5	10	第3回資源モニタリングを実施した。
2023年7月25日	クリルとカスコ・デ・ブーロの資源モニタリング	5	5	10	第4回資源モニタリングを実施した。
2023年9月12日	植林地選定のための現場訪問	2	2	4	植林地を選定した。

出典：プロジェクトチーム取り纏め。

<結果と評価>

○活動結果と成果の達成度

本パイロットプロジェクトの活動の結果と成果の達成度を以下に示す。

成果1

成果1“環境保全と生計向上”に係る活動を予定通り実施し、Tres de Febrero と Inés Carranza コミュニティでの住民の環境保全意識の向上と、環境に配慮した貝類漁業への取り組みの促進、生態系の回復に貢献をした。以上より、成果1は概ね達成したと評価する。主な活動実績と評価のポイントを以下に示す。

- 成果1の指標は、貝類養殖に必要な資機材が準備されること、住民が持続的に貝類を養殖できるようになること、生物多様性の観察記録が100を超えるという3点である。まず貝類養殖に必要な資機材は、エルサルバドルの水産養殖開発センターの多くの資料とエルサルバドルの再委託先 Fundación CAMPO との技術交流でクリル、カスコ・デ・ブーロの養殖に必要な資機材が整備された。また、保護地域の管理を担当する森林保全協会から、地域内で養殖活動を実施する許可を得ることができ、活動を遂行した。
- 貝類養殖実施後は、クリルとカスコ・デ・ブーロを養殖に係る財務報告書を作成し、投入と利益の収支を計算した。その結果、クリルは稚貝の購入価格と成長後の貝の販売価格にほとんど差がないことから、利益は見込めないことが分かった。また、カスコ・デ・ブーロは、稚貝の購入費用は比較的安いものの、市場での販売価格が定まっていないことや、施設の維持管理費用、エルサルバドルからの稚貝輸入時に発生する検査費用等が上乗せされるため、利益はほとんど見込めないことが分かった。いずれの種類も短期的に利益を得ることは難しいものの、柵の中で稚貝を育てるという手法は資源回復の観点から、有効な手段であることがわかった。
- 生物多様性モニタリングの観察記録は、2023年10月時点で100件を超えた。活動開始当初は、観察数が伸び悩んだ。その原因として、参加者の中で若者が少なかったことや、観察環境に制限があったことが考えられる。特に、居住地周辺では限られた種しか観察できない。多くの生物種を観察

するためには、干潮を待つ必要がある。また、一般的に、漁業者は貝類採捕時に携帯電話を常備しないことも観察数が伸びない原因であった。結果として、住民の協力により、観察数の指標を達成することができたものの、今後、活動に住民を巻き込むためには、コミュニティの観察環境を見極め、実現可能性を確認する必要があると考える。

成果 2

成果 2「ロス・デルガディトス種別生息地管理地域の共同管理の強化」に係る活動を予定通り実施し、管理計画に基づいた貝類の資源管理を行い、持続可能な貝類漁業モデルを促進した。以上より、成果 2 は概ね達成したと評価する。主な活動実績と評価のポイントを以下に示す。

- 成果 2 では、パイロットプロジェクトに参加する女性グループの 70%がクリルとカスコ・デ・ブーロの最小採捕サイズを知ることである。パイロットプロジェクトの計画段階で、ホンジュラス国農牧省の漁業養殖総局 (La Dirección General de Pesca y Acuicultura: DIGEPESCA) に話を聞いたところ、ホンジュラスの最小採捕サイズは、エルサルバドルと同一とのことであった。しかし、パイロットプロジェクト開始後に改めて確認したところホンジュラスにはクリルとカスコ・デ・ブーロの最小採捕サイズの規定は存在していなかったことが判明した。そこで本パイロット活動では、ロス・デルガディトス種別生息地管理地域において共同管理の構成員である森林保全協会、漁業養殖総局、NGO と持続可能な貝類漁業を目指すためにクリルとカスコ・デ・ブーロの最小採捕サイズの設定についての議論を行った。

啓発活動では、女性グループを対象にした持続的漁業に関する考え方の普及啓発を試みた。具体的には、漁業養殖総局の代表を招いた会議を開催したことや、貝類のサイズの測定方法や貝類資源量モニタリングの方法について能力強化を行った。また、住民参加による貝類資源量モニタリングも実施された。対象グループが、貝類資源の重要性を理解したことで、共同管理の意識が向上したと考えられる。

成果 3

成果 3「コミュニティにおける自然資源保護の重要性に対する意識の向上」に係る活動を予定通り実施し、地元における生態系や自然資源の重要性に対する認識を高めることに貢献した。以上より、成果 3 は概ね達成したと評価する。主な活動実績と評価のポイントを以下に示す。

- 成果 3 の指標は生物多様性モニタリングの観察数が 100 以上と情報交換会議の開催数の 2 点である。ホンジュラスでは観察記録が 100 件を超えた。
- 生物多様性モニタリングの結果は、6 月と 12 月に開催されたフォンセカ湾 3 カ国の情報交換会議で共有された。会議の報告書の中で、モニタリング結果も取り纏められている。
- これらのことから、パイロット活動成果 3 の目標を達成したと考える。さらにモニタリングの結果は、プロジェクトの成果 3 である CCAD の能力強化活動の一環として、8 カ国とのオンライン会議で共有された。

○活動実施方法の妥当性

本パイロットプロジェクトは現地再委託で実施した。委託先はフォンセカ湾において活動をする NGO である。地元で根差した活動を行っており、ロス・デルガディトス自然保護区の共同管理の構成員であることから、地元の住民だけでなく、天然資源環境省、森林保全協会、漁業養殖総局とつながりが強い。そのために地元の住民への啓発活動やロス・デルガディトス保護区における貝類養殖の許可を進めるこ

とができた。その反面、生物多様性モニタリングにおいて工夫が乏しく観察数が伸びなかった。貝類養殖については、住民や天然資源環境省の職員を連れて、先行して結果を出していたエルサルバドルのパイロットプロジェクトの現場を訪問するなど、足りない技術を補う努力をした。

活動写真



環境省との活動進捗の確認。



漁業養殖総局へのパイロットプロジェクトへの協力要請



森林保全協会へのパイロットプロジェクト協力要請。



チョルテカ県衛生管理局へのエルサルバドルからの稚貝輸入許可に関するヒアリング。



建設した貝養殖場。



建設した貝養殖場。

活動写真



住民による貝の養殖管理。



漁業グループ代表によるマングローブ苗管理。



植林後のマングローブ。



コミュニティの栈橋に設置された持続的漁業啓発に関する看板。



持続的漁業に関する研修。



自然保護区共同管理に関する会議。

4. パイロットプロジェクト（コミュニティレベル・ニカラグア）

<名前>

低価値の海洋資源の有効活用による環境にやさしいフエダイ（*Lutjanus guttatus*）の養殖

<背景>

ニカラグア政府は、天然資源への漁業の影響を軽減するため、在来種で浮き生け簀での養殖が可能なフエダイ（*Lutjanus guttatus*）の養殖を推奨している。現在、フエダイ養殖が直面している問題は、栄養価の高い餌の入手である。現在、養殖にはエル・ビエホ市にあるエビ加工会社から輸送費の支払いのみで入手した生のエビの頭を飼料として使用している。エビ加工会社にとってエビの頭は廃棄物である。エビの頭が環境に放出されれば、栄養塩として環境に負荷がかかる。焼却処分する場合は、輸送費や焼却費用が掛かる。そのエビの頭を有効活用してフエダイを養殖することは、エビ加工会社にとっても、フエダイ養殖組合にとっても、環境にとっても有効である。ところが、エビ養殖は病気対策として乾季に池干しをする。つまりフエダイ養殖組合は、その期間、エビの頭を入手することができないという問題を抱えている。また養殖技術そのものに改善の余地が大いにある。そのため、乾季にもフエダイに餌を与えられるように餌を製造できる体制を整備し、かつ養殖技術を改善することで、今よりも効率的で環境に配慮した養殖を行うことが可能である。さらにニカラグアで唯一、生きたフエダイを直接販売できるようにすることで、販売単価を上げて、養殖組合の利益を増加することが可能である。そして消費者は、新鮮な魚を購入することができるようになる。本パイロットプロジェクトは、①栄養価の高い養殖飼料の製造、②環境に優しい養殖技術の習得、③養殖魚の販売価値の向上の3点を目的とする。

<対象コミュニティ>

ニカラグア国チナンデガ県エル・ビエホ市 La Ballona 地区

<受益者>

La Ballona の3つのフエダイ養殖組合

<実施期間>

2023年3月～2023年12月

<目的・成果>

○目的

- ①栄養価の高い養殖飼料の製造
- ②環境に優しい養殖技術の習得
- ③養殖魚の販売価値の向上

○成果

成果1：環境保全と生計向上

成果2：環境に配慮した水産養殖を実施するための3つの養殖協同組合を強化

成果3：コミュニティにおける自然資源保護の重要性に対する意識の向上

<実施方法>

本パイロットプロジェクトは現地業者へ委託して実施した。各活動についてグループ単位で貝養殖施設

など関連設備を導入、研修を実施した。

<活動実績>

活動実績

日付	活動内容	参加者			その他
		女性	男性	合計	
2023年4月13日	パイロットプロジェクトキックオフワークショップ	6	14	20	
2023年4月1日	餌製造のための用地取得のための会議	7	4	11	
2023年4月10日	餌製造のための用地取得対策会議	6	6	12	マルセリーノ・メンデス協同組合とサントス・プルタルコ協同組合は、土地を購入した。
2023年8月26日	天然資源環境省が用地とマングローブの苗場を視察	5	2	7	
2023年9月22日	天然資源環境省大臣、JICA事務所が対象コミュニティを視察	13	9	22	
2023年5月28日	64平方メートルの乾燥場の建設、2立方メートルの廃棄物処理室の建設、24平方メートルの小屋の建設	30	15	45	マルセリーノ・メンデスとサントス・プルタルコの養殖組合は、労働力を提供した。
2023年4月19日、 2023年8月2日	高タンパク質飼料製造にかかるワークショップ	16	18	34	
2023年8月25日	餌製造のための最適材料比率検討ワークショップ	13	13	26	
2023年8月8日、 2023年9月27日	大豆とゴマから植物油を抽出する実習	1	3	4	
2023年9月28日	エビの協同組合、漁業当局、天然資源環境省と、ペレット餌製造のために魚を提供してもらうための会議	12	9	21	
2023年6月8日、 2023年9月27日	フェダイ養殖における生産記録管理に関する2つの実践的ワークショップ	30	29	59	
2023年9月28日	水質モニタリング用の機材の取り扱いに関するワークショップ	8	11	19	
2023年9月21日	魚の血抜きに関する実習	8	6	14	
2023年6月27日、 2023年6月28日、 2023年8月15日	養殖組合の財務諸表作成のためのMEFCCAとのセミナー	8	16	24	
2023年5月5日、 2023年5月25日	キラカの学校の5年生と6年生に対するマングローブに関する講義	26	38	64	
2023年8月2日、 2023年8月3日	15,000本のマングローブ植林	9	9	18	
2023年6月5日	生物多様性モニタリングの講義	30	29	59	
2023年6月28日	第1回フォンセカ湾3つのコミュニティの情報共有バーチャル会議	23	4	27	
2023年9月12日	養殖魚の価格設定のための生産コスト登録に関するワークショップ	11	9	20	

出典：プロジェクトチーム取り纏め。

<結果と評価>

○活動結果と成果の達成度

本パイロットプロジェクトの活動の結果と成果の達成度を以下に示す。

成果1

成果1「環境保全と生計向上」に係る活動を予定通り実施し、La Ballona 住民の環境保全意識の醸成と、環境に配慮したフェダイ養殖への取り組みの促進に貢献をした。以上より、成果1は概ね達成したと評価する。主な活動実績と評価のポイントを以下に示す。

- 成果1の指標は、フェダイ養殖組合がペレット餌を製造できるようになることと、生物多様性の観察記録が100を超えることの2点である。まず餌製造に必要な資材や設備をニカラグアで調達した。そして、エビ加工会社にとって廃棄物であるエビの頭、未利用魚、タロイモから得た片栗粉、大豆油を主原料としたペレット餌製造ができるようになった。
- 生物多様性モニタリングの観察記録は、10月に100を超えた。モニタリング開始当初は、なかなか観察数が増加しなかった。主な原因としては、生物多様性モニタリングに係る講習会の開催が、パイロット活動の後半に実施されたこと、対象コミュニティの通信環境が悪くリアルタイムで観察記録がアップロードできないことと、エルサルバドルと比較するとスマートフォンの使用になれている若者が少ないこと等が考えられる。

成果2

成果2「環境に配慮した水産養殖を実施するための3つの養殖協同組合を強化」に係る活動を計画通り実施し、持続可能な水産養殖モデルを促進した。以上より、成果2は概ね達成したと評価する。主な活動実績と評価のポイントを以下に示す。

- 成果2の指標は、3つのフェダイ組合が共同で環境にやさしい養殖を実践することである。当初コミュニティの空き地を餌製造場所の予定地にしていたが、結果として2つの協同組合が資金を出し合って餌製造場所用の土地を購入した。コンクリートで整地し、倉庫や廃液処理用のスペースを建設した。残り1つの組合は、資金調達と組合内部の意見調整のため、土地購入用の資金の拠出は見送られた。
- エビの頭と未利用魚を主原料とした餌の開発と、製造時に出る廃液処理システムの導入が行われた。特に、餌製造時に出る廃液は、栄養塩を多く含む。そこで本活動では、廃液を細菌で処理するための処理槽を整備した。環境負荷の低減と、持続可能な養殖モデルの促進に貢献したと考えられる。

成果3

成果3「コミュニティにおける自然資源保護の重要性に対する意識の向上」に係る活動を予定通り実施し、地元における生態系や自然資源の重要性に対する認識を高めることに貢献した。以上より、成果3は概ね達成したと評価する。主な活動実績と評価のポイントを以下に示す。

- 成果3の指標は生物多様性モニタリングの観察数が100以上と情報交換会議の開催数の2点である。ニカラグアでは観察記録が100件を超えた。
- 生物多様性モニタリングの結果は、6月と12月に開催されたフォンセカ湾3カ国の情報交換会議で共有された。会議の報告書の中で、モニタリング結果も取り纏められている。

- これらのことから、パイロット活動成果3の目標を達成したと考える。さらにモニタリングの結果は、プロジェクトの成果3であるCCADの能力強化活動の一環として、8カ国とのオンライン会議で共有された。

○活動実施方法の妥当性

再委託先は20年ほど前にキューバ人から養殖技術を習いながら、対象コミュニティで養殖を開始したNGOである。その後、台湾の支援が入り、養殖の資材は整備されたものの餌を製造することはできなかった。再委託先は、La Ballonaとは別のコミュニティでスペインの援助により養殖魚用の餌製造を手掛けていた。それらの経験も活かしたことで、La Ballonaでの餌製造が可能となった。生物多様性モニタリングは、経験が乏しく観察数を大きく増やすことはできなかった。再委託先は、協同組合そして共同体地域家族経済省や天然資源環境省と密に連絡を取りパイロットプロジェクトを実施した。

活動写真



関係者とのパイロットプロジェクト進捗確認。



生け簀の鯛。



コミュニティが輸送費のみ負担しエビ加工場から入手した生のエビの頭（鯛の餌）。



生のエビの頭を鯛に与える組員。



食べ残しのエビの頭。



組合が購入した土地に建設された餌製造場。手前が、材料乾燥場、奥が材料を茹で、粉碎、ペレットを製造する小屋。

活動写真



製造された鯛用のペレット餌。



鯛養殖用の浮き生け簀。



養殖魚直接販売促進のための広告看板。



養殖魚の処理をする組合員。



マングローブ苗畑。



マングローブを植林する組合員。

5. パイロットプロジェクト（越境コミュニティ間レベル）

<名前>

フォンセカ湾における意見交換と参加型生物多様性調査の情報共有

<背景>

フォンセカ湾は、エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグアに面している。フォンセカ湾の人口は、75 万人以上と推定されており、その多くが海洋資源やマングローブ林による生態系サービスを楽しんでいる。フォンセカ湾では内戦終了後の入植者の増加により、マングローブ林が伐採されたり、十分な管理がなされないまま漁業がおこなわれたりしてきた。このような状況が続くと、将来住民は現在と同様の生態系サービスを楽しむことができなくなる。またそこに生息するマングローブや海洋生物は国境を超えて移動するため違法伐採や資源乱獲が起きると、多国間の争いに発展する懸念がある。それらを予防するためには生物多様性や水産資源の管理方法、生計活動の方法などを住民レベルで情報交換する必要がある。そこで、フォンセカ湾に面するエルサルバドルの **Barrancones** コミュニティ、ホンジュラスの **Tres de Febrero** コミュニティと **Inés Carranza** コミュニティ、ニカラグアの **La Ballona** コミュニティの自然資源の重要性を理解することを目的として越境コミュニティ間の活動を実施した。

<対象コミュニティ>

本パイロットプロジェクトは、エルサルバドルの **Barrancones** コミュニティ、ホンジュラスの **Tres de Febrero** コミュニティと **Inés Carranza** コミュニティ、ニカラグアの **La Ballona** コミュニティを対象とする。

<受益者>

本パイロットプロジェクトの受益者は、エルサルバドルの **Barrancones** コミュニティ、ホンジュラスの **Tres de Febrero** コミュニティと **Inés Carranza** コミュニティ、ニカラグアの **La Ballona** コミュニティの住民である。

<実施期間>

2023 年 3 月～2023 年 12 月

<目的と活動>

○目的

Barrancones（エルサルバドル）、**Tres de Febrero** と **Inés Carranza**（ホンジュラス）、**La Ballona**（ニカラグア）をフォンセカ湾の一部として相互に認識し、その地域の自然資源保護の重要性の認識を促進する。

○成果

成果：コミュニティにおける自然資源保護の重要性に対する意識の向上

<実施方法>

本パイロットプロジェクトは現地業者に業務委託して実施した。エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグアそれぞれのパイロットプロジェクト委託業者が、各活動結果を 3 カ国情報交換会議で共有した。また、越境協力として、エルサルバドルの再委託先は、エルサルバドルで生産された稚貝をホンジュラスへ輸出した。

<活動実績>

活動実績

日付	活動内容	参加者			その他
		女性	男性	合計	
2023年6月28日	第1回3カ国情報交換会議	20	18	38	
2023年11月15日	エルサルバドルからホンジュラスへ稚貝を輸出	2	2	4	
2023年12月6日	第2回3カ国情報交換会議	25	15	40	

出典：プロジェクトチーム取り纏め。

<結果と評価>

○活動結果と成果の達成度

本パイロットプロジェクトの活動の結果と成果の達成度を以下に示す。

成果

成果「コミュニティにおける自然資源保護の重要性に対する意識の向上」に係る活動を予定通り実施し、エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグアの各コミュニティの住民が、フォンセカ湾の資源を共有しているという意識を高め、地域における資源保全の重要性に対する認識を高めることに貢献をした。以上より、当該成果は概ね達成したと評価する。主な活動実績と評価のポイントを以下に示す。

- ・パイロットプロジェクト期間を通じて各コミュニティで生物多様性モニタリングを実施した。そのモニタリング結果や、各コミュニティの特徴を、3カ国の情報共有会議の中で紹介した。会議は、6月と12月の2回、開催された。6月の会議は、3カ国ともオンラインでの参加であった。12月の会議は、ニカラグアはオンラインであったものの、ホンジュラスの参加者がエルサルバドルまで移動し、一部対面での会議が実現した。
- ・本活動では、貝類資源の回復のためにエルサルバドルの稚貝をホンジュラスへ輸出する方法を明確にし、2,000個の二枚貝（クリル）をホンジュラスへ輸出した。これらのことから、成果は達成したと考える。

○活動実施方法の妥当性

本パイロットプロジェクトが開始されるまで、同じ水産資源を利用しているにもかかわらず、3つのコミュニティは互いを認識すらしていなかった。しかし、共通の方法で生物モニタリングを実施し、その結果を比較したことで、3つのコミュニティに共通する生物が多くいることが明らかになった。またクリル、カスコ・デ・ブーロ、フェダイなど漁業資源も共通していることを参加者は認識をした。

エルサルバドルからホンジュラスへ稚貝を輸出するモデルを確立できた。カスコ・デ・ブーロは、ニカラグアにおいても資源が回復途上であり、ニカラグア環境天然資源省も輸出モデルの共有にとっても興味をもっている。このように貝の資源回復のためには、各国で種苗センターを整備しなくても、稚貝を融通することで資源回復が促進されることが期待される。

これらの活動は始まったばかりであり、共通の自然資源の管理、持続可能な漁業への道のりは始まったばかりであるが、これらは廉価であり妥当な方法であると言える。

活動写真



コミュニティ情報交換会議、
ニカラグアはオンライン参加。



エルサルバドル水産養殖開発センターも訪問。



エルサルバドル水産養殖開発センターで生産された稚貝
のホンジュラスへの引き渡し。



エルサルバドルでの生物多様性モニタリング優良参加者
表彰式。



HONDURAS
REPUBLICA DE LA AMERICA CENTRAL



SINAG
Servicio Nacional de Sanidad e Inocuidad Agroalimentaria

Sanidad e Inocuidad
Agroalimentaria
SINASA

Servicio Nacional de Sanidad e Inocuidad Agroalimentaria
Dirección Técnica de Cuarentena Agropecuaria, Departamento de Cuarentena Animal

República de Honduras
Secretaría de Agricultura y Ganadería

Permiso Zoonosanitario de Importación

La Dirección Técnica de Cuarentena Agropecuaria, a través del Departamento de Cuarentena Animal en el uso de las facultades que le confiere la Ley Fitozoonosanitaria, Decreto No. 157-94 y Decreto No. 344-2005, el PCM-015-2020 y sus reglamentos, concede el presente permiso al ciudadano o empresa **Comité para la Defensa y Desarrollo de la Flora y Fauna del Golfo de Fonseca**, con RTN 17099995442833, y correo electrónico vbocanegra@codddefagolf.org para importar los siguientes productos:

Nombre común del producto	Nombre científico del producto	Peso en Kg.	Fin Zootécnico	Cantidad	Nota
1) Cutil	Anadara tuberculosa	1.00	Reproducción	2000	
2)					

PERMISO ZOO SANITARIO DE IMPORTACIÓN
No. SA-2023-123816



RECIBO DE PAGO
11948759

ホンジュラス検疫発行のエルサルバドルからの稚貝輸入許可証。

6. 教訓と提言

＜越境生態系保全ガバナンスメカニズムに関する教訓と提言＞

- 生態系の連結性の価値、重要性を示すモニタリングデータの収集と活用の強化：越境生態系ガバナンスにおいて、いつ、どこに、どのような生物が生息しているのかを科学的に示し、これを共有することは、基本的かつ不可欠である。近年急激に発達したデジタル技術は、専門的知識が無くても生物モニタリングへの参加を可能にしている。本パイロットプロジェクトでは、若者たちが無料アプリケーション iNaturalist を利用し積極的に生物観察に参加した。約 9 ヶ月間のモニタリングで、3 つのコミュニティに共通する種や、地域ごとに異なる種が明らかになった。このような生物多様性モニタリングの結果をコミュニティ間で共有し、生物多様性保全に対する意識醸成、共通財産である資源保全の重要性への理解の促進に貢献した。今後、環境省や農牧省などの行政機関が、モニタリング結果等の情報を分析し活用する事で、生物多様性保全への更なる貢献が期待できる。
- 三カ国によるユネスコの Biosphere Reserve (BR) 化による生物多様性保全と持続的漁業の促進と平和構築：フォンセカ湾では、島の帰属など国の境界線に関する争いが長らく続いてきた。現在でも、漁船が他国に拿捕される事件が発生している。この原因の一つは、資源減少により漁船がより遠くまで漁に出ることになったことである。これは漁業資源管理上の問題である。フォンセカ湾のマングローブは 3 カ国それぞれで保護区化が進んでいるが、管理体制が不十分なため、伐採やゴミの不法投棄が起きている。更に、マングローブ林に生息する貝などの違法漁業が横行、ホンジュラスやニカラグアで採捕された貝が違法にエルサルバドルへ輸出されているという情報もある。各国で異なる漁業ルールも資源管理上の課題となっている。このように山積する資源管理上の問題の解決策として、三カ国でのフォンセカ湾一帯の BR 登録による管理モチベーションの向上が挙げられる。BR 登録プロセスを通じ、3 カ国の環境省や農牧省で構成される委員会を立ち上げ、漁業ルールの改定、啓発活動の推進、パトロールを強化することにより、漁業資源の持続的利用が促進される。
- 資源回復のための資源や設備の共有：ニカラグアのパイロットプロジェクトは、魚の養殖に絞った。しかし、エルサルバドルやホンジュラスと同様に、ニカラグアでも 2020 年に貝類の大量斃死が起きている。本パイロットプロジェクトでは、エルサルバドル産の稚貝をホンジュラスへ輸出するモデルを構築した。このモデルのニカラグアでの適用も可能である。
- 自然資源管理のための法律や規則の共有：エルサルバドルの法律では、マングローブ林は保護区であり、自然資源の採捕が禁止されている。しかし、沿岸域の住民は、その法律を無視又は知らずに貝などの自然資源を採捕し、食料や所得獲得手段としている。この対策として、エルサルバドルの環境省は、「持続可能な利用のための地域計画」(PLAS) という制度を作った。PLAS に基づいて適正な管理が行われていれば、保護区内でも資源の採捕が許可される。住民が自然資源の管理をしながら利用するという管理漁業に便利な法律である。PLAS または類似の法律をフォンセカ湾の他の国も採用すれば、湾全体の自然資源管理が可能となり、行政と住民双方にとって大きな利益をもたらすと考えられる。
- 科学的根拠に基づいた漁業規則の作成：沿岸の砂地で採捕できる赤貝、カスコ・デ・ブーロは、単価も高く重要な自然資源である。エルサルバドルにおけるカスコ・デ・ブーロの最小採捕サイズは、農牧省により地域別に設定されている。フォンセカ湾のカスコ・デ・ブーロの採捕採捕小サイズは、100 mm である。既存の文献によるとカスコ・デ・ブーロが 100 mm を超えるには 10 年程度かかる。

本パイロットプロジェクト参加者へのカスコ・デ・ブーロの採捕についての聞き取り結果では、100 mm を超えるカスコ・デ・ブーロはほぼ存在しないとのことである。また、これ以下のサイズのカスコ・デ・ブーロは、より価値の低いクリルとして販売するか、自家消費しているとのことであった。つまり、厳しすぎるがために規則が形骸化、資源回復も所得改善も期待できない状況を生み出している。エルサルバドルの水産養殖開発センターでは、55 mm のカスコ・デ・ブーロを親貝として稚貝を生産している。このサイズ以上であれば、例えば、複数回産卵させたあとには利用しても問題のない可能性を示唆している。以上より、資源管理に関する規制は、科学的根拠と周辺住民生計を適切に反映し、見直し・設定する必要がある。

- 未利用資源の有効活用：ニカラグアのパイロットプロジェクトではタイ養殖の餌の改善に取り組んだ。タイは肉食魚であるため、餌はタンパク質を 40%以上含むことが望ましい。パイロットプロジェクト対象の La Ballona コミュニティはタンパク質含有量の不十分なエビの頭を餌として使用していたが、コミュニティ周辺に複数存在する魚の仲買業者によると、利用価値の低い魚が大量に水揚げされることもあるとのことであった。魚はタンパク質を豊富に含む餌の原料である。このように、身近に有用な未利用資源があることも珍しくないため、このような資源をより積極的に発掘、活用を進めるべきである。

<住民参加や支援方法に関する教訓と提言>

- 成果が出るまでの活動期間の確保：本パイロットプロジェクトの実施期間は、準備期間を除くと実質 7 か月程度であった。7 ヶ月では、貝や魚の養殖を開始し収穫するという生産サイクルを達成するには短すぎる。水産や農業の活動である程度の結果を得るには、少なくとも生産サイクルを 3 回実施できるだけの時間を確保する必要がある。

パイロットプロジェクト報告書（ラ・アミスタ）

1. 生態系概要

<名称>

ラ・アミスタ国際公園（ユネスコ世界遺産）／ラ・アミスタ（ユネスコ Biosphere Reserve）

<国・地域>

ラ・アミスタ国際公園（406,147 ha）

<登録状況>

生態系の登録状況

国	名称	登録・ 制定年	国際条約登録状況	面積 (ha)
コスタリカ	ラ・アミスタ生物圏保護区 (RBA:Reserva de la Biosfera Amistad)	1982	ユネスコ MAB 生物圏保護区	667,825
	ラ・アミスタ国際公園 (PILA-Costa Rica)	1982	国立公園	200,000
パナマ	ラ・アミスタ生物圏保護区 (RBLA:Reserva de la Biosfera de La Amistad)	2000	ユネスコ MAB 生物圏保護区	655,558
	ラ・アミスタ国際公園 (PILA-Panamá)	1988	国立公園	207,000
二国間	タラマンカ山脈-ラ・アミスタ保護区／ラ・アミスタ国立公園	1983	ユネスコ世界遺産	567,845
	ラ・アミスタ国際公園 (PILA:Parque Internacional La Amistad)	1979	両国大統領によるPILA創設の共同宣言	406,147

出典：プロジェクトチーム取り纏め。

<環境特性>

パナマとコスタリカの国境に位置するラ・アミスタ国際公園（PILA）は、この地域を代表する保護区である。ラ・アミスタ国際公園は、中央アメリカで最も標高が高く、原始的な熱帯雨林や非火山性山脈等で構成される広大な地域である。公園内のタラマンカ山脈は、中米に残る主要な原生林の一つであり、中米南部で最も高いセロ・チリポ（標高 3,819m）をはじめ標高 3,000m を超える山が多数存在する。

ラ・アミスタ国際公園が位置する地域は、かつては北米と南米を繋ぐ陸橋の一部であり、現在も両大陸の動植物相が交錯する貴重な場所である。この地域は、気候や標高などの環境条件、生態系共に非常に多様で、215 種の哺乳類の他、鳥類は約 600 種、爬虫類と両生類は約 250 種、淡水魚は 115 種が記録されており、多くの類で固有性が高い。

<社会経済特性>

保護区周辺域の主要経済活動は、農畜産業である。主要作物は、コーヒー栽培他、パイナップル、バナナ、トウモロコシ、豆、サトウキビなどがある。パナマ側では自給自足用作物栽培と商業的な牛の肥育が、主である。

<ガバナンスメカニズム>

○名称

ラ・アミスタ国際公園二国間技術実行ユニット (UTEB-PILA)

○関連法規、戦略 (二国間協定)

- PILA 創設に関する二国間共同宣言 (1979 年)
- パナマーコスタリカ国境開発協力協定 (1994 年)
- 原住民及び種族民条約 (第 169 号)
- 世界文化遺産及び自然遺産条約

○組織

組織名称	構成員および役割
二国間調整員	UTEB-PILA のより適切な助言、運営、目的達成のために関連すると思われるアドバイザー、専門家、技術者、非政府組織、市民団体の参加を要請する。
二国間常設委員会	コスタリカ：国家計画・経済政策省 (MIDEPLAN) パナマ：経済財務省 (MEF)
二国間分野別技術委員会 (CTSB)	インフラ、教育、自然資源、自治体間連携などの特定のテーマを扱い、その部門内の各プログラムやプロジェクトを促進させる。
二国間技術実行ユニット (UTEB)	コスタリカ：6 名 ✓ 国家保全地域管理局 (SINAC) 執行事務局の代表者 1 名 ✓ PILA コスタリカの代表者 4 名：ラ・アミスタカリブ海保全地域 (ACLA-C) およびラ・アミスタ太平洋保全地域 (ACLA-P) の PILA 管理者またはその代理人、および各保護地域の保護地域部長またはその代理人 ✓ 事務局長またはその代理人 パナマ：6 名 ✓ 環境省 (MiAmbiente) の代表者 1 名 ✓ PILA パナマの代表者 4 名：ボカス・デル・トロとチリキの地域部局 (MiAmbiente) より各 1 名、ラ・アミスタ国際公園のカリブ地域と太平洋地域の責任者各 1 名。 ✓ 事務局長またはその代理人

出典：プロジェクトチーム取り纏め。

○活動内容・方法

上記の組織の主な活動を以下に示す。

- PILA の管理目標に貢献する活動、プロジェクト、プログラム、計画の策定と実施。
- PILA とその周辺地域を支援する活動、プロジェクト、プログラム、計画の実施のための、様々な組織や団体への働きかけ。
- PILA に関連する国際条約や決定や合意への対応、フォローアップの実施。
- 各種活動の定期的進捗モニタリングと報告書の作成と提出。
- 必要に応じた作業委員会の設置、報告書を提出と提出。
- 規則の変更・調整にかかる提案と承認。

2. パイロットプロジェクト（コミュニティレベル・コスタリカ）

<名前>

生産活動における持続的村落生物多様性保全と利用強化

<背景>

パナマとの国境と接する Las Mellizas コミュニティでは、コーヒー栽培が盛んに行われ、地域住民の主要所得源となっている。しかし、コーヒー栽培技術は十分に環境に配慮あるいは効率的に利用したものではない。地域には、コスタリカコーヒー協会（ICAFFE）や農牧省（MAG）の事務所が存在するが、予算不足等から生産者の多くは、これらの機関による技術支援を享受できていない。このような状況下、本パイロットプロジェクトは、“生産活動における生物多様性保全と利用に係るガバナンスメカニズム（管理方法）”と“コミュニティ住民生計向上のための持続的生物多様性保全と利用”の強化を目的に実施された。具体的には、コーヒー栽培適正化のための農業生産工程管理（Good Agricultural Practice：GAP）技術の指導・導入、生物多様性強化・回復および所得源多様化のための養蜂の強化・導入、生物多様性強化・回復のための植林、これら3つの活動の適切な管理のための生産組織の機能強化である。

<対象コミュニティ>

本パイロットプロジェクトは、プンタレナス県コト・ブルス市サバリト地区 Las Mellizas コミュニティを対象とする。

<受益者>

Las Mellizas コミュニティの住民（プロジェクト開始時は23名であったが、その後、一部の住民の離脱や交代があり、終了時には14名となった。）

<実施期間>

2022年12月～2024年1月

<目的・成果>

○目的

- ・ 生産活動における生物多様性保全と利用に係るガバナンスメカニズム（管理方法）の改善
- ・ コミュニティ住民生計向上のための持続的生物多様性保全と利用方法の改善

○成果

成果1：コーヒー生産改善（Good Agricultural Practice：GAP 指導）

成果2：養蜂導入（養蜂技術の導入）

成果3：自然・生産景観の改善（植林の実施）

成果4：生産活動における生物多様性保全と利用に係るガバナンスメカニズム（管理方法）の構築（生産組織能力強化）

<実施方法>

本パイロットプロジェクトは、コスタリカコーヒー協会（ICAFFE）や農牧省（MAG）の専門家、ローカル個人専門家の配置により、プロジェクトチームが直接実施した。成果1、2、3の技術指導は、グループ研修と各参加者の圃場での習得技術の導入と実践、このフォローアップの組み合わせで実施した。

<活動実績>

各活動参加者数

成果	人数 (内女性)	注
成果1：コーヒー生産改善 (Good Agricultural Practice : GAP 指導)	14 (4)	
成果2：養蜂導入 (養蜂技術の導入)	7 (1)	成果2の参加者7名は成果1の参加者14名と重複。
成果3：自然・生産景観の改善 (植林の実施)	14 (4)	成果3の参加者14名は成果1の参加者14名と重複。
成果4：生産活動における生物多様性保全と利用に係るガバナンスメカニズム(管理方法)の構築(生産組織能力強化)	15	当初は、成果1から成果3に参加している14名のグループとして活動実施にかかる会議など組織活動をしていた。しかし、14名の居住地区が離れているなどの理由から組織としての強化が難しいため、後半は、成果2参加者7名の内6名がメンバーとなった養蜂組織“APINATIVO(メンバー15名)”を支援対象とした。

出典：プロジェクトチーム取り纏め。

活動実績

コンポーネント	日付	活動	開催回数
C1	2023年2月10日～10月10日	コーヒー生産技術ワークショップ (環境保全型農業、植物防疫管理、農薬廃棄バイオベッド、日陰樹管理、土壌保全方法、森林微生物利用、雑草管理、バイオ肥料作成、有機肥料作成、育苗技術など)	8
		コーヒー生産技術個別圃場実践、個人指導・モニタリング	-
C2	2023年1月20日～2024年1月31日	養蜂技術ワークショップ (養蜂の基礎知識、養蜂資材の作成、収穫、商品多様化など)	8
		養蜂技術個別圃場実践、個人技術指導・モニタリング	-
C3	2023年4月13日～7月24日	景観改善にかかるワークショップ (植林用樹種の種子の入手)	1
		個別圃場での植林実践、モニタリング	-
C4	2023年10～12月	養蜂組織強化に関するワークショップ、会議	2

出典：プロジェクトチーム取り纏め。

<結果と評価>

○活動実績と成果達成度

成果1

成果1“コーヒー生産改善”にかかる活動として、合計8回の技術ワークショップを開催、その後、個別圃場での技術導入・個別指導を予定通り実施した。しかし、参加者数は、当初の23名から14名に減少したことから、本成果の達成度は“中程度”と評価した。主な活動実績と評価のポイントを以下に示す。

- 成果1の活動は、コスタリカコーヒー協会(ICAFFE)の技術者が、同協会の Good Agricultural Practice (GAP) プログラムを用いて実施した。この技術者は、地域の自然環境やコーヒー生産技術を熟知、

また生産者との広いネットワークを持っている。そして、Good Agricultural Practice (GAP) プログラムは同地域のコーヒー生産の特徴を反映し作成されたものである。このため、これらローカルリソースの有効活用は、特に活動効率性と技術の適用性の面で有効であった。

- 成果1での技術指導は、技術ワークショップと個別圃場での技術導入・個別指導の組み合わせで行った。特に後者は、参加者の技術に対する興味の維持と適用を進める上で非常に有効であった。

成果2

成果2“養蜂導入”にかかる活動として、合計8回の技術ワークショップを開催、その後、個別圃場での技術導入・個別指導を予定通り実施した。しかし、参加者数は、当初の10名から7名に減少したことから、本成果の達成度は“中程度”と評価した。主な活動実績と評価のポイントを以下に示す。

- 成果2の活動は、当初、コスタリカ政府職業訓練学校が担当する予定であったが、担当技術者との、スケジュール等の調整がつかなかったため、現地の養蜂家を講師に採用し実施した。養蜂家は同地で長年に渡り養蜂を営んでおり、地域に根差した技術と知識を有している。この技術と知識は、より実践的な技術の、より効果的な指導に繋がった。また、養蜂家は、共同販売などを目的とした“APINATIVO”という組織の設立者でもあるため、組織強化にも強い興味と積極性を示した。このため、後述成果4のとおり、パイロットプロジェクト終盤では、この組織を成果4の対象とすることとした。
- 成果2での技術指導は、技術ワークショップと個別圃場での技術導入・個別指導の組み合わせで行った。特に後者は、参加者の技術に対する興味の維持と適用を進める上で非常に有効であった。

成果3

成果3“自然・生産景観の改善（植林の実施）”にかかる活動として、研修1回、その後の個別圃場での樹木の植え付け実践・モニタリングを行った。研修回数は僅か1回ではあったが、個別圃場への植え付けを実現したことから、本成果の達成度は成果1、2と同様に中程度とした。主な活動実績と評価のポイントを以下に示す。

- 成果3は、成果1と成果2と関連づけて計画した。具体的な関連付け方法としては、成果1については、コーヒー生産に役立つ日陰樹の採用、成果3については蜂の飼育に役立つ花や樹木の採用である。この関連付けは、参加者の植林への興味の維持を狙ったものであったが、例えば、個々のコーヒー農園において樹木の過度な伐採や不足がないという事実もあり、この効果は想定よりは小さなものであったと考えられる。

上記のとおり、対象コミュニティに広がるコーヒー農園では、過度な森林伐採は見られていないことから、ここでの生態系保全上の重要テーマは農薬の適正管理などの生産活動管理である。以上より、植林などは小学生などを対象とした環境教育の枠組みでの実施が適切と考えられる。

成果4

成果4“生産活動における生物多様性保全と利用に係るガバナンスメカニズム（管理方法）の構築”は、成果1、2共に、正式な組織を対象とせず、個別農家で構成された非公式グループであったことから十分な活動が実施できなかった。このため、成果4の達成度は“中低程度”とした。主な活動実績と評価のポイントを以下に示す。

- 本パイロットプロジェクトの参加者は、国家保全地域管理局（SINAC）など同地域で活躍する政府関連組織と検討して選定した。パイロットプロジェクトの実施期間は、当初計画では4年であったものが、コロナパンデミック期間のプロジェクト活動低迷の結果、1年に短縮されていた。政府関連組織のメンバーから、1年は環境や農業の改善には短く、ある程度でも結果を残すには優良農家の優先的選定が重要と意見が多数であったため、これを採用した。この方法は、特に成果1と2では妥当であったが、一方、組織活動が求められる成果4では逆効果であった。選定された農家が同一組織に所属しない、更に、それぞれの農家が比較的広い範囲に分散して居住している状況もあり、成果4での組織強化活動の低迷につながった。この状況を勘案し、上記のとおり、プロジェクト終盤では成果4の対象を、成果2で技術指導を担当した養蜂家が率いる“APINATIVO”という組織に移行した。なお、ラ・アミスタのパイロットプロジェクト対象コミュニティは、コスタリカ、パナマ共に経済・教育水準が比較的高く、そして、個々に独立した生産者（ビジネスマン）である。このため、ガバナンスメカニズムおよびこの構築にかかる支援は、個人の生産や所得との関連をより明確なものとなる必要があると考えられる。

○活動実施方法の妥当性

本パイロットプロジェクトは、ICAFE や地元の養蜂家などローカルリソースを活用し実施した。環境や農業に関する組織や技術改善・強化には一般的に長い期間を有する。このため、プロジェクトの有無に関わらず現地に居続ける、あるいは現地支援を本業とするリソースの活用は、活動や成果の継続性と持続性をより確実にする上で重要かつ適正であった。

ICAFE や参加農家との調整では、農牧省（Ministerio de Agricultura y Ganaderia : MAG）傘下の機関で、農村部開発にかかる機関や受益者間調整の役割を担う農牧業ローカルセクター委員会（Comité Sectorial Locales Agropecuarios : COSELES）の協力を得た。人口増加等に伴い人間と動植の共存が求められる地域が増加する中、今後の生物多様性保全では様々なステークホルダー間の連携が必須である。この連携の適切な実現には綿密な調整が求められ、COSELES のような機関の役割と存在は非常に重要と考えられる。

なお、参加農民を含む関係者間の連絡には WhatsApp グループを利用した。このグループでは、当初想定しなかった、技術に関する情報交換と質疑が、メッセージ、画像、動画を用い非常に活発に行われた。このようなツールは、各種活動の効率化のため、今後も積極的に利用すべきと考える。

活動写真



コーヒー苗生産用土壌準備に関する技術研修。



コーヒー苗生産に関する技術研修。



養蜂資材作成に関する技術研修。



本パイロットプロジェクトで新設した養蜂場。



景観改善用樹種に関する研修。



景観改善用樹種を植え付けた農場。

3. パイロットプロジェクト（コミュニティレベル・パナマ）

<名前>

生産活動における持続的村落生物多様性保全と利用強化

<背景>

コスタリカと国境と接する Piedra Candela コミュニティでは、コーヒー栽培が盛んに行われ、地域住民の主要所得源となっている。しかし、コーヒー栽培技術は十分に環境に配慮あるいは効率的に利用したものではない。地域には、環境省（MiAmbiente）や農牧開発省（MIDA）の事務所が存在するが、予算不足等から生産者の多くは、これらの機関による技術支援を享受できていない。このような状況下、本パイロットプロジェクトは、“生産活動における生物多様性保全と利用に係るガバナンスメカニズム（管理方法）”と“コミュニティ住民生計向上のための持続的生物多様性保全と利用”の強化を目的に実施された。具体的には、コーヒー栽培適正化のための農業生産工程管理（Good Agricultural Practice：GAP）技術の指導・導入、生物多様性強化・回復および所得源多様化のための養蜂の強化・導入、生物多様性強化・回復のための植林、これら3つの活動の適切な管理のための生産組織の機能強化である。

<対象コミュニティ>

本パイロットプロジェクトはチリキ県 Piedra Candela コミュニティを対象とする。

<受益者>

Piedra Candela コミュニティの住民（プロジェクト開始時は27名であったが、その後、一部の住民の離脱や交代があり、終了時には14名となった。）

<実施期間>

2022年12月～2024年2月

<目的と成果>

○目的

- 生産活動における生物多様性保全と利用に係るガバナンスメカニズム（管理システム）の改善
- コミュニティ住民生計向上のための持続的生物多様性保全と利用方法の改善

○成果

成果1：コーヒー生産改善（Good Agricultural Practice：GAP 指導）

成果2：養蜂導入（養蜂技術の導入：一般種と針無し自生種）

成果3：自然・生産景観の改善（植林の実施）

成果4：生産活動における生物多様性保全と利用に係るガバナンスメカニズム（管理方法）の構築（生産組織能力強化）

<実施方法>

本パイロットプロジェクトは、環境省（MiAmbiente）、農牧開発省（MIDA）やパナマ高等科学技術研究・サービス機関（INDICASAT）の専門家、ローカル個人専門家の配置により、プロジェクトチームが直接実施した。成果1、2、3の技術指導は、グループ研修と合わせ各参加者の圃場での習得技術の導入・実践、このフォローアップの組み合わせで実施した。

<活動実績>

各活動参加者数

成果	人数 (内女性)	注
成果1：コーヒー生産改善 (Good Agricultural Practice : GAP 指導)	11 (4)	
成果2：養蜂導入 (養蜂技術の導入)	13 (5)	成果2の参加者13名は成果1の参加者と重複。
成果3：自然・生産景観の改善 (植林の実施)	14 (6)	成果3の参加者14名は成果1と2の参加者と重複。
成果4：生産活動における生物多様性保全と 利用に係るガバナンスメカニズム（管理方法） の構築（生産組織能力強化）	14 (6)	成果4は、Mi Ambiente が管轄する村落単位組織 (Organización base Comunitario : OBC) の登録を目指す パイロットプロジェクト参加者グループ14名を対象と した。

出典：プロジェクトチーム取り纏め。

活動実績

コンポー ネント	日付	活動	開催回数
C1	2023年3月8日～ 10月11日	コーヒー生産技術ワークショップ (GAP 基礎知識、育苗技術、有機肥料生産、剪定、総合的病害集管理 など)	8
		コーヒー生産技術個別圃場実践、個人指導・モニタリング	-
C2	2022年12月～2024 年2月	養蜂技術ワークショップ (養蜂の基礎知識、養蜂管理、収穫、商品多様化など)	7
		養蜂技術個別圃場実践、個人技術指導・モニタリング	-
C3	2023年3月30～8 月30日	景観改善にかかるワークショップ (植林用樹種の種子の入手)	1
		個別圃場での植林実践、モニタリング	-
C4	2023年3～12月	組織強化に関する会議	2

出典：プロジェクトチーム取り纏め。

<結果と評価>

○活動実績と成果達成度

成果1

成果1“コーヒー生産改善”にかかる活動として、合計8回の技術ワークショップを開催、その後、複数回の個別圃場での技術導入・個別指導を予定通り実施した。しかし、参加者数は、当初の27名が、14名まで減少したことから、本成果の達成度は“中程度”と評価した。主な活動実績と評価のポイントを以下に示す。

- 成果1の活動は、農牧開発省（MIDA）の技術者が実施した。この技術者は、地域の自然環境やコーヒー生産技術を熟知、また生産者との広いネットワークを持っている。このローカルリソースの活用は、特に、地域特性に合致した技術の指導と、住民との円滑なコミュニケーションの両面で有効であった。

- 成果1での技術指導は、技術ワークショップと個別圃場での技術導入・個別指導の組み合わせで行った。特に後者は、参加者の技術に対する興味の維持と適用を進める上で非常に有効であった。

成果2

成果2“養蜂導入”にかかる活動として、合計8回の技術ワークショップを開催、その後、複数回の個別圃場での技術導入・個別指導を予定通り実施した。しかし、参加者数は、当初の24名が、13名まで減少したことから、本成果の達成度は“中程度”と評価した。主な活動実績と評価のポイントを以下に示す。

- 成果2の活動の実施のために、一般の養蜂は地域の養蜂家、針無自生種についてはパナマ高等技術調査・サービス研究所（INDICASAT）の要員を配置した。いずれの要員も同地域の自然環境や養蜂に精通しており、地域に根差した技術と知識を有している。この技術と知識は、より実践的な技術の、より効果的な指導に繋がった。
- 成果2での技術指導は、技術ワークショップと個別圃場での技術導入・個別指導の組み合わせで行った。特に後者は、参加者の技術に対する興味の維持と適用を進める上で非常に有効であった。

成果3

成果3“自然・生産景観の改善（植林の実施）”にかかる活動として、研修1回、その後の個別圃場での樹木の植え付け実践・モニタリングを行った。研修回数は僅か1回ではあったが、個別圃場への植え付けを実現したことから、本成果の達成度は成果1、2と同様に中程度とした。主な活動実績と評価のポイントを以下に示す。

- 成果3は、成果1と成果2を関連付けて計画した。具体的な関連付け方法としては、成果1については、コーヒー生産に役立つ日陰樹の採用、成果3については蜂の飼育に役立つ花や樹木の採用である。この関連付けは、参加者の植林への興味の維持を狙ったものであったが、例えば、個々のコーヒー農園において樹木の過度な伐採や不足が無いという事実もあり、この効果は想定よりは小さなものであったと考えられる。
- 上記のとおり、対象コミュニティに広がるコーヒー農園では、過度な森林伐採は見られていないことから、ここでの生態系保全上の重要テーマは農薬の適正管理などの生産活動管理である。以上より、植林などは小学生などを対象とした環境教育の枠組みでの実施が適切と考えられる。

成果4

成果4“生産活動における生物多様性保全と利用に係るガバナンスメカニズム（管理方法）の構築”は、14名の参加者の組織化を目標に実施した。具体的には、環境省管轄の村落単位組織（OBC）の構築である。このため、環境省（MiAmbiente）が合計2回の研修を実施、登録申請が提出された。しかし、登録には至っておらず、また、具体的な保全や利用に関するルールなど、ガバナンスメカニズムの構成要素の具体的検討に至っていないため成果4の達成度は“中低程度”とした。なお、ラ・アミスタのパイロットプロジェクト対象コミュニティは、コスタリカ、パナマ共に経済・教育水準が比較的高く、そして、個々に独立した生産者（ビジネスマン）である。このため、個人の生産や所得との関連がより明確なガバナンスメカニズムの構築のための支援が必要と考えられる。

○活動実施方法の妥当性

本パイロットプロジェクトは、MIDA や INDICASAT、地元の養蜂家などローカルリソースを活用し実施した。環境や農業に関する組織や技術改善・強化には一般的に長い期間を有する。このため、プロジェクトの有無に関わらず現地に居続ける、あるいは現地支援を本業とするリソースの活用は、活動や成果の継続性と持続性をより確実にする上で重要かつ適正であった。

参加農民を含む関係者間の連絡には WhatsApp グループを利用した。このグループでは、当初想定しなかった、技術に関する情報交換と質疑が、メッセージ、画像、動画を用い非常に活発に行われた。このようなツールは、各種活動の効率化のため、今後も積極的に利用すべきと考える。

なお、パナマでは 2023 年 10 月 24 日に全国規模の鉱山反対デモが発生し、一部が暴徒化、道路封鎖なども発生した。パイロットプロジェクトもこのデモの発生と合わせ完了としたが、同年 12 月上旬のパナマ政府による鉱山閉鎖の決定によるデモ終結後、幾つかの技術研修を実施した。デモは不可抗力であるため妥当性判断の対象ではないが、参考情報としてここに示す。

活動写真



コーヒー栽培用有機肥料の生産にかかる技術研修。



コーヒー苗の更新。



農牧開発省・養蜂セミナーへの参加。



養蜂（自生蜂）の収穫に関する技術研修。



養蜂管理に係る技術研修。



景観保全用樹木の種子の収集。

4. パイロットプロジェクト（越境コミュニティ間レベル）

<名前>

国境における村落間調整・協調による生物多様性関連活動の効率性改善

<背景>

ラ・アミスタにおけるコミュニティレベル・パイロットプロジェクトの対象は、パナマは Piedra Candela、コスタリカは Las Mellizas である。両コミュニティは国境を跨ぎ隣接、共にラ・アミスタ国際公園(PILA)という同一生態系の緩衝地帯にある。また、コミュニティの主な所得源はコーヒー生産であるため類似性が高い。両コミュニティ間は日常的な往来はあるものの、例えば生物多様性やコーヒー栽培に関する事項など技術的交流は限定的である。このような状況下、本パイロットプロジェクトは、両村落間の調整・協調の加速による生物多様性関連活動の効率性の改善を目的に実施された。

<対象コミュニティ>

パイロットプロジェクト対象コミュニティは、コスタリカとパナマの国境に位置するコスタリカの Las Mellizas とパナマの Piedra Candela である。

<実施期間>

2022年12月～2024年1月

<目的と成果>

○目的

国境における村落間調整・協調による生物多様性関連活動の効率性改善。

○成果

成果1：二国・機関間会議

成果2：生物多様性に関する意識の向上

<実施方法>

本パイロットプロジェクトは、コミュニティレベルパイロットプロジェクト関係者の協力・参加を得て実施した。

<活動実績>

活動実績

日付	活動	参加者			その他
		女性	男性	合計	
2023年5月3日	第1回小学校環境教育—生物多様性と受粉 (Las Mellizas)	16	23	39	
2023年5月4日	第1回小学校環境教育—生物多様性と受粉 (Piedra Candela)	22	18	40	
2023年6月6日	第2回小学校環境教育—蜂の働き (Las Mellizas)	16	18-	39	
2023年6月6日	第2回小学校環境教育—蜂の働き (Piedra Candela)	22	18	40	
2023年8月7日	第2回小学校環境教育—植栽 (Las Mellizas)	16	18-	39	
2023年8月8日	第2回小学校環境教育—生態系壁画作成 (Piedra Candela)	22	18	40	
2023年10月12日	二国・機関間会議	6	9	15	
2023年11月30日	ラ・アミスタ UTEB 会議 (プロジェクト進捗発表)	-	2	2	

日付	活動	参加者			その他
		女性	男性	合計	
2024年1月27日	地域生物多様性イベント（Piedra Candela）	66	51	117	

出典：プロジェクトチーム取り纏め。

<結果と評価>

○活動結果と成果達成度

本パイロットプロジェクトの活動の結果と成果の達成度を以下に示す。

成果1

成果1“二国・機関間会議”について同会議を1回開催した。会議の参加者は下表の通り、いずれも保護区またはその周辺の緩衝地域に対し農業や環境に関する支援を行う組織である。

パナマ	コスタリカ
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 農牧開発省（MIDA） ✓ パナマ農牧業イノベーション研究所（Instituto de Innovación Agropecuaria de Panamá：IDIAP） ✓ 熱帯農業研究高等教育センター（Centro Agronómico Tropical de Investigación y Enseñanza：CATIE）パナマ事務所 ✓ コミュニティレベル・パイロットプロジェクト対象グループ・リーダー 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 国家保全地域管理局（SINAC） ✓ コスタリカコーヒー協会（ICAFFE） ✓ 農牧省（MAG） ✓ 環境保全NGO（Conservación Osa） ✓ コミュニティレベル・パイロットプロジェクト対象グループ・リーダー

出典：プロジェクトチーム取り纏め。

会議では、①生物多様性に関する課題と対策、②環境保全型生産技術、③それぞれの組織の支援活動のプロジェクトなどについて情報・意見交換がなされた。生物多様性上の課題としては、緩衝地域の経済活動に起因する火災、先住民や愛好家による過度な狩猟、観光を中心に生態系の価値を高める活動の不足が挙げられた。また、環境保全型生産技術については、養蜂箱の形や有機肥料作成方法など、二国間で異なる点が複数あることが確認された。非常に活発な情報・意見交換がなされ、会合は有意義であったが、開催回数が1回に限られたことから本成果の達成度は中程度と評価する。

成果2

成果2“生物多様性に関する意識の向上”に関連し、合計6回の小学校環境教育、1回の生物多様性イベントを開催した。小学校環境教育については、当初は2つのコミュニティでの共催を予定したが、一部の教師から、たとえ近隣域でも生徒に国境を跨がせることへの懸念が示されたため、個別開催とした。個別開催となったが、対象テーマは共通としたことから、生態系保全にかかる二国共同の取り組みと位置付けられると考えられる。生物多様性イベントでは、生態系保全に関するセミナー、子供絵画コンクール、蜂蜜など地域産品の紹介などを行った。パナマのコミュニティで開催し、参加者の大多数はパナマの住民であったが、コスタリカからの参加もあり、小規模ではあるが、越境コミュニケーションが実現された。以上より、成果2は、概ね達成したと評価した。

○活動実施方法の妥当性

いずれの活動も、パイロットプロジェクト参加コミュニティや支援組織の支援と参加を受けて、最小限の投入で実施したことから、実施方法の妥当性は高いと評価した。

活動写真



コスタリカ Las Mellizas コミュニティでの受粉に関する
第一回環境教育。



パナマ Piedra Candela コミュニティで小学生参加で制作
された生物多様性に関する壁画。



パナマ Piedra Candela での生態系地域イベント。



二国支援機関間会合。

5. 教訓と提言

＜越境生態系ガバナンスメカニズムに関する教訓と提言＞

- 生態系の連結性を価値、重要性を示すモニタリングデータの収集・活用の強化：多くの野生生物や植物は纏まった広い生息域を必要としており、連結性の維持が生態系保全の重要事項である。しかし、パイロット活動住民には連結性の意識は十分に感じられなかった。その一因としては河川や湖の水資源など、分かり易い共有資源が無いことが挙げられる。住民の理解醸成には、例えばジャガーの水平移動、鳥類の垂直移動など分かりにくい連結性について、価値や状況を示すモニタリング情報の入手、利用の拡大が推奨される。例えば、コスタリカ側が先行している *iNaturalist* の利用、二国間レベルでのデータ共有・分析は実現性が高い。*iNaturalist* のデータは、主にレンジャー、住民、観光客により取得されるため、宣伝やコンクールなど利用促進策が必要であるが、労力・費用の双方で現実的と考える。これらモニタリングデータの共有は、後述する先住民・狩猟文化のネガティブな意味での加速を促す可能性があるため、先住民の環境啓発の同時並行での実施も重要であ

る。

- 先住民に対する環境教育・啓発の強化：ラ・アミスタ保護区を取り囲む緩衝地域ではコスタリカ、パナマ双方で広くコーヒー生産が行われている。コーヒー生産では先住民ノベ・ブグレ族が労働者として欠かせない存在となっており、国境を跨ぎ、保護区内外を移動しながらコーヒー生産に従事している。パイロット活動では小学生を対象とした環境教育・啓発を行ったが、この中、あるいは関係者との会議の中で、ノベ・ブグレ族は狩猟文化を持ち、貴重な動植物の乱獲の原因の一つとなっていることが分かった。また、生活ごみの放置も多く、これらが生態系劣化の一因になっているという意見が多数聞かれた。ノベ・ブグレ族は二カ国のコーヒー産業にとって代替不可能な労働力となっていることから、同族に対する環境教育・啓発の強化が推奨される。ノベ・ブグレ族はパナマ国内に広大な自治区を有し、エネルギー依存の現代社会とはことなる伝統的な生活を続けている。この区や生活スタイルが生態系保全に貢献している側面も勘案すると、教育・啓発は重要度を増す。言語も含め異なる文化を有することから、教育・啓発の実施では、この言語の活用や同族出身者の採用も重視すべきである。
- ユネスコ Biosphere Reserve (BR) の二国間化による非保護区保全の強化：ラ・アミスタ国際公園（国立保護区）はコスタリカとパナマ共同で世界遺産に登録されている。一方、国際公園を取り囲む緩衝・移行地域を含むユネスコ BR は個々の国での登録となっている。緩衝・移行地域では農業を中心とする生産活動が広く行われており、ここでの過度な農薬利用や火災などは保護区内の生態系に影響を及ぼす。このため、保護区よりも効果・効率的な支援のためには、BR の二国間化が推奨される。二国間のメリットとしては、①政治・行政の興味・優先の確保、②例えば環境教育など保護区と緩衝地域の間での活動の共有、③緩衝・移行地域を支援する機関間の情報共有、意見交換機会の拡大などが挙げられる。閉鎖された環境にある保護区と異なり、緩衝地域には住民、支援側共に多くのアクターが存在し、これらの調整を如何に適切に行うかが保全の鍵となるため、上記は非常に重要である。ラ・アミスタ国際公園の場合、保護区を管理する二国間技術委員会が設置されており、共同での現場活動も行っているなど、二国間自然資源ガバナンスの基礎が構築されているため、他地域と比較し BR 二国間化の実現性は高い。また、各国の MAB 委員会との連携は、法的役割はもちろん活動の効率化、モデルの他地域への波及のために不可欠である。
- BR 緩衝・移行地区の価値の向上：パイロット活動対象集落は BR 緩衝地域に位置しているが、住民からこの価値に関する認識やメリットに関する声は無かった。この価値と価値の利用方法は、実際のアクション（負担）が求められる住民には届かず、行政や専門家に止まっている。付加価値化の手段として有機農業の取り組みも多いが、この活動は BR 緩衝・移行地域外でも取り組めるため、差別化策としては効力が低い。以上より、BR 産品認証制度など、地域そのものに価値を与える活動の導入・普及加速が推奨される。この活動は国単位でも可能であるが、生物の生息地域、地形など自然環境特性から二国間の方が適切というケースも多いと考えられる。事実、コスタリカ側のパイロット活動集落が位置する Coto Brus 市は“Ruta de Agua (ウォーター・ルート)”という観光を通じた地域付加価値化のイニシアチブを進め、異なる観光要素（自然環境）を備えるパナマ側との連携を視野に入れている。
- コミュニティ間情報・意見交換の機会の拡大：パイロット活動では、景観改善（植林）と環境教育でのコミュニティ間協働を計画したが、前者は、共有地もないため、協働のメリットが無い、後者

は、国境を跨いで小学生を移動することに関する教員の反対もあり実現しなかった（個別実施となった）。また協働の予定が無かった養蜂活動を通じて、国毎に異なる衛生管理基準など、協働の壁が確認された。一方で、国境を跨ぐ隣接する地域であっても、例えば、デザインの異なる養蜂箱、異なる有機肥料生産方法など環境・経済活動で異なる技術が見られた。このような技術や工夫の積極的共有は両国住民のより効率的な能力向上に有効である。以上より、コミュニティ間情報・意見交換の機会の拡大を推奨する。2023年3月にパナマ・チリキ大学の主導でジャガーをメインテーマにしたコミュニティ間イベントがパナマパイロットコミュニティで開催された。ここではジャガーの生態系に関する環境教育と合わせ、ダンスなど地域文化、農産品の販売も行われた。単なる情報・意見交換は住民の参加インセンティブを高めるには不十分と思われるため、年に一回等、開催頻度は低くてもこのような総合イベントがより効果的と考えられる。

- 生産者組織の支援強化：ラ・アミスタのパイロットコミュニティには、コミュニティ単位で共有している自然資源が明確に存在しなかったため、支援対象としてコーヒー生産者と養蜂生産者グループを選定した。生産者組織は、所得獲得という目的、同様の自然資源を利用しているという、目的と方法の双方で意識を共有しているため、支援対象として推奨される。
- 緩衝・移行地域を支援する機関の調整組織の強化：上記、「ユネスコ Biosfera Reserve (BR) の二国間化による非保護区保全の強化」で記述したとおり、緩衝地域には住民、支援側共に多くのアクターが存在し、これらの調整を如何に適切に行うかが保全の鍵となる。この実現には調整機関が必要である。コスタリカ側には農業省傘下に COSELES という地域組織間の調整を担う委員会が設置されている。パイロット活動でも、COSELES が、参加住民の選定、農業省や衛生局、国家コーヒー協会などとの調整機能を果たした。以上より、特に非保護区の保全に係る支援の効率的実施には地域調整機関の設置が推奨される。

<環境に配慮した経済活動に関する教訓と提言>

- コーヒー、養蜂、景観改善（植林）活動の一体化：本パイロットプロジェクトでは、①主要生計手段であるコーヒー生産、②生計手段であり樹木の受粉促進など生態系改善にも重要な養蜂、③コーヒーの日陰樹や蜂の餌にも利用可能で、生態系改善にも寄与する植樹を組み合わせた。このような、生計向上と生態系保全の組み合わせは、住民の生態系保全インセンティブを高めるために不可欠である。

<住民参加や支援方法に関する教訓と提言>

- コミュニティの社会経済特性を考慮した支援方法の設定：ラ・アミスタのパイロットプロジェクト対象コミュニティは、他生態系の対象コミュニティと比較し、経済水準が高く、住民個々の生活スタイルが多様化している。このため、プロジェクト活動に充てられる時間は、例えば、「週末のみ」、「月に数回」など制約された。この対応として個別指導を増やすなどした。技術指導方法はこのような社会経済特性を十分に配慮して設定する必要がある。
- ローカルリソースの最大有効活用（技術者）：本パイロットプロジェクトでは、可能な限り現地の政府機関の技術者を活用した。上記のとおり、コスタリカではコスタリカコーヒー協会（ICAFE）、パナマでは農牧開発省（MIDA）などである。プロジェクトからの資材と最低限の食事のみ提供、技術者の日当、交通費、ガソリンなどの支援はしなかったが、問題なく技術指導が実施された。この

形態は活動の効率性を高めるものである。また、これら要員は、プロジェクト完了後も現地で活躍し続けることから、活動の継続性と持続性を高めることができる。環境や農業セクターは生産あるいは成長サイクルが長く、かつ、干ばつなど自然環境の影響を直接受けることから、技術の導入や改良に長い時間を要する。このため、ローカルリソースの活用による支援継続性や持続性の確保は尚更重要である。難点は異なる機関間の調整であるが、これについては、上記のとおり、COSELESのような調整組織の設置が有効である。

- **WhatsApp** グループなどデジタル技術の有効活用：本パイロットプロジェクトでは、参加住民との研修開催日時の連絡手段として **WhatsApp** グループの使用を開始した。結果的に、**WhatsApp** グループは、研修開催日時の連絡にとどまらず技術指導にも利用された。特にコーヒー栽培と養蜂の技術について、メッセージ、画像と動画を多用し、非常に活発な技術指導・質疑応答がなされた。このように、デジタルツールは細やかな指導を手軽に実現するものである。また、より関係者の取り込みも可能にするものであり、今後の支援での積極的な活用が推奨される。

パイロットプロジェクト報告書（モンテクリスティ）

1. 生態系概要

<名称>

モンテクリスティ（Montecristi）

<国・地域>

ドミニカ共和国モンテクリスティ、ラグーナ・サラディージャ野生生物保護区

<登録状況>

ドミニカ共和国、環境天然資源省（Ministerio de Medio Ambiente y Recursos Naturales：MMARN）は、モンテクリスティ州の面積の24.25%に相当する45,295 haを、保護地域として指定している。うち、パイロットプロジェクト対象である Carbonera コミュニティの一部は、ラグーナ・サラディージャ野生生物保護区に含まれている。

登録状況

名称	種類	登録・制定年	面積	国際条約登録状況
ラグーナ・サラディージャ野生生物保護区（Refugio de Vida Silvestre Laguna Saladilla）	野生生物保護区（Refugio de Vida Silvestre）	2004年	3,111 ha	ラムサール条約湿地「ロス・ウメダレス・デ・モンテクリスティ・イ・ラ・リニア・ノロエステ（Los Humedales de Montecristi y la Línea Noroeste）」（2022年） * ラグーナ・サラディージャ野生生物保護区と近隣の5つの保護区全域を含む。

出典：プロジェクトチーム取り纏め。

<自然特性>

モンテクリスティは、ドミニカ共和国北西部に位置し、半乾燥気候帯に属している。ラグーナ・サラディージャ野生生物保護区は、半乾燥低木林（30%）、湿地・淡水湖（24%）の他、農牧地等（46%）で構成されている。本保護区の中心に位置するサラディージャ湖は、ハイチとの国境を流れるマサクレ川の流域に位置し、渡り鳥の生息地であり、地域住民による農業や畜産などの経済活動の水源でもある。サラディージャ湖での漁業や湖周辺での農業や畜産業は正式に認められているが、これら経済活動やこのための資源利用にかかる管理が不十分なため、湖の水量の減少や水質の悪化が問題となっている。

<社会経済特性>

モンテクリスティ州ペピージョサルセド（マンサニージョ）市 Carbonera 区の人口は、約1,217人（2010年）、主要経済活動は農業（米、キャッサバ、バナナ等）、畜産業（ヤギ、牛、羊）、漁業、商業である。

<その他>

ドミニカ共和国とハイチの国境には4つの正式な出入国口が設置されている。モンテクリスティの南に位置するダハボン国境検問所は特に人の往来が多い。国境は軍によって監視されているが、不法移民や密輸入は少なくない。また同じくハイチとの国境近くに位置するマンサニージョ湾周辺の場合、国境フェンスも無く、両国漁業者が自由に往来できる状態にある。ドミニカ共和国には約66万人（2012年）

のハイチ人が移住し、同国人口の約 6%を占めている。2021 年 3 月、アビナデル大統領は、ハイチとの間に移民増加の阻止を目的とした国境フェンスを建設すると発表した。現在、フェンスの建設が進められている。また、ハイチは、国境を流れるマサクレ川への農業用水路の建設を開始、これはサラディージャ湖に流れ込む水量を減少させる可能性がある。このため、アビナデル大統領は、建設中止を求めると共に、2023 年 9 月 15 日にはハイチとの空路、海路、陸路の閉鎖を命じた。その後、大統領は措置の緩和を発表したものの、同保護区の水資源を争う状況は、今後も続くことがほぼ確実である。

<ガバナンスメカニズムの概要>

○名称

ラグーナ・サラディージャ野生生物保護区 (Refugio de Vida Silvestre Laguna Saladilla)

○関連法規、戦略

ドミニカ共和国では、2006 年に国家保護地域システムの効果的な管理のための政策が採択された。環境・自然資源省は、保護地域の共同管理政策の特定の枠組みを作成した。その枠組みの共同管理規則は「環境および自然資源に関する一般法 (法律 64-00)」、ならびに「保護地域に関する区域法 202-04 番」に基づいている。保護区管理のための関連法規と、準拠するガイドラインを以下に記載する。

- 環境および自然資源に関する一般法 (Lay 64-00)
- 保護地域に関する区域法 (Lay 202-04)
- 保護地域の緩衝地帯に関する大統領令 (No.571-09)
- 国家保護地域システムの効果的な管理のための政策 (2007 年)
- 保護地域共同管理規則 (2015 年)
- ラグーナ・サラディージャ野生生物保護区の管理計画 2014-2019 (2014 年)

○関連組織

ドミニカ共和国環境天然自然省 (MMARN) の保護区・生物多様性局 (Viceministerio Áreas Protegidas y Biodiversidad) は、生物多様性と保護地域の持続的利用のための規制や手順の作成と適用、野生動植物資源の開発促進などを担当している。ラグーナ・サラディージャ野生生物保護区は、モンテクリスティ州支所 (Oficina Provincial del Monte Cristi) の管轄下にある。この支所は、同州内のエル・モロ国立公園 (Parque Nacional el Morro)、カヨス・シエテ・エルマノス野生生物保護区 (Refugio de Vida Silvestre Cayos Siete Hermanos)、マングローブ・エステロ・バルサ国立公園 (Parque Nacional Manglares Estero Balsa) などを管轄下に置いている。同支所には、事務所職員と現場のレンジャー含めて、約 70 名の職員が従事している。ラグーナ・サラディージャ野生生物保護区には、現地管理事務所が 1 か所設置されている。約 10 名のレンジャーが、シフト制でラグーナ・サラディージャ野生生物保護区のパトロールにあたっている。

○その他 (考察、補足)

ラグーナ・サラディージャ野生生物保護区は 1983 年に保護区として指定された。しかし、それ以前の 1950 年代から農業や内水面漁業が営まれていたため、現在でもこれら経済活動は保護区内で広く営まれている。1958 年、当時のトルヒージョ政権大統領は、国境地域ドミニカ共和国化政策として各地に農民を移住させた。外国人移民も推奨し、第 2 次大戦後に行われた日本人のドミニカ共和国への移民もこの

政策の一環として実施された。保護区に指定される以前から、ドミニカ農業研究所（Instituto Agrario Dominicano : IAD）により、サラディージャ湖や Carbonera 区を含む地域のを農地集落（管理番号：AC-081）と指定し、現在は、705ha の用地に、200 世帯以上が住んでいる。IAD の AC-081 担当者によると、IAD 農地と保護区が重なっている例は他に無いとのことであり、自然資源管理の複雑性を高めている。環境天然資源省のデータによると、1996 年と 2012 年の間に湖の面積が 20ha ほど減少し、代わりに水田や放牧地の面積が増えている。ラグーナ・サラディージャ野生生物保護区は、更に、複数の自治区に跨っていることから、持続的な湖の自然資源の利用、ひいては周辺住民の生活維持には、関係者間の調整機能の強化が、必須である。

活動写真



ラグーナ・サラディージャ湖。



ラグーナ・サラディージャ湖現地管理事務所。

< 出典 >

- Plan de Manejo Refugio de Vida Silvestre de Laguna Saladilla 2014-2019 (GEF-UNDP—MIMARENA、2014)
- Censo Nacional de Población y Vivienda (ONE、2010)

2. パイロットプロジェクト（コミュニティレベル・ドミニカ共和国）

<名前>

Carbonera コミュニティにおける環境に配慮した農業・畜産業・漁業の推進と、野生生物保護区管理のためのガバナンス能力の強化

<背景>

ドミニカ共和国の北西部に位置するモンテクリスティ州は、州面積の約 25%が保護地域に指定されている自然豊かな地域である。本パイロットプロジェクトの対象である **Carbonera** コミュニティでは、農業、畜産業、漁業が広く営まれている。この一部は、ラグーナ・サラディージャ野生生物保護区（Refugio Vida Silvestre Laguna Saladilla）に位置する。区内での生産活動や自然資源の利用は正式に認められており、淡水湖では内水面漁業が行われ、周辺ではここからの水を利用した作物栽培や畜産が行われている。これらは **Carbonera** コミュニティ住民の主要所得源である。しかし、生産活動が無管理状態にあり、例えば、過剰漁獲に伴う漁業資源の減少や外来種の増加など、自然資源の劣化が進んでいる。このような状況下、環境天然資源省は、UNDP-GEF からの支援を受けて、2014 年に同保護区の管理計画（2014-2019 年）を策定した。しかしながら、省内での周知や実施体制不足により、この計画に示されている委員会設立などが進んでいない。そのために、保護区の資源管理が、十分に行われていない。本パイロットプロジェクトでは、同保護区の管理計画に基づいて、保護区管理のための委員会活動の機能強化と、保護区を利用する **Carbonera** コミュニティ住民の啓発を通じた、自然資源の持続的利用にかかるガバナンス体制の強化を目指した。

<対象コミュニティ>

本パイロットプロジェクトは、モンテクリスティ州ペピージョサルセド市 **Carbonera** コミュニティを対象とする。

<受益者>

Carbonera コミュニティの漁業組合約 60 名、農業組合約 25 名、畜産業組合約 35 名

<実施期間>

2023 年 3 月～2024 年 1 月

<目的と成果>

○目的

ラグーナ・サラディージャ野生生物保護区の生態系サービス管理能力の強化と持続可能な利用の促進

○成果

成果 1：自然資源を利用する地域住民の理解を深め、環境に配慮した生産活動の促進

成果 2：コミュニティにおける保護区の資源管理能力の強化

成果 3：越境生態系における保護区の資源管理能力の強化

<実施方法>

本パイロットプロジェクトは現地業者に委託して実施した。

<活動実績>

活動実績

日	活動内容	参加者		
		女性	男性	合計
2023年4月13日	プロジェクトへの概要説明	-	5	5
2023年4月19日	プロジェクトへの概要説明	2	10	12
2023年4月24日	運営委員会の開催準備	-	6	6
2023年5月3日	運営委員会の開催準備	1	5	6
2023年5月16日	運営委員会の開催	5	8	13
2023年5月17日	農業組合への活動現状調査 (Evaluación Rural Rápida: ERR)	-	2	2
2023年5月19日	農業組合への ERR	-	2	2
2023年5月22日	農業組合への ERR	1	13	14
2023年5月26日	農業組合への ERR	-	4	4
2023年5月29日	漁業組合への ERR	2	17	19
2023年5月29日	畜産業組合への ERR	-	2	2
2023年5月30日	畜産業組合への ERR	1	8	9
2023年6月1日	畜産業組合への ERR	-	5	5
2023年6月12日	運営委員会と ERR 調査結果の共有	1	6	7
2023年7月30日	調査結果共有ワークショップ開催準備	-	5	5
2023年8月2日	調査結果共有ワークショップ開催準備	1	5	6
2023年8月3日	調査結果共有ワークショップの開催	4	25	29
2023年9月9日	農業組合との協議	-	5	5
2023年9月13日	ドミニカ農業研究所 (Instituto Agrario Dominicano: IAD)、国立水資源研究所 (Instituto Nacional de Recursos Hidráulicos: INDRHI) との協議と視察	-	3	3
2023年9月13日	農業組合と ERR 調査結果の共有	1	23	24
2023年9月20日	湖の魚類個体数調査	-	3	3
2023年9月20日	畜産業組合との ERR 調査結果の共有	-	15	15
2023年9月22日	漁業組合との ERR 調査結果の共有	2	29	31
2023年10月13日	漁業組合総会の準備	-	7	7
2023年10月28日	漁業組合の総会準備・法人化支援	2	27	29
2023年11月1日	湖の水質調査	-	3	3
2023年11月7日	INDRHI の現場立ち合い、会議	-	3	3
2023年11月7日	灌漑委員会の会議	-	6	6
2023年11月7日	漁業組合の総会準備・法人化支援	-	8	8
2023年11月12日	漁業組合の総会・法人化支援	2	46	48
2023年11月16日	灌漑組合設立準備	-	8	8
2023年11月17日	漁業組合法人化支援	-	7	7
2023年11月20日	看板設置案の許可 (環境天然資源省エコツーリズム局)	-	-	-
2023年11月22日	灌漑組合運営委員会の設立	1	11	12
2023年11月29日	灌漑組合の設立と視察	-	19	19
2023年12月2日	灌漑組合の設立と視察	-	20	20
2023年12月8日	漁業組合法人化準備	-	17	17
2023年12月9日	灌漑組合の運営委員会の開催	-	7	7
2023年12月11日	看板設置の許可 (環境天然資源省生物多様性局)	-	-	-
2023年12月14日	保護区内7か所の看板設置	-	4	4
2023年12月22日	灌漑用水門の設置準備	-	9	9
2024年1月14日	地域環境教育	4	43	47
2024年1月26日	環境天然資源省への保護区現状評価 (METT) の実施	-	2	2
2024年1月26日	モニタリング委員会の開催	1	11	12

日	活動内容	参加者		
		女性	男性	合計
2024年1月26日	年間活動計画（Plan Operativo Annual: POA）の作成	1	11	12
		合計 (のべ参加人数)		537

出典：プロジェクトチーム取り纏め。

<結果と評価>

○活動結果と成果の達成度

本パイロットプロジェクトの活動結果と成果達成度を以下に示す。

成果 1

成果 1「自然資源を利用する地域住民の理解を深め、環境に配慮した生産活動の促進」に係る活動を計画通り実施した。活動を通じて、Carbonera コミュニティ住民は、生態系に配慮した生産活動に関する理解を促進して、同コミュニティの組合組織の能力を強化した。以上より、成果 1 は概ね達成したと評価する。主な活動実績と評価のポイントを以下に示す。

- ラグーナ・サラディージャ野生生物保護区に関する環境教育プログラムは、これまで Carbonera コミュニティにおいて実施されてこなかった。本パイロットプロジェクトでは、コミュニティ内の小学校において 10 代から 20 代の若者に対して、保護区の重要性や経済活動との関係性、環境天然資源省の取り組みについての環境教育セミナーを実施した。環境教育の効果の拡大と保護区価値の向上を目的に環境保全に係る普及啓発用看板を設置した。それらは、訪問者や住民の目に留まり易いよう、見張り小屋、灌漑組合が利用する電動ポンプや漁業組合が利用する船着き場の傍に設置した。これらにより、将来を担う子供の生態系保全に対する興味の増加が期待される。
- 本パイロットプロジェクトでは、農業組合と畜産業組合に対し、資料配布などを通じ、灌漑組合設立や効率的水管理と利用、環境保全型生産技術に関する啓発を行った。普及啓発活動で取り扱うテーマは、後述の運営委員会、ERR 調査、ワークショップ、モニタリング委員会の準備会議を通じて、選定した。研修に参加した組合メンバーの多くは、ラグーナ・サラディージャ野生生物保護区の現状を理解し、環境配慮型生産活動が重要であると評価した。この啓発は意識変革の最初の第一歩であるが、長期的にはここでの知識を活用した、湖の生態系の維持・回復への貢献、例えば化学肥料使用量減（コスト減）による所得向上が期待される。
- 環境天然資源省、海洋沿岸局の協力を得て、保護区における漁業活動と外来種の利用に関する確認をした結果、漁業種滅の主因は漁業ではなく外来種による侵略であることが明らかになった。今後、環境天然資源省は漁業組合と協力し、外来種駆除を進める。さらに、現在は市場価値の無いヨロイナマズ類の利用価値を高められれば、生態系回復と漁業者の所得向上の双方の改善が期待される。
- 活動の自立発展性という観点において、漁業組合は、法人化に伴って資金管理等の組織運営能力が向上した。この法人化により、組合自身で加工機材等を購入することができるようになった。しかしながら、加工した後の食品の商品化や、販売やマーケティングに関する知識や経験は持ち合わせていないため、今後サポートが必要であると考ええる。一方、灌漑組合は、INDRHI の灌漑システムを使っていることから、INDRHI からの定期的なモニタリングとサポートが行われている。本活動の中で、設立強化した、組合組織は、活動が継続できる体制であると考えられる。

成果2

成果2「コミュニティにおける保護区の資源管理能力の強化」に係る活動を計画通り実施した。コミュニティ委員会の設立活動は、Carbonera コミュニティにおける資源管理能力の強化を促進した。以上より成果2は概ね達成したと評価する。主な活動実績と評価を以下に示す。

- ラグーナ・サラディージャ野生生物保護区の管理計画に基づき、保護区保全コミュニティ委員会（Comités Comunitarios de Defensa del Refugio）を設立した（以下、コミュニティ委員会）。コミュニティ委員会の目的は、後述のモニタリング委員会との情報共有である。コミュニティ委員会は、地元の若者や学校関係者、教会等のメンバーで構成される。特に、本保護区のように経済活動が広く行われている生態系では、生態系サービスの保全には多岐に渡るステークホルダー間の調整が必須である。本委員会がこの役割を担うことが期待される。なお、委員会メンバー候補へのインタビューでは、「委員会設立プロセスの中でも、資源管理機能が強化されたと感じる」との回答があった。
- なお、他の保護区では、コミュニティ委員会メンバーに観光関連 NGO が含むなど、住民の委員会参加意欲を促す工夫がなされている。Carbonera ではサービス業が未発達であるためこの方法は採用できないが、別の方法で住民の委員会参加モチベーションを保ち続ける工夫が必要である。

成果3

成果3「越境生態系における保護区の資源管理能力の強化」にかかるに係る活動を計画どおり実施した。活動では、複数のコミュニティを跨ぐ自然資源モニタリング委員会を設立するなど、越境生態系の資源管理能力を強化した。そのため成果3は概ね達成したと評価した。主な活動実績と評価を以下に示す。

- 本パイロットプロジェクトでは、ラグーナ・サラディージャ野生生物保護区の管理計画に基づいてモニタリング委員会（Comité de Seguimiento）を設立した。そしてモニタリング委員会では、次年度の委員会年間運営計画を策定した。委員会の目的は、保護区の保全と利用に関わる関係者間の意見交換の場の提供、そして環境天然資源省と利用者間のコミュニケーションの円滑化である。委員会メンバーは、漁業組合、農業組合、畜産業組合、INDRHI、IAD、ドミニカ共和国水産養殖協議会（Consejo Dominicano De Pesca Y Acuicultura: CODOPESCA）、Carbonera 村役場、ペピージョサルセド市役所等、計15の組織の代表者で構成されている。上記、成果2のコミュニティ委員会と同様に、モニタリング委員会も、保護区の保全と利用に関わる多様なステークホルダー間の調整機関として機能することが期待される。モニタリング委員会メンバーに対し、活動についての意見を確認したところ、「モニタリング委員会の設立と計画策定活動を通じ、管理機能が強化されたと感じている」との返答があった。今後、環境天然資源省州事務所の年間活動計画に委員会開催の活動を含め、活動予算を確保することができれば、委員会活動の持続性も保たれると考えられる。本活動で作成したモニタリング委員会の年間運営計画の円滑な実行には、環境天然資源省の関与は不可欠であると考えられる。
- モニタリング委員会設立準備としてラグーナ・サラディージャ野生生物保護区の現状分析に関するワークショップを開催した。この目的は、湖の魚類調査と水質調査、組合員への活動状況調査、それらの結果を共有である。これにより、委員会メンバー全員で保護区の現状や課題の認識を合わせることができた。委員会の設立活動を通じて、湖に関する問題意識が高まり、委員会活動の円滑化に貢献したと考えられる。

活動写真



ラグーナ・サラディージャ湖の現況に関するインタビュー調査。



ラグーナ・サラディージャ湖での魚類個体数調査。



ラグーナ・サラディージャ湖の水質調査。



ラグーナ・サラディージャ湖の現況に関するディスカッション。



漁業組合への資源管理能力強化にかかるワークショップ。



保護区境界を示す看板の設置。

3. 教訓と提言

<越境生態系におけるガバナンスメカニズムについて>

- 生態系の価値、重要性を示すモニタリングデータの収集と活用、啓発活動の強化： 効率的な保護区保全活動の実現には、活動の基礎となる生物多様性／自然資源の基礎となるモニタリングデータが不可欠である。現状では、これらデータは不足しており、保全活動の計画策定と実施の障害になっている。そのため、早期のモニタリング体制と情報共有体制の整備が必要である。特に、周辺コミュニティからの要望が高い、湖の水質や水量、魚類の個体数など水資源に直結するデータについては優先的にデータを取得し、公開すべきである。水質と水量、魚類個体数調査共に、年2回（雨季乾季各1回）の実施が推奨される。これらの調査データは、モニタリング委員会での管理計画策定や普及啓発教材作成にも有用である。
- 異なる利害関係者（水利用者）の連帯： 保護区周辺コミュニティの農業組合、畜産業組合、漁業組合は、保護区の水資源を共有している。しかし、利用者の多様化や利用量の増加に伴い、水資源をめぐる摩擦が組合間で生じている。この状況を放置すれば、効率的な保護区保全活動の実施が困難となる。これら利害関係者の連帯感を高めるには、問題意識の共有が不可欠であり、ここでも上記のモニタリングデータが不可欠である。データ取得を関係者協働で行うことも、問題、共有意識の醸成に有効と考えられる。
- 自然資源管理ルールの明確化、異なる組合間での共有： ラグーナ・サラディージャ野生生物保護区では、漁業や灌漑用水利用にかかるルールが未整備である。この状況では、違法な行動の取り締まりも含め、保護区の自然資源の適切な管理は不可能である。このため、漁業、灌漑など各セクター共有のルールの設定は急務である。また、セクター間の透明性を高めるルールの実効性を高めるため、セクター間での規則やルールの共有が重要であると考えられる。
- 野生生物保護区の価値の向上： ラグーナ・サラディージャ野生生物保護区周辺に住む多くの住民は、野生生物保護区の存在やその価値を十分に理解していない。そのため、保護区の存在や価値をより多くの人に伝えることも優先課題である。現実的で取り組みやすい対策としては、本パイロットプロジェクトでも取り組んだ保護区の所在を示す看板の設置、近隣コミュニティの学校教育に生態系保全に関するプログラムを組み込みなどが考えられる。
- 二国間生態系保護における政治・社会・経済状況の違いの考慮： ドミニカ共和国とハイチの国境を流れるマサクレ川は、両国にとって重要な水資源であるが、水資源利用に関する取り決めが無く、これが二国間の関係を悪化させている。ドミニカ共和国とハイチの国境には、越境生態系を保全する国際的な枠組みである越境生物圏保護区（TBR）が存在する。しかし、両国の社会経済水準の違い、ハイチの政情悪化などで、二国共同管理は機能していない状況である。以上より、現実的な二国間管理体制の構築には、政治、経済、社会の違いを十分に考慮する必要がある。
- <環境に配慮した経済活動について>
- 未利用水産資源（ヨロイナマズ）の利用に関する支援： サラディージャ湖には、外来種のヨロイナマズが増殖し、在来種や商業種の脅威となっている。ヨロイナマズは同国市場では価値が無く、未利用のまま湖周辺に捨てられている状況である。一方、他国ではヨロイナマズの商業利用が進んでいる。このため、鎧ナマズの利用と捕獲促進による在来種などへの脅威の軽減、地域住民の生計

向上を目的に、食用や、ペットの餌としての利用についての検討、試行も重要である。

- 農業用水利用体制の強化： ラグーナ・サラディージャ野生生物保護区周辺の農地や牧草地では、湖からポンプでくみ上げた水を利用している。水利用計画の不足、水路などインフラの老朽化などから、畑作でも稲作と同水準の量の水を利用している。このように水利用が非効率である。農業や畜産業は、地域最大の水利用者であることから、灌漑システムの管理者である INDRHI も取り込み、インフラ改善、水利用計画策定などを進め水利用を効率化する必要がある。

<住民参加、支援方法に関する教訓と提言>

- 環境天然資源省との連携強化： パイロットプロジェクトは、環境天然資源省管轄の保護区内および周辺で行われた。しかし、対象セクターは、他省が担当する、農業、畜産、漁業であったこともあり、環境天然資源省の活動参加は限定的であった。上記の繰り返しになるが、特に経済活動が盛んに行われている地域での生物多様性保全には、多くのステークホルダーとの連携が必須である。このような状況下、職務や専門性を超え、省庁横断的連携を促す実施体制あるいは調整組織の整備が重要である。
- 中長期的組織支援： 本パイロットプロジェクトは組織能力の強化を目的に実施した。組織は自然資源管理ガバナンスの根幹をなす重要なものであり、この強化には一般的に細くとも長い時間を要する。これは、短期で多額の予算の措置が不要という長所でもあるため、環境天然資源省が本パイロットプロジェクトで設置したモニタリング委員会の開催予算を確保することが期待される。

別添 5 : 越境生態系ガバナンスメカニズムと OECM 制度・候補の事例

(日本語)

SICA 地域における生物多様性の統合的管理と保全に関する
能力強化プロジェクト

越境生態系ガバナンスメカニズムと
OECM 制度・候補の事例

2024 年 2 月

プロジェクトチーム

目次

越境ガバナンス事例（ベリーズ&メキシコ）	1
越境ガバナンス事例（エクアドル&ペルー）	4
越境ガバナンス事例（エルサルバドル&ホンジュラス）	11
越境ガバナンス事例（グアテマラ&ホンジュラス）	16
越境ガバナンス事例（コスタリカ、パナマ、コロンビア、エクアドル）	21
越境ガバナンス事例（ホンジュラス、ニカラグア）	28
越境ガバナンス事例（ドミニカ共和国、ハイチ）	33
OECD 制度事例（日本）	40
OECD 制度事例（モロッコ）	42
OECD 制度事例（フィリピン）	44
OECD 制度事例（カナダ）	47
OECD 制度事例（コロンビア）	51
OECD 候補（ニカラグア）	55
OECD 候補（エルサルバドル）	59
OECD 候補（コスタリカ）	61
OECD 候補（パナマ）	65
OECD 候補（ドミニカ共和国）	70
補足：生物圏保護区制度の概要	72

略 語 表

略語	正式名称	和名
ADESCO	Asociaciones de Desarrollo Comunal (西)	地域開発協会 (エルサルバドル)
ADSDPP	Ancestral Domain Sustainable Development and Protection Plan (英)	先祖代々の領地の持続可能な開発と保護 計画 (フィリピン)
AECID	Spanish Agency for International Development Cooperation (英)	スペイン国際開発協力庁
AFE	Administración Forestal del Estado (西)	コスタリカ国家林業管理局
ALIDES	Alianza para el Desarrollo Sostenible de Centroamérica (西)	持続可能な発展のための中米同盟
ANATI	Autoridad Nacional de Administración de Tierras (西)	パナマ国家土地管理局
ARAP	Autoridad de los Recursos Acuáticos (西)	パナマ水資源局
ARCAS	Asociación de Rescate y Conservación de Vida Silvestre (西)	グアテマラ野生動物保護協会
BCB	Biodiversity conservation benefits (英)	生物多様性保全効果
BCH/CZ	Bahía de Chetumal-Corozal (西)	チェトゥマル-コロサル湾
BMU	Federal Ministry for the Environment, Nature Conservation and Nuclear Safety (英)	ドイツ連邦環境・自然保護・原子力安全 省
BR	Biosphere Reserves (英)	生物圏保護区 (生物圏保存地域)
CAF	Development Bank of Latin America (英)	ラテンアメリカ開発銀行
CBD	Convention on Biological Diversity (英)	生物多様性条約
CBM	Corredor Biológico Mesoamericano (西)	メソアメリカ生物回廊
CBS	Corredor Biológico Sostenible Cuyamel-Omoa Punta de Manabique (西)	クヤメル・オモア プンタ デ マナビケ持 続可能な生物回廊
CBWS	Corozal Bay Wildlife Sanctuary (英)	コロサル湾野生生物保護区
CCACK	Abiseo-Cóndor-Kutukú Conservation Corridor (英)	アビセオーコンドルークツク保全回廊
CCAD	Comisión Centroamericana de Ambiente y Desarrollo (西)	中米環境開発委員会
CCCF	Consejos Consultivos Comunitarios	地域森林諮問評議

略語	正式名称	和名
	Forestales (西)	
CCFAM	Canadian Council of Fisheries and Aquaculture Ministers (英)	カナダ水産養殖大臣協議会
CDSA	Comité de Desarrollo Socio-Ambiental (西)	社会環境開発委員会 (エルサルバドル)
CI	Conservación Internacional (西)	コンサベーション・インターナショナル (非営利環境団体)
CISP	Comitato Internazionale per lo Sviluppo dei Popoli (伊)	国際民族開発委員会
CMAR	Eastern Tropical Marine Corridor (英)	東部熱帯海洋回廊
CODDEFAGOLF	Comité para la Defensa y Desarrollo de la Flora y Fauna del Golfo de Fonseca (西)	フォンセカ湾の動植物相の保全と発展のための委員会
CONAMAR	Consejo Nacional del Mar (西)	コスタリカ国家海洋委員会
CONAP	Consejo Nacional de Áreas Protegidas (西)	グアテマラ国立保護地域評議会
CPCAD	Canadian Protected and Conserved Areas Database (英)	カナダ保護地域データベース
CSAS	Canadian Science Advisory Secretariat (英)	カナダ科学諮問事務局
CTB	Comité Técnico Binacional (西)	二国間技術委員会
DBBES	Dirección de Bosques, Biodiversidad y Servicios Ecosistémicos (西)	コロンビア森林・生物多様性・生態系サービス局
DFO	Fisheries and Oceans Canada (英)	カナダ漁業海洋省
DIPESCA	Dirección de Normatividad de la Pesca y Acuicultura (西)	グアテマラ水産養殖基準・規制局
DNP	Departamento Nacional de Planeación (西)	コロンビア国家計画庁
EAP	Economically Active Population (英)	経済活動人口
ECC	Estrategias Complementarias de Conservación (西)	補完的保全戦略
ECCC	Environment and Climate Change Canada (英)	カナダ環境・気候変動省
EU	European Union (英)	欧州連合
FDN	Fundacion Defensores de la Naturaleza (西)	自然保護財団
FONAFIFO	Fondo Nacional de Financiamiento Forestal (西)	コスタリカ国家林業資金基金
FUNDER	Foundation for Rural Enterprise Development (英)	ホンジュラス地方企業開発財団

略語	正式名称	和名
GEF	Global Environment Facility (英)	地球環境ファシリティ
GIZ	German Agency for International Cooperation (英)	ドイツ国際協力公社
IAC	International Advisory Committee (英)	国際諮問委員会
IAPA	Integración de áreas protegidas del bioma amazónico (西)	アマゾン生物群保護地域の統合プロジェクト
IBANQROO	Instituto de Biodiversidad y Áreas Naturales Protegidas del Estado de Quintana Roo (西)	キンタナ・ロー州生物多様性自然保護地域研究所
ICC	International Coordinating Council (英)	国際調整理事会
IDB	Inter American Development Bank (英)	米州開発銀行
IDE	International Development Enterprises (iDE Honduras) (英)	国際NPO
IKI	International Climate Initiative (英)	国際気候イニシアチブ
INRENA	Instituto Nacional de Recursos Naturales (西)	ペルー国立天然資源研究所
ISG	International Support Group (英)	国際支援グループ
ITTO	International Tropical Timber Organization (英)	国際熱帯木材機構
IUCN	International Union for Conservation of Nature (英)	国際自然保護連合
KfW	Kreditanstalt für Wiederaufbau (独)	ドイツ復興金融公庫
MAB	Man and the Biosphere (英)	人間と生物圏
MADS	Ministerio de Ambiente y Desarrollo Sostenible (西)	コロンビア環境・持続可能な開発省
MAE	Ministerio del Ambiente, Agua y Transición Ecológica (西)	エクアドル環境・水・生態系移行省
MARENA	Ministerio del Ambiente y los Recursos Naturales (西)	ニカラグア環境・天然資源省
MARN	Ministerio de Ambiente y Recursos Naturales (西)	グアテマラ環境・天然資源省
MDE	Ministry of Environment (英)	ハイチ環境省
MEF	Ministerio de Economía y Finanzas (西)	ペルー経済金融省
MiAmbiente	Ministerio de Ambiente (西)	パナマ環境省
MINAE	Ministerio de Ambiente y Energía (西)	コスタリカ環境エネルギー省
MINAM	Ministerio de Ambiente (西)	ペルー環境省

略語	正式名称	和名
MMARN	Ministerio de Medio Ambiente y Recursos Naturales (西)	ドミニカ共和国環境・自然資源省
NBSAP	National Biodiversity Strategy and Action Plan (英)	生物多様性国家戦略・行動計画
ONF	Oficina Nacional Forestal (西)	コスタリカ国有林野事務所
PAME	Protected Area Management Effectiveness (英)	保護地域管理効果評価
PLAS	Planes Locales de Aprovechamiento Sostenible (西)	持続可能な利用のための地域計画 (エルサルバドル)
PNR	Private Nature Reserve (英)	私立自然保護区
PPA	Private Protected Area (西)	私有保護地域制度
PRRCFI	Philippine Reef and Rainforest Conservation Foundation Inc (英)	フィリピン礁・熱帯雨林保全財団
PSA	Programa de pago por Servicios Ambientales (西)	環境サービスに対する支払いプログラム
RAIN	Rain Foundation (英)	Rain 財団
RESMBCH	Reserva Estatal Santuario del Manatí (西)	マナティー保護区
RGA	Relevant Governing Authority (英)	関係管理当局
RRNP	Red de Reservas Naturales Privadas (西)	パナマ民間自然保護区連合
RSP	Reservas Silvestres Privadas (西)	民間野生保護区 (ニカラグア)
RVSPM	Refugio de Vida Silvestre Punta de Manabique (西)	プンタ・デ・マナビケ野生生物保護区
SACD	Sarteneja Alliance for Conservation and Development (英)	サルテネハ保全開発同盟
SAPCO	Subsistema de Áreas Protegidas Cuyamel-Omoa (西)	クヤメル・オモア保護地域サブシステム
SDC	Swiss Agency for Development and Cooperation (英)	スイス開発協力庁
SEMA	Secretaría de Ecología y Medio Ambiente (西)	エコロジー・環境事務局
SENACYT	Secretaría Nacional de Ciencia, Tecnología e Innovación (西)	パナマ国家科学技術イノベーション事務局
SEPLADES	Secretaría Nacional de Planificación y Desarrollo (西)	エクアドル国家企画開発事務局
SERNA	Secretaría de Recursos Naturales y Ambiente (西)	ホンジュラス天然資源・環境事務局
SIBE	Sites of Biological and Ecological Interest (英)	生物学的・環境的に重要な場所
SINAC	Sistema Nacional de Áreas de	コスタリカ国土保全局

略語	正式名称	和名
SINAP	Conservación (西) Sistema Nacional de Áreas Protegidas (西)	パナマ国土保全局
TBR	Transboundary Biosphere Reserve (英)	越境生物圏保護区
TICCA	Áreas y Territorios Conservados por Pueblos Indígenas y Comunidades Locales (西)	先住民族と地域コミュニティが保護する 地域と領土
TNFD	Taskforce on Nature-related Financial Disclosures (英)	自然関連財務情報開示タスクフォース
UNCLOS	United Nations Convention on the Law of the Sea (英)	国連海洋法条約
UPNN	Unidad Parque Nacional Natural (西)	コロンビア国立自然公園局
USAID	United States Agency for International Development (英)	米国国際開発庁
WNBR	World Network of Biosphere Reserves (英)	生物圏保護区世界ネットワーク
WNICBR	World Network of Island and Coastal Biosphere Reserves (英)	島と沿岸生物圏保護区の世界ネットワー ク

越境ガバナンス事例（ベリーズ&メキシコ）

1. 生態系の概要

1.1. 名称

チェトゥマル-コロサル湾

Bahía de Chetumal-Corozal (BCH/CZ)

1.2. 国名および面積

ベリーズ：72,000 ha

メキシコ：320,101 ha

総面積：392,101 ha



出典：sacdbelize.org

1.3. 生態系（地域）タイプ・登録状況

BCH/CZ の生態系（地域）タイプ・登録状況を下表に示す。

BCH/CZ の生態系（地域）タイプ・登録状況

国名	名称	種類	登録・制定年 (年)	面積 (ha)
ベリーズ	コロサル湾野生生物保護区 (Corozal Bay Wildlife Sanctuary)	野生生物保護区	1998	72,000
メキシコ	マナティー保護区 (Reserva Estatal Santuario del Manatí)	州立保護区	1996	320,101

1.4. 生態系の特性

コロサル湾野生生物保護区 (CBWS)：CBWS は、マナティーやオオメジロザメの生息地であり、多くの鳥の営巣地でもある。

マナティー保護区 (RESMBCH)：RESMBCH には、ジャガー、ティグリロ、イノシシ、オオハシ、ワニなど、300 種以上の動物が生息している。マングローブ、湿地、水路、ラグーン、牧草地など、中低地の森林に 200 種以上の植物が生育している。これらの動植物のほとんどが、保護対象である。

1.5. 社会経済特性

BCH/CZ の社会経済特性を下表に示す。

BCH/CZ の社会経済特性

名称	行政区	人口 (人)	主要経済活動
CBWS	コロサル県 Corozal	52,985	農業（サトウキビ、パパイヤ、タマネギ等）、漁業
RESMBCH	キンタナ・ロー州 Quintana Roo	169,000	観光業、宿泊業、飲食業

2. 生態系ガバナンスメカニズムの概要

2.1. 名称・タイプ

チェトゥマル-コロサル湾姉妹保護区

2.2. 関連法規、戦略

1996年10月、メキシコのチェトゥマル湾は、キンタナ・ロー州の RESMBCH に指定された。マナティーの分布調査の結果、マナティーは、ベリーズのコロサル湾側にも生息していることが確認された。そのためメキシコ政府は、ベリーズ環境省と保護計画の実施について交渉した。その結果、1998年にベリーズとメキシコの二国間協定が結ばれ、CBWSは、越境保護区となった。

2.3. 組織（役割、人員）

CBWS：現地スタッフ（2016年）は、23名（エグゼクティブ・ディレクター1名、自然資源マネージャー1名、教育普及マネージャー1名、レンジャー3名、ボートキャプテン1名、財務責任者1名、管理アシスタント1名、コミュニティ・インターン4名、コミュニティ研究員6名）である。

RESMBCH：RESMBCHは、キンタナ・ロー州生態環境局（SEMA）に属する生物多様性自然保護地域研究所（IBANQROO）が、管理している。人員等の詳細は不明である。

2.4. 関連プロジェクト

BCH/CZで実施されたプロジェクトの概要を下表に示す。

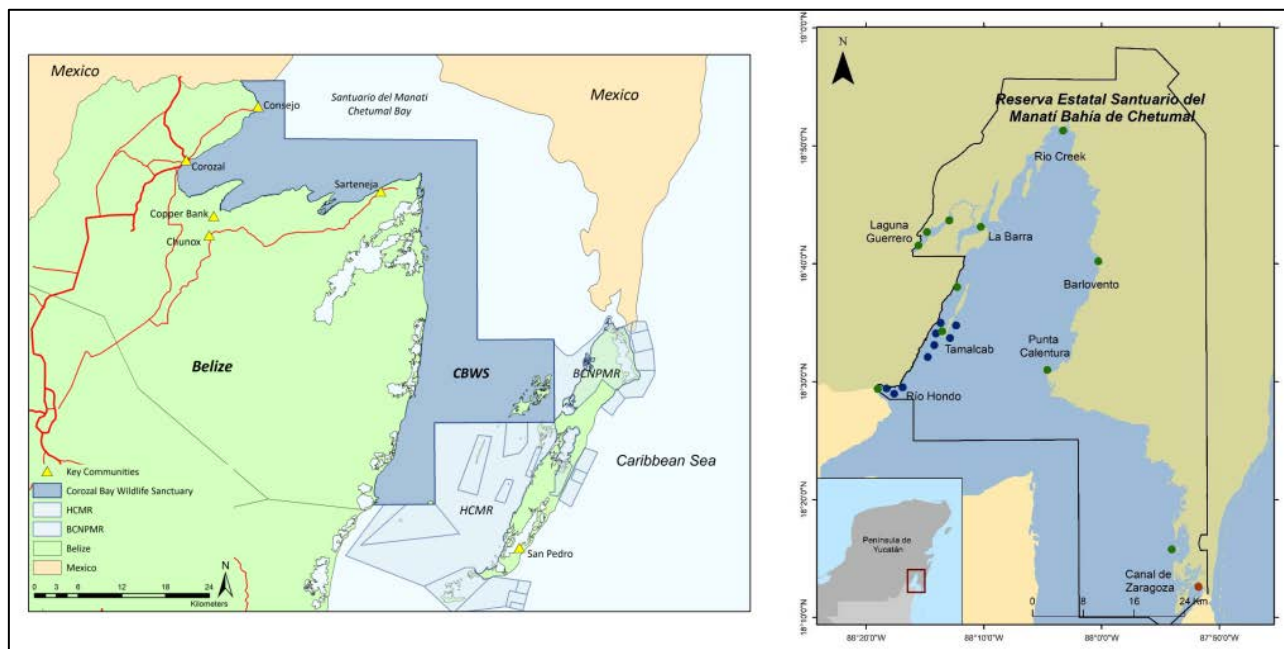
関連プロジェクト概要

名称	実施機関	ドナー機関	プロジェクト予算	実施期間	内容
中米における海洋資源保護プロジェクト PROYECTO DE CONSERVACIÓN DE RECURSOS MARINOS EN CENTROAMÉRICA	CBWS： サルテネハ保全開発同盟（SACD） RESMBCH：生物多様性自然保護地域研究所（IBANQROO）	ドイツ復興金融公庫（KfW）	5,000,000 EUR	2015年-2019年	プロジェクト対象地域の海洋保護区と沿岸保護区を統合し、中期的な資源の利用を確保する。

3. その他

メキシコとベリーズの二国間協定により、BCH/CZ 全域が保護区に指定された。過去にこのような例が無かったために、この二国間の活動は国際的に称賛された。その一方で、RESMBCH側では、土地所有権の変更、森林破壊、地域の分断化、都市インフラストラクチャの増加、都市廃棄物の増加、社会的無関心、二国間の調整不足といった問題が起きている。自然と調和を取りながら持続的開発を促進するために、RESMBCHの管理規則や法律を改正する必要がある。

参考資料



区画図：コロサル湾野生生物保護区（CBWS）（左側）、マナティー保護区（RESMBCH）（右側）

出典：rris.biopama.org（CBWS）、fondosam.org（RESMBCH）

出典

- ・ マナティー保護区マネジメントプラン Reserva-Estatal-Santuario-del-Manatí.pdf (marfund.org)
- ・ 人文科学技術会議（CONAHCYT）<https://conahcyt.mx/cibiogem/index.php/anpl/quintana-roo>
- ・ https://conahcyt.mx/cibiogem/images/cibiogem/sistema_nacional/documentos/ANPL/QRoo/SANT-MANATI.pdf
- ・ SADC (2019) Management Plan Corozal Bay Wildlife Sanctuary (biopama.org)
- ・ SADC HP コロサル湾野生生物保護区 - Sarteneja Alliance for Conservation and Development (SADC) (sacdbelize.org)
- ・ 国家緊急事態管理庁（NEMO）サイト <https://site.nemo.org.bz/district-organizations/corozal/>
- ・ 国立統計地理院（INEGI）サブサイト <https://cuentame.inegi.org.mx/monografias/informacion/qroo/default.aspx?tema=me&e=23>
- ・ 地域開発戦略, 2010, SEMA, (https://fondosam.org/nopublic/library-marfund/Sanctuary/Phase_II/Consultancies_in_the_five_Protected_Areas/Santuario_del_Manati_Consultancies/Estrategia%20de%20Desarrollo%20Comunitario%20RESMBCH.pdf)
- ・ SEGUNDO INFORME TRIMESTRAL 2021, IBANQROO (<https://semaqroo.gob.mx/Informe%20Acciones%20ANP%20Zona%20Sur%20o%20Trimestre.pdf>)
- ・ Proyecto Conservación Recursos Marinos en C. A. (<https://marfund.org/es/conservacion-recursos-marinos/#AnnualWorksPhaseII>)
- ・ Bahía de Chetumal-Corozal, un recurso costero compartido entre México y Belice, Benjamin Morales Vela, UACAM (<http://etzna.uacam.mx/epomex/pdf/mancos/cap38.pdf>)

越境ガバナンス事例（エクアドル&ペルー）

1. 生態系の概要

1.1. 名称

アビセオ-コンドル-クツク保全回廊平和公園（CCACK）

Abiseo-Cóndor-Kutukú Conservation Corridor Peace Park

1.2. 国名および面積

エクアドル：951,179 ha

ペルー：2,605,590 ha

総面積：3,556,769 ha

1.3. 生態系（地域）タイプ

CCACK の生態系（地域）タイプを下表に示す。



出典：wilsoncenter.org

CCACK の生態系（地域）タイプ

名称	登録・制定年 (年)	面積 (ha)	登録状況 (国際条約を含む)
エクアドル			
サンガイ国立公園 Parque Nacional Sangay	1975 1983	517,765 271,925	国立公園 ユネスコ世界遺産
ポドカルプス国立公園 Parque Nacional Podocarpus	1982 2007	146,280	国立公園 ユネスコ MAB 生物圏保護区 (ジャクリ国立公園とプラテアード山生物保護区とともに、2007 年からポドカルプス-エル・コンドル生物圏保護区の一部となった)
エル・キミ生物保護区 Reserva Biológica El Quimi	2006	9,071	生物保護区
エル・サルサ野生生物保護区 Refugio de Vida Silvestre El Zarza	2006	3,643	野生生物保護区
ナンガリツツァ川上流域保護林 Bosque Protector Cuenca Alta del Río Nangaritza	-	130,420	保護林
エル・コンドル保護林 Bosque Protector El Cóndor	-	18,000	保護林
コラソン・デ・オロ保護林 Bosque Protector Corazón de Oro	2000	53,000	保護林
コランゴボ-ジャクリ保護林 Bosque Protector Colambo-Yacuri	2001	73,000	保護林
ペルー			
アビセオ川国立公園 Parque Nacional Río Abiseo	1983 1990	274,520	国立公園 ユネスコ世界遺産
アルト・マジヨ保護林 Bosque de Protección Alto Mayo	1987	182,000	保護林

名称	登録・制定年 (年)	面積 (ha)	登録状況 (国際条約を含む)
アスル山脈国立公園 Parque Nacional Cordillera Azul	2001	1,353,191	国立公園
ラ・エスカレラ山脈地域保全区 Área de Conservación Regional Cordillera La Escalera	2005	149,870	地域保全区
イチグカット・ムジャ国立公園-コンドル山脈 Parque Nacional Ichigkat-Muja - Cordillera del Cóndor	2007	88,477	国立公園
コラン山脈保護地域 Zona Reservada Cordillera de Colán	2002	64,115	保護地域
トゥンタナイン共同保護区 Reserva Comunal Tuntanain	2007	94,968	共同保護区
サンティアゴ-コマイナ保護地域 Zona Reservada Santiago-Comaina	1999	398,449	保護地域

出典：プロジェクトチーム

1.4. 生態系の特性

CCACK はエクアドルとペルーの国境に位置している。この地域は、湿潤熱帯気候に区分される。CCACK はペルー側からのアクセスが悪い。ペルー側では絶滅の危機に瀕している種が、多く存在している。たとえば、クモザル (*Atelesbelzebuth belzebuth*) の現地亜種、ハマダラインコ (*Touit stictoptera*)、アマツバメ (*Cypseloides lemosi*)、およびミヤマインコ (*Leptosittaca branickii*) 等が、絶滅の危機に瀕している。

1.5. 社会経済特性

1.5.1. 行政区

- エクアドル：カニャル県 (Cañar)、チンボラソ県 (Chimborazo)、モロナ・サンチアゴ県 (Morona Santiago)、ツングラアウア県 (Tungurahua)、サモラ・チンチペ県 (Zamora Chinchipe)、ロハ県 (Loja) の合計 24 自治体
- ペルー：サン・マルティン州 (San Martín)、ロレト州 (Loreto)、アマソナス州 (Amazonas)、ウカジャリ州 (Ucayali)、ウアヌコ州 (Huánuco) の合計 17 自治体

1.5.2. 人口

総人口：80 万人 (両国先住民を含めると推定 200 万人)

エクアドル：推定 20 万人

ペルー：推定 60 万人

1.5.3. 主要経済活動

CCACK の主要産業は、農業、畜産業、養殖などの一次産業である。近年、エコツーリズム等の観光業への開発支援が、行われている。エクアドル側には、金属、非金属の鉱山がある。

1.5.4. その他

エクアドルのシュアール・アルタム族 (Shuar Arutam) は、50 のコミュニティをまとめる先住民団体 “Circunscripción Territorial Shuar Arutam (CTSHA)” を組織している。シュアール・アルタム族は、コンドル山脈地域において、約 23 万ヘクタールの土地を所有している。また、ペルーとエクアドルの国境付近には、11 の先住民族 (Woaorani, Siwiar, Kijus, Andwa, Achuar, Shuar, A’i, Kofán, Siekopa’i, Siona, Amazonian Kichwa, Sapara) が登録されている。そのうち 7 つの先住民族 (Shuar, Achuar, Shiwiar, Andwa, Siekopa’i, Sapara, Kichwas) は、両国を行き来しながら生活している。

2. 生態系ガバナンスメカニズムの概要

2.1. 名称・タイプ

アビセオーコンドルークツク保全回廊平和公園

Abiseo-Cóndor-Kutukú Conservation Corridor Peace Park (CCACK)

2.2. 関連法規、戦略

ペルーの国立天然資源研究所 (INRENA) とエクアドルの環境省 (MAE) は、1999 年 8 月 12 日に環境管理、自然保護、持続可能な開発の分野における二国間協力を促進するための協定に調印した。そしてペルーとエクアドルに跨る越境保護区が誕生した。さらに 2007 年 6 月 1 日、両国の大統領および二国間閣僚会合において、両国間の協定や開発計画の強化を目的とした法律に署名することが、決まった。

2.3. 組織 (役割、人員)

2.3.1. 隣国委員会 (Comisión de Vecindad) :

両国外務大臣が委員長を務める隣国委員会は、環境問題を含めた国境制度に関連する問題について決定を下す機関である。その委員会では、インフラストラクチャ、サービス、共有資源の利用に重点を置き、両国にとって経済的および社会的に意義のあるプロジェクトやイニシアチブを特定し、推進している。

2.3.2. 二国間技術委員会 (CTB) :

外務省が委員長を務める二国間技術委員会は、分野別に担当する機関の代表者で構成されている。国境統合や国境地域開発に関して大筋合意がされていることから、生産と環境問題、貿易強化、投資と観光、社会問題、国境規制の 5 つの二国間技術委員会が設置されている。

2.3.3. ガバナンスの方法

二国間国境地域開発計画についてエクアドルは、二国間プロジェクトと国内プロジェクトに関する調整、資源動員、融資、モニタリングといった管理を通じて貢献してきた。二国間プロジェクトは、各国関係省庁及び国際協力機関によって実施されている。国内プロジェクトは、国家企画開発事務局 (SEPLADES) / 経済財務省 (MEF) によって実施されている。

2.4. 活動内容と方法

二国間国境地域開発計画の 5 つの軸のひとつである環境分野では、保護区の管理活動を実施している。個々の保護区は、各国の保護区担当機関によって運営されている。二国間国境地域開発計画の一部 (金額ベースで全体の約半分) を監督する二国間運営委員会と呼ばれる機関が、存在する。二国間運営委員会の具体的な活動は、以下の通りである。

- ・生物多様性保全と持続可能な管理を含む自然保護
- ・地域コミュニティの参加による近隣保護地域の共同管理
- ・共有する河川流域の共同管理
- ・森林再生と土壌保全の統合プログラム
- ・森林の保全と持続可能な管理
- ・森林の生態系サービスの評価
- ・自然資源管理の共通基準の確立
- ・自然資源管理に関する情報と知識の共有
- ・援助機関へのプロジェクト提案の共同設計

二国間運営委員会の支援の下、CCACK 内の各保護区の管理当局が、管理計画を作成している。特に、国境を接する保護区の継続的かつ協調的な管理、共同調査の提案、保護区管理者間の情報交換、両国の生物多様性の協調的モニタリングに重点が置かれている。

参加型の土地計画の実施や土地利用権利の付与の他、歴史的・文化的背景を考慮した先住民コミュニティの持続可能な開発イニシアチブを促進していくことで、CCACK の自然保護管理が、改善されてきた。

3. 関連プロジェクトの概要

国際熱帯木材機関（ITTO）が資金を提供し、エクアドルのネイチャー財団（Fundación Natura）とペルーのコンサベーション・インターナショナル（CI）が、「コンドル山脈における平和と二国間保全プロジェクト・フェーズ I（PAZ Y CONSERVACIÓN BINACIONAL EN LA CORDILLERA DEL CONDOR FASE I）」を 2002 年から 2 年間実施した。下表は両国における ITTO プロジェクトのフェーズ I およびフェーズ II の詳細である。

CCACK の関連プロジェクト

名称	実施機関	ドナー機関	予算 (USD)	実施 期間	内容
ITTO プロジェクト フェーズ I (エクアドル)	MAE, Fundación Natura, CI	ITTO, MAE, Fundación Natura, CI	926, 160	2002- 2004	このプロジェクトは、地域の参加型環境管理モデルを構築するために実施された。そのモデルの主な構成要素は、地域の土地利用管理計画と地域保全システムである。
ITTO プロジェクト フェーズ II (エクアドル)	MAE, Fundación Natura, CI	ITTO, MAE, Fundación Natura, CI	748, 479	2006- 2009	このプロジェクトは、コンドル山脈の自然保護区の協調的管理と、先住民および農村コミュニティの持続可能な開発の促進を通じて、ペルーとエクアドルの平和と統合プロセスの強化に継続して貢献することを目的としたものである。
ITTO プロジェクト フェーズ I (ペルー)	INRENA, CI	ITTO	852, 333	2002- 2004	このプロジェクトでは、土地利用地図、生物目録、参加型迅速評価、監視・評価プログラムの利用を通じて、サンティアゴ・コマイナ保護地域とその周辺地域の参加型の定量、定性情報モデルが開発された。
ITTO プロジェクト	INREN, CI	ITTO	577, 800	2007-	このプロジェクトは、熱帯山林の代

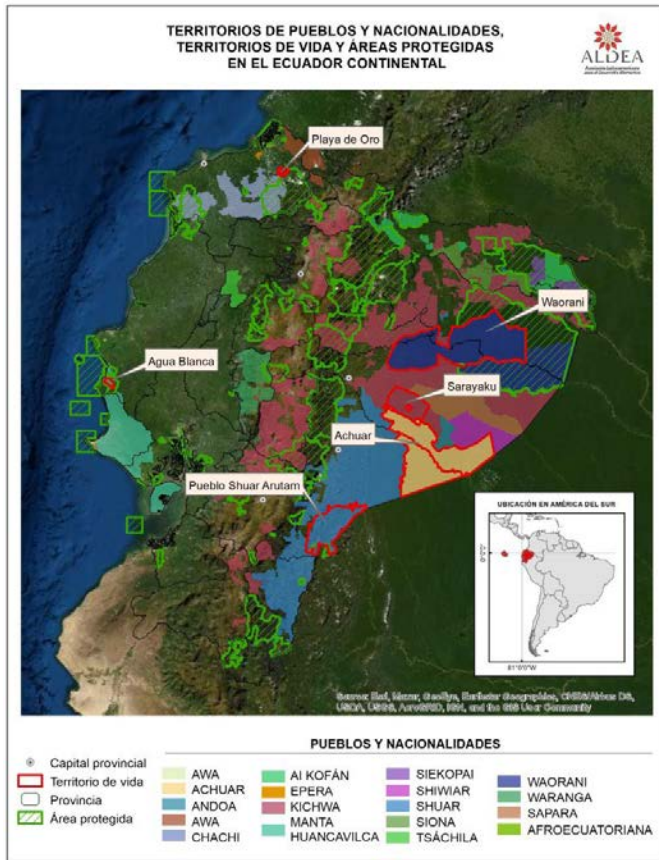
名称	実施機関	ドナー機関	予算 (USD)	実施 期間	内容
フェーズⅡ (ペルー)				2009	表的な動植物や景観を保護し、同時に、コンドル山脈地域の天然資源の持続可能な管理のために先住民族コミュニティの能力を高めることを目的としたものである。

4. その他（考察、補足）

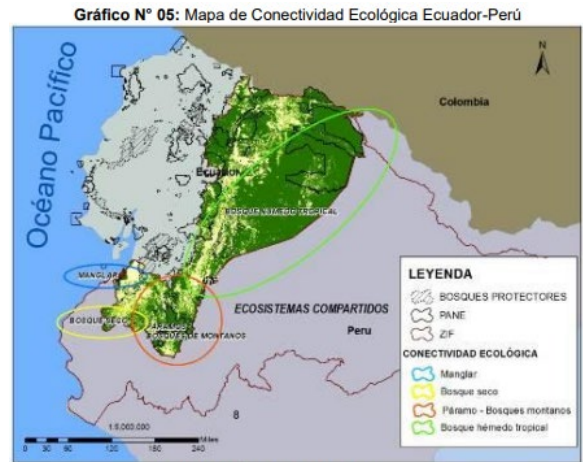
CCACK は、熱帯アンデス・ホットスポットとアンデス・アマゾン低地・アマゾン大自然地域という世界的に保全を優先すべき地域のひとつである。CCACK は、生物多様性保全の促進と公正で公平な経済開発を通じた自然資源の統合的管理の促進を目的としている。

1998 年に、エクアドルとペルーは、両国国境の先住民居住地区を対象に、それぞれの国の保全の取り組みと先住民の文化的慣習の統合を目指し、イタマラティ和平協定に調印した。これにより、国境に位置するコンドル山脈に平和公園として知られる 2 つの保護区が設定された。それらの保護区は、規模が小さいためにコンドル山脈の生物多様性の保全には不十分であった。2000 年代初頭、ITTO の資金援助によるプロジェクトが始まり、新しい保護区の設置や保護区の管理強化が進められた。CCACK は、生物多様性保全で重要な役割を担うと同時に、移民を受け入れた。そのため、プロジェクトは、環境や国境開発やその管理に係る政府機関、NGO、先住民組織、高等教育機関など広範囲のステークホルダーが参加した。プロジェクトは、二国間協調戦略の策定と、その運営やモニタリングのためのメカニズムの設定が不可欠と判断した。プロジェクトによると、二国間の協調は、目標を共有しながらも、それぞれの政治的ビジョンや目的を尊重したダイナミックなものとなるべきであり、協調対象も特定プロジェクトに限定しない長期的なものになるべきであるとしている。

参考資料



エクアドルにおける先住民の領土図
出典：report.territoriesoflife.org



エクアドル-ペルー国境生態系連結地域
出典：エクアドル・ペルー二国間計画
(planbinacional.org.pe)

出典

- Carlos F. Ponce and Fernando Gherzi (2003) Cordillera del Condor (Peru-Ecuador)
- ITTO (2009) Estrategia Binacional para el Corredor de Conservación, Abiseo-Cóndor-Kutukú
- Martín Alcalde, Carlos F. Ponce, Yanitza Curonisy, Peace Parks in the Cordillera del Cónдор Mountain Range and Biodiversity Conservation Corridor
- 二国間計画-ペルーエクアドル国境地域の二国間開発計画 (planbinacional.org.pe)
- Elcomercio ウェブサイト (<https://www.elcomercio.com/pages/economia-provincia-morona-santiago2.html>)
- ECURED ウェブサイト (https://www.ecured.cu/Parque_Nacional_Podocarpus)
- Red Latinoamericana de Cooperación Técnica en Parques Nacionales, Otras Áreas Protegidas, Flora y Fauna Silvestres, Programa FAO/OAPN
(https://www.miteco.gob.es/content/dam/miteco/es/parques-nacionales-oapn/proyectos-de-cooperacion/8caso-ecuador_tcm30-287863.pdf)
- CI-Ecuador (<https://www.conservation.org/ecuador/noticias/2022/01/10/se-actualiza-el-plan-de-manejo-del-refugio-de-vida-silvestre-el-zarza>)
- Diseño de un plan de manejo para el bosque protector comunitario desde las prácticas ancestrales en el Alto Nangaritza, Rojas Vivanco, Jorge Luis, 2014, Universidad

Católica de Loja

(https://dspace.utpl.edu.ec/bitstream/123456789/9278/1/Rojas_Vivanco_Jorge_Luis.pdf)

- Plan de Manejo Area de Conservación Colambo Yacuri
(<https://faolex.fao.org/docs/pdf/ecul83790anx.pdf>)
- Global Workshop on the Development of Transboundary Water Cooperation Agreements or other Arrangements, 2023, IUCN (https://unece.org/sites/default/files/2023-11/3.%20Diego%20Jara_binational%20commission%20between%20Ecuador%20and%20Peru_0.pdf)
- Bosque de Protección Alto Mayo, Plan Maestro 2008-2013
(<https://repositoriodigital.minam.gob.pe/bitstream/handle/123456789/159/BIV01164.pdf?sequence=1&isAllowed=y>)
- PLAN DE MANEJO ESTRATÉGICO DEL PARQUE NACIONAL SANGAY
(<https://maecanar.files.wordpress.com/2018/02/plan-de-manejo-estrategico-parque-nacional-sangay.pdf>)
- Mecanismos de Coordinación Binacional (<https://planbinacional.org.ec/mecanismos-de-coordinacion-binacional/>)
- IITO ウェブサイト (https://www.itto.int/es/project_search/)
- Territorio, Bosques y Cultura en la cordillera del Cóndor, 2010, Fundación Natura
(https://www.itto.int/files/itto_project_db_input/2519/Technical/Libro%20Tecnico.pdf)

越境ガバナンス事例（エルサルバドル&ホンジュラス）

1. 生態系の概要

1.1. 名称

ゴアスコラン川流域（Goascorán River Basin）

1.2. 国名および面積

エルサルバドル国：約 112,600 ha（48%）*

ホンジュラス国：約 121,900 ha（52%）*

総面積：約 234,500 ha

*上記面積は、BRIDGE プロジェクトの対象エリアである。



出典：panorama.solutions

1.3. BRIDGE とは

BRIDGE プロジェクトは、2011 年に開始された IUCN と地域パートナーによるプロジェクトである。そのプログラムでは、国境を越えたゴアスコラン川流域における相互理解とガバナンスの構築に取り組んできた。BRIDGE プロジェクトは、国境を越えた水管理における新しいアプローチを推進し、アジア、ラテンアメリカ、アフリカの 14 の越境流域で活動している。なお、このプログラムは、スイス開発協力庁（SDC）の世界水プログラム（Global Water Programme）の資金援助を受けている。

1.4. 生態系（地域）タイプ、登録状況

IUCN の BRIDGE プロジェクトの対象地域のうち、保護地域は下表に示す 2 つである。

BRIDGE に位置する保護地域

名称	種類	登録・ 制定年	面積 Km ²	国際条約 登録状況	その他
フォンセカ湾 マングローブ Manglar Golfo de Fonseca (エルサルバドル)	自然区域	1994	76.61	不明	WDPAID:107432 陸域および内水面保護地域
チスムジョ湾 Bahía de Chismuyo (ホンジュラス)	生息地/種 管理地域	1999	316.16	不明	WDPAID:41021 海洋保護地域 カテゴリ IV

1.5. 河川・生態系の特性

ゴアスコラン川は、長さ 130 km、流域総面積 2,345 km²、ホンジュラスのラ・パス県よりエルサルバドルとホンジュラスの国境を通り、フォンセカ湾に流れる河川である。本河川は、ホンジュラスの 16 の自治体とエルサルバドルの 13 の自治体にまたがる。この流域には、エルサルバドルで 14 万人以上、ホンジュラスで 3 万人以上の人々が居住している。

流域の生態系には、森林、河川、アグロフォレストリー、淡水生態系、落葉温帯林、マングローブ林、干潟がある。

1.6. 社会経済特性

1.6.1. 行政区

- エルサルバドル：ラ・ウニオン県（La Unión）、モラサン県（Morazán）に属する計 13 の自治体

- ・ ホンジュラス：ラ・パス県 (La Paz)、バジェ県 (Valle)、 コマヤグア県 (Comayagua)、フランシスコ・モラサン県 (Francisco Morazán) に属する計 16 の自治体

1.6.2. 主要経済活動

上流域：畜産業、農業、林業、観光業

中流域：観光業、畜産業

下流域：観光業、漁業、灌漑農業、養殖業、商業

2. 生態系ガバナンスメカニズムの概要

2.1. 名称・タイプ

ゴアスコラン川流域

2.2. 関連法規、戦略

ゴアスコラン川流域管理に関連する各国の法律は以下の通りである。

ゴアスコラン川流域管理に関連する国内法

エルサルバドル	
Ley del Medio Ambiente	環境基本法
Ley de Areas Naturales Protegidas	自然保護区法
ホンジュラス	
Ley General del Ambiente (Decreto 104-93)	環境基本法 (法令第 104 号 93 条)
Ley Forestal de Áreas Protegidas y Vida Silvestre (Decreto 98-2007)	保護地区および野生生物森林法 (法令第 98 号 2007)

2.3. プロジェクト/プログラム

ホンジュラス-エルサルバドル二国間国境開発計画 (2004)

Programa Binacional de Desarrollo Fronterizo Honduras - El Salvador - 2004

ゴアスコラン川二国間管理グループ GGBCG (2006)

Grupo Gestor Binacional del Rio Goascorán GGBCG - 2006*

ゴアスコラン川統合管理計画 CATIE (2007)

Plan de Manejo Integral del Rio Goascorán CATIE - 2007

3 カ国大統領声明 2008 (ニカラグア、ホンジュラス、エルサルバドル)

Declaración presidencial trinacional de 2008 (Nicaragua, Honduras y El salvador)

河川における相互理解とガバナンスの構築 (BRIDGE) プロジェクト (IUCN 2011-2013)

Building River Dialogue and Governance (BRIDGE) project, IUCN, 2011-2013

*2006 年に、欧州連合が資金提供したゴアスコラン管理プロジェクトが実施された。その結果、二国間管理グループ (BMG) が設立され、二国間管理計画が策定された。

2.4. 組織 (役割、人員)

2006 年に設立されたエルサルバドルとホンジュラスの二国間管理グループ (BMG : Binational Management Group) で、ゴアスコラン川流域を管理する。2011-2013 年 BRIDGE プロジェクトで能力強化が図られた。

2.5. 活動内容・方法

主な活動は、1) 既存の二国間管理グループの評価、2) ステークホルダーの力分析、3) 二国間管理グループの再構築、4) 管理計画の更新である。

プロジェクトのフェーズ 2 と 3 (関連プロジェクトの BRIDGE プロジェクト概要項目参照) では、BMG 活動と並行して、以下の活動が取り組まれた。

- ・各国での協議会や、関係省庁、自治体を巻き込んだワークショップの開催
- ・自治体の市長が参加する二国間会議の開催
- ・二国間統合地理情報システムの確立
- ・参加型流域モデルの実施
- ・省庁レベルの能力強化

3. 関連プロジェクトの概要

ゴアスコラン川流域で実施された関連プロジェクトを下表に示す。

ゴアスコラン川流域で実施された関連プロジェクト

名称	実施機関	ドナー機関	実施期間(年)	予算(USD)	内容
BRIDGE プロジェクト (メキシコ、グアテマラ、ホンジュラス、エルサルバドル、コスタリカ、パナマ)	Fundación Vida	SDC IUCN	フェーズ I : 2011-2013 フェーズ II : 2013-2015 フェーズ III : 2016-2018	3, 171, 450 3, 476, 320 4, 857, 610	このプロジェクトは、マルチステークホルダー型の草の根プラットフォーム。統合的水管理、国際水法、合意形成に関する研修を実施し、国境を越えた技術調整と共同計画、組織強化の確立を目的とした。
AVE プロジェクト Adaptation, vulnerability and Ecosystems (メキシコ、グアテマラ、ホンジュラス、エルサルバドル、コスタリカ、パナマ)	Fundación Vida	BMU IKI IUCN	2014-2018	5, 685, 800	このプロジェクトは、2つの小さな流域(エルサルバドルのホンジュリタス、ホンジュラスのリトゥイ)において、干ばつの影響に対処するための地域適応策を試験的に実施し、気候変動に対する地域コミュニティのレジリエンス向上を目指した。
コミュニティ・ベース 流域管理 プログラム Community-Based Watershed Management Program (PGCC) (ホンジュラス)	FUNDER IDE RAIN	SDC IUCN	2015-2018	8, 199, 208	このプログラムは、関係当局と連携するコミュニティ・ベースの流域管理機構の設立と、その機構の能力強化を促進することで、ホンジュラスにおけるの水ガバナンスプロセスの経験を強化した。
沿岸流域と生活の改善プログラム Improved Coastal Watershed and Livelihoods Project (ICWL)	FUNDER CODEFFAGOLF FUNSALPRODES E	USAID IUCN	2016-2019	3, 727, 685	このプログラムは、ゴアスコラン川の下流域、アリアンサ自治体のアマテス海岸からチスムヨ湾の湿地帯までの 14 のコミュニティを対象とし、流域の管理に影響を与える地方

名称	実施機関	ドナー機関	実施期間(年)	予算(USD)	内容
(エルサルバドル、ホンジュラス)					自治体の戦略的な統合と地域水資源管理能力を強化した。

4. その他（考察、補足）

エルサルバドルとホンジュラスは、ゴアスコラン川とその水をめぐって国境紛争を続けてきた歴史がある。二国間の話し合いだけでは解決できない問題は、海外ドナーなどの第三者が入ることで、話し合いが円滑に進むことが多い。

ゴアスコラン川の流域には、これまでに海外ドナーの支援が多く入ってきた。特に IUCN の BRIDGH プロジェクトは、援助期間も 2011 年から 2018 年までと長い。長期的な支援があることで、現地での活動が展開しやすく、自治体や省庁、政府レベルをプロジェクトに巻き込みやすい。

USAID の援助で実施された ICWL プロジェクトには、マングロープのモニタリング活動を含んでいた。案件終了後もそのモニタリング活動を森林保全研究所（ICF）が引継ぎ、2023 年現在も住民の協力を得て、モニタリング活動が継続されている。既存の業務と連携しやすい活動を提案することで、案件終了後の活動の継続可能性を高めることができる。

参考資料

<現地写真>



出典

- Goascorán Basin: Honduras and El Salvador, BRIDGE-IUCN
(<https://portals.iucn.org/library/sites/library/files/documents/2013-030-En.pdf>)
- Gobernanza para la adaptación en la cuenca compartida del Río Goascorán, IUCN
(<https://panorama.solutions/es/solution/gobernanza-para-la-adaptacion-en-la-cuenca-compartida-del-rio-goascoran>)
- Governance for adaptation in the shared basin of the Goascorán River, IUCN
(<https://panorama.solutions/en/solution/governance-adaptation-shared-basin-goascoran-river>)
- Gobernanza del Agua en la Cuenca del Rio Goascoran, Ministerio de Relaciones Exteriores, República de El Salvador
(https://unece.org/fileadmin/DAM/env/documents/2012/wat/workshops/Latin_American_workshop_in_Buenos_Aires/3.7.Oscar_Chicas_Rio_Goascor%C3%A1n_Spa.pdf)
- Actors from Sumpul river sub-basin know experiences about water governance and climate change adaptation measures developed in Goascorán river basin, IUCN
(<https://iucn.org/news/mexico-central-america-and-caribbean/201804/actors-sumpul-river-sub-basin-know-experiences-about-water-governance-and-climate-change-adaptation-measures-developed-goascor%C3%A1n-river-basin>)
- USAID 2019, Proyecto Mejoramiento De Cuencas Costeras Y Medios De Vida (ICWL)
(https://pdf.usaid.gov/pdf_docs/PA00TRMW.pdf)
- UICN. (2018) . Metodología y Cuantificación de Carbono Azul en las áreas de manglar del Golfo de Fonseca en Honduras y El Salvador
(https://pdf.usaid.gov/pdf_docs/PA00TQVC.pdf)

越境ガバナンス事例（グアテマラ&ホンジュラス）

1. 生態系の概要

1.1. 名称

クヤメル・オモア・プンタ・デ・マナビケ持続可能な生物回廊

Corredor Biológico Sostenible Cuyamel-Omoa Punta de Manabique (CBS)

1.2. 国名および面積

グアテマラ国： 38,735.07 ha*

ホンジュラス国： 16,706.28 ha*

合計： 55,441.35 ha

*生物回廊戦略計画の数字を基に算出

1.3. 生態系（地域）タイプ・登録状況

CBS の生態系（地域）タイプ・登録状況を下表に示す。

CBS の生態系（地域）タイプ・登録状況

名称	種類	登録・制定年	面積 (ha)	国際条約登録状況	その他
プンタ・デ・マナビケ野生生物保護区 Refugio de Vida Silvestre Punta de Manabique (RVSPM) (グアテマラ)	野生生物保護区	2005年	陸域：49,289 内水面と海域：102,589 計152,797	ラムサール条約 (2000年)	WDPA ID: 12564 WDPA ID: 198322 本保護区のうち、25.5%が生物回廊に含まれる。
クヤメル・オモア保護地域サブシステム Subsistema de Áreas Protegidas Cuyamel-Omoa (SAPCO) (ホンジュラス)	保護地域サブシステム	2011年	陸域：21,884 海域：8,145 計30,029	ラムサール条約 (2013年)	WDPA ID: 555558401

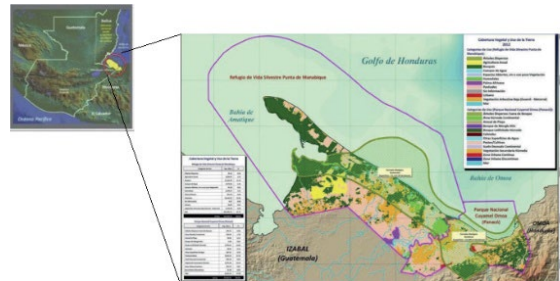
1.4. 生態系の特性

CBS は、グアテマラ東海岸とホンジュラスの北西海岸側に位置する越境生態系である。CBS は、熱帯雨林気候に属する。また、氾濫林と熱帯山地林に挟まれているので、生物多様性が豊かである。CBS は、ラムサール条約登録湿地に登録されている。グアテマラの RVSPM は、岩礁地帯、淡水と汽水域、マングローブ林、多種多様なサンゴ礁地帯を含む多様な生態系を含んでいる。ホンジュラスの SAPCO は、湿地生態系、沿岸海洋生態系、山岳生態系で構成されており、ジャガー、マナティー、オオハシ、ワニ、イルカなどの繁殖地として保全されている。

1.5. 社会経済特性

1.5.1. 行政区

CBS が位置する行政区を下表に示す。



出典：chmhonduras.org

CBS が位置する行政区

名称	行政区	人口 (人)
RVSPM (グアテマラ)	イザバル県プエルト・バリオス市 Puerto Barrios (Depart. de Izabal)	100,593 (2018年時点)
SAPCO (ホンジュラス)	コルテス県オモア市 Omoa (Depart. de Cortés)	51,046 (2020年時点)
	コルテス県サンペドロ・スーラ市 San Pedro Sula (Depart. de Cortés)	777,877 (2020年時点)

1.5.2. 人口

CBS には、RVSPM に 6 つ、SAPCO に 15 の計 21 のコミュニティが含まれている。当該地域には 1944 世帯、人口 6738 人の人々が居住している。

1.5.3. 主要経済活動

CBS 周辺の住民は、主に農業、漁業、家畜、民間農場での労働奉仕、観光、アグロフォレストリー実践、木炭生産などの経済活動に従事している。

2. 生態系ガバナンスメカニズムの概要

2.1. 名称・タイプ

クヤメル・オモア・プンタ・デ・マナビケ持続可能な生物回廊戦略計画 (CBS 戦略計画)

PLAN ESTRATÉGICO Corredor Biológico Sostenible Cuyamel-Omoa Punta de Manabique

2.2. 関連法規、戦略

CBS 戦略計画に関連する各国の法律を下表に示す。

CBS 戦略に関連する国内法

グアテマラ	
La Ley de Áreas Protegidas de Guatemala (Decreto 4-89)	保護地域に関するグアテマラ法 (政令 4-89 号)
Ley de protección y mejoramiento del medio ambiente. Decree N 68-86	環境の保護と改善に関する法律 (法令 68-86 号)
Ley que declara área protegida el refugio de vida silvestre "Punta de Manabique" (Decreto N° 23-2005)	野生生物保護区プンタ・デ・マナビケを保護区とする法律 (政令 23-2005)
ホンジュラス	
Ley General del Ambiente (Decreto 104-93)	環境基本法
Ley Forestal de Áreas Protegidas y Vida Silvestre (Decreto 98-2007)	保護地区および野生生物森林法

2.3. 組織 (役割、人員)

2.3.1. 管理グループ (Grupo Gestor)

CBS 戦略計画の実施責任を負う組織で、以下のメンバーで構成されている。

- RVSPM の管理組織：国立保護地域評議会 (CONAP)
- SAPCO の管理組織：NGO オモア保全活動グループ (CCO)
- 両国の関係自治体：グアテマラのプエルト・バリオス自治体、オモア自治体の環境ユニット
- 国の学術機関：グアテマラのイザバル大学センター、ホンジュラ国立自治大学

- NGO 地域環境マネジメント・プログラム協会（ASOPROGAL）：地域開発に関連するさまざまな活動において、CONAP と恒常的に協力・連携している。
- 環境省の代表団：グアテマラの漁業・養殖規制局（DIPESCA）

各国の環境省には CBS 専門の監督部署がある。保護区の管理グループは CBS 専門の監督部署と連携してイニシアチブ協力機関への周知および技術的および財政的支援を計画している。

2.3.2. 地域コミュニティ

CBS 戦略計画の恩恵を受ける利害関係者として特定されている地域団体は、上述の 21 のコミュニティである。SAPCO の 15 のコミュニティには、自治体を代表する任意団体のコミュニティ改善委員会がある。この委員会は、自治体に関する法律と、コミュニティ委員会および団体に関する法律（政令 253-2013）によって規定されている。RVSPM の 6 つのコミュニティは、都市・農村開発評議会法の法的枠組みの下で設立されたコミュニティ開発評議会を組織しており、市の自治体開発評議会への参加権限を有する。

2.4. 活動内容・方法

CBS 戦略計画では、下記 4 つの目標を達成するための 77 のアクションが設定されている。

目標 1：CBS の生物多様性の回復と維持、そして商品とサービスを生産するための森林被覆と森林の分断を確認し、連結点を定める。

目標 2：グアテマラとホンジュラスの漁業回復地帯に重点を置き、CBS の設計の中で沿岸および海洋地帯の保全を促進する。

目標 3：連結性のギャップの特定に基づき、CBS における森林資源と沿岸海洋資源の責任ある利用におけるガバナンスと優良事例の促進を目的として気候変動適応策を推進する。

目標 4：CBS で特定されたコミュニティやその他の地元関係者の社会経済的発展を促進する。

2.5. 財源・予算

投資や技術・資金協力団体を主要な財源としている。

3. 関連プロジェクトの概要

CBS で実施された関連プロジェクトを下表に示す。

CBS で実施された関連プロジェクト

名称	実施機関	ドナー機関	予算	実施期間	内容
地域沿岸生物多様性プロジェクト Proyecto Regional Biodiversidad Costera	GOAL ARCAS FDN	USAID IUCN	13,409,784.64 (USD)	2017年11月 ～2024年11月	このプロジェクトは、ホンジュラス、グアテマラ、エルサルバドルの国境を接する沿岸コミュニティにおける生物多様性への脅威を軽減し、地域の生計向上と沿岸海洋生物多様性の保全のための気候変動に配慮した解決策に取り組んでいる。
森林、生物多様性、地域開発プロジェクト Bosques,	CISP CCO CONAP ASOPROGAL	EU	1,162,475 (EUR)	2019年1月 ～2021年12月	このプロジェクトは、グアテマラとホンジュラスの世界的、地域的公共政策との整合性を保ちつつ、森林の

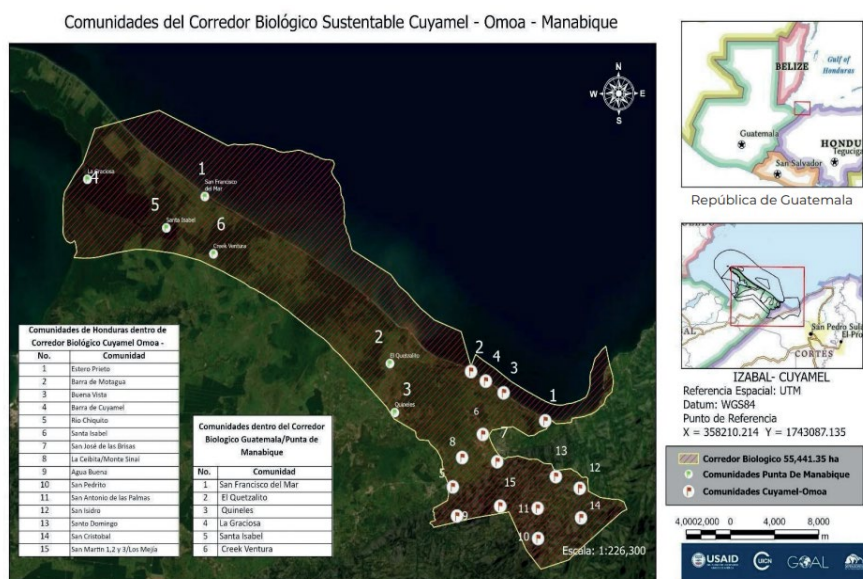
名称	実施機関	ドナー機関	予算	実施期間	内容
Biodiversidad y Desarrollo Comunitario					多面的機能性や地域内への森林の植林を含め、森林、生物多様性、生態系の持続可能な管理のための革新的なアプローチが促進された。

4. その他（考察、補足）

IUCN、USAID、EU 等のプロジェクト実施により、各国の専門家や主要なアクターが共同作業をして、CBS 戦略計画を策定した。この戦略計画は、植林などの生態系回復や、地域住民の生計向上を目的としており、地域開発の支援のために、政府と地元自治体とコミュニティの連携を強化させることでガバナンスを強化している。プロジェクトで設立された管理グループは、CBS 戦略計画（2020-2025）で策定された活動内容をフォローアップしている。二国間の越境生態系の管理では、戦略計画作成とあわせて、実施体制のフォロー期間を長く設定し、管理体制に係る Plan Do Check Action を実践することで、より持続性を維持する。

戦略計画の SWOT 分析により特定された管理グループの弱みには、「管理グループには法的地位がない」「管理グループには理事会や運営規定がない」、「プロセスをフォローする管理体制がない」などが挙げられた。さらにその活動費用に関しては、技術資金協力機関との連携の必要性が認識された。各国の組織には、法的な地位や予算管理体制などが整っているが、二国間グループの場合は、イニシアチブとしての法律の適用や財源確保等を、設立時に定めることが重要である。

参考資料



CBS 域内にある 21 のコミュニティの位置図
出典：CBS 戦略計画



CBS の写真
出典：euroclima.org

出典

- ・ PLAN ESTRATÉGICO Corredor Biológico Sostenible Cuyamel-Omoa Punta de Manabique (<https://www.euroclima.org/images/2021/Bosques/PLAN-ESTRATEGICO---Corredor-biologico-sostenible-Cuyamel-Omoa-Punta-de-Manabique-digital.pdf>)
- ・ USAID のプロジェクトの概要 (<https://www.usaid.gov/es/central-america-and-mexico-regional-program/fact-sheets/regional-coastal-biodiversity-project>)
- ・ EUROCLUMA+ のプロジェクトの概要 (<https://www.euroclima.org/proyectos-bosques/biodiversidad-y-desarrollo-comunitario>)

越境ガバナンス事例（コスタリカ、パナマ、コロンビア、エクアドル）

1. 生態系の概要

1.1. 名称

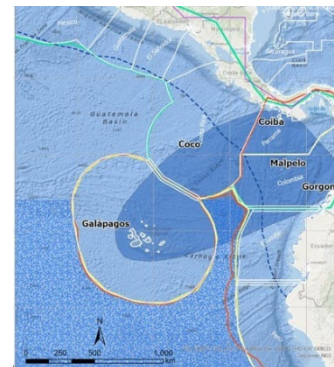
東部熱帯太平洋海洋回廊越境海洋生物圏保護区

Transboundary Marine Biosphere Reserve of the Tropical Eastern Pacific

1.2. 国名および面積

コスタリカ、パナマ、コロンビア、エクアドル

東部熱帯太平洋海洋回廊（CMAR） 海域 15,454,864 ha



出典：frontiersin.org

1.3. 生態系（地域）タイプ・登録状況

CMAR の生態系（地域）タイプ・登録状況を下表に示す。

CMAR の生態系（地域）タイプ・登録状況

名称	国名	登録・制定年（年）	登録状況（国際条約を含む）	面積（ha）
ココ島国立公園 (Cocos Island National Park)	コスタリカ	1997 1998	UNESCO 世界遺産 ラムサール条約	199,700
コイバ国立公園 (Coiba National Park)	パナマ	2004 2005	国立公園 UNESCO 世界遺産	270,125
ゴルゴナ自然国立公園 (Gorgona National Natural Park)	コロンビア	1984	国立公園	61,025
マルペロ動植物保護区 (Malpelo Fauna and Flora Sanctuary)	コロンビア	1995 2006	国立自然公園 UNESCO 世界遺産	857,500
ガラパゴス国立公園・海洋保護区 (Galápagos National Park and Marine Reserve)	エクアドル	1978 2002	UNESCO 世界遺産 ラムサール条約 (南イサベラ湿地)	14,066,514

1.4. 生態系の特性

CMAR の面積のうち、陸域はわずか 6.2%であり、大部分（93.4%）は海域である。CMAR は、海洋学的、気候学的特徴から、サンゴ礁、マングローブ、海草、砂浜、岩浜、外洋域を含む、世界でも主要な海洋生態系の一つである。この地域には、サンゴ、甲殻類、棘皮動物、軟体動物、魚類、海洋哺乳類、軟体動物、両生類、鳥類など、多種多様な海洋動物群が生息している。また、少なくとも 160 種の固有種や絶滅危惧種が生息しており、生態系保全の必要性が非常に高い。

1.5. 社会経済特性

1.5.1. 行政区

CMAR 地域に位置する 5 カ国計 36 の自治体の概要を下表に示す。

CMAR に位置する 5 カ国の自治体

名称	影響を及ぼす行政区 (自治体)	人口 (人)	経済活動について
ココ島国立公園	3 つの自治体 (Quepos, Golfito, Puerto Cortés)	39,014	・宿泊・飲食サービス 12% 観光業関連の総収入額は約 830 万ドル (2010) 入園者数 3,517 人/年 (2011)
コイバ国立公園	12 の自治体 (Barú, Alanje, David, San Lorenzo, San Félix, Montijo, Soná, Tolé, Las Palmas, Río de Jesús, Santiago, Mariato)	416,266	・漁業 37%; 収入額約 740 万米ドル (2007) ・観光業 (入園者数 3701/年)
ゴルゴナ自然国立公園	6 の自治体 (Mosquera, Olaya Herrera, Santa Bárbara, Guapi, Timbiquí, López)	106,381	・EAP データなし ・主な産業は漁業および観光業 入園者数 4500 人/年
マルペロ動植物保護区	3 つの自治体 (Buenaventura, El Charco, La Tolá)	358,941	・EAP データなし ・主な産業は漁業および観光業 入園者数 600 人/年
ガラパゴス国立公園・海洋保護区	11 の自治体 (Santa Elena, La Libertad, Salinas, Montecristi, Puerto López, Jipijapa, Manta, San Cristóbal, Isabela, Santa Cruz)	712,704	・農畜水産業 11.2% (漁業: 9%) ・工芸品・小規模加工 12.7% ・観光業 69% 入園者数 180000 人/年 (2009)

1.5.2. 人口

CMAR は 36 の自治体にまたがり、約 160 万人が住んでいる。コアゾーンにおいても、ガラパゴス諸島に約 25,000 人 (2010) が住んでおり、年間約 18 万人 (2009) の観光客を含めた経済活動による廃棄物管理が大きな問題となっている。

1.5.3. 主要経済活動

CMAR のコアゾーンであるガラパゴス諸島の主要な経済活動は、エコツーリズムとスポーツフィッシングである。一方、沿岸地帯と CMAR の影響地域では、観光、漁業、海上輸送などによる海洋資源の利用が主であり、経済活動人口 (EAP%) の割合は以下となっている。

- ・農畜水産業 37 %
- ・加工業 13 % (主に水産加工および工芸品)
- ・運輸サービス 50 % (港湾および海上輸送活動に関連する第三次セクター)

2. 生態系ガバナンスメカニズムの概要

2.1. 名称・タイプ

東部熱帯太平洋回廊 (CMAR) 行動計画

Plan de Acción Corredor Marino del Pacífico Este Tropical (CMAR)

2.2. 関連法規、戦略

CMAR に関連する国際条約、各国の法律を下表に示す。

CMAR に関連する国際条約及び国内法

国際条約
<ul style="list-style-type: none"> ・国連海洋法条約 (UNCLOS) ・生物多様性条約 (CBD) ・ワシントン条約 (CITES: 絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約) ・移動性野生動物種の保全に関する条約 ・中央アメリカにおける生物多様性の保全と優先原生地域の保護のための条約 ・ラムサール条約 ・世界文化遺産及び自然遺産条約 ・水中文化遺産保護条約 ・国際捕鯨取締条約 ・南東太平洋の海洋環境および沿岸地域の保護に関する条約 ・南太平洋地域の天然資源および環境の保護に関する条約 ・海洋汚染防止条約 (MALPOL73/78)
パナマ
・コイバ国立公園管理計画
コスタリカ
・ココ島国立公園一般管理計画
コロンビア
・ゴルゴナ国立自然公園管理計画
・マルペロ動植物保護区管理計画
エクアドル
・ガラパゴス保全と持続可能な開発のための地域計画
・より良い生活のためのガラパゴス保護地域管理計画

2.3. 組織（役割、人員）

CMAR は、越境ガバナンスとして政治的なレベルの組織と技術的なレベルの組織の 2 つのレベルからなる統治体制をとっている。この 2 つの組織が互いに補完しあいながら海洋回廊の管理を強化している。臨時技術事務局は、地域閣僚委員会の会議の事務局として機能し、閣僚委員会が定めたすべての職務権限をプロジェクト管理ユニットに伝える責任を負う。CMAR のガバナンス体制、構成人員およびその役割を下表に示す。

CMAR のガバナンス体制、構成人員、役割

ガバナンス体制		構成人員および詳細		役割
越境・政治レベル	地域閣僚委員会	4 名	<ul style="list-style-type: none"> ・各国の環境大臣で構成 ・議長は 3 年交代制で持ち回り 	意思決定最高機関として、4 カ国の環境大臣で構成される地域閣僚委員会が設けられている。この委員会は、回廊の保全活動実施プロセスに対するガイドラインの提供と政治的支援を担当する。このレベルでの地域調整は、議長国の外務省が外交アドバイザーとして常時、議長国の環境省と連携している。
越境・技術レベル	地域技術委員会	4 名	<ul style="list-style-type: none"> ・各国の管轄省庁代表 1 名 	地域技術委員会は、CMAR 強化のための長期的な資金メカニズムの特定と推進を行う。この委員会は、2005 年から現在までのアクションプランに基づき、CMAR の実績と業務範囲の診断と評価を行った。各国は、CMAR 国内委員会を設立する。地域技術委員会は、各国において CMAR が設定した地域の優先事項の管理と促進に関してイニシアチブをとって推進する。
	臨時技術事務局	2 名	<ul style="list-style-type: none"> ・議長国からの選員 	臨時技術事務局は、アクションプランで提案された活動の技術アドバイザーおよび実施者として、CMAR 地域ワーキンググループの運営を強化する。

ガバナンス体制		構成人員および詳細		役割
	地域作業部会	5名	CMAR で特定されたテーマ分野（科学、海洋保護区、漁業、コミュニケーション、観光）ごとに、政府機関・研究機関・NGO・学界から代表者各1名（計5名）を選出。 各グループには調整員とその代理員がおかれている。	この事務局は、CMAR 地域の4カ国間のコミュニケーションのための技術的プラットフォームを導入し、調整を促進する。 各作業部会は、地域行動計画の枠組みの中で、短期、中期、長期における行動を特定し、地域技術委員会と連携して、各テーマにおける技術的な問題へ対処する他、CMAR のためのプロジェクトの共同・管理を推進する。
国家レベル	CMAR 国家委員会	不明	・各国独自での選出員で構成	CMAR 国家委員会は、漁業事務局や研究所、観光局、環境、農業、生産省、生物多様性、林業、生態系、水生生物資源局、海軍や安全保障・国防当局など、関係するさまざまな部門の多部門的な視野を確保している。

2.4. 活動内容・方法

CMAR 行動計画では、4つの軸（CMAR の強化、生物多様性、持続可能な開発の促進、管理とモニタリング）、14の戦略ライン、行動計画目標の達成を確実なものにするための55の戦略的アクションが提示されている。軸と戦略ラインの詳細は、下表の通りである。

CMAR 行動計画におけるテーマ軸と戦略ライン

	1. CMAR の強化	2. 生物多様性	3. 持続可能な開発の促進	4. 管理とモニタリング
戦略ライン	ガバナンス 地域調整 方法論の適合性評価 および調整 教育/研修 CMAR 行動計画実施のための資金調達戦略 と財政的持続可能性	調査とモニタリング 保護地域管理の効果 財とサービスの評価 気候変動への適応と緩和	観光 漁業	法令遵守 不法行為の防止 外来種対策

3. 関連プロジェクトの概要

CMAR で実施された関連プロジェクトを下表に示す。

CMAR で実施された関連プロジェクト

名称	実施機関	主要ドナー	予算(USD)	実施期間	内容
CMAR の保全と管理のための宣言	CMAR	CAF	1,000,000	未定	CMAR は、生物多様性の保全と海洋・沿岸資源の利用のために、主に漁業、観光、海上輸送から年間30億米ドルを生み出す100万米ドルの技術協力を承認した。

4. その他

CMAR 行動計画（2019-2024）策定における協議プロセスにおいて実施されたワークショップから、いくつかの具体的な提言がなされた。CMAR 各国間で共有される地域レベルで対応すべき推奨事項を以下に記す。

(1) CMAR 行動計画の実施は、各国の国内委員会またはそれに準ずる組織を通じて、各国の年次作業計画によって実施されている。地域技術委員会レベルでその作業計画内容が共有されることが推奨されている。

(2) CMAR イニシアチブ設立（2004 年）から現在までに蓄積した経験と成果の評価／体系化の実施が推奨されている。

(3) 膨大な CMAR の知識を交換するメカニズムの確立が必要とされる。

(4) 地域閣僚委員会は「2030 年までに少なくとも 1 億ドルの資本金を持つ基金を設立し、長期的な財政メカニズムを確立する」ことを宣言しており、財政的持続可能性の問題に取り組むことが推奨されている。

(5) CMAR ガバナンス機構について地域会議開催の高い運営コストの削減化（テレビ会議導入など）の取り組みが推奨されている。

(6) CMAR イニシアチブ協定の政治的コミットメントの評価（拘束力ある協定に変えることによる国際協力団体やドナーとの協調と安定した財源の確保を推進させる）をすることが推奨されている。

(7) 新たなコアサイトを追加するメカニズム構築の可能性についての評価（CMAR の政治的・技術的基準の策定と、CMAR 地域拡張の実現の可能性に関する評価）が推奨されている。

CMAR 行動計画の枠組みでは、地域レベルでの提言を尊重する強制力はないため、その実現は各国国内委員会の主導力に左右される。現在、国内委員会を設置しているのはコロンビアのみで、他 3 国では他組織が代行している。これら組織の権限は不十分なこともあり、活動が限定されている。更に、CMAR 全体で統一されたモニタリングや評価方法が確立されておらず、地域レベルでの十分なモニタリングや評価ができずにいる。これらの体制や具体的管理手法、これらに付随する財源の確保が課題となっている。

出典

- ・ PROYECTO DE INVERSIÓN EN EL CORREDOR MARINO DEL PACÍFICO ESTE TROPICAL (CMAR) , ESTUDIO DE PRE-FACTIBILIDAD (<https://cco.gov.co/docs/cmar/cmar-005.pdf>)
- ・ Plan de Acción Corredor Marino del Pacífico Este Tropical (CMAR) 2019-2024 (https://www.conservation.org/docs/default-source/ecuador-documents/press-release-gef-for-etps_final_es-la.pdf?sfvrsn=39975eec_3)
- ・ Ley General del Ambiente (Ley No. 41) (<https://observatoriop10.cepal.org/es/instrumento/ley-general-ambiente-ley-no-41#:~:text=La%20ley%20establece%20los%20principios,humano%20sostenible%20en%20el%20pa%C3%ADs.>)
- ・ LEY N 44, (<https://faolex.fao.org/docs/pdf/pan42001.pdf>)
- ・ RESOLUCION AG-0118-2005 (https://www.asamblea.gob.pa/APPS/LEGISPAN/PDF_NORMAS/2000/2005/2005_546_0485.pdf)
- ・ RESOLUCION AG-0724-2005 (https://www.asamblea.gob.pa/APPS/LEGISPAN/PDF_NORMAS/2000/2005/2005_546_0485.pdf)
- ・ Plan de Manejo del Parque Nacional Coiba (<https://faolex.fao.org/docs/pdf/pan190381anx.pdf>)

- Decreto Ejecutivo N° 8748-A-MAG
(http://www.pgrweb.go.cr/scij/Busqueda/Normativa/Normas/nrm_texto_completo.aspx?paraml=NRTC&nValor1=1&nValor2=56533&nValor3=61987&strTipM=TC)
- Decreto No. 30834-C-2002 (<https://isladelcoco.go.cr/nosotros/>)
- Decreto N° 34433-MINAE
(http://www.pgrweb.go.cr/scij/Busqueda/Normativa/Normas/nrm_texto_completo.aspx?nValor1=1&nValor2=62838)
- Decreto N° 36452-MINAET (<https://faolex.fao.org/docs/pdf/cos220134.pdf>)
- Ley de Pesca
(http://www.pgrweb.go.cr/scij/Busqueda/Normativa/Normas/nrm_texto_completo.aspx?paraml=NRTC&nValor1=1&nValor2=71196&nValor3=86337&strTipM=TC)
- Decreco No. 29537-MINAE (<https://faolex.fao.org/docs/pdf/cos69692.pdf>)
- Ley de Conservación de la Vida Silvestre
(http://www.pgrweb.go.cr/scij/Busqueda/Normativa/Normas/nrm_texto_completo.aspx?paraml=NRTC&nValor1=1&nValor2=12648&nValor3=92418)
- PLAN GENERAL DE MANEJO DEL PARQUE NACIONAL ISLA DEL COCO 2017-2026
(<https://isladelcoco.go.cr/wp-content/uploads/2021/03/Plan-General-de-Manejo-PNIC.pdf>)
- Decreto 622-1977 (https://old.parquesnacionales.gov.co/portal/wp-content/uploads/2018/07/Decreto_622_de_1977.pdf)
- Decreto-1076-2015 (<https://www.minambiente.gov.co/wp-content/uploads/2021/06/Decreto-1076-de-2015.pdf>)
- Decreto 2811-1974 (<https://www.minambiente.gov.co/wp-content/uploads/2021/10/Decreto-2811-de-1974.pdf>)
- Ley 1333-2009 (<https://www.minambiente.gov.co/wp-content/uploads/2021/06/ley-1333-2009.pdf>)
- Planes de manejo del Parque Nacional Natural Gorgona
(<https://old.parquesnacionales.gov.co/portal/wp-content/uploads/2020/10/plan-de-manejo-pnn-gorgona.pdf>)
- Plan de Manejo del Santuario de Fauna y Flora Malpelo
(<https://www.parquesnacionales.gov.co/wp-content/uploads/2020/10/plan-de-manejo-sff-malpelo.pdf>)
- Ley 74. Ley Orgánica de la defensa nacional (<https://vlex.ec/vid/ley-74-ley-organica-6434614330>)
- Ley N 37 - Ley de gestión ambiental (<https://www.guayaquil.gob.ec/wp-content/uploads/2020/12/LEY-37.pdf>)
- Ley N° 97 - LEY DE TURISMO (<https://faolex.fao.org/docs/pdf/ecu166166original.pdf>)
- Decreto N° 827 (<https://www.fao.org/faolex/results/details/en/c/LEX-FAOC165820/>)
- Decreto N° 1186 (<https://faolex.fao.org/docs/texts/ecu83178.doc>)
- Ley N° 67 (<https://www.fao.org/faolex/results/details/es/c/LEX-FAOC154951/>)
- Decreto N 3.516 (<https://www.fao.org/faolex/results/details/zh/c/LEX-FAOC213638/>)
- Plan-Galapagos-2015-2020 (<https://www.gobiernogalapagos.gob.ec/wp->

- [content/uploads/downloads/2017/04/Plan-Galapagos-2015-2020_12.pdf](#))
- El Plan de Manejo de las Áreas Protegidas de Galápagos para el Buen Vivir
(https://www.galapagos.gob.ec/wp-content/uploads/downloads/2016/07/DPNG_Plan_de_Manejo_2014.pdf)
 - Inicia la protección del Corredor Marino del Pacífico, CAF
(<https://www.caf.com/es/actualidad/noticias/2022/06/inicia-la-proteccion-del-corredor-marino-del-pacifico/>)

越境ガバナンス事例（ホンジュラス、ニカラグア）

1. 生態系の概要

1.1. 名称

“コラソン” メソアメリカ生物回廊越境生物圏保護区（コラソン CBM）

Transboundary Biosphere Reserve “Corazón del Corredor Biológico Mesoamericano”

1.2. 国名および面積

3,116,950 ha（ホンジュラス、ニカラグア二国間越境地域）

1.3. 生態系（地域）タイプ・登録状況

コラソン CBM の生態系（地域）タイプ・登録状況を下表に示す。



出典：World Bank CCAD プロジェクト

コラソン CBM の生態系（地域）タイプ・登録状況

国名	名称	登録・制定年	登録状況 (国際条約含む)	面積 (ha)	行政区 (自治体)	人口 (人)
ホンジュラス	パトゥカ国立公園 (Patuca National Park)	1999 年	国立公園	1,126,526	7 つの自治体 (Iriona, Brus Laguna, San Esteban, Catacamas, Dulce Nombre de Culmpi, Puerto Lempira, Trojes)	204,183 (2001 年)
	タワカ・アサニ生物圏保護区 (Tawahka Asagni Biosphere Reserve)	1999 年	生物圏保護区			
	プラタノ川生物圏保護区 (Río Plátano Biosphere Reserve)	1980 年 1982 年	生物圏保護区 UNESCO 世界遺産			
ニカラグア	ボサワス生物圏保護区 (Bosawás Biosphere Reserve)	1997 年	生物圏保護区	1,990,424	9 つの自治体 (Waspam, Wiwili de Nueva Segovia, Wiwili de Jinotega, San José de Bocay, Bonanza, Siuna, El Cuá, Waslala, Mulukukú)	368,296 (2005 年)

※コラソン・メソアメリカ生物回廊越境生物圏保護区（TBR-CCBM）として UNESCO に登録申請している。

1.4. 生態系および社会経済特性

1.4.1. 生態系の特性

コラソン CBM はカリブ海のサンゴ礁から熱帯雨林の山々までの多様な生態系を有している。この地域には、ハーピーイーグル、ジャガー、バクなど多くの絶滅危惧種が生息している。

1.4.2. 人口

コラソン CBM は 2 国の計 16 の自治体から構成され、およそ 57 万人の人々が居住する。その内、130 万ヘクタールのコアゾーンには約 41,000 人のタワカ族、マヤングナ族、ガリフナ族、ミスキト族を含む先住民が、伝統的な生活を営んでいる。

1.4.3. 主要経済活動

コラソン CBM の主な経済活動は農業と牧畜業であり、トウモロコシ、米、豆類などの作物栽培を営んでいる。

2. 生態系ガバナンスメカニズムの概要

2.1. 名称・タイプ

“コラソン” メソアメリカ生物回廊越境生物圏保護区プロジェクト (TBR-CCBM プロジェクト)

2.2. 関連法規、戦略

コラソン CBM に関連する国際条約、各国の法律を下表に示す。

コラソン CBM に関連する国際条約及び国内法

国際条約
<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性条約 (CBD) ・原住民及び種族民条約 (第 169 号) ・ワシントン条約 (CITES: 絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約) ・世界文化遺産及び自然遺産条約
地域レベル
<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な発展のための中米同盟 (ALIDES) ・メソアメリカ生物回廊 (CBM)
ホンジュラス
パトゥカ国立公園管理計画
リオ・プラタノにおける人および生物圏保護区の保全計画
ニカラグア
ボサワス自然保護区保全計画

2.3. 組織 (役割、人員)

コラソン CBM を管理する組織とその主な役割、活動を下表に示す。

コラソン CBM 管理組織の概要

	組織名称	主な役割、活動内容
地域レベル	中米環境開発委員会 (CCAD)	CCAD は、加盟国の生活の質向上に貢献する環境協力と統合的な地域体制を発展させることを使命として設立された。TBR-CCBM プロジェクトでは助成金の受領機関として、二国間の三者協議に基づき、各国担当省と連携している。
ホンジュラス	天然資源環境省 (SERNA -Miambiente)	ホンジュラスにおけるプロジェクト実施責任を有する政府機関。
	ホンジュラス森林開発公社-国家林業管理局 (AFE-COHDEFOR)	国の国有林の管理および共同林・私有林での活動規制を実施する専門技術機関。国立保護地域システム (SINAP) の管理を担当しており、プロジェクトの技術委員会の構成員として保全活動を主導する。
ニカラグア	環境天然資源省 (MARENA)	ニカラグアのプロジェクト実施責任を有する政府機関。
	ボサワス技術事務局	ボサワス生物圏保護区の管理を担当する MARENA 管轄下の事務局。プロ

	組織名称	主な役割、活動内容
	(SETAB)	プロジェクトの技術委員会の構成員として保全活動を主導する。
二国間	二国間調整員	CCAD から派遣。二国間協議の開催など関連機関・団体との調整を行う。
	二国間運営委員会 (二国間フォーラム)	二国間運営委員会は、地域当局の代表者、市民代表としてメスチソまたはラディーノの組織、自治体政府、各国の先住民族連合で構成される。フォーラムが TBR-CCBM の運営に関連する政治的および戦略的な意思決定機関である。 二国間フォーラムは意思決定最高組織として技術事務局が作成した各年次運営計画を承認する。さらに、フォーラムは、地域の様々なアクターによるサブプロジェクトを実施する際のガイドライン、行動指針、コミットメントの策定にも関与、技術支援を提供する。以下はその一部である。 TBR-CCBM プロジェクトにおける主要な管理問題に関する専門的研究 保護地域の地理的参照、先住民族と非先住民族の特定 管理計画更新 (PIP) のための技術的ガイドライン 計画更新の提案に関する現地協議ワークショップ 管理計画を実施するための年間運営計画の策定 参加型土地利用計画の実施
	二国間政府間委員会	担当の各国環境省 (SERNA-MARENA) で構成される。
	二国間技術委員会	非政府組織、公共および民間のプロジェクトや機関、コンサルタントや独立専門家を含むメンバーで構成される。

※各組織の構成人員については不明

3. 関連プロジェクトの概要

コラソン CBM で実施された関連プロジェクトを下表に示す。

コラソン CBM で実施された関連プロジェクト

名称	実施機関	ドナー機関	予算 (USD)	実施期間 (年)	内容
コラソン越境生物圏保護区プロジェクト	SERNA MARENA CCAD	GEF-WB	22,360,000	2006-2012	このプロジェクトでは、TBR-CCBM の伝統的住民の権利を尊重した国家と二国間管理を改善した。
タワカ・アサングニ生物圏とリオ・プラタノ生物圏南部の持続可能な共同管理プロジェクト	CATIE	EU	1,568,393	2006-2007	このプロジェクトでは、タワカ・アサングニ生物圏とリオ・プラタノ生物圏南部の緩衝地帯における土地利用の現状とポテンシャルに関する調査を実施し、地域に沿った生産活動を組織化した。
リオ・プラタノ生物圏保護区の保全戦略と管理計画の策定 (など計 8 件)	-	UNESCO	223,628	1982、1983、1985、1987、1996、1998、2015	リオ・プラタノ生物圏保護区の保全戦略と管理計画の策定では、保護向上のためのコンサルタント・サービス、研修、設備提供を実施した。
ボサワス生物圏保護区における農業開拓地域の持続可能な生計開発	HIVOS	EU	474,590	2006	このプロジェクトでは、土地・水管理、教育と意識向上、生活・経済・その他のインセンティブのプログラムを実施した。

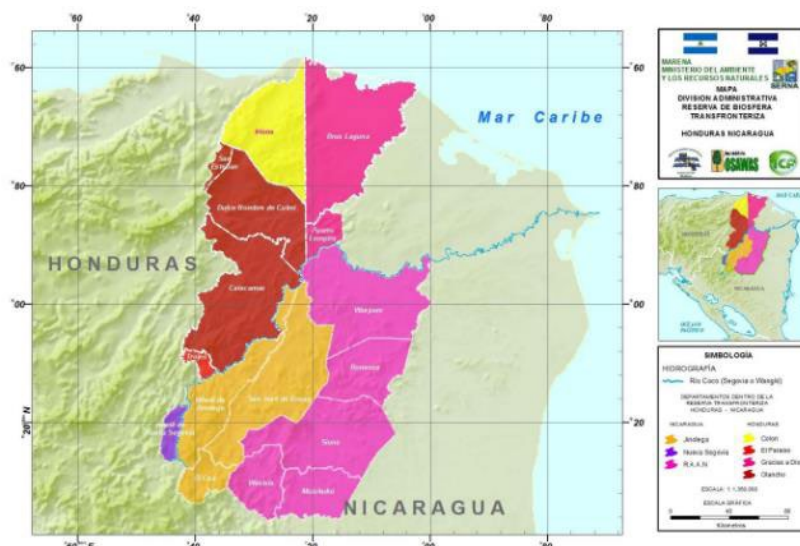
4. その他

コラソン CBM の意思決定最高機関には、プロジェクトの受益者となる市民代表および先住民組織が含まれており、地域のニーズが直接反映させることが可能である。一方、負の要素としては、土地の所有権問題が挙げられ、現在土地所有権正規化に関する支援を展開している。

現在、ユネスコの MAB プログラムによる越境生物圏保護区の登録を目指しており、このために国立保護区の管理体制の強化を進めている。例えばホンジュラスでは、アリアンサ・ヴェルデ (Alianza Verde) のような先住民組織の主導でタワカ・アサニ保護区管理計画の策定が進んでいる。また、コミュニティの積極的参加を促進するため以下のようなサブプロジェクトが展開されてきた。

- ・持続可能な生産に関するプロジェクト (135 件)
- ・参加型天然資源管理に関するプロジェクト (112 件)
- ・保護地域管理計画の策定とコミュニティによる管理効果の測定 (4 か所)
- ・先祖伝来の知識と技術を組み合わせたグッドプラクティスに関する情報交換

参考資料



TBR-CCBM プロジェクト地域に含まれるホンジュラス・ニカラグアの自治体
出典：CCAD-SICA

出典

- ・ XVI CENSO DE POBLACION Y V DE VIVIENDA 2001
(https://ccp.ucr.ac.cr/bvp/censos/honduras/2001/trifolio_dp.pdf)
- ・ VIII Censo de Población y IV de Vivienda 2005
(<https://observatorio.uraccan.edu.ni/sites/default/files/2021-10/CENSO%20INEC%202005.pdf>)
- ・ <https://www.thegef.org/projects-operations/projects/2099>
- ・ INE XVII CENSO DE POBLACIÓN Y VI DE VIVIENDA 2013 (<https://www.ine.gob.hn/V3/imagen-doc/2018/08/1523-Patuca.pdf>)
- ・ PROYECTO RESERVA DE BIOSFERA TRANSFRONTERIZA “CORAZÓN DEL CORREDOR BIOLÓGICO MESOAMERICANO”
(<http://documents1.worldbank.org/curated/en/975551468231845848/pdf/ipp1720v3.pdf>)
- ・ Alianza para el Desarrollo Sostenible de Centroamérica (ALIDES)
(<https://www.sica.int/documentos/alianza-para-el-desarrollo-sostenible-de->

- [centroamerica-alides_1_82723.html](#))
- Ley General del Ambiente (<https://www.tsc.gob.hn/biblioteca/index.php/leyes/18-ley-general-del-ambiente>)
 - Decreto Legislativo No. 286-2009 (<https://fopriderh.org/wp-content/uploads/2020/10/LeyVisionyPlandeNacion.pdf>)
 - LEY FORESTAL, ÁREAS PROTEGIDAS Y VIDA SILVESTRE (<https://www.fao.org/faolex/results/details/en/c/LEX-FAOC077556/>)
 - DECRETO NÚMERO 134-90 (https://portalunico.iaip.gob.hn/portal/ver_documento.php?uid=NTc5MTg50DkzNDc2MzQ4NzEyNDYxOTg3MjMOMg==)
 - Acuerdo 135-1981 (https://www.sica.int/busqueda/busqueda_archivo.aspx?Archivo=leys_2139_1_11082005.pdf)
 - Manejo Sostenible del Parque Nacional Patuca (<https://www.helvetas.org/es/honduras/lo-que-hacemos/como-trabajamos/nuestros-proyectos/America-latina/Honduras/honduras-propatuca>)
 - Plan de Manejo Reserva del Hombre y la Biosfera del Rio Plátano (https://icf.gob.hn/wp-content/uploads/2021/08/Plan-de-Manejo_Version-Final_RHBRP_abril-201-4.pdf)
 - Ley general del medio ambiente y los recursos naturales (<https://faolex.fao.org/docs/pdf/nic138661.pdf>)
 - Reglamento del Fondo Nacional del Ambiente (<https://www.fao.org/faolex/results/details/es/c/LEX-FAOC030602/>)
 - LEY N° . 407 (<http://legislacion.asamblea.gob.ni/normaweb.nsf/b92aaea87dac762406257265005d21f7/276abf1f6374c9f2062570ae0052d6aa?OpenDocument>)
 - LEY N° . 445 (https://www.poderjudicial.gob.ni/pjupload/costaribe/pdf/Ley_445.pdf)
 - LEY N° . 559 (https://www.poderjudicial.gob.ni/pjupload/spenal/pdf/2005_ley03.pdf)
 - Plan de manejo de la reserva de la biosfera de bosawas (<http://www.bio-nica.info/biblioteca/TNC2006Bosawas4.pdf>)
 - PROYECTO COMANEJO SUSTENTABLE DE LA BIOSFERA TAWAHKA ASANGNI Y PARTE SUR DE LA BIOSFERA DEL RIO PLATANO (<https://icadehonduras.org/wp-content/uploads/2020/08/Estudio-de-Uso-Actual-y-Potencial-de-las-Tierras-de-la-Zona-de-Amortiguamiento-de-la-Biosfera-Tawahka-Asangni-y-Parte-Sur-de-la-Biosfera-del-Rio-Platano.pdf>)
 - UNESCO (<https://whc.unesco.org/en/list/196/assistance/>)
 - ESTRATEGIA FINANCIERA A MEDIANO PLAZO PARA LA RESERVA DE BIOSFERA DE BOSAWAS (<http://www.bio-nica.info/biblioteca/TNC2006Bosawas1.pdf>)

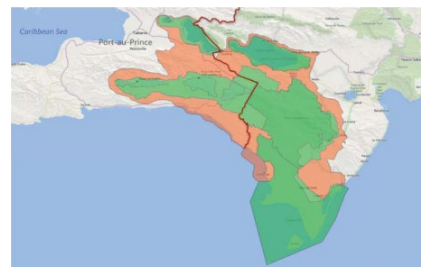
越境ガバナンス事例（ドミニカ共和国、ハイチ）

1. 生態系の概要

1.1. 名称

ラ・セル - ハラグア- バオルコ -エンキリージョ越境生物圏保護区

(La Selle-Jaragua-Bahoruco-Enquirillo Transboundary Biosphere Reserve: LS-JBE-TBR)



1.2. 国名および面積

総面積：608,816 ha

1.3. 生態系（地域）タイプ・登録状況

LS-JBE-TBR の生態系（地域）タイプ・登録状況を下表に示す。

LS-JBE-TBR の生態系（地域）タイプ・登録状況

名称	登録・制定年	国際条約登録状況	面積 ha	その他
ラ・セル生物圏保護区 La Selle Biosphere Reserve (ハイチ)	2012	ユネスコ生物圏保護区	377,221	2012年にハイチ初のBRとなった。
ハラグア-バオルコ-エンキリージョ生物圏保護区 Jaragua-Bahoruco-Enriquillo Biosphere Reserve (ドミニカ共和国)	2002	ユネスコ生物圏保護区	476,700	
ラ・セル-ハラグア-バオルコ-エンキリージョ越境生物圏保護区 La Selle-Jaragua-Bahoruco-Enquirillo Transboundary Biosphere Reserve (LSJBE-TBR)	2017 2002 2014	ユネスコ越境生物圏保護区 ラムサール条約（エンリキージョ湖） ラムサール条約（ハラグア湿地）	608,816	2017年にドミニカ共和国のハラグア-バオルコ-エンキリージョBR、ハイチのラ・セルBRが統合され、1つの越境生物圏保護区としてユネスコに登録された。

1.4. 生態系特性

1.4.1. ラ・セル生物圏保護区 (LS-BR) :

ハイチ側 LS-BR は、約 37 万ヘクタールの生物圏保護区であり、ハイチの陸地面積の 8 %と沿岸水域の一部をカバーしている。何世紀にもわたる農業および無秩序な森林資源利用により、森林面積は国土の 13 %にまで減少した。LS-BR の植物相の特徴として、ハイチ固有のイスパニョーラマツ (*Pinus occidentalis*) が自生する国内唯一の松林保護区「フォレ・デ・パン (Forêt-des-pins)」が含まれ、森林再生により洪水やハリケーンの影響が軽減されることが期待されている。鳥類は代表的なものに固有種のズグロシロハラミズナギドリ (*Pterodroma hasitata*) が生息する。また、生物圏保護区内に一部含まれるジャクメル市 (Jacmel) には重要な建築文化財が残されており、2004 年からハイチの世界遺産暫定リストに登録されている。

1.4.2. ハラグア-バオルコ-エンキリージョ生物圏保護区 (JBE-BR) :

ドミニカ共和国側 JBE-BR では、同国最大の塩湖エンキリージョ湖等、3つの国立公園を含み、熱帯高地から海岸、海洋、島々、入り江のあるカルスト段丘まで、豊かな生物多様性と重要な地域の固有性を備えた多種多様な生態系で構成されている。

動物相としては、固有種であるハイチソレノドン (*Solenodon paradoxus*)、固有種のイグアナ (*Cyclura cornuta* と *Cyclura ricordii*)、沿岸部では非常に多様な海鳥が生息している。一方で、住民の経済活動により固有種らの生息地が減少しており、特に農業開発や農地拡大は JBE-BR 区域内の自然破壊を招き、深刻な環境問題となっている。また、域内の湖周辺には、先史時代からの異なる原住民の営みにより、その集落など考古学的遺産が残っている。

隣接し合う LS-BR と JBE-BR が統合されることにより、より大きな生態学的回廊として生物多様性の保全の役割が果たされることが期待されている。

1.5. 社会経済特性

1.5.1. 行政区

ハイチ：西州、南東州に属する 12 の自治体

ドミニカ共和国：バオルコ州、バラオーナ州、インデペンデンシア州、ペデルナレス州に属する自治体

1.5.2. 人口

LS-BR (ハイチ) : 380,000 人

JBE-BR (ドミニカ共和国) : 360,000 人

1.5.3. 主要経済活動

農林業、漁業、観光、レクリエーション

1.5.4. その他

1492 年コロンブスがイスパニョーラ島に到達して以来、両国はフランス、スペインによる植民地であり、ハイチ革命、ドミニカ共和国独立戦争、アメリカ軍介入など、激動の時代を経て、現在に至る。1956 年の外交関係再開以降、二国間の関係性は維持されている。しかしながら、2021 年 3 月、ドミニカ共和国のアビナデル大統領は、増加している移民を阻止することを目的とし、ハイチとの間に国境フェンスを建設すると発表し、両国の関係は複雑化している。

2. 生態系ガバナンスメカニズムの概要

2.1. 名称・タイプ

ラ・セル-ハラグア-バオルコ-エンキリージョ越境生物圏保護区

La Selle-Jaragua-Bahoruco-Enquirillo Transboundary Biosphere Reserve (LS-JBE-TBR)

2.2. 関連法規、戦略

LS-JBE-TBR に関連する法規、政策を下表に示す。

LS-JBE-TBR に関連する法規と政策

ドミニカ共和国
2006 年に保護地域の国家システムの効果的な管理のための政策が採択され、環境自然資源省 (MMARN) は保護地域の共同管理政策の特定の枠組みを開発した。 環境および自然資源に関する一般法 (Lay 64-00) 保護地域に関する区域法 (Lay 202-04) 国家保護地域システムの効果的な管理に関する政策 Políticas para la Gestión Efectiva del Sistema Nacional de Áreas Protegidas (2007) 保護地域の共同管理に関する規定 Reglamento de Co-manejo de Áreas Protegidas (2015)
ハイチ
国立公園および自然遺跡に関する法令 Décret sur les Parcs Nationaux et les Sites Naturels (1968 年 3 月 18 日付 官報 第 23 号) 国立公園区域を定めた公文書 (Décret du 4 Avril 1974)
二国間
ハイチとドミニカ共和国には、1996 年に「ドミニカ-ハイチ二国間共同委員会 (英名 Dominican-Haitian Bilateral Mixed Commission、西名 Comisión Mixta Bilateral (CBM))」が設置されており、国境を越えた協力の強化に関連するさまざまな問題についての協議が行われている。

2.3. 組織 (役割、人員)

両国の LS-JBE-TBR 管理に関連する組織を下表に示す。

LS-JBE-TBR 管理に関連する組織

国名	構成組織
ドミニカ共和国	環境・自然資源省 (MMARN)、MAB 委員会、地域調整評議会等
ハイチ	環境省 (MDE)、MAB 委員会、省庁間協議会、地方管理委員会等

※各組織の構成人員については不明

2.4. 活動内容・方法

LS-JBE-TBR は、「地域および地域間のネットワーク (Regional and inter-regional networks)」としてイベロ・アメリカン MAB ネットワーク (IberoMAB)」に、また「生態系固有のネットワーク (Ecosystem-specific networks)」として「島と沿岸生物圏保護区世界ネットワーク (WNICBR)」に参加している。IberoMAB は、ラテンアメリカおよびカリブ海諸国、ポルトガル、スペインの 22 개국で構成されている。このネットワークは、加盟国地域の MAB 国内委員会と協同組合のつながりを統合し、新しい生物圏保護区の創設を促進することで、MAB プログラムの強化を目的としている。IberoMAB として 2018-2025 年の管理計画が存在する。

2.5. 財源・予算

UNESCO、MMARN、MDE からの拠出を財源に、活動している。

3. 関連プロジェクトの概要

LS-JBE-TBR で実施されたプロジェクトを下表に示す。

LS-JBE-TBR で実施されたプロジェクト

名称	実施機関	ドナー機関	予算 (EUR)	実施期間	内容
ハイチ、ドミニカ共和国越境生物圏保護区に関する二国間条約 CONVENIO BINACIONAL EN LA RESERVA DE LA	CESAL (NGO) Grupo Jaragua (NGO)	スペイン国際開発協力庁 (AECID)	3,070,315 (総額) 2,500,000 (うち、AECID による援助額)	2018 年-2023 年	この条約は、プロジェクト内の二国間協定により、500 世帯以上の水資源へのアクセス改善の他、蜂蜜、アボカド、コーヒー、野菜、魚の生産性の向上を目的とし

名称	実施機関	ドナー機関	予算 (EUR)	実施期 間	内容
BIOSFERA TRANSFRONTERIZA HAITI-REPUBLICA DOMINICANA					ている。またこの条約の下 で、250 ヘクタールの森林の 再植林が実施された。別名 CONVIVE Program と呼ばれ ている。

4. その他

2002 年にドミニカ共和国のハラグア-バオルコ-エンキリージョ、2012 年にハイチのラ・セルが BR と
して登録され、2017 年に TBR として登録された。両国にとって、はじめての越境保護区である。

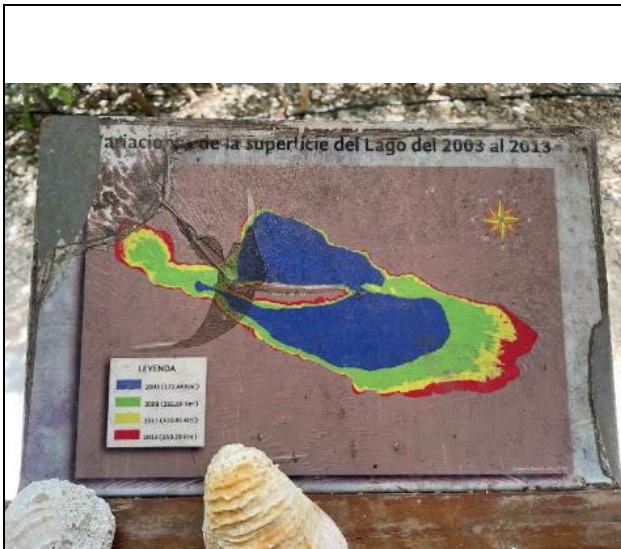
2014 年 AECID が実施した、ハイチとドミニカ共和国の関係強化プロジェクトの成果が、TBR としての
登録に貢献していると考えられる。また、AECID は継続して、この地域への援助を続けている。

2018-2023 年に AECID の援助による、NGO の CESAL と Grupo Jaragua が同地域で実施したプロジェクト
の成功要因として、研究・教育活動の中での保全対象種に、両国間を移動する種が選定されたことが
挙げられている（対象種はズグロシロハラミズナギドリ (*Pterodroma hasitata*) とリコルド イグア
ナ (*Cyclura ricordii*) の 2 種)。両国間を行き来する生物を対象とした保全活動は、資源を共有し
ているという意識を醸成することにつながる。

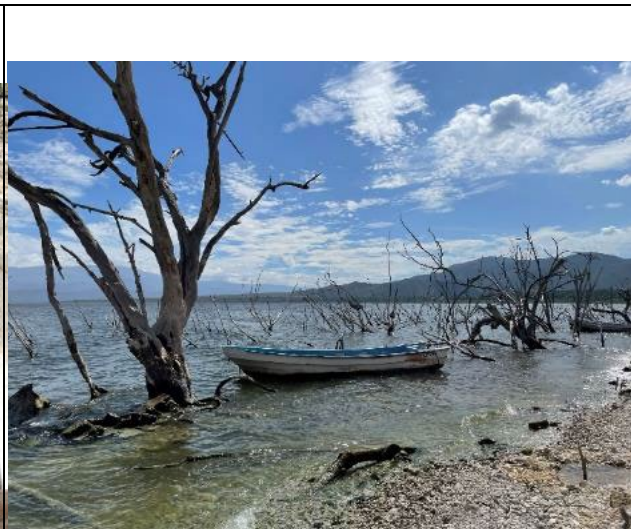
両国の BR 委員会は機能しているものの、ハイチ側の政治・経済状況が不安定なことから、会議出席の
手続きが難しく、二国間会議を開催することができない。二国間での政治状況や経済状況を考慮し、
開催頻度や時期・時間帯、参加者の職位等を考慮し、両国が参加しやすい体制を整える必要がある。

同じ島であっても、言語の違いや、政治、経済のレベルが異なっていることは、プロジェクトを実施
するうえで、大きな障害になる。教育や、共通の生物の保全等、実施後に両国の政治的な利害関係が
少ないテーマを設定することは、運営面で重要となる。

現地写真



湖の面積の上昇を示す案内ボード
(青が2003年で赤が2013年時の状況)



観光客用のボート



BIOPAMA で設置された看板



他ドナーからの支援をうけて作成したパンフレット

出典

- UNESCO Man and the Biosphere Programme (MAB) (<https://en.unesco.org/biosphere/wnbr>)
- UNESCO La Selle - Jaragua-Bahoruco-Enquirillo Transboundary Biosphere Reserve (Dominican Republic / Haiti) (<https://en.unesco.org/biosphere/lac/laselle-jaragua-bahoruco-enquirillo>)
- UNESCO World Network of Island and Coastal Biosphere Reserves (<http://www.islandbiosphere.org/Contingut.aspx?IdPub=757>)
- At a Conservation Crossroad: The Bahoruco-Jaragua-Enriquillo Biosphere Reserve in the Dominican Republic (2021, INTEC) (<https://www.mdpi.com/2071-1050/13/19/11030>)

- Reserva de la Biósfera Jaragua-Bahoruco-Enriquillo (2006, Grupo de Jaragua)
(<http://www.grupojaragua.org.do/reserva.htm>)
- Informe Técnico Taller Científico Binacional Sobre La Reserva De La Biosfera Jaragua-Bahoruco-Enriquillo Y La Reserva De La Biosfera La Selle (2014, AECID)
(<https://cbcreuniontm.files.wordpress.com/2014/01/anexo-11-informe-tc3a9cnico-taller-cientc3adfico-binacional-sobre-la-rb-jaragua-bahoruco-enriquillo-y-rb-la-selle.pdf>)
- CESAL 「Programa CONVIVE」 の活動
- (https://www.cesal.org/cesal-grupo-jaragua-apoyan-gestion-sostenible-traves-convenio-binacional_2?npag=3)
- (<https://inmediatuvoz.com/contenido/689/gobierno-dominicano-reafirma-su-compromiso-en-la-preservacion-de-la-reserva-de-b>)

OECM 制度事例（日本）

1. 日本の OECM 概要

1.1. 日本の OECM データベース（WD-OECM）への登録状況

日本には、WD-OECM に登録されている地域は一つもない（2024 年 1 月時点）。Protected Planet のデータベースに登録されている日本の保護区及び OECM 登録状況を下表に示す。

保護区及び OECM のデータベース登録状況

	PA カバー率 (%)	PA+OECM カバー率 (%)	PA 面積 (km ²)	PA+OECM 面積 (km ²)	全体面積 (km ²)
陸域	29.75	29.75	111,290	111,290	374,093
海域	13.89	13.89	561,310	561,310	4,040,612

1.2. 日本政府の取り組み・関連法律

日本には、WD-OECM に登録されている地域はないが、「自然共生サイト」という日本独自の制度を導入し、OECM の推進を図っている。「自然共生サイト」とは、人びとの生業や民間の自発的な取組によって自然が守られている地域であり、保護区と重複している土地以外は WD-OECM に登録される予定である。里山等の日本型 OECM のグッドプラクティスを世界に発信するなど、海外における OECM の議論や取組に積極的貢献している。

当初 2023 年の認定目標を 100 か所ほどとしていたが、多くの民間企業等から強い関心を示し、2023 年 10 月には既に設定目標を超える計 122 か所が認定された。

2. 自然共生サイト認定のインセンティブについて

保全活動の実施主体が認定を申請し、専門家による生物多様性保全への貢献に関する評価を通じて、環境省が認定する。認定された場合、「認定証」が発行される仕組みである。また、認定地域の支援者に対しては「支援証明書」が発行される。現在、「認定証」と「支援証明書」を自然情報に関する財務情報の開示（TNFD）に活用できるよう、検討が行われている。

それら証書に加え、実施主体に対しては見える化システムを活用した申請支援、認定時、認定後の補助金、助成金支援、認定後の簡易モニタリング手法やガイドラインの提供、支援者に対しては企業版ふるさと納税の活用、さらには実施主体と支援者のマッチング支援をするためのポータルサイトの活用といった様々なインセンティブ施策が検討されている。

3. 事例

OECM 候補である「自然共生サイト」として登録された事例について記載する。

3.1. 事例 1：アサヒの森 甲野村山

位置	広島県庄原市
面積	408 ha
認定年	2023 年
管理機関	アサヒグループホールディングス株式会社
その他	アサヒグループホールディングス（株）が「100 年以上の人工林」、「生物多様性が豊かな森」を目指した森林施業を実施している。これにより、水源涵養や土砂災害防



	止、CO2 吸収のような多面的な機能を有する健全な森林生態系が維持されている。 植物 274 種、鳥類 40 種など多様な生き物の生育、生息の場になっている。
--	------------------------------------------------------------------------------------

3.2. 事例 2：阪南セブンの海の森

位置	大阪府阪南市
面積	37 ha
認定年	2023 年
管理機関	一般社団法人セブンイレブン記念財団
その他	大阪府下では唯一の半自然海岸の浅場が広がっている場所である。 セブンイレブン記念財団や、行政、漁業者、阪南市内の全小学校などの関係者が連携しながら、アマモ場を保全するための取組を実施している。 アマモ場は、魚類、底生生物などの多種多様な生物が生息し、豊かな海をもたらすため、生物多様性の保全のみならず、水質の改善や CO2 を吸収するブルーカーボン生態系としても期待されている。



阪南セブンの海の森
(大阪府)

4. その他

日本は、OECM データベースへの登録こそまだ開始されていないものの、「自然共生サイト」という独自の制度を採用し、30 by 30 の達成を目指している。TNFD と連携予定の認定証や支援証明書の発行、補助金・助成金、企業版ふるさと納税の活用といった多様な経済的インセンティブの検討だけでなく、マッチング支援や申請支援と認定後の簡易モニタリング手法、ガイドラインの作成といった、人的・技術的支援によるインセンティブの付与も注力されている。これらインセンティブの結果として、民間企業等の強い関心を集めることができ、2023 年の認定数目標が達成されたと考えられる。

また、世界的な潮流となりつつある TNFD と OECM 制度を連携させることは、どの国や地域においても重要な課題である。

出典

- ・ Protected Planet - 日本 <https://www.protectedplanet.net/country/JPN>
- ・ 環境省 令和 5 年度第 2 回「30by30 に係る経済的インセンティブ等検討会」資料 1 「マッチングの試行及び支援証明書モデル的試行 WG について」 [000165236.pdf](https://www.env.go.jp/000165236.pdf) (env.go.jp)

OECM 制度事例（モロッコ）

1. モロッコの OECM データベース（WD-OECM）への登録状況

モロッコでは、314 の地域が OECM として WD-OECM 登録に登録されている。モロッコが、世界で最も OECM の登録数が多い（2023 年 11 月時点）。Protected Planet のデータベースに登録されているモロッコの保護区及び OECM 登録状況を下表に示す。

保護区及び OECM のデータベース登録状況

	PA カバー率 (%)	PA+OECM カバー率 (%)	PA 面積 (km ²)	PA+OECM 面積 (km ²)	全体面積 (km ²)
陸域	2.2	33.13	8,963	134,921	407,280
海域	0.68	0.71	1,866	1,957	276,136

2. モロッコ政府の取り組みと関連法律

モロッコで OECM データベースに登録された土地は全て、以前から「生物学的・環境的に重要な場所（SIBE）」（97 カ所）、又は「永久狩猟保護区」（217 カ所）として国が指定していた場所であり、OECM 登録の為にモロッコが新たに定めた制度や基準は、確認できなかった。

2.1. 「生物学的・環境的に重要な場所（SIBE）」について

SIBE とは、希少種や絶滅危惧種の固有動植物種が多く生息し、生物多様性指数が高い地域であり、そのほとんどは 1996 年策定の保護区基本計画において特定された地域である。SIBE は、陸地、湿地、沿岸地域の 3 つに分類され、現在までに合計 154 カ所が SIBE に指定されている。SIBE の総面積は 108 万 ha である。SIBE に登録されている地域のうち、国立公園法に適合するものは、より管理が厳格な国立公園として設定される。

2.2. 「永久狩猟保護区」について

モロッコは、国家による管理のもと狩猟産業を促進させてきた。狩猟に関する法的枠組みにより、狩猟警察の創設、狩猟免許の交付、狩猟禁止事項の制定などが、実施されている。この枠組み内で指定された永久狩猟保護区（の一部）が、OECM のデータベースに登録されていると考えられる。

3. ガイドライン

モロッコ独自の OECM の定義や基準は確認されていないが、「生物学的・環境的に重要な場所（SIBE）」および「永久狩猟保護区」の指定基準が OECM データベース登録の際に適用されていると考えられる。

4. 事例

4.1. 事例 1：ジェベル・サルゴ山脈（Jbel Sargho）

面積	21,800 ha
ステータス	生物学的・環境的に重要な場所（SIBE）
設立年	1994 年
管理機関	水・森林局 (Department of Water and Forests)



出典：protectedplanet.net

その他	巨大な乾燥した山々が連なる地域であり、トレッキング等の観光地でもある。また、半遊牧民が生活する伝統的な村も存在する。
-----	------------------------------------------------------------

4.2. 事例 2 : アル・マッシラダム (Barrage Al Massira)

面積	78,000 ha
ステータス	永久狩猟禁止地域、ラムサール条約湿地
設立年	1994 年
管理機関	水・森林局 (Department of Water and Forests)
その他	Al Massira ダムは、1979 年に完成したモロッコで 2 番目に大きいダムである。ダムの貯水池と湿地帯は、2005 年にラムサール条約湿地に登録された。脆弱なマルガモが生息し、特に乾燥した年にはコガモ、カモ、ガンの重要な越冬地となる。モロッコで最も重要な内陸漁場とされ、一般的に漁獲される魚種は 7 種、漁獲量は年間 90 トンにのぼる。この水路は、農地の灌漑や飲料水の供給、洪水調節に重要な役割を果たしている。本地域に対する主な脅威は、違法漁業、汚染、営巣期の鳥や卵に対する妨害である。



出典 : protectedplanet.net

5. その他

モロッコは、OECM データベースの登録件数が世界で最も多い国である。しかしながら、実態を見てみると、以前から「生物学的・環境的に重要な場所 (SIBE)」、又は「永久狩猟保護区」として国で指定されていた場所が OECM として登録されており、OECM の概念が導入されたことによって新たに誕生した保全地域は存在しない。しかし、国立公園と比較して自然保護の度合いが低いそれらの地域を、OECM として指定し、地域の管理の強化を図ることは、当該地域の保全の意義を再認識するという点で、一定程度意義があると考えられる。経済的、社会的、政治的理由からその国独自の OECM 制度・基準を設定することが難しい国では、既存の指定地域を OECM として再設定し、新たな価値を付与することを検討することは重要である。

出典

- ・ Protected Planet-モロッコ (<https://www.protectedplanet.net/country/MAR>)
- ・ モロッコ 生物多様性情報クリアリングハウス (https://ma.chm-cbd.net/manag_cons/esp_prot/sibe_ma)
- ・ モロッコ 生物多様性情報クリアリングハウス第 6 回国別報告書 Sixth National Report | Clearing-House Mechanism (cbd.int)
- ・ Barrage Al Massira | Ramsar Sites Information Service Barrage Al Massira | Ramsar Sites Information Service

OECM 制度事例（フィリピン）

1. フィリピンの OECM データベース（WD-OECM）への登録状況

2021年9月に178の地域が、OECMとしてWD-OECM登録に登録されている（2023年10月時点）。保護地域（PA）は273の地域がWDPAに登録されている。3つのユネスコMAB生物圏保護区はこの数字に含まれていない（2023年10月時点）。Protected Planetのデータベースに登録されているフィリピンの保護区及びOECM登録状況を下表に示す。

保護区及びOECMのデータベース登録状況

	PA カバー率 (%)	PA+OECM カバー率 (%)	PA 面積 (km ²)	PA+OECM 面積 (km ²)	全体面積 (km ²)
陸域	15.9	17.3	47,412	51,650.3	298,755
海域	1.7	3.6	32,010	66,416.5	1,835,028

2. フィリピン政府の取り組み・関連法律

フィリピン政府は、生物多様性戦略計画 2011-2020（Plans National Biodiversity Strategies And Action Plans：NBSAPS）を策定し、その中で生物多様性損失の5つの主要な脅威（生息地の損失と劣化、乱獲、侵略的外来種、気候変動、汚染）へ対処し、脅威を軽減するための介入手段について述べている。また、20のターゲットが設定されており、以下の通りOECMに関するターゲットも定めている。

ターゲット 19：2028年までに、生物多様性キーエリア（Key Biodiversity Areas：KBA）と重複する国家統合保護地域システム（National Integrated Protected Areas System：NIPAS）上のOECM（先住民保護地域、地域保全地域、重要生息地）を通じて管理される陸上保護地域の総面積が、2015年レベルから10%増加する。

ターゲット 20：2028年までに、さまざまな水生生息地において、設定されたMPAs／保護区の面積が2015年の水準から20%増加する。

フィリピンでは、洞窟や湿地、先住民コミュニティの土地が、長期的な生物多様性保全への関与を基にOECMとして分類されている。

3. ガイドライン

フィリピンでは独自のOECM基準は定めておらず、IUCN作成のガイドラインに準拠している。以下はOECM候補地の条件として採用している3つの基準である。

基準1：保護区として登録されておらず、愛知ターゲット11（生物多様性の原位置保全を行っている）を満たしている。

基準2：OECMに関連する本質的な保全特性を持っている。

基準3：保全の成果が持続可能である。

上記3つの基準をすべて満たした地域が暫定的なOECMとして認定され、その後の詳細な審査を通じてOECMとして登録される。

4. 事例

4.1. 事例1：フィリピン カンダラガ・ドゥムット山 ICCA (Mount Candalaga Dumut ICCA)】

面積	16,800 ha
管理主体	先住民コミュニティ (先住民マンサカ族)
支援機関	ADSDPP
生態系	生物多様性重点地域内にあり、フィリピンワシを含む絶滅危惧種や生息域制限種が生息している。
持続性	長期的保護計画 ADSDPP を有する。
その他	同地域は、先住民マンサカ族によって先祖代々占有してきた土地である。先住民コミュニティによる OECM 登録の目的は、生物多様性の保全もあるが、文化／伝統の保護、伝統的な生計の支援、天然資源の維持や強化が主要な目的である。

4.2. 事例2：フィリピン ダンジュガン島 (Danjugan Island)

面積	43 ha
管理主体	フィリピン礁・熱帯雨林保全財団 (PRRCFI)
生態系	少なくとも 72 種の鳥類、10 種のコウモリ、22 種の蝶が記録されている。
その他	ダンジュガン島は、フィリピン礁・熱帯雨林保全財団 (PRRCFI) とワールド・ランド・トラスト の努力により、生物多様性保全地としての可能性と、搾取から守るために 1994 年に購入された島である。

5. その他

- ・ フィリピンでは、2021 年 9 月に 178 件の OECM の登録が行われた。この取り組みの背景には GIZ による長年の支援が影響している。これらの支援の中では、OECM の登録に関するワークショップが複数回開催され、政府関係者への意識の醸成がされてきた。
- ・ OECM の登録には、IUCN が 2017 年に作成した「その他の効果的な地域ベースの保全対策の認識と報告のためのガイドライン (IUCN-WPCA, 2017)」が用いられ、OECM の登録作業が進められた。GIZ による支援はあったものの、現時点でフィリピン独自のガイドラインの作成は確認されなかった。一方で、各国の独自ガイドラインを作成しなくとも、OECM の選定や登録は十分に可能であるといえる。
- ・ フィリピンでは 2021 年 9 月を最後に、OECM の登録件数の増加はしていない。そのことから、OECM の登録件数を増やすためには他国や国際機関からのやプロジェクト実施は有効ではあるものの、継続をさせるためには、登録を担当する省庁などの巻き込みや、継続的なサポートが必要であると考えられる。

出典

- ・ Protected Planet (<https://www.protectedplanet.net/country/PHL>)
- ・ Aichi Biodiversity Target 11 Country Dossier: PHILIPPINES (2021, SCBD-UNDP) (<https://www.cbd.int/pa/doc/dossiers/philippines-abt11-country-dossier2021.pdf>)
- ・ The Philippine Clearing House Mechanism 環境省生物多様性局運営 (<http://www.philchm.ph/oecms/>)
- ・ ファクトシート：PAME (https://www.philchm.ph/wp-content/uploads/2022/04/PAME-Project_factsheet.pdf)
- ・ OECM とは (環境省資料, 2020 年 10 月) (<https://www.env.go.jp/content/900489149.pdf>)
- ・ 「その他の効果的な地域ベースの保全対策の認識と報告のためのガイドライン (IUCN-

WPCA, 2017) Guidelines for recognizing and reporting other effective area-Based conservation Measures]

(<https://portals.iucn.org/library/sites/library/files/documents/PATRS-003-En.pdf>)

- Case Studies on Existing and Potential OECMs Categorised by Type of Resource Use (IUCN, WCPA) (<https://www.iucn.org/resources/file/case-studies-existing-and-potential-oecms-categorised-type-resource-use-terrestrial>)

OECM 制度事例（カナダ）

1. カナダの OECM データベース（WD-OECM）への登録状況

カナダは、10,868 の保護地域（PA）、263 の OECM を World Database に登録している。（2023 年 10 月末）。カナダの自然保護区（PA+OECM の面積は以下の通りである。陸域の保護地域は、過去 20 年間で約 113%、過去 5 年間で 32% 増加した。海洋保護区面積は、過去 20 年間で 3,500% 以上、過去 5 年間で約 145% 増加した。

保護区及び OECM のデータベース登録状況

年	陸域 PA		陸域 PA+OECM		海域 PA		海域 PA+OECM	
	km ²	%	km ²	%	km ²	%	km ²	%
2013	955193.6	9.6	955193.6	9.6	50068.9	0.9	50068.9	0.9
2014	957149.3	9.6	957149.3	9.6	50069.4	0.9	50069.4	0.9
2015	1017569.8	10.2	1017569.8	10.2	52619.2	0.9	52619.2	0.9
2016	1021781.4	10.2	1021781.4	10.2	54976.7	1	54976.7	1
2017	1022748.8	10.2	1022748.8	10.2	61750.6	1.1	344453.8	6
2018	1090091.3	10.9	1126211.6	11.3	73209.1	1.3	355909.8	6.2
2019	1131465.9	11.3	1209430.4	12.1	511859.8	8.9	794563.7	13.8
2020	1215832.3	12.2	1293802	13	524310.6	9.1	798866.3	13.9
2021	1257605.9	12.6	1348394.6	13.5	524310.6	9.1	798866.3	13.9
2022	1264076.2	12.7	1355028.7	13.6	524310.6	9.1	842827.7	14.7

出典：カナダ国環境気候変動公式ページ

2. カナダ政府の取り組み・関連法律

カナダ政府は「連邦持続可能な開発戦略（2022-2026）The Federal Sustainable Development Strategy」により国の保全地域の管理方針を示しており、2025 年までに国土の 25% と海洋の 25%、2030 年までにはそれぞれ 30% 保全するという目標を設定している。

2021 年度予算では、州政府、準州政府、先住民族政府、利害関係者と協力し、新たな海洋保護区の設置と管理、その他の効果的な地域に基づく保全措置（OECM）のために、2021 年より 5 年間で 9 億 7,680 万ドルを拠出した。

3. ガイドライン

カナダ政府は、PA または OECM 候補地に対する適用ガイダンスとして「Pathway to Canada Target 1（2018）」と、海域に特化した「海域に基づく OECM を認識するためのガイダンス（2020）」を公表した。Pathway to Canada Target 1 では、少なくとも陸域と内陸水域の 17%、海域の 10% を 2020 年までに保全することを目標としている。また、データベース登録までのプロセスを以下の通り定めている。

- (1) 申請者によるスクリーニング
- (2) 申請者が、連邦、州、または準州に、データシートを送付
- (3) 連邦、州、または準州がスクリーニング
- (4) 連邦、州、または準州がデータベース管理者に報告

上記 (1) のスクリーニングにおいて、スクリーニングツール (DST) が適用され、以下の 23 項目の全てを満たす必要がある。

基本情報： ①サイト名、②指定、③地域、④設立年、⑤面積、⑥統治機関、⑦ガバナンスの種類、⑧法的根拠、⑨自然・社会・文化的価値の概要 表 1: 保護地域と OECMs に共通する基準 ⑩区画、⑪⑫有効な保全管理手法 1・2、⑬保全管理期間、⑭通年による保全管理 表 2: 保護区と生態系をさらに定義し、区別するための基準 ⑮目標の範囲、⑯目標の優先順位、⑰統治官庁、⑱成果 評価概要： ⑲結果・評価、⑳課題、㉑評価責任者・日付、㉒協議者名・日付、㉓認証取得状況

4. 事例：セントローレンス湾のホタテ漁場 Scallop Buffer Zones

4.1. 概要

ホタテ漁区域 21, 22, 24 (SFA: Scallop Fishing Area 21, 22, 24) のバッファゾーンで、この地域の重要な商業種であるアメリカンロブスターの稚エビの生息地である。2017 年より OECM として登録されており、ロブスターの稚エビの生息地を保護することを目的としている。

4.2. 生態系の特性

カナダ東部のセントローレンス湾 (Estuary and Gulf of St. Lawrence) に位置する沿岸域。五大湖を源流とするセントローレンス川の河口付近では、淡水と海水が入り混じる多様な生態系をもつ。また、絶滅危惧種に指定されているガンギエイ (*Leucoraja ocellata*)、地域の固有種であるレディクラブ (*Ovalipes ocellatus*) やいくつかの種の餌となるロッククラブ (*Cancer irroratus*) の個体群が生息している。

4.3. 社会経済特徴

Scallop Buffer Zones の面積、行政区、人口、主要経済活動を下表に示す。

Scallop Buffer Zones の社会経済特徴

名称	面積 Km ²	行政区 (州)	人口 (人)	主要経済活動
Scallop Buffer Zones (SFA 21)	477.07	ニューブランズウィック New Brunswick	ニューブランズウィック州：77.68 万 プリンスエドワードアイランド州：15.69 万	水産業 (漁業・養殖業) 石油・ガス産業 観光業
Scallop Buffer Zones (SFA 22)	2852.78	ニューブランズウィック New Brunswick プリンスエドワードアイランド Prince Edward Island ノバスコシア Nova Scotia	ノバスコシア州：97.14 万	
Scallop Buffer Zones (SFA 24)	2094.96	プリンスエドワードアイランド Prince Edward Island ノバスコシア Nova Scotia		

4.4. 関連政策・計画

セントローレンス湾のホタテ漁場の管理に係る関係省庁と関連法規・政策を下表に示す。

セントローレンス湾のホタテ漁場の管理に係る関係省庁と関連法規や政策

	関連法規	関連政策
漁業海洋省 Fisheries and Oceans Canada	海洋法 (Ocean Act) : 持続可能な開発、統合管理、予防的アプローチの原則に基づく国家海洋管理戦略の策定と実施。 漁業法 (Fisheries Act) : カナダ全土の淡水漁業および海洋漁業を管理する権限。漁業免許の付与と執行、禁漁区の設定、魚類生息地の有害な改変、混乱、破壊、魚類に有害な物質の堆積の禁止などを定めている。 Oceans Act MPAs : MPA 内の海洋種の保全に関する法律	海洋保護区の設定と管理に関する国家枠組み (1999) : DFO の海洋保護地域 (MPA) プログラムについて説明。MPA 候補等の評価と査定。指定への段階的なアプローチを説明している。
環境省 Environment and Climate Change Canada	カナダ野生生物法 渡り鳥条約法 絶滅の危機にある種の法	渡り鳥保護区の方針、基準および手順 候補国定野生動物地域の選択基準 生息地保全プログラム戦略
公園管理局 Parks Canada	カナダ国立海洋保護区法 カナダ国立公園法	国家海洋保護区政策 Sea to Sea to Sea - カナダの国立海洋保護区システム計画

5. その他

・カナダの OECM 登録が進んでいる理由は、「政府の主体性」と「法整備の先進性」であると考えられる。

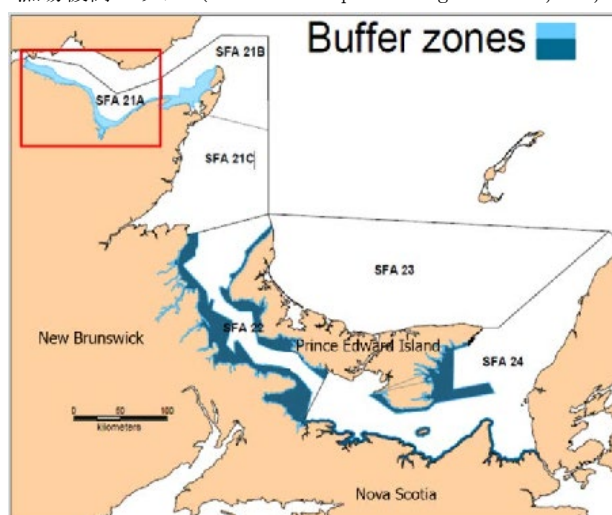
・カナダ政府は、2016 年と早い時期から OECM への取り組みを開始、独自のガイドラインを作成して、2017 年よりデータベース (WD-OECM) への登録を行ってきた。

¥カナダは海域の OECM の取り組みが進められており、現在までも順調に数を伸ばしている状況である。カナダ政府は、早くから、海域の地域に関する管轄の役割分担などを明確にしてきた。

・事例として挙げたホタテ漁場については、DFO の既存の漁業管理区域のバッファゾーンを OECM としたことで、既存の漁業区域の管理計画や管理体制を活用することができ、登録から運用までがスムーズに行われたと考えられる。また、主な管理目的は、経済種である稚魚の生息地や稚魚を守るものであるため、漁業者からの理解を得やすかった。第一次産業と OECM の連携性は高いと考えられる。

参考資料

タテ漁場緩衝エリア (SFA: Scallop Fishing Area 21, 22, 24)



出典 : dfo-mpo. gc. ca

出典

- ・ Protected Planet ウェブサイト (<https://www.protectedplanet.net/country/CAN>)
- ・ カナダ政府 Canada's conserved areas (2022 年) (<https://www.canada.ca/en/environment-climate-change/services/environmental-indicators/conserved-areas.html%EF%BC%89>)
- ・ カナダ政府 CPCAD データベース (2023 年更新) (<https://www.canada.ca/en/environment-climate-change/services/national-wildlife-areas/protected-conserved-areas-database.html>)
- ・ ガイドライン (カナダ政府、2022 年) 「Guidance for recognizing marine Other Effective Area-Based Conservation Measures 2022」 (<https://www.dfo-mpo.gc.ca/oceans/publications/oecm-amcepz/guidance-directives-2022-eng.html>)
- ・ ガイドライン (カナダ政府、2020 年) Pathway to Target 1 is Canada's initiative to conserve 17 percent of its land and freshwater by 2020 (<https://www.conservation2020canada.ca/accounting>)
- ・ データベース CPCAD ユーザーマニュアル (2022 年, カナダ政府) (<https://data-donnees.az.ec.gc.ca/data/species/protectrestore/canadian-protected-conserved-areas-database/ProtectedConservedAreaUserManual.pdf>)
- ・ Government of Canada making significant progress and investments to protect Canada's oceans, DFO (<https://www.canada.ca/en/fisheries-oceans/news/2021/07/government-of-canada-making-significant-progress-and-investments-to-protect-canadas-oceans.html>)
- ・ GULF OF ST. LAWRENCE INTEGRATED MANAGEMENT PLAN (<https://waves-vagues.dfo-mpo.gc.ca/library-bibliotheque/356406.pdf>)
- ・ Canada's Federal Marine Protected Areas Strategy (<https://waves-vagues.dfo-mpo.gc.ca/library-bibliotheque/315822e.pdf>)
- ・ カナダ政府 HP Scallop Buffer Zones (SFA 21, 22, 24) (<https://www.dfo-mpo.gc.ca/oceans/oecm-amcepz/refuges/sfa-zpp-eng.html>)

OECM 制度事例（コロンビア）

1. コロンビアの OECM 制度/OECM 候補制度の概要

1.1. OECM データベース（WD-OECM）への登録状況

コロンビアでは OECM 候補として 120 以上の地域が特定されており、すでに 55 の地域がワールドデータベースに登録されている。Protected Planet のデータベースに登録されているコロンビアの保護区及び OECM 登録状況を下表に示す。

保護地域および OECM の面積および比率

	PA	OECM	PA+OECM
対象となる陸地面積 ha (全陸地面積に対する比率%)	187,817 (16.40)	128,480 (11.22)	316,297 (27.62)
対象となる海域および沿岸域面積 ha (全海域および沿岸域面積に対する比率%)	124,884 (17.09)	50,731 (6.94)	175,615 (24.03)
合計面積 ha (全国土面積に対する比率%)	312,701 (16.67)	179,211 (9.55)	491,912 (26.22)

PA=Protected Area

2. コロンビア政府の取り組み・関連法律

国家計画庁（DNP）が作成する「国家開発計画 2022-2026」において、国の低炭素開発を促進するために盛り込まれた法令（2019 -2021）が反映される見通しである。同法令第 26 条において、OECM の適用促進の方針が明記された。OECM の基準を満たす環境戦略上重要な地域は、国の保全目標の達成に効果的に貢献するものとして認識、保全するものとし、国の報告書として反映させるものとしている。

3. ガイドライン

OECM 評価の国内基準は、以下の提言・フレームワーク・ガイドラインに準拠している。

- ・ COP14（2018 年）決定 14/8
- ・ 生物多様性戦略計画 2011-2020
- ・ ポスト 2020 生物多様性枠組（GBF）
- ・ 保護地域管理カテゴリ適用ガイドライン（IUCN）

コロンビアにおける OECM 申請から国際機関データベース登録までのプロセスを下表に示す。

OECM 申請から国際機関データベースへの登録までのプロセス

行程		
作業	概要	担当部局
OECM 申請書の提出と受領	申請者は、OECM 申請書を添付書類とともに MADS に提出する。申請書はファイル番号が付与され、森林、生物多様性、生態系サービス局（DBBES）に移管される。	・ DBBES ・ オープンガバメント調整ユニット
情報整理	提出された情報を確認し、情報を整理する。	・ DBBES 専門家
協議グループの招集	DBBES 局長は、協議グループ（MADS、Natura 財団、Humboldt 研究所の代表者で構成される）を招集する。	・ DBBES 局長
受理書類の審査	協議グループは、3 ヶ月に 1 度、提出された文書の審査を行う。	・ 協議グループ
審査員への書類送付	書類は事前に選定された 3 名の審査員に送られ、OECM 基準の適	・ 協議グループ

行程		
	用について審査や分析を行う。評価結果は 30 日以内に MADS に転送される。	
評価結果の受理と情報整理	DBBES 専門家は、評価結果受理後、協議グループとの会議用書類を作成する。	・DBBES 専門家
協議グループの招集	DBBES 局長は、前回の評価書類の再審と新たな申請書類の審査を行う。	・DBBES 局長
評価書類の再審	書類の再審査が行われる。審査員が、追加資料が必要であると判断した場合には、MADS から申請者に情報提供を要請し、作業 5 に戻って審査をやり直す。 評価が承認されない場合は申請者に書類が戻され、書類修正の上、再申請となり作業 1 からのやり直しとなる。 評価が承認された場合は作業 9 に進む。	・協議グループ
技術的コンセプト案の設計	評価が受理されると、協議グループの決定に基づき、2018 年決定 14/8 に記載された OECM の特定基準に従って、OECM 報告書の技術コンセプト案が作成される。	・DBBES 専門家
協議決定事項の伝達	OECM の技術コンセプト報告書を通じて、協議グループの決定を申請者に伝え、必要に応じて補足情報を求める。	・DBBES 局長
補足情報の受理と提出	申請者から補足情報を受け取り、付属書類とともに DBBES へ送付する。	・公務員
世界自然保護モニタリングセンター (WCMC) への情報送付	MADS は WCMC データベースへの OECM 登録のための情報を送付する。 OECM の審査プロセスが WCMC に直接持ち込まれた場合は、WCMC は MADS がデータを審査するように情報を戻し、作業 8 からやり直される。	・DBBES 専門家 ・DBBES 局長
外務省への通知	OECM 情報に関する広報から WCMC への通達コピーは、外務省にも参考情報として送付される。	・DBBES 局長

4. 事例

コロンビアにおける OECM の事例を下表に示す。

OECM 事例

名称	IUCN ガバナンスタイプ	面積 (ha)	概要
シエラネバダ・デ・サンタ・マルタ生物圏保護区 (Reserva de la Biosfera Sierra Nevada de Santa Marta)	A: 環境・持続開発省 (MADS)	1,732,987	この保護区は、1979 年、国内に 6 つある生物圏保護区の一つとして創設され、国立自然公園管理特別部局 (UAESPNNN) の管理下にある。この保護区には、半砂漠の低木林、マングローブ林、乾燥熱帯林、山地林や湿原から万年雪まで、新熱帯のほとんどすべての生活圏が含まれている。また区域内にはカンクアモ族 (Kankuamo)、アルワコ族 (Arhuaco)、ウィワ族 (Wiwa) などの先住民族が暮らしており、農業、漁業、職人的な織物など、伝統的な生活様式を維持している。
アンダキ市立自然公園 (Parque Municipal Natural Andakí)	B: 自治体と NGO の共有	26,754	カケタ (Caquetá) 州の市当局が、森林伐採と違法採掘を懸念して、9 つの市立公園を設立した。戦略的に生態系サービスを保証し、市の発展と歴史的、文化的に重要な場所の維持に貢献している。2009 年以降、この地域の管理は、自治体協定第 24 号により、自治体とティエラ・ビバ財団の間で分担されている。
サルト・トパシオ保全地域 (Área de conservación Salto Topacio)	C: 団体組合	106	2014 年以來、ボリバル (Bolívar) 州のサン・イシドロ連合女性協会 (Amusi) は、サルト・トパシオ保全生産地域を構成する 6 つの土地を保護、管理している。この地域には 30 ヘクタールの乾燥林と水源地があり、その周辺は 76 ヘクタールのアグロフォレストリー作物のマトリックス

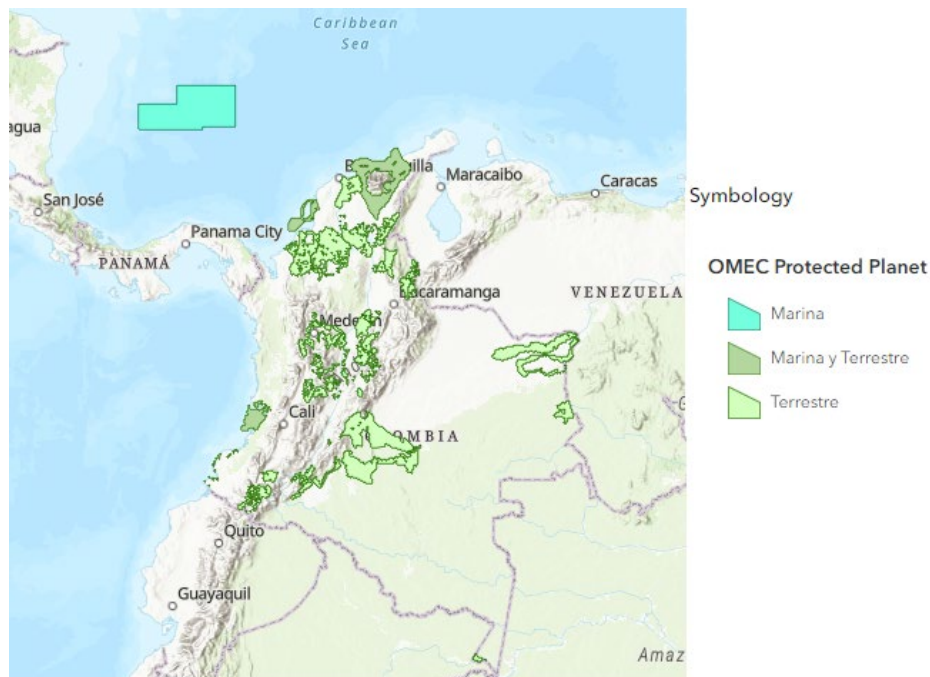
名称	IUCN ガバナンスタイプ	面積 (ha)	概要
			に囲まれている。アグロフォレストリー農家は、森林を守るために、ヤムイモの栽培に取り組んでいる。
アワ・マグイ自然保護区 (Reserva Natural Awá Magüí)	D: 少数民族	1,568	国は、リカウルテ (Ricaurte) 自治体に対してアワ・マグイ先住民居住区として 7000 ヘクタール近い土地を集団所有地として割り当てた。2015 年、保護区議会の決定に従い、先住民コミュニティの水と生命を守るため、アンデス高地の森林 1568 ヘクタールをカバーするアワ・マグイ自然保護区が、設立された。2017 年以降、長期的な持続性を保証するイニシアチブとしてライフプランが開始され、主に自然保護と生活改善に重点を置いた活動がなされている。

5. その他

・UNEP-WCMC のデータによると、ラテンアメリカ・カリブ地域には 56 の OECM の登録地域があり、そのうち 55 はコロンビアにある（残りの 1 区域はペルー）。

・コロンビアでは、TICCA（先住民と地域コミュニティによって保全されている領土と地域）が OECM スキームに取込まれたことにより、120 もの OECM 候補地となり得る区域を特定するに至った。審査が通れば、今後さらに UNEP-WCMC データベースに追加されていくことが期待されている。

参考資料



コロンビア OECM 登録地域
出典 : arcgis.com

出典

- ・ MiAmbiente website (<https://www.minambiente.gov.co/asi-logro-colombia-protoger-y-conservar-el-34-de-su-territorio/>)
- ・ Protected Planet (<https://www.protectedplanet.net/country/COL>)
- ・ Guía para su identificación, fortalecimiento y reporte en Colombia (https://resnatur.org.co/apc-aa-files/db9417709e9e7148d514bb8dac11b31a/cartillaomecbook_inserto_1.pdf)
- ・ REPORTE DE OTRAS MEDIDAS EFECTIVAS DE CONSERVACIÓN BASADAS EN ÁREAS - OMEC (<https://www.andi.com.co/Uploads/P-M-INA-19%20Reporte%20de%20OMEC%20V1.pdf>)
- ・ Estrategias Complementarias de Conservación en Colombia (<https://www.natura.org.co/wp-content/uploads/2018/06/Estrategias-Complementarias-de-Conservaci%C3%B3n-Colombia.pdf>)
- ・ Policy Support and Governance Gateway, FAO (<https://www.fao.org/policy-support/policy-themes/indigenous-peoples/en/>)

OECM 候補（ニカラグア）

1. ニカラグアの OECM 制度／OECM 候補制度の概要

1.1. 制度・地区の名称

民間野生保護区（Reservas Silvestres Privadas : RSP）

1.2. 制度・地区の概要

民間野生保護区（RSP）とは、生物多様性の保全と持続可能な利用のために、個人、協会、または協同組合が所有する土地または水域である。224 もの民間野生生物保護区（総面積 18,709.9 ヘクタール）が国家保全地域システム（SINAP）に登録されている（2023, MARENA）。

法律で保護区に指定されている地域、ラムサール条約登録湿地、および地方自治体の生態公園は、RSP 制度には、認定されない。

2. ニカラグア政府の取り組み・関連法規

2.1. RSP に関連する法規、政策

RSP は、ニカラグアの保護地域規則（法令第 01-2007 号および改正法令第 26-2007 号）にて規定された。また、2013 年大臣決議 10.03.13 号では、ニカラグアにおける RSP の宣言、優先順位付け、推進のための基準、要件、管理手続きの確立が規定された。

2.2. RSP 認定の基準

RSP として認定されるためには、以下の基準を満たす必要がある。

- (1) 法的に宣言された保護地域、連結地帯または生物学的回廊、種の生息地または営巣地、または観光回廊の緩衝地帯に位置すること。
- (2) 保全のための代表的かつ優先的な生態系を含むこと。
- (3) 国内規制またはワシントン条約に基づく、野生動植物の固有種、絶滅危惧種、絶滅危惧種が存在すること。
- (4) 流域を保護し、回復させるための環境ポテンシャルを提供すること。
- (5) 関連する地形学的、景観的、ランドスケープ的特徴を含むこと。
- (6) 地質学的、考古学的、文化的、歴史的に重要な資源を含むこと。
- (7) 持続可能なエコツーリズム活動の発展の可能性を提供すること。
- (8) 有機栽培や土壌、水質保全など、環境に配慮した生産システムの導入を通じて、野生動植物の種の保全、回復、繁殖のための活動を行うこと。

2.3. RSP 認定までのプロセス

RSP の申請から認定までのプロセスは、以下の通りである。

- (1) 申請書類の準備（申請書、不動産の権利証、協同組合登記簿に正当に登録された組合のメンバーであることの証明、地形図等）。

- (2) 所有者による申請書一式の MARENA 地域代表部への提出。
- (3) 申請書を受理した MARENA 地域代表部による、書類内容の確認、MARENA 自然遺産総局への送付。
- (4) 申請書を受理した自然遺産総局と、MARENA 地域代表部による、区域の検査実施。
- (5) 自然遺産総局の技術スタッフと MARENA 地域代表部による、自然遺産総局長への技術報告書の提出。
- (6) 自然遺産総局による、MARENA の最高機関への報告書送付と、その土地またはその一部を私有野生生物保護区として宣言することの勧告。MARENA の最高機関による大臣決議を通じた認定の承認、官報への掲載。
- (7) 保護区管理に関する条件を定めるための、MARENA と所有者による管理協定への署名。

3. 民間野生保護区の事例

3.1. モンティベリ民間野生保護区 (Reservas Silvestres Privadas Montibelli)

モンティベリ民間野生保護区は、面積 162.5 ヘクタール、標高 360～720 メートルである。気候は年間を通じて冷涼である。急斜面の多い地形が特徴で土壌は肥沃な砂質ロームのため侵食されやすい。

以前はコーヒー栽培に専念していたが、様々な理由からコーヒー栽培は放棄された。コーヒー栽培は、20 ヘクタールで行われている。8 ヘクタール程度の土地でレモン、ピタハヤ、バナナ、パイナップルが栽培されている。残りは、森林の自然再生と果樹種の再植林に充てられている。古い家屋を改築したビジター・センターや生物多様性を観察するためのトレイルやキャンプ場が整備されており、また、快適な滞在を提供するロッジの建設も計画されている。

3.2. その他の RSP の事例

その他の国内 RSP 事例を下表に示す。

RSP 事例

名称	所在地		面積 (ha)	設立年	概要
	県名	自治体名			
コンゴ農場 Estancia del Congo	Rivas	Potosí	42.2	2002	コンゴ農場は、体験型観光と自然とのつながりを重視した観光を提供する保護区である。
ハト・ヌエボ Hato Nuevo	Chinandega	El viejo	236.6	2005	ハト・ヌエボは、地域の自然、文化、職人芸の魅力を取り入れ、地元の協力によって持続可能な観光の選択肢を共同で生み出すことで、自然資源の保護に取り組んでいる。
ラ・ソンプラ La Sombra	Matagalpa	El Tuma de Dalia	154	2009	ラ・ソンプラは、ボサワス生物圏保護区の緩衝地帯であるペニャス・ブランカス山の生物回廊に位置する。
コンセプション・デ・マリア Concepcion de Maria	Carazo	Jinotepe	7	2012	コンセプション・デ・マリアは、ニカラグア国内におけるバードウォッチングの重要な目的地として定着しつつあり、ニカラグア太平洋地域最大のエコツーリズム・アトラクションのひとつとなる可能性がある
サバロス・ロッジ Sabalos Lodge	Rio San Juan	El Castillo	7	2004	サバロス・ロッジは、インディオ・マイズ生物保護区の緩衝地帯内に位置す

名称	所在地		面積 (ha)	設立 年	概要
	県名	自治体名			
エスペランサ・ベルデ Esperanza Verde	Río San Juan	San Carlos	4000	2013	<p>る。ホテル施設周辺は、豊かな動植物が生息する保護された熱帯雨林に囲まれており、多くのバードウォッチャーが訪れている。</p> <p>保護地域内の熱帯雨林が保全されており、鳥類、爬虫類、哺乳類（サル、ジャガー、シカなど）、ラン、蝶、何千もの昆虫が生息し、科学的、生態学的に重要で、観光資源となっている。</p>

4. その他

RSP は MARENA が 2001 年から推進している原生地域保全の手法である。原生地域所有者は自発的に自分の所有地について申請書を提出し、その保護にコミットしている。

MARENA の報告書（2023）によると、18,000 ヘクタールを超える 224 もの RSP が承認されている。2005 年当時のデータ（47 地区、計 6,900 ヘクタール）よりも、3 倍近い面積まで RSP が増加している。ただし、SINAP の保護地区全面積（7,286,625.0 ヘクタール）の 0.26%に過ぎず、貢献度の観点からは非常に低い。

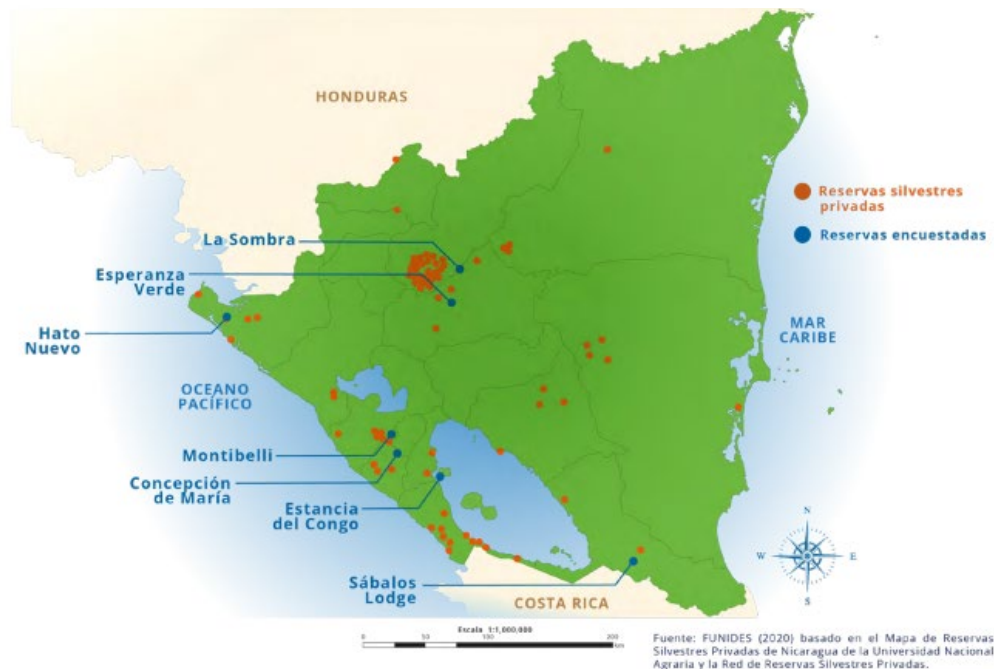
ほとんどの RSP は規模が小さく（大半は 100 ヘクタール未満）、大規模な複合利用ランドスケープの中に存在するため、長期的な保全管理には課題がある。しかしながら、保護区の所有者は、私設野生生物保護区ネットワークを通じて組織されており、このネットワークは、生物多様性と自然資源の保護、保全に関連する統合プロジェクトを推進している。そのため、環境サービスの保護に対する補償を土地所有者に確保、提供する取り組みが確立されており、その恩恵を受けることができる（MARENA 2007）。

生物多様性保護地域に関する専門家である Sepúlveda 氏（TNC 自然保護団体）によると、RSP の多くは狩猟や人間の介入を禁止し、生産活動に生態系管理手法を取り入れ、森林再生プロジェクトを実施している。このような側面は、SINAP における保護区の保全と保護区同士のつながりの強化に貢献するだけでなく、ニカラグアにおける生物多様性の保全と持続可能な利用への民間参加の積極的な事例を構築することにもなっている。

またモンティベリの事例にもあるように、観光活動とリンクした自然資源の保護、保全、持続可能な私有保護区の利用手段のひとつとして RSP の導入を推進していくなど、土地所有者へ参加へのインセンティブを高め、民間の保護活動の利点を宣伝することで、この成長中のプログラムに参加する土地所有者が増えることが期待される。

参考資料

BSP 事例の所在地
(青色が BSP 各事例、茶色がその他の主な BSP 所在地)



出典 : funides.com

出典

- ・ 大臣決議 10. 03. 13 号
(<http://legislacion.asamblea.gob.ni/normaweb.nsf/3133c0d121ea3897062568a1005e0f89/85cbd4934e2dcbb006257b8f00753c39?OpenDocument>)
- ・ ニカラグア保護地域規則 (大統領令第 01-2007 号)
([http://legislacion.asamblea.gob.ni/normaweb.nsf/\(\\$A11\)/33CA55EBEAEC13C6062572A0006C725A?OpenDocument](http://legislacion.asamblea.gob.ni/normaweb.nsf/($A11)/33CA55EBEAEC13C6062572A0006C725A?OpenDocument))
- ・ モンティベリ (<https://www.montibelli.com/info.html>)
- ・ MARENA (環境省) の RSP 地図 (<https://www.marena.gob.ni/mapa-interactivo/>)
- ・ <https://funides.com/wp-content/uploads/2020/03/FUNIDES.-Ecoturismo-en-las-Reservas-Silvestres-Privadas-de-Nicaragua.-032020.pdf>
- ・ <http://www.hacienda.gob.ni/hacienda/presupuesto2023/mpmp/229.MinisterioAmbienteRecursosNaturales.pdf>
- ・ RESOLUCION MINISTERIAL No. 007-2007 (<https://faolex.fao.org/docs/pdf/nic86642.pdf>)
- ・ NICARAGUA COUNTRY ANALYSIS OF TROPICAL FORESTS AND BIOLOGICAL DIVERSITY, USAID
(https://usaidgems.org/Documents/FAA&Regs/FAA118119LAC/Nicaragua_FAA%20118%20119%20FB%20Assessment%20Jan%202009.pdf)

OECM 候補（エルサルバドル）

1. エルサルバドルの OECM 制度／OECM 候補制度の概要

1.1. 制度・地区の名称

持続可能な地域利用計画

Planes Locales de Aprovechamiento Sostenible (PLAS)

1.2. 制度・地区の概要

PLAS はエルサルバドル中央政府と地域コミュニティ間で締結される、自然資源の持続的な利用と生態系の維持のための活動計画である。PLAS は地域コミュニティによって策定され、天然資源環境省（MARN）によって承認される。活動内容としては、マングローブや森林の再生、衛生管理などがある。例えば漁村地域では、PLAS 予算で地域開発協会（ADESCO）が組織され、マングローブの植林プロジェクトが実施されている。

PLAS はマングローブ資源の利用を管理し、MARN が定めた環境規則を遵守するための、地方の重要なガバナンスメカニズムである。

2. PLAS 事例：PLAS Barrancones（バラコネス）

2.1. PLAS Barrancones の目的と管理計画

本 PLAS の主な目的は、バラコネス・コミュニティにおける社会経済開発と天然資源の持続可能な利用に貢献することであり、カニ類のプンチェ（*Ucides occidentalis*）、カングレホ・アスル（*Cardisoma crassum*）、ハイバ（*Callinectes arcuatus*）、魚類、貝類のほか、マングローブの管理計画が策定されている。

地元 NGO である FUNSALPRODESE 主導で、コミュニティの若者や女性を含めた参加型協議プロセスを通じ、バラコネス・コミュニティ内で計画の合意形成が図られた。

2.2. PLAS Barrancones のガバナンス構造

社会環境開発委員会（CDSA）が、バラコネス・コミュニティの資源管理の実施組織である。環境省や地元 NGO、国際 NGO と連携し、協議や管理プロセスの調整を行う。構成員は、バラコネスの ADESCO の代表者 2 名、協同組合の代表者 2 名と MARN の資源警備員、パサキナ市環境課のメンバー、FUNSALPRODESE のメンバーである。

2.3. PLAS Barrancones の活動内容

委員会の主要な活動は、自然資源の保全である。コミュニティは、すべての漁業従事者が参加する体制を整えており、漁業従事者数に応じて必要な監視員が動員される。動員のための活動資源（例：燃料、移動車両や船舶）は、コミュニティ負担が基本であるが、MARN、自治体（パサキナ市）、FUNSALPRODESE の支援によるものもある。

3. その他

PLAS は、自然資源の持続的な利用を目的としており、OECM の管理計画として活用することができる可

能性がある。既に PLAS として管理されており、OECM の基準も満たしている地域を登録していくことが、エルサルバドルにおける OECM 推進の上で最初の重要なステップとなると考える。

参考資料



PLAS Barrancones の適用範囲

出典

- ・ PLAN LOCAL DE APROVECHAMIENTO SOSTENIBLE (PLAS) BARRANCONES, MUNICIPIO DE PASAQUINA BAHÍA DE LA UNIÓN, EL SALVADOR, AMÉRICA CENTRAL.

OECM 候補（コスタリカ）

1. コスタリカの OECM 制度／OECM 候補制度の概要

1.1. 制度・地区の名称

環境サービスに対する支払いプログラム

Programa de pago por Servicios Ambientales (PSA)

1.2. 制度・地区の概要

1.2.1. 組織および関連機関

コスタリカの環境サービス支払プログラム（PSA）は、森林の保全と回復、またはアグロフォレストリー・システムなどの持続可能な管理と利用における努力に対し、その対価として個々の土地所有者やコミュニティ・グループ（先住民族など）に資金が支払われるプログラムである。その開始以来、コスタリカの林業セクターに関心を持つ様々な利害関係者の参加促進によってこのプログラムは、発展しており、国土保全局（SINAC）、PSA の財政基盤である国家林業資金基金（FONAFIFO）、国有林野事務所（ONF）、国家林業管理局（AFE）、農学者大学、協同組合、地方農業センター、林業分野の非政府組織、一般受益者など、様々な機関を統合した革新的な金融スキームとなった。中米生物回廊コスタリカ支部の枠組みから派生した要素や、その他の生態系・生物多様性保全の約束項目を考慮に入れた活動をしてきた。

1.2.2. 申請手続き、活動内容、プロジェクト実績

PSA の申請手続き、活動内容、プロジェクト実績をそれぞれ下表に示す。

PSA 申請手続き

不動産登記簿に登録されている土地で登録申請する場合			
1.	各地域事務局への PSA 登録申請書を提出する	PSA 参加申請書を使用 PSA 活動（森林保護もしくは森林再生など）の内容ごとに個別の申請書を提出しなければならない。	所有者および共有者の氏名、婚姻状況、身分証明書番号、職業欄、居住地、連絡先など 特別委任状（必要な場合） 支払い方法の詳細（FONAFIFO とダイレクトもしくは代理店経由） PSA 活動内容詳細、面積、樹木種 不動産の登記データ（不動産登記簿番号と地籍図番号）、 債務状況（必要に応じて法的代理人の提示） など
地籍図はあるが不動産登記簿に登録されていない土地で登録申請する場合			
2.	各地域事務局への PSA 登録申請書以外に追加書類を添付して提出する	PSA 参加申請書	不動産登記簿番号以外は、1 と同じ情報を記入する。
		所有不動産の地籍図、または農業開発研究所（IDA）が作成した地籍図の証明書	提供される地籍図面は、SINAC を通じて MINAE が証明したものでなければならない。SINAC は、所有地が野生保護地域の内側にあるか外側にあるかを証明する。
		不動産売買契約の公正証書	所有者でなく、権利のある占有者である場合は、証人の宣誓供述書の公正証書が必要である。

PSA の活動内容

タイプ	活動および準活動	支払い金額* (USD)
森林被覆の維持	自然保護	682.2/ha/10年
	水資源の保護	852.8/ha/10年
	ポストハーベスト保護	266.5/ha/5年
森林被覆の再生	植林	1345.8~1517.4/ha/5年
	再生	218.5/ha/5年
	アグロフォレストリー	1.7~2.8/本/5年
	混合システム	218.5~341.1/ha/5年 2.8/本/5年

※2023年度版のPSA活動に対する支払い金額（1ドル=535コロン換算）。例：ha/10年は、1ヘクタール当たり、実施期間10年間の総額。

PSA プロジェクトの実績

年次	PSA 活動						契約総数 (件)
	森林保護 (ha)	森林管理 (ha)	植林 (ha)	自然再生 (ha)	合計 (ha)	アグロフォ レスト リー (本)	
2010	64,054	333	4,494	1,368	70,250	530,837	1,120
2011	65,843	478	4,108	2,305	72,734	599,671	1,224
2012	62,650	198	4,278	1,211	68,337	564,652	1,238
2013	60,912	182	3,117	3,773	67,984	730,777	1,248
2014	42,831	509	3,455	2,100	48,896	600,063	947
2015	63,850	383	2,328	2,810	69,370	455,280	1,024
2016	43,752	449	2,295	2,014	48,510	346,741	783
2017	40,878	276	2,002	1,889	45,045	266,186	623
2018	43,158	478	1,270	2,755	47,661	426,539	666
2019	46,062	1,106	1,452	2,543	51,163	584,587	732
2020	31,954	382	822	2,306	35,463	326,094	555
2021	5,870	-	127	-	5,997	24,307	157
2022	46,857	436	1,712	2,540	51,546	351,935	934
Total	618,671	5,210	31,460	27,614	682,956	5,807,669	11,251

2. 関連法規・戦略

1990年代、コスタリカは環境と開発に関するリオ宣言、アジェンダ 21、気候変動に関する国際条約、砂漠化対処条約、生物多様性条約、京都議定書、森林原則声明など、いくつかの国際条約に署名した。また、林業法（法律第 7575 号）や生物多様性法など、現在の環境サービス支払プログラム（PSA）の骨格となる国内法も制定された。林業法（法律第 7575 号第 46 条）では FONAFIFO が創設され、植林、再植林、森林苗圃、アグロフォレストリー・システム、伐採された地域の回復、森林資源の利用と産業化における技術革新のプロセスに資金提供するメカニズムが作られた。また、森林、林業プランテーション、その他天然資源部門の開発強化に必要な環境サービスの支払いのための資金は、同法律で規定されている。

3. その他

コスタリカの環境サービス支払プログラム（PSA）は、環境政策の財政的メカニズムのひとつである。これによって同国は森林減少を抑制し、森林被覆を大幅に増加させることに成功している。現在は国土の 52%が森林に覆われている。また、PSA は森林保全を促進する経済的メカニズムとしての成功だ

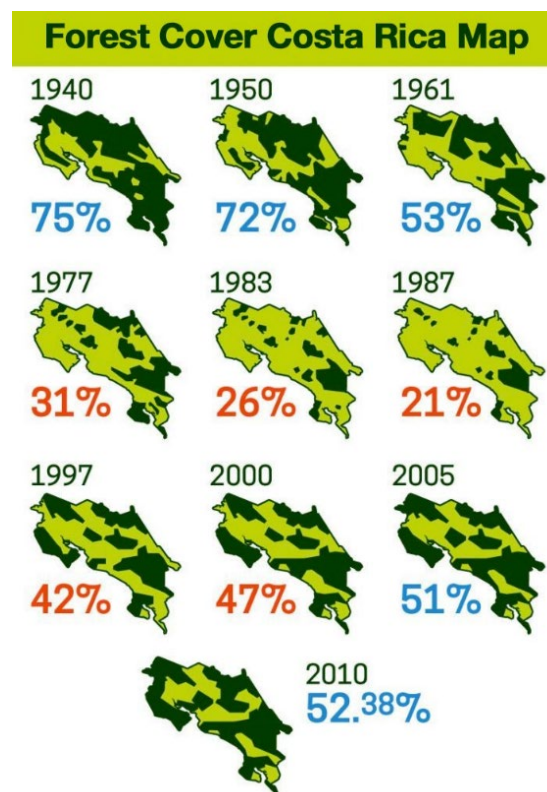
けでなく、社会参加、農村コミュニティへの利益配分、環境保全プロセスに対する意識向上といった面でも、最も成功した戦略の一つとして考えられている。

PSA は、2020 年に国に 2014 年と 2015 年の炭素排出量削減に対して緑の気候基金（GCF）から認定を受け、5,410 万ドルを対価して受け取った。本資金は、PSA および林業に関する公共政策の拡大や改善に割り当てられた。

参考資料



出典：FONAFIFO ウェブサイトより



コスタリカにおける森林被覆率の遷移

出典：acmcr.org

出典

- Montos a reconocer para las diferentes actividades PSA en el año 2023, FONAFIFO
(<https://www.fonafifo.go.cr/media/3940/7-montos-a-reconocer.docx>)
- Hectáreas contratadas, por año y por Actividad de PSA, FONAFIFO
(<https://www.fonafifo.go.cr/media/3889/8distribuci%C3%B3n-de-las-hect%C3%A1reas-y-%C3%A1rboles-por-actividad-psa.docx>)
- Ley Forestal
(https://www.sica.int/busqueda/busqueda_archivo.aspx?Archivo=leys_6991_1_27032006.pdf)

OECM 候補（パナマ）

1. パナマの OECM 制度／OECM 候補制度の概要

1.1. 制度・地区の名称

民間保護区制度

Private Protected Area (PPA)

1.2. 制度・地区の概要

パナマでは、環境省によって民間保護区を承認する制度が存在する。PPA 登録のインセンティブとしては、保全権証書の取得、不法侵入者に対する公的機関による迅速な対応の享受といった法的インセンティブ、メディアや広報による商品やサービスのイメージアップといった経済的インセンティブ、農業や環境保全の専門家を擁する公的機関や NGO からの無償技術支援の享受といった技術的インセンティブの3つがある。PPA を構成する重要なアクターとしては、オーナー、環境省、NGO があり、それぞれの役割は以下の通りである。

1.2.1. オーナーの役割

土地の所有者であり、PPA の構築に取り組むための重要な要素である。個人、家族、民間企業、土地所有コミュニティ、先住民グループなどが該当する。

1.2.2. 環境省 (MiAmbiente) の役割

PPA の枠組みとなる政策や法律を管理、実施する機関である。PPA の創設に関心を持つ土地所有者からの申請を受理し、それを審査し、承認または却下する責任を負う。また、PPA 管理計画の遵守状況やインセンティブの付与を監視する役割も担っている。

環境省は、PPA を国の保全地域システム (SINAP) に登録することはしないが、パナマの民間自然保護区ネットワークに重要な技術的支援を提供している。この支援は、特に最近、ネットワーク内の私有保護区に対する環境省の技術調査と研修をさらに強化する協定に調印したことで注目されている。

1.2.3. 非政府団体 (NGO) の役割

この分野に存在するさまざまな NGO の中には、民間の非営利団体 (NPO) があり、その活動の一環として、PPA の創設において民間の土地所有者に協力支援している。この分野に特化した NGO は「土地信託」と呼ばれ、自然保全問題に関する教育活動・技術支援を提供し、PPA 管理計画のフォローアップを行う。またインセンティブを提供するところもある。

パナマ民間自然保護区連合 (RRNP) は、自然保護のために土地を指定することを選択した所有者を奨励、支援することにより、生物多様性を保護するために設立された NPO である。このネットワークは、資源保護当局との協力協定も管理している。

2. 関連法規・戦略

PPA について規定するパナマの国内法及び制度を以下の表に示す。

PPA に関するパナマの国内法と制度

関連法規・戦略	概要
法律第 59 号	パナマでは個人が土地の法的所有権を持つ権利が保証されており、土地の権利取得は、2010 年の法律第 59 号により設立された国家土地管理局（ANATI）の管轄下で行われる。
法律第 41 号第 68 条	環境基本法；私有保護地域として法的に指定されているが、明確な法的定義はない。このため RRNP は独自の定義を作成し、パナマの PPA に対する技術的支援の多くを提供している。
生物多様性国家戦略・行動計画（NBSAP）	保護地域（PA）における生物多様性保全のための行動として、共有管理協定、インセンティブ、技術支援を通じて、気候変動や人為的作用に脆弱な生態系における連結性と代表性を促進する、生物回廊、PPA および地域保全地域の設立を支援する。

3. 民間保護区の事例

3.1. 事例 1：プンタ・パティニョ民間自然保護区

この保護区は 1993 年に ANCON という NGO 団体によって設立された。この保護区は、約 30,000 ヘクタールあり、生態学的に重要な一次林と二次林、そして海岸湿地帯からなる。この地域の生物多様性への主な脅威は、牧畜や伐採のために土地を要求しようとする部外者からもたらされる。プンタ・パティニョ保護区は、警戒、保全、持続可能な土地管理、コミュニティ教育を通じて、この脅威に対処しようとしている。この大規模な保護区の管理費用が ANCON 社の課題となっているが、その解決策のひとつとして、保護区内のコミュニティが地元で生産したココナッツオイルを販売する小規模ビジネスを設立した。当初は、ANCON 現地法人、SENACYT、IDB との多国間投資基金から投資を受けたが、最終的には保護区が維持できるようになることが期待されている。

3.2. 事例 2：マモニ溪谷保護区

マモニ溪谷保護区は、パナマ・シティの東に位置する山岳地帯にある。この保護区は、11,500 ヘクタールある。マモニ溪谷保護区は、土地所有者と複数の NGO によって管理されている。

この保護区は牧畜業者やその他の入植者による脅威に対処するために設立されており、2000 年のピーク時には土地の約 30%が森林伐採により荒廃していた。関係者は、保護区内に残る森林を保護するとともに、森林の再生と劣化した地域の回復に取り組んでいる。

4. その他

2021 年 5 月時点において、パナマの陸域カバー率は 24,110.9 km²（31.9%）、海洋カバー率は 38,489.5 km²（11.6%）であった。しかし、コイバ管理資源地域が 67,742 km² に拡大されたことにより、海洋のカバー率は約 30%にまで増加した。すでに愛知目標 11 は達成しており、現在は国土の 40%以上が国家保護地域システム（SINAP）内にあり、約 121 の地域が含まれている。

今後の生物多様性保全の国家戦略として、2018 年に発表した生物多様性国家戦略、行動計画 2018-2050（NBSAP）では、戦略目標 2 に「2030 年までに、生物多様性の保全に貢献する保護区において、保全、管理、共同管理計画が更新され実施される」とある。国は、特に共有協定を通じて、保全指定された生物回廊、私有保護区、またはコミュニティ地域の管理強化に注力している。その一環として 2020 年 8 月には、MiAmbiente と RRNP との間において、豊かな自然、生物多様性、炭素固定の手段としての森林の保全を促進するための協力協定が締結されており、保護区と私有自然保護区の連結性を促進させている。ただ国家戦略上の OECM の取組みについては確認できなかった。

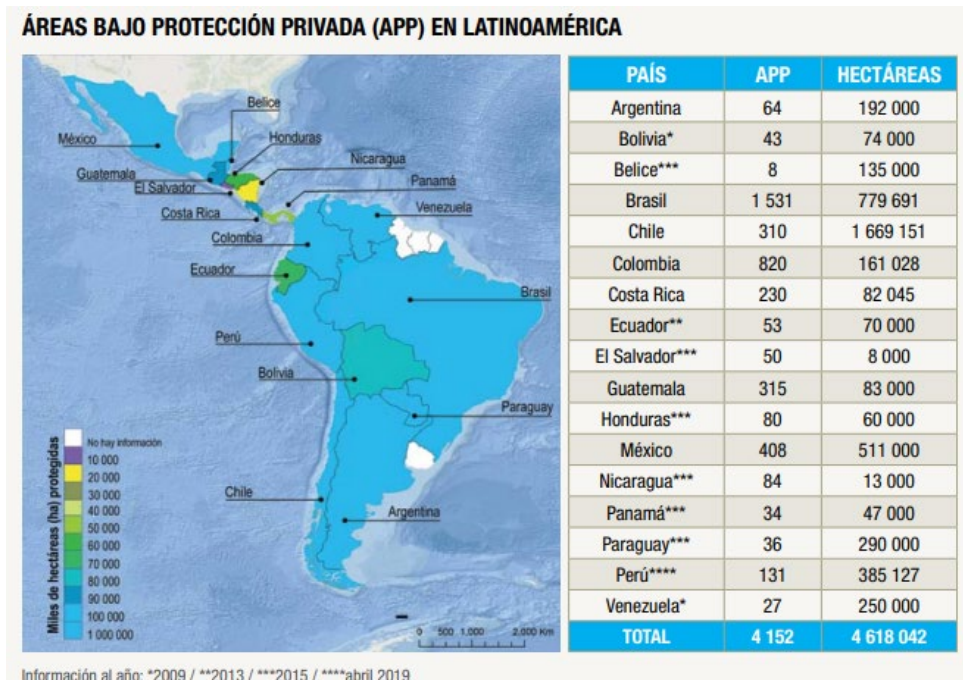
現在パナマは OECM の重要性と価値を認識しているものの、生物多様性保全戦略の一環として OECM を

組み入れるメカニズムを確立していない。しかしながら OECM となり得る候補地のひとつとして挙げられる PPA については、SINAP への積極的な取込み活動が確認できる。SINAP が管理している保護地域の分類には、国立公園、森林保護区、湿地（ラムサール条約登録地を含む）、保護された景観、天然記念物、その他の保護地域、自治体の保護地域が含まれる。これらの分類に加え、水資源局（ARAP）には、独自の保護分類に該当する沿岸地域がある。

参考資料



プンタ・パティニョ民間自然保護区
出典：ancon.org



ラテンアメリカ地域における各国の民間保護区の状況
出典：panda.org

出典

- ・ ANCON ウェブサイト (<https://ancon.org/>)
- ・ FUNDACION PA. NA. M. A. ウェブサイト (<https://fundacionpanama.org/>)
- ・ ADOPTA ウェブサイト <https://adoptabosque.org/>
- ・ Ley N 59-2010 (https://www.anati.gob.pa/Normativa/Ley_59_de_2010_ANATI.pdf)
- ・ LEY No. 41 Art. 68 (<https://faolex.fao.org/docs/pdf/pan14803-1998.pdf>)
- ・ Estrategia Nacional de Biodiversidad y Plan de Acción 2018-2050
(<https://www.undp.org/sites/g/files/zskgke326/files/migration/pa/Estrategia-Nacional-Biodiversidad-2050.pdf>)
- ・ Aichi Biodiversity Target 11 Country Dossier: PANAMA
(<https://www.cbd.int/pa/doc/dossiers/panama-abt11-country-dossier2021.pdf>)
- ・ MiAmbiente, 2019 (<https://www.miambiente.gob.pa/red-de-reservas-naturales-privadas-presenta-informe-de-proyecto-a-ministerio-de-ambiente/>)
- ・ Desarrollando Áreas Protegidas Privadas: herramientas, criterios e incentivos, Asociación Conservación de la Naturaleza 2005
(http://www.conservacionprivadapy.org/documentos_pdf_mundial/desarrollandoapps-panama.pdf)
- ・ International Outlook for Privately Protected Areas, ILCN-UNDP, 2019
(https://landconservationnetwork.org/wp-content/uploads/2022/09/Panama20country20profile20on20Privately20Protected20Areas_7_24_2019-1.pdf)

OECM 候補（ドミニカ共和国）

1. ドミニカ共和国の OECM 候補制度概要

1.1. 制度・地区の名称

ドミニカ共和国における私有地保護区法で定められる、「都市生態公園（Parques Ecológicos Urbanos）」及び民間の野生動物保護区（Reservas privadas de conservación de fauna）」は、OECM 候補になりうる。

1.2. 私有地保護区法の整備状況

私有地保護区の規則は、環境天然資源省が 2012 年に署名したもので、民間の土地所有者に自然保護への参加を促すものである。これはアメリカのトラストや保全地役権の概念に似ている。

ドミニカ共和国の場合、法律 202-04「保護地域に関する区域法」（Ley 202-04, Ley Sectorial De Áreas Protegidas）の第 6 条で、保護地域の国家システムとは、国土の陸域および海域で、現行法に定められた保護目的の達成のために設定された一連の空間を指すと、定められている。これらの地域は確定的なものであり、特別保護地域の国家遺産を構成する国に属する土地と、その中にある私有地、および将来宣言される可能性のある土地が含まれる。

同法第 10 条では、保護区は公有であっても私有であってもよいとしている。また、第 12 条では、私有保護区は、前述の法律で定められた保護目的および要件を満たす場合、その所有者の要請により、環境天然資源省の決議によって宣言されることが強調されている。

2011 年 8 月 15 日付の「ドミニカ共和国私有保護地域宣言または自主的保護に関する規則」の第 1 条では、「その目的は、法律第 64-00 号第 33 条および法律第 202-04 号第 10 条に規定されているように、私有地における生物多様性の保全と持続可能な管理のための空間として、公的な保護地域システムを補完する私有保護地域または自主的保護の宣言と管理のための規則、手続き、要件を確立することである」と述べられている。

同法第 6 条において私有地保護区の認定要件として、「土地またはその一部が、生物多様性と文化的表象の要素の良好な保全状態の条件を満たしており、生態系サービスや、解説、持続可能な観光、環境教育、科学研究の機会を提供するもの」としている。

2. 政府、NGO による国全体の取り組み

<都市生態公園にかかる ATABEY の取り組み>

首都サント・ドミンゴを拠点としている NGO 団体 ATABEY は、2009 年から MMARN、ドミニカ自治体連合、国立植物園と協定を結び、土地利用計画やレクリエーション・教育エリアの創設のための新しい公園の原型となる都市土地保護区を創出することを目的とした活動を行っている。

ATABEY は、2013 年にサンティアゴ市に寄贈された私有地（38,267.33 m²）の都市生態公園建設への支援を行った。さらに ATABEY は、2018 年に、サント・ドミンゴ自治大学（UASD）の協力により、中央政府、州政府、市政府、民間部門、地方自治体などと連携してサンティアゴ植物園を設立した。現在 ATABEY は、サンティアゴ植物園のマスタープランの作成を進めている。

3. 私有地保護区の事例

3.1. 事例1：スール・フトゥロ・シエンブラ・デ・アグア保護区 (Reserva Sur Futuro Siembra de Agua)

アズア州タバラ・アリバ市にある 1,237,000 平方メートルの Sur Futuro 財団の所有する土地が、私有地保護区として認定されている。本保護区は、認定を通じて環境省と財団による地域の保全と持続可能な利用の共同作業が可能となり、私有地保護区のモデルケースとされている。MMARN によって生物多様性の調査が実施され、動植物種、特に固有種および在来の無脊椎動物、鳥類、爬虫類の多様性が高いことが確認されている。

3.2. 事例2：ソルサル私有保護区 (Reserva Privada Zorzal)

ソルサル私有保護区は、ドミニカ共和国の非営利団体 Consorcio Ambiental Dominicano と Loma Quita Espuela により管理計画が策定された。この保護区は、私有地保護区の規則に基づいて設立された最初の私有保護区である。この非営利団体は、私有地保護区の政策決定への情報提供を行っており、事例地としても貢献している。

この保護区は、野鳥ツグミの生息地となる原生林の一部として、約 7000 平方キロメートルの面積を有する。この地域は、カカオの主要な生産地帯であり、私有地保護区内でも、カカオの栽培、生産が行われている。経済活動と生物多様性の保護が可能であることを世界に示している。

4. その他

現在、私有地保護区は World Database on Protected Areas (WDPA) に反映されていないが、今後の申請で、保護区または OECM として登録される可能性は高い。また、上述の私有地保護区外であっても、例えばハイチとの越境生物圏保護区「ラセル・ハラグア・バホルコ・エンキリージョ (La Selle - Jaragua-Bahoruco-Enquirillo Transboundary Biosphere Reserve) の緩衝地帯は OECM の候補となりうる。同地域では、地元 NGO の Grupo Jaragua や FUNDACIÓN SUR FUTURO、国際 NGO (CESAL)、が継続して活動している。

出典

- ・ Las “Otras Medidas Efectivas de Conservación Basadas en Áreas-OMECA, Latinoamérica y el Caribe: Perspectivas de conservación más allá de las áreas protegidas

補足：生物圏保護区制度の概要

1. 概要

ユネスコ MAB 計画とは、自然の恵みを守り、合理的かつ持続可能に利用するためのユネスコのプログラムの一つである。生物圏保護区 (BR) は、この MAB 計画における一事業として実施されている。BR は生態系の保全と持続可能な利活用の調和 (自然と人間社会の共生) を目的としている。2023 年 10 月時点での登録総数は、134 か国、748 の地域におよび、23 の国境を越えた保護区が含まれている。

2. 生物圏保護区 (BR) とは

BR の機能には、①保存機能 (生物多様性の保全)、②経済と社会の発展、③学術的研究支援があり、個々の機能が相互に作用し強化される関係にある。BR は下記の 3 区域が設定される。

- ・核心地域 Core Areas : 景観、生態系、種、遺伝的変異の保全に貢献する、厳格に保護された地域。
- ・緩衝地域 Buffer Zones : 核心地域を取り囲むか隣接している地域で、科学的調査、モニタリング、研修、教育の支援を目的とした健全な生態学的活動に使用される。
- ・移行地域 Transition Area : コミュニティが社会文化的、生態学的に持続可能な経済活動や人間活動を営む地域。

3. 運営・管理体制について (MAB)

3.1. 運営組織

- ・国際調整理事会 (ICC) : MAB プログラムのアジェンダを決定する機関。34 カ国によって構成される国際調整理事会の理事国の任期は 2 年である。通常 2 年ごとに開催されるユネスコ総会において、理事国の半数が交代となる。
- ・MAB 事務局 (MAB Bureau) : 国や地域レベルでの MAB プログラムの活動を調整する機関。事務局長と 5 人の副事務局長 (各地域を代表する) で構成される。事務局はユネスコの生態地球科学部に置かれ、世界各地の現地事務所と緊密に連携しながら、活動している。

3.2. MAB プログラム実施方法

加盟国によって採択されたロードマップ 2015-2025 に従い、国際諮問委員会 (IAC) 及び国際支援グループ (ISG) によるアドバイスで実施される。また、各国政府によって任命された MAB 国内委員会は、MAB プログラムの実施における基本的な役割を果たしている。国際プログラムへの国内参加を最大限に確保し、国内参加の規定と実施のために、各加盟国は、常設かつ完全に機能する国内委員会の設置が義務付けられている。

4. BR 登録プロセス

BR は、各国政府によって推薦された国の管理下に置かれた区域である。登録認定には、まず政府間の MAB プログラムのもとで ICC の決定を受け、最終的にユネスコ事務局長により指定される。1995 年に制定された WNBR 定款で定められた BR 指定までの手続きは、以下の通りである。

- (1) ICC により、以下の手順に従ってネットワークへの登録が指定される。
- (2) 国内 MAB 委員会を通じて候補地を検討した後、当該国が補足資料とともに事務局に推薦書類を提出する。
- (3) 事務局は、その内容及び補足資料を検証する。
- (4) IAC は、ICC への推薦を検討する。
- (5) ICC は、候補地を BR 指定とするための決定を下す。
- (6) ユネスコ事務局長は、ICC の決定を関係国に通知する。

5. BR 登録要件

WNBR 定款の第 4 条は、BR として指定するために以下の 7 つの評価基準を示している。

- (1) 主要な生物地理学的地域を代表する生態系のモザイクを包含し、段階的な人間の介入を含むものであること。
- (2) 生物多様性保全にとって意義があること。
- (3) 地域規模での持続可能な開発へのアプローチを探求し、実証する機会を提供するものであること。
- (4) 第 3 条に定められた BR の 3 つの機能を果たすために、適切な規模をもつこと。
- (5) 適切な区域設定を行い、それを認識することにより、以下の機能が含まれること。
 - ・ BR の保全目的に従い、法的にも構成された核心地域、もしくは長期的な保護に充てられた地域であり、これらの目的を達成するのに十分な広さをもつ
 - ・ 核心地域を取り囲むまたは連続する緩衝地帯が明確に特定されており、そこでは、保全目的に適合した活動のみが行われる
 - ・ 外部移行地域として持続可能な資源管理の実践の促進と開発がなされている
- (6) BR の設計と機能遂行には、特に公的機関、地域社会、民間利害関係者の適切な範囲の関与と参加のための組織的取り決めがなされなければならない。
- (7) さらに、以下に対しても規定を設けるべきである。
 - ・ 緩衝地帯における人間の利用と活動を管理するメカニズム
 - ・ BR としての管理方針または計画
 - ・ 本方針または計画を実施するために任命された当局または機構
 - ・ 研究、モニタリング、教育、研修のためのプログラム

6. 定期審査プロセス

BR に登録された地域は、10 年ごとに、BR の機能、区画、規模、保護区内に住む住民の関与を見直す必要がある。その目的は、BR の質を向上させ、持続可能な開発へのアプローチを検証・実証する場としての機能を高めることである。

出典

- ・ ユネスコホームページ (<https://en.unesco.org/biosphere>)
- ・ Biosphere Reserves Nomination Forms
(https://en.unesco.org/sites/default/files/biosphere_reserve_nomination_form_2013_en.pdf)
- ・ Transboundary Biosphere Reserves Nomination Forms
(https://en.unesco.org/sites/default/files/biosphere_reserve_nomination_form_2013_en.pdf)